科目名	北河内を知る	科目名（英文）	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也.小林　基
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：A○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TL01453a1,L 科：LL01355a1,D 科・S 科：IL01362a1,P 科：YL01418a2,J 科：JL01364a1,W 科：WL01343a1,N 科：NL01344a1		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。 授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。 またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。 この授業は授業担当者として、北河内７市の「行政実務者」が担当する。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。 さらに地域おける課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 9 月 10 日（土）１限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題：北河内について調べる（３０分） 事後課題:授業の進め方について確認する（３０分）
2	チームビルディング 9 月 10 日（土）２，３限	チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題:チームでの取組が円滑にいくにはどのようなことが大切か考える。 事後課題：チームビルディングの成果をまとめる（３０分）
3	北河内地域に関する講演 9 月 24 日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
4	北河内地域に関する講演 9 月 24 日（土）２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
5	グループワーク・プレゼンテーション 9 月 24 日（土）３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
6	北河内地域に関する講演 10 月 1 日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
7	北河内地域に関する講演 10 月 1 日（土）２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
8	グループワーク・プレゼンテーション 10 月 1 日（土）３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
9	北河内地域に関する講演 10 月 22 日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
10	北河内地域に関する講演 10 月 22 日（土）２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
11	グループワーク・プレゼンテーション 10 月 22 日（土）３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
12	北河内地域に関する講演 11 月 19 日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
13	グループワーク・プレゼンテーション 最終発表会について 11 月 19 日（土）２限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。 また、最終発表会についての説明を行う。	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
14	最終発表会 12 月 3 日（土）１限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（１０時間）
15	最終発表会 12 月 3 日（土）２限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（１０時間）

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>個人レポートの評価（４０%）、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価（３０%）、グループワークの成果物（３０%）。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「０」とする。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>増田知也（法学部・法律学科）　11 号館 10 階</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。</td></tr>
</table>

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名（英文）	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：A○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO1454a1,L 科：LLO1356a1,D 科・S 科：ILO1363a1,P 科：YLO1419a2,J 科：JLO1365a1,W 科：WLO1344a1,N 科：NLO1345a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の４点のようになることが期待される。 １）ICT 部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 ２）ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 ３）グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 ４）変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-9
到達目標	１）ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。 ２）社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化（多様性）を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」（３つの力）を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。
科目学習の効果（資格）	2019 年度以前の入学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（２時間） ・事後学修：「ビジネスのイメージは？」というテーマでルールを守って自由に書くこと（２時間）
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定個所を熟読し、ノートにまとめること（２時間） ・事後学修：ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる（２時間）
3	組織の種類　－営利組織と非営利組織－	・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べること（２時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（２時間）
4	ビジネス環境をとらえる①－経済のグローバル化と高度情報化－	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（２時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（２時間）
5	ビジネス環境をとらえる②－地球環境問題と少子高齢社会－	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（２時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（２時間）
6	ビジネス現場をとらえる－オフィスからワークプレイスへ－	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（２時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（２時間）
7	ビジネス実務能力	・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。	・事前学習：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、　どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた　個条書きにすること（２時間） ・事後学修　：・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること（２時間）
8	ビジネス実務の基本①－仕事の進め方－	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（２時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（２時間）
9	ビジネス実務の基本②－ビジネスと諸活動－	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめること（２時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（２時間）
10	ビジネス実務の基本③－ビジネスと経営資源－	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（２時間） ・事後学修：・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみること（２時間）
11	自己実現とキャリアプランニング　－セルフマネジメントと自己啓発－	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：・テキストの指定個所（pp.164-174）を熟読し、ノートにまとめること（２時間） ・事後学修:再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通した自己意識をレポートにまとめる。 と（２時間）

	12	ビジネス実務の基本④－ビジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の２社の CM を比較し、その特徴をノートにまとめること（２時間） ・事後学修：次回のグループワークのために、3 つの NPO の資料（スライド 12～13）をしっかり読み込むこと（２時間）
	13	ビジネスプラン①－起業への意識と「寄付の教室」－	・寄付行為の意味を考える。	・事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（２時間） ・事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（２時間）
	14	ビジネスプラン②－プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること（２時間） ・事後学修：ビジネスプランの再考をする（２時間）
	15	ビジネスプラン②－プレゼンテーション発表と授業の総まとめ	・イノベーションの意味を再考する。 ・VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。	・事前学修：この授業の学びをまとめること（２時間） ・事後学修を：新たな発見をすること（２時間）

関連科目	2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
2	イノベーションと企業家精神	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社

評価方法 （基準）	・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	日本語読解ＦⅠ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△O：DP8○		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。（発音テストに変更する可能性有） ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	日本語読解ＦⅡ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。（発音テストに変更する可能性有） ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ（話す）	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ（話す）	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テスト内容確認
8	ついでに何をする？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何をする？②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テスト内容確認
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週１時間。

科目名	日本語表現作文Ｆ Ⅰ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語表現作文ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	日本語表現作文ＦⅡ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートが書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のＦＢを元に復習

関連科目	日本語表現作文ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。

科目名	日本語文法ＦⅠ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	第１回～第１４回までの文法を中心としたプリントを使い復習

関連科目	日本語文法ＦⅡ、日本語読解ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。

科目名	日本語文法ＦⅡ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。

科目名	日本事情ＦⅠ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「大学生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「大学生活」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「大学生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
5	映画２：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
12	映画について発表（１）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック（計２時間）
13	映画について発表（２）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック　(計２時間)(計２時間)
14	映画について発表（３）	発表、質疑応答	原稿修正、レポート(計２時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する(計２時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情ＦⅡ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
5	映画２：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする（計 1.5 時間）
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備（計 1.5 時間）
15	発表　（新聞に投稿する）	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する（計 1.5 時間）

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合ＦⅠ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	鎌田　美保.古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備１	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備２	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になった場合は、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	２号館２階　グローバル教育センター
備考	事前事後学習時間の目安は毎週１時間。

科目名	日本語総合ＦⅡ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	鎌田　美保.古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備１	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備２	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	２号館２階　グローバル教育センター
備考	事前事後学習時間の目安は毎週１時間。

科目名	専門日本語ＦⅠ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	E メールで使われる形式、表現等の復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	依頼メールの書き方の復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールで必要な語彙、表現の復習
7	話し方１	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
8	話し方２	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
9	話し方３	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	自己 PR で必要な形式、書き方の復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	自己 PR の書き方の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み、課題の提出物等（40%）、定期試験（60%）により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかり確認してください。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	専門日本語ＦⅡ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	新谷　知佳
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって 日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
2	ビジネス日本語１ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語２ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語３ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語４ 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語５ 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語６ 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語７ 書く	E メールの書き方	ビジネスにおける E メールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語８	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションで必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社１	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社２	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社３	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み、課題の提出物等（50%）、定期試験（50%）により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	(1)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2)授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。 (3)授業外の質問等には、メールで対応する。

科目名	日本語会話ＦⅠ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	茶圓　直人
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	この授業は大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。 特に、「身近な話題についてディスカッションを行い、適切な結論が導けるようになること」を目指します。 授業の概要は以下の通りです。 ・学生同士のディスカッションを行う。 ・身の回りのテーマを中心に扱う。 主に留学生同士の会話になりますが、教員が適宜フィードバックを行い、他の授業で日本人を相手に日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。
到達目標	１．身近な話題について、根拠を示して説得力のある意見を述べることができる ２．身近な話題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる ３．身近な話題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる ４．ディスカッションの方法や姿勢、マナーを身につける
授業方法と留意点	ペアワークなどを通して、受講生が「話す」ことを中心とする。 教材はプリントを配布する。 教員は適宜フィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。（自分の興味関心について話せるようにしておく。）
2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。
3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。
4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。
5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。
6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。
7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。
8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。
9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する／質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。
10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する／再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。
11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。
12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。
13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。
14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。
15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題 30%、授業への取り組み 30%、小テスト（2 回）40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	試験はディスカッション形式とし、適宜フィードバックを行なう。 授業時間外の相談はメールにて行うが、必要に応じて別途指示する。

科目名	日本語会話ＦⅡ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	加藤　恵美子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。

科目名	日本事情ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本事情ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本語読解ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本語読解ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本語文法ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本語文法ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本語表現作文ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本語総合ＦＩ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本語総合ＦⅡ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	専門日本語ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	専門日本語FⅡ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本語会話ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本語会話ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	日本語読解R	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。（発音テストに変更する可能性有） ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	日本語表現作文R	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目：日本語表現作文ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	日本語文法R	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 ・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。

科目名	日本事情ＲⅠ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「大学生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「大学生活」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「大学生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
5	映画２：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
12	映画について発表（１）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック（計２時間）
13	映画について発表（２）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック　(計２時間)(計２時間)
14	映画について発表（３）	発表、質疑応答	原稿修正、レポート(計２時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する(計２時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情ＲⅡ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
5	映画２：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表　（新聞に投稿する）	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合Ｒ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	鎌田　美保.古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備１	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備２	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	２号館２階　グローバル教育センター
備考	事前事後学習時間の目安は毎週１時間。

科目名	専門日本語Ｒ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	E メールで使われる形式、表現等の復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	依頼メールの書き方の復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールで必要な語彙、表現の復習
7	話し方１	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
8	話し方２	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
9	話し方３	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	自己 PR で必要な形式、書き方の復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	自己 PR の書き方の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み、課題の提出物等（40%）、定期試験（60%）により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかり確認してください。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	日本語会話Ｒ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	加藤　恵美子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備１	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備２	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。

科目名	教育社会学	科目名（英文）	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 １．教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 ２．現代社会における様々な教育問題について理解する。 ３．教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 ４．様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	○準備学習の具体的な方法 本授業は指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分（章）を読み要約する（事前学習）。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。授業の基本的な進め方については、毎時間、授業テーマに入る前に授業開始５分を利用して教育社会学キーワードテストを行うので、そのための事前学習も必要となる。さらに授業テーマの展開については、グループワークやワークショップ、ディスカッション等の参加型学習方
科目学習の効果（資格）	（１）高等学校教諭１種免許状　　（２）中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション　教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
3	教師と子ども	教師－生徒の関係性」という視点から、学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題〈体罰等〉が発生する背景や要因について考え、これら問題が発生した際の危機管理や学校対応等について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
5	いじめについて	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにし、いじめが発生した際の危機管理や対応等について考える。	事前課題：いじめの現状について調べ、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
6	不登校について	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて考える。	事前課題：格差解消に向けた取り組みについて調べまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：日本、及び諸外国（例：米英中韓等）それぞれの学校教育制度、教育政策について調べまとめてくる。事後、各国の状況について要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。また、連携をする際、何か不測の事態が起こった場合の危機管理や子どもたちの安全等についても考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行うとともに、学校安全の観点から連携の事例を検討し、よりよい連携のあり方について検討する。	事前課題：地域連携の具体例について調べまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事前課題：ジェンダー問題を扱った資料（読み物）を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える	事前課題：最終レポートの作成、及びまとめ試験（予定）の準備。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	小テスト（30%）、課題（30%）、発表（40%）より総合的に評価する。 ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。
学生への メッセージ	本講義は、毎週、授業を始める前に小テストを行います。内容については第一回目の授業で説明します。
担当者の 研究室等	７号館３階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。
備考	本授業は総授業時間（30 時間）に加えて、各回の事前事後学習（課題・レポートの作成も含めて）に各 2 時間（全 15 回×4 時間＝60 時間）を要する。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
3	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造･機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第1章を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」	テキスト第6章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第4章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布飼料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第8章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第9章を読んでくる。
9	中央 - 地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第11章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第15章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第10章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第16章、第19章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程（学校と地域との連携含む）	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第14章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第18章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公教育経営概説　（改訂版）	堀内孜	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（１）教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 （２）わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 （１）学校教育における教育課程の意義について理解できる。 （２）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の「学習指導要領」（文部科学省ホームページでダウンロード可能）を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後（経験主義～系統主義：高度経済成長期）の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
5	教育評価　その１	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
6	教育評価　その２	教育課程評価について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
8	新しい教育課程　その１	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
9	新しい教育課程　その２	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
10	新しい教育課程　その３	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
11	教育課程と教育改革　その１	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
12	教育課程と教育改革　その２	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
13	教育課程と教育格差　その１	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
14	教育課程と教育格差　その２	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー（OECD）について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程（第４版）	田中耕治他	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新教育課程ライブラリ（Vol.1～Vol.12）	（株）ぎょうせい	（株）ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版
3			

評価方法（基準）	事前課題及びレポート（30%）と最終試験（70%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。期日以降の提出は原則認めません。
担当者の研究室等	７号館３階(大野順子研究室) 連絡先：　j-oono@arc.setsunan.ac.jp
備考	2009 年度以前入学生は、(高校）教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については，適宜印刷し，配布します

	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Geography and History Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	次橋　秀樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく（3 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく（1 時間）。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む（3 時間）
3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく（3 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく（2 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく（1 時間）。 事後、興味を持った実践について調べる（2 時間）。
8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振

				り返りを行う（2 時間）。

関連科目	社会科教育法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編	文部科学省	東洋館出版社
3			

評価方法 （基準）	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。
学生への メッセージ	皆さんのお手本になるような優れた授業がたくさんあるということと、一方で絶対的に優れた授業というものはないということを知ってもらいたいと思っています。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	次橋　秀樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法Ⅰの第7回目までの学習内容を復習しておく（2 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく（1 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する（2 時間）。
4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく（2 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方／北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア／アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ／オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う（4 時間）。

関連科目	社会科教育法 I
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編</td><td>文部科学省</td><td>東洋館出版社</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。
学生への メッセージ	自ら教材を見つけることで、社会科の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （１）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （３）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（１）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（２）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（３）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（１）：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術（２）：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方（１）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（１）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（２）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（２）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（１）	模擬授業の実践と指導（１）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（２）	模擬授業の実践と指導（２）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（３）	模擬授業の実践と指導（３）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（４）	模擬授業の実践と指導（４）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う（事前課題）。
15	総括ー社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法Ⅰ、社会科・公民科教育法Ⅱは「Ⅰ→Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	事前学習課題の提出（30%）、模擬授業（50%）、各種課題（20%）等により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領(最新年度版)を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室 ※連絡のある方はメールアドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp まで。
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 （4）政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	政治教育（市民性教育）（1）	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
13	政治教育（市民性教育）（2）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成（事前課題）
15	総括ー社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題・レポート（３０％）、模擬授業（５０％）、平常点：授業への貢献度等（20%）。
出席については全体の 80%以上の出席（15 回中 12 回以上）が必須。
出席率が 80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 3 階　大野順子研究室
連絡先メールアドレス：j-oono@arc.setsunan.ac.jp</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。
中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Ⅰで購入済みの者は購入の必要なし）。
事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	道徳教育の研究	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める４つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P.8～17 を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P.6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P.12～25 を精読しておく。 （事後）道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく８類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.26～35 及びテキスト 2. の P.26～29 を精読しておく。 （事後）道徳の授業のねらいに基づく８類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科　道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.36～48 及びテキスト 2. の P.30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科　道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.49～58 及びテキスト 2. の P.34～37 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科　道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.59～68 及びテキスト 2. の P.38～41 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.71～85 及びテキスト 2. の P.42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P.86～95 及びテキスト 2. の P.46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.96～106 及びテキスト 2. の P.50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.107～130 及びテキスト 2. の P.54～57 を精読しておく。 （事後）カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.131～152 及びテキスト 2. の P.58～61 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第９回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P.62～65 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P.66～69 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

				をしておく。
	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科　初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰　編著	大学教育出版
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	教育出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
2	『道徳教育』PLUS　考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（30%）、作成した道徳科学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館４階(谷口研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	道徳教育の研究	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める４つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P.8～17 を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P.6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P.12～25 を精読しておく。 （事後）道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく８類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.26～35 及びテキスト 2. の P.26～29 を精読しておく。 （事後）道徳の授業のねらいに基づく８類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科　道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.36～48 及びテキスト 2. の P.30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科　道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.49～58 及びテキスト 2. の P.34～37 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科　道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.59～68 及びテキスト 2. の P.38～41 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.71～85 及びテキスト 2. の P.42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P.86～95 及びテキスト 2. の P.46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.96～106 及びテキスト 2. の P.50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.107～130 及びテキスト 2. の P.54～57 を精読しておく。 （事後）カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.131～152 及びテキスト 2. の P.58～61 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第９回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P.62～65 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P.66～69 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

				をしておく。
	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科　初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰　編著	大学教育出版
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	教育出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
2	『道徳教育』PLUS　考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（30%）、作成した道徳科学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館４階(谷口研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探求的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1　教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2　特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3　合意形成に向けた学級での話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4　総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教職科目　特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、 教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第１章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をする（2 時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動 学級活動に役立つワーク　１	特別活動テキスト第２章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習する（2 時間）。
3	学級活動･ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 学級活動に役立つワーク　２	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
4	学級活動･ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 学級活動に役立つワーク　３	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
5	生徒会活動･児童会活動、学校行事	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 学級活動に役立つワーク　４	特別活動テキスト第３章第2･3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2 時間）。
6	体験活動･体験的な学びの意義	特別活動･総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性　学級活動に役立つワーク　５	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい 学級活動に役立つワーク　６	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 学級活動に役立つワーク　７	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
9	特別活動と生徒指導 学級活動に役立つワーク８	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 学級活動に役立つワーク　８	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 学級活動に役立つワーク　９	特別活動テキスト第４章第 1･2･5 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
11	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 学級活動に役立つワーク　１０	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
12	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 学級活動に役立つワーク　１１	総合的な学習の時間のテキスト第 1・2･3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
13	総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学級活動に役立つワーク　１２	総合的な学習の時間のテキスト第2･7 章､講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 学級活動に役立つワーク　１３	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。	特別活動のテキスト第４章第 2･3･4 節、総合的な学習の時間のテキスト第９章、講義資料を事前に読ん

				でおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに最終レポートを作成する（2 時間）。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　平成２９年告示	文部科学省	東山書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示	文部科学省	東京書籍
2	高等学校学習指導要領　総合的な探求の時間編　平成２９年告示	文部科学省	学校図書
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 3F 松浦研究室
備考	授業外学習総時間を 60 時間とする。

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探求的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1　教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2　特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3　合意形成に向けた学級での話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4　総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教職科目　特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、 教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第１章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をする（2 時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動 学級活動に役立つワーク　１	特別活動テキスト第２章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習する（2 時間）。
3	学級活動･ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 学級活動に役立つワーク　２	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
4	学級活動･ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 学級活動に役立つワーク　３	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
5	生徒会活動･児童会活動、学校行事	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 学級活動に役立つワーク　４	特別活動テキスト第３章第2･3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2 時間）。
6	体験活動･体験的な学びの意義	特別活動･総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性　学級活動に役立つワーク　５	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい 学級活動に役立つワーク　６	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 学級活動に役立つワーク　７	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
9	特別活動と生徒指導 学級活動に役立つワーク８	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 学級活動に役立つワーク　８	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 学級活動に役立つワーク　９	特別活動テキスト第４章第 1･2･5 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
11	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 学級活動に役立つワーク　１０	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
12	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 学級活動に役立つワーク　１１	総合的な学習の時間のテキスト第 1・2･3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
13	総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学級活動に役立つワーク　１２	総合的な学習の時間のテキスト第2･7 章､講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 学級活動に役立つワーク　１３	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。	特別活動のテキスト第４章第 2･3･4 節、総合的な学習の時間のテキスト第９章、講義資料を事前に読ん

				でおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに最終レポートを作成する（2 時間）。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　平成２９年告示	文部科学省	東山書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示	文部科学省	東京書籍
2	高等学校学習指導要領　総合的な探求の時間編　平成２９年告示	文部科学省	学校図書
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 3F 松浦研究室
備考	授業外学習総時間を 60 時間とする。

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探求的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1　教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2　特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3　合意形成に向けた学級での話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4　総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教職科目　特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、 教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第１章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をする（2 時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動 学級活動に役立つワーク　１	特別活動テキスト第２章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習する（2 時間）。
3	学級活動･ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 学級活動に役立つワーク　２	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
4	学級活動･ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 学級活動に役立つワーク　３	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
5	生徒会活動･児童会活動、学校行事	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 学級活動に役立つワーク　４	特別活動テキスト第３章第2･3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2 時間）。
6	体験活動･体験的な学びの意義	特別活動･総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性　学級活動に役立つワーク　５	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい 学級活動に役立つワーク　６	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 学級活動に役立つワーク　７	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
9	特別活動と生徒指導 学級活動に役立つワーク８	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 学級活動に役立つワーク　８	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 学級活動に役立つワーク　９	特別活動テキスト第４章第 1･2･5 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
11	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 学級活動に役立つワーク　１０	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
12	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 学級活動に役立つワーク　１１	総合的な学習の時間のテキスト第 1・2･3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
13	総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学級活動に役立つワーク　１２	総合的な学習の時間のテキスト第2･7 章､講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 学級活動に役立つワーク　１３	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。	特別活動のテキスト第４章第 2･3･4 節、総合的な学習の時間のテキスト第９章、講義資料を事前に読ん

				でおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに最終レポートを作成する（2 時間）。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　平成２９年告示	文部科学省	東山書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示	文部科学省	東京書籍
2	高等学校学習指導要領　総合的な探求の時間編　平成２９年告示	文部科学省	学校図書
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 3F 松浦研究室
備考	授業外学習総時間を 60 時間とする。

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談は，幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら，集団の中で適応的に生活する力を育み，個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ，個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え，支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義，理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 特に，学校における教育相談に焦点を当て，教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために，教育相談のもつ今日的な意義を解説し，カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について，実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド	テキスト第１講，配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法	テキスト第２講・第３講，配付資料を用いた予習・復習
3	グループ発表の準備	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制，専門機関との連携とその方法	テキスト第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動１	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動，予防的カウンセリング活動	テキスト第２講，第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動２	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第２講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応１	“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応２	ストレス，欲求不満，葛藤	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と“問題”	青年期の発達（認知，自己意識，道徳性，仲間関係等）	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際１	不登校……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
12	相談援助活動の実際２	いじめ……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
13	相談援助活動の実際３	授業崩壊・学級崩壊……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第５講，配付資料を用いた予習・復習
14	相談援助活動の実際４	反社会的行動……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第７講，配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携	テキスト第 15 講，配付資料を用いた予習・復習

関連科目	教職課程の科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる！教職エクササイズ３　教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%，期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。

	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 Moodle コース名と登録キー 月曜 2 限：2022 教育相談（月 2）あるいは　22 教育相談（月 2）　2022ECMON2 火曜 2 限：2022 教育相談（火 2）あるいは　22 教育相談（火 2）　2022ECTUE2 木曜 1 限：2022 教育相談（木 1）あるいは　22 教育相談（木 1）　2022ECTHU1 木曜 4 限：202

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談は，幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら，集団の中で適応的に生活する力を育み，個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ，個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え，支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義，理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 特に，学校における教育相談に焦点を当て，教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために，教育相談のもつ今日的な意義を解説し，カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について，実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド	テキスト第１講，配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法	テキスト第２講・第３講，配付資料を用いた予習・復習
3	グループ発表の準備	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制，専門機関との連携とその方法	テキスト第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動１	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動，予防的カウンセリング活動	テキスト第２講，第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動２	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第２講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応１	“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応２	ストレス，欲求不満，葛藤	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と“問題”	青年期の発達（認知，自己意識，道徳性，仲間関係等）	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際１	不登校……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
12	相談援助活動の実際２	いじめ……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
13	相談援助活動の実際３	授業崩壊・学級崩壊……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第５講，配付資料を用いた予習・復習
14	相談援助活動の実際４	反社会的行動……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第７講，配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携	テキスト第 15 講，配付資料を用いた予習・復習

関連科目	教職課程の科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる！教職エクササイズ３　教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%，期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。

	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 Moodle コース名と登録キー 月曜 2 限：2022 教育相談（月 2）あるいは　22 教育相談（月 2）　2022ECMON2 火曜 2 限：2022 教育相談（火 2）あるいは　22 教育相談（火 2）　2022ECTUE2 木曜 1 限：2022 教育相談（木 1）あるいは　22 教育相談（木 1）　2022ECTHU1 木曜 4 限：202

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談は，幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら，集団の中で適応的に生活する力を育み，個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ，個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え，支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義，理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 特に，学校における教育相談に焦点を当て，教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために，教育相談のもつ今日的な意義を解説し，カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について，実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド	テキスト第１講，配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法	テキスト第２講・第３講，配付資料を用いた予習・復習
3	グループ発表の準備	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制，専門機関との連携とその方法	テキスト第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動１	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動，予防的カウンセリング活動	テキスト第２講，第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動２	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第２講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応１	“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応２	ストレス，欲求不満，葛藤	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と“問題”	青年期の発達（認知，自己意識，道徳性，仲間関係等）	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際１	不登校……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
12	相談援助活動の実際２	いじめ……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
13	相談援助活動の実際３	授業崩壊・学級崩壊……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第５講，配付資料を用いた予習・復習
14	相談援助活動の実際４	反社会的行動……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第７講，配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携	テキスト第 15 講，配付資料を用いた予習・復習

関連科目	教職課程の科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる！教職エクササイズ３　教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%，期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。

	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 Moodle コース名と登録キー 月曜 2 限：2022 教育相談（月 2）あるいは　22 教育相談（月 2）　2022ECMON2 火曜 2 限：2022 教育相談（火 2）あるいは　22 教育相談（火 2）　2022ECTUE2 木曜 1 限：2022 教育相談（木 1）あるいは　22 教育相談（木 1）　2022ECTHU1 木曜 4 限：202

科目名	教育実習Ⅰ	科目名（英文）	Teaching Practice Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日　素明.大野　順子.谷口　雄一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（1）教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。（2）教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。（3）教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての充分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義（体験報告を含む）、演習（文献購読、発表、討議を含む）、実習（指導案作成、模擬授業を含む）を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育実習」５単位あるいは３単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」１単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習（教育実習に係る事前及び事後指導）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	指導案の作成（1）	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
9	指導案の作成（2）	学級（ホームルーム）活動等の指導案について	授業時に指示する
10	模擬授業（1）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業（2）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業（3）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	模擬授業（4）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
14	教育実習の実際（1）	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
15	教育実習の実際（2）	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目	教職課程で学んだ全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『新編　教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
2			
3			

評価方法（基準）	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、充分に準備してください。
担当者の研究室等	吉田研究室・松浦研究室・大野研究室・朝日研究室（７号館３階） 谷口研究室（７号館４階）
備考	教職フォーラム（10 月最終土曜日）、教育実習総括講義（11 月最終土曜日）には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間はおおよそ 30 時間程度となる。

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一.朝日　素明.大野　順子.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員５名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。１グループは１０名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く） の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・２回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。	教育実習ノートの点検と再確認
2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
4	ジェンダーと教育（１）	ジェンダーと教育に関する視聴覚教材の視聴、及び、問題点についてまとめる。	特にないが、各自事前にジェンダーに関する問題について身の回りの問題、ネットや新聞記事等から見つけ出しておく。
5	ジェンダーと教育（２）	第一回目のまとめを全体で共有し、そこからジェンダーに関する問題点をひとつ取り上げ全体で議論する。	特にないが、各自事前にジェンダーに関する問題について身の回りの問題、ネットや新聞記事等から見つけ出しておく。
6	学校の危機管理（１）：学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
7	学校の危機管理（２）：災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
8	通常学級での特別支援教育（１）	・場の教育とニーズによる教育の違いを整理する。 ・個別支援とアセスメント・個別支援の最適化について理解する。	（事前）教育実習で気になった生徒について、その生徒の特長・担任等の支援の状況をまとめておく。 （事後）講義の内容をもとに対象となる生徒の特長と支援について改良案を考える。
9	通常学級での特別支援教育（２）	・前時の授業を踏まえ、「授業のユニバーサルデザイン」の概要・目指すものについて理解する。	（事前）前時の授業内容を復習しておく。 （事後）講義や教科書を元に学習内容をまとめる。
10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	（事前）カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を３つあげる。 （事後）小レポート
11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための１方法としてのエゴグラム作成を行う。	（事前）「自分」について考える。 （事後）小レポート
12	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)（１）	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
13	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)（２）	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学校における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
14	専攻科目における実践上の課題（１）	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
15	専攻科目における実践上の	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門	専攻教科における分野ごとの課題を整理する

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td>課題（2）</td><td>分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>７号館３階（朝日、大野、松浦、吉田）
７号館４階（谷口）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後総学習時間は，60 時間程度である。</td></tr>
</table>

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一.疋田　祥人
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人お一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。 第 8 回と第 10 回には非常勤講師による講義を
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭 1 種免許状　（2）中学校教諭 1 種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキスト P. 3 を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキスト P. 76～85 を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキスト P. 69～73 を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキスト P. 93～97 を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキスト P. 86～90 を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	（事前）コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 8 回で取り上げた 4 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	（事前）フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 29～32 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 50～54 を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：	現在の教育課題の一つである生涯学習	（事前）テキスト P. 147～151 を精読しておく。

		生涯学習の思想	について概観し、考察を加える。	（事後）生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキストP.169～178を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目：教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学する教育原理	伊藤潔志　編著	教育情報出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）	文部科学省	東山書房
2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）	文部科学省	東山書房
3	哲学する学校経営	伊藤潔志　編著	教育情報出版

評価方法（基準）：毎回の授業の終わりに書いてもらうOPPシート（One Page Portfolioシート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。
また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。

学生へのメッセージ：授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。

担当者の研究室等：寝屋川キャンパス7号館4階（谷口研究室）

備考：事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一.疋田　祥人
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人お一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。 第 8 回と第 10 回には非常勤講師による講義を
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭 1 種免許状　（2）中学校教諭 1 種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキスト P. 3 を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキスト P. 76～85 を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキスト P. 69～73 を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキスト P. 93～97 を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキスト P. 86～90 を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	（事前）コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 8 回で取り上げた 4 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	（事前）フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 29～32 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 50～54 を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：	現在の教育課題の一つである生涯学習	（事前）テキスト P. 147～151 を精読しておく。

		生涯学習の思想	について概観し、考察を加える。	（事後）生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキストP.169～178を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目：教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学する教育原理	伊藤潔志　編著	教育情報出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）	文部科学省	東山書房
2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）	文部科学省	東山書房
3	哲学する学校経営	伊藤潔志　編著	教育情報出版

評価方法（基準）：毎回の授業の終わりに書いてもらうOPPシート（One Page Portfolioシート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。
また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。

学生へのメッセージ：授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。

担当者の研究室等：寝屋川キャンパス7号館4階（谷口研究室）

備考：事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一.疋田　祥人
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人お一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。 第 8 回と第 10 回には非常勤講師による講義を
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭 1 種免許状　（2）中学校教諭 1 種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキスト P. 3 を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキスト P. 76～85 を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキスト P. 69～73 を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキスト P. 93～97 を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキスト P. 86～90 を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	（事前）コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 8 回で取り上げた 4 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	（事前）フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 29～32 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 50～54 を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：	現在の教育課題の一つである生涯学習	（事前）テキスト P. 147～151 を精読しておく。

		生涯学習の思想	について概観し、考察を加える。	（事後）生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキストP.169～178を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目：教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学する教育原理	伊藤潔志　編著	教育情報出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）	文部科学省	東山書房
2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）	文部科学省	東山書房
3	哲学する学校経営	伊藤潔志　編著	教育情報出版

評価方法（基準）：毎回の授業の終わりに書いてもらうOPPシート（One Page Portfolioシート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。
また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。

学生へのメッセージ：授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。

担当者の研究室等：寝屋川キャンパス7号館4階（谷口研究室）

備考：事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（１）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（２）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（３）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（４）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究（１）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究（２）	「不良教師」と「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究（３）	「人間教師」と「プロ教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究（４）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務（１）	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務（２）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務（３）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務（４）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（５）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために，教師が学習者を理解し，さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ，日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について，心理学的に説明し，考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について，基礎的な知識を身につけ，各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので，各自入手しておくこと。 必要に応じて，簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」１０単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と１	教育に対して心理学ができること，発達と教育	テキスト第０章１，配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と２	発達の要因，主な発達理論の概観	テキスト第８章１，配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達１	乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第９章，配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達２	児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達３	青年期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能１	思考……人間の思考の特徴，メタ認知の機能と発達	テキスト第７章１，配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能２	言語……言語の機能，言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能３	記憶……記憶のメカニズムと発達	テキスト第４章・第５章，配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び１	さまざまな学習①……学習とは何か，主な学習理論の概観，条件づけ	テキスト第１章，配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び２	さまざまな学習②……観察学習，自己制御学習	テキスト第１章・第６章，配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程，動機づけ理論	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ２	さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ，その他の視点，意欲の発達	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ３	意欲を育む……こどもの発達と意欲，意欲を育む教育のあり方，学習と評価	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係，生徒-生徒の関係，教師-教師の関係，集団としての学級	テキスト第０章２・第１０章，配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育……ＡＴＩ，学習方略	テキスト第０章３・第６章・第７章２，配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論を実践―	藤田哲也（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 30%，期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	Moodle コース名と登録キー 火曜５限：2022 教育心理学（火５）　あるいは　22 教心（火 5）　2022EPTUE5 木曜１限：2022 教育心理学（木１）　あるいは　22 教心（木 1）　2022EPTHU1 木曜５限：2022 教育心理学（木５）　あるいは　22 教心（木５）　2022EPTHU5 金曜５限：2022 教育心理学（金５）　あるいは　22 教心（金５）　2022EPFRI5 ・期末試験は希望者に返却します。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別支援教育論	科目名（英文）	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム
授業方法と留意点	１　授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICT ツールは Teams を使用する。 ２　講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。電子ファイルとして、もしくはプリントアウトして各自で管理すること。 ３　Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。なお発表資料は発表の１週間前までに提出することとする。
科目学習の効果（資格）	教職科目 特別支援教育論は、教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・クループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第１章を読み、今後の学習について見通しを持つ（２時間）・グループでの役割に応じて４回目授業での発表準備を進める（２時間）
2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。	・教科書第２章をよく読み、質問をまとめておく。（２時間）・グループでの役割に応じて４回目の授業での発表準備を進める（２時間）
3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第３章をよく読み、質問をまとめておく。（２時間）・ペアでの役割に応じて、4回目の授業での発表の資料をＡ４一枚程度(両面可）にまとめ、提出する。（２時間）
4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。	・教科書第１１章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。（２時間）・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。（２時間）
5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第１０章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・グループでの役割に応じて、７回目の授業での発表資料をＡ４二枚以内（両面可）にまとめ、提出する。（２時間）
6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第８章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
7	知的障害・発達障害について（１）	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・自分の発表部分について、よく伝わるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。（２時間）授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正し、提出する。（２時間）
8	知的障害・発達障害について（２）	・７回目終了後に提出した資料をもとに２回目のグループ発表を行う。代表者にまとめの発表をしてもらい、感想をまとめる。	・自分の発表部分について、よく伝わるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。（２時間）授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。（２時間）
9	LGBT 等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・ＬＧＢＴ・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童ついて学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第１２章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
10	個別の指導計画と個別の教育支援計画	・ICF モデル・特別支援教育への転換について知る。 ・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第５章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
11	通常学級での特別支援教育（１）	・場の教育とニーズによる教育の違いを整理する。 ・個別支援とアセスメント・個別支援の最適化について理解する。	・第２回の授業内容について教科書やノートで復習しておく（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
12	通常学級での特別支援教育（２）	・前時の授業をもとに、授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。	・前時の授業内容を復習しておく（２時間）・講義を元に学習内容をまとめる（２時間）
13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・特別な教育的支援を必要とする子ど・教科書第１３章・１４章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・教科書と講義を元に学習内容をまとめる（２時間）
14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。 ・進路支援・就労支援の実際を知り、問題点を明らかにする。	・教科書第１５・第１６章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）

	15	発達障害等に対する指導技法　まとめ	・応用行動分析の考え方を理解する。 ・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。	・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。(2 時間) ・今までの学修をふりかえる（2時間）・当日出題される課題に取り組み、提出する。

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての特別支援教育　教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みんなで考える特別支援教育	梅永雄二他	北樹出版
2	特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領　平成２９年４月告示	文部科学省	海文堂出版
3	中学校学習指導要領（平成２９年告示）総則編	文部科学省	海文堂出版

評価方法 （基準）	授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1 人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 3 階松浦研究室
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（１）教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 （２）わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 （１）学校教育における教育課程の意義について理解できる。 （２）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の「学習指導要領」（文部科学省ホームページでダウンロード可能）を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後（経験主義～系統主義：高度経済成長期）の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
5	教育評価　その１	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
6	教育評価　その２	教育課程評価について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
8	新しい教育課程　その１	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
9	新しい教育課程　その２	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
10	新しい教育課程　その３	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
11	教育課程と教育改革　その１	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
12	教育課程と教育改革　その２	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
13	教育課程と教育格差　その１	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
14	教育課程と教育格差　その２	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読む。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー（OECD）について。	課題：教科書の該当する部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程（第４版）	田中耕治他	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新教育課程ライブラリ（Vol.1～Vol.12）	（株）ぎょうせい	（株）ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版
3			

評価方法（基準）	事前課題及びレポート（30%）と最終試験（70%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。期日以降の提出は原則認めません。
担当者の研究室等	７号館３階(大野順子研究室) 連絡先：　j-oono@arc.setsunan.ac.jp
備考	2009 年度以前入学生は、(高校）教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については，適宜印刷し，配布します

	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	道徳教育論	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める４つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P. 8～17 を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P. 12～25 を精読しておく。 （事後）道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく８類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 26～35 及びテキスト 2. の P. 26～29 を精読しておく。 （事後）道徳の授業のねらいに基づく８類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科　道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 36～48 及びテキスト 2. の P. 30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科　道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 49～58 及びテキスト 2. の P. 34～37 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科　道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 59～68 及びテキスト 2. の P. 38～41 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 71～85 及びテキスト 2. の P. 42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 86～95 及びテキスト 2. の P. 46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 96～106 及びテキスト 2. の P. 50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 107～130 及びテキスト 2. の P. 54～57 を精読しておく。 （事後）カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 131～152 及びテキスト 2. の P. 58～61 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第９回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P. 62～65 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P. 66～69 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

				をしておく。
	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科　初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰　編著	大学教育出版
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	教育出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
2	『道徳教育』PLUS　考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（30%）、作成した道徳科学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館４階(谷口研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名（英文）	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探求的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1　教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2　特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3　合意形成に向けた学級での話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4　総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教職科目　特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、 教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第１章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をする（2 時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動 学級活動に役立つワーク　１	特別活動テキスト第２章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習する（2 時間）。
3	学級活動･ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 学級活動に役立つワーク　２	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
4	学級活動･ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 学級活動に役立つワーク　３	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
5	生徒会活動･児童会活動、学校行事	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 学級活動に役立つワーク　４	特別活動テキスト第３章第2･3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2 時間）。
6	体験活動･体験的な学びの意義	特別活動･総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性　学級活動に役立つワーク　５	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい 学級活動に役立つワーク　６	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 学級活動に役立つワーク　７	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
9	特別活動と生徒指導 学級活動に役立つワーク８	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 学級活動に役立つワーク　８	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 学級活動に役立つワーク　９	特別活動テキスト第４章第 1･2･5 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
11	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 学級活動に役立つワーク　１０	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。 講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
12	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 学級活動に役立つワーク　１１	総合的な学習の時間のテキスト第 1・2･3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
13	総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学級活動に役立つワーク　１２	総合的な学習の時間のテキスト第2･7 章､講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 学級活動に役立つワーク　１３	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。	特別活動のテキスト第４章第 2･3･4 節、総合的な学習の時間のテキスト第９章、講義資料を事前に読ん

				でおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに最終レポートを作成する（2 時間）。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　平成２９年告示	文部科学省	東山書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示	文部科学省	東京書籍
2	高等学校学習指導要領　総合的な探求の時間編　平成２９年告示	文部科学省	学校図書
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 3F 松浦研究室
備考	授業外学習総時間を 60 時間とする。

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。教師に求められる教育の方法と技術に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけていくことを目指して授業を行う。内容としては、教育の方法と技術にに関する歴史的変遷に触れ、、現代求められている「主体的・対話的で深い学び」についてる理解を深める。この授業を通してそれぞれが理想とする授業像・教師像を持ち、教員採用試験を突破できる基礎力を築く。 また、授業形態としては、講義のほかにペア学習・グループに分かれてのアクティブラーニングを取り入れ、教える側にも立ち、学修を進める。
到達目標	１　教育方法の基礎的理論と実践について理解している ２　これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 ３　授業を行う上での基礎的な技術を身につける。 ４子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。
授業方法と留意点	１　授業は対面式で行う。ICT ツールは Teams を使用する。 ２　講義資料等は「ファイル」により各授業回別のフォルダを作り、そこに掲載する。電子ファイルとして、もしくはプリントアウトして各自で管理すること。 ３　Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。なお、発表資料は発表の１週間前までに提出すること。
科目学習の効果（資格）	教職科目　教育方法論は、 教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について・授業経験の振り返り	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 ペア学習：記憶に残る教師・授業について体験を発表する	教科書序章・第３章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
2	学習とは何か（学習論）	講義：学習をめぐる３つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割・アクティブラーニングについて理解する。 ペア学習：学びのピラミッドを理解する	教科書第５章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（２時間）。
3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容、教材・教具の違いについて理解する。 グループ学習：グループに分かれ担当する課題を決める。	教科書第４章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。6 から１０回目の授業内容のうち担当する授業テーマについて発表の準備を進める.。（2 時間）
4	欧米における授業の歴史（教授論の歴史①）	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開について理解する。 ミニ講座その１	教科書第１章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。発表の準備を進める。（２時間）
5	日本における授業の歴史（教授論の歴史②）	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試みについて理解する ミニ講座その２	教科書第２章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）発表の準備を進める。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
6	学力をどう高めるか（学力論）	グループ発表・講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高めるについて理解する。	教科書第６章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	グループ発表・講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援について理解する。	教科書第７章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
8	8　教育の道具・素材・環境（教材論）	グループ発表・講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間について理解する。	教科書第８章をよく読んでおく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2 時間）
9	何をどう評価するか（評価論）	グループ発表・講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」について理解する。	教科書第９章をよく読んでおく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2 時間）
10	教科外教育活動を構想する	グループ発表・講義：教科外活動の分野と方法、教育外活動の今日的な課題について理解する。	教科書１０章をよく読んで、疑問点をまとめておく（2 時間）。教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
11	授業・学習へのＩＣＴの活用	講義：教育の情報化、教育の情報化の今日的意義、教育情報化の加速、ICT を活用した学びの実践、学校の ICT 環境整備、GIGA スクール構想について理解する ミニ講座３	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）。
12	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）	講義：ICF への転換と特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮について理解する。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）

			ミニ講座４	
	13	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる(ユニバーサルデザイン論)	講義:バリアフリーとユニバーサルデザイン、教育のユニバサールデザイン化、基礎的環境整備と合理的配慮の関係、教室環境のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン化と指導の三段構え ミニ講座５	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)
	14	今求められている学力を育てるために	講義・ペア学習:なぜフィンランドは学力世界一になったかを理解する。 ・学習指導と学級経営の関係を理解する。 ミニ講座６	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって	講義:すぐれた教師・理想の教師になるために何をしていけばよいのか２つの教師モデル等から理解する。 最終レポートの課題を知る。	教科書第１１章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理し、最終レポートを作成・提出する。(2時間)

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育方法　改訂版	田中耕治他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成２９年度版）解説　総則編	文部科学省	東山書房
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート（30%)、最終レポート（30%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の研究室等	７号館３階(松浦研究室)
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counceling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指そうとする素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	対面授業で、プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進めます。また時折、レポートを課します。 Teams のチャネルを通してテキストや資料を配布します。また、レポート課題提示・提出受付は Moodle を通して行います。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
5	生徒理解の進め方（１）	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
6	生徒理解の進め方（２）	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
7	学級経営の進め方（１）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
8	学級経営の進め方（２）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
3	生徒指導提要	文部科学省	

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 40%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室

備考	必ず自分が履修登録をした曜日時限の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしてください。自分が履修登録した曜日時限以外の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしたものは成績評価対象外です（全欠席扱いとし、単位認定しません）。 また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.大野　順子.谷口　雄一.松浦正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、前年度に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、はじめて「地域連携教育活動Ⅰ」を履修する学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは，教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	すべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、７号館３階（大野研究室）、７号館４階（谷口研究室）、7 号館 3 階（松浦研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。１回の活動に対して，それぞれ 1、2 時間は必要です。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.大野　順子.谷口　雄一.松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、前年度に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を既に履修した学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは，教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	すべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、７号館３階（大野研究室）、７号館４階（谷口研究室）、7 号館 3 階（林研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。１回の活動に対して，それぞれ 1、2 時間は必要です。

科目名	社会科教育法Ⅰ【地歴分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods Ⅰ (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	次橋　秀樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく（3 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく（1 時間）。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む（3 時間）
3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく（3 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく（2 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく（1 時間）。 事後、興味を持った実践について調べる（2 時間）。
8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作

				成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。

関連科目	社会科教育法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編	文部科学省	東洋館出版社
3			

評価方法 （基準）	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。
学生への メッセージ	皆さんのお手本になるような優れた授業がたくさんあるということと、一方で絶対的に優れた授業というものはないということを知ってもらいたいと思っています。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	社会科教育法Ⅱ【地歴分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods II (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	次橋　秀樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法Ⅰの第7回目までの学習内容を復習しておく（2 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく（1 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する（2 時間）。
4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく（2 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方／北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア／アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ／オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う（4 時間）。

関連科目	社会科教育法 I
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編</td><td>文部科学省</td><td>東洋館出版社</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。
学生への メッセージ	自ら教材を見つけることで、社会科の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	社会科教育法Ⅲ【公民分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods III (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （１）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （３）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（１）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（２）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（３）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（１）：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術（２）：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方（１）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（１）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（２）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（２）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（１）	模擬授業の実践と指導（１）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（２）	模擬授業の実践と指導（２）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（３）	模擬授業の実践と指導（３）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（４）	模擬授業の実践と指導（４）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う（事前課題）。
15	総括ー社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法Ⅰ、社会科・公民科教育法Ⅱは「Ⅰ→Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	事前学習課題の提出（30%）、模擬授業（50%）、各種課題（20%）等により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領(最新年度版)を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室 ※連絡のある方はメールアドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp まで。
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	社会科教育法Ⅳ【公民分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods Ⅳ (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 （4）政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	政治教育（市民性教育）（1）	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
13	政治教育（市民性教育）（2）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成（事前課題）
15	総括ー社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題・レポート（３０％）、模擬授業（５０％）、平常点：授業への貢献度等（20%）。
出席については全体の 80%以上の出席（15 回中 12 回以上）が必須。
出席率が 80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 3 階　大野順子研究室
連絡先メールアドレス：j-oono@arc.setsunan.ac.jp</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。
中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Ⅰで購入済みの者は購入の必要なし）。
事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一.疋田　祥人
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人お一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。 第 8 回と第 10 回には非常勤講師による講義を
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭 1 種免許状　（2）中学校教諭 1 種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキスト P. 3 を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキスト P. 76～85 を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキスト P. 69～73 を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキスト P. 93～97 を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキスト P. 86～90 を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	（事前）コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 8 回で取り上げた 4 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	（事前）フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 29～32 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 50～54 を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：	現在の教育課題の一つである生涯学習	（事前）テキスト P. 147～151 を精読しておく。

		生涯学習の思想	について概観し、考察を加える。	（事後）生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキストP.169～178を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目：教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学する教育原理	伊藤潔志　編著	教育情報出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）	文部科学省	東山書房
2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）	文部科学省	東山書房
3	哲学する学校経営	伊藤潔志　編著	教育情報出版

評価方法（基準）：毎回の授業の終わりに書いてもらうOPPシート（One Page Portfolioシート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。
また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。

学生へのメッセージ：授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。

担当者の研究室等：寝屋川キャンパス7号館4階（谷口研究室）

備考：事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一.疋田　祥人
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人お一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。 第 8 回と第 10 回には非常勤講師による講義を
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭 1 種免許状　（2）中学校教諭 1 種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキスト P. 3 を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキスト P. 76～85 を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキスト P. 69～73 を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキスト P. 93～97 を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキスト P. 86～90 を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	（事前）コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 8 回で取り上げた 4 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	（事前）フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 29～32 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 50～54 を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：	現在の教育課題の一つである生涯学習	（事前）テキスト P. 147～151 を精読しておく。

		生涯学習の思想	について概観し、考察を加える。	（事後）生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキストP.169～178を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目：教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学する教育原理	伊藤潔志　編著	教育情報出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）	文部科学省	東山書房
2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）	文部科学省	東山書房
3	哲学する学校経営	伊藤潔志　編著	教育情報出版

評価方法（基準）：毎回の授業の終わりに書いてもらうOPPシート（One Page Portfolioシート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。
また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。

学生へのメッセージ：授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。

担当者の研究室等：寝屋川キャンパス7号館4階（谷口研究室）

備考：事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一.疋田　祥人
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人お一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。 第 8 回と第 10 回には非常勤講師による講義を
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭 1 種免許状　（2）中学校教諭 1 種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキスト P. 3 を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキスト P. 76～85 を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキスト P. 69～73 を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキスト P. 93～97 を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキスト P. 86～90 を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	（事前）コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 8 回で取り上げた 4 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その１ ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	（事前）フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 （事後）授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 29～32 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 50～54 を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：	現在の教育課題の一つである生涯学習	（事前）テキスト P. 147～151 を精読しておく。

		生涯学習の思想	について概観し、考察を加える。	（事後）生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキストP.169～178を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目：教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学する教育原理	伊藤潔志　編著	教育情報出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）	文部科学省	東山書房
2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）	文部科学省	東山書房
3	哲学する学校経営	伊藤潔志　編著	教育情報出版

評価方法（基準）：毎回の授業の終わりに書いてもらうOPPシート（One Page Portfolioシート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。
また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。

学生へのメッセージ：授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。

担当者の研究室等：寝屋川キャンパス7号館4階（谷口研究室）

備考：事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。＊遠隔の場合、リアルタイム配信で行う。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。１件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト１を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
5	街頭犯罪－－ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
7	性犯罪－－街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
10	詐欺－－高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
11	サイバー犯罪－－子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

	罪を取り上げる。		
12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

関連科目：法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。

学生へのメッセージ：勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。

担当者の研究室等：11 号館 9 階 中沼研究室

備考：講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。

科目名	マーケティングと歴史	科目名（英文）	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
6	マーケティングのＳＴＰアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、ＳＴＰアプローチに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
10	越後屋の仕入機構（１）	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
11	越後屋の仕入機構（２）	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間１時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居　奈緒子	千倉書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動　新版	武居　奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法	期末レポート（80%）、中間レポート（20%）

（基準）	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館８階　武居教授室
備考	

科目名	全学部生のための刑事法	科目名（英文）	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。 ・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS 上での出会い）、職業安定法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25 通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん）、偽計業務妨害（カンニング）の事案など枚挙にいとまがない。 ・これらの犯罪は、おそらく大学生当人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。 ・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。 本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる ・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる ・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法とは何か	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか）	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
3	刑法の解釈	・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
4	犯罪の基本概念	・犯罪の成立要件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
5	薬物犯罪	・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
6	カンニング行為と偽計業務妨害	・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大 2 次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
7	飲み会と保護責任者遺棄罪	・飲み会において生じうる犯罪現象	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
8	定期券の偽造と詐欺罪	・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
9	ストーカー行為規制法	・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
10	DV とデート DV	・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	・各種性犯罪 ・家出と誘拐の関連	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	・少年法の厳罰化 ・20 歳未満の実名報道	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
13	犯罪被害者救済①	・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
14	犯罪被害者救済②	・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間

関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
2			
3			

評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（講義の理解度5%＋課題の得点95%）。
学生への メッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。
担当者の 研究室等	11号館10階　小野教授室
備考	

科目名	現代韓国論	科目名（英文）	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	１．韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 ２．授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信および課題等の提出、という２つの手段を適宜組み合わせて行なう。 ３．授業進度の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 ４．本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果（資格）	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 （「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。）	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第１章　盧泰愚来日と天皇訪韓構想（１）	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第１章　盧泰愚来日と天皇訪韓構想（２）	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第２章　慰安婦問題の展開（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第２章　慰安婦問題の展開（２）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第３章　村山談話と靖国問題（１）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第３章　村山談話と靖国問題（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第４章　「小春日和」の時代	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	第Ⅱ部　対立激化への展開	第５章　領土問題の相克と定着化（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	第Ⅱ部　対立激化への展開	第５章　領土問題の相克と定着化（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	第Ⅱ部　対立激化への展開	第６章　民主党政権と李明博政権（１）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	第Ⅱ部　対立激化への展開	第６章　民主党政権と李明博政権（２） 第７章　外交争点としての「慰安婦」問題（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	第Ⅱ部　対立激化への展開	第７章　外交争点としての「慰安婦」問題（２）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	第Ⅱ部　対立激化への展開	第８章　文在寅政権の転換	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 （講義のまとめと補遺）	［事前学習］提示する資料を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	韓国現代史	木村幹	中公新書
2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
3			

評価方法 （基準）	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　田中研究室
備考	・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 ・なお、2019 年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。

科目名	役立つ金融知力	科目名（英文）	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西　史一
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	金融・経済の自由化やグローバリゼーションが進展し、多様な金融商品やサービスが登場するなど消費者の選択肢が拡大して、これまで以上に利便性や収益機会が得られるようになりました。その一方、私たちには自らの判断と責任において金融取引を行うべきとする、「自己責任」が求められる時代になっています。自立した個人として、実際の問題に対処して自身で合理的な選択や意思決定を行うために必要な知識基盤を身につけることが今、大切です。こうした知識や能力は豊かな暮らしや社会の実現に欠かせないばかりか、さまざまな金銭・金融トラブルから私たちの身を守ることにも役立ちます。 この授業では、自身のライフデザインにもとづいた資金計画をはじめ、金融資産の基本的なしくみや特性・リスクとリターン、その活用方法、企業研究など実社会で役立つ金融リテラシー(知力)を広く身につけることを目的とします。
到達目標	ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。 具体的には ①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる ②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく ③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる 以上を到達目標とします。
授業方法と留意点	基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。 授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。 また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 課題への参加や提出物は期限を厳守してください。
科目学習の効果（資格）	日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解することができる可能性があります。 金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。 また、ファイナンシャルプランナー資格（民間資格）や、ファイナンシャル・プランニング技能士（国家資格）の資格にも役立つでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー（知力）」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
5	ライフプランニング②	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。
6	金融商品の基礎／貯蓄型商品	金融所品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
7	リスクとリターン	投資は利益（リターン）をあげることを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
8	アセットクラスの基礎知識／株式①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。 ※アセットクラス：資産クラス、資産の種類のこと	課題②として、株式投資ゲームに参加してもらいます。
9	アセットクラスの基礎知識／株式②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
10	アセットクラスの基礎知識／債券①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや”格付け”についても学びます。	財務省のＨＰで２０年度予算の概要を確認
11	アセットクラスの基礎知識／債券②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
12	アセットクラスの基礎知識／投資信託	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。

	13	外為市場・外貨建て商品	外国為替市場の仕組みや取引について解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	14	証券化商・デリバティブ／セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。

関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験　：　６０％ 課題①キャッシュフロー表　：　２５％ 課題②株式投資ゲーム参加　：　１０％ 講義への取り組み姿勢　：　５％
学生への メッセージ	長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります
担当者の 研究室等	11 号館 1 階（教務課）
備考	オフィスアワー　：　授業の前後に対応します。 その他、質問等は　onishi_fumikazu3@nrc.nikko.co.jp　までメールをしてください。 この講義は、ＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。

科目名	SDGｓで読み解く淀川流域	科目名（英文）	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤　和子.赤澤　春彦.朝田　康禎.石田　裕子.郭　進.加嶋　章博.小林　健治.手代木　功基.鳥谷部　壌.中塚　華奈.増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs(2030 年までの世界の目標)との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス―淀川流域のいま・過去・未来とＳＤＧｓ	科目全体のガイダンス(担当:朝田康禎)	事前：教科書[序章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か？[関連 SDGs １３・６](担当：石田裕子)	事前：教科書[第１章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか？[関連 SDGs９・１７]（担当：石田裕子)	事前：教科書[第２章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか？[関連 SDGs７・１６]（担当：鳥谷部壌)	事前：教科書[第 14 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
5	些細なことで豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか？[関連 SDG １５]（担当：小林健治)	事前：教科書[第５章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは？[関連 SDGs ３・１２]（担当：後藤和子)	事前：教科書[第６章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろう？[関連 SDG　１１]（担当：加嶋章博)	事前：教科書[第７章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか？[関連 SDG１１](担当：赤澤春彦)	事前：教科書[第８章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
9	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う？[関連 SDGs１・４・１１]（担当：八木紀一郎)	事前：教科書[第９章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
10	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは？[関連 SDG２]（担当：中塚華奈)	事前：教科書[第 10 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
11	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか？[関連 SDG５]（担当：朝田康禎)	事前：教科書[第 11 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認 事後：講義内容の確認
12	産業連関分析	淀川流域における３市（門真市・寝屋川市・枚方市）の経済・産業構造はどう違うのか？[関連 SDGs８・９]（担当：郭進)	事前：教科書[第 12 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
13	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすれば良いか？[関連 SDG１７]（担当：増田知也)	事前：教科書[第 13 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
14	滋賀県朽木地域の森林利用の変遷	淀川源流の森はどのように変化してきたのか？[関連 SDG１５]（担当：手代木功基)	事前：教科書[第３章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当？[関連 SDGs14・１2]（担当：鳥谷部壌)	事前：教科書[第４章]を読んでおくこと 事後：講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目：摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（仮題）SDGs で読み解く淀川流域――近畿の水源から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壌編著	昭和堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：第２回目～15 回目までの授業内で実施される理解度確認（クイズ or 簡単な小レポートなど）（いずれも５点満点、14 回分で計 70 点）と、期末のレポート（30 点）の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか１つを選択し、A4２枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材に一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはずです。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　後藤研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなに そしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13

科目名	脳の情報処理	科目名（英文）	Processing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	人間の知的活動の中枢である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。
授業方法と留意点	毎回、関連映像を視聴し、講義内でミニッツペーパーおよび質問作成して提出する。復習のための課題レポートの提出を必要とする。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する	講義プリントを用いた復習
2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたらいている．それぞれの器官の構造と役割を概説する	講義プリントを用いた復習
3	学習：シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	講義プリントを用いた復習
4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	講義プリントを用いた復習
5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から，人間の認識手法を知る	講義プリントを用いた復習
6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	講義プリントを用いた復習
7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は，意識の注がれるところに集中的に作用する．その現象を説明する	講義プリントを用いた復習
8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが，いかになされるかを概説する	講義プリントを用いた復習
9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	講義プリントを用いた復習
10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による，運動の生成および運動の学習について概説する	講義プリントを用いた復習
11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	講義プリントを用いた復習
12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	講義プリントを用いた復習
13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	講義プリントを用いた復習
14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性，自我や感情について脳の機能を中心に考える	講義プリントを用いた復習
15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
2			
3			

評価方法（基準）	ミニッツペーパー等の平素の活動を含めた授業態度・クイズと課題レポート 60%、試験 40% を総合して判断する。
学生へのメッセージ	誰もが有しており、最も身近な未知の高度情報処理機構である脳について、さまざまな角度から見ていきましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　寺内研究室
備考	本人確認のため、メールで連絡する場合には大学のアドレスから送信してください。

科目名	使えるデータサイエンス	科目名（英文）	Useful Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保　貞也.朝田　康禎.植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。 ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。 本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。
到達目標	この講義の到達目標は以下の通りである。 （１）現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる （２）データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている （３）インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる
授業方法と留意点	本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。授業時間以外にも利用できるオンラインコンテンツ（履修者のみがアクセス可能）を使って、データサイエンスの利用シーンやビジネスに繋がる知識も学ぶ。 また、本科目では【履修学生を５０人に限定】し、有償の e-Learning 教材を提供する。
科目学習の効果（資格）	社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由(オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、 Society 5.0 時代のデータの価値について C 科　伊藤教授、S 科　牧野准教授、久保准教授	e-Learning 教材:「第 1 回　データサイエンスとは」
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S 科　久保准教授	e-Learning 教材:「第 2 回　社会で起きている変化」
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S 科　牧野准教授	e-Learning 教材：「第 9 回　データを読む（１）」
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S 科　橋本講師	e-Learning 教材：「第 11 回　データを説明する」
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S 科　橋本講師	e-Learning 教材：「第 10 回　データを読む（２）」
6	オープンデータの収集と活用	RESAS（地域経済分析システム）によるオープンデータの分析 W 科　植杉教授	e-Learning 教材：「第 3 回　社会で活用されているデータ」
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W 科　朝田准教授	e-Learning 教材：「第 12 回　データを扱う」
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア（SPSS)によるデータ整理 S 科　牧野准教授	e-Learning 教材：「第 6 回　データ活用とは」
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S 科　牧野准教授	e-Learning 教材:「第 4 回　データ･AI の活用領域」
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S 科　牧野准教授	e-Learning 教材：「第 13 回　データ・AI を扱う上での留意事項（１）」
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S 科　牧野准教授	e-Learning 教材：「第 14 回　データ・AI を扱う上での留意事項（２）」
12	データの整理から分析までの連動	オープンデータから FileMaker Pro での整理、R での統計分析の実習 S 科　久保准教授	e-Learning 教材：「第 14 回　データ・AI を扱う上での留意事項（２）」
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E 科　片田准教授	e-Learning 教材：「第 7 回　データ・AI 利活用の現場」
14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S 科　久保准教授	e-Learning 教材：「第 8 回　データ・AI 利活用の最新動向」
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション（ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) CEI　石井教授、S 科　久保准教授	e-Learning 教材:「第 15 回　データを守る上での留意事項とまとめ」

関連科目：情報リテラシーI、情報リテラシーII、データサイエンス展開

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	AI・データサイエンス　～リテラシーレベル～	三谷慶一郎	

	e-learning 教材（受講者のみ利用可能）			
2				
3				

評価方法 （基準）	授業での課題　50%、e-Learning 教材　40%、事前事後の学修進展度（アンケート）　5%、学修ノート　5%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。
担当者の 研究室等	1 号館 3 階 伊藤教授室、11 号館 7 階 久保准教授室、牧野准教授室、11 号館 8 階 橋本講師室、1 号館 7 階 植杉教授室、朝田准教授室、1 号館 4 階 片田准教授室、7 号館 5 階 石井教授室
備考	

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名（英文）	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の４点を理解することが期待される。 １）グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。 ２）「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。 ３）さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 ４）日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-5
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果（資格）	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・2019 年度までの入学生で「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」を取得希望者にとっては、「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べること（１時間） ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること（３時間）
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について箇条書きにしてくること（２時間） ・事後学修：SDGs＃５がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的数字を入れてレポートを書くこと（２時間）
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学＋男性学＝人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモーヌ・ド・ボーボワール ・性別役割分業観	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること（２時間） ・事後学修：日本が抱える問題　について、具体的数字を入れてレポートを書くこと（２時間）
4	日本の近代化	・大正期の白樺派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第５次男女共同参画基本計画	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること（２時間） ・事後学修第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと（２時間）
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ、・ジェンダーエンパワーメント指数などのデータから日本をみる	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること（２時間） ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること（２時間）
6	性役割の形成①	・性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GID と SOGI と人権	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返ること（２時間） ・事後学修：テキスト P40～52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成（２時間）
7	性役割の形成②	・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向	・事前学修：ハラスメントの事例を一つ探し、具体的内容をレポートする　　準備をすること（２時間） ・事後学修：結婚と母性信仰に関して、レポートを作成（２時間）
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・６名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ	・事前学修：６名の女性に関するプレゼン（２時間） ・事後学修：６名の女性から学んだことのレポート作成（２時間）
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること（２時間） ・事後学修：M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成 　　すること（２時間）
10	アサーティブコミュニケーション①	・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修：アサーティブネスについて調べること（２時間） ・事後学修：アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える（２時間）
11	アサーティブコミュニケーション②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること（２時間） ・事後学修：ワークシート#11（２時間）
12	リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解す	・事前学修：リプロの意味と現状を調べる（２時間） ・事後学修：ワークシート#12（２時間）

		る	
13	DV とデート DV	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：DV とデート DV に関してレポートを作成（２時間） ・事後学修：ワークシート#13（２時間）
14	プレゼンテーション	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（２時間） ・事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（２時間）
15	まとめ	・まとめ	・事前学修：まとめのワークシート（２時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（２時間）

関連科目：2019 年度以前入学生の「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書

評価方法（基準）	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。
担当者の研究室等	７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	データサイエンス展開	科目名（英文）	Revelation of Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤　譲
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	インターネットの利用が日常化し、IT による人とのつながりが増えるとともに、影響を受ける場面が飛躍的に増加している。これからの社会においては情報化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていくデータリテラシーを身に付けていることが必要となっている。 しかしながら、データの価値に対する理解や、Society5.0 で謳われているような分野横断的な連携、社会の変革につながる方向性を伝える教育は十分には行われていない。 摂南大学ではこれまで学部横断の PBL プロジェクトや地域社会と海外に向けた副専攻課程を設置するなど、大学の知を社会の豊かさとなるような成果に結びつける試みを展開してきた。2020 年度より全学の初年次情報科目を統一化し、さらに、2021 年度からは全学開講科目として、3 年次に「使えるデータサイエンス」を開講し、卒業と就職を控えた学生に、より実践的なデータ利用を目指す教育体制を構築し、IT の利点を引き出せる人材育成を進めている。 この流れの中でさらに、初年次と卒業時をつなぐ、２年次にさらに情報社会で活躍する社会人を育成するために文理を問わず全学を対象とした「データサイエンス展開」を開講する。
到達目標	(1)数理・データサイエンス・ＡＩは、現在進行中の社会変化（第 4 次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであることを理解し説明できる。 (2)数理・データサイエンス・ＡＩが対象とする「社会 で活用されているデータ」や「データの活用領域」 は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題 を解決する有用なツールになり得ることを理解し説明できる。 (3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され
授業方法と留意点	授業は担当講師がプレゼンツール、板書やグループワーク等のアクティブラーニングで実施する。 また、事前学習として予習シート、事後学習としてふりかえりシートを課する。それらの提出には教員の指定する ICT ツールを活用する。
科目学習の効果（資格）	AI/データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア構築や就職活動に役立てることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１回 大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的、オリエンテーション、教育効果測定のためのアンケート	事後学修：ふりかえりシート（30 分）
2	第２回 社会を豊かにするデータサイエンス	Society5.0 に向けた発展状況を知る。オープンデータの活用による社会活動、研究活動への期待を理解する。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
3	第３回 政策とデータサイエンス	政策立案におけるデータ収集から意思決定、評価への流れを知る。With コロナ時代の産業振興策の現状と課題について学ぶ。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
4	第４回 教育とデータサイエンス	数理・データサイエンス・AI 教育が目指すものとこれからの社会へのインパクトについて知る。GIGA スクール構想から大学のデジタリゼーションまで教育の DX について広く学ぶ。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
5	第５回 中間まとめ	国がどのようにデータサイエンスを駆使して、国民の生活を豊かにしようとしてるかの考察に基づき、グループワークを行う。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
6	第６回 居住空間とデータサイエンス	照明の IT ソリューションに関する最新事例を学ぶ。生活リズムに合わせた照明技術のあり方、生活のデザインへのデータ活用について知る。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
7	第７回 国防とデータサイエンス	国防においても、人工知能（AI）及びデータ分析に関する高度な知識・スキル及び豊富な経験・実績を有する AI 人材を採用しており、データサイエンスの重要性について知る	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
8	第８回 プロダクト・イノベーションとデータサイエンス	新商品開発におけるデータの活用と生産プロセスでのデータ活用について学ぶ。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
9	第９回 広告とデータサイエンス	広告とデータの関係について歴史的に学ぶ。Web やデジタルサイネージなどの新しい形の広告媒体の可能性について視野を広げる。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
10	第１０回 言語とデータサイエンス	コーパス言語学の概要について学ぶ。言語とデータ化についての歴史や課題を知る。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
11	第１１回 まちづくりとデータサイエンス	自治体行政の情報化の変遷とその評価について学ぶ。住民視点の行政評価の仕組みその課題を知る。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
12	第１２回 生命科学とデータサイエンス	医薬品開発、医薬品流通におけるデータの重要性と課題を知る。コロナ以降の医薬業界の DX への期待について学ぶ。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
13	第１３回 スポーツとデータサイエンス	戦術におけるデータ活用の歴史と最近の事例を知る。選手のコンディションや戦況を加味した新しいデータ活用の利点と課題を学ぶ。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）
14	第１４回 まちおこしとデータサイエンス	過疎地域には、データサイエンスの知識とそれを基に実行していく力が必要であり、データ分析を駆使した町おこしを行おうとしている実例を知る。	事前学習：予習シート作成（60 分） 事後学修：ふりかえりシート（30 分）

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>15</td><td>第１５回 社会人としてデータサイエンス</td><td>社会人として身につけておくべき DX 思考、情報倫理、協働姿勢などをグループワークで学ぶ。</td><td>事前学習：予習シート作成（60 分）
事後学修：ふりかえりシート（30 分）</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>情報系科目すべて</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>予習シート（20%）、課題・授業メモ（50%）、ふりかえりシート（30%）の総合点の 60%以上を合格とする。
なお、出席率 80%以上を成績評価の前提とする。出席に関する不正行為やネガティブな姿勢は関係する学生全員の責任とする。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2F 非常勤講師室
1 号館 3F 伊藤研究室、7 語館 3F 石井研究室、11 号館 7F 久保研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名（英文）	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲.大塚　正人.喜多　大三.久保　廣正.佐藤　大作.白鳥　武.田中　鉄二.鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は，学部の枠を越えた教養応用科目で，大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています. 科目のテーマである SDGｓ（持続可能な開発目標）とは，国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で，わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています. つまり，この科目は SDGｓの全体像を主体的に学ぶ，本格的なアクティブラーニング型教養科目です．反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク，ＡＢＤと振り返りにより生きた知識として定着させます．さらに，法学，経済学，環境工学，建築学，農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め，獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます．このような流れを通じて，大学生として必要な，SDGs を理解するための教養（特に，社会，経済，環境等）を身につけ，その知識をもとに考え，自分の意見を持ち，討議ができるようになります.
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り，説明と討議をすることができる. (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる. (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる. (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる.
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど，アクティブラーニングの手法を駆使するので，極めて密度の高い授業となります．授業開始時には，事前学習における知識の定着を確認するため，ICT ツールによるクイズ，ミニプレゼンを行い，中盤から後半部で各テーマをとりあげます．学生は解説時にはメモをとり，主としてグループワークにより課題に取り組みます．授業最後には，振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます．また，授業資料の管理状態も評価対象です.
科目学習の効果（資格）	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る．自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる．ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP１を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後：CHAP１を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	気候変動に関する諸問題１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 13 を学び，ABD サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し，関連する話題に関して説明できるようになっておくこと. ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw
4	気候変動に関する諸問題２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 14，15 を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し，関連する話題に関して説明できるようになっておくこと. ・適応と緩和 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPZjE
5	地球共生デザインを考えるⅠ： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 16、10（特に 10.2,10.3）、5（特に 5.1,5.2）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみること。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ
6	地球共生デザインを考えるII： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 16、10（特に 10.2,10.3）、4（特に 4.5,4.7）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみること。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
7	日本の食文化１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標 2、3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：日本の食文化１の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後：第１回レポート
9	日本の国際貢献１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：目標 6、9、13 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事を読み、世界の水問題の現状と課題、日本が果たすべき役割について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/01/index.html
10	日本の国際貢献２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：目標 16、11、10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事を読み、スーダンの現状と日本の復興支援の特徴について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/02/index.html
11	食糧安全保障１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示	事前１：目標２（2.4,2.c）を学び、ABD サマリを作成する 事前２：食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。（※日本語字幕を選択する。）

			振り返りシート	The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t
	12	食糧安全保障２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標：2（2.4,2.c）を学び、ABD サマリを作成する 事前２：フードロスとその日本の現状について理解する。 （※日本語字幕を選択する。） REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=6Orb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp, London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon
	13	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標:8,9,12,17 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJSFYtfCFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
	14	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：SDGs 達成にために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第２回レポート
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習 事後：第２回レポート

関連科目：摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」（1680 円＋税）	バウンド	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・理解度確認クイズ（個人：10%）
・事前・事後学習課題・ABD サマリ（個人：15%）
・取組み姿勢（チーム：20%）
・成果発表・プレゼンテーション１回（チーム：10%）
・振り返りシート（個人：20%）、・レポート２回（個人：20%）、・授業資料管理（個人：5%）
※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。

学生へのメッセージ：この授業では，摂南大学のすべての学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の研究室等：大塚教授（薬学部 11 号館 5F）、久保教授・学事顧問（７号館８F）、伊藤教授（１号館３F）、喜多教授（農学部１８号館２F）、白鳥准教授（１２号館７階）、佐藤准教授（１号館３F）、田中准教授（１号館７F）、鳥谷部講師（11 号館）

備考：この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で，教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています．

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名（英文）	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲.大塚　正人.喜多　大三.久保　廣正.佐藤　大作.白鳥　武.田中　鉄二.鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は，学部の枠を越えた教養応用科目で，大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています. 科目のテーマである SDGｓ（持続可能な開発目標）とは，国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で，わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています. つまり，この科目は SDGｓの全体像を主体的に学ぶ，本格的なアクティブラーニング型教養科目です．反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク，ＡＢＤと振り返りにより生きた知識として定着させます．さらに，法学，経済学，環境工学，建築学，農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め，獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます．このような流れを通じて，大学生として必要な，SDGs を理解するための教養（特に，社会，経済，環境等）を身につけ，その知識をもとに考え，自分の意見を持ち，討議ができるようになります.
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り，説明と討議をすることができる. (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる. (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる. (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる.
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど，アクティブラーニングの手法を駆使するので，極めて密度の高い授業となります．授業開始時には，事前学習における知識の定着を確認するため，ICT ツールによるクイズ，ミニプレゼンを行い，中盤から後半部で各テーマをとりあげます．学生は解説時にはメモをとり，主としてグループワークにより課題に取り組みます．授業最後には，振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます．また，授業資料の管理状態も評価対象です.
科目学習の効果（資格）	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る．自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる．ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP１を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後：CHAP１を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	気候変動に関する諸問題１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 13 を学び，ABD サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し，関連する話題に関して説明できるようになっておくこと. ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw
4	気候変動に関する諸問題２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 14，15 を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し，関連する話題に関して説明できるようになっておくこと. ・適応と緩和 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPZjE
5	地球共生デザインを考えるⅠ： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 16、10（特に 10.2,10.3）、5（特に 5.1,5.2）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみること。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ
6	地球共生デザインを考えるII： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 16、10（特に 10.2,10.3）、4（特に 4.5,4.7）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみること。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
7	日本の食文化１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標 2、3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：日本の食文化１の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後：第１回レポート
9	日本の国際貢献１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：目標 6、9、13 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事を読み、世界の水問題の現状と課題、日本が果たすべき役割について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/01/index.html
10	日本の国際貢献２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：目標 16、11、10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事を読み、スーダンの現状と日本の復興支援の特徴について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/02/index.html
11	食糧安全保障１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示	事前１：目標２（2.4,2.c）を学び、ABD サマリを作成する 事前２：食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。（※日本語字幕を選択する。）

			振り返りシート	The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t
	12	食糧安全保障２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標：2（2.4,2.c）を学び、ABD サマリを作成する 事前２：フードロスとその日本の現状について理解する。 （※日本語字幕を選択する。） REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=6Orb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp, London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon
	13	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標:8,9,12,17 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJSFYtfCFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
	14	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：SDGs 達成にために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第２回レポート
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習 事後：第２回レポート

関連科目：摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」（1680 円＋税）	バウンド	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・理解度確認クイズ（個人：10%）
・事前・事後学習課題・ABD サマリ（個人：15%）
・取組み姿勢（チーム：20%）
・成果発表・プレゼンテーション１回（チーム：10%）
・振り返りシート（個人：20%）、・レポート２回（個人：20%）、・授業資料管理（個人：5%）
※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。

学生へのメッセージ：この授業では，摂南大学のすべての学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の研究室等：大塚教授（薬学部 11 号館 5F）、久保教授・学事顧問（７号館８F）、伊藤教授（１号館３F）、喜多教授（農学部１８号館２F）、白鳥准教授（１２号館７階）、佐藤准教授（１号館３F）、田中准教授（１号館７F）、鳥谷部講師（11 号館）

備考：この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で，教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています．

科目名	まちづくり入門	科目名（英文）	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	熊谷　樹一郎.野長瀬　裕二.野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動を続けている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	（1）まちづくりの課題を多面的に理解できる （2）大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する （3）主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多才な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果（資格）	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる気持ちを涵養する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（1）	オリエンテーション 教務部長　C 科　伊藤教授 都市計画とまちづくり C 科　熊谷教授	事前：シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後：学修ポイントに合った計画の提出
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（2）	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方プロジェクト推進室　部長　大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（3）	都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 （元堺市副市長、元大阪市都市計画局長）	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（4）	グループ発表、討論会 C 科　伊藤教授・熊谷教授	授業担当者から指示する
5	民間団体が関わるまちづくり（1）	産業とまちづくり W 科　野長瀬教授	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり（2）	商業とまちづくり S 科　久保准教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり（3）	空き家とまちづくり R 科　稲地准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり（4）	観光とまちづくり W 科　野村教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり（5）	グループ発表、討論会 C 科　伊藤教授・熊谷教授	授業担当者から指示する
10	市民（大学生）が関わるまちづくり（1）	まちづくりの担い手としての市民 J 科　増田講師	授業担当者から指示する
11	市民（大学生）が関わるまちづくり（2）	福祉とまちづくり CEI　上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民（大学生）が関わるまちづくり（3）	文化資源とまちづくり L 科　古矢講師	授業担当者から指示する
13	市民（大学生）が関わるまちづくり（4）	歴史・文化とまちづくり A 科　加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民（大学生）が関わるまちづくり（5）	防災とまちづくり A 科　池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表、討論会 教務部長　C 科　伊藤教授 C 科　熊谷教授	事前：これまでの講義の振り返り 事後：振り返りレポート

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の事後レポート
学生へのメッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。
担当者の研究室等	1 号館 3 階 伊藤教授室、1 号館 4 階 熊谷教授室

備考	

科目名	グローバル・シチズンシップ論（入門）	科目名（英文）	Global Citizenship (Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	大塚　正人.鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	一つの地球社会に対して、未来を創る担い手として参画する市民、これからの多様化する社会において主体的に活動する市民を育成するという取組みをグローバル・シチズンシップ教育(GCED)という。これは、地球社会という国の枠組みを超えた概念であり、近年は日本だけではなく、他国においても注目され、徐々に基礎教育等に導入され始めている。 この科目は、グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。 受講者は、グローバル・シチズンシップ(GC)および GCE)の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、説明できるようになることを目的とする。 　この講義は、GC と GCED に＜ついて＞の授業であると同時に、授業自体が GCED の一環である。GCED では、一方的な講義ではなく、受講生の主体的な学習と対話による学びが重視される。受講生には、この講義を通じて GCED を体験的に学びつつ、自らが GCED のファシリテーターとなり、この授業の内外で GCED の実践者となってゆく姿勢が求められる。
到達目標	到達目標は以下の通りである ●グローバル時代に必要な知識が習得されている ●グローバルな環境下で成功できるスキルを身につけている ●世界とつながっている 具体的には以下のようなコンピテンシーが求められる ●異なる文化、地域にいる人々への共感、深い共感 ●人的、制度的、規範的相互依存への理解 ●自分の行動が他者に影響しているという意識（ローカルがグローバルに与える影響） ●世界を知り、探求していく力 ●様々な視点を咀嚼する力 ●行動力 ●アイディアを共有していくこと ●グ
授業方法と留意点	●いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティブ・ラーニングは GCED の根幹である。 ●教員からの一方向の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。 ●学生には、自律的な予習と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。 ●教員によるファシリテーション、学生の質疑やディスカッションなどは原則として日本語で行う。 ●教材の入手、クラスメ
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション（１） 4 月 16 日(土)　３限目	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
2	イントロダクション（２） 4 月 16 日(土)　４限目	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
3	「グローバル・シチズンシップ」の概念（１） 4 月 23 日(土)　３限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
4	「グローバル・シチズンシップ」の概念（２） 4 月 23 日(土)　４限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
5	貧困問題、飢餓問題について 4 月 30 日(土)　３限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
6	健康と福祉の格差問題について、教育の格差問題について 4 月 30 日(土)　３限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
7	ジェンダー問題について、水の問題について 5 月 7 日(土)　３限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
8	エネルギー問題について、経済格差について 5 月 7 日(土)　４限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
9	社会基盤の問題について、人権等の不平等に関する問題について 5 月 14 日(土)　３限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
10	まち（都市）の抱える問題に	与えられた課題に関して自ら資料を情	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行

		ついて、持続可能な消費と生産について 5月14日(土)　4限目	報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	う
	11	気候変動の問題について、水産資源の問題について 5月21日(土)　3限目	ABD読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	12	森林破壊等の問題について、平和と公正に対する問題について 5月21日(土)　4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	13	グローバル・シチズンシップ教育について（1） 5月28日(土)　3限目	ABD読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	14	グローバル・シチズンシップ教育について（2） 5月28日(土)　4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	15	総括 6月4日(土)3限目	授業全体の振り返りワーク	指定指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う

関連科目	SDGs で学ぶ世界の課題、グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship（EMI）、摂南大学PBLプロジェクトⅠなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知っていますか？SDGs　ユニセフとめざす２０３０年のゴール	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs時代の教育	北村友人他	学文社
2	SDGs時代の学びづくり	かながわ開発教育センター	明石書店
3	貧しい人を助ける理由	デイビッド・ヒューム	日本評論社

評価方法 （基準）	平常評価　８０％　（小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する） プレゼンテーション課題　２0％　（作成過程を含む）
学生への メッセージ	グローバル・シチズンシップ副専攻で価値ある学びの場を一緒につくりましょう。
担当者の 研究室等	摂南大学枚方キャンパス薬学部Ⅰ号館５階生命融合化学分野
備考	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかける時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で４時間程度、総計で６０時間程度の授業外学修時間を確保すること。

科目名	グローバル・シチズンシップ論（応用）	科目名（英文）	Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田　美保.大塚　正人.谷口　葉子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論（入門）履修後に履修することが望ましい。 本科目はグローバル・シチズンシップ論（入門）で学んだ知識や概念等をもとに、日本国内における社会課題（多文化共生、外国人労働者、SDGｓなど）に焦点を当て、グローバルとローカルのつながりについて学ぶものである。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。
到達目標	・日本国内における社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる ・さまざまな分野での実践者の経験から、実践上の留意点を理解できる ・身近にある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる
授業方法と留意点	・いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。 ・取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。 ・本科目は 2022 年度後期 90 分授業ｘ２・３コマの集中講義で実施される予定である。詳細なスケジュールは決定次第、ポータルサイト等で連絡をする。 初回授業以降は担当教員からの連絡を常に受け取れるようにしておくことが必要である。 ・その他、履修にあたって不明
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ	指定された教材の読解、課題を行う
2	グローバルシチズンシップと海外への支援､国内での支援	ゲストレクチャー 海外に向けてできること､国内でできること、実態、可能性を探る	指定された教材の読解、課題を行う
3	グローバルシチズンシップと人権①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
4	グローバルシチズンシップと人権②	マジョリティ､特権のある人間が考えるべきこと	指定された教材の読解、課題を行う
5	グローバルシチズンシップと経済①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
6	グローバルシチズンシップと経済②	自らの消費行動が社会にどのような影響を与えるのか	指定された教材の読解、課題を行う
7	グローバルシチズンシップと起業①	ゲストレクチャー（パネルディスカッション）社会課題の解決のために起業をした人たちのきっかけ、思い、現状などを知る	指定された教材の読解、課題を行う
8	グローバルシチズンシップと起業②	同上	指定された教材の読解、課題を行う
9	学生団体との意見交換会①	他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする	指定された教材の読解、課題を行う
10	学生団体との意見交換会②	他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする	指定された教材の読解、課題を行う
11	実践に向けて①	これまでの学びを生かし､自ら課題と感じたことの解決に向けてグループで活動を行う	指定された教材の読解、課題を行う
12	実践に向けて②	同上	指定された教材の読解、課題を行う
13	実践に向けて③	同上	指定された教材の読解、課題を行う
14	発表	11 回目から 3 回目で話し合ってきたことを発表する	指定された教材の読解、課題を行う
15	まとめ	全体のまとめ、ふりかえり	指定された教材の読解、課題を行う

関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常評価　60%　（平常の提出物、課題への取り組み等総合的に評価） プレゼンテーション課題　40%（作成過程を含む）
学生への	身近な場所で自ら行動が起こせるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、

メッセージ	積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名（英文）	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論（入門）. This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire pr
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	War and peace Collaboration with students at Fayetville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
6	War and peace Collaboration with students at Fayetville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
7	War and peace Collaboration with students at Fayetville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
8	War and peace Collaboration with students at Fayetville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)

	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
	12	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	13	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	14	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	15	Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)

関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Presentations: 40%
学生への メッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other. We will be working with students in the United States to learn about the common war history and poverty together through online video exchanges. This will be a
担当者の 研究室等	2号館2階グローバル教育センター（旧：国際交流センター）
備考	

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。 なお、事前に承認された活動（例：協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト）の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。 ・当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。 ・異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の３つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣さ
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（　）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬　(9 月下旬～10 月上旬) ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬　(11 月～2 月) ・現地派遣：2 週間程度　8 月中旬～9 月上中旬　(2 月中下旬～3 月下旬) ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬　(3 月～4 月下旬) 【注意】新型コロナウィルス拡大の	派遣先では、安全と健康を最優先しつつ、団体行動、ルール順守が求められる。応用レベルに相応しい成果報告につなげられるよう、積極的に行動し、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。	事前授業では、応用レベルの参加者に相応しい「地球市民」概念の理解、派遣先の社会事情と課題について自ら学び準備をする姿勢が求められる。SDGs 関連のワークショップ、グローバル教育センターが提供する語学トレーニングのプログラムにおいてもリーダーシップをとることが期待される。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループ
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	事前授業評価　30%　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合） 現地活動評価　４０％　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合） 事後授業評価　３０％　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	大学教養入門	科目名（英文）	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博.浅野　慎一.石井　三恵.伊藤　譲.木下　和紗.瀬川　智広.瀧　千波.堀田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です．本科目の目的は，大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり，自らが主体的に知識を獲得し，対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得することです．授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに，チームワーク能力，コミュニケーション能力等を身につけることを目指します．
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている． (2)ABD による読書法を身につけている． (3)チームワーク能力を身につけ，対話を通じた協働学習をすることができる． (4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている． (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている． (6)コミュニケーション能力を身につけ，自分の考えを相手に伝え，相手の考えを理解することができる． (7)自主的，計画的に学ぶ学習習慣を身につけている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術を修得します．教養の入門書として一般書を教材として，ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や ICT ツールを活用して，読書，対話，発表等の協働学習による学びを体験します． この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です．したがって，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識，ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法，自主学習の習慣などが身につく． 学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章　私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で，どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験	事前学習：『おとなの教養』　序章を読む(1.5 時間以上)
2	教養入門：第一章　宗教	教科書の紹介，概要 チーム作り，授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習：教科書　第一章を読む(1.5 時間以上)
3	教養入門:第三章　人類の旅路	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：教科書　第三章を読む(1.5 時間以上)
4	教養入門:第四章　人間と病気	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
5	教養入門：第五章　経済	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書　第五章を読事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上） 事後学習：第１回レポート
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:SDGs とは何か,指定した資料を調べる（3 時間以上）
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：SDG s とは何か，図書館，ネット等で調べる．自分の意見を持つ．（1.5 時間以上）
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：UNAI とは何かを調べる 事後学習：第２回レポート
10	自分を知る教養：岸見著『アドラー性格を変える心理学』 序章　「性格は変わらない」は本当か？ 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
11	自分を知る教養： 第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第二章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
12	自分を知る教養： 第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第三章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
13	自分を知る教養： 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書　第四章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上）

				事後学習：第3回レポート （2時間以上）
	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習：第4回レポート （2時間以上）

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養	池上彰	NHK出版
2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

・取り組み姿勢（チーム：20%）
・中間発表・まとめ（チーム：20%）
・レポート　4回（個人：20%）
・振り返りシート（個人：15%）
・理解度確認クイズ（個人：15%）
・事前学習シート（個人：5%）
・授業資料の管理（個人：5%）
以上の評価点の合計で60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする．

学生への
メッセージ

　この科目は摂南大学独自の教養科目です．授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の
研究室等

伊藤譲（1号館3F），寺内睦博（11号館10F），石井三恵（7号館5F），木下和沙（11号館7F），瀬川智広（スポ振），瀧千波（スポ審），浅野慎一（7号館5F），堀田裕子（5号館1F）

備考

この科目は，入学式～キックオフセミナーからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけることもできます．

科目名	大学教養入門	科目名（英文）	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博.浅野　慎一.伊藤　譲.小都　晶子.堀田　裕子.柳沢　学.羅　鵬飛
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です．本科目の目的は，大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり，自らが主体的に知識を獲得し，対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得することです．授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに，チームワーク能力，コミュニケーション能力等を身につけることを目指します．
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている． (2)ABD による読書法を身につけている． (3)チームワーク能力を身につけ，対話を通じた協働学習をすることができる． (4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている． (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている． (6)コミュニケーション能力を身につけ，自分の考えを相手に伝え，相手の考えを理解することができる． (7)自主的，計画的に学ぶ学習習慣を身につけている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術を修得します．教養の入門書として一般書を教材として，ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や ICT ツールを活用して，読書，対話，発表等の協働学習による学びを体験します． この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です．したがって，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識，ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法，自主学習の習慣などが身につく． 学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章　私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で，どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	事前学習：『おとなの教養』　序章を読む(1.5 時間以上)
2	教養入門：第一章　宗教	教科書の紹介，概要 チーム作り，授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」	事前学習：教科書　第一章を読む(1.5 時間以上)
3	教養入門:第三章　人類の旅路	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：教科書　第三章を読む(1.5 時間以上)
4	教養入門:第四章　人間と病気	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
5	教養入門：第五章　経済	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書　第五章を読事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上） 事後学習：第１回レポート
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:SDGs とは何か,指定した資料を調べる（3 時間以上）
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：SDG s とは何か，図書館，ネット等で調べる．自分の意見を持つ．（1.5 時間以上）
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：UNAI とは何かを調べる 事後学習：第２回レポート
10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章　「性格は変わらない」は本当か？ 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
11	自分を知る教養： 第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第二章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
12	自分を知る教養： 第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第三章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
13	自分を知る教養： 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書　第四章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上） 事後学習：第３回レポート （2 時間以上）

	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習：第４回レポート （2 時間以上）

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

・取り組み姿勢（チーム：20%）
・中間発表・まとめ（チーム：20%）
・レポート　4 回（個人：20%）
・振り返りシート（個人：15%）
・理解度確認クイズ（個人：15%）
・事前学習シート（個人：5%）
・授業資料の管理（個人：5%）
以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，原則として出席率 80%以上の学生を合格者の対象とする．

学生への
メッセージ

　この科目は摂南大学独自の教養科目です．授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の
研究室等

伊藤譲（1 号館 3F），寺内睦博（11 号館 10F），柳沢学（8 号館 3F），小都晶子（7 号館 3F）、羅鵬飛（1 号館 7F），浅野慎一（7 号館 5F），堀田裕子（5 号館 1F）

備考

この科目は，入学式～キックオフセミナーからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけることもできます．

科目名	大学教養入門	科目名（英文）	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博.浅野　慎一.伊藤　譲.高間　佐知子.寺本　俊太郎.柳沢　学
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です．本科目の目的は，大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり，自らが主体的に知識を獲得し，対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得することです．授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに，チームワーク能力，コミュニケーション能力等を身につけることを目指します．
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている． (2)ABD による読書法を身につけている． (3)チームワーク能力を身につけ，対話を通じた協働学習をすることができる． (4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている． (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている． (6)コミュニケーション能力を身につけ，自分の考えを相手に伝え，相手の考えを理解することができる． (7)自主的，計画的に学ぶ学習習慣を身につけている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術を修得します．教養の入門書として一般書を教材として，ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や ICT ツールを活用して，読書，対話，発表等の協働学習による学びを体験します． この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です．したがって，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識，ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法，自主学習の習慣などが身につく． 学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章　私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で，どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	事前学習：『おとなの教養』　序章を読む(1.5 時間以上)
2	教養入門：第一章　宗教	教科書の紹介，概要 チーム作り，授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章　宗教」	事前学習：教科書　第一章を読む(1.5 時間以上)
3	教養入門:第三章　人類の旅路	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：教科書　第三章を読む(1.5 時間以上)
4	教養入門:第四章　人間と病気	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
5	教養入門：第五章　経済	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書　第五章を読事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上） 事後学習：第１回レポート
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:SDGs とは何か,指定した資料を調べる（3 時間以上）
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：SDG s とは何か，図書館，ネット等で調べる．自分の意見を持つ．（1.5 時間以上）
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：UNAI とは何かを調べる 事後学習：第２回レポート
10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章　「性格は変わらない」は本当か？ 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
11	自分を知る教養： 第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第二章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
12	自分を知る教養： 第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第三章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
13	自分を知る教養： 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書　第四章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上） 事後学習：第３回レポート （2 時間以上）

	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習：第４回レポート （2 時間以上）

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

・取り組み姿勢（チーム：20%）
・中間発表・まとめ（チーム：20%）
・レポート　4 回（個人：20%）
・振り返りシート（個人：15%）
・理解度確認クイズ（個人：15%）
・事前学習シート（個人：5%）
・授業資料の管理（個人：5%）
以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，原則として出席率 80%以上の学生を合格者の対象とする．

学生への
メッセージ

　この科目は摂南大学独自の教養科目です．授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の
研究室等

伊藤譲（1 号館 3F），寺内睦博（11 号館 10F），柳沢学（8 号館 3F），寺本俊太郎（1 号館 3F）、高間佐知子（11 号館 10F），浅野慎一（7 号館 5F），堀田裕子（5 号館 1F）

備考

この科目は，入学式～キックオフセミナーからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけることもできます．

科目名	大学教養実践	科目名（英文）	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博.浅野　慎一.東　武大.石井　三恵.伊藤　譲.上野山　裕士.堀田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1		

授業概要・目的	この科目は，チームで協働して読書を行い，プレゼンテーションと対話を通じて，学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です．前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです． 本科目の目的は，大学生として必要な教養として，文学，社会学や経済学の入門的知識を身につけ，その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します．そして，知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します．
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ，実践的に討議することができている． (2)ABD による読書法の基礎（要約，プレゼンテーション，対話）を身に付けている． (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる． (4)チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている． (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる． (6)テーマにそった対話（感想，質疑応答）を行うことができる． (7)自主学習の習慣を身に付けている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．大学生として必要な教養を身につけ，身につけた教養，知識をもとに，社会課題の解決策を協働学習により検討します．この科目では，これまでの授業とは異なり，教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき,それを元に社会課題について討議できる．ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABD とは） 協働学習（p.18-47：要約，プレゼン，対話），振り返りシート	『おとなの教養２』序章を読み，事前学習シートを作成する。
2	私たちはいま、どこにいるのか？： 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け，役割分担，確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書第一章を読み，事前学習シートを作成する．
3	私たちはいま、どこにいるのか？： 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
4	私たちはいま、どこにいるのか？： 第三章「想像の共同体」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 投票と表彰，振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する． ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表１回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	教科書第四章～六章を読み，事前学習シートを作成する． 事後学習：第１回レポート
6	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第一章「独裁国家はパンデミックに強いのか」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み，事前学習シートを作成する．
7	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第二章「AI で人類はレジリエントになれる」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
8	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第三章「ロックダウンで生まれた新しい働き方」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する．
9	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第四章「認知バイアスが感染症対策を遅らせた」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み，事前学習シートを作成する．
10	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 中間発表２回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度） 事後学習：第２回レポート
11	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	『星の王子さま』1～10 章を読み，事前学習シート（要約、感想）を作成する（2 時間程度）
12	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 11～20 章を読み，事前学習シートを作成する
13	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話）	教科書 21～27 章を読み，事前学習シートを作成する

		振り返りシート	
14	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	教科書あとがきを読み，事前学習シートを作成する
15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第3回レポート

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養2	池上彰	NHK出版
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・取り組み姿勢／ルーブリック（チーム：15%），・ファイリング（個人：5%） ・ポスター発表（チーム：20%） ・レポート　3回（個人：30%），・振り返りシート（個人：10%） ・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前学習シート（個人：10%） 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする．期末試験は実施しない． なお，成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする．
学生への メッセージ	この授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎，コミュニケーション力，ファシリテーション力，と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の 研究室等	伊藤譲（1号館3F），寺内睦博（11号館10F），石井三恵（7号館5F）、上野山裕士(7号館3F)，東武大(5号館1F)，浅野慎一，堀田裕子
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．この授業は原則的に対面で実施します．やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします．

科目名	大学教養実践	科目名（英文）	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博.浅野　慎一.石井　三恵.伊藤　譲.上野山　裕土.堀田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1		

授業概要・目的	この科目は，チームで協働して読書を行い，プレゼンテーションと対話を通じて，学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です．前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです． 本科目の目的は，大学生として必要な教養として，文学，社会学や経済学の入門的知識を身につけ，その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します．そして，知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します．
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ，実践的に討議することができている． (2)ABD による読書法の基礎（要約，プレゼンテーション，対話）を身に付けている． (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる． (4)チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている． (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる． (6)テーマにそった対話（感想，質疑応答）を行うことができる． (7)自主学習の習慣を身に付けている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．大学生として必要な教養を身につけ，身につけた教養，知識をもとに，社会課題の解決策を協働学習により検討します．この科目では，これまでの授業とは異なり，教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき,それを元に社会課題について討議できる．ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABD とは） 協働学習（p.18-47：要約，プレゼン，対話），振り返りシート	『おとなの教養２』序章を読み，事前学習シートを作成する。
2	私たちはいま、どこにいるのか？： 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け，役割分担，確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書第一章を読み，事前学習シートを作成する．
3	私たちはいま、どこにいるのか？： 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
4	私たちはいま、どこにいるのか？： 第三章「想像の共同体」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 投票と表彰，振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する． ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表１回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	教科書第四章～六章を読み，事前学習シートを作成する． 事後学習：第１回レポート
6	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第一章「独裁国家はパンデミックに強いのか」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み，事前学習シートを作成する．
7	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第二章「AI で人類はレジリエントになれる」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
8	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第三章「ロックダウンで生まれた新しい働き方」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する．
9	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第四章「認知バイアスが感染症対策を遅らせた」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み，事前学習シートを作成する．
10	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 中間発表２回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度） 事後学習：第２回レポート
11	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	『星の王子さま』1～10 章を読み，事前学習シート（要約、感想）を作成する（2 時間程度）
12	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 11～20 章を読み，事前学習シートを作成する
13	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話）	教科書 21～27 章を読み，事前学習シートを作成する

		振り返りシート	
14	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	教科書あとがきを読み，事前学習シートを作成する
15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第3回レポート

関連科目

摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養2	池上彰	NHK出版
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・取り組み姿勢／ルーブリック（チーム：15%），・ファイリング（個人：5%）
・ポスター発表（チーム：20%）
・レポート　3回（個人：30%），・振り返りシート（個人：10%）
・理解度確認クイズ（個人：10%）
・事前学習シート（個人：10%）
以上の評価点の合計で60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする．

学生へのメッセージ

　この授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎，コミュニケーション力，ファシリテーション力，と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．？

担当者の研究室等

伊藤譲（1号館3F），寺内睦博（11号館10F），石井三恵（7号館5F）、上野山裕士(7号館3F)，浅野慎一，堀田裕子

備考

この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．この授業は原則的に対面で実施します．やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします．

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博.津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	科目名（英文）	Microeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	名方　佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2○,DP3○,DP4△,DP5○,DP6△,DP7○,DP8△,DP9○		
科目ナンバリング	WDW2011a0		

授業概要・目的	国際経済学、労働経済学、産業組織論、財政学等の応用ミクロ経済学の基礎となるミクロ経済学について学ぶ。とりあげるテーマはミクロ経済学Ⅰとほとんど同じであるが、数式や計算を通じてミクロ経済学Ⅰで学んだことに対する深い理解が得られることを目標とする。また新しいテーマとして①消費者の期待効用、②寡占市場における企業間の競争、③外部性・公共財の３点を取り上げる。
到達目標	市場における消費者、企業、政府の行動を理解し、また市場の失敗である「公共財」「外部性」「寡占・独占」の問題を数式を使って解けるようにする。
授業方法と留意点	5回目、10回目に小テスト、15回目に期末試験を行います。 それ以外の回については、Moodleに講義資料をUploadしておきます。 連絡手段にTeamsを使いますので登録お願いいたします。
科目学習の効果（資格）	経済学検定試験や公務員試験の勉強に役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	市場における需要と供給の作用	市場において需要と供給曲線がどのように求められ、またどのように市場の均衡が決まるかについて説明する。	講義ノートの復習と例題１の自主学習（1時間）
2	消費者の行動	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように需要額を決定するかについて説明する。	講義ノートの復習と例題２の自主学習（1時間）
3	消費者の期待効用	不確実性のもとでの消費者の行動について説明する。	講義ノートの復習と例題３の自主学習（1時間）
4	1～3 回目のテーマに関する練習問題	例題１～３についての解説	講義ノートの復習と例題１～３の自主学習(1時間)
5	例題1～3の確認と小テスト		
6	競争市場における企業の行動Ⅰ	競争市場における企業の利潤最大化行動について説明する。（生産要素が１つの場合）	講義ノートの復習と例題４の自主学習（1時間）
7	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習と例題６の自主学習（1時間）
8	寡占Ⅰ	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習と例題７の自主学習（1時間）
9	６～９回目のテーマに関する練習問題	例題4～6についての解説	講義ノートの復習と例題４～6の自主学習(1時間)
10	例題４～6の確認と小テスト		
11	社会厚生	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性について説明する。	講義ノートの復習と例題８の自主学習（1時間）
12	外部性	市場が完全競争にならない原因である外部性の問題について説明する。	講義ノートの復習と例題９の自主学習（1時間）
13	公共財	市場が完全競争にならない原因である公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習と例題１０の自主学習（1時間）
14	１１～13回目のテーマに関する練習問題	例題７～９についての解説	講義ノートの復習と例題7～9の自主学習（1時間）
15	期末試験（例題１～９）		

関連科目	ミクロ経済学Ⅰ、経済数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	２回にわたる小テスト（各15%、合計30%）と期末試験（７０%）で評価します。小テストにおいて不正行為（明らかにおかしな間違いをした解答で類似している場合はそのように判断する可能性があります）をした学生には小テストの点数は０になります。
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
担当者の研究室等	１号館７階　名方准教授室（経済学部）
備考	

科目名	労働経済学	科目名（英文）	Labour Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平尾　智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1017a0		

授業概要・目的	講義では，労働統計などから，キャリア形成に役立つデータを紹介し，そこから何が見えてくるのかを説明します。経済学が明らかにしてきた事実から自身の今後のキャリア形成を考えると同時に，社会問題としての労働問題も同時に理解していきます。 本講義では，様々な労働統計，データ，図表からどこに注目し，何が見えてくるのかを説明していきます。
到達目標	・労働経済学の基礎的な考え方を知る。 ・講義の知見からから自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 ・現代日本で起こっている労働問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と留意点	授業資料は ICT ツールを通して配布します。
科目学習の効果（資格）	・自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。 ・就職活動を客観視できるようになり，職業選択に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方，評価の方法，授業内容の全体像について説明します。	教科書を購入し「はしがき」を読む。
2	働き方の変化	労働市場とは何かを説明し，就労状況が時代によって変動するのはなぜなのかを考えます。	（事前）教科書第 1 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
3	キャリアをデザインするということ	進路選択や就職にとって大切なことはないかを解説します。職業や働き方の調べ方を説明します。	（事前）教科書第 2 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
4	求職と求人	企業は毎年多くの人を採用しています。逆に，毎年多くの人が就職・転職しています。そこにはどうしてもミスマッチが生まれますが，そのメカニズムを探ります。	（事前）教科書第 3 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
5	就職活動と大学教育	教育，特に大学教育に関する個人の選択について，経済学的な考え方を学びます。	（事前）教科書第 4 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
6	賃金格差	賃金は生産性によって決まる。したがって，賃金格差を分析する場合，その生産性の差を決定づける要因を考えなければなりません。	（事前）教科書第 5 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
7	昇進と昇格	会社で働く人の大きな関心事に出世があります。社長や管理職の実態を把握し，訓練，選抜，労働意欲の観点から出世の仕組みを説明します。	（事前）教科書第 6 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
8	労働時間と休暇	仕事と生活をバランスさせることは，働く人にとって重要なテーマです。労働時間や休暇の実態，それらが健康や家庭生活に及ぼす影響を考えます。	（事前）教科書第 7 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
9	福利厚生	企業は従業員の福利厚生にどれほどの費用を投じているのか，またその理由は何か，といった点を探っていきます。	（事前）教科書第 8 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
10	ダイバーシティ	男性労働者だけではない，多様な人材活用が求められています。日本企業の女性活用の実態を見ていきます。	（事前）教科書第 9 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
11	離職と転職	会社辞める理由は多々ありますが，会社辞める決断をする背景や辞めた後に起こる事実について学びます。	（事前）教科書第 10 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
12	解雇と失業	自分の雇用がどの程度安定的かは，働く上での重要な関心事でしょう。美豆から望まない離職がどうして起きるのかを考えます。	（事前）教科書第 11 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
13	定年退職	いつかは引退の日がやってきます。定年制や継続雇用の現状や経済学的な考え方を学びます。	（事前）教科書第 12 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
14	コーポレートガバナンスと従業員	株主，経営者といった企業の様々な利害関係者と従業員の関係を説明します。	（事前）教科書第 13 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
15	様々なキャリア	会社だけが働く場所ではないだろう。国内企業で働く以外の働き方を考えてみる。	（事前）教科書第 14 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>公共経済学</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>キャリアのみかた（改訂版）</td><td>阿部正浩・松繁寿和</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>どうする日本の労働政策</td><td>櫻井純理編</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・授業毎の課題（70%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。
・復習問題（10%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。
・レポート（20%）：授業内容に関するテーマについての説明文。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>労働の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。労働市場の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか，経済学的思考で考えてください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　平尾研究室（経済学部）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	西洋経済史	科目名（英文）	Western Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大槻　忠史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2○,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6△,DP7◎,DP8△,DP9○		
科目ナンバリング	WDW1019a0		

授業概要・目的	世界の国や地域、社会などがこれまでどのような歴史をたどり、現在の状態に至るのかについて、特に経済活動に関わる部分に焦点を当て、その概観を学ぶ。
到達目標	次の二つを目標とする。第一に、特に重要な活動や出来事について、その概観と背景を理解すること。第二に、それらが現在においてもなお我々の日常生活や社会といかに関わりを持っているのかを理解すること。
授業方法と留意点	1. 基本的には、講義スタイルで授業を進めます。また、コメントや課題等により、理解度を測ります。 2. 資料を配布しますが、それらのみに依存しないこと。講義に集中し、必要に応じてメモを取る習慣をつけて下さい。また、疑問点などは、自ら調べると共に、質問等により自ら解決するように心がけて下さい。
科目学習の効果（資格）	2 年次後半、また 3、4 年次に履修する科目をより深く理解することにつながると思われます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済史とは何か？経済史を通じて何を学ぶのか?	事前：シラバスの熟読 事後：授業内容の復習
2	中世までの経済活動（1）	アジアを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 1
3	中世までの経済活動（2）	ヨーロッパを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 2
4	経済活動と宗教改革	経済活動と宗教の関係性について考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 3
5	いわゆる「世界の一体化」(1)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパと中南米地域の関係を考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 4
6	いわゆる「世界の一体化」(2)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパとアフリカ地域の関係を考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 5
7	いわゆる「世界の一体化」(3)：	いわゆる「世界の一体化」の時期における、 アジアの発展、またアジアとヨーロッパとの関係を考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 6
8	イギリスの産業革命	イギリスの産業革命について、産業発展の実態とその背景、影響などについて、考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 7
9	日本の開国と発展	日本の開国とその後の発展について概観を得る。そして、世界市場への参入とその意味という観点から位置付ける。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 8
10	イギリスの衰退とアメリカ合衆国の台頭	アメリカ合衆国の台頭について、その背景と実態について概観を得る。そして、それが 20 世紀の世界的な経済活動や体制に与えた影響について考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 9
11	社会主義経済体制の出現	ロシア革命とその実態、影響について、経済的側面から考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 10
12	世界恐慌と経済体制の変化	世界恐慌がもたらした経済活動への影響、また戦時の経済経済体制について概観を得る。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 11
13	第二次世界大戦後の世界経済（1）	植民地の独立がもたらした影響と世界経済体制の新たな課題について、考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 12
14	第二次世界大戦後の世界経済（2）	1990 年代以降の世界経済体制とその変化、また経済危機について、考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 13
15	まとめと経済発展論の紹介	全体の見取り図を描くと共に、経済発展論について簡潔に学ぶ。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習

関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、日本経済史、経済思想史など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	砂糖の世界史	川北稔	岩波書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界経済の歴史（第 2 版）	金井雄一 ほか	名古屋大学出版会
2	現代日本経済史	中村宗悦	学文社
3			

評価方法（基準）	レポート(60%)、及び小課題(40%)を予定しています。但し、小課題の未提出回数が 5 回以上の場合、レポートは採点対象としません。 授業形式により、変更の可能性があります。
学生へのメッセージ	「歴史を学ぶ」と聞くと、年代や人物、出来事などの暗記と思うかもしれません。もちろん、最低限必要な知識はありますが、自分なりに理解することに重点を置いてほしいと思います。担当者は、理解が進めば、知識は後からついてくると考えています。少なくとも本講義では、知識の暗記に終始することは求めません。常に自ら考えることを求めたいと思います。 授業で扱うことのできない国や地域、社会、時期、項目などについては、自ら進んで調べてみてください。知識がつながり、理解が深まります。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　大槻研究室

備考	

科目名	ゲーム理論	科目名（英文）	Game Theory
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2○,DP3○,DP4△,DP5○,DP6△,DP7○,DP8△,DP9○		
科目ナンバリング	WDW3025a0		

授業概要・目的	ゲーム理論は、経済学のみならずあらゆる分野で応用されており、いまや、ものごとを戦略的・論理的に考える基本的な技術といってよいでしょう。ただし、その基本的な方法を習得し、これらを応用するには一定の練習が必要です。本講義では、経済学でも頻繁に適用される非協力ゲームに絞り、基本的な概念の理解と、応用力を身につけるための問題演習に重点を置きます。
到達目標	最終的には、ゲーム理論を利用して戦略的思考を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は、ほぼ隔週で小テストを実施します。小テストの得点は、成績評価に係わりますので、必ず受けるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	他の経済学等の科目（特に「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」）の学習・理解に資する内容です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ゲーム理論とは何か	イントロダクションとしてミクロ経済学的発想の解説、及びゲーム理論のミクロ経済学への応用例を示します。	授業内容の確認・復習
2	非協力ゲーム 1-1 戦略の支配とナッシュ均衡	標準型ゲーム、純粋戦略、囚人のジレンマ、被支配戦略の逐次消去	授業内容の確認・復習
3	非協力ゲーム 1-2 混合戦略(1)	ナッシュ均衡、混合戦略	確認テスト 1(1～2 回までの範囲)
4	非協力ゲーム 1-3 混合戦略(2)	混合戦略に関する具体例による演習(復習及び解説) クールノー・モデルなど	授業内容の確認・復習
5	非協力ゲーム 1-4 ゼロ和ゲーム(1)	定和ゲーム、ゼロ和ゲーム、マックスミニ戦略、ミニマックス定理	確認テスト 2(3～4 回までの範囲)
6	非協力ゲーム 1-5 ゼロ和ゲーム(2)	ゼロ和ゲームに関する具体例による演習(復習及び解説)	授業内容の確認・復習
7	非協力ゲーム 2-1 展開型ゲーム(1)	展開型ゲーム、ゲームの木、展開型ゲームの戦略型表現	確認テスト 3(5～6 回までの範囲)
8	非協力ゲーム 2-2 展開型ゲーム(2)	部分ゲーム完全均衡、局所戦略	授業内容の確認・復習
9	非協力ゲーム 2-3 展開型ゲーム(3)	展開型ゲームに関する具体例による演習(復習及び解説) チェーンストア・パラドクスなど	授業内容の確認・復習
10	非協力ゲーム 2-4 展開型ゲーム(4)	繰り返しゲーム(有限回)	確認テスト 4(7～9 回までの範囲)
11	非協力ゲーム 2-5 展開型ゲーム(5)	繰り返しゲーム(無限回)、トリガー戦略	授業内容の確認・復習
12	非協力ゲーム 3-1 情報不完備なゲーム(1)	ベイジアンゲーム、ベイジアン=ナッシュ均衡	確認テスト 5(10～11 回までの範囲)
13	非協力ゲーム 3-2 情報不完備なゲーム(2)	完全ベイジアン均衡　自然　信念　一括均衡　分離均衡	授業内容の確認・復習
14	非協力ゲーム 3-3 情報不完備なゲーム(3)	公共財、逆選択	確認テスト 6(12～13 回までの範囲)
15	講義のまとめと今後の学習に関するガイダンス	講義のまとめとして基本的な概念の確認と、講義内で扱えなかったさらなるトピックスについて概説します。	期末テストの学習

関連科目	特に「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」その他多数

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各授業での小テスト約４０％、定期試験約６０％で総合評価します。
学生へのメッセージ	継続的な演習を促すために、小テストを重視します。数学的な式に不安な場合でも、適宜解説を行いながらゆっくり進めます。
担当者の研究室等	１号館７階　植杉教授室(経済学部)
備考	

科目名	計量経済学	科目名（英文）	Econometrics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小塚　匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2026a0		

授業概要・目的

三題噺（こばなし）ではありませんが、次の３つの話を読んでください。

1.　皆さんの中には、将棋や囲碁で遊んだことのある方もいると思います。いまでも、趣味として楽しんでいる方もいるかもしれません。さて、近年は人工知能（AI）というものが注目されています。その応用として、囲碁や将棋のソフトが開発され、実際に棋士と対戦をしています。この人工知能には、棋譜であらわされた対戦データを使って、これまでに実際にあった囲碁や将棋の戦い方を学習させています。そうやって人工知能は、プロの棋士と対戦できるだけの能力を身につけているのです。

2.　皆さんの出身高校には、野球部はありますか。中には、強豪校として名を馳せている高校の卒業生がいるかもしれません。そして、実際に野球部で活躍した方もいるかもしれませんね。さて、全国高等学校野球選手権大会（いわゆる「夏の甲子園」）には、東京都・北海道を除いて、原則として各府県から１校ずつ出場します。このしくみの下では、人口の少ない県からは甲子園の全国大会に出場しやすい（それでも大変なことですが）ため、「野球留学」をする生徒たちが多い、といわれています。そしてそのような人たちが、長じてプロ野球選手として国内外で活躍しているケースも多々あります。

3.　この大相撲の世界では、勝ち越し（その場所で半分以上勝つこと）の価値は非常に大きなもので、その後の番付けにも影響します。その場所の 14 日目終了時に７勝７敗となっている力士にとって、千秋楽（15 日目）は負けられない一番となることは、想像に難くありません。それゆえに、大相撲でいわゆる「八百長」が行われているということは、昔からよく言われています。ことの真偽は明らかではありませんが・・・。

＊＊

さて、一見まったく関係のないように思えるこれら３つの話ですが、「回帰分析」という共通のキーワードがあります。この「回気分析」を応用することで、これらの事象について仮説を立てて、検証することができます。その成り立ちや使い方の基本事項を習得することが、この「計量経済学」の重要な目的です。

なお、上記のような応用は、さらに進んだ内容です。この講義で扱う内容は、その基本中の基本であることをご理解ください。

到達目標

この講義では、数学、統計学、経済学を融合した学問分野である、計量経済学の基本を習得します。特に、最小二乗法に代表される回帰分析と、必要な統計学の基礎知識（検定・推定など）、そして経済データの特性について理解を深め、「統計学」の内容よりもより進んだ知識を身に付けます。

授業方法と留意点

無断欠席の回数が多い学生は、単位取得資格を失います。ご注意ください。

この講義で主に利用する ICT ツールは、Microsoft Teams と Microsoft Forms です。この講義は社会状況の変化に応じて、Microsoft Teams を用いたオンライン講義（リアルタイム配信）で実施する可能性もあります。念のため、Teams コードを利用してこの講義のチームに参加してください。

練習問題は Microsoft Forms で実施します。解答フォームへのリンクや講義資料、データ実習用の Excel ファ

科目学習の効果（資格）

回帰分析など、基本的なデータ処理の方法が理解できるようになります。また統計学や回帰直線に関する知識は、IT パスポート試験や基本情報技術者試験でも問われています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	計量経済学とは	計量経済学の概要について説明します。この講義のイントロダクションです。	教科書第１章・講義資料（１）
2	データの整理①:統計的記述と確率変数	統計学の基本として、まず経済データの種類について説明し、続いてデータの特性をどうあらわすか、について説明します。また、確率変数についても解説します。	教科書第２章・講義資料（２）
3	データの整理②:母集団と標本	母集団と標本は、データを使った分析を進める際に、基本中の基本となる概念です。ここでは母集団と標本の違い、および分布について説明します。	教科書第２章・講義資料（３）
4	統計的推測：推定と検定	データ（標本）から母集団の特徴を推測する方法が推定・検定です。統計的な推論のキーとなる概念です。	講義資料（４）
5	最小二乗法①	計量経済学の中心的課題とも呼べる、回帰分析について解説します。ここではその基本である最小二乗法について扱います。	教科書第３章・講義資料（５）
6	最小二乗法②	最小二乗法で推定した結果について、その妥当性を検証する方法(決定係数など)について解説します。また応用例も紹介します。	教科書第３章・講義資料（６）
7	単回帰分析①	分析のために必要な各種推論（基準化変量、偏差値、正規分布、t 分布など）について解説します	教科書第４章・講義資料（７）
8	単回帰分析②	最小二乗法で推定した推定量には、優れた特徴があります。ここではそれらの検定方法などについて解説します。	教科書第４章・講義資料（８）
9	単回帰分析③	モデルの仮定や最小二乗推定量の特徴について解説します。また、実証分析例も紹介します。	教科書第４章・講義資料（９）
10	多重回帰分析の基礎①	説明変数の数を増やしたケースについて解説します。実証例も紹介いたします。	教科書第５章・講義資料（10）
11	多重回帰分析の基礎②	多重回帰分析における推定結果の解釈や、注意すべき点について解説します。実証分析の例も紹介します。	教科書第５章・講義資料（11）
12	多重回帰分析の拡張	ダミー変数、ラグ変数などの多重回帰分析における重要な応用について解説します。また、重要な問題点である多重共線性についてもここで扱います。	教科書第７章・講義資料（１２）
13	価格指数・デフレータ他	物価をあらわすデータである、物価指数やデフレータについて解説します。また	教科書第６章・講義資料（１３）

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>名目変数と実質変数の違いについても扱います。</td><td></td></tr>
<tr><td>14</td><td>F検定</td><td>複数の係数の推定値を同時に検定する手法である､F検定について解説します。</td><td>教科書第８章・講義資料（14）</td></tr>
<tr><td>15</td><td>系列相関とその対処法</td><td>誤差項が相関を持つこと（系列相関）によってもたらされる問題点と､その検定方法や対処法について解説します。</td><td>教科書第９章・講義資料（15）</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>「統計学」で学んだ内容を事前に復習してください。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>入門　計量経済学　Excelによる実証分析のガイド</td><td>山本拓・竹内明香</td><td>新世社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>講義中に出題される練習問題（50%）試験（50%）で評価します。
練習問題は、Microsoft Formsを利用して実施します。その回の講義内容に関するものです。原則として次回講義開始時までを解答期限とします。次回までに提出する宿題だと考えてください（例外もあります）。
また、試験は期末試験期間に実施する予定です。ただし社会状況によっては、Microsoft Formsを利用したオンライン試験に切り替える可能性もあります。
この講義に出席点はありませんが、無断欠席の回数が多い場合は、単位取</td></tr>
<tr><td>学生へのメッセージ</td><td>疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。なお履修に当たっては、教科書は必ず購入してください。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。
この講義は、高校までの数学や統計学の学習内容を基本として展開されます。学習内容の積み重ねが大事です。また、この分野の基本事項を扱うとはいえ、３年次開講科目であることからもわかるように、それなりに高度な内容が含まれます。ただ講義を聴くだけでは十分な理解ができません。きちんと出席し、復習をしてください</td></tr>
<tr><td>担当者の研究室等</td><td>１号館７階　小塚研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	管理会計	科目名（英文）	Management Control
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴　景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP3△,DP4△,DP5△,DP6△,DP7△,DP8△,DP9△		
科目ナンバリング	WDW3027a0		

授業概要・目的	管理会計とは、経営管理者の多様な意思決定等の経営管理活動に対して有用な会計情報を提供する一連のプロセスである。本講義では、財務・原価情報を利用した戦略的管理ツールの基礎知識を概説し、そのプロセスを習得することを目的とする。講義では理論を理解し実践力を身に着けるため、演習・事例研究などを取り入れる。
到達目標	戦略経営に用いられる管理ツールの理論を理解し、実務でどのように活用されるかを身につけることを本講義の到達目標とする
授業方法と留意点	本授業は①基礎理論の講義、②理論の理解のための演習、③理論を用いた事例研究またはグループワークの３段階で構成される。
科目学習の効果（資格）	日商簿記、SA、FP、中小企業診断士、税理士、公認会計士受験のための基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義全体の概要および講義の進め方などの紹介	
2	管理会計のフレームワーク	管理会計学習の意義、管理会計と財務会計、管理会計と資源配分、管理会計と人間・組織	レポート
3	管理会計の発展史	管理会計の発展過程、管理会計手法（tool）の変遷過程管理会計モデルなど	レポート
4	簿記の要約	管理会計論の基礎知識として、会計の基本的な仕組みを理解する。 会計期間、簿記の５要素、利益計算、財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の読み方	レポート
5	投資計画のための管理会計①	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択するかについて学習する。投資案の分析ツールとして、NPV 法・回収期間法・ROI 法を用いる	演習問題
6	投資計画のための管理会計②	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択するかについて学習する。投資案の分析ツールとして、NPV 法・回収期間法・ROI 法を用いる	演習問題・レポート
7	ROI を用いた企業評価	実際の企業の財務諸表を用いりながら企業評価を行ったり、業種間比較（グループワーク）分析を行う。	演習・レポート
8	短期利益計画とＣＶＰ分析①	損益分岐点（BEP）分析を学習し、実際企業の利益計画の演習を行う。 短期利益計画の意義、CVP 分析（損益分岐点分析）、限界利益・貢献利益	演習問題
9	短期利益計画とＣＶＰ分析②	損益分岐点（BEP）分析を学習し、実際企業の利益計画の演習を行う。 短期利益計画の意義、CVP 分析（損益分岐点分析）、限界利益・貢献利益	演習問題
10	短期利益計画とＣＶＰ分析③	損益分岐点（BEP）分析を用いて俊典計画を企画（グループワーク）して、プレゼンする	演習問題・レポート
11	価格決定と原価企画 ①	販売価格の決定のための基本的な方法論を理解する コスト・プラス法・原価企画による法	演習問題
12	価格決定と原価企画 ①	販売価格の決定のための基本的な方法論を理解する コスト・プラス法・原価企画による法	価格決定の事例研究のレポート
13	セールス・ミックス（Sales Mix）	複数の製品がある場合、利益最大化のためには、どのようなセールス・ミックスをするのかについて学習する。	演習問題
14	事業部組織における業績評価	事業部制組織の業績評価にはどのような経営指標を用いればいいのか、また、その業績評価結果は事業部長のボーナスなどにどのようにリンクさせるべきであるかについてケースをもって学習する。	事例研究
15	まとめ	まとめと質疑応答	

関連科目	会計学入門・簿記原理Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	演習・レポート 80%、プレゼンテーション・ディスカッション 20%
学生への メッセージ	授業中は計算演習を行う場合があるため、電卓を持参すること
担当者の 研究室等	１号館７階　朴教授室　（経済学部）
備考	

科目名	日本産業史	科目名（英文）	Japanese Industrial History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2○,DP3○,DP4△,DP5○,DP6△,DP7△,DP8○,DP9○		
科目ナンバリング	WDW3033a0		

授業概要・目的	日本の産業の発展の経緯、現状と今後の展望について理解する。 担当教員の実務経験を生かし、日本産業のイノベーションの実態を論じることとする。
到達目標	①日本産業の発展の経緯と現状を理解する。 ②日本産業の今後の展望について理解する。 ③日本産業のイノベーションにていて理解する。
授業方法と留意点	講義形式により行う。 事例、データを示しつつ、授業を進める。 環境変化により授業方法を修正する場合は、別途指示する。 必要に応じてMoodleを活用する。
科目学習の効果（資格）	①日本の産業の流れについて把握できる。 ②産業界の最近の動向について把握できる。 ②自らのキャリア形成を考える上での基礎が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、日本産業史の概観	日本の産業発展について概説する。基礎的なキーワードについても説明を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
2	産業発展モデルと日本の主要産業	産業発展モデル、日本における主要産業について概説する。長期間存在した企業群についても概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
3	繊維産業史	繊維産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
4	化学産業史	化学産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
5	造船産業史	造船産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。航空産業についても論じる。	講義中に示した課題を検討してください。
6	電機産業史	電機産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
7	機械産業史	機械産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
8	自動車産業史①	自動車産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
9	自動車産業史②	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
10	自動車産業史③	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
11	第三次産業とサービスイノベーション①	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
12	第三次産業とサービスイノベーション②	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
13	第三次産業とサービスイノベーション③	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
14	ベンチャー企業と技術イノベーション	次世代の経済を担うベンチャー企業の成長と技術イノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
15	まとめ	日本の産業発展の過程を踏まえたうえで、今後の日本の産業を展望する。	講義中に示した課題を検討してください。

関連科目：日本経済史、日本経済論、関西経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テストとレポートにて評価を行う。 小テスト＝70点、レポート30点、計100点
学生へのメッセージ	日本の産業史を踏まえて、今後の産業発展の方向性を検討してください。 ノートをしっかりとり、復習を行ってください。日本経済史と併せて学ぶことで経済の歴史的俯瞰がより可能となりますので履修時に留意してください。

担当者の 研究室等	1号館7階
備考	

科目名	地域保健医療	科目名（英文）	Regional Health Service
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3034a0		

授業概要・目的	・地方自治体を中心に保健・医療・福祉は相互に連携し計画を策定しながら住民サービスの向上に努めている。 ・緊急性の視点から医療が優先され医療計画が、昭和 60 年 12 月の第 1 次医療法改正により制度化され、救急医療や感染症医療等への対応を明確化するため国、都道府県あるいは、市町村に対応すべき医療圏が割り当てられている。 ・これら地域医療に関する最新の取り組みおよび現状の課題等について説明する。 ・地域経済を支える地域医療について、課題認識と自ら考える姿勢を喚起することを目的とする。 ・高度医療機関である市民病院に勤務した実務経験を活かして大阪府下全ての病院運営の指針となる大阪府医療計画及び医療構想について実践的教育を行う。 ・SDGs3「すべての人に健康と福祉を」
到達目標	・地域医療を理解するため、その基礎となる保健医療計画について大阪府を例にして理解する。 ・少子高齢化社会において、自ら判断し行動するための地域での保健医療に関する知識・教養を修得する。 ・地域の医療資源の配分を管理する都道府県業務について大阪府の事例を用いて説明し、他の都道府県の地域医療に関する理解促進を図る。 ・少子高齢化社会における地域医療整備の重要性を理解する。
授業方法と留意点	授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所等でも履修することができる。下記内容を講義する。 ・保健・福祉・医療における総合的なサービス提供の根幹となる保健と医療の連携の必要性と意義について考察する。 ・大阪府保健医療計画に基づき、その必要性と意義について講義する。 ・さらに後半では現状の地域医療が直面する課題について考察する。 ・2018 年度に改訂された大阪府医療計画と大阪府
科目学習の効果（資格）	・広域行政の視点も含め、地域経済を支える保健医療がどのように計画・実施されているかについて現状を把握するとともに今後の課題について考察する。 ・医療事務資格を取得する場合の病院機能の分類（一般病院、地域医療支援病院、特定機能病院等）を理解し、地域医療での病院の役割を理解する。 ・他学部学生（薬学部、法学部）とのワークショップでの議論により地域保健医療の多面的な視点での「気づき」を就学する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	大阪府保健医療計画について	医療計画策定の意義とその必要性および運用方針について講義する。	大阪府医療計画について 第１章
2	保健医療提供体制の基本的な状況	大阪府における保健医療の提供体制の現状についてデータから考察する。	大阪府医療計画 第２章
3	保健医療従事者の確保と資質の向上	医療へのニーズの拡大に伴いこれを支える医療従事者の確保と資質の向上が必要となる。専門職種別に、その現状と取り組みについて講義する。	大阪府医療計画 第８章
4	医療圏及び基準病床数	保健医療サービスを効率的に提供するにふさわしい地理的広がりとしての医療圏の設定とその範囲内での病床数の設定について考察する。	大阪府医療計画 第３章
5	大阪府における保健医療体制	大阪府下の医療体制の情報提供方法と病院の機能分担および連携について講義する。	大阪府医療計画 第４章　地域医療構想
6	主要な事業ごとの保健医療体制（4 疾病）	平成 18 年の改正医療法に基づく医療における 4 疾病 5 事業のうち 4 疾病への現状と医療体制について講義する。	大阪府医療計画 第６章
7	主要な事業ごとの保健医療体制（5 事業）	平成 18 年の改正医療法に基づく医療における 4 疾病 5 事業のうち 5 事業への現状と医療体制について講義する。	大阪府医療計画 第６章
8	在宅医療の推進とその他の対策	4 疾病 5 事業以外の重要な保健医療について講義する。	大阪府医療計画 第５章
9	保健医療提供体制と保健医療計画の評価および見直し	現状の保健医療提供体制の充実と評価および見直しについて講義する。	大阪府医療計画 第９章　２次医療圏
10	保健・医療・福祉の総合的な取組	保健、医療、福祉は相互に連携することにより安心安全なまちづくりに貢献することが可能となる。その取り組みとして、それぞれの計画について講義する。	大阪府医療計画 第７章その他の医療体制
11	健康危機管理体制の構築	地域防災計画と保健医療計画との関連について講義する。	大阪府医療計画 全体で対応
12	これまでのまとめ	大阪府医療計画の意義と今後について、まとめ及び習熟度について考察する。	中間レポート
13	【薬学部、法学部学生とのワークショップ】	多様なＩメディア、特に ICT ツールを利活用する。3 学部学生によるグループ議論を行う。	Teams 等による配布資料による課題。
14	同上	同上	同上
15	同上	同上	同上

関連科目	地域医療、地域経済関係科目 メディカルツーリズム等を検討するにあたり観光関係科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大阪府医療計画と医療構想（2018 年度～2023 年度）	大阪府のホームページから取得	
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>まちの病院がなくなる！？地域医療の崩壊と再生</td><td>伊関友伸</td><td>時事通信社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・レポート内容及び定期試験(70%）及び、レポート提出等を受講態度（30%）として総合評価する。
・薬学部、法学部学生とのワークショップを実施する。場合によってはTeams等のICTツールを活用する。ワークショップでの課題に対するレポートを試験に該当する。従ってワークショップ参加を必須とし、ワークショップでのレポート提出された結果をもってレポート平均点算定を行う。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・薬学部、法学部の学生とのワークショップを行う。このワークショップに参加することによって、１３，１４，１５回目の受講に該当する。ワークショップに使用する教材はTeams等で配布する。

・実際の保健医療に関する行政施策についての基礎知識の修得を目指す。さらに今日、地域経済を支える地域医療が直面している課題について考察する。随時、新型コロナウイルス関連の対策等について講義に加える。
・医薬分業体制の課題や院内、院外での薬剤師の業務の課題及び薬価や診療報酬等の経済的課題について関心を持って欲しい。治験、</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　田井教授室（経済学部）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>・地域医療の制度、仕組みについて知る必要性を修得してほしい。
・医療は、事故や病気の際だけでなく安心・安全な経済活動や地域経済をを支える仕組みであることの気づきを期待する。
・現下の新型コロナ禍における内容について講義に順次追加する予定。</td></tr>
</table>

科目名	地域の持続的発展	科目名（英文）	Sustainable Regional Development
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3035a0		

授業概要・目的

・都市部等への依存型社会から自律した住民での地域活動の重要性について講義する。
・地方公務員が現在取り組んでいる行政と市民活動との協働について詳細に分析する。
・地域活性化の具体事例から地域経済活性化策研究のフィールドワークに役立つ考え方を修得する。

・政令指定都市職員として地域活性化事業に従事した経験を活かして、地域の事例に基づき実践的な教育を行う。

・SDGs11：「住み続けられるまちづくり」に該当。

到達目標

・地域経済発展の契機となる地域活動について求められる考え方を修得する。
・授業で得られた情報から地域の持続的発展に貢献する対策を考察できる知識を修得する。
・地域創生（活性化）の事例から自己での分析力および文章作成力を習得する。

授業方法と留意点

・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。下記内容を講義する。
・地域を土地の境界によって規定される範囲だけでなく、住民活動や行政との協働活動等に必要なエリアとして考察する。
・住民にとって、安心・安全で住みやすい環境を構築する公共空間を地域と考え、地域での住民の取り組みが持続的に継続あるいは発展している事例に焦点をあて、それらを支える自助，公助そして共助へと展開するプロセス

科目学習の効果（資格）

・大都市の発展過程を踏まえ、今後の地域の持続的発展には何が具体的に必要であるのかについて、自ら考える姿勢を養う効果を目的とする。
・今後、議論が本格化されていく「総合区」等広域行政圏に関するまちづくりについての見識を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日本経済と地方自治体(デフレ、インフレ社会)	ポストデフレ社会について講義する。	配布資料　第１回
2	日本経済と地方自治体(財政赤字と地域再生)（ミレニアムプロジェクトの行方と電子自治体)	・財政赤字の現状と電子自治体について考察する。 ・情報化の推進としての電子自治体構想について講義する。	配布資料　第２回
3	日本経済と地方自治体(地域再生の必要性)	「地域再生とは」について「地域経済」の視点から講義する。	配布資料　第３回
4	地域再生とは(観光づくりの視点)	地域再生、地域経済活性化としての観光の概略を講義する。	配布資料　第４回
5	地域再生とは(地域産業の活性化)	地域産業、地域振興の視点で講義する。	配布資料　第５回
6	地域再生とは(地域雇用と人材活用)	地域での雇用及び人材活用について講義する。	配布資料　第６回
7	地域再生とは(行政のかかわり)	地域再生を支える行政サービスについて講義する。	配布資料　第７回
8	地域再生とは(まちづくりの視点)	地域再生に求められるまちづくりについて講義する。	配布資料　第８回
9	IT の活用（情報アクセスビリティ）	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(情報活用ーアクセスビリティ)	配布資料　第９回
10	IT の活用（IT 人材教育）	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(IT の進展と地域における人材教育)	配布資料　第１０回
11	IT の活用（個人情報保護）	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(個人情報保護)	配布資料　第１１回
12	IT の活用（情報セキュリティ）	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(情報システムへの脅威への対応)	配布資料　第１２回
13	まちづくりの議論（PPP Public Private Partnership とは)	PPP についての考え方を講義する。	配布資料　第１３回
14	PPP 推進の条件（自治体経営における PPP の活用)	自治体経営における PPP の活用について講義する。	配布資料　第１４回
15	・自治体と企業（事例研究） ・新たな「公益と営利」「官と民」の定義	PPP の事例研究から PPP の視点について講義する。	配布資料　第１５回

関連科目

地域経済、観光経済関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜配布する資料		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域経営の新しいパートナーシップ『PPP で始める実践　地域再生』	日本政策投資銀行地域企画チーム	ぎょうせい
2			
3			

評価方法

レポート内容及び定期試験(70%）及び、レポート提出等を受講態度（30%）として総合評価する。

（基準）	
学生への メッセージ	・中央集権的な経済発展構造から地域経済活性化への社会構造の変化についての理解を深める。 ・特に地域社会における ICT の利活用や地域振興について考察する。 ・少子高齢化社会の到来に向け、地域の発展を考える。 ・官民の役割分担、地域振興の有効性など主体的に考える習慣を修得して欲しい。 ・政令指定都市に 30 年間勤務した経験から、地域活性化に関する実務的な教育を行う。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　田井教授室(経済学部)
備考	

科目名	中小企業論	科目名（英文）	Small and Medium-sized Enterprises
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2◎,DP3○,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3036a0		

授業概要・目的	現代日本の中小企業が抱えている諸問題・課題を学び、これからの中小企業のあり方、事業発展の可能性・展望を考えていく。 ベンチャー企業、地域経済、関連諸政策についても理解する。 中小企業のイノベーションの実態や中小企業支援のあり方についても論じることとする。 必要に応じて moodle を用いる。
到達目標	①日本経済・社会のなかで果たしている中小企業の役割を理解すること。 ②中小企業の可能性と諸課題を理解すること。 ③中小ベンチャー企業の実情について理解すること。
授業方法と留意点	講義形式により実施する。 必要に応じて、演習を行う。 小テストの際は授業時間中に実施するので授業開始時刻に遅れないこと。 必要に応じて Moodle を活用する。
科目学習の効果（資格）	中小企業経営、ベンチャー企業経営、関連諸政策について理解することができる。 キャリア形成の基礎とすることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中小企業概論	中小企業の定義、基礎的キーワードについて概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
2	中小企業政策①	高度成長期の中小企業政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
3	中小企業政策②	新しい中小企業政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
4	下請中小企業	下請中小企業の存在、その生き残り戦略について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
5	ベンチャー企業	ベンチャー企業の概念、海外の諸状況について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
6	ベンチャー企業政策	新規開業状況について述べ、ベンチャー企業を創出、育成していく政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
7	ベンチャー企業事例①	新規創業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
8	ベンチャー企業事例②	新規創業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
9	産業集積と中小ベンチャー企業	産業集積における中小ベンチャー企業の重要性について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
10	産業クラスター政策	国内外の産業クラスター、我が国の産業クラスター政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
11	新事業創造とビジネスプラン	新事業創造の際にはビジネスプランが不可欠である。そのフレームワークについて概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
12	新事業創造とファイナンス	中小ベンチャー企業による新事業創造とファイナンス、金融機関の支援、について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
13	新事業創造事例①	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
14	新事業創造事例②	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
15	総括と展望	これまでの講義内容を整理し、まとめを行う。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。

関連科目	日本産業史、関西経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト×１＝計 70%、レポート×１＝計 30%、合計 100%
学生へのメッセージ	具体的な中小ベンチャー企業の事例を多数紹介していきますので、興味を持ってください。
担当者の研究室等	１号館７階
備考	

科目名	文化政策論	科目名（英文）	Cultural Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3038a0		

授業概要・目的	経済や観光において文化の重要性が増している。それに伴い、文化政策の範囲も、文化財保護や芸術振興ばかりでなく、国際貿易や文化産業、知的財産権、都市政策等を含むものへと変化した。この授業では、文化政策の経済的側面に焦点を当てて学習する。 他の授業では取り上げないインターネット企業のビジネスモデル等についても、その経済理論を学ぶ。 SDGs-3,8
到達目標	地域振興、観光、国際貿易における文化の役割を理解できるようになる。文化政策の経済学的側面を理解できるようになる。
授業方法と留意点	文化政策の基礎理論を学ぶとともに、日本や世界の事例を紹介しながら、文化政策の多様な役割について考える。
科目学習の効果（資格）	魅力的なまちづくりや、観光振興について考えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	この授業の目的と進め方について説明する	学生自身の学習目標を立てる
2	変化する文化政策	文化政策の歴史と変容について講義する	復習
3	文化政策の経済学	文化政策の経済学について学ぶ	復習
4	美術館・博物館	レポート課題と関連する企業ミュージアムについて学ぶ	復習、レポート課題に取り組む（提出日まで引き続き取り組む）
5	文化活動への参加	文化活動への参加を決定する要因は何か、どうやって分析するのか学ぶ	復習
6	文化への公的支援の理論（１）	政府はなぜ文化を支援するのか、文化政策と産業政策の両面から学ぶ	復習
7	文化への公的支援の理論（２）	文化への税制インセンティブについて学ぶ	復習
8	日本の文化政策（１）	日本の文化政策の歴史と特徴を学ぶ	復習
9	日本の文化政策（２）	文化遺産政策について学ぶ	復習
10	舞台芸術とアートマネジメント	舞台芸術団体の経営やアートマネジメントについて学ぶ	復習
11	クリエイティブ産業	クリエイティブ産業の理論と現状を学ぶ	復習
12	著作権の経済学	著作権の歴史や経済的機能を学ぶ	復習
13	文化と観光、文化と地域経済	文化を活用した観光や地域活性化について学ぶ	復習
14	グローバル化と文化経済	文化的財やサービスの国際貿易について学ぶ	復習
15	まとめ	全体のまとめを行う	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	文化経済学―理論と実際を学ぶ	後藤和子・勝浦正樹編著	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間レポート（40%）と期末試験（60%）で評価する
学生へのメッセージ	新しい領域です。新しい現象に興味を持ち、文化に関わる経済について深く、広く学びましょう。
担当者の研究室等	後藤教授室（1号館7階）
備考	学生の理解度に応じて、シラバスの内容を変更することもあり得る。

科目名	観光産業における経営分析	科目名（英文）	Buisiness Analysis in Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7○,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2042a0		

授業概要・目的	産業・企業の動向を理解していく上で、有価証券報告書といった財務資料を通じた業績把握は不可欠である。本講義では、経営学・産業組織論の諸手法を用いて、主に観光産業に分類される企業を事例として紹介しつつ、経営動向を理解・検討する視点およびそこで用いられる各種指標について学ぶことを目的とする。
到達目標	有価証券報告書等の財務資料を用いて企業業績および産業の動向を理解する能力を養う。
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に理解度を確認する問題を出す。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経営分析を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。	講義した内容について復習する。
2	財務諸表の仕組み（１）	経営分析で使用する貸借対照表と損益計算書の構造を学ぶ。	講義した内容について復習する。
3	財務諸表の仕組み（２）	企業活動の継続において重要な利益について、その計算方法、経済学的意義などを学ぶ。	講義した内容について復習する。
4	成長性の分析	企業の成長の度合いを示す指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
5	収益性の分析（１）	企業の収益を判断する際に用いる ROA について学ぶ。	講義した内容について復習する。
6	収益性の分析（２）	企業の収益を判断する際に用いる ROE について学ぶ。	講義した内容について復習する。
7	収益性の分析（３）	損益分析点分析を説明する。	講義した内容について復習する。
8	前半の復習および中間レポポート	これまでの講義内容を復習し、レポートの内容を提示する。	特になし。
9	安全性の分析（１）	企業における利益とキャッシュの関係を学ぶ。	講義した内容について復習する。
10	安全性の分析（２）	短期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
11	安全性の分析（３）	長期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
12	生産性の分析（１）	企業の生産性を判断する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
13	生産性の分析（２）	企業内の各種資源が有効に利用されているかを示す各種指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
14	総合評価（１）	各種指標を用いて、企業経営を総合的に評価するレーダーチャートを学ぶ。	講義した内容について復習する。
15	総合評価（２）	指数法を用いて各種指標にウェイトを付け、企業経営を総合的に評価する。	講義した内容について復習する。

関連科目	特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	習熟度を確認する中間レポート：50%、学期末レポート：50%で評価する。
学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
担当者の研究室等	１号館７階　西川研究室
備考	

科目名	宿泊産業論	科目名（英文）	Lodging Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2○,DP3○,DP4◎,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3044a0		

授業概要・目的	観光産業の中核を構成する宿泊産業の今日的な動向と問題点を学ぶことを通して、観光立国日本における宿泊産業の経済的、社会的意義を理解する。 また、授業担当者は観光事業会社でホテル総支配人として勤務した経験から、宿泊施設経営に関する実践的な教育を行う。
到達目標	宿泊産業における経営システムを理解し、宿泊施設の基礎的な経営分析ができる。
授業方法と留意点	授業はホテルの事例を多用しながら、毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていく。
科目学習の効果（資格）	宿泊関連産業動向の理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義概要説明 宿泊とは何か	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 プレテストの実施	
2	宿泊産業とは何か	宿泊産業の産業領域について理解する。	事後：配布資料の復習
3	宿泊産業の歴史Ⅰ（海外①）	海外（欧州、米国）における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
4	宿泊産業の歴史Ⅰ（海外②）	海外（欧州、米国）における宿泊産業の発展を振り返る。	事前：配布資料の予習 課題作成
5	宿泊産業の歴史Ⅱ（日本①）	日本における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
6	宿泊産業の歴史Ⅱ（日本②）	日本における宿泊産業の発展を振り返る。	事前：配布資料の予習 課題作成
7	観光と宿泊産業	観光における宿泊産業の位置づけと重要性について考える。	事後：配布資料の復習
8	法律と宿泊産業Ⅰ	旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。	事後：配布資料の復習
9	法律と宿泊産業Ⅱ	旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。	事前：配布資料の予習 課題作成
10	宿泊産業の運営管理Ⅰ	国内外における宿泊施設の分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習
11	宿泊産業の運営管理Ⅱ	主にホテルを事例に宿泊産業の運営形態について学ぶ。	事後：配布資料の復習
12	宿泊産業の運営管理Ⅲ	主にホテルを事例にの収益性指標について学ぶ。	事後：配布資料の復習
13	宿泊産業の経営分析Ⅰ	宿泊施設の損益分析についての理解と演習。	事前：配布資料の予習、演習問題提出
14	宿泊産業の経営分析Ⅱ	宿泊施設の資本利益率についての理解と演習。	事前：配布資料の予習、演習問題提出
15	宿泊産業の将来展望とまとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	事後：配布資料の復習

関連科目	観光学入門、観光マーケティング論、観光人材論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題等提出物の提出状況とその内容（５０％）と定期テスト（５０％）により評価する。
学生へのメッセージ	宿泊産業は観光において重要な役割を果たすだけではなく、地域経済にも大きなインパクトを持ちます。地域経済専攻の方にも興味深いと思います。
担当者の研究室等	1号館7階　持永教授室（経済学部）
備考	

科目名	航空産業論	科目名（英文）	Airline Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3○,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3045a0		

授業概要・目的	航空産業の発展は航空会社の戦略によるものだけでなく、国家の政策や国内外の情勢に大きく影響されます。また、航空は観光にとって重要な要素であり、運賃や路線開設・撤退、便数計画などは観光客の動向に影響を及ぼします。この授業は国内大手航空会社で実務経験のある教員が担当し、具体例を交えながらわかりやすく説明することによって、航空産業の全体像を理解することを目的とします。
到達目標	航空産業の全体像を理解し、航空関連についての記事や文献の内容を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めます。
科目学習の効果（資格）	観光関連の主要産業である航空産業の全体像を理解します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 航空輸送の歴史	授業の概要と進め方および航空輸送の歴史について講義を行う	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
2	国際航空輸送の制度的枠組み	航空航空輸送にかかわる規範および枠組みについて講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
3	国際航空における規制緩和の流れ	アメリカ、ヨーロッパ、日本での航空政策の変遷について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
4	LCC	台頭著しいLCCについて講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
5	航空会社間の連携(アライアンス)	航空会社間の連携について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
6	空港	日本の空港の現状と課題について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
7	航空安全	航空輸送の安全はどのように守られているのかについて講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
8	地球環境への取組み	航空会社の地球環境保全への取組みについて講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間） 課題レポート①
9	航空事業の構造	航空事業の特性・基本構造について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
10	レベニュー・マネジメント	国内線・国際線の運賃の特性と収益の最大化について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
11	CSとブランド戦略	航空会社が重視するCS戦略とブランド戦略について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
12	CRSとIT戦略	航空会社IT戦略とインターネットの影響について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
13	FFPとデータベースマーケティング	航空会社にとっての FFP の役割を講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
14	航空貨物	物流を支える航空貨物輸送について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間） 課題レポート②
15	まとめと補足	授業のまとめと補足事項について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）

関連科目	観光学入門、観光ビジネス英語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポート提出（2回）　60%、期末試験　40%
学生へのメッセージ	コロナ禍で世界の航空産業は大きな打撃を受けていますが、変化の著しい航空産業について理解を深め、今後のあるべき姿を考えていきましょう。
担当者の研究室等	１号館７階　野村教授室（経済学部）
備考	

科目名	レジャー産業論	科目名（英文）	Leisure Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△,DP3△,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3046a0		

授業概要・目的	平均寿命の伸長に伴い、余暇活動の在り方が改めて問われています。この授業では日本人のレジャーの特徴を理解した上で、個別レジャー関連産業の動向を取り上げその意義と重要性を理解します。 また、授業担当者は観光事業会社でのレジャー施設運営管理の経験からレジャー産業に関する実践的な教育を行います。
到達目標	日本でのレジャー産業の特徴と役割が理解できている。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果（資格）	レジャー関連産業動向の理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 レジャーの定義を理解する。	
2	レジャーとは何か	レジャー活動にはどのようなものがあるか理解する。	課題作成 事後：配布資料の復習
3	レジャーの意義①	何故レジャー活動を行うのかを考える。	事後：配布資料の復習
4	レジャーの意義②	何故レジャー活動を行うのかを考える。	事後：配布資料の復習
5	レジャーの範囲と規模①	レジャー関連産業の領域を理解する。	事後：配布資料の復習
6	レジャーの範囲と規模②	日本におけるレジャー活動の経済的な規模を理解する。	事前：配布資料の予習 課題作成
7	わが国のレジャーの歴史①	日本人のレジャー活動の発展を振りかえる。	事後：配布資料の復習
8	わが国のレジャーの歴史②	日本人のレジャー活動の発展を振りかえる。	事後：配布資料の復習
9	わが国のレジャーの歴史③	日本人のレジャー活動の発展を振りかえる。	事前：配布資料の予習 課題作成
10	レジャー産業事例Ⅰ（スポーツ産業①）	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習、
11	レジャー産業事例Ⅰ（スポーツ産業②）	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
12	レジャー産業事例Ⅱ（健康産業①）	健康産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
13	レジャー産業事例Ⅱ（健康産業②）	健康産業の特徴と動向を理解する。	事前：配布資料の予習 課題作成
14	レジャー産業事例Ⅲ（外食産業）	外食産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	課題作成

関連科目	観光学入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題の提出状況と内容（５０％）、定期テスト（５０％）の配分で評価する。
学生へのメッセージ	幅広い産業領域を扱うので、普段から余暇・レジャー関連ニュースに関心を持っておいてください。
担当者の研究室等	1号館7階　持永教授室（経済学部）
備考	

科目名	観光資源論	科目名（英文）	Resources for Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2◎,DP3○,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3049a0		

授業概要・目的	観光の対象や観光行動の目的となる観光資源に関して、経済学や文化人類学等を利用した学際的な視点から講義を行い、観光の対象となる資源を意識的に作り出していくことの重要性と、資源とされる側（地域の人々の生活、環境、文化など）への配慮を常に持つことの重要性を共に考えてもらうことを目的とする。
到達目標	観光資源となりうるものには様々なものがあることを理解する。また「観光する側」「観光を企画する側」だけでなく、「観光の対象とされる側」にも配慮した行動をとることができるようになる。
授業方法と留意点	毎回、具体的な事例を用いて授業を行う。受講者数によっては、発表してもらうこともあり得る。受講者の理解度に応じて、授業内容の変更もあり得る。
科目学習の効果（資格）	観光や地域に関係する業界、自治体などで業務を行う際に役立てることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、資源とは何か	なぜ観光における資源が問題になるのかを考える。	事後：授業の復習
2	自然	観光資源として自然を扱う場合の注意点、エコツーリズムの課題について考える。	事後：授業の復習
3	農業	グリーンツーリズムの問題点について考える。	事後：授業の復習
4	食べ物	特産品やＢ級グルメを利用した観光開発の課題を考える。	事後：授業の復習
5	伝統・歴史	エスニックツーリズムの問題点、地域の民俗芸能・伝統・歴史が観光化されることによって生じる課題について考える。	事後：授業の復習
6	世界遺産	世界遺産の概要について理解を深めるとともに、世界遺産に指定されることによる諸問題について考える。	事後：授業の復習
7	工業	近年注目を浴びている産業観光についての理解を深める。	事後：授業の復習
8	交通	本来は移動の手段である交通が観光資源となる例を知るとともに、交通を観光資源とする場合の課題を考える。	事後：授業の復習
9	スポーツ	スポーツをすることやスポーツイベントと観光との関係について認識する。	事後：授業の復習
10	芸術	アートツーリズムの効果と課題について考える。	事後：授業の復習
11	コンテンツ	コンテンツ（小説、映画、TV ドラマ、アニメ等）の舞台を巡る観光の現状について認識を深めるとともに、抱える課題について考える。	事後：授業の復習
12	文化観光	文化庁の文化観光戦略等について学習する。	事後：授業の復習
13	医療	メディカルツーリズムの課題を理解する。	事後：授業の復習
14	教育・学習	修学旅行や留学と観光との関係を考える。	事後：授業の復習
15	期末レポート	授業中に課題を出し期末レポートを作成する	

関連科目	観光経済論、観光産業政策論、文化政策論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	文化経済学	後藤和子・勝浦正樹編著	有斐閣
2	ローカルコンテンツと地域再生	増淵敏之著	水曜社
3			

評価方法（基準）	中間レポート 40%、期末レポート 60%で評価する。
学生へのメッセージ	観光について批判的に見る視点も身に付けた上で「どのような観光のあり方が望ましいのか」を考えてください。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　後藤教授室（経済学部）
備考	授業後の復習および期末レポート作成などの授業外の学修時間を授業合計で 20～30 時間程度行うことが望ましい。

科目名	国際投資論	科目名（英文）	International Investment
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	羅　鵬飛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2051a0		

授業概要・目的	本講義は，国際投資にかかる入門的な投資学，国際金融論および証券投資を学ぶ。
到達目標	入門的な収益率計算方法，為替レート決定理論，クロースボーダー資金フローや投資手段などの視点から経済の動きを把握できるようにする。 また，リーマンショックや最近のコロナショックを例として，グローバル経済環境がグローバル投資への影響要因を理解する。
授業方法と留意点	講義方法： 後期金曜日３限、大学の方針に従って実施する。 毎回の講義資料を teams と Moodle で配布する。(MOODLE のコースに自己登録してください、コース名：国際投資論 2022) ミニテスト受験および期末レポート提出：MOODLE
科目学習の効果（資格）	国際金融や国際投資に関する記事やニュースを理解し，それに関して自分自身の意見を述べることができるようにする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	国際投資とは何か	講義資料
2	投資とリターン	単利・複利	講義資料
3	マクロ金融の基礎１：資金	資金循環 融資手段：直接金融と間接金融 金融機関	講義資料
4	マクロ金融の基礎２：貨幣	貨幣の機能 貨幣の需要・供給 貨幣供給量（金融政策）と資産価格	講義資料
5	株価と株式投資の収益率	株式の投資収益率 PER	講義資料
6	株式投資のテクニカル指標	ローソクグラフの読み方 移動平均・移動平均線・出来高	講義資料
7	海外株式市場	海外株式市場の現状及び重要な海外株式市場の指標 ニューヨーク・欧州・中国株式市場	講義資料
8	国際金融の基礎１:為替レートと外国為替市場	為替レートと外国為替市場 名目為替レート・実質為替レート	講義資料
9	国際金融の基礎２:国際通貨	国際通貨制度と為替相場の現状 国際通貨・基軸通貨	講義資料
10	国際金融の基礎３:短期為替決定理論	金利平価	講義資料
11	国際金融の基礎４:長期為替決定理論	購買力平価	講義資料
12	国際投資環境１	先進国の金融市場 金融危機 コロナショックの影響	講義資料
13	国際投資環境２	途上国金融市場の発展 金融危機 コロナショックの影響	講義資料
14	海外直接投資（FDI）	FDI に関する事情	講義資料
15	まとめ	まとめ	講義資料

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『はじめての金融理論』	吉田真理子，大野早苗	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『証券投資の基礎』	野村証券	丸善
2	『国際金融論入門』	佐々木百合	新世社
3			

評価方法（基準）	定期試験(70%)、レポート(30%)を総合的に判定する。 定期試験:MOODLE で授業内容に関するミニテストを 3-4 回行う(計算問題を含む) レポート:国際投資について(具体的には後半の講義で公開する)
学生へのメッセージ	積極的に予習・復習を行って、遠慮なく質問してください。
担当者の研究室等	１号館７階　経済学部　羅研究室
備考	

科目名	国際マーケティング論	科目名（英文）	International Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△,DP3○,DP4○,DP5○,DP6△,DP7○,DP8△,DP9○		
科目ナンバリング	WDW3056a0		

授業概要・目的	この講義では、国際マーケティングについて基本的知識と基礎的なフレームワークを修得することを目的としています。マーケティング初学者対象ということで、まずマーケティングの基本的概念を説明した後に、国際マーケティングについて説明します。
到達目標	国際マーケティングについて理解を深めることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	国際マーケティングの全体像を示します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
2	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング志向に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
3	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスの基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング・ミックスに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
4	市場細分化	市場細分化について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
5	競争戦略	企業の競争関係について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、競争戦略に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
6	マーケティングと国際化	国際的な市場展開について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、ママーケティングと国際化に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
7	グローバル・マーケティングリサーチ	国際的に展開する場合のマーケティングリサーチについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングリサーチに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
8	海外市場への参入方式	海外市場へ参入する場合の方式について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、海外市場への参入方式に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
9	国際マーケティングと製品政策	国際マーケティングと製品政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと製品政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
10	国際マーケティングと価格政策	国際マーケティングと価格政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと価格政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
11	国際マーケティングと広告政策	国際マーケティングと広告政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと広告政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
12	国際的なサプライチェーン・マネジメント	国際的なサプライチェーン・マネジメントに関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際的なサプライチェーンに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
13	グローバルな組織デザイン	グローバルな組織設計について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバルな組織デザインに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
14	国際マーケティングにおける調整	グローバルに展開する時の調整について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングの調整に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティング全般に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバル・マーケティング戦略	三浦俊彦、丸谷雄一郎、犬飼知徳	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動　新版	武居　奈緒子	晃洋書房
2			
3			

評価方法（基準）	期末レポート（80%）、中間レポート（20%）
学生へのメッセージ	

担当者の 研究室等	１１号館８階 武居教授室
備考	

科目名	ＥＵ経済論	科目名（英文）	EU Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3057a0		

授業概要・目的	アメリカは世界一の経済大国であるとともに、世界文化の中心地でもあります。そんなアメリカを目指して世界中の観光客がアメリカを訪れており、今やフランスやスペインとともに観光大国と呼ばれるようになったアメリカの状況を、観光客数や観光収支に焦点をあてて説明します。この授業では、アメリカ文化が世界的に魅力を持ち続けている背景を理解し、アメリカ経済をさまざまなデータで客観的に眺め、アメリカ文化と経済について理解を深めます。
到達目標	アメリカ文化の概要とそれを支えるアメリカ経済を客観的なデータで把握し、経済と文化の関係を理解できるようになります。履修者はこの授業を受けることによってアメリカ経済・社会の現状と世界への影響についてデータを用いた実践的な知識と理解を深めることができます。
授業方法と留意点	この授業は一般教室で行いますが、パソコンを用いた実習的な授業を行いますので、履修者はノートパソコンを持参してください。たまたまノートパソコンの調子が悪いという時やノートパソコンを忘れた時は貸出 PC を使用することができますが、基本的には自分のノートパソコンを持参してください。ノートパソコンの代わりにタブレットでもかまいませんが、スマホで代替するのは無理です。
科目学習の効果（資格）	アメリカ文化と経済の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。特にアメリカ経済・社会の現状と世界への影響についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	なぜアメリカ経済を学ぶのか	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
2	アメリカ史(1)	なぜイギリスから独立したのか	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
3	アメリカ史(2)	南北戦争と建国理念	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
4	アメリカ史(3)	開拓とフロンティア精神	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
5	アメリカ史(4)	巨大企業と大量生産	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
6	アメリカ史(5)	大恐慌と経済復興	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
7	アメリカ国家の仕組み(1)	大統領と二大政党制	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
8	アメリカ国家の仕組み(2)	州の独立と連邦議会	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
9	アメリカ国家の仕組み(3)	社会保障と公的年金	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
10	アメリカ経済の仕組み(1)	スタグフレーションとレーガノミクス	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
11	アメリカ国家の仕組み(2)	ニューエコノミーとは何か	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
12	アメリカ国家の仕組み(3)	リーマンショックと世界金融危機	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。

	13	現代アメリカの課題(1)	IT 革命とイノベーション	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
	14	現代アメリカの課題(2)	オバマケアと社会保障	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
	15	現代アメリカの課題(3)	GAFA と世界経済	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。

関連科目	観光学入門、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論、観光経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業内で課す中間レポートを 50 点、期末レポートを 50 点として合計して総合評価します。
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。
担当者の 研究室等	１号館７階　朝田准教授室（経済学部）
備考	

科目名	農業・資源経済学	科目名（英文）	Economics of Agriculture and Resources
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3058a0		

授業概要・目的	本講義では、人間の生活を支える食料生産を担う農業とエネルギー産業について経済的に考察する。 食糧生産を担う農業は、私たちの生活を支える基本的な産業である。伝統的に農業は地域共同体の再生産と一体の自給自足的な形態で営まれてきたが、現代の農業は商品作物の販売を目的とする商業的農業である。多国籍アグリビジネスによる途上国の農業支配は、途上国の伝統的な農村構造を解体し、単一の商品作物の生産に特化させて途上国農業を変容させた（モノカルチャー）。さらに、近年の日本農業は経済のグローバル化の影響を受けて国際競争にさらされている。また、農薬、遺伝子組み換え作物、バイオ燃料などの科学技術の発展は、農業そのもののあり方も大きく変容させるとともに、環境問題の懸念も引き起こしている。本講義では、第一に、このような現代の農業に関わる変化について概観する。 産業革命以来、石炭、石油、天然ガスなどの化石エネルギーは、生産力を飛躍的に発展させることに貢献し、人間の生活を豊かにしてきた。しかし、化石エネルギーの大量消費は大気中の温室効果ガス濃度を上昇させて温暖化の原因となっている。また化石エネルギーは将来的に資源の枯渇が予測されている。さらに、化石エネルギーは地球に偏在しており、地下資源の豊富な地域の領有権をめぐって、たびたび戦争や紛争が起きてきた。また、化石エネルギーに代替するものとして、原子力発電などの核エネルギーの利用が進められてきたが、高レベル放射性廃棄物の処分問題や過酷事故による放射性物質汚染の問題など、困難な課題が残されている。1990 年代以後、世界的に見て技術革新と普及が著しいのが自然エネルギー（再生可能エネルギー）である。本講義では、第二に、産業革命以来、人類が依拠してきたエネルギーの過去、現在、未来について概観する。
到達目標	食料と農業、エネルギーと資源産業に関する諸問題と経済構造について、認識を深める。まずは、良質の海外ドキュメンタリーを視聴し、現実の経済関係についてイメージを豊かにすることを目指す。
授業方法と留意点	視聴覚教材を活用した対面講義形式で行う。資料やレジュメの配布、課題提出は Teams を利用する。
科目学習の効果（資格）	特になし

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	―――	―――
2	グローバリゼーションと世界の農業(1)　コーヒー豆から見えるグローバル経済	農産物価格の低迷と農業国の貧困、フェア・トレード運動。 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「エチオピア　コーヒー生産国の悲劇」（原題 ″Black Gold″, Fulcrum Productions, イギリス, 2005 年）	事後・レポート提出
3	グローバリゼーションと世界の農業(2)　プランテーションと現代の奴隷労働	アメリカ企業が所有するドミニカ共和国のサトウキビ畑で働くハイチ人不法移民労働者 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～前編　さとうきび農場の奴隷たち」（原題 ″Big Sugar″, Galafilm, カナダ、2005 年）	事後・レポート提出
4	先進国の「豊かな」食生活とその問題(1)　砂糖の大量消費と生活習慣病	砂糖産業、清涼飲料水産業のマーケティング 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～後編　肥満を招く甘い誘い」（原題 ″Big Sugar″, Galafilm, カナダ、2005 年）	事後・レポート提出
5	先進国の「豊かな」食生活とその問題(2)　食品廃棄物	先進国における大量の食品廃棄と途上国の貧困、飢え 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「食品廃棄物を減らせるか」（原題 ″Taste the Waste″, Schnittstelle Film Koln & Thurn Film,ドイツ、2010 年）	事後・レポート提出
6	農業の工業化　アメリカのトウモロコシ農業の工業化	遺伝子組み換え作物。トウモロコシの工業利用。バイオプラスチック、バイオ燃料。 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「キング・コーン～トウモロコシの国を行く」（原題 ″King Corn″, Mosaic Films / itvs, アメリカ、2008 年）	事後・レポート提出
7	持続可能な農業を目指して工業化された農業への批判	持続可能な農業を目指すアメリカの取り組み 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「食料増産へのチャレンジ　変わる企業型農業　～アメリカ～」（原題 ″Jimmy's Global Harvest Ep3, BBC Scotland, イギリス、2010 年）	事後・レポート提出
8	石油の世紀	19 世紀～21 世紀の石油の世界史、欧米石油メジャーによる石油採掘競争と協調、列強による植民地分割と世界大戦、資源ナショナリズムと OPEC、オイルショック、石油生産国対消費国 視聴覚教材：「石油の世紀」など	事後・レポート提出
9	戦後日本の石油開発	戦後の日本の石油戦略、欧米石油資本と民族資本 視聴覚教材：NHK「プロジェクト X 挑戦者たち　夢遙か、決戦への秘策　炎のアラビア／巨大油田に挑んだ技術者たち」など	事後・レポート提出

	10	日本の原子力政策	戦後日本の原子力政策、国策民営路線の破綻 視聴覚教材：NHK 教育「原発事故への道程(前篇)置き去りにされた慎重論」2011年。	事後・レポート提出
	11	バイオ燃料とその問題	アメリカ、トウモロコシのバイオ燃料利用急増による穀物価格高騰 視聴覚教材：NHK スペシャル「ファンドマネーが食を操る～穀物高騰の裏で」2007 年。 ブラジル。サトウキビ原料のバイオ燃料産業育成による貧困対策。 視聴覚教材：NHK スペシャル「ラテンアメリカの挑戦」2006 年。 インドネシアとマレーシア。パームオイル(椰子油)の生産拡大と熱帯雨林破壊、温暖化促進。 視聴覚教材:NHK クローズアップ現代「地球温暖化　森林破壊を食い止めろ」2007年。	事後・レポート提出
	12	シェールガス　アメリカのブームと環境問題	未曾有の埋蔵量を誇るアメリカのシェールガスの引き起こす新たな環境問題、水質汚染、地震 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「ガスランド」(原題"Gasland", Gasland Prodections, アメリカ、2010年)	事後・レポート提出
	13	自然エネルギー(1)　太陽光発電	太陽光発電。日本企業の先進性と海外企業のキャッチアップ	事後・レポート提出
	14	自然エネルギー(2)　風力発電	風力発電。デンマーク、ドイツ企業の先進性、日本企業の追撃	事後・レポート提出
	15	講義のまとめ	―――	事後・レポート提出

関連科目	経済地理、地球環境経済、国際経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	中間レポート（20%）、期末レポート（80%）で評価する。
学生への メッセージ	農業と資源産業は、私たちの生活の基礎となる食糧、エネルギーの供給や自然環境保全に関わる重要な産業分野です。 関心の高い学生の参加を求めます。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　野口准教授室（経済学部）
備考	テーマや視聴覚教材は、現実の情勢に応じて更新される場合がある。

科目名	国際経済の新動向	科目名（英文）	New Trends in International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3060a0		

授業概要・目的	本講義では最新の世界の経済問題や潮流を幅広く学習する。
到達目標	各地域の経済を把握することで世界経済の動きを俯瞰できるようになること。
授業方法と留意点	講義の映像と一緒に講義ノートを使って理解する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス、イントロダクション	コース内容の説明	講義の復習
2	アジアの発展	リーマンショック 世界恐慌	講義の復習
3	日本の可能性は？	金融緩和	講義の復習
4	移民を受け入れる国は栄える	EU 移民と犯罪	講義の復習
5	北朝鮮はこれから成長する	朝鮮半島統一 少子化	講義の復習
6	韓国財閥	農業 米軍	講義の復習
7	中国の世界覇権	米中貿易戦争の影響	講義の復習
8	チャイナリスク	出生率 借金	講義の復習
9	アメリカ経済	貿易戦争	講義の復習
10	ロシア経済	ウラジオストク	講義の復習
11	インド経済	官僚制度	講義の復習
12	社会の大変化	情報の入手法 投資の成功哲学	講義の復習
13	お金と経済のありかた	キャッシュレス社会	講義の復習
14	AI と成長する産業	ETF	講義の復習
15	まとめー復習		講義の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	お金の流れで読む 日本と世界の未来 世界的投資家は予見する	ジム・ロジャーズ	PHP 研究所
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト４０%、期末試験６０％で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	1 号館 7 階　田中研究室
備考	

科目名	現代ファイナンス論	科目名（英文）	Modern Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小塚　匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3064a0		

授業概要・目的

日本においては、長期にわたって景気の低迷とデフレ（継続的な物価下落）が続いていたことから、金融政策のあり方とその効果について関心が高まっていました。そして、担当者がこのシラバスを執筆している 2022 年１月現在では、日本において、円安の弊害が議論されるようになってきました。それまでは円安はマクロ経済に良い影響を与えるものとみなされていましたが、その状況は変わってきているのです。また、日本とアメリカで、金融政策の方針に違いが出てきており、今後の動向が注目されています。

さて、近年の金融政策は、金融市場を利用したものが主流となっております。では、金融政策はどのような手段で実施され、どのような効果が期待されているのでしょうか。そして、量的・質的金融緩和政策に代表される非伝統的金融政策とはどのようなものでしょうか。この講義では、金融市場の仕組みを踏まえながら、金融政策への理解を深めることを目的としています。

到達目標

この講義では、マクロ経済学でも取りあげている、金融政策の効果とそれを行う中央銀行の役割について、より深く考察します。さらに現在実施されている非伝統的金融緩和政策についても言及します。履修者の皆さんが、この講義で得た知識をもとに、金融政策について自分自身の意見を持つことができるようになってほしいと考えています。

授業方法と留意点

この講義で主に利用する ICT ツールは、Microsoft Teams と Microsoft Forms です。念のため、Teams コードを利用してこの講義のチームに参加してください。

無断欠席の回数が多い学生は単位取得資格を失います。ご注意ください。

練習問題はその回の講義内容の復習として出題します。練習問題は Microsoft Forms で解答する形式で実施し、次回講義開始時までに提出していただきます（成績評価の対象です）。また、講義の最初に前回の復習をしますが、そのときに発展学習として、グループワ

科目学習の効果（資格）

金融政策に関する知識を習得できます。また、金融に関するニュースの理解が深まります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに:この講義で学ぶこと:金融・金融政策とは何か	授業内容の概要、注意事項の説明、イントロダクション	シラバスをよく読んでおくこと 講義資料（1）
2	基本事項の復習①:金融政策の効果	金融政策は何のために行うのか／中央銀行は何か	講義資料（２）
3	基本事項の復習②:貨幣の分類と金利／金融市場の分類	貨幣（マネーストック）の分類／貨幣と金利の関係について	講義資料（３）
4	基本事項の復習③： 金融市場の分類 る金融調節の実際	金融政策のオペレーションの場である、金融市場について	講義資料（４）
5	基本事項の復習④:金融政策の伝統的手段	金融政策の伝統的手段である、公定歩合操作・預金準備率操作・公開市場操作について	講義資料（５）
6	基本事項の復習⑤：金融調節・実際の金融政策運営	金融機関の資金繰りに対応した資金受給調整の実際について／波及経路について	講義資料（６）
7	基本事項の復習⑥:マクロ経済学理論と金融政策	貨幣数量説（長期モデル）と IS-LM モデル（短期モデル）の復習	講義資料（７）
8	日本銀行による金融政策の実際	1990 年代末からの日本における金融政策の変遷について	講義資料（８）
9	非伝統的金融政策とは何か	ゼロ金利政策など非伝統的金融政策の概要について	教科書第１章
10	非伝統的金融政策の効果:理論的なメカニズム（１）	流動性の罠について／非伝統的金融政策の株価・為替レートを通じた効果など	教科書第２章
11	非伝統的金融政策の効果:理論的なメカニズム（２）	流動性の罠／ゼロ金利コミットメント／Kurugman モデル／実証的な証拠	教科書第２章・３章
12	「２％物価安定目標」の是非	デフレ均衡について／Bullard の理論モデルについて	教科書第４章
13	非伝統的金融政策の副作用	３つの主要リスク／出口戦略	教科書第５章
14	マイナス金利とは何か	日本におけるマイナス金利政策の概要／実体経済への影響」	教科書第６章
15	まとめ		これまでの講義内容

関連科目

マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、金融論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	非伝統的金融政策 -- 政策当事者としての視点	宮尾龍蔵	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ベーシックプラス　金融論　第３版	家森信善	中央経済社
2			
3			

評価方法（基準）

練習問題（50%）、試験（50%）で評価します。

練習問題は、Microsoft Forms で実施します。練習問題は、その回の講義内容の復習問題として出題しますので、原則として次回の講義までに解答してください（締め切りを設けます）。

試験は期末試験期間に実施する予定です。ただし、社会状況の変化によっては、Microsoft Teams を利用したオンライン試験に切り替える可能性もあります。

なお、この講義には出席点はありませんが、無断欠席の回数が多い場合は、単位取得資格を失います。教室に入った

学生へのメッセージ

この講義は、教科書を持っていることを前提に講義を進めます。教科書は必ず購入してください。

疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。また例題や練習問題にも積極的に取り組んで下さい。

	この講義は、これまでに学んだ内容の積み重ねが大切です。また、それなりに高度な内容も含まれます。講義をただ聞いているだけでは、十分に理解できません。きちんと出席するだけではなく、復習をして理解に努めてください。「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」や金融関係科目の内容を理解していることが望ましいので、それらの知識
担当者の 研究室等	１号館７階　小塚研究室
備考	

科目名	ファイナンシャル・プランニング	科目名（英文）	Financial Planning
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2○,DP3○,DP4△,DP5◎,DP6○,DP7○,DP8△,DP9○		
科目ナンバリング	WDW3065a0		

授業概要・目的	FP3 級取得レベルの知識の習得
到達目標	FP 技能士の資格試験は毎年 5 月・9 月・1 月に実施されますが、夏期休暇中の授業の復習を通じて、9 月試験の合格を目指します。
授業方法と留意点	・原則的に講義形式です。 ・講義内で頻繁に問題演習を行います。 ・おおよそ講義 2 回に 1 回は確認テストを行います。成績評価にも関連しますので、確認テストは必ず受けるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	FP3 級の取得、FP2 級の学習への予備的学習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ファイナンシャル・プランニングとは何か	ファイナンシャルプランニングおよびファイナンシャルプランナー（以下 FP）に関する概要	特になし
2	ライフプランニングと資金計画（1）	ライフプランニングの考え方・手法	第 2 回の復習
3	ライフプランニングと資金計画（2）	公的年金制度	第 3 回の復習
4	ライフプランニングと資金計画（3）	ライフプラン策定上の資金計画	第 2 回から第 4 回までの復習（第 5 回に確認テスト①）
5	確認テスト①　＋　リスク管理（1）	生命保険	第 5 回の復習
6	リスク管理（2）	損害保険　第三の保険	第 5 回から第 6 回までの復習（第 7 回に確認テスト②）
7	確認テスト②　＋　金融資産運用（1）	各種経済指標　マーケット環境の理解 投資信託	第 7 回の復習
8	金融資産運用（2）	債券・株式　その他金融商品　金融資産に係る税金　ポートフォリオ運用	第 7 回から第 8 回までの復習（第 9 回に確認テスト③）
9	確認テスト③　＋　タックスプランニング（1）	所得税制度　各種所得①	第 9 回の復習
10	タックスプランニング（2）	各種所得②　所得税計算	第 9 回から第 10 回までの復習（第 11 回に確認テスト④）
11	確認テスト④　＋　不動産（1）	不動産の価格　不動産取引に係る法律 不動産登記	第 11 回の復習
12	不動産（2）	不動産に係る関連法規（都市計画法・建築基準法など）　不動産に係る税金	第 11 回から第 12 回までの復習（第 13 回に確認テスト⑤）
13	確認テスト⑤　＋　相続・事業承継（1）	贈与・相続制度	第 13 回の復習
14	相続・事業承継（2）	贈与・相続に係る税金	第 13 回から第 14 回までの復習（第 15 回に確認テスト⑥）
15	確認テスト⑥　＋　今後の学習について	期末テストについて 今後の FP 学習について	特になし

関連科目	金融論・地域金融論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	確認テスト（計 6 回）60%、定期試験 40%
学生へのメッセージ	FP 試験の範囲は非常に広範ですが、それだけ幅広いファイナンスや経済学の学習が可能です。これまで学んだ事項を、現実の生活に応用するための基礎力を学ぶことができますので、資格取得を目指すきっかけとして積極的に参加してください。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　植杉教授室(経済学部)
備考	病欠その他都合により確認テストが受けられない場合には、理由を添えて、後日受けるようにしてください（もし受けないと、その回のテストは 0 点扱いとします）。 FP 試験は年間 3 回あります（5 月・9 月・1 月）ので、積極的に受験することを勧めます。

科目名	アメリカ経済・文化論	科目名（英文）	Economy and Culture of the U.S.
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3066a0		

授業概要・目的	アメリカは世界一の経済大国であるとともに、世界文化の中心地でもあります。そんなアメリカを目指して世界中の観光客がアメリカを訪れており、今やフランスやスペインとともに観光大国と呼ばれるようになったアメリカの状況を、観光客数や観光収支に焦点をあてて説明します。この授業では、アメリカ文化が世界的に魅力を持ち続けている背景を理解し、アメリカ経済をさまざまなデータで客観的に眺め、アメリカ文化と経済について理解を深めます。
到達目標	アメリカ文化の概要とそれを支えるアメリカ経済を客観的なデータで把握し、経済と文化の関係を理解できるようになります。履修者はこの授業を受けることによってアメリカ経済・社会の現状と世界への影響についてデータを用いた実践的な知識と理解を深めることができます。
授業方法と留意点	この授業は一般教室で行いますが、パソコンを用いた実習的な授業を行いますので、履修者はノートパソコンを持参してください。たまたまノートパソコンの調子が悪いという時やノートパソコンを忘れた時は貸出 PC を使用することができますが、基本的には自分のノートパソコンを持参してください。ノートパソコンの代わりにタブレットでもかまいませんが、スマホで代替するのは無理です。
科目学習の効果（資格）	アメリカ文化と経済の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。特にアメリカ経済・社会の現状と世界への影響についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	なぜアメリカ経済を学ぶのか	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
2	アメリカ史(1)	なぜイギリスから独立したのか	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
3	アメリカ史(2)	南北戦争と建国理念	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
4	アメリカ史(3)	開拓とフロンティア精神	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
5	アメリカ史(4)	巨大企業と大量生産	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
6	アメリカ史(5)	大恐慌と経済復興	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
7	アメリカ国家の仕組み(1)	大統領と二大政党制	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
8	アメリカ国家の仕組み(2)	州の独立と連邦議会	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
9	アメリカ国家の仕組み(3)	社会保障と公的年金	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
10	アメリカ経済の仕組み(1)	スタグフレーションとレーガノミクス	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
11	アメリカ国家の仕組み(2)	ニューエコノミーとは何か	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
12	アメリカ国家の仕組み(3)	リーマンショックと世界金融危機	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。

	13	現代アメリカの課題(1)	IT 革命とイノベーション	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
	14	現代アメリカの課題(2)	オバマケアと社会保障	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
	15	現代アメリカの課題(3)	GAFA と世界経済	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。

関連科目	観光学入門、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論、観光経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業内で課す中間レポートを 50 点、期末レポートを 50 点として合計して総合評価します。
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。
担当者の 研究室等	１号館７階　朝田准教授室（経済学部）
備考	

科目名	交通経済論	科目名（英文）	Economic Analysis of Transportation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3067a0		

授業概要・目的	人類が経済活動を発展させていくにあたって町と町の間で物を運ぶということが大変重要な課題でした。つまり、交通経済は社会が発展していくためにとても重要な要素となっているのです。この授業では交通経済の考え方について現実社会の事例をあげながら、その理論的な考え方を解説していきます。
到達目標	現実社会においてどのような事例が交通経済論の範囲なのか理解できるようになります。交通経済に関する現実社会の事例について基礎的なデータを扱うことができるようになります。
授業方法と留意点	この授業は一般教室で行いますが、パソコンを用いた実習的な授業を行いますので、履修者はノートパソコンを持参してください。たまたまノートパソコンの調子が悪いという時やノートパソコンを忘れた時は貸出 PC を使用することができますが、基本的には自分のノートパソコンを持参してください。ノートパソコンの代わりにタブレットでもかまいませんが、スマホで代替するのは無理です。
科目学習の効果（資格）	現実社会の交通経済について客観的なデータで説明することができるようになります。特に現在の日本経済における交通の役割についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	社会における交通経済の重要性	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
2	社会における交通経済(1)	マイカーやタクシーの利用選択	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
3	社会における交通経済(2)	さまざまな交通機関における運賃	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
4	交通サービスの特殊性(1)	トラック、バスなどの利用率	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
5	交通サービスの特殊性(2)	ラッシュアワーと交通機関の選択	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
6	交通データの分析	さまざまな交通機関の輸送量	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
7	交通の費用	交通機関への需要	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
8	運賃理論	混雑と交通量	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
9	運賃政策	交通企業と運賃	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
10	規制政策	規制緩和と交通機関	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
11	交通投資	交通プロジェクト大規模投資	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
12	外部補助と内部補助	高速道路と経営問題	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
13	交通ネットワーク	利用者行動と混雑緩和	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の

				該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
	14	交通経済の展望	交通経済と国民経済	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
	15	まとめ	交通経済の重要性を振り返る	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。

関連科目	観光経済論、観光資源論、航空産業論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業内で課す中間レポート 50 点分と期末レポート 50 点分を総合して評価します。提出には Webfolder を使用します。実習型授業ですので、授業 15 回中 10 回以上の出席がなければ評価しません。
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　朝田准教授室（経済学部）
備考	

科目名	公共経済学	科目名（英文）	Public Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾　智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8◎,DP9○		
科目ナンバリング	WDW3069a0		

授業概要・目的	社会には市場メカニズムだけでは実現できない社会全体の利益が存在します。その実限のためには公的部門の活動が不可欠です。この講義では，我々のライフサイクルの諸現象（特に社会保障の問題）を追いながら，それを支える制度を経済学の視点から説明していきます。
到達目標	次の項目について説明ができて，必要に応じて計算できることを目標とする。 ・公共経済学の基礎的理論。 ・社会保障制度（教育，雇用保険，労災保険，年金，医療，社会保険など）。 ・講義の知見からから自身の今後のライフイベントとその対処策を考えることができる。 ・現代日本で起こっている社会保障の問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と留意点	授業資料は ICT ツールを通して配布します。
科目学習の効果（資格）	・自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。 ・自身の人生とライフイベントを客観視できるようになり，キャリア形成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方，評価の方法，授業内容の全体像について説明します。	ノート，配布資料を読み返して復習する。
2	ライフサイクルと社会保障制度	生誕から死までのライフサイクル（ライフサイクル仮説）と社会保障の関わりについて学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
3	少子高齢化問題	人口統計を確認し，人口減少社会における社会保障制度のあり方を学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
4	人生前半の社会保障(1)	幼児教育から中等教育まで，なぜ教育は行われるのかを考えます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
5	人生前半の社会保障(2)	人はなぜ進学するのか。高等教育の社会的意味を考えます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
6	社会保険制度(1)	民間医療保険を題材にして逆選択の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
7	社会保険制度(2)	社会保険制度が雇用・賃金に与える影響について学習します。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
8	失業	労働市場の均衡と失業理論について学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
9	雇用保険・労災保険	雇用保険と労災保険について学び，就労期のセーフィティネットのあり方について，考えます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
10	公的年金制度	公的年金制度の内容について学び，人生 100 年時代の資産形成について考えます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
11	医療保険制度	医療保険制度について，逆選択の理論を復習しながら説明します。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
12	公共経済学の理論	市場均衡は最適な資源配分を実現するかどうかを解説します。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
13	公共経済学の理論	公害はなぜ起こるのかを例に外部性の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
14	公共経済学の理論	公的年金を題材にして不確実性の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
15	まとめ	これまでの講義を振り返り，公共経済学の基本的な考え方を復習します。	（事前）これまでの配付資料を読み，ノートの整理を行う（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。

関連科目	労働経済学，公共政策論

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ライフサイクルの経済学</td><td>橘木俊詔</td><td>ちくま新書</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・授業毎の課題（70%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。
・復習問題（10%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。
・レポート（20%）：授業内容に関するテーマについての説明文。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>ライフサイクルの諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。公的部門が行う政策とそれによって形作られる法律と制度の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか，経済学的思考で考えてください。参考書は購入必須ではありませんが，手元にあると学習の助けとなると思います。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　平尾研究室（経済学部）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	公益会計論	科目名（英文）	Accounting of Public Utilities
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7○,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3070a0		

授業概要・目的	・企業の財政状態や経営成績を把握するための財務会計と同様にバランスシート等を導入して、長期的な収支や事業実績を把握するため、発生主義や複式簿記を採用する自治体が増加している。 ・その意義について講義する。民間企業同様、自治体も経営責任が問われる時代であり、その情報提供手法である公（益）会計処理について理解する。 ･政令指定都市における一般会計、公営企業会計の部署での予算・決算調書、市議会答弁作成・実施等の経験を活かして公益会計が市民への説明責任を果たすべき仕組みであるとの視点から、あるべき方向性を考察する実践的な授業を行う。
到達目標	・企業会計は、発生主義、複式簿記を採用している。 ・国や多くの地方自治体は、現金主義、単式簿記を採用している。 ・両者の違いを理解し、東京都や大阪市が導入している複式簿記方式の会計の意義について理解する。 ・今後検討されている国や地方自治体業務の国民への説明責任を達成するための公益会計の果たす役割を理解する。
授業方法と留意点	・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。下記内容を講義する。 ・簿記及び会計学関連科目の履修済を奨励する。これらの科目の基礎知識が履修に必要である。 ・公益を目的とした公会計は、国及び地方公共団体で行われている会計であり、地方自治法に基づき、詳細については条例・規則に規定され、一般会計、特別会計は、会計年度独立の原則を採用し、単年度会計、現金主義、単式簿記の処理を行っている
科目学習の効果（資格）	・地方自治体における予算・決算処理や会計処理体系など基本的な公会計知識を習得する。 ・複式簿記、発生主義会計処理を前提とする簿記、会計学等の受験科目がある資格試験における会計処理の理解の一助となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	公益会計（公会計）とは 簿記の常識	公会計とは何か、簿記とは何かについて講義する。	配布資料　「作る」－簿記の常識
2	会計の意義	会計の前提、基本ルール及び作成する財務諸表について講義する。	配布資料　「読む」－会計の常識
3	公会計の意義	公会計の対象、法及び現状と基準について講義する。	教科書　第１章　公会計の基礎
4	財務報告	財務報告、発生主義及び財務諸表の焦点、現金主義との比較等について講義する。	教科書　第２章　財務報告
5	財務諸表の構成要素－資産と負債	財務諸表の構成要素の定義、特徴及び資産、負債について講義する。	教科書　第３章　財務諸表の構成要素（１）－資産と負債
6	財務諸表の構成要素－収益と費用	（収入、歳入）と（支出、歳出）について講義する。	教科書　第４章　財務諸表の構成要素（２）－収益と費用
7	公的部門の業績評価	公的部門の評価について講義する。	教科書　第５章　公的部門の業績評価
8	中央政府会計－我が国の中央政府会計制度	中央政府における予算制度について講義する。	教科書　第６章　中央政府会計（１）－我が国の中央政府会計制度
9	中央政府会計－会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要	予算制度の問題点と予算編成改革について講義する。	教科書　第７章　中央政府会計（２）－会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要
10	地方政府会計－我が国の地方自治体会計の概要	地方自治体の会計制度の概要、予算・決算及び収入・支出等について講義する。	教科書　第８章　地方政府会計（１）－我が国の地方自治体会計の概要
11	地方政府会計－新公会計改革と財政健全化法	新地方公会計改革による財務諸表関係について講義する。	教科書　第９章　地方政府会計（２）－新公会計改革と財政健全化法
12	これまでのまとめ(習熟度等の検証)	これまでの一般会計についての理解と習熟度について試験またはレポート作成によって評価する。	第１１回までの資料等
13	公営企業会計	公営企業会計について講義する。	教科書　第１０章　公営企業会計
14	各国の政府会計－アメリカ	アメリカの公会計について講義する。GPRA（政府業績評価法）について講義する。	教科書　第１１章　各国の政府会計（１）－アメリカ
15	各国の政府会計－イギリス	イギリスの公会計について講義する。ブレア政権での予算会計改革について講義する。	教科書　第１２章　各国の政府会計（２）－イギリス

関連科目	地方自治法、財政法等の行政法関連の科目および簿記、会計学関係の科目 地方自治論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公会計	稲沢克祐	同文館出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公会計改革　ディスクロージャが『見える行政』をつくる	公会計改革研究会議	日本経済新聞社
2			
3			

評価方法（基準）	レポート内容及び試験等（70%）及び、レポート提出回数等を受講態度（30%）として総合評価する。
学生への	・公務員を目指す場合、地方公共団体等が実施している基本的な会計処理や予算積算制度を理解するための講義である。

メッセージ	・民間企業の会計処理との比較も行う。 ・税収がどのように会計処理されるのか、経済学部学生として公会計への関心を持って頂きたい。 ・簿記や会計学の講義を修得していることが望ましい。 ・仕訳や資産評価などの民間企業会計処理について理解していることが望ましい。 ・勘定科目、仕訳、財務諸表の知識が必要です。日商簿記 3 級程度の勘定科目と仕分け処理の関係を理解していることが必要です。 ・地方公務員
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　田井教授室(経済学部)
備考	

科目名	社会保障論	科目名（英文）	Social Security
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大槻　忠史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7○,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3071a0		

授業概要・目的	社会保障の制度について、日本を主たる例として、実証及び理論の両側面から理解すること。また、1つの問題について、様々な立場・視点から考察をすることで、社会の多様性について考えるきっかけとすること。
到達目標	次の二つを目標とします。(1) 上記の概要・目的に必要となる初・中級程度の知識の習得すること、(2) 日本の社会保障制度について、歴史的変遷とその背景を考慮しつつ、現状と問題を受講者各自の視点で考えられるようになること。
授業方法と留意点	基本的に講義形式にて行います。 コメントや課題等で受講者の理解度の確認するとともに、場合によっては、授業内容を変更することもあります。
科目学習の効果（資格）	社会保障を含め、日本の社会制度全般について考える手がかり、またその視点が得られるようになると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	社会保障とは何かを考える。	事前：シラバスの熟読 事後：授業内容の復習
2	日本の労働と社会保障:分析の視点（1）	社会において「働くこと」とはどういうことか、その意味を考える。	事前：事前課題1 事後：授業内容の復習
3	日本の労働と社会保障:分析の視点（2）	若者という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：事前課題2 事後：授業内容の復習
4	日本の労働と社会保障:分析の視点（3）	高齢者という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：事前課題3 事後：授業内容の復習
5	日本の労働と社会保障:分析の視点（4）	ジェンダー、家庭という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：事前課題4 事後：授業内容の復習
6	日本の労働と社会保障:分析の視点（5）	雇用形態の多様性という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：事前課題5 事後：授業内容の復習
7	日本の労働と社会保障:分析の視点（6）	外国人労働及び「就職氷河期世代」という観点から、日本の労働及び社会保障を考察する。	事前：事前課題6 事後：授業内容の復習
8	日本の労働と社会保障:分析の視点（7）	労働についての理論的側面から、これまでの内容を検討する。	事前：事前課題7 事後：授業内容の復習、小課題
9	日本の社会保障（1）：財源	日本の社会保障を支える財源と実態について考察する。	事前：事前課題8 事後：授業内容の復習
10	日本の社会保障（2）:医療保険制度の変遷と実態	日本の医療保険制度について、歴史的変遷と現状を考察する。	事前：事前課題9 事後：授業内容の復習
11	日本の社会保障（3）:医療保険制度とその問題	日本の医療保険制度について、その問題点を考察する。	事前：事前課題10 事後：授業内容の復習
12	日本の社会保障（4）:年金制度の変遷とその実態	日本の年金制度について、歴史的変遷と現状を考察する。	事前：事前課題11 事後：授業内容の復習
13	日本の社会保障（5）:年金制度とその問題	日本の年金制度について、その問題点を考察する。	事前：事前課題12 事後：授業内容の復習
14	日本の社会保障（6）:諸外国の現状	諸外国の事例をいくつか紹介することで、日本の社会保障制度を相対的に見る視点をえる。	事前：事前課題13 事後：授業内容の復習
15	まとめ	日本の社会保障制度をめぐる実態と問題点について、これまでのまとめを行い、日本社会の現状を認識する。	事前：事前課題14 事後：授業内容、及び未定着部分の再復習

関連科目	労働経済学など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特定の教科書は利用しません。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働経済学入門-新しい働き方の実現を目指して	脇坂明	日本評論社
2	現代日本経済史	中村宗悦	学文社
3			

評価方法（基準）	期末試験 60（%）、及び事前課題と小課題 40（%）とします。 但し、授業形式により変更の可能性があります。
学生へのメッセージ	社会保障(制度)は、ライフステージのどの段階においても、必ず何らかの関わりがあります。その現状と課題などについて、受講者のそれぞれの立場で自ら考える機会にして欲しいと思います。
担当者の研究室等	1号館7階　大槻講師研究室
備考	

科目名	世界観光事情	科目名（英文）	International Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3072a0		

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています。一方で、急激な変化であるため、日本での観光に対する研究や認識は十分に進んでいません。この授業では、日本と世界の観光の現状について、さまざまなデータで客観的に眺め、世界の観光事情について理解を深めます。
到達目標	日本と世界の観光の現状について客観的なデータで把握し、経済における観光の役割を理解することを目標とします。特に日本経済における観光の役割についてデータを用いて実践的な知識と理解を得られるようになります。
授業方法と留意点	パソコン教室での実習型講義形式となります。まず、授業内容に関する説明を講義形式で行った後、それに関係する演習問題をパソコンで解いていきます。
科目学習の効果（資格）	日本と世界の観光の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。日本経済における観光の役割について最新の状況はどうなっているかデータを用いて説明できるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要の紹介	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
2	世界の観光の動向(1)	国際観光客の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
3	世界の観光の動向(2)	国際観光客増加の要因	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
4	日本の観光の動向(1)	近年の訪日外国人旅行者の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
5	日本の観光の動向(2)	訪日外国人旅行者増加の要因	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
6	観光産業	産業としての観光のとらえ方	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
7	観光政策	観光行政の変遷と観光政策	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
8	ツーリズム	体験型旅行としてのツーリズムの形態	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
9	MICE	MICE の４つの形態と今後の可能性	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
10	観光のデータ分析(1)	世界各国の観光客の動向についてデータ分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
11	観光のデータ分析(2)	訪日外国人旅行者の地域分布についてデータ分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
12	観光のデータ分析(3)	RESAS による都道府県観光客の動向の分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
13	観光のデータ分析(4)	RESAS による市町村観光客の動向の分析	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
14	観光のデータ分析(5)	データ分析結果のレポートへの反映	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。
15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の重要点	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、どのような練習問題があるか予習しておく(2時間)。 【事後学習】毎回、授業内で例題があるので、それを解いていく(2時間)。

関連科目	観光経済論　観光産業政策論　観光資源論　レジャー産業論

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業内で課す中間レポート 50 点分と期末レポート 50 点分を総合して評価します。提出には WebFolder を使用します。実習型授業ですので、授業 15 回中 10 回以上の出席がなければ評価しません。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　朝田准教授室（経済学部）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	行政法	科目名（英文）	Administrative Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2076a0		

授業概要・目的	私たちの生活や新聞で目にする多くの事柄には，さまざな行政活動や行政サービスが関わっています。行政法とは，そのような多岐にわたる行政の活動・サービスの根拠や仕組みを規律する法規範の総称です。この授業では，行政プロセスを規律するそのような法的な仕組み，ルールとしてどのようなものがあるか，具体例に即して学ぶことを目的としています。
到達目標	この授業では，学生に次の３点を達成することが期待されます。 （１）具体例に即して，行政法の基本原理・原則を理解し，分かりやすく説明できる。 （２）具体例に即して，行政法の基本的な制度・仕組みを読み解くことができる。 （３）具体的問題について，行政法の原則，制度をもとに思考・処理できる。
授業方法と留意点	・反転授業 予め事前資料に目を通し，基礎知識を身に着けた上で授業に臨んでください。授業ではこれらの基礎知識を問う問題と，発展的な課題を扱います。 ・授業資料 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので，そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください（授業中の配布はありません）。 ・その他 授業中は，質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り，皆さんの理解を助けるようにします。間違いをおそれずに積極的に発言することを望んでいます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験および各種の資格試験で問われる行政法の基礎学力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 行政法の意義	授業・試験方法，成績評価などの説明。 行政法と社会の関わりを解説する。	事前学習:教科書 Chapter １を事前に読んでおくこと。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
2	法律による行政の原理	法律による行政の原理（法治国原理）の考え方と，その派生原理を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ２を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
3	行政法の一般原則（１）	比例原則を中心に，法治国原理に基づく一般原則を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ３を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
4	行政法の一般原則（２）	説明責任を中心に，市民参加に関するく一般原則を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ４を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
5	行政行為（１）	行政行為の基本的考え方 内容・手続に関するルール	事前学習：教科書 Chapter ５を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
6	行政行為（２）	行政裁量の基本的考え方と司法審査の枠組み	事前学習：教科書 Chapter ６を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
7	行政手続	行政手続の基本的な考え方，具体的なルールを学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ７を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
8	行政計画	都市計画を中心に，行政計画の基本的な内容とそれを巡るルールを学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ８を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
9	行政指導	行政指導の特徴と，その法的な規律について学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ９を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
10	行政上の義務履行確保	代執行制度を中心に義務履行の基本的仕組みについて学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter １１を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
11	行政訴訟法（１）	取消訴訟の基本的仕組み，要件	事前学習：教科書 Chapter １２を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
12	行政訴訟法（２）	取消訴訟以外の抗告訴訟について，義務付け訴訟を中心に学ぶ，	事前学習：教科書 Chapter １２を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
13	行政不服申立て	行政不服審査法の考え方と仕組みについて学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter １６を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
14	国家賠償	違法な行政の活動による損害の賠償制度について。	事前学習：教科書 Chapter １７を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
15	損失補償	適法な行政活動により生じる損失の補償の仕組みについて。	事前学習：教科書 Chapter １８を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。

関連科目	憲法，民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	社会とつながる行政法入門[第２版]	大橋洋一	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	行政法 Ｉ　現代行政過程論	大橋洋一	有斐閣
2	グラフィック　行政法入門	原田大樹	新世社
3	行政法判例 50！	大橋真由美ほか	有斐閣

評価方法（基準）	毎回の授業で予習課題，復習課題を課し，授業の理解度（課題の提出内容）を評価します。 ・予習課題：２０％ ・復習課題：４０％

	・演習問題：４０％
学生への メッセージ	公務員志望，社会問題に関心のある学生の受講を歓迎します。
担当者の 研究室等	笛木講師室（11 号館 9 階）
備考	

科目名	労働法	科目名（英文）	Labor Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2077a0		

授業概要・目的	労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団体法」の２分野に大きく分けられますが、この授業では双方の分野を含めて労働法を概観します。
到達目標	この授業を通じて、学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	授業では教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布します。また、関連する判例や資料を指定することもあります。 可能な限り六法を準備して下さい。 講義では課題（小テスト）を課することがあります。最終回講義では期末試験を行います。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と基本構造	・労働法の全体像、規律構造 ・労働者の権利について	教科書第１編（2 頁－22 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
2	労働者保護の一般原則 労働契約	・労基法の適用範囲 ・労働契約の基本	教科書第２編第１章から第３章の２まで（２４頁-79 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
3	労働契約の当事者の権利義務	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務 ・配転と使用者の業務命令権	教科書第２編第３章の３から６まで（79 頁-109 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
4	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第２編第４章（110 頁-131 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
5	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第２編第５章の１から６（132 頁-154 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
6	休憩・休日 年次有給休暇 年少者と女性労働者の保護	・休憩に関する規制 ・年休権の内容 ・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第２編第５章の７から第７章まで（154 頁-184 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
7	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第２編第８章（185 頁-204 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
8	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第２編第９章（205 頁-223 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
9	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第２編第１０章(224 頁-242 頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
10	解雇・定年・退職 多様な働き方	・解雇の法理 ・パート労働、派遣労働	教科書第２編第１１、１２章（243 頁-286 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
11	労働組合の基本	労働組合の意義と目的	教科書第４編第１、２章（312 頁-329 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
12	団体交渉と労働協約	・団体交渉権の保障とその範囲 ・労働協約の効力	教科書第４編第３、４章（330 頁-354 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
13	労働争議	・争議行為の意義と限界	教科書第４編第５章（355 頁-379 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
14	組合活動と不当労働行為	・就業時間中の組合活動 ・不当労働行為の意義と救済	教科書第４編第６、７章（380 頁-418 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
15	期末試験	これまで学習した事項について試験を行います。	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと（1 時間）

関連科目	日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法［第 13 版］	安枝英訷・西村健一郎	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働判例百選[第９版]		有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	期末テスト（7 割）、授業中の小テストを含む受講態度（3 割）を基礎とした総合評価をします。
学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11 号館９階　川谷研究室
備考	小テストを実施した場合、次回講義で問題の解説を行います。

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤　未奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、そのほかの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーションウォーミングアップ	受講に関する諸連絡（授業の進め方、各種テストについての説明など） 教科書内容を概観する（世界のさまざまな国に対するイメージを確認する）	授業内容の予習；e-learning（English Central）学習 0001-0021
2	INDIA (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0022-0042
3	INDIA (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0043-0063
4	PHILIPPINES (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0064-0084
5	PHILIPPINES (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0085-0105
6	THAILAND (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0106-0126
7	THAILAND (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0127-0147
8	VIETNAM (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0148-0168
9	VIETNAM (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0169-0190
10	KOREA (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0191-0212
11	KOREA (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0213-0234
12	FRANCE (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習
13	FRANCE (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習
14	ITALY	語彙学習、リーディング演習、映像の内容理解演習	テストの対策としての復習
15	前期まとめテスト実施	（終了後）テストの解説	まとめテストの復習

関連科目	英語 Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	World Adventures	Scott Berlin, 小林めぐみ	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test – Revised Edition –（指定の単語集）	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりおこなってください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号舘 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤　未奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、そのほかの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション DENMARK (1)	受講に関する諸連絡（授業の進め方、各種テストについての説明など） 背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0235-0278
2	DENMARK (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0279-0324
3	PORTUGAL (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0325-0370
4	PORTUGAL (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0371-0415
5	TURKEY (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0416-0438
6	TURKEY (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0439-0459
7	EGYPT (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0460-0480
8	EGYPT (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0481-0501
9	SOUTH AFRICA (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0502-0522
10	SOUTH AFRICA (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0523-0543
11	BRAZIL (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0544-0565
12	BRAZIL (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習；e-learning (English Central) 学習 0566-0587
13	PERU (1)	背景情報確認、語彙学習、リーディング演習	授業内容の予習・復習
14	PERU (2)	映像の内容理解演習、聞き取り演習、音読演習	授業内容の予習・復習
15	後期まとめテスト実施	（終了後）テストの解説	まとめテストの復習

関連科目	英語 Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	World Adventures	Scott Berlin, 小林めぐみ	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test – Revised Edition –（指定の単語集）	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題（EnglishCentral）　20% TOEIC Bridge　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりおこなってください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号舘 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

	する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	―

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Carnaval	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary - Revised Ed.	Nishiya	Seibido
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 10% Homework assignments 10% Class participation and attitude, ability, vocabulary 70%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson. If there is any change due to online instruction, students wil
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松吉　翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1 年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
到達目標	トピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海 外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しなが ら、複数の英文を連続して発話できるス
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
2	Unit 1 : People	Getting To Know You & Appearance	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
3	Free Talk & Movie ① & TOEIC ①	English Expressions & Movie ; Quiz ① (Unit 1)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
4	Unit 2 : Behavior	What Are You Doing? & How Do You Feel?	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
5	Free Talk & Movie ② & TOEIC ②	English Expressions & Movie ; Quiz ② (Unit 2)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
6	Unit 3 : Shopping	At the Supermarket & Let's Go Shopping!	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
7	Free Talk & Movie ③ & TOEIC③	English Expressions & Movie ; Quiz ③ (Unit 3)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
8	Unit 4 : Vacation	How's the Weather? & Taking a Trip	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
9	Free Talk & Movie ④ & TOEIC ④	English Expressions & Movie ; Quiz ④ (Unit 4)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
10	Unit 5 ; Heros	Pioneers & A Helping Hand	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
11	Free Talk & Movie ⑤ & TOEIC ⑤	English Expressions & Movie ; Quiz ⑤ (Unit 5)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
12	Unit 6 : The Mind	Memory & Sleep	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
13	Free Talk & Movie ⑥ & TOEIC ⑥	English Expressions & Movie ; Quiz ⑥ (Unit 6)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
14	Speaking Activities (English Presentation)	English Presentation Project	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
15	Review (Final Assignment)	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	World Link 1 (4th Edition)	Nancy Douglas; James R. Morgan	Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	随時配布		
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ...80% ※詳しい内容は初回授業で説明します。
学生へのメッセージ	「楽しく英語に触れる」ことを大切にし、いろんな活動（ドラマ、音楽、映画など）を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきましょう！また、TOEIC などの学習も随時行なっていきます。
担当者の研究室等	非常勤講師室(7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習活動については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation Unit 1 を始める	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどの説明	テキストの予習 Unit 1 単語問題(p.1)
2	1 Sink or Swim	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
3	1 Sink or Swim	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
4	2 Biology of Microbes	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
5	2 Biology of Microbes	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
6	3 The Last Moment Matters	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
7	3 The Last Moment Matters	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
8	4 Owning and Cloning Your Pet 授業後、中間テスト	中間テスト（前半の学習内容の確認	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること） 中間テストに向けての復習
9	4 Owning and Cloning Your Pet	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
10	5 Drift Ice Comes	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
11	5 Drift Ice Comes	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
12	6　Linear　Precipitation Band	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
13	6　Linear　Precipitation Band	CD を聴く 本文の内容確認	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）

			注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	
	14	7 Pollution Solution	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
	15	まとめテスト	期末のテスト（後半の学習内容の確認）	まとめテストに向けての勉強

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Science Stream	Philip Rowles ・野﨑嘉信・松本和子	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (Revised Edition)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題(English Central)　20% 授業への参加度（単語小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	この 10 年程の科学技術の発展は目覚ましいものがあります。この教科書では日常的に接しているもの、世間でよく話題になっていることなどを取り上げてあります。科学的な視点からの利用方法などを知り、自らの専攻分野の知識を広げることへ役立ててもらえたら幸いです。 単語やフレーズは常日頃から覚えるようにしてください。(忘れた頃にまた覚えるを何度か繰り返す、がいいです。）教科書の進度状況に応じて随時単語テストをします。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題の準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降に行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	（１）大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。　また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。　同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。　また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 （２）PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 （３）学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習（次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習（固有名詞、複数形など）	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
4	趣味についての文章を通して主語＋動詞～の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
7	コンサートについての文章を通して How＋形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
15	9－14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% まとめテスト 50%、小テスト 30%で評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。elearning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席(＝オンラインによる課題の未提出)のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事前学習課題：テキストに書かれている映画の概要を読む 事後学習課題：指定した内容の復習
2	Unit 1: The Woman in the Picture （文法：分詞 1）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
3	Unit 2: Back to Titanic （文法：受動態）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
4	Unit 3: Leaving Port （文法：助動詞）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
5	Unit 4: Don't Do It（文法：仮定法）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
6	Unit 5: Do You Love him?（文法：進行形）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
7	Unit 6: I Can't See You（文法：関係詞１）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
8	中間テスト	これまでの学習内容より中間テスト	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
9	Unit 7: I'm Flying（文法：関係詞 2）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読

			内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	
	10	Unit 8: Iceberg Right Ahead!（文法：完了形）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
	11	Unit 9: An Honest Thief（文法：分詞 2）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
	12	Unit 10: Goodbye, Mother（文法：未来系）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
	13	Unit 11, 12: Get in the Boat, Two Tragic Bullets（文法：代名詞、動名詞）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
	14	Unit 13, 14: Promise Me, Rose's Secret（不定詞、否定）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読 期末テストの準備
	15	期末テスト	これまでの学習内容より期末テスト	これまでの総復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Learn English with Titanic	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（課題の提出、中間・期末・単語テスト等を含む） 80%
学生への メッセージ	・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。） ①から③が続く場合、単位を認めない。 ・原則 3 回以上の欠席は単位不可とします。また、遅刻は３回で１
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	土田　智佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティングカ」としては、CEFR-JIA2.11を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業方針・評価方法などの説明	事前：教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 See you soon	現在形と現在進行形の復習、及びUnit 1の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
3	Unit 2 Welcome to Japan!	加算・不可算名詞の復習、及び Unit 2の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
4	Unit 3 Sandy's first sushi	代名詞の復習、及びUnit 3の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
5	Unit 4 Festival fun	形容詞・副詞の復習及び、Unit 4 の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
6	Unit 5 Play ball!	前置詞の復習及び、Unit 5の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
7	Unit 6 Lucky cats	Wh疑問文の復習及び、Unit 6の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
8	Unit 7 No one sings like Brian	他動詞・自動詞の復習及び、Unit 7 の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
9	Unit 8 Yui's cooking class	不定詞・動名詞の復習及び、Unit 8 の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
10	Unit 9 Where's Sandy?	過去形・過去進行形・現在完了の復習及び、Unit 9の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
11	Unit 10 Let's take a hike	未来の形の復習及び、Unit 10の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
12	Unit 11 Time for a tour	助動詞の復習及び、Unit 11の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
13	Unit 12 Photos from Hakone	比較級・最上級の復習及び、Unit 12の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
14	Unit 13 Sho's barbecue party	能動態・受動態の復習及び、Unit 13の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
15	Unit 14 On the go	接続詞の復習をしながら、Unit 14の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。

関連科目	他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Contrasts	Robert Hickling	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	英語が話せれば、読めれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおお

	よそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみなら ず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。 CEFR J[A2 2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。「会話・ライティング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、練習問題に取り組む	特になし
2	Chapter 1：Top Issues　英国の抱える最大の問題点１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
3	Chapter 1：Top Issues　英国の抱える最大の問題点２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
4	Chapter 2：Wales　歌声の国ウェールズ１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
5	Chapter 2：Wales　歌声の国ウェールズ２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
6	Chapter 3：The Royal Family エディンバラ公爵フィリップ殿下逝去１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
7	Chapter 3：The Royal Family エディンバラ公爵フィリップ殿下逝去２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
8	Chapter 4：Clubbing Experiment　リバプールでのイベント実験１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
9	Chapter 4：Clubbing Experiment　リバプールでのイベント実験２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
10	Chapter 5：Cyber Crime　英国でのサイバー犯罪１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
11	Chapter 5：Cyber Crime　英国でのサイバー犯罪２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
12	Chapter 6：Technology & Politics in Scotland　海上風力発電所１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
13	Chapter 6：Technology & Politics in Scotland　海上風力発電所２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、まとめテストの準備
14	まとめ１	Chapter 1-6 の復習、およびまとめテスト	Chapter 1-6 の復習
15	まとめ２	Chapter 1-6 の復習、まとめテストの返却、解説	Chapter 1-6 の復習

関連科目	実践英語 IIa

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英国の今：文化・社会・歴史 / Britain Today	James C. House	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition（指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	この授業では TOEIC 対策のテキストを用います。毎回授業の前半はテキストの問題に取り組み、後半はそこから発展させて、スピーキング、ライティング課題に取り組みます。インプットした英語表現を状況に合わせて応用し、アウトプットできるようにしていきましょう。授業時間が限られていますので予習は必須です。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

	する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検討

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD　Ｃａｒｎａｖａｌ	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary - Revised Ed.	Nishiya	Seibido
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation. Exam 20%, In-class quizzes, Homework assignments, Class participation, attitude, ability　vocabulary 80% All may, ａｔ　ｔｉｍｅｓ, ｂｅ　adapted for an online learning environment.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松吉　翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1 年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しくは初回授業で説明します。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣 味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e- learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	
2	Unit 7：City Life	My Neighborhood & In the City	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
3	Free Talk & Movie ① & TOEIC ①	English Expressions & Movie；Quiz ① (Unit 7)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
4	Unit 8：All About You	Sports & Personality	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
5	Free Talk & Movie ② & TOEIC ②	English Expressions & Movie；Quiz ② (Unit 8)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
6	Unit 9：Change	Personal Habits & Breaking the Plastic Habit	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
7	Free Talk & Movie ③ & TOEIC ③	English Expressions & Movie；Quiz ③ (Unit 9)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
8	Unit 10：Health	The Body & Stress	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
9	Free Talk & Movie ④ & TOEIC ④	English Expressions & Movie；Quiz ④ (Unit 10)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
10	Unit 11：Achievement	Talented People & Risk	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
11	Free Talk & Movie ⑤& TOEIC ⑤	English Expressions & Movie；Quiz ⑤ (Unit 11)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
12	Unit 12：At the Movies	What's Playing? & Movie Reviews	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
13	Free Talk & Movie ⑥ & TOEIC ⑥	English Expressions & Movie；Quiz ⑥ (Unit 12)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
14	Speaking Activity (English Presentation)	English Presentation Project	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
15	Final Assignment & Review	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	World Link 1 (4th Edition)	Nancy Douglas; James R. Morgan	Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20% ・授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ...80% ※詳しくは初回授業で説明します。
学生へのメッセージ	「楽しく英語に触れる」ことを大切にし、いろんな活動（ドラマ、音楽、映画など）を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきましょう！また、TOEIC などの学習も随時行なっていきます。 ※後期からの履修も問題ありません。(選択科目の場合)
担当者の研究室等	非常勤講師室(7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおお

	よそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習活動については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation Unit 13 を始める	小テスト（語彙・文法）をする Unit 13　CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説	テキストの予習 下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
2	13　State-of-the-Art Technology	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
3	14 Nature is Our Greatest Teacher	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
4	14 Nature is Our Greatest Teacher	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
5	15 Moon Tunnels	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
6	15 Moon Tunnels	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
7	16　Intelligence　Driving Our Future	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
8	16　Intelligence　Driving Our Future 授業後、中間テスト	中間テスト（前半の学習内容の確認）	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること） 中間テストに向けての復習
9	17 Hay Fever Horror	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
10	17 Hay Fever Horror	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
11	18 Pleasure Threshold	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
12	18 Pleasure Threshold	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）

	13	19 Stem Cell Heaven or Hell	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
	14	19 Stem Cell Heaven or Hell	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
	15	まとめテスト	期末のテスト(後半の学習内容の確認)	まとめテストに向けての勉強

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Science Stream	Philip Rowles ・野﨑嘉信・松本和子	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (Revised Edition)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題(English Central)　20% 授業への参加度（単語テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	この 10 年程の科学技術の発展は目覚ましいものがあります。この教科書では日常的に接しているもの、世間でよく話題になっていることなどを取り上げてあります。科学的な視点からの利用方法などを知り、自らの専攻分野の知識を広げることへ役立ててもらえたら幸いです。 単語やフレーズは常日頃から覚えるようにしてください。(忘れた頃にまた覚えるを何度か繰り返す、がいいです。) 教科書の進度状況に応じて随時単語テストをします。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題の準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降に行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20%、TOEIC Bridge 10% 教員評価 70%（小テスト 30%、まとめテスト 40%）で全体の評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べること。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事後学習： 実力テストの復習
2	Unit 1: be 動詞	・単語テスト ・文法のチェック ・You're Beautiful を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
3	Unit 2: 一般動詞（現在形）	・単語テスト ・文法のチェック ・I Want It That Way を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
4	Unit 3: 一般動詞（過去形）	・単語テスト ・文法のチェック ・The First Time を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
5	Unit 4:　進行形	・単語テスト ・文法のチェック ・Complicated を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
6	Unit 5: 未来表現	・単語テスト ・文法のチェック ・My Heart Will Go On を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認、中間テストの準備
7	中間テスト	これまでの内容より中間テスト	事前学習： 中間テストの準備
8	Unit 6: 助動詞	・単語テスト ・文法のチェック ・With You を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
9	Unit 7: 受動態	・単語テスト ・文法のチェック ・Torn を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
10	Unit 8: 現在完了形	・単語テスト ・文法のチェック ・You Are Not Alone を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
11	Unit 9: 比較	・単語テスト ・文法のチェック ・You Gotta Be を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
12	Unit 10: 分詞	・単語テスト ・文法のチェック ・How Crazy Are You?を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
13	Unit 11: 不定詞	・単語テスト ・文法のチェック ・Last Christmas を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
14	Unit 12: 関係詞	・単語テスト ・文法のチェック ・Desperado を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認、期末テストの準備
15	期末テスト	これまでの学習内容より期末テスト	事前学習：

				これまでの総復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Learn English with Pop Hits! （ポップスでスタート！基礎英語）	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test（旧版）（指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。） ①から③が続く場合、単位を認めない。 ・原則 3 回以上の欠席は単位不可とします。また、遅刻は３回で１
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	土田　智佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティングカ」としては、CEFR-JIA2.11を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ＊授業で使用する教科書、ノートは毎回必ず持参すること。教科書未購入の場合単位認定されないことがあります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 01 : What's your major?	授業についての説明。 be 動詞の復習。 単語テスト	事前：シラバスを読む。単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
2	02 : How do you like your new school? 03 : Let's me introduce a new member to you.	一般動詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
3	04 : How was your Golden Week?	未来形の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
4	05 : I'm looking for a part-time job.	進行形の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
5	06：What do you call this in Japanese?	受動態の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
6	07 : Have you been there?	現在完了形の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
7	中間テスト	単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
8	08：Could you tell me how to get there?	助動詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
9	09：What do you want me to do?	不定詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
10	10 : I'm on the tight budget.	関係詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
11	11 : What do you think of this program?	形容詞・副詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
12	12 : I'm reviewing what I studied.	接続詞・前置詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
13	13：Final exam week is so stressful!	動名詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
14	14：Is this your first trip abroad?	分詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
15	8-14 のまとめテスト	総復習 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。

関連科目	他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Read Aloud & Learn English On Campus	角山照彦 ほか	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	英語が話せれば、読めれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	辞書は毎回の授業に持参すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト，提出物等は授業中にフィードバックする。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみなら ず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。 CEFR J[A2 2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。「会話・ライティング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、 練習問題に取り組む	特になし
2	Chapter 7 : Sport　女性選手の活躍──勝利したジョッキー１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
3	Chapter 7 : Sport　女性選手の活躍──勝利したジョッキー２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
4	Chapter 8 : The Third Age　第三世代１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
5	Chapter 8 : The Third Age　第三世代２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
6	Chapter 9 : The New Nationalism　英国は世界から孤立するか１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
7	Chapter 9 : The New Nationalism　英国は世界から孤立するか２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
8	Chapter 10 : Literature & the Arts　ジョン・ル・カレ１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
9	Chapter 10 : Literature & the Arts　ジョン・ル・カレ２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
10	Chapter 11 : Environment　気候変動と地球の危機１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
11	Chapter 11 : Environment　気候変動と地球の危機２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
12	Chapter 12 : The New Crime Bill　警察権限拡大の危険１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
13	Chapter 12 : The New Crime Bill　警察権限拡大の危険２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、まとめテストの準備
14	まとめ１	Chapter 1-6 の復習、およびまとめテスト	Chapter　1-6 の復習
15	まとめ２	Chapter　1-6 の復習、まとめテストの返却、解説	Chapter　1-6 の復習

関連科目	実践英語 IIa

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英国の今：文化・社会・歴史 / Britain Today	James C. House	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition（指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	この授業では TOEIC 対策のテキストを用います。毎回授業の前半はテキストの問題に取り組み、後半はそこから発展させて、スピーキング、ライティング課題に取り組みます。インプットした英語表現を状況に合わせて応用し、アウトプットできるようにしていきましょう。授業時間が限られていますので予習は必須です。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ビジネスイングリッシュⅠ	科目名（英文）	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西尾　優里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3305c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation for this class	Follow orientation instructions.
2	Unit 1-1： Zara's Recipe for Success: More Data, Fewer Bosses —ファストファッションブランドの成功の鍵— Zara	Check the contents of Unit 1: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
3	Unit 1-2： Zara's Recipe for Success: More Data, Fewer Bosses —ファストファッションブランドの成功の鍵— Zara	Writing and Speaking Session of Unit 1： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
4	Unit 2-1 ： Airbnb's Challenge and New Direction 民泊ビジネスにおける課題と挑戦— Airbnb	Check the contents of Unit 2: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
5	Unit 2-2 ： Airbnb's Challenge and New Direction 民泊ビジネスにおける課題と挑戦— Airbnb	Writing and Speaking Session of Unit 2： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
6	Unit 3-1:Augmented Reality Ecosystem in Facebook 拡張現実の構築で世界を変える？ —Facebook	Check the contents of Unit 3: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
7	Unit 3-2:Augmented Reality Ecosystem in Facebook 拡張現実の構築で世界を変える？ —Facebook	Writing and Speaking Session of Unit 3： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
8	Unit 4-1： Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer 「超高速」靴製造の技術革新 —Adidas	Check the contents of Unit 4: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
9	Unit 4-2： Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer 「超高速」靴製造の技術革新 —Adidas	Writing and Speaking Session of Unit 4： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
10	Unit 5-1： At Toyota, the Automation Is Human-Powered 自動車生産の自動化と職人技—Toyota	Check the contents of Unit 5: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
11	Unit 5-2： At Toyota, the Automation Is Human-Powered 自動車生産の自動化と職人技—Toyota	Writing and Speaking Session of Unit 5： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
12	Unit 6-1： How Starbucks Became a Successful Worldwide Brands グローバルブランドの原点と成功への道のり —Starbucks	Check the contents of Unit 6: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
13	Unit 6-2： How Starbucks Became a Successful Worldwide Brands グローバルブランドの原点と成功への道のり —Starbucks	Writing and Speaking Session of Unit 6： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>14</td><td>Review for All Unites for Final Test</td><td>Review by yourselves and practice for Final Test</td><td>Follow assessment instructions.</td></tr>
<tr><td>15</td><td>Final test.</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>ビジネスイングリッシュ II</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Challenges of Global Enterprises</td><td>Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada, Angus McGregor</td><td>金星堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
(基準)</td><td>全学共通英語課題 (English Central) 20%
授業への参加、貢献 (participation, speaking and communication skills, various written activities, such as paragraphs, interaction and reflection reports) 80%

評価の詳細は、初回授業に説明します。必ず参加すること。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>Hi, everyone! I am Yuri Nishio and this year is my second year of teaching in Setsunan University.
We will discuss any topics by using video materials included the textbook.

I'm looking forward to teaching you this year.
Please participate fully in p</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>非常勤講師室 (7 号館 2 階) または email</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	ビジネスイングリッシュⅠ	科目名（英文）	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	891011121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3305c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション サントリー 住所を英語で書いてみる	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 英語で住所を書いてみる（導入）	ユニット単語調べ(予習学習部分の単語および音読(予習復習２時間) 単語は難しいのですが、単純に丸覚えするのではなく何度も教科書を音読するなどして覚えること。
2	サントリー 住所を英語で書いてみる	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 英語で住所を書いてみる（演習）	学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) 答えチェックした後間違えた部分をちゃんと見直しておく事。特に住所を英語で書く作業では間違いが多いので怠慢せずに書く練習をして間違えないようにしておく。
3	サントリー 住所を英語で書いてみる IT英語	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 英語で住所（発展）・IT英語	教科書の年表部分（予習）学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) IT 英語は基本的な表現なので問題を解いた後は暗記しておくこと。 訳にこだわる事なく情報を文章からピックアップ出来る様にプリントを復習しておくこと。
4	サントリー まとめを英語で書いてみる ビジネス用語	ビジネス用語プリントをやる 企業年表を教科書ワークでやったあと英語でまとめを書く	英語での作業に苦手意識のある者が多いので英語でまとめをする練習課題をします。まとめたあとにちゃんと意味が通るか確認すること。 学習部分の暗記課題および音読は (予習復習で２時間)
5	第一回テスト 会話表現 ナベル	テスト 会話表現プリント　ジグソーリーディング レッスン２導入	学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) 課題会話文は至って日常的なものなので自分が実際に言える事を想定して、覚えましょう。 意味を知らなかった人は授業で説明した事を書いて整理しておきましょう。
6	ナベル IT英語	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング・IT英語	学習部分の単語および音読 このセクションでは音読テストがあります。難しい単語が沢山出てきますが毎回音読チェックをしているのでプレゼンをするつもりではっきり正確に、意味を把握しながら読む練習をしてください。 (予習復習で２時間)
7	ナベル 音読 文法（受け身）	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 音読練習	学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) 受け身形に意識をしながら文章を読みます。文法問題もしますが全体的に苦手な学生が多いので何度も問題を実際に書いて復習してください。
8	ナベル　音読 文法（受け身）	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 音読練習	教科書の年表部分（予習）学習部分の単語および音読(予習復習で２時間) 音読テストはわかりやすく正確に、発表をしている設定で教卓付近でやってもらいます。練習を良くしておいて下さい。 受け身の文法練習は引き続きやること。
9	ナベル 音読テスト　グループ１ まとめを英語で書いてみる	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ 年表を教科書ワークでやったあと英語でまとめを書く 音読テスト　グループ１	試験勉強　学習部分の単語および音読 英語でまとめる作業の課題も二回目なのでだんだん慣れて来たら、自分なりに文章を工夫して短くしてみるのも良いです。過去のプリント、暗記課題は必ずやっておくこと。 (予習復習２時間)
10	第二回テスト 会話表現 グリコ 音読テスト　グループ２	テスト 会話表現プリント　ジグソーリーディング 新しいユニット導入	学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) 会話表現は意味を説明するので必ず演習の後見直して暗記すること。
11	グリコ ビジネス英語	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 音読練習	学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) ビジネスシーンで使う言い回しやアクロニムを学ぶのでしっかり覚えておきましょう。また、分詞を使った文の解説をするのでよく復習しておくこと。
12	グリコ	単語、読解、ユニットのプリントを使っ	習部分の単語および音読

	IT 英語	てまとめ。演習 CD リスニング・IT 英語	(予習復習で２時間) 長い文の仕組みを解説するのでノートにまとめておくこと。 IT 英語プリントはポイント表現だけでなく文そのものが理解できるように復習しておく事。
13	グリコ 会話表現	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習 CD リスニング	学習部分の単語　レポート制作 (予習復習で２時間) 和訳にこだわらず内容をよく理解できるまで何度も読むこと。
14	グリコ まとめを英語で書いてみる	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習 CD リスニング	学習部分の単語　レポート制作 (予習復習で２時間) 年表作りでは製品ごとの内容を分かりやすくまとめておく事。
15	第三回テスト 音読テスト再チャレンジ	第三回テスト 音読テスト再チャレンジ	試験勉強　学習部分の単語および音読(予習復習で２時間) 音読テストは何回もチャレンジ出来るのでより良いパフォーマンスができるように再度挑戦してみましょう。

関連科目：ビジネスイングリッシュ II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A visit to Amazing Kansai-based Companies	井上治・住屋和子・Lance Burrows・Amy Miyamoto・森本道孝・吉野成美	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法
(基準)

単語テスト　３X１１＝３３点
筆記テスト　１５点×３回＝４５点
提出物（まとめ）　３点×3 回＝9 点
音読テスト　５点
授業参加点　８点

学生への
メッセージ

退屈にならないようにバラエティに富んだ組み立てにしていますのでしっかりと内容を抑えていきましょう。

担当者の
研究室等

7 号館 2 階非常勤講師室　木曜２限目

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名（英文）	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西尾　優里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3306c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation for this class	Follow orientation instructions.
2	Unit 7-1 : McDonald's Modern Marketing Methods 顧客に寄り添う新たなマーケティング戦略—McDonald's	Check the contents of Unit 7: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
3	Unit 7-2 : McDonald's Modern Marketing Methods 顧客に寄り添う新たなマーケティング戦略—McDonald's	Writing and Speaking Session of Unit 7 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
4	Unit 8-1 : How TED Evolves and Where It Wants to Go Next 「広げる価値あるアイデア」プレゼンの進化—TED	Check the contents of Unit 8: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
5	Unit 8-2 : How TED Evolves and Where It Wants to Go Next 「広げる価値あるアイデア」プレゼンの進化—TED	Writing and Speaking Session of Unit 8 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
6	Unit 9-1 : Why Amazon Is the World's Most Innovative Company 「最も革新的な企業」が目指す未来—Amazon	Check the contents of Unit 9: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
7	Unit 9-2 : Why Amazon Is the World's Most Innovative Company 「最も革新的な企業」が目指す未来—Amazon	Writing and Speaking Session of Unit 9 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
8	Unit 10-1 : Sony Comes Back from the Brink 起死回生を賭けた取捨選択と新たな展望—Sony	Check the contents of Unit 10: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
9	Unit 10-2 : Sony Comes Back from the Brink 起死回生を賭けた取捨選択と新たな展望—Sony	Writing and Speaking Session of Unit 10 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
10	Unit 11-1 : IKEA's New Business Move for Millennials 若者の DIY 離れと新サービスの導入—IKEA	Check the contents of Unit 11: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
11	Unit 11-2 : IKEA's New Business Move for Millennials 若者の DIY 離れと新サービスの導入—IKEA	Writing and Speaking Session of Unit 11 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
12	Unit 12-1 : How Google Has Changed the World 検索エンジンが広げた世界のゆくえ —Google	Check the contents of Unit 12: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
13	Unit 12-2 : How Google Has Changed the World 検索エンジンが広げた世界のゆくえ —Google	Writing and Speaking Session of Unit 12 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
14	Review for All Unites for Final Test	Review by yourselves and practice for Final Test	Follow assessment instructions.
15	Final test.		

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>ビジネスイングリッシュ II</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Challenges of Global Enterprises</td><td>Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada, Angus McGregor</td><td>金星堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
(基準)</td><td>全学共通英語課題 (English Central) 20%
授業への参加、貢献 (participation, speaking and communication skills, various written activities, such as paragraphs, interaction and reflection reports) 80%

評価の詳細は、初回授業に説明します。必ず参加すること。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>Hi, everyone! I am Yuri Nishio and this year is my second year of teaching in Setsunan University.
We will discuss any topics by using video materials included the textbook.

I'm looking forward to teaching you this year.
Please participate fully in p</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>非常勤講師室 (7 号館 2 階) または email</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名（英文）	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	891011121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3306c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit1 Suntory University Preps Workers for Global Growth	講義の進め方、評価方法の説明。 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	シラバスを読んでおくこと。
2	Unit3 Japanese office Worker's Stunning iPhone Sketches	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。 リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
3	Unit4 Perceptions of Space, from Japan to the World	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
4	Unit5 Robots to Descend on Haneda Airport	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
5	第一回チェックテスト Unit2 Japan Productivity Gains Key to Staving off Decline	第一回チェックテスト 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。スクリプトもよく読み込んでおくこと。
6	Unit6 Japanese Scientists Go High-tech to Repair Ancient Indonesian Temple	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
7	Unit 8 Multi-lingualization in Progress at Kyoto Station	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
8	Unit11 Things Japanese People Should Not Say to Westerners	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
9	Unit12 If Addressed by a Westerner..	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
10	第二回チェックテスト Unit9 Englishnization Advances at Rakuten	第二回チェックテスト 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングのスクリプトもよく読み込んでおくこと。
11	Unit15 University Survival Strategy	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
12	Unit16 Universities, NPOs Beef up Safety for Students Going Abroad	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
13	Unit18 Foreign-studies Universities to Train Volunteer Army of Interpreters	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
14	Unit19 How to Overcome the GAIJIN Complex	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	既習の学習内容を整理し、復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
15	チェックテスト第三回	第三回チェックテスト	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。リスニングのスクリプトもよく読み込んでおくこと。

関連科目	ビジネスイングリッシュⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Leadership Adventures	Peter Nagano	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	筆記テスト　１６点×３回＝48 点 提出物（まとめ）　３点×3 回＝9 点 単語テスト　３x１１＝３３点 授業参加点　１０点
学生への	積極性を重視します。積極的に授業に参加してください。

メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室　（木曜 2 限）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話ａ	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ｉ / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units 4- 6	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	15%会話テスト１ 15%会話テスト２ 5%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger.
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh~' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 2: Sharing personal information. / Units 1 & 2 test. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh~' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

	pairs and			
7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and gro	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 4: Talking about habits and routines. / Units 3 & 4 test. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exerci	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%..com) corresponding to the unit studied in class. Repea

	14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) Others (20%)
学生への メッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！ In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Any student who is absent for
担当者の 研究室等	非常勤講師室（期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ⅰ / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test Ⅱ / Achievement Test, Units 4- 6	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2	The English Gym Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

15%会話テスト１
15%会話テスト２
5%課題
20%スピーチ
15%授業への取り組み
10% 学習到達確認
20% TOEIC Bridge

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！
担当者の研究室等	3号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC などのスコアアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction	Students will take part in course and student introduction activities.	Students should study the content of the days lesson
2	Conversation Strategies	How to extend conversation by using comments and follow-up questions.	Students should study the content of the days lesson
3	Unit 1: Jobs	Vocabulary Introduction Listening Activity Wh-Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
4	Unit 1: Jobs	Presentation Skills Mini-Presentation 1: Your ideal job	Students should study the content of the days lesson
5	Unit 2: Daily Activities	Vocabulary Introduction Listening Activity Yes/No questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
6	Unit 2: Daily Activities	Presentation Skills Mini-Presentation 2: Your daily routine	Students should study the content of the days lesson
7	Conversation Strategy	Students will learn how express their opinions and phrases to agree and disagree with opinions that they hear.	Students should study the content of the days lesson
8	Midterm Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
9	Unit 4: Feelings	Vocabulary Introduction Listening Activity Subject and Object pronouns	Students should study the content of the days lesson
10	Unit 4: Feelings	Presentation Skills Mini-Presentation 3: What makes you happy?	Students should study the content of the days lesson
11	Unit 6: Talking about the past	Vocabulary Introduction Listening Activity Simple Past Tense	Students should study the content of the days lesson
12	Unit 6: Talking about the past	Presentation Skills Mini-Presentation 4: My Favorite Vacation	Students should study the content of the days lesson
13	Downtown	Vocabulary Introduction Listening Activity Prepositions of place	Students should study the content of the days lesson
14	Final Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
15	Discussion Activity	Students will do discussion activities in small groups.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 1	Susan Stempleski	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ）　７０％
（※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
Midterm Assessment Activity　15%
Final Assessment Activity 15%

学生への メッセージ	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills, as well as practice in writing. Students will work in pair
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る１０%、スピーキング３５%、ロールプレイ３５%、クイズ２０%）　100% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。 会話力、ＴＯＥＩＣの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	3 号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	基礎英会話の習得を目標とする。テキストは日常的に使っている英文を扱っており、しっかり学習すれば、リスニング、スピーキングの力も確実に向上する。会話の習得を目的とする授業であるから、学生が中心になり、学生によって進められていくべきであることは言うまでもない。
到達目標	状況に合わせた基礎的な日常的英会話ができる。
授業方法と留意点	学生主導の授業である。ペアワークなど、躊躇することなく積極的に参加すること。
科目学習の効果（資格）	英語を使ってのコミュニケーション能力がつき、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class Introduction		Class Introduction
2	Personal Information	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
3	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
4	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
5	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
6	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1 and 2 Test
7	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
8	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
9	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
10	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
11	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3 and 4 Test
12	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
13	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
14	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6
15	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6

関連科目	他の英語のクラスすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English In Common 1		Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎週のクイズ 40%、発表 30%、課題提出 30%）にて評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	事前・事後学習課題については 1 日 90 分程度行うこと。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話ａ	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ｉ / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units 4- 6	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	15%会話テスト１ 15%会話テスト２ 5%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ!
担当者の研究室等	7 号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger.
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh~' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 2: Sharing personal information. / Units 1 & 2 test. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh~' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

	pairs and			
7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and gro	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 4: Talking about habits and routines. / Units 3 & 4 test. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exerci	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%..com) corresponding to the unit studied in class. Repea

	14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) Others (20%)
学生への メッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！ In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Any student who is absent for
担当者の 研究室等	非常勤講師室（期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	下吉　真衣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1　What's your name?	授業の進め方や評価方法などの説明 自己紹介の仕方を学ぶ	宿題をする
2	Unit 1　What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
3	Unit 1　What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
4	Unit 2　I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
5	Unit 2　I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
6	Unit 3　How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
7	Unit 3　How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
8	Unit 4　How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
9	Unit 4　How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
10	Unit 4　How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
11	Unit 5　What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
12	Unit 5　What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
13	Unit 6　What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
14	Unit 6　What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
15	Unit 6　What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技	宿題をする

			術、語彙、文法を学ぶ	

関連科目	英語基礎会話Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success (Fifth Edition)	Marc Helgesen, John Wiltsher & Steven Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	宿題：30% 小テスト：30% 授業態度（グループワーク、発表など）：40%
学生への メッセージ	英語のスキルアップには、皆さん自身の普段の努力が欠かせません。 授業中に出される課題等以外にも、皆さんの目標に合った課題に積極的に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	英語基礎会話 a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1　What's your name?	授業の進め方や評価方法などの説明 自己紹介の仕方を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える
2	Unit 1　What's your name?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
3	Unit 1　What's your name?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
4	Unit 2　I love fashion!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
5	Unit 2　I love fashion!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
6	Unit 3　How do you stay healthy?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
7	Unit 3　How do you stay healthy?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 会話課題、中間テストに備える
8	中間テスト、会話課題、学習活動	中間テスト、会話課題 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
9	Unit 4　How do I get there?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
10	Unit 4　How do I get there?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
11	Unit 5　What's that?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
12	Unit 5　What's that?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
13	Unit 6　What's your dream?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
14	Unit 6　What's your dream?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 会話課題、期末テストに備える
15	期末テスト、会話課題、学習活動	期末テスト、会話課題 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題

関連科目：英語基礎会話Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success (Fifth Edition): Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown	Pearson
2			
3			

参考書

	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	宿題と小テスト：　40% 授業中の取り組み：　20% 小プレゼンテーション：　20% 中間・期末テストと会話課題：　20%
学生への メッセージ	会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶので、毎週授業に出席することが重要です。
担当者の 研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	英語基礎会話 a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る１０%、スピーキング３５%、ロールプレイ３５%、クイズ２０%）　100% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。 会話力、ＴＯＥＩＣの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	3 号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業の進め方、評価の方法などの説明 ・簡単な自己紹介	・事前学習： 英語で自己紹介ができるように考えてくる
2	Unit 1: Nice to meet you. （自己紹介）	・単語テスト ・自己紹介をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
3	Unit 2:　What do you like to do? （趣味について紹介する）	・単語テスト ・趣味をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
4	Unit 3: Where are you from? （故郷について説明する）	・単語テスト ・故郷をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
5	Unit 4: Who's that? （家族について説明する）	・単語テスト ・家族をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
6	Unit 5: Where's that? （場所の説明）	・単語テスト ・場所の説明をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認 ・中間テストの準備
7	中間テスト	これまで学んだことより中間テスト （ペア・グループの発表＋筆記試験）	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit1～5 の総復習
8	Unit 6: How do we get there? （道順の説明）	・単語テスト ・道順の説明をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
9	Unit 7: Are you hungry? （食べ物について説明する）	・単語テスト ・食べ物をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
10	Unit 8: Let's eat! （レストランでの食事で使う表現）	・単語テスト ・レストランでの食事をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
11	Unit 9: What are you watching? （映画とテレビについて説明する）	・単語テスト ・映画とテレビをテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
12	Unit 10: What music do you like? （好きな音楽を紹介する）	・単語テスト ・音楽をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
13	Unit 11: How much is it? （ショッピングで使う表現）	・単語テスト ・ショッピングをテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
14	Unit 12: Let's play! （スポーツや運動で使う表	・単語テスト ・スポーツと運動をテーマに	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える

	現）	リスニング、スピーキング ・小テスト	事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認 ・発表と筆記試験の準備
15	発表	これまで学んだことより発表 （ペア・グループの発表＋筆記試験）	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit6～12 の総復習

関連科目：英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コミュニケーションのための実践演習 Book 1〈初級編〉	James Bury / Anthony Sellick / 堀内　香織	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単 語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・単語テスト：10%
・中間テスト＋発表＋小テスト：70%
・授業態度：20%（授業で投げかけられた質問に回答がなされる状態や授業への集中度 、ペア・グループワークへの参加度、ノートやメモを取っているか等）
注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする（3 回を超える欠席は単位不可/遅刻は 3 回で 1 回の欠席）。

学生へのメッセージ

・授業やグループークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする学生にはどんどん成績を上げていきます。練習を積めば、英語での会話はそれほど難しいものではありません。毎回、一言でも多く話せるようにしましょう。

・紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。

・積極的に海外旅行や留学に行ってみましょう。英語の力だけでなく、視野が広がります。

・授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼしま

担当者の研究室等：非常勤講師室（7 号館 2 階）

備考：毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英語を使ってのコミュニケーション能力がつき、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class Introduction		Class Introduction
2	Personal Information	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
3	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
4	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
5	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
6	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1 and 2 Test
7	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
8	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
9	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
10	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
11	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3 and 4 Test
12	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
13	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
14	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6
15	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6

関連科目	他の英語のクラスすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English In Common 1		Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎週のクイズ 40%、発表 30%、課題提出 30%）にて評価する。
学生へのメッセージ	Be prepared to speak in class. Looking forward to seeing you.
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習課題については 1 日 90 分程度行うこと。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話a	科目名（英文）	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ｉ / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units 4- 6	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2	The English Gym Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

15%会話テスト１
15%会話テスト２
5%課題
20%スピーチ
15%授業への取り組み
10% 学習到達確認
20% TOEIC Bridge

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！
担当者の研究室等	3号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ｉ / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units １６-20	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目：英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	20%会話テスト１ 20%会話テスト２ 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ!
担当者の研究室等	7 号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	English conversation skills 英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. / Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

	conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. / Units 11 & 12 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ｉ / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units １６-20	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2	The English Gym Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	20%会話テスト１ 20%会話テスト２ 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ!
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC のスコアアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Review of summer holiday	Review Activity based on the material from Semester 1. Discussion of summer holiday activities	Students should study the content of the days lesson
2	People we Admire	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Simple past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
3	People we Admire	Presentation Skills. Mini-Presentation 1: Describing someone you admire.	Students should study the content of the days lesson
4	At a Supermarket	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Count and Noncount nouns Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
5	At a Supermarket	Presentation Skills. Mini-Presentation 2: Teaching a recipe to the class.	Students should study the content of the days lesson
6	Health Problems	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: "Should" for giving advice. Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
7	Health Problems	Presentation Skills. Mini-Presentation 3: How to treat a health problem	Students should study the content of the days lesson
8	Midterm Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
9	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking activity to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
10	Cities	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Wh-Questions with the past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
11	Cities	Presentation Skills. Mini-Presentation 4: Vacation Recommendation. Describing where to go and why.	Students should study the content of the days lesson
12	Travel Plans	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Future plans with "be going to" and "might". Group speaking task.	Students should study the content of the days lesson
13	Travel Plans	Presentation Skills. Mini-Presentation 5: Your plans for the Spring Vacation	Students should study the content of the days lesson
14	Final Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of all the material presented in the course.	Students should study the content of the days lesson
15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a short speaking assignment which will demonstrate their understanding of the speaking skills presented in this course.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / Stretch 1 / Susan Stempleski / Oxford 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 (基準)	Homework Assignments 10% Classwork 35% Mini-Presentations 15% Midterm Assessments 20% Final Assessments 20%
学生への メッセージ	This will be a continuation of the material we studied in the first semester. We will continue to develop your listening and communication skills through a variety of textbook and speaking activities.
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J［A2.1］を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る１０%、スピーキング３５%、ロールプレイ３５%、クイズ２０%）　100% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。 会話力、ＴＯＥＩＣの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 b	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	このコースでは、様々な幅広いトピックについて自分の経験や考えを表現することを学びます。授業はスピーキングを重視し、英語でよく使う会話表現を学びます。また、会話を繋げるための関連した質問の使い方も学びます。毎回スピーキング評価をするので、毎週自分が何を学んだのかを示すことができます。
到達目標	このコースの最終目標は、 英語の会話を 10 分間持続する方法を学び、 会話表現を使用することで英語での会話を導き、 英語で文法的に正確な質問を作ることができ、 ノートを取ることでリスニング力を向上させることです。
授業方法と留意点	宿題として毎週ライティングの課題があります。このライティングの課題は授業での会話の話題として使用することになります。授業は全てペアかグループでの活動になるので、クラスメートとの協力が必要になります。 このコースでは、同期性の授業でズームとチームズを使います。
科目学習の効果（資格）	このコースは資格を取得するのを目的とし、あなたのスキルを向上させるのに役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、課題、評価法の説明	ライティングの課題、授業内容の復習
2	自己紹介:人との出会いと共通した興味のある事柄についての短い会話	今日のターゲット：一般動詞を使った wh 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、 授業内容の復習
3	週末:よくある週末の過ごし方	今日のターゲットの復習:一般動詞を使った wh 疑問文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
4	食べ物:好きな食べ物、嫌いな食べ物	今日のターゲット：be 動詞を使った wh 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、 授業内容の復習
5	大阪:大阪のいい所、そうでない所	今日のターゲットの復習：be 動詞を使った wh 疑問文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
6	音楽:ジャンルとアーティスト	今日のターゲット：yes/no 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
7	仕事：仕事の経験	今日のターゲットの復習：yes/no 疑問	1 週目から 7 週目までの内容の復習

		文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	
8	スピーキングテスト 1	1 週目から 7 週目までのターゲットを含むスピーキングテストの実施:?一般動詞を含む wh 疑問文、?be 動詞を含む wh 疑問文、?yes/no 疑問文	ライティングの課題、授業内容の復習
9	旅行経験:最後に行った旅行の思い出	今日のターゲット:経験についての質問 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
10	伝統的文化:日本芸術、工芸、活動	今日のターゲットの復習:経験についての質問 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
11	有名人:自分が賞賛し尊敬する人々	今日のターゲット:仮説に基づく質問 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
12	夢の休暇:旅行の計画	今日のターゲットの復習:仮説に基づく質問 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
13	スポーツ:アスリートとチーム	今日のターゲット:繰り返しを求める 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
14	休暇の計画:春休みの行動	今日のターゲットの復習:繰り返しを求める 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	9 週目から 14 週目までの内容の復習
15	スピーキングテスト 2	9 週目から 14 週目までのターゲットを含むスピーキングテストの実施:?経験についての質問、?仮説に基づく質問、?繰り返しを求める	授業内容の復習

関連科目	英語基礎会話 a

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>English in Common 1</td><td></td><td>Pearson</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>発話量　30%
ライティング課題　24%
毎週実施のスピーキング評価　24%
スピーキングテスト　20%
資料のチェック　2%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>このクラスではたくさん発話する必要があります。授業に来る前に必ず話したい事を十分準備するようにしてください。そうすれば会話はとても楽しいものになりますよ！</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td></td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ｉ / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units １６-20	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	20%会話テスト１ 20%会話テスト２ 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	English conversation skills 英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. / Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

	conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. / Units 11 & 12 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	下吉　真衣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 7　It was great!	授業の進め方や評価方法などの説明 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
2	Unit 7　It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
3	Unit 7　It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
4	Unit 8　How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
5	Unit 8　How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
6	Unit 9　She can really sing!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
7	Unit 9　She can really sing!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
8	Unit 10　What do you like to do?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
9	Unit 10　What do you like to do?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
10	Unit 10　What do you like to do?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
11	Unit 11　Of course you can.	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
12	Unit 11　Of course you can.	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
13	Unit 12　What happened next?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
14	Unit 12　What happened next?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
15	Unit 12　What happened next?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会	宿題をする

			話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	

関連科目	英語基礎会話 I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success (Fifth Edition)	Marc Helgesen, John Wiltsher & Steven Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	宿題：30% 小テスト：30% 授業態度（グループワーク、発表など）：40%
学生へのメッセージ	英語のスキルアップには、皆さん自身の普段の努力が欠かせません。 授業中に出される課題等以外にも、皆さんの目標に合った課題に積極的に取り組みましょう。
担当者の研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 7　It was great!	授業の進め方や評価方法などの説明 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
2	Unit 7　It was great!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
3	Unit 7　It was great!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
4	Unit 8　How much do you know?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
5	Unit 8　How much do you know?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
6	Unit 9　She can really sing!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
7	Unit 9　She can really sing!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 会話課題、中間テストに備える
8	中間テスト、会話課題、学習活動	中間テスト、会話課題 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
9	Unit 10　What do you like to do?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
10	Unit 10　What do you like to do?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
11	Unit 11　Of course you can.	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
12	Unit 11　Of course you can.	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
13	Unit 12　What happened next?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
14	Unit 12　What happened next?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 会話課題、期末テストに備える
15	期末テスト、会話課題、学習活動	期末テスト、会話課題 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題

関連科目：英語基礎会話Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success (Fifth Edition): Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown	Pearson
2			
3			

参考書

	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	宿題と小テスト：　40% 授業中の取り組み：　20% 小プレゼンテーション：　20% 中間・期末テストと会話課題：　20%
学生への メッセージ	会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶので、毎週授業に出席することが重要です。
担当者の 研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J［A2.1］を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る１０%、スピーキング３５%、ロールプレイ３５%、クイズ２０%）　100% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。 会話力、ＴＯＥＩＣの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業の進め方、評価方法の説明	・事前学習： 英語で夏休みの出来事について発表できるように考えてくる
2	Unit 1: ファストフード店での注文	・単語テスト ・ファストフード店での注文について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
3	Unit 2: レストランでの来客対応	・単語テスト ・レストランでの来客対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
4	Unit 3: 接客サービス	・単語テスト ・接客サービスについて、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
5	Unit 4: コンビニやスーパーでの対応	・単語テスト ・コンビニやスーパーでの対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
6	Unit 5: 会計	・単語テスト ・会計時の対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認 ・中間テストの準備
7	中間テスト	これまで学んだことより中間テスト（ペア・グループの発表＋筆記試験）	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit1～5 の総復習
8	Unit 6: 苦情対応	・単語テスト ・苦情対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
9	Unit 7: ホテルでの宿泊客の受付	・単語テスト ・宿泊客の受付について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
10	Unit 8: サービス提供、近隣情報の案内	・単語テスト ・サービス提供、近隣情報の案内の仕方について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
11	Unit 9: 観光案内	・単語テスト ・観光案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
12	Unit 10: 道案内	・単語テスト ・道案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
13	Unit 11: 交通機関や観光施設の案内	・単語テスト ・交通機関や観光施設の案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
14	Unit 12: 発券機や機器の説	・単語テスト	事前学習：

		明	・発券機や機器の説明について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認 ・発表の準備
	15	発表	これまで学んだことより発表 （ペア・グループの発表＋筆記試験）	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit6～12 の総復習

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	You're Welcome! Communication with Tourists Made Easy	Tae Kudo	Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・単語テスト：10% ・中間テスト＋発表＋小テスト：70% ・授業態度：20%（授業で投げかけられた質問に回答がなされる状態や授業への集中度 、ペア・グループワークへの参加度、ノートやメモを取っているか等） 注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする（3 回を超える欠席は単位不可/遅刻は 3 回で 1 回の欠席）。
学生への メッセージ	・本授業では前期に引き続き、英語を話す力を養います。 ・授業やグループークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする学生にはどんどん成績を上げていきます。練習を積めば、英語での会話はそれほど難しいものではありません。毎回、一言でも多く話せるようにしましょう。 ・紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。 ・積極的に海外旅行や留学に行ってみましょう。ランゲージパートナーを作ることもお勧めです。英語の力だけでなく、視野が広がります。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 b	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	このコースでは、様々な幅広いトピックについて自分の経験や考えを表現することを学びます。授業はスピーキングを重視し、英語でよく使う会話表現を学びます。また、会話を繋げるための関連した質問の使い方も学びます。毎回スピーキング評価をするので、毎週自分が何を学んだのかを示すことができます。
到達目標	このコースの最終目標は、 英語の会話を 10 分間持続する方法を学び、 会話表現を使用することで英語での会話を導き、 英語で文法的に正確な質問を作ることができ、 ノートを取ることでリスニング力を向上させることです。
授業方法と留意点	宿題として毎週ライティングの課題があります。このライティングの課題は授業での会話の話題として使用することになります。授業は全てペアかグループでの活動になるので、クラスメートとの協力が必要になります。 このコースでは、同期性の授業でズームとチームズを使います。
科目学習の効果（資格）	このコースは資格を取得するのを目的とし、あなたのスキルを向上させるのに役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、課題、評価法の説明	ライティングの課題、授業内容の復習
2	自己紹介:人との出会いと共通した興味のある事柄についての短い会話	今日のターゲット：一般動詞を使った wh 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、 授業内容の復習
3	週末:よくある週末の過ごし方	今日のターゲットの復習:一般動詞を使った wh 疑問文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
4	食べ物:好きな食べ物、嫌いな食べ物	今日のターゲット：be 動詞を使った wh 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、 授業内容の復習
5	大阪:大阪のいい所、そうでない所	今日のターゲットの復習：be 動詞を使った wh 疑問文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
6	音楽:ジャンルとアーティスト	今日のターゲット：yes/no 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
7	仕事：仕事の経験	今日のターゲットの復習：yes/no 疑問	1 週目から 7 週目までの内容の復習

		文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	
8	スピーキングテスト 1	1 週目から 7 週目までのターゲットを含むスピーキングテストの実施:?一般動詞を含む wh 疑問文、?be 動詞を含む wh 疑問文、?yes/no 疑問文	ライティングの課題、授業内容の復習
9	旅行経験:最後に行った旅行の思い出	今日のターゲット:経験についての質問 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
10	伝統的文化:日本芸術、工芸、活動	今日のターゲットの復習:経験についての質問 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
11	有名人:自分が賞賛し尊敬する人々	今日のターゲット:仮説に基づく質問 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
12	夢の休暇:旅行の計画	今日のターゲットの復習:仮説に基づく質問 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
13	スポーツ:アスリートとチーム	今日のターゲット:繰り返しを求める 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
14	休暇の計画:春休みの行動	今日のターゲットの復習:繰り返しを求める 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	9 週目から 14 週目までの内容の復習
15	スピーキングテスト 2	9 週目から 14 週目までのターゲットを含むスピーキングテストの実施:?経験についての質問、?仮説に基づく質問、?繰り返しを求める	授業内容の復習

関連科目	英語基礎会話 a

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>English in Common 1</td><td></td><td>Pearson</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>発話量　30%
ライティング課題　24%
毎週実施のスピーキング評価　24%
スピーキングテスト　20%
資料のチェック　2%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>このクラスではたくさん発話する必要があります。授業に来る前に必ず話したい事を十分準備するようにしてください。そうすれば会話はとても楽しいものになりますよ！</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td></td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	英語基礎会話ｂ	科目名（英文）	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ｉ / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units １６-20	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2	The English Gym Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	20%会話テスト１ 20%会話テスト２ 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ!
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長谷川　雄高
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書「第１回 文章の書き方１」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
2	文章の書き方１	レポート・論文の基本事項について	教科書の「文章の書き方 2」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
3	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方について	教科書の「事実と意見」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
4	事実と意見	事実と意見の書き分けについて	教科書の「課題①説明文」を読む（10 分）、ワークシートの作成（30 分）、課題１作成の準備（80 分）
5	課題①説明文	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く	教科書の「構成」を読む（30 分）
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書の「要約」を読む（30 分）ワークシートの作成（30 分）
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	教科書の「文章を引用する」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書の「図表を引用する」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書の「意見を述べる」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	教科書の「課題②論説文」を読む（20 分）、ワークシートの作成（30 分）、課題２作成の準備（80 分）
11	課題②論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書の「レポートの書き方１」を読む（30 分）
12	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ	教科書の「レポートの書き方２」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
13	レポートの書き方２	レポート作成の注意点をおさえる	レポート作成の準備（80 分）、ワークシートの作成（30 分）
14	課題③レポートの作成	レポートを作成する	―
15	おわりに	レポートの講評・まとめ	―

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×２）、レポート（30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	新しい技術として「論理的な文章」を書くことに挑戦してみましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間となる。 提出課題については、添削や授業時のコメントを通して、フィードバックを行う。 質問等は、出講時または非常勤講師室、ないしは Teams の機能を用いて対応する。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁　弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、漢字について系統的に学ぶ。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む（30 分）
2	文章の書き方１	レポート・論文の基本事項	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
3	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
5	課題①　説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
11	課題②　論説文	資料を引用して意見を述べる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
12	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
13	レポートの書き方２	レポート作成の注意点をおさえる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
14	レポートの書き方３	アウトラインの構成を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
15	レポート課題（課題③）	レポートをまとめる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題①と②（各 20%）、レポート課題（30%）、その他の提出物（30%）で評価する。ただし、課題①、課題②、レポート課題のうち、ひとつでも提出がない場合は不合格となる。また、提出物が５回ない場合も不合格となる。なお、課題①、課題②、レポート課題についての評価基準は出題の際に示す。（提出課題には締め切りを設けるので守ること。締め切りを過ぎた提出課題は不可とする。）
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	講義内容の質問については提出物にその欄を設ける。提出課題のフィードバックについては解答とともに示す。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長谷川　雄高
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書「第１回 文章の書き方１」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
2	文章の書き方１	レポート・論文の基本事項について	教科書の「文章の書き方 2」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
3	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方について	教科書の「事実と意見」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
4	事実と意見	事実と意見の書き分けについて	教科書の「課題①説明文」を読む（10 分）、ワークシートの作成（30 分）、課題１作成の準備（80 分）
5	課題①説明文	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く	教科書の「構成」を読む（30 分）
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書の「要約」を読む（30 分）ワークシートの作成（30 分）
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	教科書の「文章を引用する」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書の「図表を引用する」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書の「意見を述べる」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	教科書の「課題②論説文」を読む（20 分）、ワークシートの作成（30 分）、課題２作成の準備（80 分）
11	課題②論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書の「レポートの書き方１」を読む（30 分）
12	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ	教科書の「レポートの書き方２」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
13	レポートの書き方２	レポート作成の注意点をおさえる	レポート作成の準備（80 分）、ワークシートの作成（30 分）
14	課題③レポートの作成	レポートを作成する	―
15	おわりに	レポートの講評・まとめ	―

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×２）、レポート（30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	新しい技術として「論理的な文章」を書くことに挑戦してみましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間となる。 提出課題については、添削や授業時のコメントを通して、フィードバックを行う。 質問等は、出講時または非常勤講師室、ないしは Teams の機能を用いて対応する。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁　弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、漢字について系統的に学ぶ。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む（30 分）
2	文章の書き方１	レポート・論文の基本事項	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
3	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
5	課題①　説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
11	課題②　論説文	資料を引用して意見を述べる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
12	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
13	レポートの書き方２	レポート作成の注意点をおさえる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
14	レポートの書き方３	アウトラインの構成を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
15	レポート課題（課題③）	レポートをまとめる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題①と②（各 20%）、レポート課題（30%）、その他の提出物（30%）で評価する。ただし、課題①、課題②、レポート課題のうち、ひとつでも提出がない場合は不合格となる。また、提出物が５回ない場合も不合格となる。なお、課題①、課題②、レポート課題についての評価基準は出題の際に示す。（提出課題には締め切りを設けるので守ること。締め切りを過ぎた提出課題は不可とする。）
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	講義内容の質問については提出物にその欄を設ける。提出課題のフィードバックについては解答とともに示す。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長谷川　雄高
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す（60 分）
2	プリント資料の解説と前期の復習（前半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読む（60 分）
3	プリント資料の解説と前期の復習（後半）	課題①のテキスト（プリント資料）の解説を行う	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う（150 分）
4	課題①「論説文」の作成	各人で、ディスカッションの素材となる課題①論説文を作成する	―
5	ディスカッションとは	ディスカッションの技法・類型などについて	ディスカッションの準備を行う（60 分）
6	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分け	ディスカッションの準備を行う（60 分）
7	ディスカッション①	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
8	ディスカッション②	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
9	ディスカッション③	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
10	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの技法・類型などについて	プレゼンテーション資料の作成準備を行う（60 分）
11	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方や資料作成について	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う（150 分）
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
14	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章（要旨）を作成する	―
15	おわりに	課題③の返却・講評など	―

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	課題３回（20%、20%、30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格と

（基準）	なる。
学生への メッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。 質問等は、出講時および非常勤講師室において対応する。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁　弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッション等を含む。また、漢字を系統的に学ぶ。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	文章表現の基礎を復習する	教科書の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
2	小論文１	小論文の話題について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
3	小論文２	小論文の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
4	小論文３	小論文の構成について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
5	課題①　小論文	800 字程度の小論文を書く	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
6	グループディスカッション１	意見表明の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
7	グループディスカッション２	反論の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
8	グループディスカッション３	意見の調整について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
9	グループディスカッション４	意見のまとめ方について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
10	課題②　グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて 800 字程度の意見文を書く	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
11	プレゼンテーション１	プレゼンテーションの手順について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
12	プレゼンテーション２	プレゼンテーションの構成について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
13	プレゼンテーション３	プレゼンテーションの表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
14	プレゼンテーション４	質疑応答の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
15	課題③　プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	必須課題３回（20%、20%、30%）、練習問題（30%）により評価する。 必須課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長谷川　雄高
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す（60 分）
2	プリント資料の解説と前期の復習（前半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読む（60 分）
3	プリント資料の解説と前期の復習（後半）	課題①のテキスト（プリント資料）の解説を行う	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う（150 分）
4	課題①「論説文」の作成	各人で、ディスカッションの素材となる課題①論説文を作成する	―
5	ディスカッションとは	ディスカッションの技法・類型などについて	ディスカッションの準備を行う（60 分）
6	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分け	ディスカッションの準備を行う（60 分）
7	ディスカッション①	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
8	ディスカッション②	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
9	ディスカッション③	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
10	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの技法・類型などについて	プレゼンテーション資料の作成準備を行う（60 分）
11	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方や資料作成について	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う（150 分）
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
14	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章（要旨）を作成する	―
15	おわりに	課題③の返却・講評など	―

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	課題３回（20%、20%、30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格と

（基準）	なる。
学生への メッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。 質問等は、出講時および非常勤講師室において対応する。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁　弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッション等を含む。また、漢字を系統的に学ぶ。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	文章表現の基礎を復習する	教科書の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
2	小論文１	小論文の話題について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
3	小論文２	小論文の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
4	小論文３	小論文の構成について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
5	課題①　小論文	800 字程度の小論文を書く	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
6	グループディスカッション１	意見表明の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
7	グループディスカッション２	反論の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
8	グループディスカッション３	意見の調整について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
9	グループディスカッション４	意見のまとめ方について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
10	課題②　グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて 800 字程度の意見文を書く	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
11	プレゼンテーション１	プレゼンテーションの手順について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
12	プレゼンテーション２	プレゼンテーションの構成について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
13	プレゼンテーション３	プレゼンテーションの表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
14	プレゼンテーション４	質疑応答の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
15	課題③　プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	必須課題３回（20%、20%、30%）、練習問題（30%）により評価する。 必須課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ア
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	陽　煜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	（１）式の展開・因数分解ができる。 （２）方程式・不等式を解くことができる。 （３）場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること，定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問 課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	第１章の問 課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問 課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	第２章の問 課題レポート
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問 課題レポート
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問 課題レポート
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問 課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問 課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	第５章の問 課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問 課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問 課題レポート

関連科目：数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常（４０%）・期末（６０%）で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	３号館３階　数学研究室
備考	

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	蓑茂　工将
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	（１）式の展開・因数分解ができる。 （２）方程式・不等式を解くことができる。 （３）場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。理解の促進と達成度合いの確認のため、演習を適時行い、課題レポートを課す。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化し、論理的に解くことを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問　課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	第１章の問　課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問　課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第２章の問　課題レポート
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問　課題レポート
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問　課題レポート
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問　課題レポート
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問　課題レポート
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問　課題レポート
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問　課題レポート
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問　課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問　課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第５章の問　課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問　課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問　課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポート（４０％）と期末試験（６０％）で評価する(期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得る)。
学生へのメッセージ	授業の内容については、積極的な質問を歓迎します。そのほか学問に関することなど、雑談にも気軽に応じます。いっしょにがんばりましょう。
担当者の研究室等	5 号館 1 階 数学研究室
備考	事前事後学習は毎回 1 時間以上かけること。 課題は、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ウ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味　俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （１）式の展開・因数分解ができる。 （２）方程式・不等式を解くことができる。 （３）場合の数・確率の計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるために演習を適宜行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問 課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	第１章の問 課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問 課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第２章の問 課題レポート
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問 課題レポート
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問 課題レポート
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問 課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問 課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列、組み合わせ	第５章の問 課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問 課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習課題（３０％）及び期末試験（７０％）の合計で総合的に評価する。なお、試験については COVID-19 感染対策状況によりレポート等への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。
担当者の研究室等	５号館１階
備考	事前・事後学習は毎回１時間以上かけること。 演習課題は採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	エ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	陽　煜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	（１）式の展開・因数分解ができる。 （２）方程式・不等式を解くことができる。 （３）場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること，定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問 課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	第１章の問 課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問 課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	第２章の問 課題レポート
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問 課題レポート
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問 課題レポート
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問 課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問 課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	第５章の問 課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問 課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問 課題レポート

関連科目：数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常（４０%）・期末（６０%）で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	３号館３階　数学研究室
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ア
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陽　煜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 （2）等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。 （3）3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。 （4）基本的な関数の積分計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き，筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 演習課題(1時間)
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第7章の問 演習課題(1時間)
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第7章の問 演習課題(1時間)
4	2次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第7章の問 演習課題(1時間)
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 演習課題(1時間)
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題(1時間)
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題(1時間)
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線，導関数	第9章の問 演習課題(1時間)
9	中間試験	第1-7回の講義に関する中間試験、及び解答解説	演習課題(1時間)
10	整関数の微分(2)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第9章の問 演習課題(1時間)
11	整関数の微分(3)	・最大値，最小値 ・応用問題	第9章の問 演習課題(1時間)
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 演習課題(1時間)
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 演習課題(1時間)
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 演習課題(1時間)
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第10章の問 演習課題(1時間)

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎（ISBN:9784780603026）	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常40%、期末60%で判定し評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3号館3階　数学研究室
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	蓑茂　工将
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 （2）等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。 （3）3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。 （4）基本的な関数の積分計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き，筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 演習課題
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第7章の問 演習課題
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第7章の問 演習課題
4	2次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第7章の問 演習課題
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 演習課題
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線，導関数	第9章の問 演習課題
9	整関数の微分(2)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第9章の問 演習課題
10	整関数の微分(3)	・最大値，最小値 ・応用問題	第9章の問 演習課題
11	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 演習課題
12	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 演習課題
13	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 演習課題
14	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第10章の問 演習課題
15	総合演習	・第7-10章の内容	第7-10章の問 演習課題

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート課題40%、期末試験60%で判定し評価する(期末試験についてはCOVID19感染状況次第でレポート等の代替手段への変更も有り得る)。
学生へのメッセージ	授業の内容については、積極的な質問を歓迎します。そのほか学問に関することなど、雑談にも気軽に応じます。いっしょにがんばりましょう。
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題は、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ウ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味　俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 （2）等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。 （3）3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。 （4）基本的な関数の積分計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるために演習を適宜行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習課題（３０％）及び期末試験（７０％）の合計で総合的に評価する。なお、試験については COVID-19 感染対策状況によりレポート等への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。
担当者の研究室等	５号館１階
備考	事前・事後学習は毎回１時間以上かけること。 演習課題は採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	エ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陽　煜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 （2）等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。 （3）3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。 （4）基本的な関数の積分計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き，筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 演習課題(1時間)
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第7章の問 演習課題(1時間)
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第7章の問 演習課題(1時間)
4	2次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第7章の問 演習課題(1時間)
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 演習課題(1時間)
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題(1時間)
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題(1時間)
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線，導関数	第9章の問 演習課題(1時間)
9	中間試験	第1-7回の講義に関する中間試験、及び解答解説	演習課題(1時間)
10	整関数の微分(2)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第9章の問 演習課題(1時間)
11	整関数の微分(3)	・最大値，最小値 ・応用問題	第9章の問 演習課題(1時間)
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 演習課題(1時間)
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 演習課題(1時間)
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 演習課題(1時間)
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第10章の問 演習課題(1時間)

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎（ISBN:9784780603026）	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常40%、期末60%で判定し評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3号館3階　数学研究室
備考	

科目名	経済情報論	科目名（英文）	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2○,DP3○,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WIL1314a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：大学の ICT 環境の確認（60 分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 1 回（60 分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 2 回（60 分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 3 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 4 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り（30 分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（60 分）

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
	9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（橋本講師室）

備考	

科目名	政治学	科目名（英文）	Political Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WSO1412a2		

授業概要・目的	日々ニュースで報じられる政治の動きを、政治学という学問的な裏付けを基礎にしてとらえることを目標とする。 政治体制・政党制など、政治学の理論的な整理を試みるとともに、国際政治についても目を向けていきたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本や主要国の政治制度（議会や行政機関）及び選挙制度、自由民主主義、政党や利益集団、福祉国家といった政治学の重要な項目について習得するとともに、戦後日本の政治史を理解することが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストはMoodleより行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース「日本の政治（政治学）＜2022年度前期 金曜4限W・2　担当：森康一＞」を検索の上、登録しておいて下さい。 自己登録キー：1206
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治学や政治史の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に関して必要な基本的な知識を得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治・国際面を読む習慣をつける
2	政治制度と選挙制度（1）	近代社会と現代社会、および近代国家について	近代市民社会と現代大衆社会の違いについて調べておく（約1時間）
3	政治制度と選挙制度（2）	近代議会主義と選挙制度について 日本の国会の選挙制度について	小選挙区制と比例代表制の違いについて調べておく（約1時間）
4	国家の政治体制（1）	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	自由主義と民主主義について調べておく(約1時間)
5	国家の政治体制（2）	自由民主主義体制の分類について	世界で自由民主主義体制と呼ばれる国々がどのくらいあるか調べておく（約1時間）
6	国家の政治体制（3）	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	1989年の東欧革命について調べておく（約1時間）
7	各国の政治制度・選挙制度	米・英・仏・独の政治制度、選挙制度について	大統領制と議院内閣制の違いについて調べておく（約1時間）
8	政党と利益集団（1）	政党の機能や分類、政党制について	イギリスの初期政党（トーリー党・ホイッグ党）について調べておく（約1時間）
9	政党と利益集団（2）	利益集団の機能や分類、活動および日本の利益集団政治について	「鉄の三角形」とは何か調べておく（約1時間）
10	政治と経済・福祉（1）	政治と経済の関わりについて	「大きな政府」・「小さな政府」について調べておく（約1時間）
11	政治と経済・福祉（2）	戦後の福祉国家について	日本の社会保障制度について調べておく(約1時間)
12	戦後政治史（1） 敗戦・占領	初期占領改革について	GHQのいわゆる「五大改革指令」について調べておく（約1時間）
13	戦後政治史（2） 講和と55年体制の成立	吉田・鳩山内閣期の国内政治・国際政治について	1950年代の外交政策について調べておく（約1時間）
14	戦後政治史（3） 自民党政治	自民党の派閥政治について	現在の自民党の派閥の沿革について調べておく（約1時間）
15	まとめ	講義のまとめと、試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする（約4時間）

関連科目	政治・外交関連の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代政治学	加茂利男 他	有斐閣
2	はじめて出会う政治学	北山俊哉 他	有斐閣
3			

評価方法（基準）	・原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。 ・成績評価は ◯平常点 20%：小テスト×2回（第6回・第11回の授業日に Moodle から実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点） ◯期末試験 80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。 期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。 そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の研究室等	11号館5階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	生物学	科目名（英文）	Biology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾崎　清和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA1415a2		

授業概要・目的	人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、生物の多様性や生態系に関する基礎的な知識も同時に取得できる。
授業方法と留意点	対面で実施する
科目学習の効果（資格）	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生物、生態系とは	授業中のルール説明・試験方法について 生物や生態系の基礎知識を問う ビデオ「人体ミクロの大冒険　プロローグ」	―――
2	細胞	細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	DNA	DNA、タンパク合成、細胞の増殖に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	神経細胞	神経細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	神経系	神経系､脳に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	生命誕生	生殖器系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	ホルモンと自律神経	自律神経と内分泌系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	習熟度試験前半	講義前半の習熟度試験	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	血液、免疫	血液、免疫系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	腎臓	腎臓に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	筋肉と脂肪	骨格系、脂肪に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	骨	骨に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	肝臓、消化器	肝臓と消化器に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	癌	腫瘍に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	習熟度試験後半	講義後半の習熟度試験	―――

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューステージ新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の小テストを 50%、習熟度試験を 50%で評価する。 新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、連絡する。
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を拡げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部６号館３階病理学研究室１
備考	事後学習６０分、授業日の授業前に小試験対策の事前学習３０分が必要です。

科目名	科学技術教養Ｔ１	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy T2
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東　武大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては，時代を超えて人々に事物を伝えるために，「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで，誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し，人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では，科学技術を支える数学や物理学の内容を，時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し，それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを，基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について，各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	テキスト及び毎回の配布資料に基づく講義主体の授業とする。講義ごとに講義メモの提出を求めるとともに、レポート等の課題を課す。
科目学習の効果（資格）	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	教科書 1 章の予習復習(1 時間)
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習(1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習(1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習(1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
9	電磁波	光は波である．弦を伝わる波は，弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返し現れて波になっている．光が波ならば，いったい何の振動なのだろうか．マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
10	レーザー光	光を発するもの（光源）には様々なのがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード（LED）が急速に普及している。本講では人が創りだした「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
11	X 線の発見から利用	X 線の発見から発生の原理、さらに X 線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンや X 線 CT がなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)

			線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	
	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説に ついて概観する。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証す る近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
	15	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙 を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題(1 時間)

関連科目	数学・物理の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養 T1(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館 2 階(東谷)， 5 号館 1 階(友枝・小林・東)， 8 号館 2 階(長島)〕
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。

科目名	経済キャリア入門	科目名（英文）	Introduction to Career Design for Economics Students
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1501a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける	・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること(0.5 時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活において目標を考える	・事前学修：摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(0.5 時間)/講義で課された課題に取り組むこと(0.5 時間/継続)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと（２時間）
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと(0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと（２時間）
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事後学修：社会で求められる人材について考えること(0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(0.5 時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5 時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・事後学修:期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業内活動（30%）、グループ課題(20%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	７号館５階 教育イノベーションセンター（石井）
備考	１．2021 年度以前入学の再履修者はこの教室で実施する。 ２．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 ３．ミニレポートは採点した後に返却する。

科目名	キャリアデザイン	科目名（英文）	Career Design
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1502a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2021 年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：１時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：２時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後：0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5 時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：１時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題につて調べること(事前：0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（水野）
備考	

科目名	キャリアプラン	科目名（英文）	Career Plan
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1503a3		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義では教員と学生、学生同士で対話をしながら進行をするので、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意志が伝えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること（１時間）
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること（１時間）
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること（１時間）
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること（１時間）
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読氏、グループワークに取り組むこと（２時間）
6	営業思考を身につける	・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（１時間）
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーションを行う	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（１時間） 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間)
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること（１時間）
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること(0.5時間)
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること(0.5時間)
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1時間)
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること(1時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること（１時間）

関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義での提出物（30%）、グループ課題(20%)、期末レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。なお、履修人数の増減に伴うグループワーク時のグループ数により講義内容の一部に変更が生ずる可能性があるので注意すること。
担当者の研究室等	７号館３階　教育イノベーションセンター（水野研究室）
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

科目名	インターンシップⅠ	科目名（英文）	Internship Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA2506a3		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に　1）仕事の社会における役割　2）仕事の成果とは　3）仕事の責任と充実感　を直接肌で感じること　が期待される。 インターンシップⅠでは事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。 SDG s 4-4 SDG s 8-6
到達目標	就職活動の流れとインターンシプの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること（１時間） ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（２時間）
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと（３時間） ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（１時間）
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること（１時間） ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること（３時間）
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること（１時間） ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること（３時間）
5	課題のプレゼンテーション①	・第４回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修：第４回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること（３時間） ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる（１時間）
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること（２時間） ・事後学修:配付されたテキストを精読すること（２時間）
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること（２時間） ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること（２時間）
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること（２時間） ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること（２時間）
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと（２時間） ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること（２時間）
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること（２時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと（２時間）
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること（２時間） ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること（２時間）
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること（２時間） ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること（２時間）
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（２時間） ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること（２時間）
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（２時間） ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省する

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>こと（２時間）</td></tr>
<tr><td>15</td><td>振り返りとまとめ</td><td>・授業を振り返る
・インターンシップの目的を再考する</td><td>・事前学修：インターンシップⅠで学んだことをまとめること（２時間）
・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること（３時間）</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>各課題 55%とレポート 45%（企業研究の PPT と企業研究レポート 25%、最終レポート 20%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>インターシップの流れは以下のとおりである。
※４月下旬にリスト公開→５月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→５月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→６月末頃に事前訪問→８月上旬からインターンシップ開始（予定）

※インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示
服　　装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。

予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で６０時間程度を目安とする。

※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。</td></tr>
</table>

科目名	インターンシップⅡ	科目名（英文）	Internship II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA3507a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 なお、直前学修および実習の有無・形態に関してはインターンシップⅠで伝達する。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果（資格）	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	直前学修① ６月１８日(土)　３限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ＊スーツ着用のこと	・事前学習：社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(１時間)
2	直前学修② ６月１８日(土)　４限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
8	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
9	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 （担当教員への提出と教務課へ電子データを提出）	・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(２時間)
10	事後学修① ９月17日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること (1.5時間)
11	事後学修② ９月17日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
12	事後学修③ ９月24日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
13	事後学修④ ９月24日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
14	事後学修⑤ 10月１日(土)　３限目(予定)	・インターンシップを振り返る （実習記録簿の提出）	・事前学習：実習記録簿を見直してくること(１時間)
15	事後学修⑥ 10月１日(土)　４限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること(１時間)

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>インターンシップⅠ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>企業による報告書（20%）、体験報告書など提出物（40%）、発表を含む授業態度（投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など）（40%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>１.「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。
２.「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。
履修希望者が多い場合は、選考することもある。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。

なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は３時間以上かけて仕上げること。

※事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。</td></tr>
</table>

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木　和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1509a3		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	①まずは問題を自力で解く（取り組む）→②講師による解説→③類題を解く　という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（約１時間）
2	計算問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
3	計算問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
4	計算問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
5	計算問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
6	計算問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（約２時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（約２時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
14	論理問題⑥	推論②	全ての問題を事前に復習（約２時間）
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（約２時間）

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	「小テスト 40%」+「中間テスト・最終テスト 50%」+「Smart SPI 10%」
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週１時間程度の復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	２号館２階　ラーニングセンター（旧学習支援センター）
備考	『厳選！数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1509a3		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週１時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階　教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力をオススメします。

科目名	ビジネスマナーⅠ	科目名（英文）	Business Manner Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　朗子.山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1510a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 組織人およびフリーランスとしての自身の経験と、人材育成・組織開発コンサルティングを行ってきたビジネス現場での経験を交えて実践的な“ビジネスマナー”をお伝えします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。※プリントアウトが望ましい 授業は講義中心で進めるが、ペアワークやグループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むことが求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考えること(30分) ・事後学修：ビジネスマナーとは何か、400字でまとめること(60分)
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修:企業のエコ活動について調べること(30分) ・事後学修：仕事とは何か、まとめること(60分)
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定（MBO） ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べること(30分) ・事後学修：あなたの日常生活における MBO ととPDCAを考え、まとめること(60分)
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成すること(30分) ・事後学修:あなたの予定表作成について振り返り、まとめること(60分)
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をすること(30分) ・事後学修:ケーススタディプリントをすること(60分)
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをすること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返すこと(60分)
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修:来客応対プリント①をすること(30分) ・事後学修:来客対応プリント②をすること(60分)
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること(60分)
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修:ビジネス文書始める前にをすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書②をすること(60分)
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書④をすること(60分)
11	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をすること(30分) ・事後学修：メール文書を作成すること(60分)
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（Pマーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べること(30分) ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成すること(60分)
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること(30分) ・事後学修：設営事例をまとめること(60分)
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をすること(30分) ・事後学修：弔・贈答プリント②をすること(60分)
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること(30分) ・事後学修：共生関係について自らの考えをまとめること(60分)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	<table><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席６回以上）は評価できないことがある。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなってきました。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われています。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質です。みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の重要性を理解し、社会人としての第一歩を築きましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むことを前提とする。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とすること。質問等は、メールにて受け付ける。

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名（英文）	Business Manner II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1511a3		

授業概要・目的	企業等のビジネス組織においての積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。
到達目標	社会人としてのコミュニケーション能力（非言語ならびに言語能力）とビジネス実務能力の向上を図ることである。
授業方法と留意点	テキストはポータルサイトにアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務能力が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネスマナーからビジネス実務へ	・授業のオリエンテーション ・ビジネスにおける最低限のルール確認 ・ビジネス用語の基本	・事前学修：ビジネスマナーⅠを受講した学生は学んだことを復習すること。受講していない学生は自身のマナーについて考える(30 分) ・事後学修：オリエンテーション内容についてレポートを作成すること(60 分)
2	正しい姿勢と動作	・第一印象の重要性の確認 ・姿勢のワンポイントアドバイス	・事前学修：自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモすること(30 分) ・事後学修：第一印象の重要性ついてレポートを作成すること(60 分)
3	PDCA サイクルと YTT 方式	・PDCA サイクルの重要性 ・YTT 方式の活用法	・事前学修：日常において段取りが悪かった事例の内容を６W３H でまとめること(30 分) ・事後学修：その改善点を考え、記録すること(60 分)
4	アサーティブな自己表現、クッション言葉の重要性	・自分の意思を伝える方法 ・ロールプレイング	・事前学修：日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモすること(30 分) ・事後学修：相手に理解される伝え方についてレポートを作成すること(60 分)
5	敬語表現と逆説得①	・敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方	・事前学修：テキスト内の敬語に関する項目を完成すること(30 分) ・事後学修：逆説得をまとめ、レポートを作成すること(60 分)
6	敬語表現と逆説得②	・相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察	・事前学修：「環境プロデューサー」の意味を考え、理解すること(30 分) ・事後学修：「誠意」の意味とコミュニケーションにおける距離を理解し、レポートを作成すること(60 分)
7	クレーム対応	・不満を信頼に変える対応	・事前学修：クレームが発生する理由を考えること(30 分) ・事後学修：クレーム対応のポイントをまとめること(60 分)
8	「確実・迅速・丁寧」と信頼関係処理	・信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード	・事前学修：日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返ること(30 分) ・事後学修：ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なのか理解し、レポートを作成すること(60 分)
9	来客応対、処理業務などの基本と応用	・来客応対の基本 ・聞き方、話し方のポイントド	・事前学修：TPO の意味を考え、来客応対にはどんな意味があるのかを考える。こと(30 分) ・事後学修：来客対応のポイントをレポートすること(60 分)
10	社内会議、設営の基本	・会議の流れの基本 ・設営の基本	・事前学修：会議を主催する場合の手順についてかんがえること(30 分) ・事後学修：会議を主催する場合の手順をまとめること(60 分)
11	ビジネス文書の作成①	・社内文書、社外文書	・事前学修：ビジネス文書の形式、特徴を調べておくこと(30 分) ・事後学修：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(60 分)
12	ビジネス文書の作成②	・事例研究	・事前学修：実務処理能力を高めることを理解すること(30 分) ・事後学修：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(60 分)
13	わかることからできることへ ケーススタディ①	・電話応対の基本と応用	・事前学修：電話の応対のポイントを考えてくること(30 分) ・事後学修：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(60 分)
14	わかることからできることへ ケーススタディ②	・自分で実践するキャリア開発 ・必要とされるビジネスマナーおよび実務内容のまとめ	・事前学修：キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考えること(30 分) ・事後学修：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(60 分)
15	わかることからできることへ	・ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段	・事前学修：ライフプランの中のキャリアプランを立案、評価すること(30 分)

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td>ケーススタディ③</td><td>階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。</td><td>・事後学修：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(60 分)</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ビジネス実務ワーク</td><td>石井三恵、他</td><td>泉文堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>定期試験 40%,、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート　30%を総合的に判断する。
ただし、出席不良者（欠席６回以上）は評価できないことがある。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>ビジネスの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線上にあります。決して初めて学ぶことではありません。
だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持っおり、それを振り返ることから始まります。
まずは、TPO を考え、自分の言動を意識してみましょう。授業外での質問にはメール、チャットで対応します。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>７号館５階　キャリア教育推進室（石井）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。
レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。</td></tr>
</table>

科目名	経済学入門（エコノミックリテラシー）	科目名（英文）	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1001a0		

授業概要・目的	経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。 SDGs-9,1013
到達目標	経済学の基本的な考え方や用語を理解する。新聞の経済記事が読めるようになる。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。また、これらと並行して課題を課す。適宜、レジュメを配布する。 ゲストの日程の都合により、シラバスの変更があり得る。また、受講者の理解度によって、シラバスの変更もあり得る。
科目学習の効果（資格）	経済学的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	何故経済学を勉強するのか？経済学の対象と経済学的考え方	経済学とは何か、授業の進め方、成績評価について説明する	講義内容の復習
2	大きな社会問題、身近な経済問題（１）	身近な経済問題について考える 例：なぜ消費税率を上げるの？ なぜ人手不足なのに賃金が上がらないの？	講義内容の復習
3	大きな社会問題、身近な経済問題（２）	グローバリゼーションが経済にどのような影響を与えているのか考える:インバウンドの増加（観光)、国際貿易、為替レートなど	講義内容の復習
4	経済学的な発想とは（１）	効率性と公平性	講義内容の復習
5	経済学的な発想とは（２）	需要と供給の世界：ミクロ経済学１	講義内容の復習
6	ゲスト講師:読売新聞大阪本社　広報宣伝部部長・戸田博子氏（予定） 「経済記事を楽しもう～新聞の読み方」	経済記事の読み方について、読売新聞大阪本社の広報宣伝部長からレクチャーを受ける	講義内容の復習
7	経済学的な発想とは（３）	需要と供給の世界：ミクロ経済学２	講義内容の復習
8	経済学的な発想とは（４）	経済全体を丸ごとつかむ:マクロ経済学１	講義内容の復習
9	経済学的な発想（５）	経済全体を丸ごとつかむ:マクロ経済学２	講義内容の復習
10	財政について考える（１）	日本財政の現状、財政赤字の原因と問題点 現代財政の３つの機能	講義内容の復習
11	財政について考える（２）	税について考える	講義内容の復習
12	協力の科学としての経済学	ゲーム理論とは？	講義内容の復習
13	少子高齢化と地域経済	少子高齢化が進む都市と農村の問題について考える	講義内容の復習
14	観光と経済	観光と経済の関係、	講義内容の復習
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習

関連科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教養としての経済学	一橋大学経済学部	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スティグリッツ入門経済学第４版	ジョセフ・スティグリッツ	東洋経済新報社
2			
3			

評価方法（基準）	中間レポート（４０%）と期末試験（６０%）で評価する。
学生へのメッセージ	経済学的考え方の基礎を習得し、経済新聞も読めるようになりましょう。 疑問点・わからない点があれば授業中でかまいませんので聞いてください。
担当者の研究室等	1号館7階　後藤教授室（経済学部）
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。戸田氏の講義は、日程変更があり得る。 授業中に発表（プレゼンテーション）を求めることもあります。

科目名	経済学入門（エコノミックリテラシー）	科目名（英文）	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1001a0		

授業概要・目的	経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。
到達目標	2年次配当科目である、マクロ経済学・ミクロ経済学で用いられる基礎的な概念や必要な知識を習得し、次学年への準備をおこなう。
授業方法と留意点	基本的には配布プリントを中心とした講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを、別途の配付プリントを参照しながら解説する。また、これらと並行して小テストや課題を課す予定である。
科目学習の効果（資格）	経済学的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、単元テスト・課題提出の方法について、成績評価方法、(必要に応じ Teams を利用したオンライン授業の方法)について説明する。	
2	経済学の歴史	経済学の発展に貢献した人物やその考え方を歴史的に学ぶ。	
3	国民経済計算	マクロ経済学で用いられる基礎的な概念(国内総生産・三面等価の原則等)を理解する。	単元テスト1
4	財政政策・租税①	マクロ経済学の分析の入門として、45度線分析の構造を理解する。	単元テスト2
5	財政政策・租税②	マクロ経済学の分析の入門として、45度線分析を行い、乗数効果について理解する。	
6	金融政策・金利	マクロ経済学の分析の入門として、各種金融政策を学ぶ。また、金利に対する理解を深める。	単元テスト3
7	消費者理論①	ミクロ経済学の分析の入門として、効用関数、限界効用、消費者余剰、最適消費量等の概念を理解する。	単元テスト4
8	消費者理論②	演習問題を通じて、消費者理論への理解を深める。	
9	生産者理論	ミクロ経済学の分析の入門として、費用関数、限界費用、生産者余剰、最適生産量等の概念をおおまかに理解する。	
10	市場均衡・余剰分析①	ミクロ経済学の分析の入門として、完全競争市場における均衡の性質を学ぶ。	単元テスト5
11	市場均衡・余剰分析②	前回に引き続き、完全市場均衡に関する静学分析を通じて、均衡の性質について理解を深める。	
12	ゲーム理論	非協力ゲームの戦略型ゲームの構造を理解する。囚人のジレンマ・ナッシュ均衡を理解する。ゲーム理論の経済学への応用の基礎を学ぶ。	単元テスト6
13	統計学の基礎の基礎	経済学でなぜ統計学が必要なのかを理解する。 記述統計量(平均・分散・標準偏差・相関係数)を計算できるようにする。	単元テスト7
14	現実の経済を学ぶために	これから経済学部で現実の経済をどのように学ぶのかガイダンスを行う。	単元テスト8
15	期末テスト	期末テスト	

関連科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、統計学、ゲーム理論等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(60%)・単元テスト(40%)に基づく総合評価による。
学生へのメッセージ	質問があれば気軽にして下さい。
担当者の研究室等	1号館7階　植杉教授室（経済学部）
備考	

科目名	地域経済入門	科目名（英文）	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1002a0		

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。この授業を履修することによって、グローバル化の中の地域経済について理解し、観光にも応用できる地域経済学の基礎的素養を身につける。 SDGs-9,11
到達目標	地域経済とは何か、産業連関表や経済波及効果等の基本的な考え方が理解できるようになる。なぜ、人や企業は大都市に集積するのか等、空間と経済についても理解できるようになる。
授業方法と留意点	授業は、基本的に、前回の復習、本日の授業テーマの講義や学生による発表、授業内容に対応する課題の提示の順序で進めていく。
科目学習の効果（資格）	地域経済を理論と実証の両面から学び、地域経済の現状や政策を理解する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	地域経済学の課題と地域経済の学び方について説明する。	地域経済に関する新聞記事を見つけ、発表準備をする（２回目以降も同様）
2	地域経済学の課題	地域の概念、グローバル化と地域経済について学習する。	講義の復習
3	日本の地域構造	産業構造の変化や情報化と地域構造の変化について学習する。	講義の復習
4	地域経済と所得形成	地域経済計算とその概念、地域所得の決定について学習する。	講義の復習
5	産業連関分析	産業連関表の考え方、経済波及効果の算出方法を学習する。	講義の復習
6	地域成長の経済分析	地域経済の成長を説明するモデルである「需要主導型モデル」と「供給主導型モデル」について学習する。	講義の復習
7	地域間交易の理論	比較優位と地域間交易について学習する。	講義の復習
8	地域間格差と人口移動	地域間格差が存続する理由と地域間の人口移動について学習する。	講義の復習
9	産業の立地	工業立地論、空間的集積、外部経済について学習する。	講義の復習
10	都市の成立・発展	集積の経済や都市発展のメカニズムについて学習する	講義の復習
11	商店街の活性化	日本の商業の課題、特に商店街空洞化の現状や問題点を知り、商店街活性化の成功事例について学習する。	講義の復習
12	地域政策１	地域政策の目的と地域開発戦略、日本の地域・都市政策について学習する。	講義の復習
13	地域政策２	地域政策と観光について学習する	講義の復習
14	文化による地域再生	文化を生かした都市・地域の再生について学習する	講義の復習
15	まとめ	まとめ	全体の復習

関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域経済入門第３版	山田浩之・徳岡一幸編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	文化経済学―理論と実際を学ぶ	後藤和子・勝浦正樹編著	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（60%）、中間レポート（30%）、授業中の発表（10%）を総合的に評価する。授業の進捗状況により、授業内容や評価方法を変更する可能性がある。
学生へのメッセージ	地域経済学は幅広い学問領域です。授業では教科書に沿って、地域経済学の主要な項目をひととおり履修することにより、地域経済学の体系的な知識を身につけることを目指します。また、実際の地域や政策に関する新しい動向も紹介します。観光や国際にも応用できるような力を身につけましょう。
担当者の研究室等	1号館７階　後藤教授室（経済学部）
備考	学生の理解度に応じて授業内容を変更することがある。

科目名	地域経済入門	科目名（英文）	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	郭　進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1002a0		

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。　とりわけ、産業連関表の応用として、最近注目されている経済波及効果の分析を学習する。
到達目標	この授業を履修することによって、①地域経済学の基礎知識を身につける。②産業連関表のしくみおよび経済波及効果の分析を理解できる。③グローバル経済の中で地域経済の活性化の重要性を実感する。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review（前回の復習と練習問題の解説）、本日のポイント、内容（ポイントについて解説）、練習問題（内容に対応する課題）の形式で進めていく。
科目学習の効果（資格）	地域経済を理論と実証の両面から学び、実際の地域経済データを用いての数値分析の能力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	地域経済学の課題と地域経済の学び方について説明する。	授業後、アンケートの実施。
2	地域の概念と基本地域メッシュ	地域の概念と地域メッシュについて説明する。	授業後、課題の提出
3	日本の地域構造と人口動態	日本の地域構造と人口動態について説明する。	授業後、練習問題の提出
4	地域経済計算とその概念	地域経済計算とその概念について説明する。	授業後、練習問題の提出
5	地域所得の決定	地域所得の決定について説明する。	授業後、練習問題の提出
6	産業分類と産業連関表	日本の産業分類と産業連関表の基本取引表について紹介する。	授業後、課題の提出
7	産業連関分析(1)	経済波及効果の算出方法について説明する。	授業後、課題の提出
8	産業連関分析(2)	経済波及効果の分析実例を紹介する。	授業後、課題の提出
9	前半内容のまとめ及び小テスト	1回から8回までの内容のまとめと小テストを実施する	1回から8回までの内容を復習すること。
10	地域間交易の理論	比較優位と地域間交易について説明する。	授業後、練習問題の提出
11	地域経済成長の理論（1）	移出基盤モデルについて説明する。	授業後、課題の提出
12	地域経済成長の理論（2）	特化係数法と基盤比率について説明する。	授業後、課題の提出
13	地域間格差と人口移動	統計分析の手法を用いて地域間格差を考察し、地域間格差と人口移動の関係について説明する。	授業後、課題の提出
14	地域政策について	地域政策の目的と地域開発戦略について説明する。	授業後、課題の提出
15	総まとめ	講義の総まとめ及び期末試験の対策を説明する。	授業後、演習問題による復習

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域経済学入門 第3版	山田浩之　徳岡一幸	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業での提出課題20%、小テスト30%、期末テスト50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
学生へのメッセージ	地域経済学は幅広い学問領域であるが、授業中、学生諸君がイメージしやすい面白い題材を選択し、講義を行っていくと思う。
担当者の研究室等	１号館７階　郭教授室
備考	

科目名	観光学入門	科目名（英文）	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1003a0		

授業概要・目的	少子高齢化の時代を迎え、交流人口の増加を期待される観光は日本の重要政策に位置づけられ、今後ますますその必要性が高まってくると考えられます。この授業では観光経済を学ぶうえでの観光の基礎知識を習得することを目的とします。 また、授業担当者は観光事業会社での観光事業全般の運営・マネジメント経験から得た知見をふまえ、観光に関する実践的な教育を行います。
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光について書かれた記事や文献を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果（資格）	観光経済を学ぶ上での基礎知識の習得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明等	
2	観光と観光学	観光とは何か？観光の定義、観光の果たす役割・意義を考える。	事後：配布資料の復習
3	観光の歴史Ⅰ	観光の世界史・日本史を講義する。（古代～近世）	事後：配布資料の復習
4	観光の歴史Ⅱ	観光の世界史・日本史を講義する。（近代～現代）	事後：配布資料の復習
5	観光と行動	観光行動の形と仕組みについて考える。	事後：配布資料の復習
6	観光と観光情報	観光における情報の重要性を理解する。	事後：配布資料の復習
7	観光と経済Ⅰ	観光の持つ経済的なインパクトを理解する。	事後：配布資料の復習
8	観光と経済Ⅱ	経済の一般理論と観光市場の関係について理解する。	事後：配布資料の復習 小テスト
9	観光と交通	交通が観光に果たす役割を考える。	事後：配布資料の復習
10	観光と観光資源	観光資源の特徴と要件を理解する。	事後：配布資料の復習
11	観光と法律①	観光に関わる法律、条約、条例やそれぞれの役割について理解する。	事後：配布資料の復習
12	観光と法律②	観光立国推進基本法の意義について考える。	事後：配布資料の復習
13	観光と観光産業①	旅行業の役割とこれからのあり方を講義する。	事後：配布資料の復習
14	観光と観光産業②	宿泊産業・航空産業の特徴と役割について講義する。	事後：配布資料の復習 小テスト
15	新しい観光と観光政策	新しい観光のあり方と課題は何か、また観光立国を推進する国の観光政策について考える。	事後：配布資料の復習 課題レポート提出

関連科目	観光人材論、観光マーケティング論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト２回（４０%）、課題レポート（２０%）、定期テスト（４０%）の割合で評価します。
学生へのメッセージ	観光はさまざまな形でニュースや記事にとりあげられています。普段から時事問題にも注意をしておいてください。
担当者の研究室等	1号館７階　持永教授室（経済学部）
備考	

科目名	観光学入門	科目名（英文）	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1003a0		

授業概要・目的	定住人口に代わって交流人口による地域経済の活性化が期待できるのが観光です。日本はこれまで国の政策として訪日外国人観光客誘致に取り組んできましたが、少子高齢化が進むわが国にとって、観光は今後さらに重要性を増していくものと考えられます。この授業は、航空会社とホテルにおいて実務経験のある教員が担当し、観光現象を具体的に分かりやすく説明することによって、観光の基礎知識を習得することを目的とします。
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光現象について書かれた文献や記事の内容を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果（資格）	観光経済を学ぶ上での基礎的な知識を習得します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要と進め方および観光がなぜ注目されているのかについて講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
2	観光と観光学	観光の定義、観光の意義を講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
3	観光の歴史　（1）	観光の世界史・日本史を講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
4	観光の歴史　（2）	観光の世界史・日本史を講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
5	観光と情報	観光と情報のかかわりについて講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
6	観光と環境	観光が自然や環境といかに関わっていくべきかについて講義す	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
7	観光と観光対象　（1）	観光の対象について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
8	観光と観光対象　（2）	観光の対象について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間） 小テスト①
9	観光と地域社会	観光と地域社会のつながりについて講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
10	観光と経済	観光の持つ経済的なインパクトを理解し、経済の理論で観光の市場を考える	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
11	観光と交通	観光における交通の特徴と役割について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
12	観光と旅行業	旅行業の役割とこれからのあり方について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
13	観光と宿泊業	宿泊産業の特徴と役割について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
14	新しい観光の形	近年出現してきた新しい観光の形について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間） 小テスト②
15	現代観光の課題と観光政策	日本の観光が持つ課題と観光政策について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間） 課題レポート

関連科目	航空産業論、宿泊産業論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（2回）　40%、課題レポート（1回）　20%,　期末試験 40%
学生へのメッセージ	観光に関するトピックスは頻繁にニュースや記事に取り上げられています。普段から時事問題にも注意をしておいてください。
担当者の研究室等	１号館７階　野村教授室　（経済学部）
備考	

科目名	国際経済学入門	科目名（英文）	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1004a0		

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する 21 世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済（国民経済）や世界の変化にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代の経済グローバル化と日本経済の変化、世界の変化との関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方や小論文の書き方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	講義形式で行う。しっかりと講義を聴いて、疑問点を明確にしながら授業に臨んでもらいたい。高校までとは異なる大学でのノートのとり方、小論文の書き方や作法についても簡単にレクチャーするので、身につけること。
科目学習の効果（資格）	経済グローバル化についての基礎的素養の獲得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の概要説明 大学でのノートのとりかた、コーネル式ノートの紹介	－
2	経済のグローバル化（1） 国境を越えるグローバル企業の経済活動	GAFA、トヨタ、租税回避	講義の復習
3	経済のグローバル化(2) 経済のグローバル化と日本経済の変化	東京一極集中、過疎過密問題、人口減少問題、下請中小企業の苦境	講義の復習
4	経済のグローバル化（2） 国境を越える移民の増加と排外主義の高まり	トランプ現象、日本の外国人労働者	講義の復習
5	経済のグローバル化（4） 国境を越える経済危機と金融のグローバル化	リーマンショック、世界恐慌、金融と実体経済	講義の復習
6	経済のグローバル化(5) グローバルイシュー　地球規模の課題と国際社会	SDGs（持続可能な開発目標）	講義の復習
7	経済のグローバル化（6） 途上国の貧困問題と新興国の経済成長	モノカルチャー経済、累積債務問題、世界食糧危機、WTO 体制	講義の復習
8	経済のグローバル化（7） 地球温暖化問題と国際社会の変化	地球温暖化問題、パリ協定、脱炭素経済	講義の復習
9	リーマンショックを超える危機	バブルは常にはじける 国の巨額の借金	講義の復習
10	過去の世界経済危機	１９２９年の世界恐慌の教訓 ブラックマンデーの予測 日本の転落の理由	講義の復習
11	経済危機ではどのように対処すべきか	すべての常識は１５年で劇的に変わる 企業は何をすべきか 逆境で生まれる投資チャンス	講義の復習
12	グローバル経済を知るために必要な事	バランスシートを読む 金融リテラシーの重要性 世界を多面的に見る	講義の復習
13	タックスヘイブン（１）	タックスヘイブンとは パナマ文書 企業の利用の方法	講義の復習
14	タックスヘイブン（２）	タックスヘイブンの誕生 ケイマン諸島 格差社会への影響	講義の復習
15	これから世界経済はどこへ向かうのか	混迷する世界の行方 ブレグジットと EU のリスク 世界経済の重心は東へ	講義の復習

関連科目	経済地理、西洋経済史、アジア経済史、日本経済史、地球環境経済、農業経済論、社会経済学 I、II、アメリカ経済・文化論、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資本主義の現在	豊福裕二	文理閣
2			
3			

評価方法	小論文５０％、期末試験５０％

（基準）	なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
学生へのメッセージ	経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まる。まだ経済生活に入っていない学生は、現実の経済活動についてイメージをもつことが難しい。これが初学者にとって経済学が困難な理由の一つである。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、商品として販売するという経済活動である。そして、君たちの就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく影響を受ける。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世界の経済動向について、ある程度の見通しをもつこと
担当者の研究室等	1 号館 7 階　野口研究室、田中研究室
備考	本講義は、第 1～8 回を野口が、第 9～15 回を田中が担当します。 小論文は野口が、期末試験は田中が採点します。

科目名	国際経済学入門	科目名（英文）	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1004a0		

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する 21 世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済（国民経済）や世界の変化にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代の経済グローバル化と日本経済の変化、世界の変化との関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方や小論文の書き方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	講義形式で行う。しっかりと講義を聴いて、疑問点を明確にしながら授業に臨んでもらいたい。高校までとは異なる大学でのノートのとり方、小論文の書き方や作法についても簡単にレクチャーするので、身につけること。
科目学習の効果（資格）	経済グローバル化についての基礎的素養の獲得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	コースの概要 コーネル式ノート術	講義の復習
2	リーマンショックを超える危機	バブルは常にはじける 国の巨額の借金	講義の復習
3	過去の世界経済危機	１９２９年の世界恐慌の教訓 ブラックマンデーの予測 日本の転落の理由	講義の復習
4	経済危機ではどのように対処すべきか	すべての常識は１５年で劇的に変わる 企業は何をすべきか 逆境で生まれる投資チャンス	講義の復習
5	グローバル経済を知るために必要な事	バランスシートを読む 金融リテラシーの重要性 世界を多面的に見る	講義の復習
6	タックスヘイブン（１）	タックスヘイブンとは パナマ文書 企業の利用の方法	講義の復習
7	タックスヘイブン（２）	タックスヘイブンの誕生 ケイマン諸島 格差社会への影響	講義の復習
8	これから世界経済はどこへ向かうのか	混迷する世界の行方 ブレグジットと EU のリスク 世界経済の重心は東へ	講義の復習
9	経済のグローバル化（1） 国境を超えるグローバル企業の経済活動	GAFA、トヨタ、租税回避	講義の復習
10	経済のグローバル化（２） 経済のグローバル化と日本経済の変化	東京一極集中、過疎過密問題、人口減少問題、下請け中小企業の苦境	講義の復習
11	経済のグローバル化（３） 国境を越える移民の増加と排外主義の高まり	トランプ減少、日本の外国人労働者	講義の復習
12	経済のグローバル化（４） 国境を越える経済危機と金融のグローバル化	リーマンショック、世界恐慌、金融と実体経済	講義の復習
13	経済のグローバル化（５） グローバルイシュー、地球規模の課題と国際社会	SDG s （持続可能な開発目標）	講義の復習
14	経済のグローバル化（７） 途上国の貧困問題と新興国の経済成長	モノカルチャー経済、累積債務問題、世界食糧危機、WTO 体制	講義の復習
15	経済のグローバル化（７） 地球温暖化問題と国際社会の変化	地球温暖化問題、パリ協定、脱炭素経済	講義の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	危機の時代	ジム・ロジャーズ	日経 BP
2	パナマ文書の正体	大村大次郎	ビジネス社
3			

評価方法（基準）	小論文５０％、期末試験５０％ なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
学生への	経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まる。まだ経済生活に入っていない学生は、現実の経済活動につ

メッセージ	いてイメージをもつことが難しい。これが初学者にとって経済学が困難な理由の一つである。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、商品として販売するという経済活動である。そして、君たちの就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく影響を受ける。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世界の経済動向について、ある程度の見通しをもつこと
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　田中研究室、野口研究室
備考	本講義は、第 1～8 回を田中が、第 9～15 回を野口が担当します。 小論文は野口が、期末試験は田中が採点します。

科目名	会計学入門	科目名（英文）	Introduction to Accounting
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴　景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2○,DP3◎,DP4◎,DP5○,DP6△,DP7△,DP8△,DP9△		
科目ナンバリング	WDW1005a0		

授業概要・目的	企業には、株主、投資家、銀行などの債権者、取引先、従業員等、多様な利害関係者がある。この利害関係者に「経営活動結果」を報告するためのプロセスが会計である。この一連のプロセスは法的規制を受けながら、社会的制度として行われている。このような会計制度の基盤となる会計理論が会計学である。会計学入門では、会計とは何か、会計と企業との係わり、会計の種類などを初心者向けで概説する。会計学の基礎理論を修得することによって、【簿記原理Ⅰ・Ⅱ」「管理会計」など経営関連科目の基礎を構築することを目標とする。
到達目標	会計学の意義および会計（簿記）の基本的な用語を理解すること。また、簿記全体のプロセスがわかり、基本的な会計帳簿の作成が可能となることを本授業の到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はパワー・ポイントと板書を並行する。必ず筆記の用意をすること。
科目学習の効果（資格）	本授業は経営分野すべての基礎である会計学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、講義概要	授業の進め方、１５回の授業概要の説明	学期中の授業の流れを把握できること
2	会計学とは、複式簿記とは	会計学のフレームワークを説明、会計の分類および会計学における簿記の位置づけ等を述べる 複式簿記の意義など	レポート・演習・Quiz テスト
3	財務諸表と簿記の５要素	２つの財務諸表（貸借対照表と損益計算書損益）の理解、簿記の５要素（資産・負債・資本と費用・収益）について説明	レポート・演習・Quiz テスト
4	取引と仕訳①	会計における取引の意味を理解し、会計帳簿（簿記）作成のルールである「仕訳」に理解と演習	レポート・演習・Quiz テスト
5	取引と仕訳②	会計における取引の意味を理解し、会計帳簿（簿記）作成のルールである「仕訳」に理解と演習	レポート・演習・Quiz テスト
6	転記と総勘定元帳①	仕訳結果に基づいて、各勘定科目別の帳簿を作成する「転記」のルールを理解、総勘定元帳の作成及び締切方法	レポート・演習・Quiz テスト
7	転記と総勘定元帳②	仕訳結果に基づいて、各勘定科目別の帳簿を作成する「転記」のルールを理解、総勘定元帳の作成及び締切方法	レポート・演習・Quiz テスト
8	転記と総勘定元帳③	仕訳結果に基づいて、各勘定科目別の帳簿を作成する「転記」のルールを理解、総勘定元帳の作成及び締切方法	レポート・演習・Quiz テスト
9	会計期間・利益計算法	利益計算を行う期間である「会計期間」の意義、会計における 2 つの利益計算法、B/S・P/L の関係	レポート・演習・Quiz テスト
10	試算表の意義・作成①	決算の準備段階である試算表の意義・目的・フォームの理解と作成	レポート・演習・Quiz テスト
11	試算表の意義・作成②	決算の準備段階である試算表の意義・目的・フォームの理解と作成	レポート・演習・Quiz テスト
12	精算表の理解と作成①	精算表の意義・フォームに理解、試算表に基づいて、本決算手続きである精算表の作成	レポート・演習・Quiz テスト
13	精算表の理解と作成②	精算表の意義・フォームに理解、試算表に基づいて、本決算手続きである精算表の作成	レポート・演習・Quiz テスト
14	貸借対照表と損益計算書の作成	簿記における最終報告書（財務諸表）である貸借対照表と損益計算書の理解と作成	レポート・演習・Quiz テスト
15	まとめ	14 回の授業のまとめと質疑応答	レポート

関連科目	「財務管理Ⅱ」「原価管理Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点 40%（授業中行う Quiz test,、レポート、授業への参与度などを総合的に評価）、定期試験 60%
学生へのメッセージ	本授業は内容が続いているので、授業内容の理解のためには欠席せず授業に参加することが大事。 ※「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」、「管理会計」を履修予定の場合は、本科目を履修しておくことを勧める。
担当者の	１号館７階　朴教授室（経済学部）

研究室等	
備考	

科目名	日本経済史	科目名（英文）	Japanese Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2△,DP3○,DP4△,DP5○,DP6△,DP7△,DP8△,DP9○		
科目ナンバリング	WDW1006a0		

授業概要・目的	今日の日本経済システムを理解するために、日本の経済史を、産業化の発展段階、政治・経済・社会の諸制度の変化および国際環境の変化との関連で学習する。
到達目標	現代の日本経済を理解するために、歴史的な流れを把握できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義形式を想定する。 必要に応じて、演習を実施する。 小テストの際は授業時間中に実施するので授業開始時刻に遅れないこと。 ノートを必ずとるようにしてください。 必要に応じて Moodle を活用する。
科目学習の効果（資格）	現在の日本の社会システム、経済システムがなぜこのようになったのかを理解できる。 歴史的に物事を理解する基礎が身につく。 日本経済の流れを他の人（含む外国人）に説明する基礎が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、幕末期以前の流れ	イントロダクション、なぜ歴史を学ぶか、幕末期以前の政治経済の流れを学ぶ。	教科書を通覧しておくこと
2	幕末期、明治維新	幕末期の政治経済、維新政府の誕生とその初期の政策（版籍奉還、廃藩置県、地租改正、秩禄処分等）を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
3	殖産興業と松方財政	殖産興業の実態を理解した後、大隈財政と比較しながら松方財政の内容とそれが日本経済に与えた影響を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
4	日清・日露戦争と日本経済	１８９０年代から１９１０年代の国際情勢と日本の政治経済との関係を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
5	日本の産業革命（１）	日本の産業革命の実態を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
6	日本の産業革命（２）	日本の産業の基礎となる官営工業、民間企業、金融システムの確立を中心に学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
7	第一次世界大戦と日本経済	第一次世界大戦前の日本の政治経済制度の特徴を理解し、大戦後に日本がどのように変化したかを学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
8	両大戦間期	第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時期に、日本経済は、本格的な経済成長を開始した。この時期の日本経済の概略を、国際的変化（機軸国アメリカの登場）と国内的変化（日本的労使関係の形成等）の視点から考察する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
9	昭和恐慌	１９２９年から始まった世界恐慌の影響が、日本経済を直撃した。これを昭和恐慌という。この昭和恐慌の中身を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
10	高橋財政	昭和恐慌を沈静化しようとした高橋是清の経済政策の手法を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
11	戦時経済（１）	軍備拡張の政治方針に沿って、軍需主導による重化学工業化の道を歩んでいった日本経済を、その当時の国際環境（世界経済のブロック化）の中で理解する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
12	戦時経済（２）	戦時統制経済が戦後の日本経済システムの源流を形成した側面を、企業体制、労使関係、金融制度と企業間関係、政府企業間関係の４点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
13	戦後経済改革	日本の戦争行動を防ぐために、占領軍は、各種の対日政策をとった。ここでは、それを、内政・財政制度改革、財閥解体、労働改革、農地改革の４点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
14	経済復興	第二次世界大戦後成立した冷戦体制のもとで、日本は、戦前の「富国強兵」から「強兵なき富国」へと国家の進むべき方向を転換した。ここでは、その端緒となった経済復興政策とその効果について学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
15	経済成長への出発	高度経済成長の基盤形成期から近年に至る経済状況の流れを学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。

関連科目	日本経済論、日本産業史、関西経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	概説日本経済史	三和良一	東京大学出版会
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>小テストとレポートにて評価を行う。
小テスト１回＝70 点、レポート 30 点、計 100 点</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>日本経済の歴史的な流れを把握し、現在の日本経済の理解につなげるようがんばってください。
日本産業史と合わせて履修することで、歴史的な流れをさらに俯瞰できるようになりますので、履修時に留意してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　野長瀬教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	日本経済論	科目名（英文）	Contemporary Japanese Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾　智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7○,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1007a0		

授業概要・目的	この講義では，日本経済の動きを観察できるようになるためのツール（マクロ経済理論の入門）を習得し，日本経済の各種データを確認することでその現状を把握します。
到達目標	日本経済の次の項目について説明できて，必要に応じて計算できることを目標とする。 ・少子高齢化社会，合計特殊出生率 ・フローとストック，名目と実質，GDP ・物価指数 ・三面等価の原則 ・信用創造 ・金融政策，マネーサプライ，マネタリーベース ・投資，利子 ・労働需給，失業 ・社会保障，社会保険 ・経済学の基礎的な考え方を知る。 ・日本経済の現状に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と留意点	授業資料は ICT ツールを通して配布します。
科目学習の効果（資格）	・自分の生き方を日本経済のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。 ・日本での就職活動を客観視できるようになり，職業選択に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方，内容の概観，評価方法の確認を行い，学習の準備をします。	シラバスを確認し，講義内容，評価方法について確認する。
2	人口と日本経済	日本の人口構造は今後大きく変化していきます。人口減少，高齢化，少子化，合計特殊出生率をキーワードに日本の人口構造を説明します。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
3	日本経済の大きさ（ＧＤＰ）	日本経済の大きさをつかむためにつくられているのが国民経済計算です。GDP の計算方法を学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
4	物価指数	物価の安定自身が経済政策の重要な目標であるため，物価の変動をあらわす物価指数について，計算方法を学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
5	三面等価の原則	一国経済において家計，企業，政府，海外という 4 つの経済主体が生産，所得，支出という 3 つの経済活動を行っています。それらが等しくなることを計算を通して学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
6	銀行の信用創造	貸し手のお金を借り手がスムーズに使えるようになることが金融の役割です。その創造メカニズムを計算を通して学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
7	金融政策	中央銀行は，様々な金融調整手段を使って物価の安定と経済成長を実現しようとします。中央銀行の役割を学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
8	投資と利子（1）	企業が生産活動を行うには設備などへの投資が必要になります。どのような判断の下に投資が行われるのかを計算を通して学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
9	投資と利子（2）	金利には多くの種類があります。投資の関係で利子の大きさを把握するため，計算問題を通して，利子について学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
10	日本の労働市場（雇用と失業）	「働く意思を持つ全ての人に働く機会がある」ことを完全雇用といいます。日本の労働市場の需給状況を学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
11	日本的雇用慣行	1980 年代頃まで日本的雇用慣行は国際的に高く評価されていましたが，バブル経済崩壊後，大幅な見直しが求められています。近年の働き方改革について学びます	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
12	産業構造の変化	日本経済が成長していくためには成長性の高い産業への産業構造の変化が必要です。今後の産業構造の変化の方向について学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
13	社会保障と財政（1）	社会保障負担の増大が現時点の雇用・賃金に影響を与えることを計算を通して学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。

	14	社会保障と財政（2）	日本の年金制度・医療保険の制度を，財政との関わりで学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。
	15	まとめ	これまでの授業内容をまとめ，定期試験にそなえます。	（事前）これまでの配付資料を読み，ノートの整理を行う（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分）。

関連科目	日本経済史，マクロ経済学 I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門マクロ経済学―大きくつかむ経済学のエッセンス	小林弘明ほか	実教出版
2			
3			

評価方法 （基準）	・授業毎の課題（70%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。 ・復習問題（10%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。 ・レポート（20%）：授業内容に関するテーマについての説明文。
学生への メッセージ	日本経済の現状は皆さんの生活と密接に関わる事象です。日本経済の変化が皆さんの生活にどのように関わるのか，経済学的思考で考えてください。参考書は購入必須ではありませんが，手元にあると学習が進めやすと思います。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　平尾研究室
備考	

科目名	経営学	科目名（英文）	Business Administration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤　秀昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7○,DP8△,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1008a0		

授業概要・目的	経営学の諸理論について概説します。特に本講義では、戦略、組織行動、アントレプレナーシップに関する理論に焦点を当てます。 受講生は、人や組織がどのように考え、行動するのかについて、経営学が蓄積してきた仮説を学ぶことができます。 講義担当者は、民間企業における研修業務担当の経験から、講義内容の実践的な活用方法を教授します。
到達目標	1. 本講義を通じて受講生は、企業経営に関する諸課題に対し、その解決を図るための情報の収集・分析の能力や、論理的な思考力と問題を発見する能力を身につけることができます。（DP３）
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。 講義内容の理解を深めるために、毎回の講義終了後に小レポートの提出を求めます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義の目的・到達目標・成績評価について説明します。また、経営学において、理論と現象の関係がどのように捉えられているのかを考えます。	事前：シラバスを読んでおく（10 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
2	感情とモチベーション	経営学において、認知バイアスやモチベーションの理論がどのように用いられているのかを考えます	事前：前回の配布資料に目を通して復習を行う（10 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
3	イノベーションとアントレプレナーシップ	経営学において、いわゆるイノベーション・アントレプレナーシップと呼ばれる概念がどのように用いられているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（15 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
4	組織意思決定と組織学習	組織がいかにして意思決定を行い、学習をするのかについて考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（20 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
5	知の探索・知の深化	知の探索・知の深化理論の成果について考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（25 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
6	エージェンシー理論	経営学において、エージェンシー理論がどのように用いられているのか考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（30 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
7	ゲーム理論	経営学において、ゲーム理論がどのように用いられているのか考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（35 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
8	競争の型と戦略の関係	経営学が明らかにした競争の型と戦略の関係について考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（40 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
9	リーダーシップの理論	経営学におけるリーダーシップ研究の成果を考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（45 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
10	エコノミック・ソシオロジー	社会学を基礎とした経営学の諸仮定について考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（50 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
11	共進化のダイナミズム	経営学が共進化という概念をいかにして企業に当てはめて説明しているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（55 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
12	持続的な競争優位とダイナミック・ケイパビリティ	経営学がいかにして競争優位の源泉を説明しているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（60 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
13	弱いつながりの強さ	経営学において、ソーシャル・ネットワーク理論がどのように用いられているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（60 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
14	組織エコロジーと VSRS メカニズム	経営学において、VSRS メカニズムがどのように適用されているのかを考えます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（60 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
15	経営学が答える why クエスチョン	経営学が答えようとしている why クエスチョンについて、本講義における検討を振り返ります	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（60 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）

関連科目	

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>世界標準の経営理論</td><td>入山章栄</td><td>ダイヤモンド社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>小レポート（毎回の講義終了後に提出）40%、期末レポート（全 15 回の講義終了後に提出）60%で評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td></td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>佐藤秀昭講師室（11 号館 8 階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	経済地理	科目名（英文）	Economic Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1009a0		

授業概要・目的	経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとで、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめ、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下をもたらして国内消費を制限し、日本経済の成長を制約する要因となっている。国内消費が停滞し、デフレが長期化するもとで、国内流通業の再編が進行し、大手小売業への集約化が進行する一方で、各地の駅前商店街が衰退した。日米間の農産物貿易の自由化交渉はTPP交渉に引き継がれ、零細農家の淘汰と農村地域経済の衰弱をもたらしている。経済のグローバル化が進行するもとで、これからの日本の国民経済と地域経済をどう立て直すのか。このような問題意識のもとに、この授業では経済のグローバル化とその日本社会への影響について、多様な側面から講義する。
到達目標	経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。
授業方法と留意点	教科書にしたがった講義形式で行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	－
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書　第1章	事前・教科書予習
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書　第2章	事前・教科書予習
4	アメリカIT企業のサービス化と国際分業体制	教科書　第3章	事前・教科書予習
5	アメリカ企業･政府によるグローバル化	教科書　第4章	事前・教科書予習
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書　第5章	事前・教科書予習
7	地球環境問題	教科書　第7章	事前・教科書予習
8	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書　第8章	事前・教科書予習
9	日本における外国人労働者	教科書　第9章	事前・教科書予習
10	労使関係の日本－スウェーデン比較	教科書　第13章	事前・教科書予習
11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書　第10章	事前・教科書予習
12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書　第11章	事前・教科書予習
13	グローバル化と税制改革	教科書　第12章	事前・教科書予習
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書　序章	事前・教科書予習
15	まとめ		

関連科目	国際経済学入門、日本経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資本主義の現在－資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間レポート（20%）、期末レポート（80%）で評価する。
学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。 積極的に質問をしてください。
担当者の研究室等	1号館7階　野口准教授室（経済学部）
備考	

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	科目名（英文）	Microeconomics Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	ＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名方　佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2010a0		

授業概要・目的	ミクロ経済学は「選択の科学」です。本講義では、個々の経済主体（＝消費者、企業、政府）が様々な状況下でどのような選択（もしくは意思決定）を行うかに焦点を当て、経済分析の枠組みを理解することを目標とします。ミクロ経済学の基礎、とりわけ消費者理論・企業理論・社会厚生に重点を置いて解説します。
到達目標	市場における消費者と企業の行動や物価と生産量の決定の仕方を理解し、応用ミクロ経済学の範囲である産業組織論、国際経済学等の基礎知識を習得する。
授業方法と留意点	10回目に中間試験、15回目に期末試験をで行います。 それ以外の回については、Moodleに講義資料をUploadしておきます。 連絡手段にTeamsを使いますので登録お願いいたします。
科目学習の効果（資格）	すべての経済学の基礎となる考え方が身に付きます。経済学検定試験など資格試験を準備するうえでの基礎知識も身に付きます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	市場における需要と供給の作用	市場における需要と供給曲線がどのように求められ、また市場の均衡がどのようにして決まるかを説明する。	テキスト4章予習・復習と例題1の学習（1時間）
2	弾力性とその応用	消費者の需要の弾力性と生産者の供給の弾力性について説明する。	テキスト5章予習・復習と例題2の学習（1時間）
3	消費者選択の理論１（無差別曲線、予算制約）	消費者の効用・予算がどのように表現されるのかを説明する。	テキスト21章予習・復習と例題3の学習（1時間）
4	消費者選択の理論２（効用最大化、需要曲線の決定）	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように需要額を決定するかについて説明する。	テキスト21章予習・復習と例題4の学習（1時間）
5	競争市場における企業１	企業の生産活動について説明する。	テキスト13章予習・復習と例題5の学習（1時間）
6	競争市場における企業２	企業が利潤最大化をするためにどのように生産額を決めるかについて説明する。	テキスト14章予習・復習と例題6の学習（1時間）
7	消費者、生産者、市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、社会の厚生について説明する。	テキスト7章予習・復習と例題7の学習（1時間）
8	価格規制	政府が行う価格規制の役割と影響を説明する。	テキスト6章予習・復習と例題8の学習（1時間）
9	余剰分析の応用１（課税の費用）	税金による経済厚生への影響について説明する。	テキスト8章予習・復習と例題9の学習（1時間）
10	中間試験		
11	余剰分析の応用２（国際貿易）	国際貿易が生じるメカニズムについて説明する。	テキスト9章予習・復習と例題10の学習（1時間）
12	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト15章予習・復習と例題11の学習（1時間）
13	寡占	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト16章予習・復習と例題12の学習（1時間）
14	期末試験前の復習	例題7～12について解説	例題7～12について事前に自分で解いて理解しておくこと（1.5時間）
15	期末試験		

関連科目	ミクロ経済学II、公共政策論、産業組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マンキュー経済学〈1〉ミクロ編	N.グレゴリー マンキュー	東洋経済新報社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間試験（30%）、定期試験（70%）で評価します。 中間試験において不正行為等をした学生の中間テストの点数は0になり、また悪質な場合には定期試験の受験を認めません。 私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
担当者の研究室等	1号館7階　名方准教授室（経済学部）
備考	

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	科目名（英文）	Microeconomics Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳川　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2010a0		

授業概要・目的	経済学の最も基本となるミクロ経済学を学び、経済学的な考え方を習得することを目的とします。具体的には、消費者や企業といった経済主体がどのように行動するか、市場で売り手と買い手がどのような条件で取引するか（市場均衡）、そして市場均衡の社会的な望ましさの評価（経済厚生）とその改善のための政府のとるべき政策についての基本を反転授業によるアクティブラーニングを通じて学びます。
到達目標	消費者や企業がどのように行動するか、消費者と企業は市場でどのような取引をする（市場均衡）か、市場均衡の社会的な望ましさ（経済厚生）をどのように評価するか、市場均衡で経済厚生が望ましくないのはどのようなときか、そして、経済厚生を改善するためには政府はどのような政策をとるべきか、についての基本を理解できることを目標とします。
授業方法と留意点	反転授業によるアクティブラーニングで行います。講義内容を動画にし、Moodleにて配信しますので、事前の予習で動画をみて復習問題を解き、Moodl;eを通じて提出してください。対面授業中に復習問題の解説をします。その際には、学生同士で復習問題の答え合わせをする時間をとったうえで、学生に発表してもらい、理解を確かめ、さらに難しいところや間違いやすいところを解説します。 ミクロ経済学は積み重ねの学問ですので、毎回欠かさず出席をして予習と復習もしっかりとしてください。
科目学習の効果（資格）	ミクロ経済学は経済学のもっとも基礎となる分野で、その後に学ぶすべての経済学科目の学習の理解に有益です。経済学的な見方を習得することは、ビジネスにおける判断にも個人としてのさまざまな選択・意思決定の際にも有益です。 公務員試験や経済学を含む資格試験に必須の科目で、それらの試験の準備にも有益です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学とは（1）	対面授業のみ。授業方法について説明したのち、ミクロ経済学の対象と課題、を説明します。	事前に教科書第１章第１節の予習、事後に授業の復習
2	ミクロ経済学とは（2）	オンデマンドと対面。消費者の行動と需要曲線、企業の行動と供給曲線、市場の均衡、を説明します。	事前に教科書第１章第２～４節の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
3	ミクロ経済学とは（3）	オンデマンドと対面。経済厚生、比較静学、を説明します。	事前に教科書第１章第５～６節の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
4	消費者の行動（1）	オンデマンドと対面。消費者の行動とは、効用の最大化、を説明します。	事前に教科書第２章第１～２節の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
5	消費者の行動（2）	オンデマンドと対面。最適消費計画と個別需要曲線、を説明します。	事前に教科書第２章第３節の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
6	消費者の行動（3）、企業の行動（1）	オンデマンドと対面。右下がりの需要曲線、企業の行動とは、を説明します。	事前に教科書第２章第４節、第３章第１節の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
7	企業の行動（2）	オンデマンドと対面。企業の技術選択、を説明します。	事前に教科書第３章第２節の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
8	企業の行動（3）	オンデマンドと対面。総費用曲線といろいろな費用概念、供給曲線、を説明します。	事前に教科書第３章第３～４節の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
9	企業の行動（4）、市場均衡と経済厚生（1）	オンデマンドと対面。供給曲線、市場メカニズムの特長、を説明します。	事前に教科書３章第５節、第４章第１節の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
10	市場均衡と経済厚生（2）、不完全競争の市場（1）	オンデマンドと対面。市場メカニズムがうまく機能しない場合、不完全競争市場とは、を説明します。	事前に教科書第４章第５節、第５章第１節の事前に予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
11	不完全競争の市場（2）	オンデマンドと対面。独占市場と企業行動（前半）、を説明します。	事前に教科書第５章２節（前半）の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
12	不完全競争の市場（3）	オンデマンドと対面。独占市場と企業行動（後半）、不完全競争市場の何が問題なのか、を説明します。	事前に教科書第５章第２節（後半）、４節の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
13	外部性と公共財（1）	オンデマンドと対面。外部性の問題と対応策（前半）、を説明します。	事前に教科書第１１章第１節（前半）の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
14	外部性と公共財（2）	オンデマンドと対面。外部性の問題と対応策（後半）、を説明します。	事前に教科書第１１章第１節（後半）の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出
15	外部性と公共財（3）	オンデマンドと対面。共有資源の問題と対応策、公共財の問題と対応策、を説明します。	事前に教科書第１１章第２～３節の予習と復習問題の提出、事後に授業の復習と授業振り返りの提出

関連科目	ミクロ経済学Ⅱ、産業組織論、サービス産業論、公共政策論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミクロ経済学・入門（新版）	柳川隆・町野和夫・吉野一郎	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験５８％、復習問題２８％（１４回、各２％）、授業振り返り１４％（１４回、各１％）、計１００％で評価します。授業中のプレゼンにより加点することがあります。
学生への	ミクロ経済学は体系的な理解が必要です。毎回欠かさず勉強し、一歩ずつ着実に習得するようにしてください。

メッセージ	
担当者の 研究室等	１号館７階　柳川研究室
備考	

科目名	マクロ経済学Ⅰ	科目名（英文）	Macroeconomics Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小塚　匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2012a0		

授業概要・目的

マクロ経済は、一国単位での経済活動の状況を分析する学問です。この動きは、毎日の新聞・ニュースで紹介されています。設備投資のこと、円相場のこと、景気のこと、日銀のことー　などなど。将来、社会人になると、これら経済の動きを知っておく必要があります。その多くは、この講義で扱うようなマクロ経済学の基本知識があると、理解できることがほとんどです（もちろん、マクロ経済にはまだ解明されていない謎もあります）。この講義は、知っておくべきマクロ経済学の基礎理論を習得すること、そして実際のマクロ経済の動向について経済学に基づいた視点で考察できるようになることを目的としています。

なお、この講義で扱う内容は、市役所（教養試験）や警察・消防など地方公務員の試験でも出題されます。宿題や練習問題では、これらを意識した問題に取り組んでいただきます。

到達目標

基本的なマクロ経済学の知識を習得するとともに、粗削りでもよいので、現実経済に対して自分なりの見解を述べることができるようになることを目標としています。

授業方法と留意点

（１）この講義ではMicrosoft PowerPointを利用します。資料は毎回配布します。
（２）講義中の課題（練習問題）はMicrosoft Formsによる解答フォームに解答してください。なお練習問題には、解答期限を設けます。
（３）講義資料（PowerPoint）には、解説用の音声ファイルを埋め込んでおります。ただし、使用環境やアプリによっては、音声が出ないこともありますので、注意してください。
（４）緊急事態宣言発出などで対面式講義が実施できない場合は、Microsoft Teamsを用

科目学習の効果（資格）

現実経済の基本的な知識が身につくので、新聞の経済関係の記事が読めるようになります。また、公務員試験や経済学検定試験に出題される内容の基本事項を習得することができます。ただし、この講義で扱う内容は基本項目であるため、国家公務員、都道府県庁などの専門試験については、本講義の内容では十分ではありません。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の進め方について	講義資料（1）
2	マクロ経済の基礎（1）	マクロ経済循環、マクロ経済指標について	講義資料（2）
3	マクロ経済の基礎（2）	支出と需要、フローとストックについて	講義資料（3）
4	経済成長と景気循環	成長の要因と好況・不況の定義について	講義資料（4）
5	物価とインフレーション	物価の決定と物価変動の要因について	講義資料（5）
6	失業 マクロ経済政策	失業についての考え方、フィリップス曲線、日本の失業について	講義資料（6）
7	マクロ経済政策	政府や中央銀行による政策（マクロ経済政策）とその効果について	講義資料（7）
8	マクロ経済と金融	マクロ金融に関する基本事項（利子率、債券価格、貨幣需要）、銀行（日本銀行）の役割について	講義資料（8）
9	乗数効果	４５度線分析とその応用について	講義資料（9）
10	国民所得の決定	望ましい国民所得の水準とその決定について	講義資料（10）
11	IS-LM分析（1）	短期モデルである IS-LM モデルを構成する、財市場の均衡条件（IS 曲線）について	講義資料（11）
12	IS-LM分析（2）	短期モデルである IS-LM モデルを構成する、貨幣市場の均衡条件（LM 曲線）について	講義資料（12）
13	IS-LM分析（3）	IS－LM モデルによる、財政政策・金融政策の分析について	講義資料（13）
14	貿易と海外投資	経常収支・金融収支の関係と国際収支表の見方について	講義資料（14）
15	為替レート	２国間の通貨の交換比率である、為替レートについて	講義資料（15）

関連科目

経済学入門（エコノミック・リテラシー）、マクロ経済学Ⅱ、現代ファイナンス論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	有斐閣アルマ　マクロ経済学入門（第５版）	福田慎一・照山博司	有斐閣
2	公務員試験　最初でつまずかない経済学　マクロ編	村尾英俊	実務教育出版
3			

評価方法（基準）

講義中の課題（50点、講義資料掲載の練習問題）、試験（50点）で評価します。
練習問題はMicrosoft Formを利用して解答してください。練習問題の解答期限は、出題のタイミングによって変わりますが、原則として次の講義開始時までとします。
なお、試験については通常の対面式で実施する予定ですが、社会状況によってはMicrosoft Formsを利用するオンライン試験に切り替える可能性があります。
この講義には出席点はありませんが、無断欠席の回数が多い場合は、単位取得資格を失います。教室に入ったら、

学生へのメッセージ

疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です。
なお、Microsoft Formsを利用した出欠調査も併せて実施します。講義開始から30分以内に回答してください。

担当者の研究室等

１棟７階　小塚研究室

備考	

科目名	マクロ経済学Ⅰ	科目名（英文）	Macroeconomics Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	ＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	郭　進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2012a0		

授業概要・目的	この授業では、マクロ経済学の基礎、とりわけ、国民所得、失業率、利子率、物価等主要な経済変数・指標がどのように決定され、どのように変動するかを解説する。
到達目標	集計された経済変数間の関係に法則性を見いだし、一国全体の経済変動のメカニズムを理解することを目標とする。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review（前回の復習と練習問題の解説）、本日のポイント、内容（ポイントについて解説）、練習問題（内容に対応する課題）の形式で進めていく。さらに、マクロ経済分析に重要な諸概念の理解を深めるため、数値例を用いた例題を解きながら講義を進める。
科目学習の効果（資格）	マクロ経済学を学ぶことによって、日本経済および世界経済の動向を理解できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス･マクロ経済学とは	マクロ経済学はどのような学問かについて解説する。	授業後、アンケートの実施。
2	GDP に関する基礎知識（Ⅰ）	付加価値の概念、GDP と GNP の区別について解説する。	
3	GDP に関する基礎知識（Ⅱ）	GDP の三面等価と GDP デフレータについて解説する。	授業後、課題の提出
4	マクロ経済学における需要と供給	需要、供給および均衡の概念について解説する。	授業後、課題の提出
5	有効需要と乗数メカニズム	有効需要原理と消費関数について解説する。	授業後練習問題の提出
6	国民所得の決定	国民所得はどのように決まるかについて解説する。	授業後練習問題の提出
7	インフレギャップとデフレギャップ	完全雇用 GDP、インフレギャップ及びデフレギャップについて解説する。	授業後、課題の提出
8	利子率と投資	利子率と投資との関係について解説する。後半は小テストを行う。	授業後、小テストの提出
9	貨幣の機能と債券	貨幣の機能、貨幣と債券の関係について解説する。	授業後、課題の提出
10	貨幣の需要	貨幣の需要と貨幣需要曲線について解説する	授業後、課題の提出
11	中央銀行と貨幣の供給	中央銀行の機能と貨幣供給について解説する。	授業後、課題の提出
12	貨幣市場の均衡と利子率の決定	貨幣市場の均衡、利子率はどのように決まるのかについて解説する。	授業後、課題の提出
13	金融政策の手段と効果	中央銀行による金融政策とその効果について解説する。	授業後、課題の提出
14	IS－LM 分析（Ⅰ）	財市場と貨幣市場との関係を考える IS-LM 分析について解説する。	
15	IS－LM 分析(Ⅱ)	IS-LM 分析に基づく財政政策と金融政策について解説する。	授業後練習問題の提出

関連科目	マクロ経済学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業での提出課題 20%、小テスト 30%、期末テスト 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
担当者の研究室等	１号館７階　郭教授室
備考	

科目名	マクロ経済学Ⅱ	科目名（英文）	Macroeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	郭　進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7△,DP8△,DP9△		
科目ナンバリング	WDW2013a0		

授業概要・目的	本講義では、マクロ経済学Ⅰの授業内容を踏まえ、引き続きマクロ経済理論を学習する。特に経済政策、労働市場と失業、インフレーションとデフレーション、経済成長、国際マクロ経済学などのトピックスを取り上げて学習する。
到達目標	講義を履修することで、マクロ経済学における諸概念をより深く理解した上、様々な経済現象を自ら分析できる能力を身につける。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review（前回の復習と練習問題の解説）、本日のポイント、内容（ポイントの解説）、練習問題（内容に対応する課題）の形式で進めていきます。さらに、マクロ経済分析に必要な諸概念の理解を深めるため、値例を用いた例題を解きながら講義を進める。
科目学習の効果（資格）	中級レベルのマクロ経済学への橋渡しとなるように、マクロ経済学の理論を体系的に理解する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マクロ経済学Ⅱの内容の概略を紹介する。	授業後、アンケートの実施。
2	IS－LM 分析の復習	IS－LM 分析を復習し、その応用について解説する。	授業後練習問題の提出
3	マクロ経済政策の効果Ⅰ	マクロ経済学における財政政策について解説する。	
4	マクロ経済政策の効果Ⅱ	マクロ経済学における金融政策について解説する。	授業後、課題の提出
5	労働市場と賃金率の決定	労働市場における需要曲線と供給曲線の導出及び賃金率の決定について解説する。	
6	マクロ経済学の総供給と総需要	労働市場から総供給の導出、IS－LM 分析から総需要曲線の導出について解説する。	授業後、課題の提出
7	物価水準の決定	マクロ経済学における総需要と総供給による物価水準の決定について解説する。	授業後練習問題の提出
8	まとめ、中間テスト	前半のまとめと中間テストの実施。範囲は１回目から７回目の内容とする。	授業前、７回目までの内容を復習すること
9	AD－AS 分析と経済政策	物価が変動する AD－AS 分析における経済政策の効果を、物価一定と仮定した IS－LM 分析と比較して、その違いについて理解する。	授業後練習問題の提出
10	インフレーションとデフレーション	インフレーションとデフレーションの概念および物価指数について解説する。	授業後練習問題の提出
11	インフレ率と失業率の関係	フィリップス曲線を紹介し、インフレーションと失業の関係などを解説する。	授業後練習問題の提出
12	国際収支と海外部門の導入	国際収支表を理解し、海外部門を考慮する開放マクロ経済学について紹介する。	
13	為替レートの決定理論	為替レートの概念、国際通貨制度、購買力平価理論などについて解説する。	授業後練習問題の提出
14	IS－IM－BP 分析と経済政策の有効性	海外部門を考慮した IS－LM－BP 分析を学ぶ。開放マクロ経済の下で、経済政策の有効性を再考する。	授業後練習問題の提出
15	まとめ、総合演習	重要なポイントのまとめ及び総合演習を行う。	

関連科目	マクロ経済学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業での提出課題 20%、中間テスト 30%、期末テスト 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
担当者の研究室等	１号館７階　郭教授室
備考	マクロ経済学Ⅰを履修するのが望ましい。

科目名	社会経済学Ⅰ	科目名（英文）	Social Economics Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平尾　智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8◎,DP9○		
科目ナンバリング	WDW2014a0		

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる経済システムが，どのような要素で成り立っており，それが歴史的にどのように変化してきたのかを理解する。そして，現在の資本主義システムの特徴を理解し，今後どのように変わっていくかについて考察を行っていく。
到達目標	次の項目について説明できて，必要に応じて（古典派の）経済理論について計算ができることを目標とする。 ・資本主義経済の基本的な仕組みを説明することができる。 ・資本主義経済の歴史的な変化について説明することができる。 ・現代の資本主義経済が，国ごとに多様であることを説明することができる。 ・上記のような知識を踏まえて，現在見られる経済関連のニュースを理解し，自分の判断を持てるようになる。
授業方法と留意点	授業資料は ICT ツールを通して配布します。
科目学習の効果（資格）	経済関連のニュースに関心をもち，それを理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	資本主義は神か悪魔か	資本主義では当たり前と思われていることを、国際比較や歴史を参考に、もう一度考えてみる。	（事前）参考書第１章前半を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
2	経済学者の資本主義に対する見方	アダム・スミス、マルクス、ウェーバーなどの資本主義の見方を学び、資本主義をみるポイントがいくつかあることを学ぶ。	（事前）参考書第１章後半を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
3	資本主義の基本要素（1）：社会的分業と貨幣	市場による調整と雇用関係という資本主義の基本要素を、「所有」や「社会的分業」という視点から見直す。	（事前）参考書第２章「私的所有，あるいは私有財産」から「貨幣の機能」までを読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
4	資本主義の基本要素（2）：雇用関係と企業	雇用関係という資本主義の基本要素を、「労働力商品の特殊性」や「私企業としての資本の運動」という視点から考える。	（事前）参考書第２章「資本主義の雇用関係」から「資本は企業の形態をとる」までを読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
5	資本主義の社会的機構	資本主義における社会的制度（株式会社、流通機構、銀行、国家など）がどのようなものであるかを学ぶ。	（事前）参考書第２章「資本主義の流通機構」から「近代国家」までを読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
6	生産・価値・利潤	まず、社会の人々が生存し続けるには、経済的にどのような条件が満たされねばならないかを考察する。これを、社会的再生産の観点という。それを理解した上で、個々の商品の価値（価格）とそこから生まれる利潤がどういうものかを考え る。	（事前）参考書第３章「労働と生産性」から「利潤成立の条件」を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
7	再生産と資本蓄積	資本主義経済が再生産されつつ発展していく過程がどのようなものであるかを学ぶ。	（事前）参考書第３章「生産性上昇とその社会的効果」から「投資と貯蓄」を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
8	市場経済と競争	様々な市場（財市場、労働市場、金融市場）における競争のあり方とその結果を学習する。	（事前）参考書第３章「労働市場と失業」から「競争と独占・革新」を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
9	資本主義の成立	資本主義の成立過程を、歴史的に理解する。	（事前）参考書第４章前半を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
10	１９世紀の資本主義	１９世紀の資本主義と２０世紀以降の資本主義は、同じ資本主義でも異なる。１９世紀の資本主義の特質を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	（事前）参考書第４章後半を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
11	２０世紀資本主義	２０世紀資本主義の成長局面の特徴を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	（事前）参考書第５章前半を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
12	２１世紀に入る資本主義	グローバル化の進展、金融資本の肥大化とバブルの形成、国家政策の効力低下、環境問題の深刻化などによって２０世紀資本主義は、新しい局面に入りつつある。これらの諸問題を概観する。	（事前）参考書第５章後半を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
13	新しい技術・労働・企業・市	新しい技術（情報通信技術など）が労働	（事前）参考書第７章前半を読み，独自のノートを

		場	様式、雇用関係、企業のあり方、取引関係などに与える影響を考える。	まとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
	14	資本主義にとっての難問	先進国における少子高齢化、新興国台頭による食料・資源問題、地球規模の環境問題、金融資本の肥大化による実体経済の混乱など、資本主義にとっての新たな難問を考察し、あり得べき解決策を考える。	（事前）参考書第 7 章後半を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。
	15	まとめ	これまでの授業を振り返り、重要点を確認し、足りなかった部分を補足する。	（事前）参考書を全章読み，講義内容の全体を確認する（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を参考書で確認する（60 分）。

関連科目	社会経済学 II，経済思想史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	図解雑学　資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社
2			
3			

評価方法 （基準）	・授業毎の課題（70%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。 ・復習問題（10%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。 ・レポート（20%）：授業内容に関するテーマについての説明文。
学生への メッセージ	参考書は経済的事柄について分かりやすく書かれています。したがって，まず，この本の図を見ながら本文を読み返してください。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　平尾研究室
備考	

科目名	社会経済学Ⅰ	科目名（英文）	Social Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	ＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8◎,DP9○		
科目ナンバリング	WDW2014a0		

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる経済システムが，どのような要素で成り立っており，それが歴史的にどのように変化してきたのかを示した上で，現在の資本主義システムの特徴を明らかにした上で，今後どのように変わっていくかについて議論する。 SDGs-1,8,9,10
到達目標	・資本主義経済の基本的な仕組みとそれを構成する各種概念を説明することができる。 ・資本主義経済の歴史的な変化について説明することができる。 ・上記のような知識を踏まえて，現在見られる経済関連のニュースを理解し、自分の判断を持てるようになる。
授業方法と留意点	教科書を用いた講義。 教科書を適宜用いるので、第１回から必ず利用できるようにすること。
科目学習の効果（資格）	経済関連のニュースに関心をもち，それを理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	資本主義は神か悪魔か	資本主義では当たり前と思われていることを、国際比較や歴史を参考に、もう一度考えてみる。	教科書第１章前半を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
2	経済学者の資本主義に対する見方	アダム・スミス、マルクス、ウェーバーなどの資本主義の見方を学び、資本主義をみるポイントがいくつかあることを学ぶ。	教科書第１章後半を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
3	資本主義の基本要素（1）：社会的分業と貨幣	市場による調整という資本主義の基本要素を、「所有」や「社会的分業」という視点から見直す。	教科書第２章「私的所有，あるいは私有財産」から「貨幣の機能」までを予習・する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
4	資本主義の基本要素（2）：雇用関係と企業	雇用関係という資本主義の基本要素を、「労働力商品の特殊性」や「私企業としての資本の運動」という視点から考える。	教科書第２章「資本主義の雇用関係」から「資本は企業の形態をとる」までを予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
5	資本主義の社会的機構	資本主義における社会的制度（株式会社、流通機構、銀行、国家など）がどのようなものであるかを学ぶ。	教科書第２章「資本主義の流通機構」から「近代国家」までを予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
6	生産・価値・利潤	まず、社会の人々が生存し続けるには、経済的にどのような条件が満たされねばならないかを考察する。これを、社会的再生産の観点という。それを理解した上で、個々の商品の価値（価格）とそこから生まれる利潤がどういうものかを考える。	教科書第３章「労働と生産性」から「利潤成立の条件」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
7	再生産と資本蓄積	資本主義経済が再生産されつつ発展していく過程がどのようなものであるかを学ぶ。	教科書第３章「生産性上昇とその社会的効果」から「投資と貯蓄」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
8	市場経済と競争	様々な市場（財市場、労働市場、金融市場）における競争のあり方とその結果を学習する。	教科書第３章「労働市場と失業」から「競争と独占・革新」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
9	資本主義の成立	資本主義の成立過程を、歴史的に理解する。	教科書第４章前半を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
10	１９世紀の資本主義	１９世紀の資本主義と２０世紀以降の資本主義は、同じ資本主義でも異なる。１９世紀の資本主義の特質を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第４章後半を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
11	２０世紀資本主義	２０世紀資本主義の成長局面の特徴を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第５章前半を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
12	２１世紀に入る資本主義	グローバル化の進展、金融資本の肥大化とバブルの形成、国家政策の効力低下、環境問題の深刻化などによって２０世紀資本主義は、新しい局面に入りつつある。これらの諸問題を概観する。	教科書第５章後半を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
13	新しい技術・労働・企業・市場	新しい技術（情報通信技術など）が労働様式、雇用関係、企業のあり方、取引関係などに与える影響を考える。	教科書第７章前半を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
14	資本主義にとっての難問	先進国における少子高齢化、新興国台頭による食料・資源問題、地球規模の環境問題、金融資本の肥大化による実体経済の混乱など、資本主義にとっての新たな難問を考察し、あり得べき解決策を考える。	教科書第７章後半を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、重要点を確認し、足りなかった部分を補足する。	教科書をひととおり読み、自分の理解度をチェックし，期末試験に向けた準備を行う。

関連科目	社会経済学 II，経済思想史
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	図解雑学　資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社
2			
3			

評価方法 （基準）	授業時間内外の課題 70%，期末レポート 30%の割合で評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので，授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。
学生への メッセージ	毎回、講義で教科書を参照しますので、教科書は、必ず買ってください。 この本では、一流の研究者が経済的事柄について分かりやすく書いています。したがって、まず、この本の図を見ながら、本文を読み返してください。くれぐれも、ウェブサイトだけを見るのはやめましょう。そこでは、ときどき、きわめて偏った説明がされています。
担当者の 研究室等	１号館７階　原田研究室
備考	

科目名	社会経済学Ⅱ	科目名（英文）	Social Economics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7〇,DP8〇,DP9△		
科目ナンバリング	WDW2015a0		

授業概要・目的	通常，経済学はその分析対象を経済活動＝取引が行われる場を「市場」に限定する。しかし，経済取引の場は市場に限られないし，経済活動は他者と関係を取り結ぶということでもある。また，私たちは日々の暮らしの中で，さまざまな面で社会的な関係をもつが，そこでは一定の行動ルール＝制度が存在する。そのことは経済的取引においても当てはまり，あらゆる経済活動は――市場取引さえも――一定の制度的な枠組みに従っていると考えることができ，現実にそうである。 この講義は，経済活動における制度の存在とその役割を重視する制度経済学の観点から，経済システムの動態を明らかにすることを目的とする。具体的には，経済取引における制度（ルール）の存在を確認した上で，経済学において制度がどのように扱われてきたかを概観する。つづいて，労働・企業・金融・国家といった各種分野において，制度が経済調整に果たす役割を検討する。また異なる領域の制度間の関係についても論じる。さらに，制度は国や時代によって多様であるとの認識から，資本主義経済システムの多様性について議論する。 SDGs-1,3,4, 8,9,10
到達目標	・ 経済活動を理解する上での「制度の重要性」を説明できる。 ・労働力商品の特殊性と賃労働関係について説明することができる。 ・賃金の多面的役割を，賃金交渉制度の多様性の説明に適用できる。 ・技能形成や生産組織が国ごとにどのように異なるかについて説明することができる。 ・コーポレート・ガバナンスの多様性を規定する諸要因を具体的に述べることができる。 ・ 企業の資金調達方法の国ごと違いについて説明することができる。 ・社会保障制度の多様性を規定する諸要因を述べることができる。 ・制度と経済パフォ
授業方法と留意点	適宜資料を配布しつつ，講義形式による授業を行う。演習問題を行うなどして，授業の理解を促進する。
科目学習の効果（資格）	社会経済学（制度経済学）が経済の動きをどのように説明するかを理解することで，標準的な経済学との比較が可能になり，現実の経済社会で起きている問題を理解する上で，多様なものの見方を行うことができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	これまでに学習した経済学と制度経済学との違いについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。
2	市場とコーディネーション	市場による調整と制度による調整（コーディネーション）の違いについて議論する	事前学習資料「市場による調整」から「資本主義の多様性」までを予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
3	技能形成のちがい	労働者の技能形成や教育制度が国によってどのように異なるかを理解する。	事前学習資料「技能形成のちがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
4	生産組織のちがい	企業における生産組織が国によってどのように異なるかを解説し，そのような違いが各国の経済活動の特化に影響を与えることを理解する。	事前学習資料「生産組織のちがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
5	雇用制度のちがい	雇用制度が国によってどのように異なるかを解説する。	事前学習資料「雇用制度のちがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
6	労使関係と賃金交渉のちがい	労使関係と賃金交渉制度が国によってどのように異なるかを解説する。	事前学習資料「労使関係と賃金交渉のちがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
7	資金調達のちがい	企業による資金調達が国によってどのように異なるかを明らかにする。	事前学習資料「資金調達のちがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
8	企業統治のちがい	企業は誰のものであるかを議論した上で，企業統治が国によってどのように異なるかを明らかにする。	事前学習資料「企業統治のちがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
9	福祉制度のちがい	社会保障制度が国によってどのように異なるかを明らかにする。	事前学習資料「福祉制度のちがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
10	制度と経済パフォーマンス	経済制度が異なることで経済パフォーマンスがどのように異なるかについて議論する。	事前学習課題を読み込む。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
11	制度の補完性	異なる分野の制度がどのような関係をもつ可能性があるかについて解説する。	事前学習資料「制度の補完性」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
12	資本主義の多様性	資本主義経済が全体としてどのように多様となるかについて，各種議論を紹介しつつ明らかにする。	事前学習資料「米国型資本主義」「日本型資本主義」「発展途上国の資本主義」「中国の「社会主義市場経済」」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
13	経済システムと政治システム	制度の多様性を生み出す要因として政治を取り上げ，経済システムと政治システムとの対応について議論する。	事前学習課題を読み込む。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
14	米国型資本主義に収れんするか	金融化やグローバル化といった潮流の中で，資本主義の多様性がどのように推移するかについて議論する。	事前学習資料「米国型資本主義に収れんするか」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
15	まとめ	これまでの議論を振り返って，資本主義経済の多様性と動態について改めて考える。	これまでの授業全体を復習して，期末試験に向けた準備を行う。

関連科目	社会経済学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>図解雑学　資本主義のしくみ</td><td>八木紀一郎・宇仁宏幸</td><td>ナツメ社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業時間内外の課題（７０％），期末レポート（３０％）の割合で評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので，速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>経済学は，抽象的な概念やモデルを用いて議論を行います。その際，何が原因でどのようなことが生じるのかという因果関係を理解することが重要となります。そうした考え方を身につけるには，それなりの労力が必要です。授業では，社会経済学・制度経済学の基礎的な概念を少しずつ説明していきますが，ただ授業を聞いているだけでそうした考え方を身に付けるのは困難でしょう。受講生の皆さんには問題演習などを通じて，積極的に学修に取り組んでもらいたいと思います。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　原田研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前事後学習の総時間の目安は 60 時間です。課題への解答については，課題解答期間後に正答と解説が公開されます。また各回で授業への質問や感想を書いてもらいますが，それに対する回答は適宜行います。それらを使って学習をさらに深めてください。</td></tr>
</table>

科目名	統計学	科目名（英文）	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小塚　匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2016a0		

授業概要・目的

「結果を残すことが大切だ」－ビジネスの世界でもスポーツの世界でもよく聞くこの言葉は、確かに１つの真理です。では、結果を残すためにはどうすればよいのでしょうか。「努力」はもちろん、大切です。そして（悪いことをせずに）結果を残せるならば、「勘」や「運の強さ」に頼ることも良いでしょう。しかしこれらだけで良いのでしょうか。

より良い成果を残すための行動、あるいはそのための「努力」の１つの方向性として、「データに基づいた分析」があります。それまでに取り組んだ人達の結果をもとに、成果を残せた要因や失敗の原因を調べ、それに従って自分の行動を決定すれば、より成果を残しやすいのではないでしょうか。

ここでいう「分析」とは、適度な分量のデータとExcelで対処できる手法を用いるものを指します。このような基本的な分析手法を用いることで、世の中のことがいろいろとわかってきます。ビジネスのヒントをつかむこともできるかもしれません。この講義では、データを使った例を用いながら、基本的な統計分析の手法を学びます。それと同時に、データに騙されないための注意点も解説します。

到達目標

1. データを通じて、世の中のことを知る。
2. データに騙されないように、データの特性を知る。
3. 世の中のことを知るための基本的な統計分析の手法を修得する。
4. 確率変数、分布など、今後の学習の基礎となる知識を習得する（計量経済学の前提科目です）。

授業方法と留意点

（１）この講義ではMicrosoft PowerPointを利用します。資料は毎回配布します。
（２）この講義の前半（第７回講義まで）では、グループワークを何度か実施します。
（３）講義中の課題（練習問題）はMicrosoft Formsによる解答フォームに解答してください。なお練習問題には、解答期限を設けます。
（４）講義資料（PowerPoint）には、解説用の音声ファイルを埋め込んでおります。ただし、使用環境やアプリによっては、音声が出ないこともありますので、注意してください。
（５）緊急事

科目学習の効果（資格）

データに惑わされず、データを上手に活用するための基礎知識が身に付きます。また、統計検定など資格試験を準備するうえでの統計学・確率の基礎知識が身に付きます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに:注意事項／この講義で学ぶこと	授業内容の概要、データ分析の目的	シラバスおよび配布資料（１）
2	データと仮説：「修羅の国」の話／肉じゃがに何の肉を使うか？	データを通して世の中を見る	配布資料（２）
3	度数分布:日本の家計はお金持ちか？	平均と分散の話 データの散らばりを視覚的にとらえる	配布資料（３）
4	２変数間の関係 ：アニメ「サザエさん」と景気	共分散、相関係数	配布資料（４）
5	確率（確率、独立試行） ：番号「111111」の宝くじを手に入れたら？	確率の基本と独立な試行について	配布資料（５）
6	確率（条件付確率） ：実践・モンティ・ホール問題	条件付確率とベイズの定理の基本	配布資料（６）
7	確率変数と分布（１） ：「偏差値」はこの話です	正規分布とその使い方ついて	配布資料（７）
8	確率変数と分布（２） ：自然界の法則？	その他の分布	配布資料（８）
9	標本平均の分布 ：視聴率調査の不思議	標本の意味、標本平均について	配布資料（９）
10	標本分散の分布 ：「分散」に平均と分散？	標本分散の意味・特徴について	配布資料（１０）
11	推定（１）	推定の概念、点推定について	配布資料（１１）
12	推定（２）	区間推定について	配布資料（１２）
13	検定（１）	仮説検定の考え方	配布資料（１３）
14	検定（２）	様々な検定について	配布資料（１４）
15	講義のまとめ	講義の復習、要点のまとめ、定期試験に対するアナウンス	これまでの講義資料

関連科目

この講義は、計量経済学の前提科目です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	統計学入門	森棟公夫	新世社
2	基本統計学　第３版	谷崎久志　他	東洋経済新報社
3	統計学から始める計量経済学	北坂真一	有斐閣ブックス

評価方法（基準）

講義中の課題（練習問題、配点50点）、試験（配点50点）で評価します。
Microsoft Formsで解答する練習問題は、解答期間を設けます。原則として次回の講義開始時までを練習問題の解答期限とします。
なお、試験については通常の対面式で実施する予定ですが、社会状況によってはMicrosoft Formsを利用するオンライン試験に切り替える可能性があります。
この講義に出席点はありませんが、無断欠席の回数が多い場合は、単位取得資格を失います。教室に入ったら、必ず出席管理用機械に学生証を

	読み
学生への メッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です。 高校の数学では、統計学についてほとんど触れないことが多いので、初めて聞く内容も多いかと思います。講義をただ聞いているだけでは、十分に内容を理解することはできません。復習をきちんとしてください。 またこの講義では、Microsoft Forms を利用した出欠調査も併せて実施します。
担当者の 研究室等	１号館７階　小塚研究室
備考	

科目名	統計学	科目名（英文）	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	ＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	熊川　剛久
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2016a0		

授業概要・目的	大学で学問を学ぶためには、統計学の基本的な知識が不可欠です。 また、ビジネスの現場においても、統計学に基づいた根拠のある主張を求められます。 この授業で、統計学の基礎を一緒にこつこつ学んでいきましょう。
到達目標	統計学の基礎的な知識を身につけ、使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	この授業では、受講生自身が手を動かして問題を解いていくというエクササイズを大切にします。 授業をただ聞いているだけでは、統計学を修得することは難しいです。 ぜひ積極的に授業に参加してください。
科目学習の効果（資格）	統計学の基礎的な知識を身につけることで、応用科目へと橋を架けることができます。 また、各種資格試験における統計学や確率論の問題が解けるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	度数の分布	度数分布表、ヒストグラムと度数分布多角形、幹葉図、相対度数、累積度数と累積相対度数	シラバス、配布資料
2	代表値、四分位数と箱ひげ図	平均値、中央値、最頻値、四分位数、五数要約と箱ひげ図、ヒストグラムと箱ひげ図	配布資料
3	分散と標準偏差	分散と標準偏差、手順表の利用、分散を求めるもう一つの式	配布資料
4	散布図と相関係数（1）	散布図と相関、共分散	配布資料
5	散布図と相関係数（2）	相関係数、相関の強弱、相関係数に関する注意点	配布資料
6	回帰分析（1）	回帰直線	配布資料
7	回帰分析（2）	決定係数	配布資料
8	中間試験	中間試験	配布資料
9	標本調査（1）	全数調査と標本調査	配布資料
10	標本調査（2）	無作為抽出と乱数	配布資料
11	確率と確率分布（1）	確率の定義と定理	配布資料
12	確率と確率分布（2）	確率変数と確率分布	配布資料
13	確率と確率分布（3）	二項分布と正規分布	配布資料
14	推測統計（1）	仮説検定	配布資料
15	推測統計（2）	区間推定	配布資料

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての統計学	鳥居泰彦	日本経済新聞出版
2			
3			

評価方法（基準）	授業内で取り組む課題の結果：10% 最終課題の結果：90% 合計 100%、100 点満点で評価いたします。
学生へのメッセージ	統計学は数学を使いますが、できるだけ分かりやすい解説ができるようがんばります。 授業では、いつでも質問していただいて大丈夫です。 気になったことは遠慮なくどんどん聞いてください。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	統計学演習	科目名（英文）	Seminar in Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	郭　進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2017a0		

授業概要・目的	情報化社会において、統計学を用いたデータ分析のスキルと知識は必要不可欠である。本講義はコンピューターを使った正しいデータ分析の方法を習得することを目的にしている。
到達目標	統計学の基礎知識を理解し、経済データの収集・処理の能力を養う。 各授業・ゼミで課される課題や卒業論文の作成に役に立つデータ分析のスキルを身につける。
授業方法と留意点	授業は情報演習室で統計ソフトを利用した実習形式になる。 欠席が続くと授業に追いつくのが困難になる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の全体像を紹介した上、授業の進め方と統計ソフトの使い方などについて説明を行う。	事後学習課題
2	記述統計の基礎 1	データの基本統計量、ヒストグラムなどについて説明する。	事後学習課題
3	記述統計の基礎 2	データの散布図、相関係数などについて説明する。	事後学習課題
4	経済データの扱い方	経済データの種類と入手の方法について説明する。	事後学習課題
5	単純回帰モデル、最小二乗法 1	最小 2 乗法について理論的な説明を行う。	事後学習課題
6	単純回帰モデル、最小二乗法 2	統計ソフトによる単純回帰モデルの分析方法を学ぶ。	事後学習課題
7	単純回帰モデル、最小二乗法 3	単純回帰モデルの応用例をいくつか紹介する。	事後学習課題
8	中間テストと解説	前半の内容を演習を通じて理解すること。	
9	回帰モデルの仮説検定 1	確率分布と仮説検定の考え方について説明する。	事後学習課題
10	回帰モデルの仮説検定 2	回帰モデルによる分析結果の解釈方法を説明する。	事後学習課題
11	多重回帰モデル 1	多重回帰モデルによるデータ分析の方法について説明する。	事後学習課題
12	多重回帰モデル 2	経済学で多重回帰モデルの応用例を紹介する。	事後学習課題
13	ダミー変数とその応用	ダミー変数を用いたモデルの推定結果の意味を説明する。	事後学習課題
14	回帰モデルの診断と選択	正しい分析モデルの選択について実践的な方法を学ぶ。	事後学習課題
15	総まとめと演習問題	演習問題を通じて授業内容を復習する。	事後演習問題の提出

関連科目	統計学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業での提出課題 20%、中間テスト 30%、期末テスト 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
担当者の研究室等	１号館　７階　郭教授室
備考	

科目名	経済データサイエンス入門	科目名（英文）	Introduction to Data Science for Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	熊川　剛久
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2018a0		

授業概要・目的	この授業は、データを分析して解釈したり、データに基づいて意思決定を行ったりする際に、知っておくべき大切な知識を身につけることを目指します。
到達目標	データの質や分析の質の良し悪しを判断することができる。 データの解釈において、身近に潜む落とし穴に落ちることなく、適切な解釈ができるようになる。
授業方法と留意点	受講生が主役となり、問題やクイズに挑戦する時間を大切にします。 ぜひ積極的に授業に参加してください。
科目学習の効果（資格）	データの解釈についての鋭い視点を身につけることで、卒業研究に役立つのはもちろんのこと、社会人になったあとも物事の本質を見抜くことができるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業についてのガイダンス	授業についてのガイダンス	シラバス、配布資料
2	データに含まれるバイアス（1）	測定基準の問題	配布資料
3	データに含まれるバイアス（2）	選択バイアスの問題	配布資料
4	データに含まれるバイアス（3）	観測介入の問題	配布資料
5	データに含まれるバイアス（4）	人為的な問題	配布資料
6	データ分析の落とし穴（1）	データ操作の問題	配布資料
7	データ分析の落とし穴（2）	データの利用可能性の問題	配布資料
8	データ分析の落とし穴（3）	分析目的にまつわる問題	配布資料
9	前半のふりかえり	前半のふりかえり	配布資料
10	データ解釈の落とし穴（1）	信頼性の問題	配布資料
11	データ解釈の落とし穴（2）	認知バイアスの問題（1）	配布資料
12	データ解釈の落とし穴（3）	認知バイアスの問題（2）	配布資料
13	データ活用の落とし穴（1）	意思決定の問題	配布資料
14	データ活用の落とし穴（2）	データの取得費用の問題	配布資料
15	データ活用の落とし穴（3）	データ管理の問題	配布資料

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内の課題：10% 最終課題：90% 合計 100%、100 点満点で評価いたします。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	研究室は 1 号館 7 階です。
備考	

科目名	労働経済学	科目名（英文）	Labour Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平尾　智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2019a0		

授業概要・目的	講義では，労働統計などから，キャリア形成に役立つデータを紹介し，そこから何が見えてくるのかを説明します。経済学が明らかにしてきた事実から自身の今後のキャリア形成を考えると同時に，社会問題としての労働問題も同時に理解していきます。 本講義では，様々な労働統計，データ，図表からどこに注目し，何が見えてくるのかを説明していきます。
到達目標	・労働経済学の基礎的な考え方を知る。 ・講義の知見からから自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 ・現代日本で起こっている労働問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と留意点	授業資料は ICT ツールを通して配布します。
科目学習の効果（資格）	・自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。 ・就職活動を客観視できるようになり，職業選択に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方，評価の方法，授業内容の全体像について説明します。	教科書を購入し「はしがき」を読む。
2	働き方の変化	労働市場とは何かを説明し，就労状況が時代によって変動するのはなぜなのかを考えます。	（事前）教科書第 1 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
3	キャリアをデザインするということ	進路選択や就職にとって大切なことはないかを解説します。職業や働き方の調べ方を説明します。	（事前）教科書第 2 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
4	求職と求人	企業は毎年多くの人を採用しています。逆に，毎年多くの人が就職・転職しています。そこにはどうしてもミスマッチが生まれますが，そのメカニズムを探ります。	（事前）教科書第 3 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
5	就職活動と大学教育	教育，特に大学教育に関する個人の選択について，経済学的な考え方を学びます。	（事前）教科書第 4 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
6	賃金格差	賃金は生産性によって決まる。したがって，賃金格差を分析する場合，その生産性の差を決定づける要因を考えなければなりません。	（事前）教科書第 5 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
7	昇進と昇格	会社で働く人の大きな関心事に出世があります。社長や管理職の実態を把握し，訓練，選抜，労働意欲の観点から出世の仕組みを説明します。	（事前）教科書第 6 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
8	労働時間と休暇	仕事と生活をバランスさせることは，働く人にとって重要なテーマです。労働時間や休暇の実態，それらが健康や家庭生活に及ぼす影響を考えます。	（事前）教科書第 7 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
9	福利厚生	企業は従業員の福利厚生にどれほどの費用を投じているのか，またその理由は何か，といった点を探っていきます。	（事前）教科書第 8 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
10	ダイバーシティ	男性労働者だけではない，多様な人材活用が求められています。日本企業の女性活用の実態を見ていきます。	（事前）教科書第 9 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
11	離職と転職	会社辞める理由は多々ありますが，会社辞める決断をする背景や辞めた後に起こる事実について学びます。	（事前）教科書第 10 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
12	解雇と失業	自分の雇用がどの程度安定的かは，働く上での重要な関心事でしょう。美豆から望まない離職がどうして起きるのかを考えます。	（事前）教科書第 11 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
13	定年退職	いつかは引退の日がやってきます。定年制や継続雇用の現状や経済学的な考え方を学びます。	（事前）教科書第 12 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
14	コーポレートガバナンスと従業員	株主，経営者といった企業の様々な利害関係者と従業員の関係を説明します。	（事前）教科書第 13 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。
15	様々なキャリア	会社だけが働く場所ではないだろう。国内企業で働く以外の働き方を考えてみる。	（事前）教科書第 14 章を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を教科書で確認する（60 分）。

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>公共経済学</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>キャリアのみかた（改訂版）</td><td>阿部正浩・松繁寿和</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>どうする日本の労働政策</td><td>櫻井純理編</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・授業毎の課題（70%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。
・復習問題（10%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。
・レポート（20%）：授業内容に関するテーマについての説明文。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>労働の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。労働市場の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか，経済学的思考で考えてください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　平尾研究室（経済学部）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	経済思想史	科目名（英文）	History of Economic Ideas
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大槻　忠史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2○,DP3○,DP4◎,DP5○,DP6△,DP7◎,DP8○,DP9○		
科目ナンバリング	WDW2020a0		

授業概要・目的	我々が「経済学」と呼ぶこの学問がこれまでどのような歴史をたどり、どのような問題意識の下で発展してきたのかについて、その概観を学ぶ。
到達目標	次の二つを目標とする。第一に、経済学にこれまで存在してきた諸概念や理論を理解すること。第二に、それらが我々の日常生活や社会といかに関わりを持ちつつ発展してきたのかを理解すること。
授業方法と留意点	1. 基本的には、講義スタイルで授業を進めます。また、コメントや課題等の利用により、理解度を測ります。 2. 資料を配布しますが、それらのみに依存しないこと。講義に集中し、必要に応じてメモを取る習慣をつけて下さい。また、疑問点などは、自ら調べると共に、質問等により自ら解決するように心がけて下さい。
科目学習の効果（資格）	経済思想史の基礎であるとともに、ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎的内容の習得、また経済史の基礎と位置付けることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済思想史とは？経済思想史を通じて何を学ぶのか？	事前：シラバスの熟読 事後：授業内容の復習
2	古代と中世の「経済」思想	古代と中世の「経済」	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 1
3	重商主義と経済学	重商主義の時代の経済学:その背景と概観	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 2
4	古典派経済学 1	古典派経済学の成立と A.スミス	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 3
5	古典派経済学 2	産業革命と R.マルサス	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 4
6	古典派経済学 3	D. リカードと R.マルサス	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 5
7	市場経済への批判 1	ドイツ歴史学派	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 6
8	市場経済への批判 2	ユートピアと社会主義思想	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 7
9	市場経済への批判 3	K.マルクスの経済学：背景と展開	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 8
10	新古典派経済学	限界革命：ミクロ経済学の形成・発展	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 9
11	市場経済への批判 4	T. ヴェブレン	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 10
12	経済学の新たな展開 1	J.M. ケインズ：マクロ経済学の形成・発展	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 11
13	経済学の新たな展開 2	J. A. シュンペーターの経済学	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 12
14	経済学と日本	「経済学」の輸入以前と輸入直後、そしてその後の概観	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 13
15	まとめ	全体の見取り図を作成する	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習

関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、ミクロ経済学、マクロ経済学、世界経済史(西洋経済史)、日本経済史など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特定の教科書は利用しません。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経済学の歴史：市場経済を読み解く	中村達也 ほか	有斐閣アルマ
2	経済思想　＜第２版＞	八木紀一郎	日本経済新聞出版社
3	経済学史 (MINERVA スタートアップ経済学 3)	小峯敦	ミネルヴァ書房

評価方法（基準）	レポート(60%)及び小課題(40%)を予定しています。但し、小課題を５回以上未提出の場合、レポートの採点は行いません。 授業形式により、変更の可能性があります。
学生へのメッセージ	「歴史を学ぶ」と聞くと、年代や人物、出来事などの暗記と思うかもしれません。もちろん、最低限必要な知識はありますが、経済学の歴史を自分なりに理解することに重点を置いてほしいと思います。担当者は、理解が進めば、知識は後からついてくると考えています。少なくとも本講義では、知識の暗記に終始することは求めません。常に自ら考えることを求めたいと思います。
担当者の研究室等	１号館７階　大槻研究室
備考	

科目名	世界経済史	科目名（英文）	World Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大槻　忠史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2021a0		

授業概要・目的	世界の国や地域、社会などがこれまでどのような歴史をたどり、現在の状態に至るのかについて、特に経済活動に関わる部分に焦点を当て、その概観を学ぶ。
到達目標	次の二つを目標とする。第一に、特に重要な活動や出来事について、その概観と背景を理解すること。第二に、それらが現在においてもなお我々の日常生活や社会といかに関わりを持っているのかを理解すること。
授業方法と留意点	1. 基本的には、講義スタイルで授業を進めます。また、コメントや課題等により、理解度を測ります。 2. 資料を配布しますが、それらのみに依存しないこと。講義に集中し、必要に応じてメモを取る習慣をつけて下さい。また、疑問点などは、自ら調べると共に、質問等により自ら解決するように心がけて下さい。
科目学習の効果（資格）	2 年次後半、また 3、4 年次に履修する科目をより深く理解することにつながると思われます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済史とは何か？経済史を通じて何を学ぶのか?	事前：シラバスの熟読 事後：授業内容の復習
2	中世までの経済活動（1）	アジアを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 1
3	中世までの経済活動（2）	ヨーロッパを中心に、中世までの経済活動について概観をえる。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 2
4	経済活動と宗教改革	経済活動と宗教の関係性について考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 3
5	いわゆる「世界の一体化」(1)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパと中南米地域の関係を考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 4
6	いわゆる「世界の一体化」(2)	いわゆる「世界の一体化」の時期における、ヨーロッパとアフリカ地域の関係を考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 5
7	いわゆる「世界の一体化」(3)：	いわゆる「世界の一体化」の時期における、 アジアの発展、またアジアとヨーロッパとの関係を考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 6
8	イギリスの産業革命	イギリスの産業革命について、産業発展の実態とその背景、影響などについて、考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 7
9	日本の開国と発展	日本の開国とその後の発展について概観を得る。そして、世界市場への参入とその意味という観点から位置付ける。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 8
10	イギリスの衰退とアメリカ合衆国の台頭	アメリカ合衆国の台頭について、その背景と実態について概観を得る。そして、それが 20 世紀の世界的な経済活動や体制に与えた影響について考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 9
11	社会主義経済体制の出現	ロシア革命とその実態、影響について、経済的側面から考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 10
12	世界恐慌と経済体制の変化	世界恐慌がもたらした経済活動への影響、また戦時の経済経済体制について概観を得る。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 11
13	第二次世界大戦後の世界経済（1）	植民地の独立がもたらした影響と世界経済体制の新たな課題について、考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 12
14	第二次世界大戦後の世界経済（2）	1990 年代以降の世界経済体制とその変化、また経済危機について、考察する。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習と小課題 13
15	まとめと経済発展論の紹介	全体の見取り図を描くと共に、経済発展論について簡潔に学ぶ。	事前：事前課題について、調べる 事後：授業内容の復習

関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、日本経済史、経済思想史など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	砂糖の世界史	川北稔	岩波書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界経済の歴史（第 2 版）	金井雄一 ほか	名古屋大学出版会
2	現代日本経済史	中村宗悦	学文社
3			

評価方法（基準）	レポート(60%)、及び小課題(40%)を予定しています。但し、小課題の未提出回数が 5 回以上の場合、レポートは採点対象としません。 授業形式により、変更の可能性があります。
学生へのメッセージ	「歴史を学ぶ」と聞くと、年代や人物、出来事などの暗記と思うかもしれません。もちろん、最低限必要な知識はありますが、自分なりに理解することに重点を置いてほしいと思います。担当者は、理解が進めば、知識は後からついてくると考えています。少なくとも本講義では、知識の暗記に終始することは求めません。常に自ら考えることを求めたいと思います。 授業で扱うことのできない国や地域、社会、時期、項目などについては、自ら進んで調べてみてください。知識がつながり、理解が深まります。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　大槻研究室

備考	

科目名	簿記原理Ⅰ	科目名（英文）	Principles of Bookkeeping I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴　景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP3△,DP4△,DP5△,DP6△,DP7△,DP8△,DP9△		
科目ナンバリング	WDW1022a0		

授業概要・目的	一定期間の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するための一連のプロセスが会計システムである。会計情報を作るための重要な手段が簿記であるため、簿記の基本を理解することで、実際の企業経営に必要となる財務管理の仕組みを把握する。簿記の基本的な手続きを理解し、日常的な取引の帳簿記録（仕訳）ができ、簿記における最終成果物である財務諸表の理解し、経営管理においての財務管理の必要性の理解するよう講義・演習を行う。
到達目標	(1)簿記の基本的な手続き（特に、日常の手続き）の理解 (2)簿記における最終成果物である財務諸表の理解 (3)経営管理においての財務管理の必要性の理解
授業方法と留意点	授業はパワーポイントで行います。授業１回を一つの単位で、「理論説明」「演習」「確認レポート」として構成されるので、理論・例題後に与えられる演習問題を自力で解くことで授業内容が理解できているか確認してください。課題は期限厳守で提出してください。
科目学習の効果（資格）	本授業は経営分野すべての基礎である会計学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・簿記の概要	講義の進め方、講義の概要などを説明	学期中の授業の流れを把握できること
2	日常の手続き：現金・現金過不足	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、現金と関連する取引について学習する	演習問題・レポート
3	日常の手続き：当座預金・小口現金①	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	演習問題・レポート
4	日常の手続き：当座預金・小口現金②	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	演習問題・レポート
5	日常の手続き ： 手形①	手形の仕組、種類(約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・レポート
6	日常の手続き ： 手形②	手形の仕組、種類(約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・レポート
7	日常の手続き ： 手形③	手形の仕組、種類(約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・レポート
8	その他の日常（期中）の取引①	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産(減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・レポート
9	その他の日常（期中）の取引②	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産(減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・レポート
10	その他の日常（期中）の取引③	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産(減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・レポート
11	その他の日常（期中）の取引④	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産(減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・レポート
12	その他の日常（期中）の取引⑤	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産(減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・レポート
13	総勘定元帳の締め切りプロ	期中に日常的に発生する取引を記録し	演習問題・レポート

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td>セス</td><td>た総勘定元帳の締切りプロセスを学習する。資産勘定科目・負債勘定科目・資本勘定科目の締め切りと次期繰り越しの手続きおよび、収益勘定科目と費用勘定科目の損益への振り替え手続きを理解する。</td><td></td></tr>
<tr><td>14</td><td>試算表・精算表・B/S・P/Lの理解</td><td>決算報告書であるB/S・P/Lが理解でき、解説できること。また決算手続きである試算表・精算表の理解と作成について学習する。</td><td>演習問題・レポート</td></tr>
<tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>講義のまとめおよび質疑応答</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>「会計学入門」を履修していることが望ましい。
「簿記原理Ⅱ」「管理会計論」と関連する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>定期試験60%、平常点40%(授業中の演習・レポートなど）で総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>講義内容は全てつながっており、継続的に受講しないと分からなくなる。

※「簿記原理Ⅰ」を履修するためには、「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが望ましい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　朴教授室（経済学部）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	簿記原理Ⅱ	科目名（英文）	Principles of Bookkeeping II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴　景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP3△,DP4△,DP5△,DP6△,DP7△,DP8△,DP9△		
科目ナンバリング	WDW2023a0		

授業概要・目的	一定期間の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するためには、年１回決算を行う。本講義では、決算手続きを理解し、決算決算報告書（財務諸表；貸借対照表と損益計算書）の作成ができるように、企業会計基準に沿って決算手続きの解説と演習を行う。
到達目標	1. 簿記の基本的な手続きの理解 2. 日常の手続き・決算手続きができること 3. 財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の作成と解説ができること
授業方法と留意点	授業はパワーポイントに加えて板書で行う。
科目学習の効果（資格）	日商簿記・税理士・公認会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・簿記の全体の流れ	講義の進め方、講義の概要などを説明	レポート
2	商品取引の記帳Ⅰ	売買業において最も頻繁に発生する商品取引の記録方法である分記法と３分法の理解と記帳	演習問題または課題の提出
3	商品取引における期末手続き①	３分法を採用した場合の期末手続きの必要性、売上原価・商品売買益の計算の仕組みの理解、３分法で用いられる勘定の記帳と理解と演習	演習問題または課題の提出
4	商品取引における期末手続き②	３分法を採用した場合の期末手続きの必要性、売上原価・商品売買益の計算の仕組みの理解、３分法で用いられる勘定の理解と記帳	演習問題または課題の提出
5	商品取引における期末手続き③	３分法を採用した場合の期末手続きの必要性、売上原価・商品売買益の計算の仕組みの理解、３分法で用いられる勘定の理解と記帳	演習問題または課題の提出
6	収益・費用の繰延べ①	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の前払」「収益の前受」金額は利益計算で調整(削除)する必要がある。このような調整手続きが繰延べである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	演習問題または課題の提出
7	収益・費用の繰延べ②	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の前払」「収益の前受」金額は利益計算で調整(削除)する必要がある。このような調整手続きが繰延べである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	演習問題または課題の提出
8	収益・費用の見越し①	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の未払」「収益の未収」金額は利益計算で調整(削除)する必要がある。このような調整手続きが見越しである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	演習問題または課題の提出
9	収益・費用の見越し②	利益計算は「同じ期間に発生した収益と費用」のみ集計する。そのため決算時には「費用の未払」「収益の未収」金額は利益計算で調整(削除)する必要がある。このような調整手続きが見越しである。繰延の仕組みと手続きを理解・演習	演習問題または課題の提出
10	現金過不足・消耗品と消耗品費①	現金過不足の意味と処理方法、消耗品と消耗品費勘定の理解と決算手続きの演習	演習問題または課題の提出
11	現金過不足・消耗品と消耗品費②	現金過不足の意味と処理方法、消耗品と消耗品費勘定の理解と決算手続きの演習	演習問題または課題の提出
12	貸倒れ・貸倒損失・貸倒引当金	経営上、発生する貸倒れに関連する勘定の理解と、決算手続きの演習	演習問題または課題の提出
13	固定資産と減価償却費①	固定資産と関連して発生する費用勘定科目である減価償却費の意味を理解し、決算手続きを演習。また減価償却費の記帳方法である直接法と間接法における勘定記入と理解	演習問題または課題の提出
14	固定資産と減価償却費②	固定資産と関連して発生する費用勘定科目である減価償却費の意味を理解し、決算手続きを演習。また減価償却費の記帳方法である直接法と間接法における勘定記入と理解	演習問題または課題の提出
15	まとめ	講義のまとめおよび質疑応答	

関連科目	「会計学入門」「簿記原理Ⅰ」「管理会計論」

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>定期試験 60%
平常点 40%（主に課題・レポート）</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>第 1 回目のガイダンスは必ず出席する。講義内容は複数週に渡ってつながっており、継続的に受講したほうが理解しやすい。

※「簿記原理Ⅱ」を履修するためには、「簿記原理Ⅰ」「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが望ましい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　朴教授室（経済学部）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	財政学	科目名（英文）	Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方　佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9○		
科目ナンバリング	WDW2024a0		

授業概要・目的	日本における予算制度、歳出と歳入、税金のあり方、公債の特徴、地方財政制度について説明し、現在の日本が直面している財政の状況、財政赤字、高齢化に伴う社会保障、地方分権等の問題についての理解を深めます。
到達目標	現在の日本の財政が直面している財政赤字、社会保障、所得税・消費税・法人税などの税金の問題を具体的な数字を見ることによって理解し、一国民として今後の日本の将来を考えてもらう。
授業方法と留意点	10 回目に中間試験、15 回目に期末試験を行います。 それ以外の回については、Moodle に講義関係の資料を Upload しておきます。 連絡手段に Teams を使う可能性がありますので登録お願いいたします。
科目学習の効果（資格）	私達の身近な問題である、財政赤字、税金、社会保障の問題が詳しくわかります。また公務員試験の勉強にも役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	財政論とは？	財政学の考え方と財政の役割について説明する。	講義ノートの復習（1 時間）
2	予算原則と予算制度	日本の予算制度について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
3	歳出と歳入	我が国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
4	社会保障制度 I	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
5	社会保障制度 II	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
6	各国の財政事情	先進国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
7	税金	直接税・間接税の特徴について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
8	我が国の租税制度 I	所得税、支出税、法人税について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
9	我が国の租税制度 II	消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
10	中間試験		
11	公債	我が国の公債について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
12	公債の理論	公債による経済的な影響について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
13	地方財政 I	国と地方の役割分担について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
14	地方財政 II	地方税と補助金（国庫支出金、地方交付税）について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
15	期末試験		

関連科目	公共政策論、公共経済学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間試験（30%）、期末試験（70%）で総合的に評価します。 私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。課題や中間試験において不正行為が確認された場合、0 点にいたします。またその不正行為が悪質な場合は定期試験の受験を認めません。
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
担当者の研究室等	１号館７階　名方准教授室（経済学部）
備考	

科目名	金融論	科目名（英文）	Money and Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2○,DP3○,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7○,DP8△,DP9○		
科目ナンバリング	WDW2025a0		

授業概要・目的	「金融論」は、経済学の応用分野の一つです。景気、金利や物価などがどのように金融システムの中で決定されているのか(マクロ的な金融論)、個人や企業、銀行や日本銀行などの各経済主体がどのように行動するのか(ミクロ的な金融論)を中心に、基礎的な部分を解説をしていきます。
到達目標	マクロ金融論・ミクロ金融論の理解を通じて、金融政策及びファイナンス理論に関する知識を深め、新聞の経済記事等の理解がスムーズに行えるようになる。
授業方法と留意点	基本的に講義形式をとります。第 8 回にマクロ的な金融論にかかわる範囲、第 15 回にミクロ的な金融論にかかわる範囲についての理解を問う試験を授業内で行います。
科目学習の効果（資格）	マクロ経済学・ミクロ経済学の理解補助 ERE(経済学検定試験)や FP(ファイナンシャルプランナー)をはじめとして、各種資格試験問題にも対応

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	金融論とは？　／　45 度線分析①	GDP　45 度線モデル	45 度線分析の概略を確認・復習
2	45 度線分析②	消費関数　相対所得仮説　ライフサイクル仮説　恒常所得仮説	消費関数に関する議論の理解・復習
3	金利とマクロ経済　IS－LM 分析①	利子率　投資の限界効率　投資関数　資産価格の決定式　トービンの q	資産価格の決定式をはじめとする各項目に関する理解・復習
4	金利とマクロ経済　IS－LM 分析②	IS-LM モデル　金融・財政政策　流動性のわな	IS-LM モデルの理解・復習
5	物価とマクロ経済　AD-AS 分析①	物価指数　AS 曲線	AS 曲線の導出方法の理解復習
6	物価とマクロ経済　AD-AS 分析②	AD 曲線　AD-AS モデル	AD 曲線の導出方法及び AD-AS モデルの概略の理解・復習
7	為替レート	為替レートの決定理論　購買力平価説　裁定取引	為替レートの決定理論についての概略を理解・復習
8	まとめとテスト	７回までのまとめとテスト(試験範囲は第 1～7 回)	---------
9	ポートフォリオ理論	期待効用仮説　平均・分散アプローチ　効率性フロンティア　分離定理	統計学の基礎知識とポートフォリオ理論の概略を確認・復習
10	CAPM(資本資産評価モデル)	マーケットリスク・プレミアム　リスクフリー・レート　ベータ　スワップレシオ	統計学の基礎知識と CAPM の概略の理解・復習
11	投資決定理論	NPV(ネット・プレゼント・ヴァリュー)　B/S　P/L　キャッシュフロー　資本コスト	NPV の理解・復習
12	MM 理論と企業財務政策	MM 理論の第 1 命題　最適資本構成	MM 理論の概略についての理解・復習
13	民間銀行の役割と行動	マネーサプライ　信用創造	信用創造のメカニズムについて理解・復習
14	日本銀行の役割と行動	ハイパワード・マネー　金融政策	各種金融政策とその波及効果について理解・復習
15	まとめとテスト	14 回までのまとめとテスト（試験範囲は第 9 回～14 回)	---------

関連科目	マクロ経済学・ミクロ経済学など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(60%)＋単元テスト・まとめテスト(40%)で評価します。
学生へのメッセージ	経済を知るうえで金融の役割を理解するのは必須です。応用的な経済学の分野ですので、受講生は、極力マクロ経済学やミクロ経済学、統計学や経済数学(基礎的範囲)をすでに履修していることを強く望みます。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　植杉教授室(経済学部)
備考	授業内の試験は必ず受験するようにしましょう。

科目名	ゲーム理論	科目名（英文）	Game Theory
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2○,DP3○,DP4△,DP5〇,DP6△,DP7○,DP8△,DP9○		
科目ナンバリング	WDW3026a0		

授業概要・目的	ゲーム理論は、経済学のみならずあらゆる分野で応用されており、いまや、ものごとを戦略的・論理的に考える基本的な技術といってよいでしょう。ただし、その基本的な方法を習得し、これらを応用するには一定の練習が必要です。本講義では、経済学でも頻繁に適用される非協力ゲームに絞り、基本的な概念の理解と、応用力を身につけるための問題演習に重点を置きます。
到達目標	最終的には、ゲーム理論を利用して戦略的思考を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は、ほぼ隔週で小テストを実施します。小テストの得点は、成績評価に係わりますので、必ず受けるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	他の経済学等の科目（特に「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」）の学習・理解に資する内容です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ゲーム理論とは何か	イントロダクションとしてミクロ経済学的発想の解説、及びゲーム理論のミクロ経済学への応用例を示します。	授業内容の確認・復習
2	非協力ゲーム 1-1 戦略の支配とナッシュ均衡	標準型ゲーム、純粋戦略、囚人のジレンマ、被支配戦略の逐次消去	授業内容の確認・復習
3	非協力ゲーム 1-2 混合戦略(1)	ナッシュ均衡、混合戦略	確認テスト 1(1～2 回までの範囲)
4	非協力ゲーム 1-3 混合戦略(2)	混合戦略に関する具体例による演習(復習及び解説) クールノー・モデルなど	授業内容の確認・復習
5	非協力ゲーム 1-4 ゼロ和ゲーム(1)	定和ゲーム、ゼロ和ゲーム、マックスミニ戦略、ミニマックス定理	確認テスト 2(3～4 回までの範囲)
6	非協力ゲーム 1-5 ゼロ和ゲーム(2)	ゼロ和ゲームに関する具体例による演習(復習及び解説)	授業内容の確認・復習
7	非協力ゲーム 2-1 展開型ゲーム(1)	展開型ゲーム、ゲームの木、展開型ゲームの戦略型表現	確認テスト 3(5～6 回までの範囲)
8	非協力ゲーム 2-2 展開型ゲーム(2)	部分ゲーム完全均衡、局所戦略	授業内容の確認・復習
9	非協力ゲーム 2-3 展開型ゲーム(3)	展開型ゲームに関する具体例による演習(復習及び解説) チェーンストア・パラドクスなど	授業内容の確認・復習
10	非協力ゲーム 2-4 展開型ゲーム(4)	繰り返しゲーム(有限回)	確認テスト 4(7～9 回までの範囲)
11	非協力ゲーム 2-5 展開型ゲーム(5)	繰り返しゲーム(無限回)、トリガー戦略	授業内容の確認・復習
12	非協力ゲーム 3-1 情報不完備なゲーム(1)	ベイジアンゲーム、ベイジアン=ナッシュ均衡	確認テスト 5(10～11 回までの範囲)
13	非協力ゲーム 3-2 情報不完備なゲーム(2)	完全ベイジアン均衡　自然　信念　一括均衡　分離均衡	授業内容の確認・復習
14	非協力ゲーム 3-3 情報不完備なゲーム(3)	公共財、逆選択	確認テスト 6(12～13 回までの範囲)
15	講義のまとめと今後の学習に関するガイダンス	講義のまとめとして基本的な概念の確認と、講義内で扱えなかったさらなるトピックスについて概説します。	期末テストの学習

関連科目	特に「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」その他多数

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各授業での小テスト約４０％、定期試験約６０％で総合評価します。
学生へのメッセージ	継続的な演習を促すために、小テストを重視します。数学的な式に不安な場合でも、適宜解説を行いながらゆっくり進めます。
担当者の研究室等	１号館７階　植杉教授室(経済学部)
備考	

科目名	計量経済学	科目名（英文）	Econometrics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小塚　匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3027a0		

授業概要・目的

三題噺（こばなし）ではありませんが、次の３つの話を読んでください。

1.　皆さんの中には、将棋や囲碁で遊んだことのある方もいると思います。いまでも、趣味として楽しんでいる方もいるかもしれません。さて、近年は人工知能（AI）というものが注目されています。その応用として、囲碁や将棋のソフトが開発され、実際に棋士と対戦をしています。この人工知能には、棋譜であらわされた対戦データを使って、これまでに実際にあった囲碁や将棋の戦い方を学習させています。そうやって人工知能は、プロの棋士と対戦できるだけの能力を身につけているのです。

2.　皆さんの出身高校には、野球部はありますか。中には、強豪校として名を馳せている高校の卒業生がいるかもしれません。そして、実際に野球部で活躍した方もいるかもしれませんね。さて、全国高等学校野球選手権大会（いわゆる「夏の甲子園」）には、東京都・北海道を除いて、原則として各府県から１校ずつ出場します。このしくみの下では、人口の少ない県からは甲子園の全国大会に出場しやすい（それでも大変なことですが）ため、「野球留学」をする生徒たちが多い、といわれています。そしてそのような人たちが、長じてプロ野球選手として国内外で活躍しているケースも多々あります。

3.　この大相撲の世界では、勝ち越し（その場所で半分以上勝つこと）の価値は非常に大きなもので、その後の番付けにも影響します。その場所の 14 日目終了時に７勝７敗となっている力士にとって、千秋楽（15 日目）は負けられない一番となることは、想像に難くありません。それゆえに、大相撲でいわゆる「八百長」が行われているということは、昔からよく言われています。ことの真偽は明らかではありませんが・・・。

＊＊

さて、一見まったく関係のないように思えるこれら３つの話ですが、「回帰分析」という共通のキーワードがあります。この「回気分析」を応用することで、これらの事象について仮説を立てて、検証することができます。その成り立ちや使い方の基本事項を習得することが、この「計量経済学」の重要な目的です。

なお、上記のような応用は、さらに進んだ内容です。この講義で扱う内容は、その基本中の基本であることをご理解ください。

到達目標

この講義では、数学、統計学、経済学を融合した学問分野である、計量経済学の基本を習得します。特に、最小二乗法に代表される回帰分析と、必要な統計学の基礎知識（検定・推定など）、そして経済データの特性について理解を深め、「統計学」の内容よりもより進んだ知識を身に付けます。

授業方法と留意点

無断欠席の回数が多い学生は、単位取得資格を失います。ご注意ください。

この講義で主に利用する ICT ツールは、Microsoft Teams と Microsoft Forms です。この講義は社会状況の変化に応じて、Microsoft Teams を用いたオンライン講義（リアルタイム配信）で実施する可能性もあります。念のため、Teams コードを利用してこの講義のチームに参加してください。

練習問題は Microsoft Forms で実施します。解答フォームへのリンクや講義資料、データ実習用の Excel ファ

科目学習の効果（資格）

回帰分析など、基本的なデータ処理の方法が理解できるようになります。また統計学や回帰直線に関する知識は、IT パスポート試験や基本情報技術者試験でも問われています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	計量経済学とは	計量経済学の概要について説明します。この講義のイントロダクションです。	教科書第１章・講義資料（１）
2	データの整理①:統計的記述と確率変数	統計学の基本として、まず経済データの種類について説明し、続いてデータの特性をどうあらわすか、について説明します。また、確率変数についても解説します。	教科書第２章・講義資料（２）
3	データの整理②:母集団と標本	母集団と標本は、データを使った分析を進める際に、基本中の基本となる概念です。ここでは母集団と標本の違い、および分布について説明します。	教科書第２章・講義資料（３）
4	統計的推測：推定と検定	データ（標本）から母集団の特徴を推測する方法が推定・検定です。統計的な推論のキーとなる概念です。	講義資料（４）
5	最小二乗法①	計量経済学の中心的課題とも呼べる、回帰分析について解説します。ここではその基本である最小二乗法について扱います。	教科書第３章・講義資料（５）
6	最小二乗法②	最小二乗法で推定した結果について、その妥当性を検証する方法(決定係数など)について解説します。また応用例も紹介します。	教科書第３章・講義資料（６）
7	単回帰分析①	分析のために必要な各種推論（基準化変量、偏差値、正規分布、t 分布など）について解説します	教科書第４章・講義資料（７）
8	単回帰分析②	最小二乗法で推定した推定量には、優れた特徴があります。ここではそれらの検定方法などについて解説します。	教科書第４章・講義資料（８）
9	単回帰分析③	モデルの仮定や最小二乗推定量の特徴について解説します。また、実証分析例も紹介します。	教科書第４章・講義資料（９）
10	多重回帰分析の基礎①	説明変数の数を増やしたケースについて解説します。実証例も紹介いたします。	教科書第５章・講義資料（10）
11	多重回帰分析の基礎②	多重回帰分析における推定結果の解釈や、注意すべき点について解説します。実証分析の例も紹介します。	教科書第５章・講義資料（11）
12	多重回帰分析の拡張	ダミー変数、ラグ変数などの多重回帰分析における重要な応用について解説します。また、重要な問題点である多重共線性についてもここで扱います。	教科書第７章・講義資料（１２）
13	価格指数・デフレータ他	物価をあらわすデータである、物価指数やデフレータについて解説します。また	教科書第６章・講義資料（１３）

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>名目変数と実質変数の違いについても扱います。</td><td></td></tr>
<tr><td>14</td><td>F検定</td><td>複数の係数の推定値を同時に検定する手法である､F検定について解説します。</td><td>教科書第８章・講義資料（14）</td></tr>
<tr><td>15</td><td>系列相関とその対処法</td><td>誤差項が相関を持つこと（系列相関）によってもたらされる問題点と､その検定方法や対処法について解説します。</td><td>教科書第９章・講義資料（15）</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>「統計学」で学んだ内容を事前に復習してください。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>入門　計量経済学　Excelによる実証分析のガイド</td><td>山本拓・竹内明香</td><td>新世社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>講義中に出題される練習問題（50%）試験（50%）で評価します。
練習問題は、Microsoft Formsを利用して実施します。その回の講義内容に関するものです。原則として次回講義開始時までを解答期限とします。次回までに提出する宿題だと考えてください（例外もあります）。
また、試験は期末試験期間に実施する予定です。ただし社会状況によっては、Microsoft Formsを利用したオンライン試験に切り替える可能性もあります。
この講義に出席点はありませんが、無断欠席の回数が多い場合は、単位取</td></tr>
<tr><td>学生へのメッセージ</td><td>疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。なお履修に当たっては、教科書は必ず購入してください。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。
この講義は、高校までの数学や統計学の学習内容を基本として展開されます。学習内容の積み重ねが大事です。また、この分野の基本事項を扱うとはいえ、３年次開講科目であることからもわかるように、それなりに高度な内容が含まれます。ただ講義を聴くだけでは十分な理解ができません。きちんと出席し、復習をしてください</td></tr>
<tr><td>担当者の研究室等</td><td>１号館７階　小塚研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	管理会計	科目名（英文）	Management Control
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴　景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP3△,DP4△,DP5△,DP6△,DP7△,DP8△,DP9△		
科目ナンバリング	WDW3028a0		

授業概要・目的	管理会計とは、経営管理者の多様な意思決定等の経営管理活動に対して有用な会計情報を提供する一連のプロセスである。本講義では、財務・原価情報を利用した戦略的管理ツールの基礎知識を概説し、そのプロセスを習得することを目的とする。講義では理論を理解し実践力を身に着けるため、演習・事例研究などを取り入れる。
到達目標	戦略経営に用いられる管理ツールの理論を理解し、実務でどのように活用されるかを身につけることを本講義の到達目標とする
授業方法と留意点	本授業は①基礎理論の講義、②理論の理解のための演習、③理論を用いた事例研究またはグループワークの３段階で構成される。
科目学習の効果（資格）	日商簿記、SA、FP、中小企業診断士、税理士、公認会計士受験のための基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義全体の概要および講義の進め方などの紹介	レポート
2	管理会計のフレームワーク	管理会計学習の意義、管理会計と財務会計、管理会計と資源配分、管理会計と人間・組織	レポート
3	管理会計の発展史	管理会計の発展過程、管理会計手法（tool）の変遷過程管理会計モデルなど	レポート
4	簿記の要約	管理会計論の基礎知識として、会計の基本的な仕組みを理解する。 会計期間、簿記の５要素、利益計算、財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の読み方	レポート
5	投資計画のための管理会計①	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択するかについて学習する。投資案の分析ツールとして、NPV 法・回収期間法・ROI 法を用いる	演習問題
6	投資計画のための管理会計②	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択するかについて学習する。投資案の分析ツールとして、NPV 法・回収期間法・ROI 法を用いる	演習問題・レポート
7	ROI を用いた企業評価	実際の企業の財務諸表を用いりながら企業評価を行ったり、業種間比較（グループワーク）分析を行う。	演習・レポート
8	短期利益計画とＣＶＰ分析①	損益分岐点（BEP）分析を学習し、実際企業の利益計画の演習を行う。 短期利益計画の意義、CVP 分析（損益分岐点分析）、限界利益・貢献利益	演習問題
9	短期利益計画とＣＶＰ分析②	損益分岐点（BEP）分析を学習し、実際企業の利益計画の演習を行う。 短期利益計画の意義、CVP 分析（損益分岐点分析）、限界利益・貢献利益	演習問題
10	短期利益計画とＣＶＰ分析③	損益分岐点（BEP）分析を用いて出店計画を企画（グループワーク）して、プレゼンする	演習問題・レポート
11	価格決定と原価企画 ①	販売価格の決定のための基本的な方法論を理解する コスト・プラス法・原価企画による法	演習問題
12	価格決定と原価企画 ②	販売価格の決定のための基本的な方法論を理解する コスト・プラス法・原価企画による法	価格決定の事例研究のレポート
13	セールス・ミックス（Sales Mix）	複数の製品がある場合、利益最大化のためには、どのようなセールス・ミックスをするのかについて学習する。	演習問題
14	事業部組織における業績評価	事業部制組織の業績評価にはどのような経営指標を用いればいいのか、また、その業績評価結果は事業部長のボーナスなどにどのようにリンクさせるべきであるかについてケースをもって学習する。	事例研究
15	まとめ	まとめと質疑応答	

関連科目	会計学入門・簿記原理Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	演習・レポート 80%、プレゼンテーション・ディスカッション 20%
学生への メッセージ	授業中は計算演習を行う場合があるため、電卓を持参すること
担当者の 研究室等	１号館７階　朴教授室　（経済学部）
備考	

科目名	公共政策論	科目名（英文）	Public Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方　佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2029a0		

授業概要・目的	現実の経済において完全競争市場が成り立たない場合があります。授業ではその原因、それに伴う弊害を解決するための政府の役割と政府の具体的な財政支出、税金等の政策がどのように決定され住民の厚生に影響を与えるかを勉強していきます。
到達目標	市場では解決されない「公共財」「外部性」「所得格差」等の問題を理解し、政府の役割の意義と大切さを理解してもらう。
授業方法と留意点	10 回目に中間試験、15 回目に期末試験を行います。 それ以外の回については、Moodle に講義関係の資料を Upload しておきますので学習をお願いします。 連絡手段に Teams を使う可能性がありますので登録お願いいたします。
科目学習の効果（資格）	ミクロ経済学で学んだ完全でない競争市場が何故生じるのか、またそのときの政府の役割について詳しく学ぶことができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	政府の役割	財政における政府の役割について説明する。	講義ノートの復習（1 時間）
2	選挙と投票	選挙システムと投票制度について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
3	政党と政策	政党の行動や経済政策と政党との関連について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
4	外部性	市場がうまくいかない原因のひとつである外部性の問題について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
5	公共財	市場がうまくいかない原因のひとつである公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
6	政府支出の問題	政府支出のあり方や支出が拡大するメカニズムについて説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
7	税金 I	税金の転嫁と帰着、最適課税論について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
8	税金 II	所得税・消費税について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
9	公債	公債について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
10	中間試験		
11	再分配政策 I	違う世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
12	再分配政策 II	同じ世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
13	地方分権化	地域経済の活性化のための政策について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
14	地域間再分配政策	国から地方への補助金（国庫支出金、地方交付税）について説明する。	講義ノートの復習と Moodle の課題（1 時間）
15	期末試験		

関連科目	ミクロ経済学 I・II、公共経済学、財政学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎コース：公共経済学	井堀利宏	新世社
2	地方財政論入門	佐藤主光	新世社
3			

評価方法（基準）	中間試験（30 点）、定期試験（70 点）で総合的に評価します。 私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。課題や中間試験において不正行為が確認された場合、0 点にいたします。またその不正行為が悪質な場合は定期試験の受験を認めません。
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
担当者の研究室等	１号館７階　名方准教授室（経済学部）
備考	

科目名	関西経済論	科目名（英文）	Local Economy in KANSAI
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2◎,DP3○,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2030a0		

授業概要・目的	大阪府を中心とした関西経済の諸特徴と問題点を理解する。 周辺の他府県（京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県）も含め、関西経済の優位点と課題を把握するとともに、今後の展望を考えることのできる素地をつくることを目的とする。 大阪・関西経済の産業構造、地域産業政策のありようなどを講義する。 関西経済のイノベーションの実態や産業支援のあり方を論じることとする。
到達目標	①関西経済の特徴を理解すること。 ②関西の産業に着目して、今後の展開を展望できるようになること。
授業方法と留意点	講義形式により行う。 データを紹介しながら地域経済の状況を説明し、基礎用語の理解を深めることが出来るよう授業を進める。 環境変化により授業方法を修正する場合は、別途指示する。 必要に応じて Moodle を活用する。
科目学習の効果（資格）	関西経済の諸特徴を把握し、地域と自分のキャリアについて考える基礎を得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、日本のなかの関西経済	関西経済の現在の諸特徴を日本国内の他地域経済圏との比較などから理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
2	大阪府の産業①	大阪府の産業構造を理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
3	大阪府の産業②	大阪府の第二次産業、第三次産業を中心に各産業について理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
4	大阪府の主要企業	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
5	大阪府の主要企業の分析	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、基礎的な分析を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
6	大阪府の中小ベンチャー企業	大阪府の中小企業、ベンチャー企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
7	兵庫県の経済と産業	兵庫県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
8	奈良県の経済と産業	奈良県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
9	和歌山県の経済と産業	和歌山県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
10	滋賀県の経済と産業	滋賀県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
11	京都府の経済と産業	京都府の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
12	関西自治体の経済政策①	大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市の産業政策を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
13	関西自治体の経済政策②	京都府、京都市、奈良県、和歌山県、滋賀県の産業政策を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
14	国の経済政策と自治体の経済政策	地域経済の発展に関する国の政策と自治体の政策について理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
15	まとめ	グローバル化、少子高齢化の流れにおいて地域経済の在り方を考える。	講義中に示した課題を検討してください。

関連科目	日本経済史、日本経済論、日本産業史、地域産業論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テストとレポートにて評価を行う。 小テスト１回＝70 点、レポート 30 点、計 100 点
学生へのメッセージ	関西経済の今後の展開を創造するためには、正確な現状・課題認識が必要です。これらを養ってください。
担当者の研究室等	１号館７階　野長瀬教授室（経済学部）
備考	

科目名	地方自治論	科目名（英文）	Local Autonomy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2034a0		

授業概要・目的

・地方自治を学ぶに際して、国と地方は相互協力であって依存関係ではないという認識が重要である。
・住民自治と地方公共団体との関係を中心に考察するとともに中央集権と分権という視点から地方自治の現代的意義を考える。
・現状の組織や制度を講義するとともに地方自治法などの法との関連も講義したい。

・政令指定都市に勤務した実務経験を活かして、公務員業務全般を実践的視点から法律だけでなく、経済的視点で授業を行う。

到達目標

・地方自治の現状の制度を理解する。
・地方公共団体の組織及び地方公務員の役割を理解する。
・変化する社会状勢において、自ら判断し行動するための地方自治に関する知識・教養を修得する。
・地方公務員の仕事だけでなく地方自治の仕組みについて理解する。

授業方法と留意点

・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。
・地方自治の根拠となる地方自治制度について考察する。
・地方自治の地方とは地方公共団体の区域とは限らず、ある一定の地域を意味することもある。国の出先機関としての地方公共団体から、地方自治は、国からの関与によらず、そこに住む住民の意思に基づき運営することとなった変遷について理解を深める。
・2010 年に総務省が

科目学習の効果（資格）

・公務員試験の基本的考え方を修得する。
・地方自治体の職員を目指す場合の組織体系や歴史など基本的な知識を習得する。経済学における政府の役割、地方政府である地方自治体の役割を規定する基本法を中心に地方公務員の役割の理解を深める。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地方自治の意義と法体系	地方自治の意義と法体系について概論を講義する。	教科書または参考書の目次を読んで概略をつかんでおく。 第一章
2	わが国の地方自治制度の変遷	地方自治制度の変遷について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第二章
3	地方自治体の種類	地方公共団体の種類と性格について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第三章
4	地方公共団体の区域	地方公共団体の区域について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第四章
5	地方公共団体の住民と住民自治	住民と地方自治について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第五章
6	地方公共団体の事務	地方公共団体の事務について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第六章
7	地方公共団体の立法	地方公共団体の立法権について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第七章
8	地方公共団体の議会	地方議会の本質、組織、権限、運営について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第八章
9	地方公共団体の執行機関１	地方公共団体の内部組織である執行機関について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第一、二節
10	地方公共団体の執行機関２	地方公共団体の機関、長及び他の機関（議会と行政委員会）について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第三、四節
11	地方公共団体の財務１	地方公共団体の財務（収支関係項目）について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第一、二、三、四節
12	地方公共団体の財務２	地方公共団体の財務（資本的収支関係項目）について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第五、六、七節
13	地方公共団体と他の主体との関係１	地方公共団体と国との関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第一節
14	地方公共団体と他の主体との関係２	地方公共団体の相互の関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第二節
15	地方公共団体の課題と展望	これまでの講義を踏まえ、地方自治の意義、さらに道州制の現代的意義について考察する。	教科書及び参考書を読んでおく。

関連科目

「地方自治と法（法学部）」等の行政法関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地方自治制度　第七次改訂版	久世公堯	学陽書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

レポート内容及び定期試験(70%）及び、レポート提出等を受講態度（30%）として総合評価する。

学生へのメッセージ

・一般行政職だけでなく司書や議員などの地方公務員を目指す場合の基本的な制度や組織を理解するための講義である。
・経済学部学生・経営学部学生として地方行政事務の基本的な考え方への関心を持って頂きたい。
・国家及び地方公務員になるには、計画的な勉強が一定期間必要です。本講義で公務員についての知識を修得してほしい。

	・公務員の種類を含め制度理解に役立つ内容を説明する。
担当者の 研究室等	1号館7階　田井教授室(経済学部)
備考	

科目名	地域金融論	科目名（英文）	Regional Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2○,DP3○,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7○,DP8△,DP9○		
科目ナンバリング	WDW2032a0		

授業概要・目的	地域金融機関とは何か、地域経済と地域金融とのつながり、地域金融機関の現状における課題や問題点、地域経済を円滑に運営するために求められる役割は何かなど、地域金融機関に対しての認識を深め、ひいては地域経済に対するより広い視野と洞察を持てるようになることが目的です。
到達目標	地域金融機関が地域経済において果たすべき役割を十分理解し、それら知識を応用して、自分の係わる地域におけるアイデアを形成することができるようになること。
授業方法と留意点	原則的に講義形式をとります。
科目学習の効果（資格）	地域経済に対する、金融面からの理解を得ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション／地域金融論とは	地域金融に関する概論	----------
2	地域金融機関の制度的側面	地域金融を担う金融機関にはどのようなものがあるか、制度的な分類を行う。	授業の復習
3	地域金融機関のこれまで	地域金融機関の発展の経緯について概観すると同時に、地域金融機関のパフォーマンスについて説明を行う。	授業の復習
4	地域金融機関の抱える諸問題	現在、地域的、国内的、国際的に地域金融機関を取り巻く環境下で、どのような活動を行っているのかを理解する。	授業の復習
5	中小企業金融の役割・特徴	日本における中小企業金融の役割や特徴について概観する。	授業の復習
6	中小企業金融システムと銀行融資①	中小企業金融システムの外観と銀行融資に関する諸問題についての概略を説明する。	授業の復習
7	中小企業金融システムと銀行融資②	中小企業金融システムと銀行融資について、特に理論的側面に着目し、説明を行う。	授業の復習
8	まとめテスト・解説	テスト範囲は第２回から第７回まで	----------
9	リレーションシップ・バンキング①	リレーションシップ・バンキングとは何かを理解する。	授業の復習
10	リレーションシップ・バンキング②	リレーションシップ・バンキングは機能しているのか、強化されているのかを、事例に基づき検討する。	授業の復習
11	リレーションシップ・バンキング③	リレーションシップ・バンキングに関する様々な評価を比較検討し、現状の問題点等を認識する。	授業の復習
12	地域金融機関の新しい潮流①	国内的な問題を中心に、リレーションシップ・バンキングの可能性とその限界、地方銀行の合併の動向、地域活性化への取り組みなどを紹介する。	授業の復習
13	地域金融機関の新しい潮流②	第 12 回の続き、および地方銀行の海外展開の動向などを紹介する。	授業の復習
14	事業性評価	近年の地域金融モデルである事業性評価に関する解説を行い、リレバンとの相違点について検討する。	授業の復習
15	講義のまとめと今後の学習について	講義のまとめを行うとともに、今後地域金融機関に関する認識を深めるための学習方法の紹介を行う。	----------

関連科目	地域経済論　金融論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(60%)＋単元テスト(40%)で評価します。
学生へのメッセージ	気軽に質問に来てください。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　植杉教授室(経済学部)
備考	ゲスト講師を招待しての特別授業を数回実施する予定です（詳細未定)。

科目名	地方財政論	科目名（英文）	Local Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2031a0		

授業概要・目的	経済学の理論と結びつけながら、基礎的な財政の仕組みと考え方を理解する。国と地方の財政関係及び、地方財政の経費と税収の仕組みと考え方、地方財政の現状と課題等を理解する。 SDGs-10,11
到達目標	財政の機能、経費と税制、国と地方の財政関係などについて、基本的な理論と現状が理解できるようになる。 地方財政の課題が理解できるようになる。 国や地方自治体の歳入の多くを占める税制についても、基本的な理論や仕組みを理解できるようになる。
授業方法と留意点	テキストとレジュメを使って授業を行うが、適宜課題も出し、実際の地方財政を分析して発表してもらう。
科目学習の効果（資格）	地方の経済にとって、地方財政は大きなウェイトを占めている。地方政府の歳入と歳出を通して、地域の現状や課題を読み解くことができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	地方財政とは何か、何を学ぶのか説明する	復習
2	政府の役割と地方政府の役割 （１）パレート効率性	パレート効率性等の概念を使って、政府の役割や地方政府の役割を学ぶ	復習
3	政府の役割と地方政府の役割（２）公共財とパレート効率性、地方公共財	公共財の概念を使って政府や地方政府の役割を学ぶ	復習
4	政府の役割と地方政府の役割（３）政府の機能配分論	国と地方政府の役割分担について学ぶ	復習
5	地方財政の予算と収入（１）	地方予算の意義と課題、地方財政収入の構造と実態について学ぶ	復習
6	地方財政の予算と収入（２）	地方税の体系について学ぶ	復習
7	地方税と補助金の理論（１）	国と地方の財政関係について、地方交付税制度、地方譲与税、国庫支出金、地方債の仕組みを学ぶ	復習
8	地方税と補助金の理論（２）	補助金の役割について、理論的に学ぶ。特に補助金の経済効果等について学ぶ	復習
9	地方財政の経費（１）	地方経費の種類と構造について学ぶ	復習
10	地方財政の経費（２）	教育費や、少子高齢化に関連した経費について学ぶ	復習、レポート課題に取り組む（提出期限まで引き続き取り組む）
11	地方財政の経費（３）	公共投資の現状、国と地方の役割、公共投資と地域活性化等について学ぶ	復習
12	地方財政の健全化	地方財政の現状と、その健全化について学ぶ	復習
13	地方財政の歴史	地方自治の歴史や三位一体の改革について学ぶ	復習
14	地方財政の現状分析	学生による地方財政分析の発表を行う	復習
15	まとめ	まとめを行う	

関連科目	財政学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい地方財政論	中井英雄ほか著	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財政のしくみがわかる本	神野直彦	岩波ジュニア新書
2			
3			

評価方法（基準）	中間レポート（40%）、期末試験（60%）で評価する.。
学生へのメッセージ	地方財政は、地域経済の大きな割合を占めています。地方財政を通して、地方の現状や課題をしっかり理解しましょう。地方財政は地域の健康診断ともいえます。地方財政を見ると地域の経済力も分かります。そのため、地域活性化の政策立案等にも、地方財政の知識は不可欠です。
担当者の研究室等	1号館7階　後藤教授室
備考	授業内容は、学生の理解度に応じて変更することがある

科目名	日本産業史	科目名（英文）	Japanese Industrial History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2○,DP3○,DP4△,DP5○,DP6△,DP7△,DP8○,DP9○		
科目ナンバリング	WDW3036a0		

授業概要・目的	日本の産業の発展の経緯、現状と今後の展望について理解する。 担当教員の実務経験を生かし、日本産業のイノベーションの実態を論じることとする。
到達目標	①日本産業の発展の経緯と現状を理解する。 ②日本産業の今後の展望について理解する。 ③日本産業のイノベーションにていて理解する。
授業方法と留意点	講義形式により行う。 事例、データを示しつつ、授業を進める。 環境変化により授業方法を修正する場合は、別途指示する。 必要に応じてMoodleを活用する。
科目学習の効果（資格）	①日本の産業の流れについて把握できる。 ②産業界の最近の動向について把握できる。 ②自らのキャリア形成を考える上での基礎が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、日本産業史の概観	日本の産業発展について概説する。基礎的なキーワードについても説明を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
2	産業発展モデルと日本の主要産業	産業発展モデル、日本における主要産業について概説する。長期間存在した企業群についても概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
3	繊維産業史	繊維産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
4	化学産業史	化学産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
5	造船産業史	造船産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。航空産業についても論じる。	講義中に示した課題を検討してください。
6	電機産業史	電機産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
7	機械産業史	機械産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
8	自動車産業史①	自動車産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
9	自動車産業史②	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
10	自動車産業史③	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
11	第三次産業とサービスイノベーション①	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
12	第三次産業とサービスイノベーション②	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
13	第三次産業とサービスイノベーション③	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
14	ベンチャー企業と技術イノベーション	次世代の経済を担うベンチャー企業の成長と技術イノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
15	まとめ	日本の産業発展の過程を踏まえたうえで、今後の日本の産業を展望する。	講義中に示した課題を検討してください。

関連科目：日本経済史、日本経済論、関西経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テストとレポートにて評価を行う。 小テスト＝70点、レポート30点、計100点
学生へのメッセージ	日本の産業史を踏まえて、今後の産業発展の方向性を検討してください。 ノートをしっかりとり、復習を行ってください。日本経済史と併せて学ぶことで経済の歴史的俯瞰がより可能となりますので履修時に留意してください。

担当者の 研究室等	1号館7階
備考	

科目名	地域保健医療	科目名（英文）	Regional Health Service
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1〇,DP2◎,DP3◎,DP4〇,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8〇,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3035a0		

授業概要・目的	・地方自治体を中心に保健・医療・福祉は相互に連携し計画を策定しながら住民サービスの向上に努めている。 ・緊急性の視点から医療が優先され医療計画が、昭和 60 年 12 月の第 1 次医療法改正により制度化され、救急医療や感染症医療等への対応を明確化するため国、都道府県あるいは、市町村に対応すべき医療圏が割り当てられている。 ・これら地域医療に関する最新の取り組みおよび現状の課題等について説明する。 ・地域経済を支える地域医療について、課題認識と自ら考える姿勢を喚起することを目的とする。 ・高度医療機関である市民病院に勤務した実務経験を活かして大阪府下全ての病院運営の指針となる大阪府医療計画及び医療構想について実践的教育を行う。 ・SDGs3「すべての人に健康と福祉を」
到達目標	・地域医療を理解するため、その基礎となる保健医療計画について大阪府を例にして理解する。 ・少子高齢化社会において、自ら判断し行動するための地域での保健医療に関する知識・教養を修得する。 ・地域の医療資源の配分を管理する都道府県業務について大阪府の事例を用いて説明し、他の都道府県の地域医療に関する理解促進を図る。 ・少子高齢化社会における地域医療整備の重要性を理解する。
授業方法と留意点	授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所等でも履修することができる。下記内容を講義する。 ・保健・福祉・医療における総合的なサービス提供の根幹となる保健と医療の連携の必要性と意義について考察する。 ・大阪府保健医療計画に基づき、その必要性と意義について講義する。 ・さらに後半では現状の地域医療が直面する課題について考察する。 ・2018 年度に改訂された大阪府医療計画と大阪府
科目学習の効果（資格）	・広域行政の視点も含め、地域経済を支える保健医療がどのように計画・実施されているかについて現状を把握するとともに今後の課題について考察する。 ・医療事務資格を取得する場合の病院機能の分類（一般病院、地域医療支援病院、特定機能病院等）を理解し、地域医療での病院の役割を理解する。 ・他学部学生（薬学部、法学部）とのワークショップでの議論により地域保健医療の多面的な視点での「気づき」を就学する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	大阪府保健医療計画について	医療計画策定の意義とその必要性および運用方針について講義する。	大阪府医療計画について 第１章
2	保健医療提供体制の基本的な状況	大阪府における保健医療の提供体制の現状についてデータから考察する。	大阪府医療計画 第２章
3	保健医療従事者の確保と資質の向上	医療へのニーズの拡大に伴いこれを支える医療従事者の確保と資質の向上が必要となる。専門職種別に、その現状と取り組みについて講義する。	大阪府医療計画 第８章
4	医療圏及び基準病床数	保健医療サービスを効率的に提供するにふさわしい地理的広がりとしての医療圏の設定とその範囲内での病床数の設定について考察する。	大阪府医療計画 第３章
5	大阪府における保健医療体制	大阪府下の医療体制の情報提供方法と病院の機能分担および連携について講義する。	大阪府医療計画 第４章　地域医療構想
6	主要な事業ごとの保健医療体制（4 疾病）	平成 18 年の改正医療法に基づく医療における 4 疾病 5 事業のうち 4 疾病への現状と医療体制について講義する。	大阪府医療計画 第６章
7	主要な事業ごとの保健医療体制（5 事業）	平成 18 年の改正医療法に基づく医療における 4 疾病 5 事業のうち 5 事業への現状と医療体制について講義する。	大阪府医療計画 第６章
8	在宅医療の推進とその他の対策	4 疾病 5 事業以外の重要な保健医療について講義する。	大阪府医療計画 第５章
9	保健医療提供体制と保健医療計画の評価および見直し	現状の保健医療提供体制の充実と評価および見直しについて講義する。	大阪府医療計画 第９章　２次医療圏
10	保健・医療・福祉の総合的な取組	保健、医療、福祉は相互に連携することにより安心安全なまちづくりに貢献することが可能となる。その取り組みとして、それぞれの計画について講義する。	大阪府医療計画 第７章その他の医療体制
11	健康危機管理体制の構築	地域防災計画と保健医療計画との関連について講義する。	大阪府医療計画 全体で対応
12	これまでのまとめ	大阪府医療計画の意義と今後について、まとめ及び習熟度について考察する。	中間レポート
13	【薬学部、法学部学生とのワークショップ】	多様なＩメディア、特に ICT ツールを利活用する。3 学部学生によるグループ議論を行う。	Teams、Moodle 等による配布資料による課題。
14	同上	同上	同上
15	同上	同上	同上

関連科目	地域医療、地域経済関係科目 メディカルツーリズム等を検討するにあたり観光関係科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大阪府医療計画と医療構想（2018 年度～2023 年度）	大阪府のホームページから取得	
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>まちの病院がなくなる！？地域医療の崩壊と再生</td><td>伊関友伸</td><td>時事通信社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・レポート内容及び定期試験(70%）及び、レポート提出等を受講態度（30%）として総合評価する。
・薬学部、法学部学生とのワークショップを実施する。場合によってはTeams等のICTツールを活用する。ワークショップでの課題に対するレポートを試験に該当する。従ってワークショップ参加を必須とし、ワークショップでのレポート提出された結果をもってレポート平均点算定を行う。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・薬学部、法学部の学生とのワークショップを行う。このワークショップに参加することによって、１３，１４，１５回目の受講に該当する。ワークショップに使用する教材はTeams等で配布する。

・実際の保健医療に関する行政施策についての基礎知識の修得を目指す。さらに今日、地域経済を支える地域医療が直面している課題について考察する。随時、新型コロナウイルス関連の対策等について講義に加える。
・医薬分業体制の課題や院内、院外での薬剤師の業務の課題及び薬価や診療報酬等の経済的課題について関心を持って欲しい。治験、</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　田井教授室（経済学部）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>・地域医療の制度、仕組みについて知る必要性を修得してほしい。
・医療は、事故や病気の際だけでなく安心・安全な経済活動や地域経済をを支える仕組みであることの気づきを期待する。
・現下の新型コロナ禍における内容について講義に追加する。</td></tr>
</table>

科目名	中小企業論	科目名（英文）	Small and Medium-sized Enterprises
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1〇,DP2◎,DP3〇,DP4〇,DP5◎,DP6〇,DP7△,DP8〇,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3037a0		

授業概要・目的	現代日本の中小企業が抱えている諸問題・課題を学び、これからの中小企業のあり方、事業発展の可能性・展望を考えていく。 ベンチャー企業、地域経済、関連諸政策についても理解する。 中小企業のイノベーションの実態や中小企業支援のあり方についても論じることとする。 必要に応じて moodle を用いる。
到達目標	①日本経済・社会のなかで果たしている中小企業の役割を理解すること。 ②中小企業の可能性と諸課題を理解すること。 ③中小ベンチャー企業の実情について理解すること。
授業方法と留意点	講義形式により実施する。 必要に応じて、演習を行う。 小テストの際は授業時間中に実施するので授業開始時刻に遅れないこと。 必要に応じて Moodle を活用する。
科目学習の効果（資格）	中小企業経営、ベンチャー企業経営、関連諸政策について理解することができる。 キャリア形成の基礎とすることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中小企業概論	中小企業の定義、基礎的キーワードについて概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
2	中小企業政策①	高度成長期の中小企業政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
3	中小企業政策②	新しい中小企業政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
4	下請中小企業	下請中小企業の存在、その生き残り戦略について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
5	ベンチャー企業	ベンチャー企業の概念、海外の諸状況について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
6	ベンチャー企業政策	新規開業状況について述べ、ベンチャー企業を創出、育成していく政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
7	ベンチャー企業事例①	新規創業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
8	ベンチャー企業事例②	新規創業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
9	産業集積と中小ベンチャー企業	産業集積における中小ベンチャー企業の重要性について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
10	産業クラスター政策	国内外の産業クラスター、我が国の産業クラスター政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
11	新事業創造とビジネスプラン	新事業創造の際にはビジネスプランが不可欠である。そのフレームワークについて概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
12	新事業創造とファイナンス	中小ベンチャー企業による新事業創造とファイナンス、金融機関の支援、について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
13	新事業創造事例①	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
14	新事業創造事例②	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
15	総括と展望	これまでの講義内容を整理し、まとめを行う。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。

関連科目	日本産業史、関西経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト×１＝計 70%、レポート×１＝計 30%、合計 100%
学生へのメッセージ	具体的な中小ベンチャー企業の事例を多数紹介していきますので、興味を持ってください。
担当者の研究室等	１号館７階
備考	

科目名	文化政策論	科目名（英文）	Cultural Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3033a0		

授業概要・目的	経済や観光において文化の重要性が増している。それに伴い、文化政策の範囲も、文化財保護や芸術振興ばかりでなく、国際貿易や文化産業、知的財産権、都市政策等を含むものへと変化した。この授業では、文化政策の経済的側面に焦点を当てて学習する。 他の授業では取り上げないインターネット企業のビジネスモデル等についても、その経済理論を学ぶ。 SDGs-3,8
到達目標	地域振興、観光、国際貿易における文化の役割を理解できるようになる。文化政策の経済学的側面を理解できるようになる。
授業方法と留意点	文化政策の基礎理論を学ぶとともに、日本や世界の事例を紹介しながら、文化政策の多様な役割について考える。
科目学習の効果（資格）	魅力的なまちづくりや、観光振興について考えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	この授業の目的と進め方について説明する	学生自身の学習目標を立てる
2	変化する文化政策	文化政策の歴史と変容について講義する	復習
3	文化政策の経済学	文化政策の経済学について学ぶ	復習
4	美術館・博物館	レポート課題と関連する企業ミュージアムについて学ぶ	復習、レポート課題に取り組む（提出日まで引き続き取り組む）
5	文化活動への参加	文化活動への参加を決定する要因は何か、どうやって分析するのか学ぶ	復習
6	文化への公的支援の理論（１）	政府はなぜ文化を支援するのか、文化政策と産業政策の両面から学ぶ	復習
7	文化への公的支援の理論（２）	文化への税制インセンティブについて学ぶ	復習
8	日本の文化政策（１）	日本の文化政策の歴史と特徴を学ぶ	復習
9	日本の文化政策（２）	文化遺産政策について学ぶ	復習
10	舞台芸術とアートマネジメント	舞台芸術団体の経営やアートマネジメントについて学ぶ	復習
11	クリエイティブ産業	クリエイティブ産業の理論と現状を学ぶ	復習
12	著作権の経済学	著作権の歴史や経済的機能を学ぶ	復習
13	文化と観光、文化と地域経済	文化を活用した観光や地域活性化について学ぶ	復習
14	グローバル化と文化経済	文化的財やサービスの国際貿易について学ぶ	復習
15	まとめ	全体のまとめを行う	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	文化経済学―理論と実際を学ぶ	後藤和子・勝浦正樹編著	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間レポート（40%）と期末試験（60%）で評価する
学生へのメッセージ	新しい領域です。新しい現象に興味を持ち、文化に関わる経済について深く、広く学びましょう。
担当者の研究室等	後藤教授室（1号館7階）
備考	学生の理解度に応じて、シラバスの内容を変更することもあり得る。

科目名	観光経済論	科目名（英文）	Tourism Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7○,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2039a0		

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています（コロナ禍以前）。そのため、日本経済、地域経済において観光産業の経済効果が大いに期待されています。しかし、観光経済は近年になって急成長してきたので、経済学において観光をどのようにとらえるか理解が不足しています。この授業では経済学における観光経済の位置づけと関連分野の地域経済学における観光のとらえ方を説明していきます。
到達目標	経済における観光経済の特徴を理解し、客観的なデータで世界と日本における観光経済の役割を理解することを目標とします。履修者はこの授業を受けることで、近年急成長している日本の外国人観光の実態、日本経済における観光の役割、観光による地域経済活性化についてデータを用いた実際的な知識と理解を深めることができます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義内で中間レポートを課しますが、授業内でレポート作成方法について詳しく説明します。
科目学習の効果（資格）	日本と世界の観光産業の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。特に現在の日本経済における観光の役割についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	現代における観光経済の意味	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
2	近年の国際観光の発展(1)	世界における国際観光の発展	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
3	近年の国際観光の発展(2)	日本における国際観光の発展	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
4	地域経済と観光(1)	地域統計の基礎	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
5	地域経済と観光(2)	都市化の進展	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
6	地域経済と観光(3)	地域間人口移動	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
7	地域経済と観光(4)	人口の都心回帰	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
8	産業と観光(1)	産業構造の変化	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
9	産業と観光(2)	産業分類と観光	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
10	産業と観光(3)	観光産業の特殊性	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
11	観光統計(1)	観光統計 TSA の仕組み(1)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
12	観光統計(2)	観光統計 TSA の仕組み(2)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。

	13	観光統計(3)	SNA と観光(1)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2 時間)。
	14	観光統計(4)	SNA と観光(2)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2 時間)。
	15	まとめ	ここまでの授業のまとめ	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2 時間)。

関連科目	観光経済論　観光産業政策論　観光資源論　レジャー産業論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業内で課す中間レポートを 50 点、期末試験を 50 点として合計して総合評価します。授業回数 15 回中、8 回以上の出席がなければ成績評価しません。ただし、オンライン授業になった時はその時に基準を指示します。
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。
担当者の 研究室等	１号館７階　朝田准教授室（経済学部）
備考	

科目名	観光マーケティング論	科目名（英文）	Tourism Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2◎,DP3○,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7○,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2041a0		

授業概要・目的	観光におけるマーケティングは主に生産と消費が同時進行する「サービス」を商品とするゆえ、物財のマーケティングとは異なるアプローチが必要である。本授業では観光業のマーケティングの本質と特殊性をさまざまなマーケティング事例に触れながら理解することを目的とします。 また、授業担当者は観光事業会社のマーケティング部門で勤務した経験から観光事業におけるマーケティングに関する実践的な教育を行います。
到達目標	マーケティングの基礎理論を習得し観光分野での応用事例が理解できる。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果（資格）	観光業におけるマーケティングの基礎的な知識の習得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション マーケティングとは何か	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明、プレテストの実施 マーケティングの基礎的な概念を理解する。	
2	商品とマーケティング①	売れる商品の特徴を理解する。	事後：配布資料の復習
3	商品とマーケティング②	売れる商品の特徴を理解する。	事前：配布資料の予習 課題作成
4	価格とマーケティング①	価格設定の考え方を理解する。	事後：配布資料の復習
5	価格とマーケティング②	価格設定の考え方を理解する。	事前：配布資料の予習 課題作成
6	流通チャネルとマーケティング①	流通チャネルの役割について理解する。	事後：配布資料の復習
7	流通チャネルとマーケティング②	流通チャネルの役割について理解する。	事前：配布資料の予習 課題作成
8	プロモーションとマーケティング①	プロモーションの役割について理解する。	事後：配布資料の復習、
9	プロモーションとマーケティング②	プロモーションの役割について理解する。	事前：配布資料の予習 課題作成
10	観光とマーケティングの特徴①	観光マーケティングの主体と対象を考える。	事後：配布資料の復習
11	観光のマーケティングの特徴②	観光におけるマーケティングの特殊性を考える。	事後：配布資料の復習、 課題作成
12	観光マーケティングの戦略①	観光地のマーケティングを考える	事後：配布資料の復習
13	観光マーケティングの戦略②	観光地のマーケティングを考える	事後：配布資料の復習
14	観光マーケティングの戦略③	観光産業のマーケティングを考える	事前：配布資料の予習
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする	

関連科目	観光学入門、レジャー産業論、宿泊産業論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題等提出物の提出状況とその内容（５０％）、定期テスト（５０％）の割合で評価する。
学生へのメッセージ	観光の分野でも日々「顧客と市場の創造」が行われています。普段から経済関連のニュースを意識していると観光マーケティングも理解しやすいと思います。
担当者の研究室等	１号館７階　持永教授室（経済学部）
備考	

科目名	観光人材論	科目名（英文）	Human Resources Management for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2○,DP3△,DP4○,DP5◎,DP6△,DP7○,DP8△,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2040a0		

授業概要・目的	観光業を支える重要な要素は人材である。この授業では観光業に雇用されるという「働き方」の基本的な特徴と、それを規定する仕組みについての知識を深めることを通して、観光における人材活用の意義と重要性を理解することを目的とします。 また、授業担当者は観光事業会社の人事部門で採用・人事企画・部門長等を務めた経験から観光事業における人材管理に関する実践的な教育を行います。
到達目標	企業における人材管理の仕組みと観光産業における人材管理の特徴について理解できる。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果（資格）	観光における人材管理の特徴と重要性の理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明	
2	人材とは何か	「人材」の意味と「人材」のありかたを考える。	事後：配布資料の復習
3	観光の意義と仕事	何故観光があるのか、そこにはどんな仕事があるのかを理解する。	事後：配布資料の復習
4	観光産業における人材管理	観光業の多様性とそこでの人材の要件について理解する。	事後：配布資料の復習
5	人材管理の仕組みⅠ	人材を生かす仕組みの重要性と取り巻く環境について講義する。	事前：配布資料の予習 課題作成
6	人材管理の仕組みⅡ	企業の人材区分や格付けの仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
7	人材管理の仕組みⅢ	人事評価の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復讐
8	人材管理の仕組みⅣ	賃金管理の仕組みについて講義する。	事前：配布資料の予習 課題作成
9	人材管理の仕組みⅤ	採用管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
10	人材管理の仕組みⅥ	配置・異動等の雇用管理の仕組みについて講義する。	事前：配布資料の予習 課題作成
11	人材管理の仕組みⅦ	労働時間管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
12	人材管理の仕組みⅧ	教育訓練・労使関係管理等の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
13	「サービス」と観光人材	観光業の主な商品「サービス」について理解する。	事後：配布資料の復習
14	「ホスピタリティ」と観光人材	観光人材に求められる「ホスピタリティ」とは何かを理解する。	事前:配布資料の予習 課題作成
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事前：配布資料の予習 課題作成

関連科目	観光学入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作成課題の提出状況と内容（５０%）、定期試験（５０%）の配分で評価する。
学生へのメッセージ	経済が成熟するにつれ、サービスを担う人材の重要性が高まります。特にサービスの比重の高い観光業での人材のあり方について一緒に考えましょう。
担当者の研究室等	１号館７階　持永教授室（経済学部）
備考	

科目名	観光産業政策論	科目名（英文）	Policies for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7○,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2042a0		

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています（コロナ禍以前）。そのため、日本経済、地域経済において観光産業の経済効果が大いに期待されていますが、観光産業はさまざまな産業にまたがる大きな分野であるため､その正確な把握は容易ではありません｡この講義では経済学における産業理論において観光産業をどのようにとらえるかを説明し、さまざまなデータで観光産業を客観的に眺め、経済における観光の役割について理解を深めます。
到達目標	経済における観光産業の特徴を正確に理解し、客観的なデータで世界と日本における観光産業、観光経済の役割を理解することを目標とします。履修者はこの授業を受けることで、近年急成長している日本の外国人観光の実態、日本経済における観光の役割、観光による地域経済活性化についてデータを用いた実際的な知識と理解を深めることができます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義内で中間レポートを課しますが、授業内でレポート作成方法について詳しく説明します。
科目学習の効果（資格）	日本と世界の観光産業の状況について客観的なデータで説明することができるようになります｡特に現在の日本経済における観光の役割についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	観光政策の意味	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
2	近年の観光経済の動向(1)	日本経済と観光経済	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
3	近年の観光経済の動向(2)	国内観光の近年の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
4	近年の観光経済の動向(3)	国際観光の近年の動向	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
5	国際観光と地域経済(1)	外国人旅行者の地域分布(1)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
6	国際観光と地域経済(2)	外国人旅行者の地域分布(2)	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
7	日本の観光政策(1)	観光政策のはじまり	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
8	日本の観光政策(2)	観光庁と観光統計	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
9	自治体の観光政策(1)	地域経済における観光	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
10	自治体の観光政策(2)	自治体の観光振興	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
11	観光まちづくり(1)	まちづくりとは何か	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
12	観光まちづくり(2)	観光経済とまちづくり	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。

	13	ツーリズム(1)	ツーリズムの定義	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
	14	ツーリズム(2)	さまざまなツーリズム	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。
	15	まとめ	ここまでの授業のまとめ	【事前学習】事前配布のレジュメを読み、わからない語句などがあれば調べておく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながらレジュメをもう一度読んで、内容理解を深める(2時間)。

関連科目	観光経済論　観光産業政策論　観光資源論　レジャー産業論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業内で課す中間レポート 50 点分と期末試験 50 点分を総合して評価します。授業回数 15 回中、8 回以上の出席がなければ成績評価しません。ただし、オンライン授業になった時はその時に基準を指示します。
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。
担当者の 研究室等	１号館７階　朝田准教授室（経済学部）
備考	

科目名	宿泊産業論	科目名（英文）	Lodging Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2○,DP3○,DP4◎,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3047a0		

授業概要・目的	観光産業の中核を構成する宿泊産業の今日的な動向と問題点を学ぶことを通して、観光立国日本における宿泊産業の経済的、社会的意義を理解する。 また、授業担当者は観光事業会社でホテル総支配人として勤務した経験から、宿泊施設経営に関する実践的な教育を行う。
到達目標	宿泊産業における経営システムを理解し、宿泊施設の基礎的な経営分析ができる。
授業方法と留意点	授業はホテルの事例を多用しながら、毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていく。
科目学習の効果（資格）	宿泊関連産業動向の理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義概要説明 宿泊とは何か	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 プレテストの実施	
2	宿泊産業とは何か	宿泊産業の産業領域について理解する。	事後：配布資料の復習
3	宿泊産業の歴史Ⅰ（海外①）	海外（欧州、米国）における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
4	宿泊産業の歴史Ⅰ（海外②）	海外（欧州、米国）における宿泊産業の発展を振り返る。	事前：配布資料の予習 課題作成
5	宿泊産業の歴史Ⅱ（日本①）	日本における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
6	宿泊産業の歴史Ⅱ（日本②）	日本における宿泊産業の発展を振り返る。	事前：配布資料の予習 課題作成
7	観光と宿泊産業	観光における宿泊産業の位置づけと重要性について考える。	事後：配布資料の復習
8	法律と宿泊産業Ⅰ	旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。	事後：配布資料の復習
9	法律と宿泊産業Ⅱ	旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。	事前：配布資料の予習 課題作成
10	宿泊産業の運営管理Ⅰ	国内外における宿泊施設の分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習
11	宿泊産業の運営管理Ⅱ	主にホテルを事例に宿泊産業の運営形態について学ぶ。	事後：配布資料の復習
12	宿泊産業の運営管理Ⅲ	主にホテルを事例に収益性指標について学ぶ。	事後：配布資料の復習
13	宿泊産業の経営分析Ⅰ	宿泊施設の損益分析についての理解と演習を行う。	事前：配布資料の予習、演習問題提出
14	宿泊産業の経営分析Ⅱ	宿泊施設の資本利益率についての理解と演習を行う。	事前：配布資料の予習、演習問題提出
15	宿泊産業の将来展望とまとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答。	事後：配布資料の復習

関連科目	観光学入門、観光マーケティング論、観光人材論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作成課題等提出物の提出状況とその内容（５０％）、定期テスト（５０％）により評価する。
学生へのメッセージ	宿泊産業は観光において重要な役割を果たすだけではなく、地域経済にも大きなインパクトを持ちます。地域経済専攻の方にも興味深いと思います。
担当者の研究室等	1号館7階　持永教授室（経済学部）
備考	

科目名	航空産業論	科目名（英文）	Airline Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3○,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3045a0		

授業概要・目的	航空産業の発展は航空会社の戦略によるものだけでなく、国家の政策や国内外の情勢に大きく影響されます。また、航空は観光にとって重要な要素であり、運賃や路線開設・撤退、便数計画などは観光客の動向に影響を及ぼします。この授業は国内大手航空会社で実務経験のある教員が担当し、具体例を交えながらわかりやすく説明することによって、航空産業の全体像を理解することを目的とします。
到達目標	航空産業の全体像を理解し、航空関連についての記事や文献の内容を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めます。
科目学習の効果（資格）	観光産業の主要産業である航空産業の全体像を理解します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 航空輸送の歴史	授業の概要と進め方および航空輸送の歴史について講義を行う	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
2	国際航空輸送の制度的枠組み	航空航空輸送にかかわる規範および枠組みについて講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
3	国際航空における規制緩和の流れ	アメリカ、ヨーロッパ、日本での航空政策の変遷について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
4	LCC	台頭著しいLCCについて講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
5	航空会社間の連携(アライアンス)	航空会社間の連携について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
6	空港	日本の空港の現状と課題について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
7	航空安全	航空輸送の安全はどのように守られているのかについて講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
8	地球環境への取組み	航空会社の地球環境保全への取組みについて講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間） 課題レポート①
9	航空事業の構造	航空事業の特性・基本構造について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
10	レベニュー・マネジメント	国内線・国際線の運賃の特性と収益の最大化について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
11	CSとブランド戦略	航空会社が重視するCS戦略とブランド戦略について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
12	CRSとIT戦略	航空会社IT戦略とインターネットの影響について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
13	FFPとデータベースマーケティング	航空会社にとっての FFP の役割を講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）
14	航空貨物	物流を支える航空貨物輸送について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間） 課題レポート②
15	まとめと補足	授業のまとめと補足事項について講義する	配布資料の復習（1時間） 発展学習（1時間）

関連科目	観光学入門、観光ビジネス英語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポート提出（2回）　60%、期末試験　40%
学生へのメッセージ	コロナ禍で世界の航空産業は大きな打撃を受けていますが、変化の著しい航空産業について理解を深め、今後のあるべき姿を考えていきましょう。
担当者の研究室等	１号館７階　野村教授室（経済学部）
備考	

科目名	レジャー産業論	科目名（英文）	Leisure Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△,DP3△,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7△,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3046a0		

授業概要・目的	平均寿命の伸長に伴い、余暇活動の在り方が改めて問われています。この授業では日本人のレジャーの特徴を理解した上で、個別レジャー関連産業の動向を取り上げその意義と重要性を理解します。 また、授業担当者は観光事業会社でのレジャー施設運営管理の経験からレジャー産業に関する実践的な教育を行います。
到達目標	日本でのレジャー産業の特徴と役割が理解できている。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果（資格）	レジャー関連産業動向の理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 レジャーの定義を理解する。	
2	レジャーとは何か	レジャー活動にはどのようなものがあるか理解する。	課題作成 事後：配布資料の復習
3	レジャーの意義①	何故レジャー活動を行うのかを考える。	事後：配布資料の復習
4	レジャーの意義②	何故レジャー活動を行うのかを考える。	事後：配布資料の復習
5	レジャーの範囲と規模①	レジャー関連産業の領域を理解する。	事後：配布資料の復習
6	レジャーの範囲と規模②	日本におけるレジャー活動の経済的な規模を理解する。	事前：配布資料の予習 課題作成
7	わが国のレジャーの歴史①	日本人のレジャー活動の発展を振りかえる。	事後：配布資料の復習
8	わが国のレジャーの歴史②	日本人のレジャー活動の発展を振りかえる。	事後：配布資料の復習
9	わが国のレジャーの歴史③	日本人のレジャー活動の発展を振りかえる。	事前：配布資料の予習 課題作成
10	レジャー産業事例Ⅰ（スポーツ産業①）	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習、
11	レジャー産業事例Ⅰ（スポーツ産業②）	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
12	レジャー産業事例Ⅱ（健康産業①）	健康産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
13	レジャー産業事例Ⅱ（健康産業②）	健康産業の特徴と動向を理解する。	事前：配布資料の予習 課題作成
14	レジャー産業事例Ⅲ（外食産業）	外食産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	課題作成

関連科目	観光学入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作成課題の提出状況と内容（５０％）、定期テスト（５０％）の配分で評価する。
学生へのメッセージ	幅広い産業領域を扱うので、普段から余暇・レジャー関連ニュースに関心を持っておいてください。
担当者の研究室等	1号館7階　持永教授室（経済学部）
備考	

科目名	観光ビジネス英語	科目名（英文）	Business English for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2○,DP3○,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2044a0		

授業概要・目的	海外からの観光客増加に伴い、観光関連産業において英語の重要性が増してきました。英語でコミュニケーションができるということは能力要件の一部に過ぎませんが、外国人観光客に適切に対応するためサービスの現場では必須の要素となっています。この授業では、国内外の航空会社とホテルの接客部門で実務経験を持つ教員が担当し、観光に関連する様々な場面での英語に触れながら、実践的な英語と実務知識を身に着けることを目指します。
到達目標	観光関連産業および海外旅行で必要とされる実践的な英語表現を身に着けることを目的とします。各回に関連した実務知識も学びます。
授業方法と留意点	実際に使われているナチュラルな英語教材を中心に授業を進めます。また、各回に関連する実務知識について講義します。
科目学習の効果（資格）	観光産業や海外旅行の場面で実際に使われている英語表現が身に着きます。また、実務知識についても理解を深めることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション At the airport	授業の進め方について 空港にて	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間）
2	On the place	機内にて	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間）
3	Arrival	到着	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間） 小テスト①
4	Checking in at the hotel	ホテルにチェックイン	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間）
5	Getting information and sightseeing	情報を入手して観光する	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間）
6	Ordering fast food	ファストフードを注文する	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間） 小テスト②
7	Going to the theater	劇場に行く	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間）
8	At the restaurant	レストランにて	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間）
9	Shopping	買物をする	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間） 小テスト③
10	Lost and found	遺失物係にて	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間）
11	Using public transportation	公共交通機関を利用する	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間）
12	Renting a bike	自転車を借りる	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間） 小テスト④
13	Finding your way around	道を聞く	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間）
14	Medical care	診察を受ける	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間）
15	Leaving for home	帰途につく	教科書の該当部分の復習（1時間） 宿題（1時間） 小テスト⑤

関連科目	観光学入門、航空産業論、宿泊産業論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Enjoy Your Trip! English you need abroad	竹内真澄・中井延美・菅原千津	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（5回）　60%、期末試験 40%
学生へのメッセージ	授業は極力わかりやすく進めていきますが、実際の場面で使われている英語を学ぶことが目的であるため、文法をある程度理解していることが前提となります。英語は授業に出ているだけでは身につきません。授業で学んだことを必ず復習して、自分のものにしてください。
担当者の研究室等	1号館7階　野村教授室　（経済学部）
備考	

科目名	観光資源論	科目名（英文）	Resources for Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2◎,DP3○,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3043a0		

授業概要・目的	観光の対象や観光行動の目的となる観光資源に関して、経済学や文化人類学等を利用した学際的な視点から講義を行い、観光の対象となる資源を意識的に作り出していくことの重要性と、資源とされる側（地域の人々の生活、環境、文化など）への配慮を常に持つことの重要性を共に考えてもらうことを目的とする。
到達目標	観光資源となりうるものには様々なものがあることを理解する。また「観光する側」「観光を企画する側」だけでなく、「観光の対象とされる側」にも配慮した行動をとることができるようになる。
授業方法と留意点	毎回、具体的な事例を用いて授業を行う。受講者数によっては、発表してもらうこともあり得る。受講者の理解度に応じて、授業内容の変更もあり得る。
科目学習の効果（資格）	観光や地域に関係する業界、自治体などで業務を行う際に役立てることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、資源とは何か	なぜ観光における資源が問題になるのかを考える。	事後：授業の復習
2	自然	観光資源として自然を扱う場合の注意点、エコツーリズムの課題について考える。	事後：授業の復習
3	農業	グリーンツーリズムの問題点について考える。	事後：授業の復習
4	食べ物	特産品やＢ級グルメを利用した観光開発の課題を考える。	事後：授業の復習
5	伝統・歴史	エスニックツーリズムの問題点、地域の民俗芸能・伝統・歴史が観光化されることによって生じる課題について考える。	事後：授業の復習
6	世界遺産	世界遺産の概要について理解を深めるとともに、世界遺産に指定されることによる諸問題について考える。	事後：授業の復習
7	工業	近年注目を浴びている産業観光についての理解を深める。	事後：授業の復習
8	交通	本来は移動の手段である交通が観光資源となる例を知るとともに、交通を観光資源とする場合の課題を考える。	事後：授業の復習
9	スポーツ	スポーツをすることやスポーツイベントと観光との関係について認識する。	事後：授業の復習
10	芸術	アートツーリズムの効果と課題について考える。	事後：授業の復習
11	コンテンツ	コンテンツ（小説、映画、TV ドラマ、アニメ等）の舞台を巡る観光の現状について認識を深めるとともに、抱える課題について考える。	事後：授業の復習
12	文化観光	文化庁の文化観光戦略等について学習する。	事後：授業の復習
13	医療	メディカルツーリズムの課題を理解する。	事後：授業の復習
14	教育・学習	修学旅行や留学と観光との関係を考える。	事後：授業の復習
15	期末レポート	授業中に課題を出し期末レポートを作成する	

関連科目	観光経済論、観光産業政策論、文化政策論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	文化経済学	後藤和子・勝浦正樹編著	有斐閣
2	ローカルコンテンツと地域再生	増淵敏之著	水曜社
3			

評価方法（基準）	中間レポート 40%、期末レポート 60%で評価する。
学生へのメッセージ	観光について批判的に見る視点も身に付けた上で「どのような観光のあり方が望ましいのか」を考えてください。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　後藤教授室（経済学部）
備考	授業後の復習および期末レポート作成などの授業外の学修時間を授業合計で 20～30 時間程度行うことが望ましい。

科目名	貿易論	科目名（英文）	International Trade
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2049a0		

授業概要・目的	国際貿易に関する様々な理論とそれに関する現実に生じている問題について学ぶ。
到達目標	貿易理論の基礎を理解し、現実の国際貿易を分析できるようなること。
授業方法と留意点	講義形式で行う。必要に応じてゲームや映像を取り入れる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義内容、学習方法について	講義の復習
2	世界経済の概観	世界経済の概観	講義の復習
3	労働生産性と比較優位（1）	貿易の利益 リカードモデル 比較優位	講義の復習
4	労働生産性と比較優位（2）	リカードモデルの拡張 リカードモデルの実証分析	講義の復習
5	生産要素と所得分配	特定要素モデル 所得分配と貿易 国際労働移動	講義の復習
6	生産要素と貿易（1）	ヘクシャー・オリーンモデル レオンチェフパラドックス	講義の復習
7	生産要素と貿易（2）	リプチンスキーの定理 ストルパー＝サミュエルソンの定理 要素価格均等化定理	講義の復習
8	標準的な貿易モデル	標準的な貿易モデル 関税と輸出補助金 国際的な貸借	講義の復習
9	規模の外部経済と生産ロケーション	規模の経済 貿易と経済地理	講義の復習
10	グローバル経済の中の企業	不完全競争の理論 独占的競争と貿易	講義の復習
11	国際貿易政策	関税政策の費用便益 補助金政策 輸入数量制限政策	講義の復習
12	貿易政策の政治経済学	最適関税論 所得分配と貿易政策 国際交渉と貿易政策	講義の復習
13	発展途上国の貿易政策	輸入代替政策 幼稚産業保護論とその問題 貿易と経済成長	講義の復習
14	貿易政策に関する新たな問題	ハイテク産業 途上国とグローバリゼーション 貿易と環境	講義の復習
15	まとめ	講義のまとめ	講義の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際経済学理論と政策　上貿易編	P.R.クルーグマン	丸善出版
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト４０％期末試験６０％で評価を行う。
学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。
担当者の研究室等	1号館7階　田中研究室
備考	

科目名	国際投資論	科目名（英文）	International Investment
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	羅　鵬飛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2050a0		

授業概要・目的	本講義は，国際投資にかかる入門的な投資学，国際金融論および証券投資を学ぶ。
到達目標	入門的な収益率計算方法，為替レート決定理論，クロースボーダー資金フローや投資手段などの視点から経済の動きを把握できるようにする。 また，リーマンショックや最近のコロナショックを例として，グローバル経済環境がグローバル投資への影響要因を理解する。
授業方法と留意点	講義方法： 後期金曜日３限、大学の方針に従って実施する。 毎回の講義資料を teams と Moodle で配布する。(MOODLE のコースに自己登録してください、コース名：国際投資論 2022) ミニテスト受験および期末レポート提出：MOODLE
科目学習の効果（資格）	国際金融や国際投資に関する記事やニュースを理解し，それに関して自分自身の意見を述べることができるようにする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	国際投資とは何か	講義資料
2	投資とリターン	単利・複利	講義資料
3	マクロ金融の基礎１：資金	資金循環 融資手段：直接金融と間接金融 金融機関	講義資料
4	マクロ金融の基礎２：貨幣	貨幣の機能 貨幣の需要・供給 貨幣供給量（金融政策）と資産価格	講義資料
5	株価と株式投資の収益率	株式の投資収益率 PER	講義資料
6	株式投資のテクニカル指標	ローソクグラフの読み方 移動平均・移動平均線・出来高	講義資料
7	海外株式市場	海外株式市場の現状及び重要な海外株式市場の指標 ニューヨーク・欧州・中国株式市場	講義資料
8	国際金融の基礎１:為替レートと外国為替市場	為替レートと外国為替市場 名目為替レート・実質為替レート	講義資料
9	国際金融の基礎２:国際通貨	国際通貨制度と為替相場の現状 国際通貨・基軸通貨	講義資料
10	国際金融の基礎３:短期為替決定理論	金利平価	講義資料
11	国際金融の基礎４:長期為替決定理論	購買力平価	講義資料
12	国際投資環境１	先進国の金融市場 金融危機 コロナショックの影響	講義資料
13	国際投資環境２	途上国金融市場の発展 金融危機 コロナショックの影響	講義資料
14	海外直接投資（FDI）	FDI に関する事情	講義資料
15	まとめ	まとめ	講義資料

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『はじめての金融理論』	吉田真理子，大野早苗	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『証券投資の基礎』	野村証券	丸善
2	『国際金融論入門』	佐々木百合	新世社
3			

評価方法（基準）	定期試験(70%)、レポート(30%)を総合的に判定する。 定期試験:MOODLE で授業内容に関するミニテストを 3-4 回行う(計算問題を含む) レポート:国際投資について(具体的には後半の講義で公開する)
学生へのメッセージ	積極的に予習・復習を行って、遠慮なく質問してください。
担当者の研究室等	１号館７階　経済学部　羅研究室
備考	

科目名	地域統合論	科目名（英文）	Regional Integration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2054a0		

授業概要・目的	世界各所で見られる地域経済統合の展開を，歴史的・制度的・理論的な観点から解説し、こうした展開が日本経済および世界経済にどのような影響を与えるかについて考える。とりわけ，地域統合で先行している欧州連合（EU）と東アジアにおける経済統合を比較することで，地域経済統合への理解を深める。 SDGs-1,8,9,10
到達目標	・自由貿易と保護貿易の考え方を比較してそれぞれの特徴を明らかにすることができる。 ・第２次世界大戦後における世界の貿易体制の変遷について説明することができる。 ・欧州経済統合の過程とその特徴について，歴史・制度・理論の観点から説明することができる。 ・東アジアにおける経済統合について，歴史・制度・理論の観点から説明することができる。 ・欧州と東アジアにおける経済統合について比較分析することができる。 ・現在進行している，または今後生じうる地域経済統合に関わる動きについて、批判的に評価することがで
授業方法と留意点	毎回配布する資料にもとづいて講義形式で授業を行う。授業時間の内外において，適宜課題を課すので，授業を聞くだけでなく積極的に課題に取り組んで理解を深めること。
科目学習の効果（資格）	授業を通して基本的な知識を身に付けることで，新聞などで報じられる経済統合に関するニュースを理解し、それを批判的に評価することができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	貿易の現状	日本および世界における貿易の現状について説明する	授業の復習
2	自由貿易と保護貿易	貿易の自由化と産業の保護をめぐって示される各々の論理を比較する	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
3	世界貿易体制の展開	第２次世界大戦後の展開を中心に，世界的な貿易体制の展開（とりわけ GATT から WTO への流れ）を整理する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
4	経済統合の効果と類型	経済統合の経済効果と様々な形態について解説する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
5	欧州連合（EU）（１）	EU 統合の歴史を説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
6	欧州連合（EU）（２）	EU の制度的側面，とりわけ主要機関と意思決定プロセスを説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
7	欧州連合（EU）（３）	EU における市場統合と共通政策の特徴について説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
8	欧州連合（EU）（４）	EU の通貨統合と金融システムを説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
9	欧州連合（EU）（５）	ユーロ危機と欧州統合の限界について説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
10	東アジアの経済発展	東アジアにおける経済発展と交易関係の展開にかんする特徴を説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
11	東アジアにおける事実上の経済統合（１）	日本企業の行動に焦点を当てつつ，海外直接投資（企業の海外進出）の拡大について説明する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
12	東アジアにおける事実上の経済統合（２）	東アジアにおけるグローバルな価値連鎖（GVC）の展開について解説する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
13	東アジアにおける制度的な経済統合：ASEAN	東アジアにおける制度的な統合の一例として，ASEAN の形成と現状について解説する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
14	経済統合の比較分析：ヨーロッパと東アジア	ヨーロッパにおける経済統合と東アジアにおける経済統合を比較検討する	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習，授業時間外の課題への取組み
15	まとめ	授業全体を振り返り，まとめを行った上で，今後日本が取るべき通商戦略を考察する	事後：授業の復習，期末試験への準備

関連科目	国際経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業時間内外の課題（７０%）、期末レポート（３０%）で総合的に評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので，速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。
学生へのメッセージ	地域経済統合の問題は，多くの要素が複雑に絡みあって生じています。それを理解するのは容易なことではありませんが，基本的な事項を１つずつ押さえながら授業を進めるつもりなので，辛抱強く取り組んでください。また話を聞くだけでは理解が進まないことがありますので，授業時間の内外で行う課題演習にも積極的に取り組むことをお勧めします。さらに日頃から，現在起こっている経済問題に関心をもつことも理解をすすめる助けになります。
担当者の	

研究室等	
備考	事前事後学習の総時間の目安は 60 時間です。課題への解答については，課題解答期間後に正答と解説が公開されます。また各回で授業への質問や感想を書いてもらいますが，それに対する回答は適宜行います。それらを使って学習をさらに深めてください。

科目名	国際協力論	科目名（英文）	International Co-operation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2◎,DP3△,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2052a0		

授業概要・目的	本講義では、まず国際協力の基本的な考え方や仕組み、開発途上国支援のアプローチの変化について説明する。そして、国際協力を実施する主要な手段としてのプロジェクトの立案・実施監理の方法や、テーマ毎の取組みについて、具体的な実例を交えながら解説する。更に国際協力の主体としての重要性が増しつつある民間企業や市民団体の役割など、国際協力の最新の動向についても触れることにより、受講生が国際協力をより身近に感じ、国際協力の在り方について考えられるようになることを目標とする。
到達目標	１．国際協力の基本的な考え方や仕組みについて理解する。 ２．国際協力プロジェクトの形成や評価の方法を理解する。 ３．国際協力の主要な取り組み、実施主体、最新の動向について理解し、今後の国際協力のあり方について考察するために必要な知識を得る。
授業方法と留意点	教科書の各章に沿って授業を進めていく中で、できるだけ具体的な国際協力の事例や国際協力の現場で経験したことを紹介する。 途上国に関連する新聞記事やニュースに関心を持つこと。 なお、教科書以外の参考資料は必要に応じて授業中に紹介する。
科目学習の効果（資格）	国際協力に関わる際に必要な基礎知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際協力とは	国際協力とは何か、国際協力の概念とその始まりについて解説する。	教科書の事前学習 小課題の提出
2	国際協力の基本的な仕組み①	日本の政府開発援助の仕組みについて解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
3	国際協力の基本的な仕組み②	日本以外の先進国や国際機関の援助について解説する。	日本以外の先進国や国際機関の援助に関する事前学習（情報収集） 小課題の提出
4	途上国支援のアプローチの変化	途上国支援が歴史的にどのように取り組まれてきたのか、持続的開発目標(SDGｓ)に至るまでの国際的潮流について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
5	国際協力プロジェクトとは	技術協力や資金協力といった国際協力を実施する主要な手段としてのプロジェクトについて、その形成や実施監理の方法について解説する。	国際協力プロジェクトに関する事前学習（情報収集） 小課題の提出
6	貧困削減への取組み	開発の最大の課題である貧困問題の状況と貧困削減政策について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
7	平和構築と復興支援	東西冷戦後に新たな課題として現れてきた平和構築・復興支援について、概況と日本の取組みを解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
8	持続可能な開発への取組み（気候変動対策）	持続可能な社会に不可欠な環境保全について国際社会と日本の取組みを解説する。また、気候変動対策に関する国際的な動向を踏まえて、日本が行っている協力の特徴を解説する。	教科書該当部分の予習、気候変動問題に関する事前学習（情報収集） 小課題の提出
9	持続可能な開発への取組み（都市の環境改善）	産業開発や都市への人口集中に伴い発生する途上国の都市での環境問題とその要因について述べ、大気・水質汚染や廃棄物管理の問題を克服してきた日本の経験に基づく協力について解説する。	途上国の都市環境問題に関する事前学習（情報収集） 小課題の提出
10	持続可能な開発への取組み（自然環境保全）	途上国の自然環境破壊に関する問題とその要因について述べた上で、自然環境保全に関する協力協力について解説する。	途上国の自然環境問題に関する事前学習（情報収集） 小課題の提出
11	持続可能な開発への取組み（環境社会配慮）	開発事業による想定される環境・社会への負の影響を事前に回避・緩和する方策として、援助機関が行っている国際協力プロジェクトでの環境社会配慮の取り組みについて解説する。	途上国の大規模開発事業で懸念される負の影響に関する事前学習（情報収集） 小課題の提出
12	途上国のオーナーシップとガバナンス	開発行為の主体である途上国自身の責任とそれを支えるガバナンスについて、解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
13	国際資本還流の変化と民間資本時代の開発戦略	国際協力を資本の流れとして捉え、民間を含めたその役割について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
14	市民社会に期待される役割	国際協力の主要な主体である市民社会について、その取組みの現状と役割を解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
15	変容する国際開発規範と日本の国際協力	21 世紀を迎えて大きく変容してきた国際協力のあり方について解説し、本講義を総括する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出

関連科目	開発経済学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際協力（第３版）	下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子	有斐閣
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	期末レポート 50%、小課題 30%、授業への参加態度（挙手発言、ディスカッションへの参加状況など）20%の割合で総合的に評価する。
学生への メッセージ	本講義では、皆さんに国際協力に関心を持ってもらえるように、国際協力の仕組みなどの解説だけでなく、必要に応じて、国際協力の実務で得られた知見も紹介しながら講義を進めていきたいと考えています。また、授業に関連する国際時事問題の解説も加える予定ですので、新聞、ニュース等で取り上げられる世界各地の出来事に関心を持つようにしてください。
担当者の 研究室等	１号館７階　村瀬研究室
備考	

科目名	開発経済学	科目名（英文）	Development Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2051a0		

授業概要・目的	開発途上国の開発は複合的な課題であり、学際的な視点で検討され各分野の知見を活かして取り組まれている。本授業では、開発途上国の実態を理解し、経済学の視点を中心にしつつ幅広い観点から開発の問題を捉え、考察していくための知識を得ることを目的としている。
到達目標	途上国の開発について、現状と課題、基礎的な経済・開発理論、政策的な取組み等を理解し、説明できるようになる。
授業方法と留意点	基本的に教科書に沿って開発の課題、開発理論、課題への処方箋を紹介し、開発問題への取組みについて考察する。 授業計画は授業の進捗等に応じて一部変更する可能性がある。 新聞等に目を通し、世界経済や開発問題に関するニュース記事に関心を持つこと。
科目学習の効果（資格）	国際開発関係の仕事に従事する上での経済学的な基礎知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	開発経済学とは何かについて解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
2	貧困と不平等	途上国の貧困や不平等の問題をどのように捉えるかについて解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
3	貧困削減に向けた課題	途上国で貧困削減が難しい理由について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
4	経済発展と農業問題	途上国の農業問題に着目し、経済発展に必要な農業開発戦略について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
5	東アジアの経済発展	東アジア諸国の経済発展の経緯とその要因について解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
6	マクロ経済安定化、海外直接投資	途上国のマクロ不均衡と安定化政策、外国資本による海外投資と途上国の経済発展との関係について解説する。	参考書等を用いた事前学習（情報収集） 小課題の提出
7	経済統合、貿易	経済統合と産業立地、国際貿易と途上国の経済発展の関係について解説する。	参考書等を用いた事前学習（情報収集） 小課題の提出
8	人的資本・技術	経済発展のための重要な要素である人口や人的資本、技術について解説する。	参考書等を用いた事前学習（情報収集） 小課題の提出
9	制度	植民地支配による途上国の制度の形成と経済発展との関係について解説する。	参考書等を用いた事前学習（情報収集） 小課題の提出
10	農村金融	途上国の農業・農村の組織・制度と金融取引の特徴について解説する。	参考書等を用いた事前学習（情報収集） 小課題の提出
11	政府開発援助	政府開発援助が経済発展に及ぼす効果について解説する。	参考書等を用いた事前学習（情報収集） 小課題の提出
12	環境・障害	環境制約の下での開発、障害と開発のあり方について解説する。	参考書等を用いた事前学習（情報収集） 小課題の提出
13	途上国の経済開発戦略（１）	途上国がこれまで行ってきた経済開発戦略の中で適切でないものを取り上げて解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
14	途上国の経済開発戦略（２）	途上国が経済発展するために行うべき戦略の要点を解説する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出
15	持続的発展に向けて	本講義のまとめとして、途上国を含めた世界の持続的発展に向けて取り組むべき課題とその対策について考察する。	教科書該当部分の予習 小課題の提出

関連科目	国際協力論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なぜ貧しい国はなくならないのか（第２版）	大塚啓二郎	日本経済新聞出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開発経済学入門	戸堂康之	新世社
2	テキストブック開発経済学（第３版）	黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史	有斐閣
3			

評価方法（基準）	期末試験 50%、小課題 30%、授業への参加態度（挙手発言、ディスカッションへの参加状況など）20%の割合で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グローバル社会において、途上国の開発を考えることは、世界や私たち自身の課題を考えることにつながります。授業では関連する国際経済問題の解説も加えたいと思っていますので、新聞、ニュース等で取り上げられる時事問題に関心をもってください。
担当者の研究室等	１号館７階　村瀬研究室
備考	

科目名	国際金融論	科目名（英文）	International Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	羅　鵬飛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3056a0		

授業概要・目的	国際的な資本取引には為替取引が付随しており、為替レートの動向が対外投資の成果に明らかな影響を及ぼす。そこで、本講義では、国際金融の基礎的事項として、主に為替レートに関するトピックスを扱う。
到達目標	外国為替市場の現状や為替レートの決定要因についての理解を深めるとともに、為替レートに関わる現在の問題について、自ら考察できる知識を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	後期金曜日２限、大学の方針に従って講義を実施する。 講義資料配布、テスト受験とレポート提出は MOODLE で行う。
科目学習の効果（資格）	国際金融に関する記事やニュースを理解し、それに関して自分自身の意見を述べることができるようにする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義の紹介	授業の復習
2	国際収支の見方	国際収支の作成方法と見方を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
3	為替レートの定義、為替変動（円高・円安）が経済に与える影響	各種の為替レートの定義・計算方法を説明する。円高・円安が貿易収支におよぼす影響について説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
4	外国為替市場の構造、外国為替市場における取引の変遷	外国為替市場の仕組みを説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
5	国際通貨制度、国際通貨・基軸通貨	さまざま為替制度および基軸通貨の米ドルについて説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
6	円高・円安と貿易収支	円高・円安が貿易収支におよぼす影響について説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
7	世界の通貨制度	さまざまな世界の通貨制度を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
8	主要通貨の動向とその背景：円相場の推移	円相場の推移について説明する	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
9	主要通貨の動向とその背景：米ドルとユーロの行方	米ドルとユーロの相場の推移について説明する	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
10	長期為替決定理論:購買力平価	為替レートの決定理論の一つである購買力平価説を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
11	短期為替決定理論:金利平価	為替レートの決定理論の一つである金利平価説を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
12	為替レートの予想とニュース,日本円のリスク回避機能	為替レートの予想に関してニュースがどのような役割を果たすかを解説する。国際金融市場における円のリスク回避機能。低金利政策の下のキャリートレード。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
13	為替レートの予想とニュース,日本円のリスク回避機能	為替レートの予想に関してニュースがどのような役割を果たすかを解説する。国際金融市場における円のリスク回避機能。低金利政策の下のキャリートレード。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
14	為替介入	外国為替市場に政府が介入する意味と限界について解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
15	まとめと総括	まとめをし、質問があれば答える。	事前：教材全体の復習 事後：全体の講義を参考に繰り返し復習する。

関連科目	国際経済論，国際投資論，

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	徹底解説 国際金融	清水・大野・松原・川﨑	日本評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際金融のしくみ第４版	秦・本田・西村	有斐閣
2	国際金融論入門	佐々木百合	新世社
3			

評価方法（基準）	定期試験（50%）、期末レポート（50%） 定期試験：MOODLE で授業内容に関するミニテストを 3―4 回行う(履修人数と進行状況によって回数を調整する可能性ある。) 期末レポート：為替レートに関するテーマについてレポート作成(具体的なテーマは後半の講義で詳しく説明する)
学生へのメッセージ	予習・復習は積極的に行って、授業内容に分からないところを質問してください。
担当者の研究室等	1 号館 7 階（経済学部）
備考	

科目名	グローバルマーケティング	科目名（英文）	Giobal Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△,DP3○,DP4○,DP5○,DP6△,DP7○,DP8△,DP9○		
科目ナンバリング	WDW3057a0		

授業概要・目的	この講義では、国際マーケティングについて基本的知識と基礎的なフレームワークを修得することを目的としています。マーケティング初学者対象ということで、まずマーケティングの基本的概念を説明した後に、国際マーケティングについて説明します。
到達目標	国際マーケティングについて理解を深めることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	国際マーケティングの全体像を示します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
2	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング志向に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
3	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスの基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング・ミックスに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
4	市場細分化	市場細分化について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
5	競争戦略	企業の競争関係について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、競争戦略に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
6	マーケティングと国際化	国際的な市場展開について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、ママーケティングと国際化に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
7	グローバル・マーケティングリサーチ	国際的に展開する場合のマーケティングリサーチについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングリサーチに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
8	海外市場への参入方式	海外市場へ参入する場合の方式について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、海外市場への参入方式に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
9	国際マーケティングと製品政策	国際マーケティングと製品政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと製品政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
10	国際マーケティングと価格政策	国際マーケティングと価格政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと価格政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
11	国際マーケティングと広告政策	国際マーケティングと広告政策に関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティングと広告政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
12	国際的なサプライチェーン・マネジメント	国際的なサプライチェーン・マネジメントに関する基本的な知識を説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際的なサプライチェーンに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
13	グローバルな組織デザイン	グローバルな組織設計について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバルな組織デザインに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
14	国際マーケティングにおける調整	グローバルに展開する時の調整について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングの調整に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、国際マーケティング全般に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバル・マーケティング戦略	三浦俊彦、丸谷雄一郎、犬飼知徳	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動　新版	武居　奈緒子	晃洋書房
2			
3			

評価方法（基準）	期末レポート（80%）、中間レポート（20%）
学生へのメッセージ	

担当者の 研究室等	１１号館８階 武居教授室
備考	

科目名	農業・資源経済学	科目名（英文）	Economics of Agriculture and Resources
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3055a0		

授業概要・目的	本講義では、人間の生活を支える食料生産を担う農業とエネルギー産業について経済的に考察する。 食糧生産を担う農業は、私たちの生活を支える基本的な産業である。伝統的に農業は地域共同体の再生産と一体の自給自足的な形態で営まれてきたが、現代の農業は商品作物の販売を目的とする商業的農業である。多国籍アグリビジネスによる途上国の農業支配は、途上国の伝統的な農村構造を解体し、単一の商品作物の生産に特化させて途上国農業を変容させた（モノカルチャー）。さらに、近年の日本農業は経済のグローバル化の影響を受けて国際競争にさらされている。また、農薬、遺伝子組み換え作物、バイオ燃料などの科学技術の発展は、農業そのもののあり方も大きく変容させるとともに、環境問題の懸念も引き起こしている。本講義では、第一に、このような現代の農業に関わる変化について概観する。 産業革命以来、石炭、石油、天然ガスなどの化石エネルギーは、生産力を飛躍的に発展させることに貢献し、人間の生活を豊かにしてきた。しかし、化石エネルギーの大量消費は大気中の温室効果ガス濃度を上昇させて温暖化の原因となっている。また化石エネルギーは将来的に資源の枯渇が予測されている。さらに、化石エネルギーは地球に偏在しており、地下資源の豊富な地域の領有権をめぐって、たびたび戦争や紛争が起きてきた。また、化石エネルギーに代替するものとして、原子力発電などの核エネルギーの利用が進められてきたが、高レベル放射性廃棄物の処分問題や過酷事故による放射性物質汚染の問題など、困難な課題が残されている。1990 年代以後、世界的に見て技術革新と普及が著しいのが自然エネルギー（再生可能エネルギー）である。本講義では、第二に、産業革命以来、人類が依拠してきたエネルギーの過去、現在、未来について概観する。
到達目標	食料と農業、エネルギーと資源産業に関する諸問題と経済構造について、認識を深める。まずは、良質の海外ドキュメンタリーを視聴し、現実の経済関係についてイメージを豊かにすることを目指す。
授業方法と留意点	視聴覚教材を活用した対面講義形式で行う。資料やレジュメの配布、課題提出は Teams を利用する。
科目学習の効果（資格）	特になし

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	―――	―――
2	グローバリゼーションと世界の農業(1)　コーヒー豆から見えるグローバル経済	農産物価格の低迷と農業国の貧困、フェア・トレード運動。 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「エチオピア　コーヒー生産国の悲劇」（原題 ″Black Gold″, Fulcrum Productions, イギリス, 2005 年）	事後・レポート提出
3	グローバリゼーションと世界の農業(2)　プランテーションと現代の奴隷労働	アメリカ企業が所有するドミニカ共和国のサトウキビ畑で働くハイチ人不法移民労働者 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～前編　さとうきび農場の奴隷たち」（原題 ″Big Sugar″, Galafilm, カナダ、2005 年）	事後・レポート提出
4	先進国の「豊かな」食生活とその問題(1)　砂糖の大量消費と生活習慣病	砂糖産業、清涼飲料水産業のマーケティング 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～後編　肥満を招く甘い誘い」（原題 ″Big Sugar″, Galafilm, カナダ、2005 年）	事後・レポート提出
5	先進国の「豊かな」食生活とその問題(2)　食品廃棄物	先進国における大量の食品廃棄と途上国の貧困、飢え 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「食品廃棄物を減らせるか」（原題 ″Taste the Waste″, Schnittstelle Film Koln & Thurn Film,ドイツ、2010 年）	事後・レポート提出
6	農業の工業化　アメリカのトウモロコシ農業の工業化	遺伝子組み換え作物。トウモロコシの工業利用。バイオプラスチック、バイオ燃料。 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「キング・コーン～トウモロコシの国を行く」（原題 ″King Corn″, Mosaic Films / itvs, アメリカ、2008 年）	事後・レポート提出
7	持続可能な農業を目指して工業化された農業への批判	持続可能な農業を目指すアメリカの取り組み 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「食料増産へのチャレンジ　変わる企業型農業　～アメリカ～」（原題 ″Jimmy's Global Harvest Ep3, BBC Scotland, イギリス、2010 年）	事後・レポート提出
8	石油の世紀	19 世紀～21 世紀の石油の世界史、欧米石油メジャーによる石油採掘競争と協調、列強による植民地分割と世界大戦、資源ナショナリズムと OPEC、オイルショック、石油生産国対消費国 視聴覚教材：「石油の世紀」など	事後・レポート提出
9	戦後日本の石油開発	戦後の日本の石油戦略、欧米石油資本と民族資本 視聴覚教材：NHK「プロジェクト X 挑戦者たち　夢遙か、決戦への秘策　炎のアラビア／巨大油田に挑んだ技術者たち」など	事後・レポート提出

	10	日本の原子力政策	戦後日本の原子力政策、国策民営路線の破綻 視聴覚教材：NHK 教育「原発事故への道程(前篇)置き去りにされた慎重論」2011年。	事後・レポート提出
	11	バイオ燃料とその問題	アメリカ、トウモロコシのバイオ燃料利用急増による穀物価格高騰 視聴覚教材：NHK スペシャル「ファンドマネーが食を操る～穀物高騰の裏で」2007 年。 ブラジル。サトウキビ原料のバイオ燃料産業育成による貧困対策。 視聴覚教材：NHK スペシャル「ラテンアメリカの挑戦」2006 年。 インドネシアとマレーシア。パームオイル(椰子油)の生産拡大と熱帯雨林破壊、温暖化促進。 視聴覚教材:NHK クローズアップ現代「地球温暖化　森林破壊を食い止めろ」2007年。	事後・レポート提出
	12	シェールガス　アメリカのブームと環境問題	未曾有の埋蔵量を誇るアメリカのシェールガスの引き起こす新たな環境問題、水質汚染、地震 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「ガスランド」(原題"Gasland", Gasland Prodections, アメリカ、2010年)	事後・レポート提出
	13	自然エネルギー(1)　太陽光発電	太陽光発電。日本企業の先進性と海外企業のキャッチアップ	事後・レポート提出
	14	自然エネルギー(2)　風力発電	風力発電。デンマーク、ドイツ企業の先進性、日本企業の追撃	事後・レポート提出
	15	講義のまとめ	―――	事後・レポート提出

関連科目	経済地理、地球環境経済、国際経済論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	期末レポート（100%）で評価する。
学生への メッセージ	農業と資源産業は、私たちの生活の基礎となる食糧、エネルギーの供給や自然環境保全に関わる重要な産業分野です。 関心の高い学生の参加を求めます。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　野口准教授室（経済学部）
備考	テーマや視聴覚教材は、現実の情勢に応じて更新される場合がある。

科目名	国際経済の新動向	科目名（英文）	New Trends in International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3053a0		

授業概要・目的	本講義では最新の世界の経済問題や潮流を幅広く学習する。
到達目標	各地域の経済を把握することで世界経済の動きを俯瞰できるようになること。
授業方法と留意点	スライドによる講義だけでなく、映像も使い講義を進める。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス､イントロダクション		講義の復習
2	アジアの発展	リーマンショック 世界恐慌	講義の復習
3	日本の可能性は？	2050 年の日本 金融緩和	講義の復習
4	移民を受け入れる国は栄える	EU 移民と犯罪	講義の復習
5	北朝鮮はこれから成長する	少子化 朝鮮半島統一	講義の復習
6	韓国財閥	農業 米軍	講義の復習
7	中国の世界覇権	バイカル湖 環境ビジネス	講義の復習
8	チャイナリスク	出生率 借金	講義の復習
9	アメリカ経済	貿易戦争	講義の復習
10	ロシア経済	ウラジオストク	講義の復習
11	インド経済	官僚制度	講義の復習
12	大変化の波	情報の入手法 投資の成功哲学	講義の復習
13	未来のお金と経済の形	キャッシュレス社会	講義の復習
14	AI と成長する産業	ETF	講義の復習
15	まとめ一復習		講義の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	お金の流れで読む 日本と世界の未来 世界的投資家は予見する	ジム・ロジャーズ	PHP 研究所
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト４０％、期末試験６０％で評価する。
学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　田中研究室
備考	

科目名	摂南経済ゲストレクチャー	科目名（英文）	Setsunan Guest Lectures
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1059a0		

授業概要・目的	グローバル化とインターネットの発達により、労働者に求められるスキルが高度化しています。グローバル化した世界で働くには何が必要なのか？国際経済、地域経済、観光経済、などのトピックにかかわって、担当教員のガイドのもとに、ゲスト講師を招いて授業を行います。 2021 年度も、「野球を巡るコンテンツツーリズム」等の魅力的な話題を用意しています。 SDGs4,8,9
到達目標	社会人講師のレクチャーを聴いて、現実の社会や経済の動向を知るとともに、在学中及び卒業後の自分のキャリア形成のイメージが持てるようにする。とりあつかわれたトピックについて自分で調べて、自分の意見を含むレポートが書けるようにする。
授業方法と留意点	それぞれのゲストレクチャーの前に、担当教員が事前レクチャーを行い、受講者に予習をさせます。⇒ゲストによるレクチャーを受講⇒最後に全体を通したレポートを提出してもらいます。（発表、レポートが試験のかわりになります。必ず提出してください。） ゲストの都合で日程の変更があり得ます。また、土曜日になる日もあるので注意してください。
科目学習の効果（資格）	視野を広げ、現場における課題を知って実践的態度を身につけることができるでしょう。 簡単なレポートを書く訓練にもなります。卒論テーマも見つかるかもしれません。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	千島土地株式会社代表取締役社長・芝川能一氏	この授業の運営の仕方を説明する不動産業から地域の未来を考える～アートを切り口とする地域活性化の試み」	復習
2	ガイダンス	この授業の運営の仕方を説明する	ゲストの話に関連した予習復習をする
3	事前事後学習	ゲストの話について事前事後学習を行う	予習
4	日本テレビ　情報制作局プロデューサー 似鳥利行氏	テレビ制作の現場で経験できること	復習
5	（株）有斐閣　編集第二部部長 柴田守氏	編集という仕事と出版をめぐる状況	復習
6	事前事後学習	ゲストの話について事前事後学習を行う	予習
7	事前事後学習	ゲストの話について事前事後学習を行う	予習復習
8	地域再生型旅行研究会：ARTI代表（クラブツーリズム株式会社・地域共創部常任顧問） 宮本茂樹氏	「アフターコロナに観光産業が生き残るキーワード」一緒に考えませんか？	予習復習
9	事前事後学習	ゲストの話について事前事後学習を行う	復習
10	インディペンデント・キュレーター 林寿美氏	美術館の楽しみ方	予習復習
11	事前事後学習	ゲストの話について事前事後学習を行う	予習復習
12	事前事後学習	ゲストの話について発表する	予習
13	7 月 16 日（土）4 限（7 月 13 日（水）は授業なし） 同志社大学教授・大和田順子氏	SDGs 時代のサステナブルな地域づくり	予習
14	事前事後学習	ゲストの話について事前事後学習を行う	まとめのレポートを完成する
15	まとめ	レポートを提出する	学習のまとめを行う

関連科目	地域経済入門、観光学入門、国際経済入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゲストが提供した教材を毎回読み、レポート（１００％）で総合評価します。
学生へのメッセージ	広く世界に目を向け、経済や社会の現実を学びます。そのなかから、自分たちに何が求められているのか考え、在学中及び卒業後のキャリア形成のイメージを持てるようにしましょう。
担当者の研究室等	１号館７階　後藤教授室（経済学部）
備考	ゲストの都合で、日程を変更することがあります。

科目名	地球環境経済	科目名（英文）	Global Environmental Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3060a0		

授業概要・目的	長い人類の歴史を通じて局地的な環境破壊はあったが、地球温暖化をはじめとする地球規模での環境問題が出現し、問題化したのは 20 世紀後半のことである。地球環境問題は、18 世紀の産業革命より資本主義経済がもたらした巨大な生産力の発展（大量生産）と人類の消費能力の増大（大量消費）、自然界の処理能力を越える大量の廃棄物の発生（大量廃棄）に発生の根拠がある。20 世紀後半より、人類は地球環境問題の存在を認識しはじめ、「持続可能な発展」（Sustainable Development）などの新たな概念も提起され、政府や国際機関による環境政策の展開、企業や研究機関による環境技術の革新が進められている。地球環境問題を克服し、持続可能な従来の資本主義経済の生産力構造と人々の生活様式をグローバルな規模で変革させることが、21 世紀の大きな課題となっている。本講義では、以上のような地球環境問題と人類の経済活動との関係について講義する。
到達目標	環境問題と人間の経済活動の関わりについての理解を深める。
授業方法と留意点	必要に応じて Teams にてレジュメや資料を配布するので、配布物をファイリングすること。板書や講義のノートをとる習慣をつけること。講義後、講義内容を自分の言葉で要約し、書きとどめておくと力がつく。
科目学習の効果（資格）	環境社会検定試験（eco 検定）（http://www.kentei.org/eco/index.html）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義の紹介。環境問題とは何か。環境問題と経済（採取－生産－消費－廃棄）との関係。環境経済学の諸潮流。	事後・質問提出
2	地球温暖化問題(1)	自然科学から見た地球温暖化問題。 温暖化人為説か自然説か。	事後・質問提出
3	地球温暖化問題（2）	地球温暖化問題と国際社会。温暖化防止条約。	事後・質問提出
4	温暖化問題と現代資本主義（1）	金融主導の温暖化対策　化石燃料の座礁資産化と機関投資家の投資撤退	事後・質問提出
5	温暖化問題と現代資本主義（2）	温暖化対策を求められるグローバル企業	事後・質問提出
6	環境問題とエネルギーシフト	脱炭素社会。化石エネルギーから再生可能エネルギーへのシフト。 人類史におけるエネルギー問題と環境問題	事後・質問提出
7	原子力発電と環境問題（1）	原発過酷事故の歴史。スリーマイル、チェルノブイリ、フクシマ。	事後・質問提出
8	原子力発電と環境問題（2）	放射性廃棄物処分問題	事後・質問提出
9	アメリカのシェール革命と環境問題	2010 年代のアメリカのシェール・ブームと地下水汚染問題。アメリカのエネルギー環境政策の展開。	事後・質問提出
10	海洋プラスチック問題	1950 年代以来のプラスチックの大量生産、大量消費、大量廃棄。海洋生物の生態系破壊。	事後・質問提出
11	資本主義経済と環境問題(1)	人間と自然との物質代謝とその攪乱 大量採取－大量生産－大量消費－大量廃棄	事後・質問提出
12	資本主義経済と環境問題(2)	資本主義に内在する生産力発展の傾向と自然の持続可能性の衝突。	事後・質問提出
13	SDGs（持続可能な開発目標）の意義、可能性、限界	「持続可能な発展」をめぐる多様なイデオロギー的立場と解釈。 市場主義的資本主義、エコロジー的近代化、持続可能性。	事後・質問提出
14	持続可能性の経済学	持続可能性（＝人類社会と自然の安定的再生産を求める倫理）と資本主義（＝自己目的的な経済成長を要求する経済システム）の関係。 人類社会の持続的発展と資本主義経済の持続的成長は両立するか、矛盾するか。資本主義のもとでの生産力発展は、環境問題を激化するか、解決するか。資本主義のもとで大量生産＝大量消費＝大量廃棄を克服することは可能か、不可能か。	事後・質問提出
15	講義のまとめ	―――――	―――――

関連科目	国際経済論、経済地理、農業経済論、社会経済学Ⅰ、II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間レポート（20%）、期末レポート（80%）で評価する。
学生への メッセージ	地球環境問題に関心をもって自ら学んで下さい。積極的な質問、授業への参加を期待します。
担当者の 研究室等	１号館７階　野口准教授室（経済学部）
備考	

科目名	産業組織論	科目名（英文）	Industrial Organization
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柳川　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3061a0		

授業概要・目的	産業組織論とはミクロ経済学の応用分野であり、主に市場構造と企業の市場行動および市場成果の関係と、それらへの政策効果を分析する。本講義ではミクロ経済学、特に不完全競争市場の分析を復習した後に、競争政策の３つの柱であるカルテル、企業結合、私的独占に関する経済分析と政策について、具体的な事例を用いながら説明する。寡占市場における企業行動、市場均衡、および競争政策について、理論的また直感的に理解することを目的とする。
到達目標	ミクロ経済学を基礎にして、市場の構造・行動・成果の枠組で産業組織を理解すること、および競争政策の理論と実際の基本について理解することを目標とする。産業組織の理論を事例に基づいて理解し、現実に応用できることを目指す。
授業方法と留意点	対面８回、オンデマンド７回、計 15 回の授業となります。オンデマンドの授業では、教科書に沿って動画を視聴し、課題レポートを提出してもらいます。対面授業では、課題レポートについて学生同士で検討、プレゼンしたのちに、解説、補足を行います。対面授業のあとには、振り返りレポートを提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	特定の市場や産業の枠を超え、市場や産業一般について成り立つ原理を理解することで、どのような業界で仕事をするにしても、市場や産業を理解するのに通用する考え方を身につけることができます。不完全競争に関する理解を深めることができるので、ミクロ経済学の公務員試験にも有益です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の進め方の説明、および産業組織論の課題と歴史（１）	対面。授業の進め方の説明をしたのちに、産業組織論とは、を説明する。	事前に教科書第１章第１節を予習し、事後に復習する。
2	産業組織論の課題と歴史（２）、および独占企業の価格設定と非効率性（講義）	オンデマンド。古典的産業組織論の成立と SCP パラダイム、ハーバード・シカゴ論争とアンチトラスト・レボルーション、新産業組織論・新実証主義的産業組織論・ポストシカゴ学派、独占企業の価格設定と非効率性、を説明する。	教科書第１章第２～４節および第３章第１節の授業動画をみて学習し、その後教科書の該当箇所を読んで復習する。
3	産業組織論の課題と歴史、および独占企業の価格設定と非効率性（演習）	対面。課題レポート第１回にもとづいたグループ討議とプレゼン、および質疑応答と解説を行う。	事前に課題レポー第１回を提出し、事後に振り返りレポート第１回を提出する。
4	ゲーム論理論の基礎（講義）	オンデマンド。ゲーム理論とは、ゲームの定式化、ナッシュ均衡、サブゲーム完全均衡、について説明する。	教科書第６章第１～４節の授業動画をみて学習し、その後教科書の該当箇所を読んで復習する。
5	ゲーム論理論の基礎（演習）	対面。課題レポート第２回にもとづいたグループ討議とプレゼン、および質疑応答と解説を行う。	事前に課題レポー第２回を提出し、事後に振り返りレポート第２回を提出する。
6	寡占市場の理論（講義）	オンデマンド。寡占市場での価格と生産量、クールノー競争、寡占の市場構造、について説明する。	教科書第７章第１～３節の授業動画をみて学習し、その後教科書の該当箇所を読んで復習する。
7	寡占市場の理論（演習）	対面。課題レポート第３回にもとづいたグループ討議とプレゼン、および質疑応答と解説を行う。	事前に課題レポー第３回を提出し、事後に振り返りレポート第３回を提出する。
8	カルテル（講義）	オンデマンド。カルテルとは、カルテルの実現、カルテルが実現しやすい市場環境、カルテルに対する規制、を説明する。	教科書第８章第１～２節の授業動画をみて学習し、その後教科書の該当箇所を読んで復習する。
9	カルテル（演習）	対面。課題レポート第４回にもとづいたグループ討議とプレゼン、および質疑応答と解説を行う。	事前に課題レポー第４回を提出し、事後に振り返りレポート第４回を提出する。
10	市場支配力、集中度と市場画定（講義）	オンデマンド。市場支配力、集中度、伝統的な市場範囲の画定方法、新しい市場範囲の画定方法、を説明する。	教科書第９章第１～４節の授業動画をみて学習し、その後教科書の該当箇所を読んで復習する。
11	市場支配力、集中度と市場画定（演習）	対面。課題レポート第５回にもとづいたグループ討議とプレゼン、および質疑応答と解説を行う。	事前に課題レポー第５回を提出し、事後に振り返りレポート第５回を提出する。
12	合併と企業結合規制（講義）	オンデマンド。合併とは、合併の動機、水平的合併の厚生効果、企業結合規制、を説明する。	教科書教科書第１０章第１～４節の授業動画をみて学習し、その後教科書の該当箇所を読んで復習する。
13	合併と企業結合規制（演習）	対面。課題レポート第６回にもとづいたグループ討議とプレゼン、および質疑応答と解説を行う。	事前に課題レポート第６回を提出し、事後に振り返りレポート第６回を提出する。
14	戦略的行動と市場の独占化（講義）	オンデマンド。戦略的行動とは、略奪価格と評判形成、略奪価格に対する競争政策、を説明する。	教科書第１１章第１、３、４節の授業動画をみて学習し、その後教科書の該当箇所を読んで復習する。
15	戦略的行動と市場の独占化（演習）	対面。課題レポート第７回にもとづいたグループ討議とプレゼン、および質疑応答と解説を行う。	事前に課題レポート第７回を提出し、事後に振り返りレポート第７回を提出する。

関連科目	ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、サービス産業論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プラクティカル産業組織論	泉田成美・柳川隆	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2 3
評価方法 （基準）	期末試験５１％、課題レポート３５％（７回、各５％）、振り返りレポート１４％（７回、各２％）
学生への メッセージ	アメリカ経済はビッグテックと呼ばれる GAFA などのプラットフォームビジネスで成長していますが、日本経済はプラットフォームビジネスで出遅れていて停滞しています。ビッグテックは日々の生活に欠かせない財・サービスを提供する有益な存在である一方で、市場の独占化は、経済や社会に悪影響ももたらしており、EU に続いてアメリカが規制の強化に舵を切り、日本も追随しようとしています。大きくかわりつつある競争政策の基礎を学びましょう。
担当者の 研究室等	１号館７階　柳川研究室
備考	

科目名	現代ファイナンス論	科目名（英文）	Modern Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小塚　匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3064a0		

授業概要・目的

日本においては、長期にわたって景気の低迷とデフレ（継続的な物価下落）が続いていたことから、金融政策のあり方とその効果について関心が高まっていました。そして、担当者がこのシラバスを執筆している 2022 年１月現在では、日本において、円安の弊害が議論されるようになってきました。それまでは円安はマクロ経済に良い影響を与えるものとみなされていましたが、その状況は変わってきているのです。また、日本とアメリカで、金融政策の方針に違いが出てきており、今後の動向が注目されています。

さて、近年の金融政策は、金融市場を利用したものが主流となっております。では、金融政策はどのような手段で実施され、どのような効果が期待されているのでしょうか。そして、量的・質的金融緩和政策に代表される非伝統的金融政策とはどのようなものでしょうか。この講義では、金融市場の仕組みを踏まえながら、金融政策への理解を深めることを目的としています。

到達目標

この講義では、マクロ経済学でも取りあげている、金融政策の効果とそれを行う中央銀行の役割について、より深く考察します。さらに現在実施されている非伝統的金融緩和政策についても言及します。履修者の皆さんが、この講義で得た知識をもとに、金融政策について自分自身の意見を持つことができるようになってほしいと考えています。

授業方法と留意点

この講義で主に利用する ICT ツールは、Microsoft Teams と Microsoft Forms です。念のため、Teams コードを利用してこの講義のチームに参加してください。

無断欠席の回数が多い学生は単位取得資格を失います。ご注意ください。

練習問題はその回の講義内容の復習として出題します。練習問題は Microsoft Forms で解答する形式で実施し、次回講義開始時までに提出していただきます（成績評価の対象です）。また、講義の最初に前回の復習をしますが、そのときに発展学習として、グループワ

科目学習の効果（資格）

金融政策に関する知識を習得できます。また、金融に関するニュースの理解が深まります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに:この講義で学ぶこと:金融・金融政策とは何か	授業内容の概要、注意事項の説明、イントロダクション	シラバスをよく読んでおくこと 講義資料（1）
2	基本事項の復習①:金融政策の効果	金融政策は何のために行うのか／中央銀行は何か	講義資料（２）
3	基本事項の復習②:貨幣の分類と金利／金融市場の分類	貨幣（マネーストック）の分類／貨幣と金利の関係について	講義資料（３）
4	基本事項の復習③： 金融市場の分類 る金融調節の実際	金融政策のオペレーションの場である、金融市場について	講義資料（４）
5	基本事項の復習④:金融政策の伝統的手段	金融政策の伝統的手段である、公定歩合操作・預金準備率操作・公開市場操作について	講義資料（５）
6	基本事項の復習⑤：金融調節・実際の金融政策運営	金融機関の資金繰りに対応した資金受給調整の実際について／波及経路について	講義資料（６）
7	基本事項の復習⑥:マクロ経済学理論と金融政策	貨幣数量説（長期モデル）と IS-LM モデル（短期モデル）の復習	講義資料（７）
8	日本銀行による金融政策の実際	1990 年代末からの日本における金融政策の変遷について	講義資料（８）
9	非伝統的金融政策とは何か	ゼロ金利政策など非伝統的金融政策の概要について	教科書第１章
10	非伝統的金融政策の効果:理論的なメカニズム（１）	流動性の罠について／非伝統的金融政策の株価・為替レートを通じた効果など	教科書第２章
11	非伝統的金融政策の効果:理論的なメカニズム（２）	流動性の罠／ゼロ金利コミットメント／Kurugman モデル／実証的な証拠	教科書第２章・３章
12	「２％物価安定目標」の是非	デフレ均衡について／Bullard の理論モデルについて	教科書第４章
13	非伝統的金融政策の副作用	３つの主要リスク／出口戦略	教科書第５章
14	マイナス金利とは何か	日本におけるマイナス金利政策の概要／実体経済への影響」	教科書第６章
15	まとめ		これまでの講義内容

関連科目

マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、金融論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	非伝統的金融政策 -- 政策当事者としての視点	宮尾龍蔵	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ベーシックプラス　金融論　第３版	家森信善	中央経済社
2			
3			

評価方法（基準）

練習問題（50%）、試験（50%）で評価します。

練習問題は、Microsoft Forms で実施します。練習問題は、その回の講義内容の復習問題として出題しますので、原則として次回の講義までに解答してください（締め切りを設けます）。

試験は期末試験期間に実施する予定です。ただし、社会状況の変化によっては、Microsoft Teams を利用したオンライン試験に切り替える可能性もあります。

なお、この講義には出席点はありませんが、無断欠席の回数が多い場合は、単位取得資格を失います。教室に入ったら

学生へのメッセージ

この講義は、教科書を持っていることを前提に講義を進めます。教科書は必ず購入してください。

疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。また例題や練習問題にも積極的に取り組んで下さい。

	この講義は、これまでに学んだ内容の積み重ねが大切です。また、それなりに高度な内容も含まれます。講義をただ聞いているだけでは、十分に理解できません。きちんと出席するだけではなく、復習をして理解に努めてください。「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」や金融関係科目の内容を理解していることが望ましいので、それらの知識
担当者の 研究室等	１号館７階　小塚研究室
備考	

科目名	ファイナンシャル・プランニング	科目名（英文）	Financial Planning
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2○,DP3○,DP4△,DP5◎,DP6○,DP7○,DP8△,DP9○		
科目ナンバリング	WDW3062a0		

授業概要・目的	FP3 級取得レベルの知識の習得
到達目標	FP 技能士の資格試験は毎年 5 月・9 月・1 月に実施されますが、夏期休暇中の授業の復習を通じて、9 月試験の合格を目指します。
授業方法と留意点	・原則的に講義形式です。 ・講義内で頻繁に問題演習を行います。 ・おおよそ講義 2 回に 1 回は確認テストを行います。成績評価にも関連しますので、確認テストは必ず受けるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	FP3 級の取得、FP2 級の学習への予備的学習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ファイナンシャル・プランニングとは何か	ファイナンシャルプランニングおよびファイナンシャルプランナー（以下 FP）に関する概要	特になし
2	ライフプランニングと資金計画（1）	ライフプランニングの考え方・手法	第 2 回の復習
3	ライフプランニングと資金計画（2）	公的年金制度	第 3 回の復習
4	ライフプランニングと資金計画（3）	ライフプラン策定上の資金計画	第 2 回から第 4 回までの復習（第 5 回に確認テスト①）
5	確認テスト①　＋　リスク管理（1）	生命保険	第 5 回の復習
6	リスク管理（2）	損害保険　第三の保険	第 5 回から第 6 回までの復習（第 7 回に確認テスト②）
7	確認テスト②　＋　金融資産運用（1）	各種経済指標　マーケット環境の理解 投資信託	第 7 回の復習
8	金融資産運用（2）	債券・株式　その他金融商品　金融資産に係る税金　ポートフォリオ運用	第 7 回から第 8 回までの復習（第 9 回に確認テスト③）
9	確認テスト③　＋　タックスプランニング（1）	所得税制度　各種所得①	第 9 回の復習
10	タックスプランニング（2）	各種所得②　所得税計算	第 9 回から第 10 回までの復習（第 11 回に確認テスト④）
11	確認テスト④　＋　不動産（1）	不動産の価格　不動産取引に係る法律 不動産登記	第 11 回の復習
12	不動産（2）	不動産に係る関連法規（都市計画法・建築基準法など）　不動産に係る税金	第 11 回から第 12 回までの復習（第 13 回に確認テスト⑤）
13	確認テスト⑤　＋　相続・事業承継（1）	贈与・相続制度	第 13 回の復習
14	相続・事業承継（2）	贈与・相続に係る税金	第 13 回から第 14 回までの復習（第 15 回に確認テスト⑥）
15	確認テスト⑥　＋　今後の学習について	期末テストについて 今後の FP 学習について	特になし

関連科目	金融論・地域金融論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	確認テスト（計 6 回）60%、定期試験 40%
学生へのメッセージ	FP 試験の範囲は非常に広範ですが、それだけ幅広いファイナンスや経済学の学習が可能です。これまで学んだ事項を、現実の生活に応用するための基礎力を学ぶことができますので、資格取得を目指すきっかけとして積極的に参加してください。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　植杉教授室(経済学部)
備考	病欠その他都合により確認テストが受けられない場合には、理由を添えて、後日受けるようにしてください（もし受けないと、その回のテストは 0 点扱いとします）。 FP 試験は年間 3 回あります（5 月・9 月・1 月）ので、積極的に受験することを勧めます。

科目名	交通経済論	科目名（英文）	Economic Analysis of Transportation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3065a0		

授業概要・目的	人類が経済活動を発展させていくにあたって町と町の間で物を運ぶということが大変重要な課題でした。つまり、交通経済は社会が発展していくためにとても重要な要素となっているのです。この授業では交通経済の考え方について現実社会の事例をあげながら、その理論的な考え方を解説していきます。
到達目標	現実社会においてどのような事例が交通経済論の範囲なのか理解できるようになります。交通経済に関する現実社会の事例について基礎的なデータを扱うことができるようになります。
授業方法と留意点	この授業は一般教室で行いますが、パソコンを用いた実習的な授業を行いますので、履修者はノートパソコンを持参してください。たまたまノートパソコンの調子が悪いという時やノートパソコンを忘れた時は貸出 PC を使用することができますが、基本的には自分のノートパソコンを持参してください。ノートパソコンの代わりにタブレットでもかまいませんが、スマホで代替するのは無理です。
科目学習の効果（資格）	現実社会の交通経済について客観的なデータで説明することができるようになります。特に現在の日本経済における交通の役割についてデータを用いて実態を説明できるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	社会における交通経済の重要性	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
2	社会における交通経済(1)	マイカーやタクシーの利用選択	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
3	社会における交通経済(2)	さまざまな交通機関における運賃	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
4	交通サービスの特殊性(1)	トラック、バスなどの利用率	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
5	交通サービスの特殊性(2)	ラッシュアワーと交通機関の選択	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
6	交通データの分析	さまざまな交通機関の輸送量	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
7	交通の費用	交通機関への需要	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
8	運賃理論	混雑と交通量	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
9	運賃政策	交通企業と運賃	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
10	規制政策	規制緩和と交通機関	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
11	交通投資	交通プロジェクト大規模投資	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
12	外部補助と内部補助	高速道路と経営問題	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2時間)。
13	交通ネットワーク	利用者行動と混雑緩和	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の

				該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
	14	交通経済の展望	交通経済と国民経済	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。
	15	まとめ	交通経済の重要性を振り返る	【事前学習】事前に指示されている各回の教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 【事後学習】授業時に自分で記したノートを見ながら教科書とレジュメをもう一度読んで内容理解を深める(2 時間)。

関連科目	観光経済論、観光資源論、航空産業論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業内で課す中間レポート 50 点分と期末レポート 50 点分を総合して評価します。提出には Webfolder を使用します。実習型授業ですので、授業 15 回中 10 回以上の出席がなければ評価しません。
学生への メッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　朝田准教授室（経済学部）
備考	

科目名	サービス産業論	科目名（英文）	Service Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柳川　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6◎,DP7○,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3066a0		

授業概要・目的	産業組織論を基礎にしてサービス産業における市場の構造、行動、成果および競争政策と規制政策の概要について、一般的な理論と具体的な産業の事例を説明する。近年急速に展開するプラットフォームビジネスによる流通のイノベーション、電力市場の自由化や水道事業民営化といった公益事業サービスの変容についての概要を理解し、これらの産業に対する競争政策と規制政策のあり方について理解することも目的とする。
到達目標	サービス産業における企業の行動と市場成果および政策について、一般的な理論と具体的な事例の視点から理解できることを目標とする。また、プラットフォームビジネスや電力自由化、水道民営化など、近年急速に展開する流通サービス市場、公益事業サービス市場の変容と政策動向について理解することを目標とする。
授業方法と留意点	基礎的な知識については主に教科書に沿って講義を行います。現代の産業については各種参考文献を紹介しながら講義を行います。事前の予習と事後の復習をしてください。 授業は対面 10 回とオンデマンド 5 回からなります。主として基本的な知識を得るときにはオンデマンドとし、変化の激しい現実の市場や課題の振り返りは対面で行います。オンデマンドの授業は動画を視聴し、課題レポートを提出してもらいます。課題レポートは 5 回実施し、対面授業のときに学生同士で検討し、プレゼンしてもらったあとに解説・補足する時間をとります。
科目学習の効果（資格）	企業の価格戦略やさまざまな戦略や企業への規制について、特に近年の経済に大きな影響を与えているプラットフォームビジネスや変容する公益事業ビジネスについて知ることは、ビジネスに携わったり、日常の生活を送るうえで非常に有益です。また電力・ガス小売り自由化の恩恵を受けられるよう調査します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	サービス産業論入門、及びミクロ経済学（完全競争市場）の復習。	対面。授業方法の説明のあと、サービス産業とは、サービス産業の特徴、ミクロ経済学（完全競争市場）の復習、を説明する。	参考文献（授業中に紹介する）の予習と授業の復習
2	サービスの販売価格戦略（独占企業の価格設定）（１）	オンデマンド。独占企業の価格設定と非効率性、価格差別の手段と効果、を説明する。	教科書第３章第１～２節の動画視聴とｊ教科書を読んで復習
3	サービスの販売価格戦略（独占企業の価格設定）（２）	オンデマンド。市場分割による価格差別、二部料金と抱き合わせ、を説明する。	教科書第３章第３～４節の動画視聴と教科書を読んで復習
4	サービスの販売価格戦略（独占企業の価格設定）（３）	対面。課題レポート１の検討、発表、解説、補足説明をする。	課題レポート１の提出と振り返りレポートの提出
5	流通（垂直的な統合と制限）（１）	オンデマンド。競争政策とは、垂直的な取引と企業間関係、垂直的統合による効率性と排除、を説明する。	教科書第１２章第１～２節の動画視聴と教科書を読んで復習
6	流通（垂直的な統合と制限）（２）	オンデマンド。ブランド内競争の制限、ブランド間競争の制限、を説明する。	教科書第１２章第３～４節の動画視聴と教科書を読んで復習
7	流通（垂直的な統合と制限）（３）	対面。課題レポート２の検討、発表、解説、補足説明をする。	課題レポート２の提出と振り返りレポートの提出
8	プラットフォームビジネス（１）	対面。プラットフォームビジネスの現状を説明する。	参考文献（授業中に紹介する）の予習と授業の復習
9	プラットフォームビジネス（２）	対面。プラットフォームビジネスへの競争政策、を説明する。	参考文献（授業中に紹介する）の予習と授業の復習
10	プラットフォームビジネス（３）	対面。課題レポート３の検討、発表、解説、補足説明をする。	課題レポート３の提出と振り返りレポートの提出
11	公益事業の規制（自然独占と規制）（１）	オンデマンド。費用逓減産業と自然独占、公正報酬率規制とアバーチ・ジョンソン効果、自然独占分野の規制緩和・民営化、インセンティブ規制、を説明する。	教科書第４章第１～４節の動画視聴と教科書を読んで復習
12	公共事業の規制（自然独占と規制）（２）	対面。課題レポート４の検討、発表、解説、補足説明をする。	課題レポート４の提出と振り返りレポートの提出
13	電力事業	対面。電力市場の概要、電力システム改革、電力市場の現状と課題、について説明する。	参考文献（授業中に紹介する）の予習と授業の復習
14	水道事業	対面。水道事業の現状、近年の動向、広域化・共同化の状況、官民連携の状況、諸外国の状況、の説明をする。	参考文献（授業中に紹介する）の予習と授業の復習
15	電力事業・水道事業（演習）	対面。課題レポート５の検討、発表、解説、補足説明をする。	課題レポート５の提出と振り返りレポートの提出

関連科目	ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、産業組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プラクティカル産業組織論	泉田成美・柳川隆	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験５５％、課題レポート３０％（５回、各６％）、振り返りレポート１５％（５回、各３％）の合計点により評価する。
学生へのメッセージ	サービス産業ではプラットフォームビジネスの急速な発展や電力・ガスの自由化のように大きな変化が生じています。それに対応して政策も変化しています。電力・ガスの市場では脱炭素社会の実現に向けて大きく変わろうともしています。一方、高齢化社会のなかで水道のようにインフラ

	の維持が難しくなっているサービスもあります。こうした現代の大きな変化や課題について経済学的に理解することを目指しましょう。
担当者の 研究室等	１号館７階　柳川研究室
備考	

科目名	公共経済学	科目名（英文）	Public Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾　智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7◎,DP8◎,DP9○		
科目ナンバリング	WDW3067a0		

授業概要・目的	社会には市場メカニズムだけでは実現できない社会全体の利益が存在します。その実限のためには公的部門の活動が不可欠です。この講義では，我々のライフサイクルの諸現象（特に社会保障の問題）を追いながら，それを支える制度を経済学の視点から説明していきます。
到達目標	次の項目について説明ができて，必要に応じて計算できることを目標とする。 ・公共経済学の基礎的理論。 ・社会保障制度（教育，雇用保険，労災保険，年金，医療，社会保険など)。 ・講義の知見からから自身の今後のライフイベントとその対処策を考えることができる。 ・現代日本で起こっている社会保障の問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と留意点	授業資料は ICT ツールを通して配布します。
科目学習の効果（資格）	・自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。 ・自身の人生とライフイベントを客観視できるようになり，キャリア形成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方，評価の方法，授業内容の全体像について説明します。	ノート，配布資料を読み返して復習する。
2	ライフサイクルと社会保障制度	生誕から死までのライフサイクル（ライフサイクル仮説）と社会保障の関わりについて学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
3	少子高齢化問題	人口統計を確認し，人口減少社会における社会保障制度のあり方を学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
4	人生前半の社会保障(1)	幼児教育から中等教育まで，なぜ教育は行われるのかを考えます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
5	人生前半の社会保障(2)	人はなぜ進学するのか。高等教育の社会的意味を考えます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
6	社会保険制度(1)	民間医療保険を題材にして逆選択の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
7	社会保険制度(2)	社会保険制度が雇用・賃金に与える影響について学習します。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
8	失業	労働市場の均衡と失業理論について学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
9	雇用保険・労災保険	雇用保険と労災保険について学び，就労期のセーフィティネットのあり方について，考えます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
10	公的年金制度	公的年金制度の内容について学び，人生 100 年時代の資産形成について考えます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
11	医療保険制度	医療保険制度について，逆選択の理論を復習しながら説明します。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
12	公共経済学の理論	市場均衡は最適な資源配分を実現するかどうかを解説します。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
13	公共経済学の理論	公害はなぜ起こるのかを例に外部性の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
14	公共経済学の理論	公的年金を題材にして不確実性の概念について学びます。	（事前）事前配付資料を読み，独自のノートをまとめる（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。
15	まとめ	これまでの講義を振り返り，公共経済学の基本的な考え方を復習します。	（事前）これまでの配付資料を読み，ノートの整理を行う（90 分） （事後）理解度チェックの課題を行い，当該箇所の内容を配付資料等で確認する（60 分)。

関連科目	労働経済学，公共政策論

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ライフサイクルの経済学</td><td>橘木俊詔</td><td>ちくま新書</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・授業毎の課題（70%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。
・復習問題（10%）：授業内容に関する問題（選択式，計算問題が中心）。
・レポート（20%）：授業内容に関するテーマについての説明文。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>ライフサイクルの諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。公的部門が行う政策とそれによって形作られる法律と制度の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか，経済学的思考で考えてください。参考書は購入必須ではありませんが，手元にあると学習の助けとなると思います。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１号館７階　平尾研究室（経済学部）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	公益会計論	科目名（英文）	Accounting of Public Utilities
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7○,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3068a0		

授業概要・目的

・企業の財政状態や経営成績を把握するための財務会計と同様にバランスシート等を導入して、長期的な収支や事業実績を把握するため、発生主義や複式簿記を採用する自治体が増加している。
・その意義について講義する。民間企業同様、自治体も経営責任が問われる時代であり、その情報提供手法である公（益）会計処理について理解する。

･政令指定都市における一般会計、公営企業会計の部署での予算・決算調書、市議会答弁作成・実施等の経験を活かして公益会計が市民への説明責任を果たすべき仕組みであるとの視点から、あるべき方向性を考察する実践的な授業を行う。

到達目標

・企業会計は、発生主義、複式簿記を採用している。
・国や多くの地方自治体は、現金主義、単式簿記を採用している。
・両者の違いを理解し、東京都や大阪市が導入している複式簿記方式の会計の意義について理解する。
・今後検討されている国や地方自治体業務の国民への説明責任を達成するための公益会計の果たす役割を理解する。

授業方法と留意点

・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。下記内容を講義する。
・簿記及び会計学関連科目の履修済を奨励する。これらの科目の基礎知識が履修に必要である。
・公益を目的とした公会計は、国及び地方公共団体で行われている会計であり、地方自治法に基づき、詳細については条例・規則に規定され、一般会計、特別会計は、会計年度独立の原則を採用し、単年度会計、現金主義、単式簿記の処理を行っている

科目学習の効果（資格）

・地方自治体における予算・決算処理や会計処理体系など基本的な公会計知識を習得する。
・複式簿記、発生主義会計処理を前提とする簿記、会計学等の受験科目がある資格試験における会計処理の理解の一助となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	公益会計（公会計）とは 簿記の常識	公会計とは何か、簿記とは何かについて講義する。	配布資料　「作る」－簿記の常識
2	会計の意義	会計の前提、基本ルール及び作成する財務諸表について講義する。	配布資料　「読む」－会計の常識
3	公会計の意義	公会計の対象、法及び現状と基準について講義する。	教科書　第１章　公会計の基礎
4	財務報告	財務報告、発生主義及び財務諸表の焦点、現金主義との比較等について講義する。	教科書　第２章　財務報告
5	財務諸表の構成要素－資産と負債	財務諸表の構成要素の定義、特徴及び資産、負債について講義する。	教科書　第３章　財務諸表の構成要素（１）－資産と負債
6	財務諸表の構成要素－収益と費用	（収入、歳入）と（支出、歳出）について講義する。	教科書　第４章　財務諸表の構成要素（２）－収益と費用
7	公的部門の業績評価	公的部門の評価について講義する。	教科書　第５章　公的部門の業績評価
8	中央政府会計－我が国の中央政府会計制度	中央政府における予算制度について講義する。	教科書　第６章　中央政府会計（１）－我が国の中央政府会計制度
9	中央政府会計－会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要	予算制度の問題点と予算編成改革について講義する。	教科書　第７章　中央政府会計（２）－会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要
10	地方政府会計－我が国の地方自治体会計の概要	地方自治体の会計制度の概要、予算・決算及び収入・支出等について講義する。	教科書　第８章　地方政府会計（１）－我が国の地方自治体会計の概要
11	地方政府会計－新公会計改革と財政健全化法	新地方公会計改革による財務諸表関係について講義する。	教科書　第９章　地方政府会計（２）－新公会計改革と財政健全化法
12	これまでのまとめ(習熟度等の検証)	これまでの一般会計についての理解と習熟度について試験またはレポート作成によって評価する。	第１１回までの資料等
13	公営企業会計	公営企業会計について講義する。	教科書　第１０章　公営企業会計
14	各国の政府会計－アメリカ	アメリカの公会計について講義する。GPRA（政府業績評価法）について講義する。	教科書　第１１章　各国の政府会計（１）－アメリカ
15	各国の政府会計－イギリス	イギリスの公会計について講義する。ブレア政権での予算会計改革について講義する。	教科書　第１２章　各国の政府会計（２）－イギリス

関連科目

地方自治法、財政法等の行政法関連の科目および簿記、会計学関係の科目
地方自治論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公会計	稲沢克祐	同文館出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公会計改革　ディスクロージャが『見える行政』をつくる	公会計改革研究会議	日本経済新聞社
2			
3			

評価方法（基準）

レポート内容及び定期試験(70%）及び、レポート提出等を受講態度（30%）として総合評価する。

学生への

・公務員を目指す場合、地方公共団体等が実施している基本的な会計処理や予算積算制度を理解するための講義である。

メッセージ	・民間企業の会計処理との比較も行う。 ・税収がどのように会計処理されるのか、経済学部学生として公会計への関心を持って頂きたい。 ・簿記や会計学の講義を修得していることが望ましい。 ・仕訳や資産評価などの民間企業会計処理について理解していることが望ましい。 ・勘定科目、仕訳、財務諸表の知識が必要です。日商簿記 3 級程度の勘定科目と仕分け処理の関係を理解していることが必要です。 ・地方公務員
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　田井教授室(経済学部)
備考	

科目名	民法	科目名（英文）	Civil Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2071a0		

授業概要・目的	民法は、私人の間の問題等を規律するための規範として私たちに最も身近な法律です。 本講義では、法律の中で民法がどのような地位を占めているのか､具体的にどのような規定が置かれているのかについて概観します。民法の中身は膨大ですが、条文を基本として民法の体系がイメージできるよう試みていきます。 授業担当者は、弁護士として１７年、裁判官として２２年勤務し、また、大阪家庭裁判所、広島高等裁判所の総括判事、鳥取地方裁判所所長を歴任するなど、労働問題や社会保障に関する民事訴訟の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この講義を通じて学生は、私人間に適用される法の基本である民法の概要を知り、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任主義といった近代法の基礎を理解するとともに、その修正原理についても一定の理解を得ることが期待される。
授業方法と留意点	授業では教科書を使用するほか、適宜レジュメ、その他の資料を配布します。また、関連する判例や資料を指定することもあります。可能な限り六法を準備して下さい。授業中に課題（小テスト）を課することがあります。 最終回講義では期末試験を実施します。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	民法の全体像	・民法が法の中において占める地位 ・民法が規定するもの ・民法の諸原則	教科書第１編（1 頁から 28 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
2	所有権 その他の物権	・物権とは何か ・登記の意味 ・担保物権	教科書第２編１、２章（29 頁から 49 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
3	債権と取引の通則	・債権と契約 ・契約取引の通則	教科書第２編３、４章（50 頁から 75 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
4	贈与と売買	・売買契約の内容 ・一方当事者の債務不履行	教科書第２編５章（76 頁から 94 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
5	金銭の貸借	・消費貸借契約についての法の規制 ・借金の返済方法	教科書第２編６章（95 頁から 123 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
6	物の貸借	・使用貸借と賃貸借 ・借地借家に対する特別の規制	教科書第２編７章（124 頁から 136 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
7	他人の労務を利用する契約	・雇用 ・請負 ・委任	教科書第２編８章（137 頁から 144 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
8	民法が定めるその他の契約 団体の法理	・典型契約と非典型契約 ・混合契約 ・組合と法人	教科書第２編９章から 12 章（145 頁から 163 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
9	不法行為と不当利得	・不法行為の一般規定と特別規定 ・過失責任主義 ・不当利得と「サラ金問題」	教科書第２編１３章（164 頁から 185 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
10	財産法のまとめ	財産法分野で十分な説明ができなかった点を補う。	予め、これまでの配布資料を通読しておいてください
11	夫婦の法律関係	・婚姻の成立と効果 ・離婚	教科書第３編１章から３章（187 頁から 205 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
12	親子の法律関係	・親権と後見 ・嫡出子と非嫡出子	教科書第３編４章から７章（206 頁から 229 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
13	相続の法律関係	・相続人の範囲 ・遺産分割の方法 ・遺言	教科書第３編８章から１４章（230 頁から 258 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
14	家族法のまとめ	家族法分野で十分な説明ができなかった点を補う。	予め、これまでの配布資料を通読しておいてください
15	期末試験	これまでの学習事項から試験を行います。	全体の復習をしておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法（第 10 版）	我妻栄・良永和隆	勁草書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（70%）、課題（小テスト）結果を含む受講態度（30%）とした上で、総合評価を行います。
学生へのメッセージ	民法を学習することにより、日常生活を法的観点から検討する能力を身につけることができるほか、法律的なものの見方というものを体感できるようになります。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　川谷研究室
備考	

科目名	商法	科目名（英文）	Commercial Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2072a0		

授業概要・目的	商法は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位であるといわれている。企業によって、商品の生産および流通活動が、行われており、本講義で教授する商法の知識は、企業活動に関係する者にとり、必須の知識である。 商法は、大きく、商法総則と商行為法の２つから構成されている。商法総則では、商法の基本概念である商人・商行為の定義をはじめ、商人に特有な、商号や商業登記等の諸制度について、また、商行為法では、商行為法の通則、問屋営業や運送営業等について、講義を行う。
到達目標	この授業を通じて、学生は、商法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識および応用力を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、最近、話題になった事件を判例や専門雑誌の記事を通して紹介し、現実の商法の運用について説明したい。練習問題を解きながら、応用力を養いたい。授業中は、必ず、ポケット六法を携帯してください。 講義中心で行うが、ディスカッションも取り入れる。復習テストを行う。
科目学習の効果（資格）	商業活動に必要であり、ビジネス・パーソンにとって必須の知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	商法の意義、商法の基本概念、商法の歴史、商法の特色と傾向、商法の法源	形式的意義における商法、実質的意義における商法、商法と他の法律との関係、基本概念としての商行為と商人について学ぶ。	事前に教科書２ページ～２３ページを読むこと（1時間） 事後に教科書２ページ～２３ページを読むこと（1時間）
2	商人	商人の意義、商人資格、営業能力について学ぶ。	事前に教科書２６ページ～３２ページを読むこと（1時間） 事後に教科書２６ページ～３２ページを読むこと（1時間）
3	営業・営業所	営業の意義、営業所の意義、本店および支店、営業所に結び付けられた法律上の効果について学ぶ。	事前に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
4	商業登記（１）	総説、商業登記事項、商業登記の手続、商業登記の一般的効力について学ぶ。	事前に科書３５ページ～４２ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
5	商業登記（２）	不実登記の効力、商業登記の特殊の効力について学ぶ。	事前に教科書　４３ページ～４５ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
6	商号	総説、商号の選定、商号の数、商号の登記、商号権、商号の譲渡・廃止・変更、名板貸し	事前に教科書４６ページ～６２ページを読むこと（1時間）を読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
7	営業の譲渡・商業帳簿	営業譲渡の意義、営業譲渡契約、営業譲渡の機能、営業譲渡当事者間における効果、第三者に対する営業譲渡の効果、営業の賃貸借・経営委任、商業帳簿の総説について学ぶ。	事前に教科書　６３ページ～８５ページを読むこと（1時間） 教科書３２ページ～３４ページを読むこと(1時間)
8	商業使用人・代理商	総説、支配人の意義、支配人の選任・終任、支配人の代理権・義務、表見支配人、その他の商業使用人、代理商の意義、代理商契約の締結、代理商契約の効果、代理商契約の終了について学ぶ。	事前に教科書８６ページ～１０５ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
9	商行為（１）	絶対的商行為、営業的商行為（１）について学ぶ。	事前に教科書１０８ページ～１１５ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
10	商行為（２）	営業的商行為（２）、付属的商行為について学ぶ。	事前に教科書１１５ページ～１１７ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
11	商行為法通則	商行為法通則、商事代理、商事売買	事前に教科書１１７ページ～１４１ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
12	交互計算	交互計算の意義、交互計算の効力、交互計算の終了について学ぶ。	事前に教科書１４２ページ～１４６ページを読むこと（1時間） 事後に教科書３２ページ～３４ページを読むこと（1時間）
13	問屋営業	総説、問屋の意義、問屋の法的地位、問屋の権利・義務、準問屋について学ぶ。	事前に教科書１６０ページ～１６８ページを読むこと（1時間） 事後に教科書１６０ページ～１６８ページを読むこと（1時間）
14	運送営業（１）	総説、物品運送の意義、運送人の義務、運送人の権利、荷受人の地位、相次運送について学ぶ。	事前に教科書１６９ページ～１８１ページを読むこと（1時間） 事後に教科書１６０ページ～１６８ページを読むこと（1時間）
15	運送営業（２）	貨物引換証、乗車券の性質について学ぶ。	事前に教科書１８１ページから１８９ページを読むこと（1時間）

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>事後に教科書１６０ページ～１６８ページを読むこと（1 時間）</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>民法、会社法</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>プライマリー商法総則商行為法（最新版）</td><td>藤田勝利・北村雅史編</td><td>法律文化社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>定期試験８0 パーセント、復習テスト 20 パーセント</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>商法総則・商行為法は、比較的、解りやすい分野です。質問は、どしどし、してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 9 階　牛丸教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>予習・復習にはそれぞれ、1 時間とってください。
確認テストの正解は次の回の授業で解説する。</td></tr>
</table>

科目名	会社法	科目名（英文）	Corporate Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2073a0		

授業概要・目的	会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として、当然に知っておくべき常識である。会社の種類は、会社法上、４種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで、授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義したい。会社法について、きめの細かい講義を行う。本講義は、会社法全体を概観する入門的な講義である。
到達目標	この授業を通じて、学生は、会社法の　全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、解りやすく基本的な知識の説明を行う。新聞記事や最近の判例を紹介し、会社法の運用の現実の動きをみていく。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。復習テストおよびレポート提出を課す。
科目学習の効果（資格）	会社に就職する者にとって、必須の知識を身に着けることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会社法総論・会社法総則	会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則について学ぶ。	事前に教科書２ページ～４０ページを読む。 事後に教科書２ページ～４０ページを読む。
2	株式会社序説・株式会社の設立	株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効について学ぶ。	事前に４２ページ～６５ページを読む。 事後に４２ページ～６５ページを読む。
3	株式と株主（１）	株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿について学ぶ。	事前に６６ページ～８６ページを読む。 事後に６６ページ～８６ページを読む。
4	株式と株主（２）	株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度について学ぶ。	事前に８６ページ～１０７ページを読む。 事後に８６ページ～１０７ページを読む。
5	募集株式の発行等・新株予約権	総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行等の手続、違法な募集株式の発行等の是正、新株予約権について学ぶ。	事前に１０５ページ～１３２ページを読む。 事後に１０５ページ～１３２ページを読む。
6	機関・株主総会	機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集・議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会について学ぶ。	事前に１３３ページ～１５０ページを読む。 事後に１３３ページ～１５０ページを読む。
7	取締役・取締役会（１）	総説・取締役について学ぶ。	事前に１５０ページ～１５５ページを読む。 事後に１５０ページ～１５５ページを読む。
8	取締役・取締役会（２）	取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係について学ぶ。	事前に１５５ページ～１６４ページを読む。 事後に１５５ページ～１６４ページを読む。
9	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役	会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役について学ぶ。	事前に１６４ページ～１８０ページを読む。 事後に１６４ページ～１８０ページを読む。
10	役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正	役員等の会社に対する責任、役員等の第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟提起権について学ぶ。	事前に１８０ページ～１９２ページを読む。 事後に１８０ページ～１９２ページを読む。
11	計算、定款の変更、事業の譲渡等	計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等について学ぶ。	事前に１９３ページ～２１６ページを読む。 事後に１９３ページ～２１６ページを読む。
12	持分会社	合同会社、合名会社、合資会社について学ぶ。	事前に２１７ページ～２２３ページを読む。 事後に２１７ページ～２２３ページを読む。
13	社債	社債の意義、社債の種類、社債の発行、社債の管理について学ぶ。	事前に２２５ページ～２３６ページを読む。 事後に２２５ページ～２３６ページを読む。
14	組織再編行為	企業の結合と組織再編序説、組織変更、合併、会社分割、株式交換・株式移転、合併、会社分割、株式交換・株式移転の手続について学ぶ。 合併、会社分割、株式交換・株式移転の無効	事前に２３７ページ～２９０ページを読む。 事後に２３７ページ～２９０ページを読む。
15	会社の消滅と倒産処理、外国会社	更生、解散、通常清算、特別清算、外国会社について学ぶ。	事前に２９１ページ～３１４ページを読む。 事後に２９１ページ～３１４ページを読む。

関連科目	金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー会社法(最新版)	藤田勝利・北村雅史	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験 80%、復習テスト 20%
学生への メッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語をしないで下さい。ポケット六法は、授業には、必ず、携帯して下さい。会社法は比較的、他の法律の知識を前提にしておらず、完結していますので理解しやすい。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	予習・復習には各 1 時間とって下さい。

科目名	行政法	科目名（英文）	Administrative Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3074a0		

授業概要・目的	私たちの生活や新聞で目にする多くの事柄には，さまざな行政活動や行政サービスが関わっています。行政法とは，そのような多岐にわたる行政の活動・サービスの根拠や仕組みを規律する法規範の総称です。この授業では，行政プロセスを規律するそのような法的な仕組み，ルールとしてどのようなものがあるか，具体例に即して学ぶことを目的としています。
到達目標	この授業では，学生に次の３点を達成することが期待されます。 （１）具体例に即して，行政法の基本原理・原則を理解し，分かりやすく説明できる。 （２）具体例に即して，行政法の基本的な制度・仕組みを読み解くことができる。 （３）具体的問題について，行政法の原則，制度をもとに思考・処理できる。
授業方法と留意点	・反転授業 予め事前資料に目を通し，基礎知識を身に着けた上で授業に臨んでください。授業ではこれらの基礎知識を問う問題と，発展的な課題を扱います。 ・授業資料 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので，そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください（授業中の配布はありません）。 ・その他 授業中は，質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り，皆さんの理解を助けるようにします。間違いをおそれずに積極的に発言することを望んでいます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験および各種の資格試験で問われる行政法の基礎学力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 行政法の意義	授業・試験方法，成績評価などの説明。 行政法と社会の関わりを解説する。	事前学習:教科書 Chapter １を事前に読んでおくこと。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
2	法律による行政の原理	法律による行政の原理（法治国原理）の考え方と，その派生原理を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ２を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
3	行政法の一般原則（１）	比例原則を中心に，法治国原理に基づく一般原則を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ３を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
4	行政法の一般原則（２）	説明責任を中心に，市民参加に関するく一般原則を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ４を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
5	行政行為（１）	行政行為の基本的考え方 内容・手続に関するルール	事前学習：教科書 Chapter ５を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
6	行政行為（２）	行政裁量の基本的考え方と司法審査の枠組み	事前学習：教科書 Chapter ６を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
7	行政手続	行政手続の基本的な考え方，具体的なルールを学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ７を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
8	行政計画	都市計画を中心に，行政計画の基本的な内容とそれを巡るルールを学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ８を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
9	行政指導	行政指導の特徴と，その法的な規律について学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter ９を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
10	行政上の義務履行確保	代執行制度を中心に義務履行の基本的仕組みについて学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter １１を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
11	行政訴訟法（１）	取消訴訟の基本的仕組み，要件	事前学習：教科書 Chapter １２を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
12	行政訴訟法（２）	取消訴訟以外の抗告訴訟について，義務付け訴訟を中心に学ぶ，	事前学習：教科書 Chapter １２を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
13	行政不服申立て	行政不服審査法の考え方と仕組みについて学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter １６を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
14	国家賠償	違法な行政の活動による損害の賠償制度について。	事前学習：教科書 Chapter １７を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。
15	損失補償	適法な行政活動により生じる損失の補償の仕組みについて。	事前学習：教科書 Chapter １８を事前に読む。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する。

関連科目	憲法，民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	社会とつながる行政法入門[第２版]	大橋洋一	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	行政法 Ⅰ　現代行政過程論	大橋洋一	有斐閣
2	グラフィック　行政法入門	原田大樹	新世社
3	行政法判例 50！	大橋真由美ほか	有斐閣

評価方法（基準）	毎回の授業で予習課題，復習課題を課し，授業の理解度（課題の提出内容）を評価します。 ・予習課題：２０％ ・復習課題：４０％

	・演習問題：４０％
学生への メッセージ	公務員志望，社会問題に関心のある学生の受講を歓迎します。
担当者の 研究室等	笛木講師室（11 号館 9 階）
備考	

科目名	労働法	科目名（英文）	Labor Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8○,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3075a0		

授業概要・目的	労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団体法」の２分野に大きく分けられますが、この授業では双方の分野を含めて労働法を概観します。
到達目標	この授業を通じて、学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	授業では教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布します。また、関連する判例や資料を指定することもあります。 可能な限り六法を準備して下さい。 講義では課題（小テスト）を課することがあります。最終回講義では期末試験を行います。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と基本構造	・労働法の全体像、規律構造 ・労働者の権利について	教科書第１編（2 頁－22 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
2	労働者保護の一般原則 労働契約	・労基法の適用範囲 ・労働契約の基本	教科書第２編第１章から第３章の２まで（２４頁-79 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
3	労働契約の当事者の権利義務	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務 ・配転と使用者の業務命令権	教科書第２編第３章の３から６まで（79 頁-109 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
4	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第２編第４章（110 頁-131 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
5	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第２編第５章の１から６（132 頁-154 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
6	休憩・休日 年次有給休暇 年少者と女性労働者の保護	・休憩に関する規制 ・年休権の内容 ・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第２編第５章の７から第７章まで（154 頁-184 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
7	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第２編第８章（185 頁-204 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
8	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第２編第９章（205 頁-223 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
9	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第２編第１０章(224 頁-242 頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
10	解雇・定年・退職 多様な働き方	・解雇の法理 ・パート労働、派遣労働	教科書第２編第１１、１２章（243 頁-286 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
11	労働組合の基本	労働組合の意義と目的	教科書第４編第１、２章（312 頁-329 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
12	団体交渉と労働協約	・団体交渉権の保障とその範囲 ・労働協約の効力	教科書第４編第３、４章（330 頁-354 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
13	労働争議	・争議行為の意義と限界	教科書第４編第５章（355 頁-379 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
14	組合活動と不当労働行為	・就業時間中の組合活動 ・不当労働行為の意義と救済	教科書第４編第６、７章（380 頁-418 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
15	期末試験	これまで学習した事項について試験を行います。	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと（1 時間）

関連科目	日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法［第 13 版］	安枝英訷・西村健一郎	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働判例百選[第９版]		有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	期末テスト（7 割）、授業中の小テストを含む受講態度（3 割）を基礎とした総合評価をします。
学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11 号館９階　川谷研究室
備考	小テストを実施した場合、次回講義で問題の解説を行います。

科目名	経済学特別講義Ⅰ	科目名（英文）	Special Lecture on Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木田　洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP3○,DP4○,DP5◎,DP6○,DP7○,DP8○,DP9○		
科目ナンバリング	WDW1076a0		

授業概要・目的	この授業は、報道記者として社会や企業の問題点を追及し、役員としてコンプライアンスや人事（採用）を担ってきた経験を基にした「現場からの見た企業の社会的責任。役割」ついての講義。 現場の目線での「企業とは役割とは何か」とともに、採用・人事担当の目から「企業で働くこと」を考える。 近年 SDGs、CSR 言われる社会目標が、企業で重視されるようになった。企業が目先の利益を追い社会での役割、責任を疎かにしていることが明らかになると社会から糾弾される。実際に起こった企業の不祥事を基に、何故失敗したのか、何故社会から批判されたのかを考え、現代における企業の社会的責任を理解してもらう。企業は人がいて成り立つ。その企業が具体的にどんな人物を採用したいのかを知り、これから自らが企業で働くという実感をもってもらう。 ※（株）毎日放送で報道記者を経て、コンプライス・人事（採用）を担当する役員
到達目標	実際の企業の失敗事例などから企業と社会の関係性を理解する。何故失敗したのかという疑問を繰り返すことで、ひとつの考え方ではなく別の角度から発想するというクリティカル思考力や社会を広く見る俯瞰の目の育成を目指す。 また、採用の現場で学生が失敗、成功する事例を基に、大学の中だけでは見えにくい企業が求めるものは何かを理解し、自らが働く責任を知ってもらう。
授業方法と留意点	授業で、各回の課題として提出された疑問、意見の中から選んで次の回で考え方や見方を説明する。 また、授業計画は最新の事例等に応じて適宜見直し、変更するので ニュース等に目を通し、企業の社会的責任に関するニュースを気にしておいてもらう。 日々の話題のニュースなどで内容を変更することがある
科目学習の効果（資格）	それぞれの企業の役割を理解し、社会人として目先ではなく広く社会全体を見渡し、新しい時代の企業、仕事、働き方を考える力を養える。さらに採用責任者から見て就活に臨む学生に何が不足しているのか、企業が何を求めているかを理解できる。 就活の現場を知ることが出来る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の目的と方法を説明	
2	企業は社会に責任がある、企業にとってコンプライアンスとは？	メガバンクのシステム障害など企業の不祥事の事例から「何がいけなかったのか」を知り、コンプライアンスや企業の社会的責任・役割を知る授業の進め方について。	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
3	昔からあった商売の社会的責任・役割	近江商人の「三方よし」や渋沢栄一の名言など様々な企業の家訓、社是からビジネスと社会の歴史を読み解く	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
4	時代の進化とともに社会の求めるものも変わる	食品の規制の歴史を例にして時代とともに変わる社会が求める企業の責任	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
5	就活の現場では？企業の役割、社会との関係は？	企業は働く人に何を求めるのか、就活の現場での学生の思いとのミスマッチについて考える。	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
6	今、何故 SDGs や CSR が求められるのか	SDGs の意味と企業の対応。 各企業のコンプライアンス憲章、コーポレートガバナンス、ＣＳＲの比較する	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
7	不祥事事例から学ぶ１	放送局の不祥事の現場で何が起こっていたか？実際の体験から考える放送に求められるものは？そして何故起こったのか	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
8	不祥事事例から学ぶ２	危機対応のお手本という、ジョンソン＆ジョンソン事件やパナソニックのファンヒーター事故などから社会と向き合う対応。社会に信頼される企業とは？	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
9	不祥事事例から学ぶ３	謝罪会見で失敗は何故か起こるのか？ 雪印乳業食中毒事件から急増した謝罪会見の意味は？ 企業の姿勢が問われる「誰に何を謝るのか」	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
10	不祥事事例から学ぶ４	大学の不祥事を考える、大学の社会的責任、学生の立場は？ 日大アメフト部、不正経理問題など	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
11	不祥事事例から学ぶ５	電通の過労死問題と働き方改革 過重労働や過労死の問題点やコロナ対策で企業の在り方とともに変る働き方を考える	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
12	IT 化、グローバル化の時代の不祥事から学ぶ	情報漏洩事件の続出や、GAFA 規制やリクナビの就活生情報の流用ついての企業が持つ責任など	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
13	なぜ、失敗するのか？	大手メーカーで相次いだデータ偽装などで見る慣れや日本ブランドに潜む罠など	（事前）次の授業の事例について調べる （事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
14	経営としてどうすればいいのか？いい会社とは？	経営としての CSR、コーポレートガバナンス、企業の志とは？ 社会的責任と利益は繋がる	（事後）授業の内容で、感じた疑問、意見を提出
15	まとめ	働くものとしてどうしたらいいのか？ これまでの事例などから働くものとしてどう考え、行動するか	（事後）授業で提示したテーマについてリポートを提出

関連科目	
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	・毎回の課題提出（６0%）：毎回の授業の疑問、質問 ・レポート（４0%）：最終回に出す課題のレポート
学生への メッセージ	授業内容を就活の時や社会人として企業と社会の関係を見る時に生かして欲しい。まずは企業が求める人財は、何か、就活で何が求められるのかを知り、就活に臨む準備にして欲しい。失敗した企業はダメなのではなく、それを生かしてどう変わったかも見て欲しい。さらに自身が仕事をする時に、本当に会社、業界の当たり前にそれでいいのかと疑問を持って行動できるようになってもらいたい。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤　未奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、そのほかの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション英語に関する基礎事項の確認	受講に関する諸連絡（授業の進め方、各種テストについての説明など） 品詞の知識、辞書の使用法	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0001-0021
2	Natural vs Artificial: For AI voice assistance (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0022-0042
3	Natural vs Artificial: For AI voice assistance (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0043-0063
4	Relocating vs Protecting Buildings: How to preserve historical sites (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0064-0084
5	Relocating vs Protecting Buildings: How to preserve historical sites (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0085-0105
6	Disease Prevention vs Economic Growth: Which comes first? (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0106-0126
7	Disease Prevention vs Economic Growth: Which comes first? (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0127-0147
8	Extracurricular Activity vs Studying Hard: Discipline for preventing crimes (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0148-0168
9	Extracurricular Activity vs Studying Hard: Discipline for preventing crimes (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0169-0190
10	Traditional Living vs Urbanization: Is noise pollution? (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0191-0212
11	Traditional Living vs Urbanization: Is noise pollution? (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0213-0234
12	Fair Trade vs Free Trade: What is best for farmers? (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習
13	Fair Trade vs Free Trade: What is best for farmers? (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習
14	Environmental Activism vs International Agreements: Which is better?	語彙学習、映像の内容理解演習、リーディング演習	授業内容の予習・復習
15	前期まとめテスト実施	（終了後）テストの解説	まとめテストの復習

関連科目	基礎英語 IIa

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	AFP World News Report 6	宍戸真, Kevin Murphy, 高橋真理子	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test – Revised Edition –（指定の単語集）	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりおこなってください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号舘 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横内　美和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。状況が許せばペアワーク、グループワークも積極的に取り入れていきたい。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。5 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法についての説明、実力テスト	事後学習： 実力テストの復習
2	Unit 1: Speaking About yourself	自分自身について英語で話す リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： 授業で学習する単語をチェック 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読 ③文法、発音の確認
3	Unit 2: What Do You Do?	・小テスト ・様々な職業をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： 授業で学習する単語をチェック 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読 ③文法、発音の確認
4	Unit 3: What Does He Look Like?	・小テスト ・様々な人の外見をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： 授業で学習する単語をチェック 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読 ③文法、発音の確認
5	Unit 4: Where Are You From?	・小テスト ・出身地についてを英語で意思疎通できるように学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： 授業で学習する単語をチェック 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読 ③文法、発音の確認
6	Unit 5: Likes and Dislikes	・小テスト ・好き嫌いをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： 授業で学習する単語をチェック 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読 ③文法、発音の確認
7	Unit6: What's She Like?	・小テスト ・知人についての描写をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： 次週の中間テストに向けて復習 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読 ③文法、発音の確認
8	中間テスト	中間テスト Unit1～Unit6 までのテキストの内容から出題	事前学習： 中間テストに向けて復習
9	Unit7: Tell Me About Your Family	・小テスト ・家族をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： 授業で学習する単語をチェック 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読 ③文法、発音の確認
10	Unit8: Communication	・小テスト ・コミュニケーションをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、	事前学習： 授業で学習する単語をチェック 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読

			ライティング の力を向上を目指す	③文法、発音の確認
	11	Unit 9: How Are You Feeling?	・小テスト ・感情をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： 授業で学習する単語をチェック 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読 ③文法、発音の確認
	12	Unit 10: Memories	・小テスト ・思い出をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： 授業で学習する単語をチェック 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読 ③文法、発音の確認
	13	Unit 11: How Healthy Are You?	・小テスト ・健康状態をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： 授業で学習する単語をチェック 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読 ③文法、発音の確認
	14	Unit 12: You Can Fly!	・小テスト ・心のもち方をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： 授業で学習する単語をチェック 次週の期末テストに向けて復習 事後学習： ①単語、重要表現の暗記 ②対話文の音読 ③文法、発音の確認
	15	期末テスト	期末テスト Ｕｎｉｔ７～Ｕｎｉｔ１２までのテキストの内容から出題	事前学習： 期末テストの準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of People	Peter Vincent, Naoko Nakazato, Alan Meadows	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

全学共通英語課題　２０％
期末、中間テスト　６０％
小テスト、課題などの平常点　２０％

学生への
メッセージ

辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。
積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。
①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
（原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。）

④総授業数の３分の２

担当者の
研究室等

非常勤講師室（7 号館 2 階）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	矢野　涼子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。４技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit1: Job Market in Transition	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明 Unit1の導入	テキスト全体に目を通しておく。
2	Unit1: Job Market in Transition	Unit1のリーディング文書の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit1の意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。担当の部分の日本語訳を考えておくこと。
3	Unit1: Job Market in Transition	リスニングやライティング中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
4	Unit2: Women in Business	Unit2のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit2のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
5	Unit2: Women in Business	リスニングやライティング中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
6	Unit3: Population Crisis	Unit3のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit3のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
7	Unit3: Population Crisis	リスニングやライティング中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
8	Unit4: Going Global	Unit4のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit4のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
9	Unit4: Going Global	リスニングやライティング中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
10	Unit5: Financial Reform	Unit5のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit5のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
11	Unit5: Financial Reform	リスニングやライティング中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
12	Unit6: The Lost Years	Unit6のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit6のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
13	Unit6: The Lost Years	リスニングやライティング中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
14	Unit7: Emerging Markets	読解、リスニングやライティングを通じて、語彙や英語表現を理解する。	Unit7のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
15	学期末最終レポート、Unit1～7の復習	Unit1～7 の文法や英語表現について復習する。	これまでの 15 回の授業で理解できなかったところを質問できるようにしておく。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	An Insight into the Japanese Economy	Mark Chang 他	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-(指定の単語集)	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度（授業内での発言や訳の準備等）30% 提出課題 30% 学期末最終レポート 40%
学生へのメッセージ	楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出する、分からない英単語を辞書で調べてくるなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。英語が苦手でも、努力次第で単位が取れ

	る科目です。一緒に充実した時間を過ごしましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learnign 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習 テキストの予習をしながら単語帳を作ること（以下同様）
2	What is "Black Friday"? (1)	現在時制・過去時制	テキストの予習と単語の学習
3	What is "Black Friday"? (2) What is a "leap year"? (1)	現在時制・過去時制 未来形・進行形	テキストの予習と単語の学習
4	What is a "leap year?" (2)	未来形・進行形	テキストの予習と単語の学習
5	Why do big ceremonies have a "red carpet"? (1)	完了形	テキストの予習と単語の学習
6	Why do big ceremonies have a "red carpet"? (2) Where did "mouthwash" come from? (1)	完了形 受動態・使役動詞	テキストの予習と単語の学習
7	Where did "mouthwash" come from? (2)	受動態・使役動詞	テキストの予習と単語の学習
8	What is a "Viking"? (1)	There is 構文、助動詞	テキストの予習と単語の学習
9	What is a "Viking"? (2) Why are oranges "orange"? (1)	There is 構文、助動詞 冠詞・代名詞	テキストの予習と単語の学習
10	Why are oranges "orange"? (2)	冠詞・代名詞	テキストの予習と単語の学習
11	Where did "Vaseline" come from? (1)	可算名詞・不可算名詞	テキストの予習と単語の学習
12	Where did "Vaseline" come from? (2) Why are flamingos "pink"? (1)	可算名詞・不可算名詞 形容詞・副詞	テキストの予習と単語の学習
13	Why are flamingos "pink"? (2)	形容詞・副詞	テキストの予習と単語の学習
14	復習	前期の内容の復習	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト 質疑応答	前期内容のまとめのテスト 前期内容についての質疑応答	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Answers to Everyday Questions 2	アーノルド・アラオ他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題（English Central）　20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテストなども含む)　80%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席するように心がけてください。わからないことがあれば、授業中や授業後に必ず質問をするようにしてください。毎回の予定は目安であり多少の変更もあり得ますので、授業中の説明をよく聞いておくようにしてください。皆さんの積極的な授業参加を期待しています。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ ﾅﾄﾞｩｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction Unit 1	Syllabus / Textbook Introduction Self-Introductions	
2	Unit 1 Continued	Getting to Know You	Homework
3	Unit 2	Food and Drink	Homework
4	Unit 3	Your Neighborhood	Homework
5	Unit 4	Daily Routines	Homework
6	Unit 5	Entertainment	Homework
7	Review / Preparation		Homework
8	Midterm Evaluation		
9	Unit 6	Friends and Dating	Homework
10	Unit 7	Fashion and Style	Homework
11	Unit 8	University Life	Homework
12	Unit 9	Shopping	Homework
13	Unit 10	Travel	Homework
14	Review / Preparation		Homework
15	Final Evaluation		

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『The English Gym』	Jon Charles	Oak Hills Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance / Participation: 60% Homework Assignments: 10% Quizzes / Tests: 30%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to speaking English with everyone!
担当者の研究室等	
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野　華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介	テキストの予習と単語の学習
2	Unit 1 I'm a Big Fan　（1）	Be 動詞（1）	テキストの予習と単語の学習
3	Unit 1 I'm a Big Fan　（2）	Be 動詞（2）	テキストの予習と単語の学習
4	Unit 2 He's Kissing Her (1)	現在進行形（1）	テキストの予習と単語の学習
5	Unit 2 He's Kissing Her (2)	現在進行形（2）	テキストの予習と単語の学習
6	Unit 3 I Don't Have Any Money (1)	現在形・肯定文と否定文（1）	テキストの予習と単語の学習
7	Unit 3 I Don't Have Any Money (2)	現在形・肯定文と否定文（2）	テキストの予習と単語の学習 確認テストに向けての学習
8	確認テスト	Unit 1-3 の内容のテスト	テキストの予習と単語の学習
9	Unit 4 What Do You Do Every Day? (1)	現在形・疑問文（1）	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習
10	Unit 4 What Do You Do Every Day? (2)	現在形・疑問文（2）	テキストの予習と単語の学習
11	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (1)	代名詞（1）	テキストの予習と単語の学習
12	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (2)	代名詞（2）	テキストの予習と単語の学習
13	Unit 6 Be Careful! (1)	命令文（1）	テキストの予習と単語の学習
14	Unit 6 Be Careful! (2)	命令文（2）	テキストの予習と単語の学習 まとめテストに向けての学習
15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Charge	Robert Hickling、市川泰弘	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　　20% テスト 50%　　授業参加 30%
学生へのメッセージ	毎回出席することを心掛けてください。
担当者の研究室等	７号館２階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1318c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introducing Yourself 自己紹介する	授業内容の説明 語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
2	Introducing Yourself 自己紹介する	リーディング：グーグル新入社員の一週間 ライティング：自己紹介メールを書く	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
3	Introducing Companies 自社の説明をする	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
4	Introducing Companies 自社の説明をする	リーディング：世界最古の会社は？ ライティング：所属会社の説明をする	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
5	Explaining Your Role 業務を説明する	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
6	Explaining Your Role 業務を説明する	リーディング：変な肩書 ライティング：会社の組織を説明する	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
7	Introducing Products 製品情報	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
8	Introducing Products 製品情報	リーディング：機能 vs.顧客が商品から得られる良い効果 ライティング：商品情報を伝える	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
9	Checking information 情報確認	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
10	Checking information 情報確認	リーディング：質問の重要性 ライティング：質問メールを書く	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
11	Giving Your Opinion 意見を述べる	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
12	Giving Your Opinion 意見を述べる	リーディング：ビジネスでは単刀直入に ライティング：提案するメールを書く	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。

				発音や意味で分からなかった点をチェックする。
	13	Making Requests 依頼する	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
	14	Making Requests 依頼する	リーディング：ノーと答えることの重要性 ライティング：依頼メールを書く	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
	15	Review まとめと復習	Unit 1〜7 のまとめと復習	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson, Graham Skerritt, Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC TEST	NISHIYA Koji	SEIBIDO
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

全学共通英語課題　　20%
授業中の発言、発表 40%
復習テスト　　４０％

学生への
メッセージ

担当者の
研究室等

備考

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤　未奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、そのほかの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション Alternative vs Fossil Energy: Power for the future (1)	受講に関する諸連絡（授業の進め方、各種テストについての説明など） 語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0235-0278
2	Alternative vs Fossil Energy: Power for the future (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0279-0324
3	Vegetarians vs Meat Eaters: Fighting dietary habits for the environment (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0325-0370
4	Vegetarians vs Meat Eaters: Fighting dietary habits for the environment (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0371-0415
5	Endangered Species vs Diplomacy: Animal rights (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0416-0438
6	Endangered Species vs Diplomacy: Animal rights (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0439-0459
7	Old vs New Industries: Solving unemployment (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0460-0480
8	Old vs New Industries: Solving unemployment (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0481-0501
9	Needed vs Not Needed: Affirmative action (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0502-0522
10	Needed vs Not Needed: Affirmative action (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0523-0543
11	Traditional vs Innovative: Food culture you prefer (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0544-0565
12	Traditional vs Innovative: Food culture you prefer (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習；e-learning（English Central）学習 0566-0587
13	Climate Change vs Natural Cycle: Is Earth really warming? (1)	語彙学習、映像の内容理解演習	授業内容の予習・復習
14	Climate Change vs Natural Cycle: Is Earth really warming? (2)	音読演習、リーディング演習、文法学習	授業内容の予習・復習
15	後期まとめテスト実施	（終了後）テストの解説	まとめテストの復習

関連科目	基礎英語 Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	AFP World News Report 6	宍戸真, Kevin Murphy, 高橋真理子	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	全学共通英語課題（EnglishCentral）　20%

（基準）	TOEIC Bridge　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりおこなってください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号舘 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横内　美和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	日常生活に関する様々な英語を学習し、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	前期と同様に、演習方式の授業を行うので、積極的な授業への参加を期待する。状況が許せば、ペアワークやグループワークを積極的に取り入れていきたい。なお、状況により、授業の進度が変更になることもあるので留意すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明、実力テスト	事後学習：実力テストの復習
2	Unit 1: Roommate	ルームメイトをトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
3	Unit 2: Checking Out	小テスト（単語、文法問題） 買い物をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
4	Unit 3: Get in Shape	小テスト（単語、文法問題） 健康と体調管理をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
5	Unit 4: Money Management	小テスト（単語、文法問題） 金銭管理をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
6	Unit 5: Close Ties	小テスト（単語、文法問題） 身近な人たちをトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
7	Unit 6: Time to Celebrate	小テスト（単語、文法問題） 休暇をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
8	Unit 7: Animals in Danger	小テスト（単語、文法問題） 危険にさらされている動物をトピックに英語を学習 ・リスニング	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読

			・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
	9	Unit 8: A Fine Art	小テスト（単語、文法問題） 芸術をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
	10	Unit 9: Tune In	小テスト（単語、文法問題） テレビをトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
	11	Unit 10: Music to Our Ears	小テスト（単語、文法問題） 音楽をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
	12	Unit 11: Study Abroad	小テスト（単語、文法問題） 留学をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
	13	Unit 12: Technology and You	小テスト（単語、文法問題） テクノロジーをトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
	14	Unit 13: Right and Wrong	小テスト（単語、文法問題） 正しいこと間違っていることをトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習：学習予定の Unit の単語をチェックエックしておく。 事後学習： ①Reading Passage の音読 ②単語、重要表現の暗記 ③文法、発音の確認 ④小テストの予習
	15	期末テスト	これまでの学習内容の確認と総復習 （Unit1～Unit13 まで）	事前学習：期末テストに向けての復習 事後学習： これまでの授業内容の総復習と確認

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	NEW Connection 2	角山照彦　他	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題　２０％
TOEIC Bridge スコア　１０％
授業への参加、貢献（小テスト、発表等も含む）　５０％
まとめテスト（中間テスト、期末テスト）　２０％

学生への メッセージ	紙ベースの辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。） ④総授業数の
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	矢野　涼子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit7: Emerging Markets	授業の進め方や評価方法の説明 Unit7 のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit7 のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
2	Unit7: Emerging Markets	リスニングやライティング中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
3	Unit8: Environmental Management	Unit8 のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit8 のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
4	Unit8: Environmental Management	リスニングやライティング中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
5	Unit9: New Work Style	Unit9 のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit9 のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
6	Unit9: New Work Style	リスニングやライティング中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
7	Unit10: Stocks and Cross-Shareholding	Unit10 のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit10 のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
8	Unit10: Stocks and Cross-Shareholding	リスニングやライティング中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
9	Unit11: The Dollar-Yen Exchange Rate	Unit11 のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit11 のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。
10	Unit11: The Dollar-Yen Exchange Rate	リスニングやライティング中心に、語彙や英語表現を理解する。	意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。ディスカッション課題について、自分の意見をまとめておくこと。
11	Unit12 GDP and Economic Growth	Unit12 のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit12 のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。教科書の Exercises に取り組み、わからない部分を質問できるようにしておくこと。
12	Unit13 Inflation and Deflation	Unit13 のリーディング文章の読解を中心に、文法や英語表現を理解する。	Unit13 のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。教科書の Exercises に取り組み、わからない部分を質問できるようにしておくこと。
13	Unit14 Free Trade and TPP	読解、リスニングやライティングを通じて語彙や文法、英語表現を理解する	Unit14 のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。教科書の Exercises に取り組み、わからない部分を質問できるようにしておくこと。
14	Unit15 Convenience Stores and Tanpin Kanri	読解、リスニングやライティングを通じて語彙や文法、英語表現を理解する	Unit15 のリーディング文章を読んでおくこと。意味の分からない単語は辞書で調べておくこと。教科書の Exercises に取り組み、わからない部分を質問できるようにしておくこと。
15	まとめのテスト、1年間のまとめ	Unit1～15 の文法や英語表現について復習する。	分からない点を質問できるようにしておく。

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	An Insight into the Japanese Economy	Mark Chang 他	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-(指定の単語集)	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	授業への参加、貢献、授業態度等 30% 提出物 30% まとめのテスト 40%
学生への メッセージ	楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出する、分からない英単語を辞書で調べてくるなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。英語が苦手でも、努力次第で単位が取れる科目です。一緒に充実した時間を過ごしましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learnign 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	前期の内容の復習、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習 テキストの予習をしながら単語帳を作ること（以下同様）
2	What is a movie "trailer"? (1)	比較	テキストの予習と単語の学習
3	What is a movie "trailer"? (2) Where did "bubble wrap" come from? (1)	比較 不定詞・動名詞	テキストの予習と単語の学習
4	Where did "bubble wrap" come from?(2)	不定詞・動名詞	テキストの予習と単語の学習
5	Why is a billiard table "green"? (1)	接続詞・前置詞	テキストの予習と単語の学習
6	Why is a billiard table "green"? (2) Why is a film called "footage"? (1)	接続詞・前置詞 話法	テキストの予習と単語の学習
7	Why is a film called "footage"? (2)	話法	テキストの予習と単語の学習
8	Where did "Coca-Cola" come from? (1)	付加疑問文・WH 疑問文	テキストの予習と単語の学習
9	Where did "Coca-Cola" come from? (2)	付加疑問文・WH 疑問文	テキストの予習と単語の学習
10	Why are social media apps "blue"?(1)	分詞・関係詞	テキストの予習と単語の学習
11	Why are social media apps "blue"? (2)	分詞・関係詞	テキストの予習と単語の学習
12	Where did "makeup" come from? (1)	仮定法・関係詞	テキストの予習と単語の学習
13	Where did "makeup" come from? (2)	仮定法・関係詞	テキストの予習と単語の学習
14	復習	後期の内容の復習	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、質疑応答	後期内容のまとめのテスト、後期内容についての質疑応答	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Answers to Everyday Questions 2	アーノルド・アラオ他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題（English Central）　20% TOEIC Bridge　10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテストなども含む)　70%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席するように心がけてください。わからないことがあれば、授業中や授業後に必ず質問をするようにしてください。毎回の予定は目安であり多少の変更もあり得ますので、授業中の説明をよく聞いておいてください。皆さんの積極的な授業参加を期待しています。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

	する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ ﾅﾄﾞｩｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course Review Summer Vacation Conversation Begin Unit 11	Summer Vacation	Homework
2	Unit 11	Summer Vacation (continued)	Homework
3	Unit 12	Family and Home	Homework
4	Unit 13	Eating Out	Homework
5	Unit 14	Work (part time jobs and future career)	Homework
6	Unit 15	Marriage and Family Life	Homework
7	Review / Preparation	Unit 11-15 Review	Homework
8	Midterm Evaluation	Unit 11-15 Evaluation	
9	Unit 16	People	Homework
10	Unit 17	Sightseeing in Japan	Homework
11	Unit 18	Holidays and Special Days	Homework
12	Unit 19	Big Issues	Homework
13	Unit 20	Future Plans	Homework
14	Review / Preparation	Unit 16-20 Review	Homework
15	Final Evaluation	Unit 16-20 Evaluation	

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『The English Gym』	Jon Charles	Oak Hills Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance / Participation: 60% Homework Assignments: 10% Quizzes / Evaluations: 30%
学生へのメッセージ	Let's have fun speaking English together!
担当者の研究室等	
備考	

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中野　華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習　プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習
2	Unit 7 let's Meet at the Station (1)	場所を示す前置詞（１）	テキストの予習と単語の学習
3	Unit 7 let's Meet at the Station (2)	場所を示す前置詞（２）	テキストの予習と単語の学習
4	Unit 8 How Was Rome? (1)	was/were (1)	テキストの予習と単語の学習
5	Unit 8 How Was Rome? (2)	was/were (2)	テキストの予習と単語の学習
6	Unit 9 I Read it in a Magazine (1)	過去形・肯定文（１）	テキストの予習と単語の学習 確認テストに向けての学習
7	確認テスト	これまでの内容の確認テスト	テキストの予習と単語の学習
8	Unit 9 I Read it in a Magazine (2)	過去形・肯定文（２）	テキストの予習と単語の学習
9	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (2)	過去形・否定文と疑問文（２）	テキストの予習と単語の学習
10	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (2)	過去形・否定文と疑問文（２）	テキストの予習と単語の学習
11	Unit 11 The Goats Were Dancing (1)	過去進行形（１）	テキストの予習と単語の学習
12	Unit 11 The Goats Were Dancing (2)	過去進行形（２）	テキストの予習と単語の学習
13	Unit 12 If Animals Could Tali (1)	接続詞（１）	テキストの予習と単語の学習
14	Unit 12 If Animals Could Tali (2)	接続詞（２）	テキストの予習と単語の学習 まとめテストに向けての学習
15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Charge	Robert Hickling, 市川康弘	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　　20% TOEIC Bridge　のスコア　10% 授業参加　30% テスト　　40%
学生へのメッセージ	辞書を持参し、毎回出席することを心掛けてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Asking Permission 許可を求める	授業内容の説明 語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
2	Asking Permission 許可を求める	リーディング：GDPR： 個人情報保護法について ライティング：許可を求めるメールを書く	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
3	Making Invitations 人を誘う	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
4	Making Invitations 人を誘う	リーディング：食事に招待するときの注意点 ライティング：歓送迎会の招待状を書く	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
5	Making Appointments 予約を取る	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
6	Making Appointments 予約を取る	リーディング：会議のベストタイミング ライティング：ミーティングの日時を調整するメールを書く	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
7	Cancelling and Rescheduling 会議のキャンセル、再調整をする	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
8	Cancelling and Rescheduling 会議のキャンセル、再調整をする	リーディング：会議の再調整方法 ライティング：会議を再調整するメールを書く	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
9	Describing Locations 位置情報を伝える	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
10	Describing Locations 位置情報を伝える	リーディング：アップル社の斬新なオフィス ライティング：道案内するメールを書く	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
11	Looking after a Visitor 訪問客	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
12	Looking after a Visitor 訪問客	リーディング：贈答の慣習 ライティング：礼状を書く	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。

				発音や意味で分からなかった点をチェックする。
	13	Making a Phone Call 電話連絡	語彙の確認 リスニング モデルダイアログを使ったスピーキング	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
	14	Making a Phone Call 電話連絡	リーディング：LINE について ライティング：再確認するメールを書く	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。
	15	Review まとめと復習	Unit 8～14 のまとめと復習	出版社 SEIBIDO のウェブサイトでテキストの音声を聴く。 意味を考えながら繰り返し音声を聴く。 音声の後に発音する。 発音や意味で分からなかった点をチェックする。

関連科目：すべての英語授業

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson, Graham Skerritt, Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC TEST	NISHIYA Koji	SEIBIDO
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題　20%
TOEIC Bridge Score　10%
授業中の発言、発表　30%
復習テスト　40%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

備考

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	―

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Carnaval	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary - Revised Ed.	Nishiya	Seibido
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 10% Homework assignments 10% Class participation and attitude, ability, vocabulary 70%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson. If there is any change due to online instruction, students wil
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松吉　翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	1 年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
到達目標	トピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海 外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しなが ら、複数の英文を連続して発話できるス
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	教科書の指定箇所（語彙・文法・読解など）を事前学習する。(1 時間)
2	Unit 1 : People	Getting To Know You & Appearance	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
3	Free Talk & Movie ① & TOEIC ①	English Expressions & Movie ; Quiz ① (Unit 1)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
4	Unit 2 : Behavior	What Are You Doing? & How Do You Feel?	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
5	Free Talk & Movie ② & TOEIC ②	English Expressions & Movie ; Quiz ② (Unit 2)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
6	Unit 3 : Shopping	At the Supermarket & Let's Go Shopping!	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
7	Free Talk & Movie ③ & TOEIC③	English Expressions & Movie ; Quiz ③ (Unit 3)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
8	Unit 4 : Vacation	How's the Weather? & Taking a Trip	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
9	Free Talk & Movie ④ & TOEIC ④	English Expressions & Movie ; Quiz ④ (Unit 4)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
10	Unit 5 ; Heros	Pioneers & A Helping Hand	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
11	Free Talk & Movie ⑤ & TOEIC ⑤	English Expressions & Movie ; Quiz ⑤ (Unit 5)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
12	Unit 6 : The Mind	Memory & Sleep	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
13	Free Talk & Movie ⑥ & TOEIC ⑥	English Expressions & Movie ; Quiz ⑥ (Unit 6)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
14	Speaking Activities (English Presentation)	English Presentation Project	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)
15	Review (Final Assignment)	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。(１時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	World Link 1 (4th Edition)	Nancy Douglas; James R. Morgan	Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	随時配布		
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ...80% ※詳しい内容は初回授業で説明します。
学生へのメッセージ	「楽しく英語に触れる」ことを大切にし、いろんな活動（ドラマ、音楽、映画など）を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきましょう！また、TOEIC などの学習も随時行なっていきます。
担当者の研究室等	非常勤講師室(7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習活動については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation Unit 1 を始める	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどの説明	テキストの予習 Unit 1 単語問題(p.1)
2	1 Sink or Swim	CDを聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
3	1 Sink or Swim	CDを聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
4	2 Biology of Microbes	CDを聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
5	2 Biology of Microbes	CDを聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
6	3 The Last Moment Matters	CDを聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
7	3 The Last Moment Matters	CDを聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
8	4 Owning and Cloning Your Pet 授業後、中間テスト	中間テスト（前半の学習内容の確認	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること） 中間テストに向けての復習
9	4 Owning and Cloning Your Pet	CDを聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
10	5 Drift Ice Comes	CDを聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
11	5 Drift Ice Comes	CDを聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
12	6　Linear　Precipitation Band	CDを聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
13	6　Linear　Precipitation Band	CDを聴く 本文の内容確認	下読みと単語調べ（必ずCD音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）

			注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	
	14	7 Pollution Solution	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
	15	まとめテスト	期末のテスト（後半の学習内容の確認）	まとめテストに向けての勉強

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Science Stream	Philip Rowles ・野﨑嘉信・松本和子	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (Revised Edition)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題(English Central)　20% 授業への参加度（単語小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	この 10 年程の科学技術の発展は目覚ましいものがあります。この教科書では日常的に接しているもの、世間でよく話題になっていることなどを取り上げてあります。科学的な視点からの利用方法などを知り、自らの専攻分野の知識を広げることへ役立ててもらえたら幸いです。 単語やフレーズは常日頃から覚えるようにしてください。(忘れた頃にまた覚えるを何度か繰り返す、がいいです。）教科書の進度状況に応じて随時単語テストをします。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題の準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降に行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	（１）大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。　また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。　同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。　また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 （２）PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 （３）学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習（次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習（固有名詞、複数形など）	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
4	趣味についての文章を通して主語＋動詞～の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
7	コンサートについての文章を通して How＋形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習（今週、次週のユニット）、クロスワードパズルの暗記
15	9－14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% まとめテスト 50%、小テスト 30%で評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。elearning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席(＝オンラインによる課題の未提出)のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事前学習課題：テキストに書かれている映画の概要を読む 事後学習課題：指定した内容の復習
2	Unit 1: The Woman in the Picture （文法：分詞 1）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
3	Unit 2: Back to Titanic （文法：受動態）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
4	Unit 3: Leaving Port（文法：助動詞）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
5	Unit 4: Don't Do It（文法：仮定法）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
6	Unit 5: Do You Love him?（文法：進行形）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
7	Unit 6: I Can't See You（文法：関係詞１）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
8	中間テスト	これまでの学習内容より中間テスト	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
9	Unit 7: I'm Flying（文法：関係詞 2）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読

			内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	
	10	Unit 8: Iceberg Right Ahead!（文法：完了形）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
	11	Unit 9: An Honest Thief（文法：分詞 2）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
	12	Unit 10: Goodbye, Mother（文法：未来系）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
	13	Unit 11, 12: Get in the Boat, Two Tragic Bullets（文法：代名詞、動名詞）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読
	14	Unit 13, 14: Promise Me, Rose's Secret（不定詞、否定）	・単語/文法テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニング） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ、音読 期末テストの準備
	15	期末テスト	これまでの学習内容より期末テスト	これまでの総復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Learn English with Titanic	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（課題の提出、中間・期末・単語テスト等を含む） 80%
学生への メッセージ	・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。） ①から③が続く場合、単位を認めない。 ・原則 3 回以上の欠席は単位不可とします。また、遅刻は３回で１
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	土田　智佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティングカ」としては、CEFR-JIA2.11を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業方針・評価方法などの説明	事前：教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 See you soon	現在形と現在進行形の復習、及びUnit 1の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
3	Unit 2 Welcome to Japan!	加算・不可算名詞の復習、及び Unit 2の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
4	Unit 3 Sandy's first sushi	代名詞の復習、及びUnit 3の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
5	Unit 4 Festival fun	形容詞・副詞の復習及び、Unit 4 の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
6	Unit 5 Play ball!	前置詞の復習及び、Unit 5の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
7	Unit 6 Lucky cats	Wh疑問文の復習及び、Unit 6の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
8	Unit 7 No one sings like Brian	他動詞・自動詞の復習及び、Unit 7 の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
9	Unit 8 Yui's cooking class	不定詞・動名詞の復習及び、Unit 8 の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
10	Unit 9 Where's Sandy?	過去形・過去進行形・現在完了の復習及び、Unit 9の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
11	Unit 10 Let's take a hike	未来の形の復習及び、Unit 10の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
12	Unit 11 Time for a tour	助動詞の復習及び、Unit 11の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
13	Unit 12 Photos from Hakone	比較級・最上級の復習及び、Unit 12の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
14	Unit 13 Sho's barbecue party	能動態・受動態の復習及び、Unit 13の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
15	Unit 14 On the go	接続詞の復習をしながら、Unit 14の学習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。

関連科目	他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Contrasts	Robert Hickling	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	英語が話せれば、読めれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおお

	よそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2320c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみなら ず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。 CEFR J[A2 2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。「会話・ライティング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、練習問題に取り組む	特になし
2	Chapter 1：Top Issues　英国の抱える最大の問題点１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
3	Chapter 1：Top Issues　英国の抱える最大の問題点２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
4	Chapter 2：Wales　歌声の国ウェールズ１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
5	Chapter 2：Wales　歌声の国ウェールズ２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
6	Chapter 3：The Royal Family エディンバラ公爵フィリップ殿下逝去１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
7	Chapter 3：The Royal Family エディンバラ公爵フィリップ殿下逝去２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
8	Chapter 4：Clubbing Experiment　リバプールでのイベント実験１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
9	Chapter 4：Clubbing Experiment　リバプールでのイベント実験２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
10	Chapter 5：Cyber Crime　英国でのサイバー犯罪１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
11	Chapter 5：Cyber Crime　英国でのサイバー犯罪２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
12	Chapter 6：Technology & Politics in Scotland　海上風力発電所１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
13	Chapter 6：Technology & Politics in Scotland　海上風力発電所２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、まとめテストの準備
14	まとめ１	Chapter 1-6 の復習、およびまとめテスト	Chapter 1-6 の復習
15	まとめ２	Chapter 1-6 の復習、まとめテストの返却、解説	Chapter 1-6 の復習

関連科目	実践英語 II a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英国の今：文化・社会・歴史 / Britain Today	James C. House	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition（指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	この授業では TOEIC 対策のテキストを用います。毎回授業の前半はテキストの問題に取り組み、後半はそこから発展させて、スピーキング、ライティング課題に取り組みます。インプットした英語表現を状況に合わせて応用し、アウトプットできるようにしていきましょう。授業時間が限られていますので予習は必須です。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

	する。

科目名	実践英語Ⅱa	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検討

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD　Ｃａｒｎａｖａｌ	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary - Revised Ed.	Nishiya	Seibido
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation. Exam 20%, In-class quizzes, Homework assignments, Class participation, attitude, ability　vocabulary 80% All may, ａｔ　ｔｉｍｅｓ, ｂｅ　adapted for an online learning environment.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱa	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松吉　翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	1 年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 ※詳しくは初回授業で説明します。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣 味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e- learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation & Self-Introduction	
2	Unit 7：City Life	My Neighborhood & In the City	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
3	Free Talk & Movie ① & TOEIC ①	English Expressions & Movie；Quiz ① (Unit 7)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
4	Unit 8：All About You	Sports & Personality	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
5	Free Talk & Movie ② & TOEIC ②	English Expressions & Movie；Quiz ② (Unit 8)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
6	Unit 9：Change	Personal Habits & Breaking the Plastic Habit	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
7	Free Talk & Movie ③ & TOEIC ③	English Expressions & Movie；Quiz ③ (Unit 9)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
8	Unit 10：Health	The Body & Stress	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
9	Free Talk & Movie ④ & TOEIC ④	English Expressions & Movie；Quiz ④ (Unit 10)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
10	Unit 11：Achievement	Talented People & Risk	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
11	Free Talk & Movie ⑤& TOEIC ⑤	English Expressions & Movie；Quiz ⑤ (Unit 11)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
12	Unit 12：At the Movies	What's Playing? & Movie Reviews	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
13	Free Talk & Movie ⑥ & TOEIC ⑥	English Expressions & Movie；Quiz ⑥ (Unit 12)	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
14	Speaking Activity (English Presentation)	English Presentation Project	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）
15	Final Assignment & Review	Review & Reflection Sheet	講義で学んだことを復習し、指定された内容の学習をする。（1時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	World Link 1 (4th Edition)	Nancy Douglas; James R. Morgan	Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20% ・授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ...80% ※詳しくは初回授業で説明します。
学生へのメッセージ	「楽しく英語に触れる」ことを大切にし、いろんな活動（ドラマ、音楽、映画など）を通して「使ってみたくなる英語」を一緒に学んでいきましょう！また、TOEIC などの学習も随時行なっていきます。 ※後期からの履修も問題ありません。(選択科目の場合)
担当者の研究室等	非常勤講師室(7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおお

	よそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱa	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習活動については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation Unit 13 を始める	小テスト（語彙・文法）をする Unit 13　CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説	テキストの予習 下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
2	13　　State-of-the-Art Technology	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
3	14 Nature is Our Greatest Teacher	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
4	14 Nature is Our Greatest Teacher	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
5	15 Moon Tunnels	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
6	15 Moon Tunnels	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
7	16　Intelligence　Driving Our Future	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
8	16　Intelligence　Driving Our Future 授業後、中間テスト	中間テスト（前半の学習内容の確認）	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること） 中間テストに向けての復習
9	17 Hay Fever Horror	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
10	17 Hay Fever Horror	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
11	18 Pleasure Threshold	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
12	18 Pleasure Threshold	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）

	13	19 Stem Cell Heaven or Hell	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
	14	19 Stem Cell Heaven or Hell	CD を聴く 本文の内容確認 注目表現の解説 Exercises(語彙、TorF、並べ替え、英作文)	下読みと単語調べ（必ず CD 音声も聴き内容把握と発音練習に役立てること）
	15	まとめテスト	期末のテスト(後半の学習内容の確認)	まとめテストに向けての勉強

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Science Stream	Philip Rowles ・野﨑嘉信・松本和子	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (Revised Edition)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題(English Central)　20% 授業への参加度（単語テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	この 10 年程の科学技術の発展は目覚ましいものがあります。この教科書では日常的に接しているもの、世間でよく話題になっていることなどを取り上げてあります。科学的な視点からの利用方法などを知り、自らの専攻分野の知識を広げることへ役立ててもらえたら幸いです。 単語やフレーズは常日頃から覚えるようにしてください。(忘れた頃にまた覚えるを何度か繰り返す、がいいです。) 教科書の進度状況に応じて随時単語テストをします。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題の準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降に行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。

科目名	実践英語Ⅱa	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20%、TOEIC Bridge 10% 教員評価 70%（小テスト 30%、まとめテスト 40%）で全体の評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期３号館２階、後期７号館２階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱa	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べること。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事後学習： 実力テストの復習
2	Unit 1: be 動詞	・単語テスト ・文法のチェック ・You're Beautiful を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
3	Unit 2: 一般動詞（現在形）	・単語テスト ・文法のチェック ・I Want It That Way を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
4	Unit 3: 一般動詞（過去形）	・単語テスト ・文法のチェック ・The First Time を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
5	Unit 4:　進行形	・単語テスト ・文法のチェック ・Complicated を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
6	Unit 5: 未来表現	・単語テスト ・文法のチェック ・My Heart Will Go On を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認、中間テストの準備
7	中間テスト	これまでの内容より中間テスト	事前学習： 中間テストの準備
8	Unit 6: 助動詞	・単語テスト ・文法のチェック ・With You を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
9	Unit 7: 受動態	・単語テスト ・文法のチェック ・Torn を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
10	Unit 8: 現在完了形	・単語テスト ・文法のチェック ・You Are Not Alone を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
11	Unit 9: 比較	・単語テスト ・文法のチェック ・You Gotta Be を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
12	Unit 10: 分詞	・単語テスト ・文法のチェック ・How Crazy Are You?を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
13	Unit 11: 不定詞	・単語テスト ・文法のチェック ・Last Christmas を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認
14	Unit 12: 関係詞	・単語テスト ・文法のチェック ・Desperado を題材にリスニング ・文法、読解問題、リスニング	事前学習： Vocabulary Preview の暗記 事後学習： 文法事項、リスニング、発音の確認、期末テストの準備
15	期末テスト	これまでの学習内容より期末テスト	事前学習：

				これまでの総復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Learn English with Pop Hits! （ポップスでスタート！基礎英語）	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test（旧版）（指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。） ①から③が続く場合、単位を認めない。 ・原則 3 回以上の欠席は単位不可とします。また、遅刻は３回で１
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱa	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	土田　智佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-JIA2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR・JIA2.1)を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティングカ」としては、CEFR-JIA2.11を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ＊授業で使用する教科書、ノートは毎回必ず持参すること。教科書未購入の場合単位認定されないことがあります。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 01 : What's your major?	授業についての説明。 be 動詞の復習。 単語テスト	事前：シラバスを読む。単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
2	02 : How do you like your new school? 03 : Let's me introduce a new member to you.	一般動詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
3	04 : How was your Golden Week?	未来形の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
4	05 : I'm looking for a part-time job.	進行形の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
5	06：What do you call this in Japanese?	受動態の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
6	07 : Have you been there?	現在完了形の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
7	中間テスト	単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
8	08：Could you tell me how to get there?	助動詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
9	09：What do you want me to do?	不定詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
10	10 : I'm on the tight budget.	関係詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
11	11 : What do you think of this program?	形容詞・副詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
12	12 : I'm reviewing what I studied.	接続詞・前置詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
13	13：Final exam week is so stressful!	動名詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
14	14：Is this your first trip abroad?	分詞の復習。 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
15	8-14 のまとめテスト	総復習 単語テスト	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。

関連科目	他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Read Aloud & Learn English On Campus	角山照彦 ほか	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	英語が話せれば、読めれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	辞書は毎回の授業に持参すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト，提出物等は授業中にフィードバックする。

科目名	実践英語Ⅱａ	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2321c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみなら ず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。 CEFR J[A2 2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。「会話・ライティング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、 練習問題に取り組む	特になし
2	Chapter 7 : Sport　女性選手の活躍──勝利したジョッキー１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
3	Chapter 7 : Sport　女性選手の活躍──勝利したジョッキー２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
4	Chapter 8 : The Third Age　第三世代１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
5	Chapter 8 : The Third Age　第三世代２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
6	Chapter 9 : The New Nationalism　英国は世界から孤立するか１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
7	Chapter 9 : The New Nationalism　英国は世界から孤立するか２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
8	Chapter 10 : Literature & the Arts　ジョン・ル・カレ１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
9	Chapter 10 : Literature & the Arts　ジョン・ル・カレ２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
10	Chapter 11 : Environment　気候変動と地球の危機１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
11	Chapter 11 : Environment　気候変動と地球の危機２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、小テストの準備
12	Chapter 12 : The New Crime Bill　警察権限拡大の危険１	リーディング、リスニング問題に取り組む	リーディングセクションの予習、単語の確認
13	Chapter 12 : The New Crime Bill　警察権限拡大の危険２	語彙、文法、スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙の復習、文法事項の確認、まとめテストの準備
14	まとめ１	Chapter 1-6 の復習、およびまとめテスト	Chapter　1-6 の復習
15	まとめ２	Chapter　1-6 の復習、まとめテストの返却、解説	Chapter　1-6 の復習

関連科目	実践英語 IIａ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英国の今：文化・社会・歴史 / Britain Today	James C. House	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition（指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	この授業では TOEIC 対策のテキストを用います。毎回授業の前半はテキストの問題に取り組み、後半はそこから発展させて、スピーキング、ライティング課題に取り組みます。インプットした英語表現を状況に合わせて応用し、アウトプットできるようにしていきましょう。授業時間が限られていますので予習は必須です。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ビジネスイングリッシュⅠ	科目名（英文）	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西尾　優里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3305c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation for this class	Follow orientation instructions.
2	Unit 1-1： Zara's Recipe for Success: More Data, Fewer Bosses —ファストファッションブランドの成功の鍵— Zara	Check the contents of Unit 1: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
3	Unit 1-2： Zara's Recipe for Success: More Data, Fewer Bosses —ファストファッションブランドの成功の鍵— Zara	Writing and Speaking Session of Unit 1： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
4	Unit 2-1 ： Airbnb's Challenge and New Direction 民泊ビジネスにおける課題と挑戦— Airbnb	Check the contents of Unit 2: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
5	Unit 2-2 ： Airbnb's Challenge and New Direction 民泊ビジネスにおける課題と挑戦— Airbnb	Writing and Speaking Session of Unit 2： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
6	Unit 3-1:Augmented Reality Ecosystem in Facebook 拡張現実の構築で世界を変える？ —Facebook	Check the contents of Unit 3: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
7	Unit 3-2:Augmented Reality Ecosystem in Facebook 拡張現実の構築で世界を変える？ —Facebook	Writing and Speaking Session of Unit 3： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
8	Unit 4-1： Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer 「超高速」靴製造の技術革新 —Adidas	Check the contents of Unit 4: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
9	Unit 4-2： Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer 「超高速」靴製造の技術革新 —Adidas	Writing and Speaking Session of Unit 4： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
10	Unit 5-1： At Toyota, the Automation Is Human-Powered 自動車生産の自動化と職人技—Toyota	Check the contents of Unit 5: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
11	Unit 5-2： At Toyota, the Automation Is Human-Powered 自動車生産の自動化と職人技—Toyota	Writing and Speaking Session of Unit 5： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
12	Unit 6-1： How Starbucks Became a Successful Worldwide Brands グローバルブランドの原点と成功への道のり —Starbucks	Check the contents of Unit 6: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
13	Unit 6-2： How Starbucks Became a Successful Worldwide Brands グローバルブランドの原点と成功への道のり —Starbucks	Writing and Speaking Session of Unit 6： Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>14</td><td>Review for All Unites for Final Test</td><td>Review by yourselves and practice for Final Test</td><td>Follow assessment instructions.</td></tr>
<tr><td>15</td><td>Final test.</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>ビジネスイングリッシュ II</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Challenges of Global Enterprises</td><td>Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada, Angus McGregor</td><td>金星堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
(基準)</td><td>全学共通英語課題 (English Central) 20%
授業への参加、貢献 (participation, speaking and communication skills, various written activities, such as paragraphs, interaction and reflection reports) 80%

評価の詳細は、初回授業に説明します。必ず参加すること。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>Hi, everyone! I am Yuri Nishio and this year is my second year of teaching in Setsunan University.
We will discuss any topics by using video materials included the textbook.

I'm looking forward to teaching you this year.
Please participate fully in p</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>非常勤講師室 (7 号館 2 階) または email</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	ビジネスイングリッシュⅠ	科目名（英文）	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	891011121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3305c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション サントリー 住所を英語で書いてみる	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 英語で住所を書いてみる（導入）	ユニット単語調べ(予習学習部分の単語および音読(予習復習２時間) 単語は難しいのですが、単純に丸覚えするのではなく何度も教科書を音読するなどして覚えること。
2	サントリー 住所を英語で書いてみる	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 英語で住所を書いてみる（演習）	学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) 答えチェックした後間違えた部分をちゃんと見直しておく事。特に住所を英語で書く作業では間違いが多いので怠慢せずに書く練習をして間違えないようにしておく。
3	サントリー 住所を英語で書いてみる IT英語	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 英語で住所（発展）・IT英語	教科書の年表部分（予習）学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) IT 英語は基本的な表現なので問題を解いた後は暗記しておくこと。 訳にこだわる事なく情報を文章からピックアップ出来る様にプリントを復習しておくこと。
4	サントリー まとめを英語で書いてみる ビジネス用語	ビジネス用語プリントをやる 企業年表を教科書ワークでやったあと英語でまとめを書く	英語での作業に苦手意識のある者が多いので英語でまとめをする練習課題をします。まとめたあとにちゃんと意味が通るか確認すること。 学習部分の暗記課題および音読は (予習復習で２時間)
5	第一回テスト 会話表現 ナベル	テスト 会話表現プリント　ジグソーリーディング レッスン２導入	学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) 課題会話文は至って日常的なものなので自分が実際に言える事を想定して、覚えましょう。 意味を知らなかった人は授業で説明した事を書いて整理しておきましょう。
6	ナベル IT英語	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング・IT英語	学習部分の単語および音読 このセクションでは音読テストがあります。難しい単語が沢山出てきますが毎回音読チェックをしているのでプレゼンをするつもりではっきり正確に、意味を把握しながら読む練習をしてください。 (予習復習で２時間)
7	ナベル 音読 文法（受け身）	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 音読練習	学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) 受け身形に意識をしながら文章を読みます。文法問題もしますが全体的に苦手な学生が多いので何度も問題を実際に書いて復習してください。
8	ナベル　音読 文法（受け身）	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 音読練習	教科書の年表部分（予習）学習部分の単語および音読(予習復習で２時間) 音読テストはわかりやすく正確に、発表をしている設定で教卓付近でやってもらいます。練習を良くしておいて下さい。 受け身の文法練習は引き続きやること。
9	ナベル 音読テスト　グループ１ まとめを英語で書いてみる	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ 年表を教科書ワークでやったあと英語でまとめを書く 音読テスト　グループ１	試験勉強　学習部分の単語および音読 英語でまとめる作業の課題も二回目なのでだんだん慣れて来たら、自分なりに文章を工夫して短くしてみるのも良いです。過去のプリント、暗記課題は必ずやっておくこと。 (予習復習２時間)
10	第二回テスト 会話表現 グリコ 音読テスト　グループ２	テスト 会話表現プリント　ジグソーリーディング 新しいユニット導入	学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) 会話表現は意味を説明するので必ず演習の後見直して暗記すること。
11	グリコ ビジネス英語	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習CDリスニング 音読練習	学習部分の単語および音読 (予習復習で２時間) ビジネスシーンで使う言い回しやアクロニムを学ぶのでしっかり覚えておきましょう。また、分詞を使った文の解説をするのでよく復習しておくこと。
12	グリコ	単語、読解、ユニットのプリントを使っ	習部分の単語および音読

	IT 英語	てまとめ。演習 CD リスニング・IT 英語	(予習復習で２時間) 長い文の仕組みを解説するのでノートにまとめておくこと。 IT 英語プリントはポイント表現だけでなく文そのものが理解できるように復習しておく事。
13	グリコ 会話表現	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習 CD リスニング	学習部分の単語　レポート制作 (予習復習で２時間) 和訳にこだわらず内容をよく理解できるまで何度も読むこと。
14	グリコ まとめを英語で書いてみる	単語、読解、ユニットのプリントを使ってまとめ。演習 CD リスニング	学習部分の単語　レポート制作 (予習復習で２時間) 年表作りでは製品ごとの内容を分かりやすくまとめておく事。
15	第三回テスト 音読テスト再チャレンジ	第三回テスト 音読テスト再チャレンジ	試験勉強　学習部分の単語および音読(予習復習で２時間) 音読テストは何回もチャレンジ出来るのでより良いパフォーマンスができるように再度挑戦してみましょう。

関連科目：ビジネスイングリッシュ II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A visit to Amazing Kansai-based Companies	井上治・住屋和子・Lance Burrows・Amy Miyamoto・森本道孝・吉野成美	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法
(基準)

単語テスト　３X１１＝３３点
筆記テスト　１５点×３回＝４５点
提出物（まとめ）　３点×3 回＝9 点
音読テスト　５点
授業参加点　８点

学生への
メッセージ

退屈にならないようにバラエティに富んだ組み立てにしていますのでしっかりと内容を抑えていきましょう。

担当者の
研究室等

7 号館 2 階非常勤講師室　木曜２限目

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名（英文）	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西尾　優里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3306c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation for this class	Follow orientation instructions.
2	Unit 7-1 : McDonald's Modern Marketing Methods 顧客に寄り添う新たなマーケティング戦略—McDonald's	Check the contents of Unit 7: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
3	Unit 7-2 : McDonald's Modern Marketing Methods 顧客に寄り添う新たなマーケティング戦略—McDonald's	Writing and Speaking Session of Unit 7 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
4	Unit 8-1 : How TED Evolves and Where It Wants to Go Next 「広げる価値あるアイデア」プレゼンの進化—TED	Check the contents of Unit 8: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
5	Unit 8-2 : How TED Evolves and Where It Wants to Go Next 「広げる価値あるアイデア」プレゼンの進化—TED	Writing and Speaking Session of Unit 8 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
6	Unit 9-1 : Why Amazon Is the World's Most Innovative Company 「最も革新的な企業」が目指す未来—Amazon	Check the contents of Unit 9: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
7	Unit 9-2 : Why Amazon Is the World's Most Innovative Company 「最も革新的な企業」が目指す未来—Amazon	Writing and Speaking Session of Unit 9 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
8	Unit 10-1 : Sony Comes Back from the Brink 起死回生を賭けた取捨選択と新たな展望—Sony	Check the contents of Unit 10: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
9	Unit 10-2 : Sony Comes Back from the Brink 起死回生を賭けた取捨選択と新たな展望—Sony	Writing and Speaking Session of Unit 10 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
10	Unit 11-1 : IKEA's New Business Move for Millennials 若者の DIY 離れと新サービスの導入—IKEA	Check the contents of Unit 11: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
11	Unit 11-2 : IKEA's New Business Move for Millennials 若者の DIY 離れと新サービスの導入—IKEA	Writing and Speaking Session of Unit 11 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
12	Unit 12-1 : How Google Has Changed the World 検索エンジンが広げた世界のゆくえ —Google	Check the contents of Unit 12: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point	Follow orientation instructions.
13	Unit 12-2 : How Google Has Changed the World 検索エンジンが広げた世界のゆくえ —Google	Writing and Speaking Session of Unit 12 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics).	Follow orientation instructions.
14	Review for All Unites for Final Test	Review by yourselves and practice for Final Test	Follow assessment instructions.
15	Final test.		

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>ビジネスイングリッシュ II</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Challenges of Global Enterprises</td><td>Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada, Angus McGregor</td><td>金星堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
(基準)</td><td>全学共通英語課題 (English Central) 20%
授業への参加、貢献 (participation, speaking and communication skills, various written activities, such as paragraphs, interaction and reflection reports) 80%

評価の詳細は、初回授業に説明します。必ず参加すること。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>Hi, everyone! I am Yuri Nishio and this year is my second year of teaching in Setsunan University.
We will discuss any topics by using video materials included the textbook.

I'm looking forward to teaching you this year.
Please participate fully in p</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>非常勤講師室 (7 号館 2 階) または email</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授 業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名（英文）	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	891011121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3306c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit1 Suntory University Preps Workers for Global Growth	講義の進め方、評価方法の説明。 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	シラバスを読んでおくこと。
2	Unit3 Japanese office Worker's Stunning iPhone Sketches	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。 リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
3	Unit4 Perceptions of Space, from Japan to the World	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
4	Unit5 Robots to Descend on Haneda Airport	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
5	第一回チェックテスト Unit2 Japan Productivity Gains Key to Staving off Decline	第一回チェックテスト 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。スクリプトもよく読み込んでおくこと。
6	Unit6 Japanese Scientists Go High-tech to Repair Ancient Indonesian Temple	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
7	Unit 8 Multi-lingualization in Progress at Kyoto Station	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
8	Unit11 Things Japanese People Should Not Say to Westerners	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
9	Unit12 If Addressed by a Westerner..	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
10	第二回チェックテスト Unit9 Englishnization Advances at Rakuten	第二回チェックテスト 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングのスクリプトもよく読み込んでおくこと。
11	Unit15 University Survival Strategy	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
12	Unit16 Universities, NPOs Beef up Safety for Students Going Abroad	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
13	Unit18 Foreign-studies Universities to Train Volunteer Army of Interpreters	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
14	Unit19 How to Overcome the GAIJIN Complex	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	既習の学習内容を整理し、復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。
15	チェックテスト第三回	第三回チェックテスト	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。リスニングのスクリプトもよく読み込んでおくこと。

関連科目	ビジネスイングリッシュⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Leadership Adventures	Peter Nagano	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	筆記テスト　１６点×３回＝48 点 提出物（まとめ）　３点×3 回＝9 点 単語テスト　３x１１＝３３点 授業参加点　１０点
学生への	積極性を重視します。積極的に授業に参加してください。

メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室　（木曜 2 限）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ｉ	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ｉ / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units 4- 6	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

15%会話テスト１
15%会話テスト２
5%課題
20%スピーチ
15%授業への取り組み
10% 学習到達確認
20% TOEIC Bridge

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅰ	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger.
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh~' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 2: Sharing personal information. / Units 1 & 2 test. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh~' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

	pairs and			
7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and gro	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 4: Talking about habits and routines. / Units 3 & 4 test. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exerci	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%..com) corresponding to the unit studied in class. Repea

	14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) Others (20%)
学生への メッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！ In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Any student who is absent for
担当者の 研究室等	非常勤講師室（期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅰ	科目名（英文）	Basic English Conversation Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ⅰ / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test Ⅱ / Achievement Test, Units 4- 6	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2	The English Gym Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

15%会話テスト１
15%会話テスト２
5%課題
20%スピーチ
15%授業への取り組み
10% 学習到達確認
20% TOEIC Bridge

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！
担当者の研究室等	3 号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 I	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC などのスコアアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction	Students will take part in course and student introduction activities.	Students should study the content of the days lesson
2	Conversation Strategies	How to extend conversation by using comments and follow-up questions.	Students should study the content of the days lesson
3	Unit 1: Jobs	Vocabulary Introduction Listening Activity Wh-Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
4	Unit 1: Jobs	Presentation Skills Mini-Presentation 1: Your ideal job	Students should study the content of the days lesson
5	Unit 2: Daily Activities	Vocabulary Introduction Listening Activity Yes/No questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
6	Unit 2: Daily Activities	Presentation Skills Mini-Presentation 2: Your daily routine	Students should study the content of the days lesson
7	Conversation Strategy	Students will learn how express their opinions and phrases to agree and disagree with opinions that they hear.	Students should study the content of the days lesson
8	Midterm Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
9	Unit 4: Feelings	Vocabulary Introduction Listening Activity Subject and Object pronouns	Students should study the content of the days lesson
10	Unit 4: Feelings	Presentation Skills Mini-Presentation 3: What makes you happy?	Students should study the content of the days lesson
11	Unit 6: Talking about the past	Vocabulary Introduction Listening Activity Simple Past Tense	Students should study the content of the days lesson
12	Unit 6: Talking about the past	Presentation Skills Mini-Presentation 4: My Favorite Vacation	Students should study the content of the days lesson
13	Downtown	Vocabulary Introduction Listening Activity Prepositions of place	Students should study the content of the days lesson
14	Final Assessment	Students will complete a review activity demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
15	Discussion Activity	Students will do discussion activities in small groups.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 1	Susan Stempleski	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ）　７０％
（※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
Midterm Assessment Activity　15%
Final Assessment Activity 15%

学生への メッセージ	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills, as well as practice in writing. Students will work in pair
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅰ	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る１０%、スピーキング３５%、ロールプレイ３５%、クイズ２０%）　100% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。 会話力、ＴＯＥＩＣの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	3 号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅰ	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	基礎英会話の習得を目標とする。テキストは日常的に使っている英文を扱っており、しっかり学習すれば、リスニング、スピーキングの力も確実に向上する。会話の習得を目的とする授業であるから、学生が中心になり、学生によって進められていくべきであることは言うまでもない。
到達目標	状況に合わせた基礎的な日常的英会話ができる。
授業方法と留意点	学生主導の授業である。ペアワークなど、躊躇することなく積極的に参加すること。
科目学習の効果（資格）	英語を使ってのコミュニケーション能力がつき、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class Introduction		Class Introduction
2	Personal Information	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
3	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
4	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
5	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
6	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1 and 2 Test
7	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
8	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
9	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
10	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
11	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3 and 4 Test
12	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
13	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
14	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6
15	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6

関連科目	他の英語のクラスすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English In Common 1		Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎週のクイズ 40%、発表 30%、課題提出 30%）にて評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	事前・事後学習課題については 1 日 90 分程度行うこと。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話Ｉ	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ｉ / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units 4- 6	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	15%会話テスト１ 15%会話テスト２ 5%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ!
担当者の研究室等	7 号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅰ	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger.
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh~' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 2: Sharing personal information. / Units 1 & 2 test. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh~' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

	pairs and			
7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and gro	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 4: Talking about habits and routines. / Units 3 & 4 test. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exerci	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%..com) corresponding to the unit studied in class. Repea

	14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) Others (20%)
学生への メッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！ In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Any student who is absent for
担当者の 研究室等	非常勤講師室（期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅰ	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	下吉　真衣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1　What's your name?	授業の進め方や評価方法などの説明 自己紹介の仕方を学ぶ	宿題をする
2	Unit 1　What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
3	Unit 1　What's your name?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
4	Unit 2　I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
5	Unit 2　I love fashion!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
6	Unit 3　How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
7	Unit 3　How do you stay healthy?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
8	Unit 4　How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
9	Unit 4　How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
10	Unit 4　How do I get there?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
11	Unit 5　What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
12	Unit 5　What's that?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
13	Unit 6　What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
14	Unit 6　What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
15	Unit 6　What's your dream?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技	宿題をする

			術、語彙、文法を学ぶ	

関連科目	英語基礎会話Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success (Fifth Edition)	Marc Helgesen, John Wiltsher & Steven Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	宿題：30% 小テスト：30% 授業態度（グループワーク、発表など）：40%
学生への メッセージ	英語のスキルアップには、皆さん自身の普段の努力が欠かせません。 授業中に出される課題等以外にも、皆さんの目標に合った課題に積極的に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	英語基礎会話Ⅰ	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1　What's your name?	授業の進め方や評価方法などの説明 自己紹介の仕方を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える
2	Unit 1　What's your name?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
3	Unit 1　What's your name?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
4	Unit 2　I love fashion!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
5	Unit 2　I love fashion!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
6	Unit 3　How do you stay healthy?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
7	Unit 3　How do you stay healthy?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 会話課題、中間テストに備える
8	中間テスト、会話課題、学習活動	中間テスト、会話課題 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
9	Unit 4　How do I get there?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
10	Unit 4　How do I get there?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
11	Unit 5　What's that?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
12	Unit 5　What's that?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
13	Unit 6　What's your dream?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
14	Unit 6　What's your dream?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 会話課題、期末テストに備える
15	期末テスト、会話課題、学習活動	期末テスト、会話課題 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題

関連科目	英語基礎会話Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success (Fifth Edition): Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown	Pearson
2			
3			

参考書

	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	宿題と小テスト：　40% 授業中の取り組み：　20% 小プレゼンテーション：　20% 中間・期末テストと会話課題：　20%
学生への メッセージ	会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶので、毎週授業に出席することが重要です。
担当者の 研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	英語基礎会話Ⅰ	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る１０%、スピーキング３５%、ロールプレイ３５%、クイズ２０%）　100% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。 会話力、ＴＯＥＩＣの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	3 号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅰ	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業の進め方、評価の方法などの説明 ・簡単な自己紹介	・事前学習： 英語で自己紹介ができるように考えてくる
2	Unit 1: Nice to meet you. （自己紹介）	・単語テスト ・自己紹介をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
3	Unit 2:　What do you like to do? （趣味について紹介する）	・単語テスト ・趣味をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
4	Unit 3: Where are you from? （故郷について説明する）	・単語テスト ・故郷をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
5	Unit 4: Who's that? （家族について説明する）	・単語テスト ・家族をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
6	Unit 5: Where's that? （場所の説明）	・単語テスト ・場所の説明をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認 ・中間テストの準備
7	中間テスト	これまで学んだことより中間テスト （ペア・グループの発表＋筆記試験）	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit1～5 の総復習
8	Unit 6: How do we get there? （道順の説明）	・単語テスト ・道順の説明をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
9	Unit 7: Are you hungry? （食べ物について説明する）	・単語テスト ・食べ物をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
10	Unit 8: Let's eat! （レストランでの食事で使う表現）	・単語テスト ・レストランでの食事をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
11	Unit 9: What are you watching? （映画とテレビについて説明する）	・単語テスト ・映画とテレビをテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
12	Unit 10: What music do you like? （好きな音楽を紹介する）	・単語テスト ・音楽をテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
13	Unit 11: How much is it? （ショッピングで使う表現）	・単語テスト ・ショッピングをテーマに リスニング、スピーキング ・小テスト	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認
14	Unit 12: Let's play! （スポーツや運動で使う表	・単語テスト ・スポーツと運動をテーマに	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える

	現）	リスニング、スピーキング ・小テスト	事後学習： ・会話例の発音の確認 ・リスニングの確認 ・発表と筆記試験の準備
15	発表	これまで学んだことより発表 （ペア・グループの発表＋筆記試験）	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit6～12 の総復習

関連科目：英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コミュニケーションのための実践演習 Book 1〈初級編〉	James Bury / Anthony Sellick / 堀内　香織	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単 語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・単語テスト：10%
・中間テスト＋発表＋小テスト：70%
・授業態度：20%（授業で投げかけられた質問に回答がなされる状態や授業への集中度 、ペア・グループワークへの参加度、ノートやメモを取っているか等）
注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする（3 回を超える欠席は単位不可/遅刻は 3 回で 1 回の欠席）。

学生へのメッセージ

・授業やグループークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする学生にはどんどん成績を上げていきます。練習を積めば、英語での会話はそれほど難しいものではありません。毎回、一言でも多く話せるようにしましょう。

・紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。

・積極的に海外旅行や留学に行ってみましょう。英語の力だけでなく、視野が広がります。

・授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼしま

担当者の研究室等：非常勤講師室（7 号館 2 階）

備考：毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅰ	科目名（英文）	Basic English Conversation I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英語を使ってのコミュニケーション能力がつき、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class Introduction		Class Introduction
2	Personal Information	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
3	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
4	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
5	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
6	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1 and 2 Test
7	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
8	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
9	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
10	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
11	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3 and 4 Test
12	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
13	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
14	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6
15	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6

関連科目	他の英語のクラスすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English In Common 1		Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎週のクイズ 40%、発表 30%、課題提出 30%）にて評価する。
学生へのメッセージ	Be prepared to speak in class. Looking forward to seeing you.
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習課題については 1 日 90 分程度行うこと。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話Ⅰ	科目名（英文）	Basic English Conversation Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1324c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ⅰ / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/３分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test Ⅱ / Achievement Test, Units 4- 6	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2	The English Gym Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	15%会話テスト１ 15%会話テスト２ 5%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！
担当者の研究室等	3 号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ⅰ / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units １６-20	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	20%会話テスト１ 20%会話テスト２ 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ!
担当者の研究室等	7 号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	English conversation skills 英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. / Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

	conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. / Units 11 & 12 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ⅰ / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units １６-20	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2	The English Gym Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	20%会話テスト１ 20%会話テスト２ 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ!
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC のスコアアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Review of summer holiday	Review Activity based on the material from Semester 1. Discussion of summer holiday activities	Students should study the content of the days lesson
2	People we Admire	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Simple past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
3	People we Admire	Presentation Skills. Mini-Presentation 1: Describing someone you admire.	Students should study the content of the days lesson
4	At a Supermarket	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Count and Noncount nouns Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
5	At a Supermarket	Presentation Skills. Mini-Presentation 2: Teaching a recipe to the class.	Students should study the content of the days lesson
6	Health Problems	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: "Should" for giving advice. Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
7	Health Problems	Presentation Skills. Mini-Presentation 3: How to treat a health problem	Students should study the content of the days lesson
8	Midterm Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
9	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking activity to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
10	Cities	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Wh-Questions with the past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
11	Cities	Presentation Skills. Mini-Presentation 4: Vacation Recommendation. Describing where to go and why.	Students should study the content of the days lesson
12	Travel Plans	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Future plans with "be going to" and "might". Group speaking task.	Students should study the content of the days lesson
13	Travel Plans	Presentation Skills. Mini-Presentation 5: Your plans for the Spring Vacation	Students should study the content of the days lesson
14	Final Writing Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of all the material presented in the course.	Students should study the content of the days lesson
15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a short speaking assignment which will demonstrate their understanding of the speaking skills presented in this course.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / Stretch 1 / Susan Stempleski / Oxford 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 (基準)	Homework Assignments 10% Classwork 35% Mini-Presentations 15% Midterm Assessments 20% Final Assessments 20%
学生への メッセージ	This will be a continuation of the material we studied in the first semester. We will continue to develop your listening and communication skills through a variety of textbook and speaking activities.
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J［A2.1］を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る１０%、スピーキング３５%、ロールプレイ３５%、クイズ２０%）　100% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。 会話力、ＴＯＥＩＣの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	このコースでは、様々な幅広いトピックについて自分の経験や考えを表現することを学びます。授業はスピーキングを重視し、英語でよく使う会話表現を学びます。また、会話を繋げるための関連した質問の使い方も学びます。毎回スピーキング評価をするので、毎週自分が何を学んだのかを示すことができます。
到達目標	このコースの最終目標は、 英語の会話を 10 分間持続する方法を学び、 会話表現を使用することで英語での会話を導き、 英語で文法的に正確な質問を作ることができ、 ノートを取ることでリスニング力を向上させることです。
授業方法と留意点	宿題として毎週ライティングの課題があります。このライティングの課題は授業での会話の話題として使用することになります。授業は全てペアかグループでの活動になるので、クラスメートとの協力が必要になります。 このコースでは、同期性の授業でズームとチームズを使います。
科目学習の効果（資格）	このコースは資格を取得するのを目的とし、あなたのスキルを向上させるのに役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、課題、評価法の説明	ライティングの課題、授業内容の復習
2	自己紹介:人との出会いと共通した興味のある事柄についての短い会話	今日のターゲット：一般動詞を使った wh 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、 授業内容の復習
3	週末:よくある週末の過ごし方	今日のターゲットの復習:一般動詞を使った wh 疑問文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
4	食べ物:好きな食べ物、嫌いな食べ物	今日のターゲット：be 動詞を使った wh 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、 授業内容の復習
5	大阪:大阪のいい所、そうでない所	今日のターゲットの復習：be 動詞を使った wh 疑問文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
6	音楽:ジャンルとアーティスト	今日のターゲット：yes/no 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
7	仕事：仕事の経験	今日のターゲットの復習：yes/no 疑問	1 週目から 7 週目までの内容の復習

		文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	
8	スピーキングテスト 1	1 週目から 7 週目までのターゲットを含むスピーキングテストの実施:?一般動詞を含む wh 疑問文、?be 動詞を含む wh 疑問文、?yes/no 疑問文	ライティングの課題、授業内容の復習
9	旅行経験:最後に行った旅行の思い出	今日のターゲット:経験についての質問 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
10	伝統的文化:日本芸術、工芸、活動	今日のターゲットの復習:経験についての質問 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
11	有名人:自分が賞賛し尊敬する人々	今日のターゲット:仮説に基づく質問 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
12	夢の休暇:旅行の計画	今日のターゲットの復習:仮説に基づく質問 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
13	スポーツ:アスリートとチーム	今日のターゲット:繰り返しを求める 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
14	休暇の計画:春休みの行動	今日のターゲットの復習:繰り返しを求める 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	9 週目から 14 週目までの内容の復習
15	スピーキングテスト 2	9 週目から 14 週目までのターゲットを含むスピーキングテストの実施:?経験についての質問、?仮説に基づく質問、?繰り返しを求める	授業内容の復習

関連科目	英語基礎会話 a

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>English in Common 1</td><td></td><td>Pearson</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>発話量　30%
ライティング課題　24%
毎週実施のスピーキング評価　24%
スピーキングテスト　20%
資料のチェック　2%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>このクラスではたくさん発話する必要があります。授業に来る前に必ず話したい事を十分準備するようにしてください。そうすれば会話はとても楽しいものになりますよ！</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td></td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ⅰ / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units １６-20	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	20%会話テスト１ 20%会話テスト２ 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	English conversation skills 英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. / Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

	conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://smartchoice4e.oxfordonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. / Units 11 & 12 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.

		pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice Level 1 Student Book with Online Practice 4th Edition (ISBN: 978-0-19-406099-8)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	All online homework assignments completed by deadline (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	下吉　真衣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 7　It was great!	授業の進め方や評価方法などの説明 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
2	Unit 7　It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
3	Unit 7　It was great!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
4	Unit 8　How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
5	Unit 8　How much do you know?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
6	Unit 9　She can really sing!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
7	Unit 9　She can really sing!	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
8	Unit 10　What do you like to do?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
9	Unit 10　What do you like to do?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
10	Unit 10　What do you like to do?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
11	Unit 11　Of course you can.	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
12	Unit 11　Of course you can.	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
13	Unit 12　What happened next?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
14	Unit 12　What happened next?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題をする
15	Unit 12　What happened next?	前回の課題のフィードバックを確認する 個人・ペア・グループ活動を通して、会	宿題をする

			話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	

関連科目	英語基礎会話 I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success (Fifth Edition)	Marc Helgesen, John Wiltsher & Steven Brown	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	宿題：30% 小テスト：30% 授業態度（グループワーク、発表など）：40%
学生へのメッセージ	英語のスキルアップには、皆さん自身の普段の努力が欠かせません。 授業中に出される課題等以外にも、皆さんの目標に合った課題に積極的に取り組みましょう。
担当者の研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールや出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 7　It was great!	授業の進め方や評価方法などの説明 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
2	Unit 7　It was great!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
3	Unit 7　It was great!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
4	Unit 8　How much do you know?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
5	Unit 8　How much do you know?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
6	Unit 9　She can really sing!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
7	Unit 9　She can really sing!	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 会話課題、中間テストに備える
8	中間テスト、会話課題、学習活動	中間テスト、会話課題 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
9	Unit 10　What do you like to do?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
10	Unit 10　What do you like to do?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
11	Unit 11　Of course you can.	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
12	Unit 11　Of course you can.	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
13	Unit 12　What happened next?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 小テストに備える
14	Unit 12　What happened next?	小テスト 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題 会話課題、期末テストに備える
15	期末テスト、会話課題、学習活動	期末テスト、会話課題 個人・ペア・グループ活動を通して、会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術、語彙、文法を学ぶ	宿題

関連科目	英語基礎会話Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success (Fifth Edition): Student Book with MyMobileWorld ISBN: 9789813132764	Marc Helgesen, John Wiltsher, & Steven Brown	Pearson
2			
3			

参考書

	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	宿題と小テスト：　40% 授業中の取り組み：　20% 小プレゼンテーション：　20% 中間・期末テストと会話課題：　20%
学生への メッセージ	会話・プレゼンテーション・聴き取りの技術を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶので、毎週授業に出席することが重要です。
担当者の 研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J［A2.1］を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る１０%、スピーキング３５%、ロールプレイ３５%、クイズ２０%）　100% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。 会話力、ＴＯＥＩＣの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業の進め方、評価方法の説明	・事前学習： 英語で夏休みの出来事について発表できるように考えてくる
2	Unit 1: ファストフード店での注文	・単語テスト ・ファストフード店での注文について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
3	Unit 2: レストランでの来客対応	・単語テスト ・レストランでの来客対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
4	Unit 3: 接客サービス	・単語テスト ・接客サービスについて、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
5	Unit 4: コンビニやスーパーでの対応	・単語テスト ・コンビニやスーパーでの対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
6	Unit 5: 会計	・単語テスト ・会計時の対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認 ・中間テストの準備
7	中間テスト	これまで学んだことより中間テスト（ペア・グループの発表＋筆記試験）	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit1～5 の総復習
8	Unit 6: 苦情対応	・単語テスト ・苦情対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
9	Unit 7: ホテルでの宿泊客の受付	・単語テスト ・宿泊客の受付について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
10	Unit 8: サービス提供、近隣情報の案内	・単語テスト ・サービス提供、近隣情報の案内の仕方について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
11	Unit 9: 観光案内	・単語テスト ・観光案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
12	Unit 10: 道案内	・単語テスト ・道案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
13	Unit 11: 交通機関や観光施設の案内	・単語テスト ・交通機関や観光施設の案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	事前学習： ・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認
14	Unit 12: 発券機や機器の説	・単語テスト	事前学習：

		明	・発券機や機器の説明について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ ・小テスト	・Useful Words の単語を覚える 事後学習： ・Dictation の発音の確認 ・リスニングの確認 ・発表の準備
	15	発表	これまで学んだことより発表 （ペア・グループの発表＋筆記試験）	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit6～12 の総復習

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	You're Welcome! Communication with Tourists Made Easy	Tae Kudo	Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・単語テスト：10% ・中間テスト＋発表＋小テスト：70% ・授業態度：20%（授業で投げかけられた質問に回答がなされる状態や授業への集中度 、ペア・グループワークへの参加度、ノートやメモを取っているか等） 注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする（3 回を超える欠席は単位不可/遅刻は 3 回で 1 回の欠席）。
学生への メッセージ	・本授業では前期に引き続き、英語を話す力を養います。 ・授業やグループークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする学生にはどんどん成績を上げていきます。練習を積めば、英語での会話はそれほど難しいものではありません。毎回、一言でも多く話せるようにしましょう。 ・紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。 ・積極的に海外旅行や留学に行ってみましょう。ランゲージパートナーを作ることもお勧めです。英語の力だけでなく、視野が広がります。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	このコースでは、様々な幅広いトピックについて自分の経験や考えを表現することを学びます。授業はスピーキングを重視し、英語でよく使う会話表現を学びます。また、会話を繋げるための関連した質問の使い方も学びます。毎回スピーキング評価をするので、毎週自分が何を学んだのかを示すことができます。
到達目標	このコースの最終目標は、 英語の会話を 10 分間持続する方法を学び、 会話表現を使用することで英語での会話を導き、 英語で文法的に正確な質問を作ることができ、 ノートを取ることでリスニング力を向上させることです。
授業方法と留意点	宿題として毎週ライティングの課題があります。このライティングの課題は授業での会話の話題として使用することになります。授業は全てペアかグループでの活動になるので、クラスメートとの協力が必要になります。 このコースでは、同期性の授業でズームとチームズを使います。
科目学習の効果（資格）	このコースは資格を取得するのを目的とし、あなたのスキルを向上させるのに役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、課題、評価法の説明	ライティングの課題、授業内容の復習
2	自己紹介:人との出会いと共通した興味のある事柄についての短い会話	今日のターゲット：一般動詞を使った wh 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、 授業内容の復習
3	週末:よくある週末の過ごし方	今日のターゲットの復習:一般動詞を使った wh 疑問文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
4	食べ物:好きな食べ物、嫌いな食べ物	今日のターゲット：be 動詞を使った wh 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、 授業内容の復習
5	大阪:大阪のいい所、そうでない所	今日のターゲットの復習：be 動詞を使った wh 疑問文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
6	音楽:ジャンルとアーティスト	今日のターゲット：yes/no 疑問文 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
7	仕事：仕事の経験	今日のターゲットの復習：yes/no 疑問	1 週目から 7 週目までの内容の復習

		文 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	
8	スピーキングテスト 1	1 週目から 7 週目までのターゲットを含むスピーキングテストの実施:?一般動詞を含む wh 疑問文、?be 動詞を含む wh 疑問文、?yes/no 疑問文	ライティングの課題、授業内容の復習
9	旅行経験:最後に行った旅行の思い出	今日のターゲット:経験についての質問 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
10	伝統的文化:日本芸術、工芸、活動	今日のターゲットの復習:経験についての質問 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
11	有名人:自分が賞賛し尊敬する人々	今日のターゲット:仮説に基づく質問 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
12	夢の休暇:旅行の計画	今日のターゲットの復習:仮説に基づく質問 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
13	スポーツ:アスリートとチーム	今日のターゲット:繰り返しを求める 文法:今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング:今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアローグ:今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング:今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価:今日のターゲットを使用した会話ができたかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
14	休暇の計画:春休みの行動	今日のターゲットの復習:繰り返しを求める 情報交換:ターゲットを使っての情報交換 ライティング:ターゲットを使ってのオリジナルの会話を書く 発表:自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック:ターゲットを用いたスピーキングの評価	9 週目から 14 週目までの内容の復習
15	スピーキングテスト 2	9 週目から 14 週目までのターゲットを含むスピーキングテストの実施:?経験についての質問、?仮説に基づく質問、?繰り返しを求める	授業内容の復習

関連科目	英語基礎会話 a

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>English in Common 1</td><td></td><td>Pearson</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>発話量　30%
ライティング課題　24%
毎週実施のスピーキング評価　24%
スピーキングテスト　20%
資料のチェック　2%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>このクラスではたくさん発話する必要があります。授業に来る前に必ず話したい事を十分準備するようにしてください。そうすれば会話はとても楽しいものになりますよ！</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td></td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名（英文）	Basic English Conversation II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1325c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果（資格）	英会話スキル

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test Ⅰ / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/３分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test ＩＩ / Achievement Test, Units １６-20	会話テスト２ / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2	The English Gym Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	20%会話テスト１ 20%会話テスト２ 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ!
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長谷川　雄高
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書「第１回 文章の書き方１」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
2	文章の書き方１	レポート・論文の基本事項について	教科書の「文章の書き方 2」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
3	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方について	教科書の「事実と意見」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
4	事実と意見	事実と意見の書き分けについて	教科書の「課題①説明文」を読む（10 分）、ワークシートの作成（30 分）、課題１作成の準備（80 分）
5	課題①説明文	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く	教科書の「構成」を読む（30 分）
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書の「要約」を読む（30 分）ワークシートの作成（30 分）
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	教科書の「文章を引用する」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書の「図表を引用する」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書の「意見を述べる」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	教科書の「課題②論説文」を読む（20 分）、ワークシートの作成（30 分）、課題２作成の準備（80 分）
11	課題②論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書の「レポートの書き方１」を読む（30 分）
12	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ	教科書の「レポートの書き方２」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
13	レポートの書き方２	レポート作成の注意点をおさえる	レポート作成の準備（80 分）、ワークシートの作成（30 分）
14	課題③レポートの作成	レポートを作成する	―
15	おわりに	レポートの講評・まとめ	―

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×２）、レポート（30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	新しい技術として「論理的な文章」を書くことに挑戦してみましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間となる。 提出課題については、添削や授業時のコメントを通して、フィードバックを行う。 質問等は、出講時または非常勤講師室、ないしは Teams の機能を用いて対応する。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ろ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁　弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、漢字について系統的に学ぶ。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む（30 分）
2	文章の書き方１	レポート・論文の基本事項	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
3	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
5	課題①　説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
11	課題②　論説文	資料を引用して意見を述べる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
12	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
13	レポートの書き方２	レポート作成の注意点をおさえる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
14	レポートの書き方３	アウトラインの構成を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
15	レポート課題（課題③）	レポートをまとめる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題①と②（各 20%）、レポート課題（30%）、その他の提出物（30%）で評価する。ただし、課題①、課題②、レポート課題のうち、ひとつでも提出がない場合は不合格となる。また、提出物が５回ない場合も不合格となる。なお、課題①、課題②、レポート課題についての評価基準は出題の際に示す。（提出課題には締め切りを設けるので守ること。締め切りを過ぎた提出課題は不可とする。）
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	講義内容の質問については提出物にその欄を設ける。提出課題のフィードバックについては解答とともに示す。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	八島　由香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。教科書に沿って授業を進めるため、教科書は毎回持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第 2～11 回の授業内で、語彙力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方１	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前課題 ： シラバスを確認し、教科書の目次に目を通す。 事後課題 ： 教科書「はじめに 文章で伝える」、「第 1 回 文章の書き方１」を読み、授業内容の復習をする。
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ ※小テスト①の実施	事前課題 ： 教科書「第 2 回 文章の書き方２」を読み、練習問題を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。
3	事実と意見	事実の意見のかき分けを学ぶ ※小テスト②の実施	事前課題 ： 教科書「第 3 回 事実と意見」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
4	説明文を書く【課題①】	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く（第 5 回までに提出） ※小テスト③の実施	前課題 ： 本授業、第 1～3 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ ※小テスト④の実施	事前課題 ： 教科書「第 5 回 構成」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
6	要約	文章の要旨を要約する方法を学ぶ ※小テスト⑤の実施	事前課題 ： 教科書「第 6 回 要約」を読み、練習問題 1～6 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
7	【課題①】フィードバック	【課題①】の見直しをする ※小テスト⑥の実施	事前課題 ： 本授業、第 5・6 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題、小テストの復習をする。
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑦の実施	事前課題 ： 教科書「第 7 回 文章を引用する」を読み、練習問題 1～4 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑧の実施	事前課題 ： 教科書「第 8 回 図表を引用する」を読み、練習問題 1・2 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
10	意見を述べる 論説文を書く【課題②】	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 資料を引用して意見を述べる文章を書く。（第 12 回までに提出） ※小テスト⑨の実施	事前課題 ： 教科書「第 9 回 意見を述べる」を読み、練習問題を解く。教科書「第 10 回 課題②論説文」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
11	レポートの書き方 レポートを書く	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点をおさえる 【課題③】に取り組む（第 13 回までに提出） ※小テスト⑩の実施	事前課題 ： 教科書「第11回 レポートの書き方１」、「第 12 回 レポートの書き方 2」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
12	レポートを書く【課題③】	レポートを作成する（第 13 回までに提出）	事前課題 ： 本授業、第 11 回の内容を復習する。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	事前課題 ： 教科書「第 13 回 資料収集の方法」を読み、練習問題を解く。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。
14	【課題②】フィードバック	【課題②】の見直しをする	事前課題 ： 本授業、第 8～10 回の内容を復習する。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする	事前課題 ： 本授業、第 11 回の内容を復習する。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>大学生の日本語文章表現</td><td>（摂南大学教育イノベーションセンター編）</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	課題２回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルが身につくはずです。積極的に授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15 時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	に
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長谷川　雄高
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書「第１回 文章の書き方１」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
2	文章の書き方１	レポート・論文の基本事項について	教科書の「文章の書き方 2」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
3	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方について	教科書の「事実と意見」をよむ（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
4	事実と意見	事実と意見の書き分けについて	教科書の「課題①説明文」を読む（10 分）、ワークシートの作成（30 分）、課題１作成の準備（80 分）
5	課題①説明文	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く	教科書の「構成」を読む（30 分）
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書の「要約」を読む（30 分）ワークシートの作成（30 分）
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	教科書の「文章を引用する」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書の「図表を引用する」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書の「意見を述べる」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	教科書の「課題②論説文」を読む（20 分）、ワークシートの作成（30 分）、課題２作成の準備（80 分）
11	課題②論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	教科書の「レポートの書き方１」を読む（30 分）
12	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ	教科書の「レポートの書き方２」を読む（30 分）、ワークシートの作成（30 分）
13	レポートの書き方２	レポート作成の注意点をおさえる	レポート作成の準備（80 分）、ワークシートの作成（30 分）
14	課題③レポートの作成	レポートを作成する	―
15	おわりに	レポートの講評・まとめ	―

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×２）、レポート（30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	新しい技術として「論理的な文章」を書くことに挑戦してみましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間となる。 提出課題については、添削や授業時のコメントを通して、フィードバックを行う。 質問等は、出講時または非常勤講師室、ないしは Teams の機能を用いて対応する。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ほ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁　弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1327a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、漢字について系統的に学ぶ。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む（30 分）
2	文章の書き方１	レポート・論文の基本事項	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
3	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
5	課題①　説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
11	課題②　論説文	資料を引用して意見を述べる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
12	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
13	レポートの書き方２	レポート作成の注意点をおさえる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
14	レポートの書き方３	アウトラインの構成を学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
15	レポート課題（課題③）	レポートをまとめる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題①と②（各 20%）、レポート課題（30%）、その他の提出物（30%）で評価する。ただし、課題①、課題②、レポート課題のうち、ひとつでも提出がない場合は不合格となる。また、提出物が５回ない場合も不合格となる。なお、課題①、課題②、レポート課題についての評価基準は出題の際に示す。（提出課題には締め切りを設けるので守ること。締め切りを過ぎた提出課題は不可とする。）
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	講義内容の質問については提出物にその欄を設ける。提出課題のフィードバックについては解答とともに示す。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	は
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	八島　由香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。教科書に沿って授業を進めるため、教科書は毎回持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第2～11回の授業内で、語彙力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方１	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前課題 ： シラバスを確認し、教科書の目次に目を通す。 事後課題 ： 教科書「はじめに 文章で伝える」、「第1回 文章の書き方１」を読み、授業内容の復習をする。
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ ※小テスト①の実施	事前課題 ： 教科書「第2回 文章の書き方２」を読み、練習問題を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。
3	事実と意見	事実の意見のかき分けを学ぶ ※小テスト②の実施	事前課題 ： 教科書「第3回 事実と意見」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
4	説明文を書く【課題①】	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く（第5回までに提出） ※小テスト③の実施	事前課題 ： 本授業、第1～3回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ ※小テスト④の実施	事前課題 ： 教科書「第5回 構成」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
6	要約	文章の要旨を要約する方法を学ぶ ※小テスト⑤の実施	事前課題 ： 教科書「第6回 要約」を読み、練習問題 1～6 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
7	【課題①】フィードバック	【課題①】の見直しをする ※小テスト⑥の実施	事前課題 ： 本授業、第5・6回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題、小テストの復習をする。
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑦の実施	事前課題 ： 教科書「第7回 文章を引用する」を読み、練習問題 1～4 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑧の実施	事前課題 ： 教科書「第8回 図表を引用する」を読み、練習問題 1・2 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
10	意見を述べる 論説文を書く【課題②】	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 資料を引用して意見を述べる文章を書く（第12回までに提出） ※小テスト⑨の実施	事前課題 ： 教科書「第9回 意見を述べる」を読み、練習問題を解く。教科書「第10回 課題②論説文」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
11	レポートの書き方 レポートを書く	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点をおさえる 【課題③】に取り組む（第13回までに提出） ※小テスト⑩の実施	事前課題 ： 教科書「第11回 レポートの書き方１」、「第12回 レポートの書き方2」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
12	レポートを書く【課題③】	レポートを作成する（第13回までに提出）	事前課題 ： 本授業、第11回の内容を復習する。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	事前課題 ： 教科書「第13回 資料収集の方法」を読み、練習問題を解く。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。
14	【課題②】フィードバック	【課題②】の見直しをする	事前課題 ： 本授業、第8～10回の内容を復習する。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする	事前課題 ： 本授業、第11回の内容を復習する。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>大学生の日本語文章表現</td><td>（摂南大学教育イノベーションセンター編）</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	課題２回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルが身につくはずです。積極的に授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15 時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長谷川　雄高
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す（60 分）
2	プリント資料の解説と前期の復習（前半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読む（60 分）
3	プリント資料の解説と前期の復習（後半）	課題①のテキスト（プリント資料）の解説を行う	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う（150 分）
4	課題①「論説文」の作成	各人で、ディスカッションの素材となる課題①論説文を作成する	―
5	ディスカッションとは	ディスカッションの技法・類型などについて	ディスカッションの準備を行う（60 分）
6	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分け	ディスカッションの準備を行う（60 分）
7	ディスカッション①	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
8	ディスカッション②	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
9	ディスカッション③	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
10	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの技法・類型などについて	プレゼンテーション資料の作成準備を行う（60 分）
11	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方や資料作成について	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う（150 分）
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
14	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章（要旨）を作成する	―
15	おわりに	課題③の返却・講評など	―

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	課題３回（20%、20%、30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格と

（基準）	なる。
学生への メッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。 質問等は、出講時および非常勤講師室において対応する。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ろ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁　弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッション等を含む。また、漢字を系統的に学ぶ。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	文章表現の基礎を復習する	教科書の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
2	小論文１	小論文の話題について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
3	小論文２	小論文の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
4	小論文３	小論文の構成について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
5	課題①　小論文	800 字程度の小論文を書く	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
6	グループディスカッション１	意見表明の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
7	グループディスカッション２	反論の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
8	グループディスカッション３	意見の調整について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
9	グループディスカッション４	意見のまとめ方について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
10	課題②　グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて 800 字程度の意見文を書く	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
11	プレゼンテーション１	プレゼンテーションの手順について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
12	プレゼンテーション２	プレゼンテーションの構成について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
13	プレゼンテーション３	プレゼンテーションの表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
14	プレゼンテーション４	質疑応答の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
15	課題③　プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	必須課題３回（20%、20%、30%）、練習問題（30%）により評価する。 必須課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	八島　由香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切かなどについて、実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。はじめのうちは教科書に沿って授業を進めるため、教科書を持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第2～10回の授業内で、語彙力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項、わかりやすい文章の書き方などを確認する。	事前課題 ： シラバスを確認し、教科書の第1～4回に目を通す。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。
2	論説文の書き方	論説文を書くための構成や引用などを確認する。 ※小テスト①の実施	事前課題 ： 教科書の第5～10回に目を通す。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。
3	論説文を書く【課題①】	資料を引用して意見を述べる文章を書く（第4回までに提出） ※小テスト②の実施	事前課題 ： 本授業、第1・2回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
4	ディスカッションとは	ディスカッションの方法を学ぶ 本授業におけるディスカッションのやり方、【課題②】・【課題③】に関する説明 ※小テスト③の実施	事前課題 ： 小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
5	ディスカッション 1 【課題①】フィードバック	グループディスカッションを行う 【課題①】の見直しをする ※小テスト④の実施	事前課題 ： ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。返却された課題・小テストの復習をする。
6	ディスカッション 2	グループディスカッションを行う ※小テスト⑤の実施	事前課題 ： ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
7	ディスカッション 3	グループディスカッションを行う ※小テスト⑥の実施	事前課題 ： ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
8	ディスカッションの報告【課題②】	グループディスカッションの報告文を書く（第8回に提出） ※小テスト⑦の実施	事前課題 ： 自分のグループのディスカッションの内容を振り返っておく。 事後課題 ： 返却された小テストの復習をする。
9	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの方法を学ぶ 本授業におけるプレゼンテーションのやり方、資料作成に関する説明 ※小テスト⑧の実施	事前課題 ： 小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
10	プレゼンテーション資料の作成 【課題②】フィードバック	プレゼンテーション資料の作成をする 【課題②】の見直しをする ※小テスト⑨の実施	事前課題 ： プレゼンテーション資料の作成方法を確認する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： プレゼンテーション資料を完成させる。返却された課題・小テストの復習をする。
11	プレゼンテーション 1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
12	プレゼンテーション 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
13	プレゼンテーション 3	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
14	プレゼンテーションの報告【課題③】	プレゼンテーションの内容を文章化する（第14回に提出）	事前課題 ： 自分のグループのプレゼンテーションの内容を見返しておく。 事後課題 ： 今までの授業内容を振り返る。
15	【課題③】フィードバック	【課題②】の見直しをする 授業を振り返る	事前課題 ： 今までの授業内容を振り返る。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	大学生の日本語文章表現	（摂南大学教育イノベーションセンター編）	
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題 3 回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルが身につくはずです。積極的に授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15 時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	に
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長谷川　雄高
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す（60 分）
2	プリント資料の解説と前期の復習（前半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読む（60 分）
3	プリント資料の解説と前期の復習（後半）	課題①のテキスト（プリント資料）の解説を行う	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う（150 分）
4	課題①「論説文」の作成	各人で、ディスカッションの素材となる課題①論説文を作成する	―
5	ディスカッションとは	ディスカッションの技法・類型などについて	ディスカッションの準備を行う（60 分）
6	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分け	ディスカッションの準備を行う（60 分）
7	ディスカッション①	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
8	ディスカッション②	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
9	ディスカッション③	グループ・ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
10	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの技法・類型などについて	プレゼンテーション資料の作成準備を行う（60 分）
11	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方や資料作成について	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う（150 分）
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
14	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章（要旨）を作成する	―
15	おわりに	課題③の返却・講評など	―

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	課題３回（20%、20%、30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格と

（基準）	なる。
学生への メッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。 質問等は、出講時および非常勤講師室において対応する。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ほ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁　弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッション等を含む。また、漢字を系統的に学ぶ。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	文章表現の基礎を復習する	教科書の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
2	小論文１	小論文の話題について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
3	小論文２	小論文の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
4	小論文３	小論文の構成について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
5	課題①　小論文	800 字程度の小論文を書く	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
6	グループディスカッション１	意見表明の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
7	グループディスカッション２	反論の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
8	グループディスカッション３	意見の調整について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
9	グループディスカッション４	意見のまとめ方について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
10	課題②　グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて 800 字程度の意見文を書く	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
11	プレゼンテーション１	プレゼンテーションの手順について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
12	プレゼンテーション２	プレゼンテーションの構成について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
13	プレゼンテーション３	プレゼンテーションの表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
14	プレゼンテーション４	質疑応答の表現について学ぶ	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）
15	課題③　プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	授業の復習（30 分）と漢字の復習（30 分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	必須課題３回（20%、20%、30%）、練習問題（30%）により評価する。 必須課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	は
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	八島　由香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切かなどについて、実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。はじめのうちは教科書に沿って授業を進めるため、教科書を持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第2～10回の授業内で、語彙力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項、わかりやすい文章の書き方などを確認する。	事前課題 ： シラバスを確認し、教科書の第１～4回に目を通す。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。
2	論説文の書き方	論説文を書くための構成や引用などを確認する。 ※小テスト①の実施	事前課題 ： 教科書の第 5～10 回に目を通す。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容の復習をする。
3	論説文を書く【課題①】	資料を引用して意見を述べる文章を書く（第4回までに提出） ※小テスト②の実施	事前課題 ： 本授業、第1・2回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
4	ディスカッションとは	ディスカッションの方法を学ぶ 本授業におけるディスカッションのやり方、【課題②】・【課題③】に関する説明 ※小テスト③の実施	事前課題 ： 小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
5	ディスカッション 1 【課題①】フィードバック	グループディスカッションを行う 【課題①】の見直しをする ※小テスト④の実施	事前課題 ： ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。返却された課題・小テストの復習をする。
6	ディスカッション 2	グループディスカッションを行う ※小テスト⑤の実施	事前課題 ： ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
7	ディスカッション 3	グループディスカッションを行う ※小テスト⑥の実施	事前課題 ： ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： ディスカッションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
8	ディスカッションの報告【課題②】	グループディスカッションの報告文を書く（第8回に提出） ※小テスト⑦の実施	事前課題 ： 自分のグループのディスカッションの内容を振り返っておく。 事後課題 ： 返却された小テストの復習をする。
9	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの方法を学ぶ 本授業におけるプレゼンテーションのやり方、資料作成に関する説明 ※小テスト⑧の実施	事前課題 ： 小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： 授業内容・返却された小テストの復習をする。
10	プレゼンテーション資料の作成 【課題②】フィードバック	プレゼンテーション資料の作成をする 【課題②】の見直しをする ※小テスト⑨の実施	事前課題 ： プレゼンテーション資料の作成方法を確認する。小テストに向けた学習をする。 事後課題 ： プレゼンテーション資料を完成させる。返却された課題・小テストの復習をする。
11	プレゼンテーション 1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
12	プレゼンテーション 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
13	プレゼンテーション 3	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題 ： 発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
14	プレゼンテーションの報告【課題③】	プレゼンテーションの内容を文章化する（第14回に提出）	事前課題 ： 自分のグループのプレゼンテーションの内容を見返しておく。 事後課題 ： 今までの授業内容を振り返る。
15	【課題③】フィードバック	【課題②】の見直しをする 授業を振り返る	事前課題 ： 今までの授業内容を振り返る。 事後課題 ： 授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	大学生の日本語文章表現	（摂南大学教育イノベーションセンター編）	
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題 3 回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルが身につくはずです。積極的に授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15 時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	陽　煜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	（１）式の展開・因数分解ができる。 （２）方程式・不等式を解くことができる。 （３）場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること，定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問 課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	第１章の問 課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問 課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	第２章の問 課題レポート
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問 課題レポート
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問 課題レポート
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問 課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問 課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	第５章の問 課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問 課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常（４０%）・期末（６０%）で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	３号館３階　数学研究室
備考	

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	蓑茂　工将
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	（１）式の展開・因数分解ができる。 （２）方程式・不等式を解くことができる。 （３）場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。理解の促進と達成度合いの確認のため、演習を適時行い、課題レポートを課す。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化し、論理的に解くことを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問　課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	第１章の問　課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問　課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第２章の問　課題レポート
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問　課題レポート
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問　課題レポート
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問　課題レポート
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問　課題レポート
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問　課題レポート
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問　課題レポート
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問　課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問　課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第５章の問　課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問　課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問　課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポート（４０％）と期末試験（６０％）で評価する(期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得る)。
学生へのメッセージ	授業の内容については、積極的な質問を歓迎します。そのほか学問に関することなど、雑談にも気軽に応じます。いっしょにがんばりましょう。
担当者の研究室等	5 号館 1 階 数学研究室
備考	事前事後学習は毎回 1 時間以上かけること。 課題は、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味　俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）式の展開・因数分解ができる。 （2）方程式・不等式を解くことができる。 （3）場合の数・確率の計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるために演習を適宜行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問 課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	第１章の問 課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問 課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第２章の問 課題レポート
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問 課題レポート
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問 課題レポート
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問 課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問 課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列、組み合わせ	第５章の問 課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問 課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習課題（３０％）及び期末試験（７０％）の合計で総合的に評価する。なお、試験については COVID-19 感染対策状況によりレポート等への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。
担当者の研究室等	５号館１階
備考	事前・事後学習は毎回１時間以上かけること。 演習課題は採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	陽　煜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1329a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	（１）式の展開・因数分解ができる。 （２）方程式・不等式を解くことができる。 （３）場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること，定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問 課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	第１章の問 課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問 課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	第２章の問 課題レポート
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問 課題レポート
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問 課題レポート
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問 課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問 課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	第５章の問 課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問 課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常（４０%）・期末（６０%）で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	３号館３階　数学研究室
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陽　煜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 （2）等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。 （3）3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。 （4）基本的な関数の積分計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き，筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 演習課題(1時間)
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第7章の問 演習課題(1時間)
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第7章の問 演習課題(1時間)
4	2次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第7章の問 演習課題(1時間)
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 演習課題(1時間)
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題(1時間)
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題(1時間)
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線，導関数	第9章の問 演習課題(1時間)
9	中間試験	第1-7回の講義に関する中間試験、及び解答解説	演習課題(1時間)
10	整関数の微分(2)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第9章の問 演習課題(1時間)
11	整関数の微分(3)	・最大値，最小値 ・応用問題	第9章の問 演習課題(1時間)
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 演習課題(1時間)
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 演習課題(1時間)
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 演習課題(1時間)
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第10章の問 演習課題(1時間)

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎（ISBN:9784780603026）	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常40%、期末60%で判定し評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3号館3階　数学研究室
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	蓑茂　工将
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 （2）等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。 （3）3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。 （4）基本的な関数の積分計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き，筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 演習課題
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第7章の問 演習課題
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第7章の問 演習課題
4	2次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第7章の問 演習課題
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 演習課題
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線，導関数	第9章の問 演習課題
9	整関数の微分(2)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第9章の問 演習課題
10	整関数の微分(3)	・最大値，最小値 ・応用問題	第9章の問 演習課題
11	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 演習課題
12	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 演習課題
13	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 演習課題
14	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第10章の問 演習課題
15	総合演習	・第7-10章の内容	第7-10章の問 演習課題

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート課題40%、期末試験60%で判定し評価する(期末試験についてはCOVID19感染状況次第でレポート等の代替手段への変更も有り得る)。
学生へのメッセージ	授業の内容については、積極的な質問を歓迎します。そのほか学問に関することなど、雑談にも気軽に応じます。いっしょにがんばりましょう。
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題は、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味　俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 （2）等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。 （3）3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。 （4）基本的な関数の積分計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるために演習を適宜行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習課題（３０％）及び期末試験（７０％）の合計で総合的に評価する。なお、試験については COVID-19 感染対策状況によりレポート等への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。
担当者の研究室等	５号館１階
備考	事前・事後学習は毎回１時間以上かけること。 演習課題は採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陽　煜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2330a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 （2）等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。 （3）3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。 （4）基本的な関数の積分計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き，　筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 演習課題(1時間)
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第7章の問 演習課題(1時間)
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第7章の問 演習課題(1時間)
4	2次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第7章の問 演習課題(1時間)
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 演習課題(1時間)
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題(1時間)
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 演習課題(1時間)
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線，導関数	第9章の問 演習課題(1時間)
9	中間試験	第1-7回の講義に関する中間試験、及び解答解説	演習課題(1時間)
10	整関数の微分(2)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第9章の問 演習課題(1時間)
11	整関数の微分(3)	・最大値，最小値 ・応用問題	第9章の問 演習課題(1時間)
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 演習課題(1時間)
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 演習課題(1時間)
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 演習課題(1時間)
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第10章の問 演習課題(1時間)

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎（ISBN:9784780603026）	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常40%、期末60%で判定し評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3号館3階　数学研究室
備考	

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1331a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：大学の ICT 環境の確認（60 分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 1 回（60 分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 2 回（60 分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 3 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 4 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り（30 分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（60 分）

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
	9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（橋本講師室）

備考	

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺島　和夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1331a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：大学の ICT 環境の確認（60 分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 1 回（60 分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 2 回（60 分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 3 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 4 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り（30 分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（60 分）

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
	9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。
担当者の研究室等	経営学部非常勤講師室（11 号館 6 階）

備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	野間　圭介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1331a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：大学の ICT 環境の確認（60 分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 1 回（60 分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 2 回（60 分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 3 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 4 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り（30 分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（60 分）

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
	9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。
担当者の研究室等	経営学部非常勤講師室（11 号館 6 階）

備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2332a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーI の復習(50 分) 事後：演習課題の完成・提出(40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは（イントロ） 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 6 回（60 分）視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場（イントロ） 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 7 回（60 分）視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向（イントロ） 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 8 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項(1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項(1)（イントロ） アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 13 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習（60 分） 事後：演習課題の完成・提出(30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習（90 分）
8	データ・AI を扱う上での留意事項(2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項(2)（イントロ） 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 14 回（60 分）視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する 　データを比較するためのグラフ 　時間の推移を見せるためのグラフ 　データ相互の関係を示すためのグラフ 　データの偏りを示すためのグラフ 　データの比較 　適切なグラフ表現 　優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 11 回(60 分)視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 　売り上げを予測する 　顧客層を分析する 　顧客満足度を把握する 　顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 12 回(60 分)視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ（イントロ） 名前付きのセル，セル範囲，ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する，削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) 　E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目：情報リテラシーⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	疑問は放置しないこと。質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階（橋本講師室）
備考	

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	寺島　和夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2332a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーI の復習(50 分) 事後：演習課題の完成・提出(40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは（イントロ） 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 6 回（60 分）視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場（イントロ） 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 7 回（60 分）視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向（イントロ） 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 8 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項(1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項(1)（イントロ） アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 13 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習（60 分） 事後：演習課題の完成・提出(30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習（90 分）
8	データ・AI を扱う上での留意事項(2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項(2)（イントロ） 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 14 回（60 分）視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する 　データを比較するためのグラフ 　時間の推移を見せるためのグラフ 　データ相互の関係を示すためのグラフ 　データの偏りを示すためのグラフ 　データの比較 　適切なグラフ表現 　優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 11 回(60 分)視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 　売り上げを予測する 　顧客層を分析する 　顧客満足度を把握する 　顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 12 回(60 分)視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ（イントロ） 名前付きのセル，セル範囲，ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する，削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) 　E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目：情報リテラシーⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらにITパスポート資格の取得も視野に入れましょう。
担当者の 研究室等	経営学部非常勤講師室（11号館6階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野間　圭介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2332a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーI の復習(50 分) 事後：演習課題の完成・提出(40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは（イントロ） 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 6 回（60 分）視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場（イントロ） 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 7 回（60 分）視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向（イントロ） 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 8 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項(1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項(1)（イントロ） アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 13 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習（60 分） 事後：演習課題の完成・提出(30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習（90 分）
8	データ・AI を扱う上での留意事項(2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項(2)（イントロ） 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 14 回（60 分）視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する 　データを比較するためのグラフ 　時間の推移を見せるためのグラフ 　データ相互の関係を示すためのグラフ 　データの偏りを示すためのグラフ 　データの比較 　適切なグラフ表現 　優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 11 回(60 分)視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 　売り上げを予測する 　顧客層を分析する 　顧客満足度を把握する 　顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 12 回(60 分)視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ（イントロ） 名前付きのセル，セル範囲，ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する，削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) 　E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目：情報リテラシーⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらにITパスポート資格の取得も視野に入れましょう。
担当者の 研究室等	経営学部非常勤講師室（11号館6階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WPH1340a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。感染症対策の観点から、更
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）
2	・軽運動	ストレッチ、軽度のエクササイズ	事前：ストレッチ等を行い授業の準備を行う（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
3	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
4	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
5	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）
6	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
7	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
8	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
9	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
10	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）

関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。

	１回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、１回目の授業に必ず出席してください。 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）
担当者の 研究室等	総合体育館１F　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WPH2341a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できな
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム ・2 年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2 年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 １回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、１回目の授業に必ず出席してください。

	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館　1F　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	心理学Ⅰ	科目名（英文）	Psychology Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　雅代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1301a1		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。 授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅰでは、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	1）心理学についての基礎知識を習得する。2）人間の行動を理解する。3）社会の中の自己を確認する。4）実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTRを使用する。 簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。 講義資料はムードルに提示する。 講義の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、Moodle・Google forms・QRコードを用いる。 回答を回収した上で、心理学の問題について解説する。携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができるので申し出て提出すること。
科目学習の効果（資格）	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とはどのような学問か	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方、今までの歩みについて概説する。	事前：心理学の印象について自分なりの考えをまとめておくこと 学期末に向けての注意点は覚えておく（1時間） 事後：課題作成（1時間）
2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	前回の授業でのVTRについて課題を提出する。 事前：実験手続き・関連文献・を紹介するので読んでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめ、ノートを作成（1時間）
3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	前回の授業の課題を提出する。 事前：実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
5	社会的学習（1）	学習とは学校での勉強のことではなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
6	社会的学習（2）	子どもたちは様々な社会・環境から影響を受け経験を積んでいく。事実に基づいた出来事を紹介し、社会的学習について考察する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する 実験結果についてレポート作成する（2時間）
8	動機づけ（1）	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
9	動機づけ（2）	生物的動機、内発的動機の違いについて説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成すること 授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えをまとめ提出する。（2時間）
10	動機づけ（3）	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
11	パーソナリティ（1）	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
12	パーソナリティ（2）	パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
13	パーソナリティ（3）	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
14	パーソナリティ（4）	パーソナリティについて自己分析を行う。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	事前：授業全般、分からない部分についてまとめておくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）

関連科目	心理学Ⅱと併せて履修することが望ましい。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	<table><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	講義内で行う小テスト・課題・レポート等を総合的に評価する。 【講義内テスト・確認テスト 50%、小テスト・課題・レポート等 50%】
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。 講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場
担当者の 研究室等	11 号館 6 階(経営学部非常勤控室)
備考	提出課題等は、その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。 授業内で，携帯や PC を使用し課題を提出して頂きます。デヴァイスは十分充電を行っておいて下さい。忘れたり，充電が切れた場合は，用紙での提出も可能なので，申し出てください。

科目名	心理学Ⅱ	科目名（英文）	Psychology II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　雅代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WHU2302a1		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間、集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。
到達目標	１）心理学の知識を幅広く習得する。２）社会と個人の関係を理解する。３）集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。４）状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTRを使用する。 簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。 講義資料はムードルに提示する。 講義の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、Moodle・Google forms・QRコードを用いる。 回答を回収した上で、心理学の問題について解説する。携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができるので申し出て提出すること。
科目学習の効果（資格）	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とは何か、社会・集団の中の心理について	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究についての考え方について説明する。後期において取り扱うトピックの概要説明。 【初回授業の実施方法】 授業は、オンライン（オンデマンド）で実施。 １回目は、Teamsにアクセスし、その後、ムードルの第１回目授業を閲覧すること。 【Teams コード】【ムードル登録キー】は、シラバス下部に表記しています。	事前：心理学はどのような学問かまとめておく（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
2	知覚（１）	人間理解につながる「見えのしくみ」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
3	知覚（２）	知覚の種類、特徴、見えに及ぼす社会的影響について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
4	知覚（３）	知覚と消費行動。見る行為と消費がどのようにつながっているのか、説明する。	事前：実験について事前に紹介するので関連文献を読んでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する 実験についてまとめる（２時間）
5	対人関係（１）	人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
6	対人関係（２）	人はどのような事をきっかけに親しくなっていくのか、実験によって科学的に証明された「対人魅力」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
7	対人関係（３）	「対人魅力」について説明する。親しくなっていく要因について更に解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
8	対人関係（４）	「対人魅力」の分野における、好きと愛の行動パターンについての研究を紹介する。自己の愛のタイプについて実際に考えてみる。 第８回より対面授業	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
9	集団（１）	「集団」についての心理学的視点・これまでの研究を紹介する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
10	集団（２）	「集団討議」について考えてみる。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
11	集団（３）	集団のもつ持つ影響力として「同調」と「服従」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
12	集団（４）	ジンバルドーが行った「監獄実験」について説明する。	事前：うわさの実験について紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
13	集団（５）	「情報伝搬」「うわさ」によるパニック行動、うわさの分類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。	事前：どのような援助が考えられるか考えておくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
14	集団と援助行動	集団の中に個人が埋没すると、援助行動が行われない場合がある。援助行動が行われない状況とはどのような状況か、意	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）

			思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。援助行動と対人ネットワークの重要性について説明する。	
	15	まとめ・確認テスト	授業全体のまとめ・確認テストを行う。	事前：疑問点がどこにあるのか考えておく（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）

関連科目	心理学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義内で行う確認テストやレポート、課題提出等を総合的に評価する。 【授業内で行う小テスト・確認テスト50%　　課題・レポート提出50%】
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場合が
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部非常勤控室)
備考	提出課題等は、その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。 授業内で，携帯やPCを使用し課題を提出して頂きます。デヴァイスは十分充電を行っておいて下さい。忘れたり，充電が切れた場合は，用紙での提出も可能なので，申し出てください。

科目名	哲学Ⅰ	科目名（英文）	Philosophy I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱　良祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1303a1		

授業概要・目的	「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」,「他者とは何か」,「幸せとは何か」など，人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。 この授業は，そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み，さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。
到達目標	（１）哲学に関する基礎的な知識を習得すること。 （２）人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。 （３）自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。
授業方法と留意点	講義形式 授業時に講義内容に関するプリントを配布する。受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけではなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。 前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。 授業期間中に授業の理解度を試す小レポート数回と中間レポートを実施する。レポートの提出は Moodle 上で行って
科目学習の効果（資格）	現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。「哲学」することの意義について考察する。	〈復習〉ノート・資料の整理。
2	古代における知の探求	古代ギリシアにおける知の探求と、その可能性について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
3	古代・中世における自然法	西洋古代･中世の自然法思想とその意義を考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
4	近代における自然法	西洋近代における自然法思想とその意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
5	社会の起源――ルソー『人間不平等起源論』を読む（１）	ルソーの社会批判の要点について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
6	人間の原初状態――ルソー『人間不平等起源論』を読む（２）	ルソーにおける「自然状態」について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
7	人間の自由――ルソー『人間不平等起源論』を読む（３）	ルソーにおける人間の本質について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
8	社会的不平等と自然不平等――ルソー『人間不平等起源論』を読む（４）	ルソーが問題視する不平等について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
9	不平等の起源――ルソー『人間不平等起源論』を読む（５）	ルソーが論じる社会的不平等の起源について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
10	国家の専制――ルソー『人間不平等起源論』を読む（６）	ルソーが論じる不平等の極致について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉中間レポートの作成。
11	ルソーの社会契約説（１）	ルソーの社会契約説の要点について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
12	ルソーの社会契約説（２）	ルソーの社会契約説の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
13	現代の社会契約説――ロールズのリベラリズム	ロールズの社会契約説とその意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
14	現代リベラリズムへの諸批判	ロールズの理論への批判を取り上げ、現代における自由と平等について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉期末レポートの作成。

関連科目	哲学 II、社会学、社会と人権

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間不平等起源論	ルソー	光文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	社会契約論	重田園江	筑摩書房
2			
3			

評価方法	授業内での小レポートを２０％、中間レポートを４０％、期末レポートを４０％として、総合的に評価する。

（基準）	
学生への メッセージ	提出物を期限内に出すよう気をつけてください。
担当者の 研究室等	
備考	提出物についての全体的な講評は授業内で行う。具体的な評価に関する問い合わせには、メールや ICT ツールで対応することができる。 授業外学習の目安は、予習復習を合わせて毎回 1 時間程度とする。

科目名	哲学Ⅱ	科目名（英文）	Philosophy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	貫井　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WHU2304a1		

授業概要・ 目的	人間は古来から、その時代や地域に特有の仕方で思索的な探究を行ってきた。現代を生きるわれわれの生き方も、その探究活動に多大な影響を受けている。 本授業の第一部（第 1-8 回）では、人間の思索活動の歴史の変遷を「「宿命」を「選択」に変化させる傾向」(cf. ピーター・バーガー著『異端の時代』）という観点から振り返る。その際、M・ハイデガーの近代論に着目し、近代以降の時代的状況を「「宿命」を「選択」に変化させる手段そのものが、複雑化し、新たな「宿命」となる」という観点から追う。 第二部（第 9-15 回）では、上記の「「宿命」を「選択」に変化させる傾向」を日本という地理的な視点から捉え直す。
到達目標	この授業を通して、 ①　過去との比較により、現代の時代状況、社会構造についての考察を深めること また、そうすることで、 ②　現代人が近代化の過程で何を失って何を得たのか、今後何を取り戻し、何を維持し、何を新たに獲得すべきなのかを、各々が再考することを目指す。
授業方法と 留意点	Teams を使用して、哲学、思想、宗教、近代性に関する講義原稿と課題読書を配布します（毎回、ある程度の読書量があるので、頑張ってついてきてください）。 授業ごとに Google Form を利用して、それらのテキストに関する小問題（選択問題 10-20 問）に答えてもらいます。 【※※　コロナウイルスの影響で対面授業が不可能である場合は、対面授業が行われるべき日時に、Teams の動画配信機能を利用しリアルタイムで授業を行います。また、その際の動画と音声は録画し、Teams 経由でオンデマンドでも配信します。※※
科目学習の 効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	世界の思想的変遷（１）：人類の５つの革命	・人類革命、農業革命、都市革命、哲学革命、科学革命 ・ホモ・サピエンスの「技術を使って「宿命」を「選択」に変化させる」傾向 ・ピーター・バーガー『異端の時代』	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
2	世界の思想的変遷（２）：古い神話、新しい神話	・マイケル・ヴィツェル ・ゴンドワナ型神話 ・ローラシア型神話	1 に同じ
3	世界の思想的変遷（３）：古代ギリシア、古代中国、古代インドの神話	・ヘシオドス、ホメロス ・『リグ・ヴェーダ』 ・『山海経』	1 に同じ
4	世界の思想的変遷（４）:「枢軸の時代」（１）：中国、インド哲学	・諸子百家 ・『ウパニシャッド』 ・「ブッダの開教」	1 に同じ
5	世界の思想的変遷（５）:「枢軸の時代」（２）：古代ギリシア	・ヒポクラテス「神聖病について」 ・プラトン『ゴルギアス』	1 に同じ
6	世界の思想的変遷（６）:「枢軸の時代」（３）:ユダヤ教(キリスト教) と終末論	・新約聖書 ・旧約聖書	1 に同じ
7	世界の思想的変遷（７）：近代の開始（１）：・ルネサンス、宗教改革 、科学革命	・『自然に関する諸問題』 ・『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記』	1 に同じ
8	世界の思想的変遷（８）：近代の開始（２）：１７、１８世紀	・モンテーニュ、ホッブズ、パスカル、デカルト、ルソー	1 に同じ
9	日本の思想的変遷（１）：神以前のカミ、組織化された神話的世界、律令制	・『古事記』	1 に同じ
10	日本の思想的変遷（２）：日本の仏教的世界観	・『無量寿経』、『歎二抄』、『正法眼蔵随聞記』	1 に同じ
11	日本の思想的変遷（３）：儒教と日本	・孔子、朱熹、王陽明、中江藤樹、荻生徂徠	1 に同じ
12	日本の思想的変遷（４）：西洋文明との邂逅	・西村茂樹、福沢諭吉、夏目漱石、西田幾多郎、西谷啓治	1 に同じ
13	日本の思想的変遷（５）：１９６０年以前、以後	・宮本常一 ・内山節	1 に同じ
14	総論（１）:「交換価値」優位の社会の諸問題（１）	・アダム・スミス、マルクス ・ホックシールド ・バウマン	1 に同じ
15	総論（２）:「交換価値」優位の社会の諸問題（２）	・アダム・スミス、マルクス ・ホックシールド ・バウマン	1 に同じ

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>世界哲学史</td><td>伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留編</td><td>ちくま新書</td></tr><tr><td>2</td><td>日本思想全史</td><td>清水正之著</td><td>ちくま新書</td></tr><tr><td>3</td><td>時間の比較社会学</td><td>真木悠介著</td><td>岩波書店</td></tr></table>
評価方法 （基準）	Google Form によって提出してもらう各授業回の課題×15 回分で評価します（1 回目 9 点、2 回目 17 点、3 回目 12 点、4 回目 12 点、5 回目 18 点、6 回目 16 点、7 回目 17 点、8 回目 17 点、9 回目 18 点、10 回目 18 点、11 回目 16 点、12 回目 24 点、13 回目 19 点、14 回目 23 点、15 回目 14 点、合計 250 点満点です）。
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。 なお、各回の授業テーマは現時点での予定であり、一部変更になる可能性があることをご承知おきください（ただし、おおまかな流れは変わりません）。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールで問い合わせること。

科目名	日本の歴史	科目名（英文）	Japanese History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1305a1		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	対面で行います。 授業で使用する資料はTeamsにアップします。授業が始まるまでに各自で印刷して用意しておいてください。
科目学習の効果（資格）	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許を取得する際の科目でもあります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	日本史の時代区分について書籍やwebで復習しておく。
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	律令国家について書籍やwebで復習しておく。
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	摂関政治と院政について書籍やwebで復習しておく。
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	武士の誕生について書籍やwebで復習しておく。
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	鎌倉幕府について書籍やwebで復習しておく。
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	室町時代の政治や文化について書籍やwebで復習しておく。
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	戦国時代にや戦国大名について書籍やwebで復習しておく。
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	神祇や仏教について書籍やwebで復習しておく。
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	江戸幕府について書籍やwebで復習しておく。
10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	江戸時代の百姓について書籍やwebで復習しておく。
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	明治維新について書籍やwebで復習しておく。
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	大正デモクラシーについて書籍やwebで復習しておく。
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	日清戦争・日露戦争・第一次大戦・第二次大戦について書籍やwebで復習しておく。
14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	太平洋戦争について書籍やwebで復習しておく。
15	まとめ　確認テスト	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業最終日に行う確認テスト（70%）、その他、コメントペーパー(30%)
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	赤澤研究室（７号館４階）
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	世界の歴史	科目名（英文）	World History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上　司樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1306a1		

授業概要・目的	この授業は、都市がキーワードの世界史講義です。そして歴史を学ぶとは、単に過去を暗記することではなく、現在を知り未来を見通す知恵を磨くことです。必要なのは、暗記力ではなく、知らないうちは否定から入らない態度。未知なもの（ふつう「異常」に見える）を否定したくなる感情に、理性でブレーキをかけ、自分を変えていくことです。よく学ぶことによって、単位だけではなく、単位以上のものを手に入れてほしいと思います。
到達目標	都市という視点から世界史（特に中国とヨーロッパの歴史）の概要を説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に着ける。
授業方法と留意点	教科書は使わず、プリントを使って授業する。課題（レスポンス・ペーパーとレポート）の提出はオンラインで行う。試験（学期末テスト）は対面で行うが、対面が不可能になったときはレポート（オンライン提出）に代える。
科目学習の効果（資格）	都市という視点から世界史（特に中国とヨーロッパの歴史）の概要を説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に着ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって	歴史は異文化理解／ 手で食べる文化は劣っている？／ 知らないうちは否定から入るな	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
2	歴史を学ぶにあたって	恋愛結婚が主流になったのは最近 200 年間のこと／ 赤ん坊と幼い子の半数が死ぬ日常／ 女性にとっての出産と男性にとっての戦争	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
3	歴史を学ぶにあたって	さらに社会的圧力（嘲笑や非難）がかかる／ 親心が「なかった」のではなく「形が違っていた」／ 就活や通勤がない日常	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
4	歴史を学ぶにあたって	「優しい父母」というだけでは務まらなかった／ 家庭が職場だから結婚は仕事／ 恋愛結婚させるのは「残忍な親」という考え方	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
5	歴史を学ぶにあたって	童話「長靴をはいた猫」から読み取れる男性の苦難／ 構造的に生み出される男尊女卑の状況／ それでも、一言で片づけられる人生などない	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
6	歴史を学ぶにあたって	27 世紀の学生が 21 世紀の歴史を学んだら…／ 具体性と論理性は手間暇と思いやりの問題／ 古来のマジカルナンバー 3	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
7	都市を窓に世界史を見る	都市は世界史を見通すのに有効な窓／ 首都は文字通り人体の首にあたる都市／ 世界史は前近代と近現代で大きく分かれる	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
8	都市を窓に世界史を見る	人間の生活は都市の出現で劇的に複雑高度化した／ いわゆる四大文明に共通の流れ／ 良くも悪くも文明は都市とともにある	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
9	都市を窓に中国史を見る	中国の歴史は政治的な都市を軸として展開／ 「中国」の原義は「中心の都市」／ 領域国家の大統合（天下統一）	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
10	都市を窓に中国史を見る	多文化・多民族を統べる巨大国家、中国の歴史が本格的にスタート／ 都市は大帝国の行政拠点／ 都市も大帝国の統治方針と共に変わる	プリントの読み返しと先読み
11	都市を窓に中国史を見る	巨大インフラ大運河と中国都市の変容／ ナイトライフ、ファストフード、エンターテインメント産業／ それでも、何よりまず行政拠点であった	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
12	都市を窓に中国史を見る	中国全体で見れば農村的な社会が続いた／ 西洋との関係、日本との違い／ 始まった本格的な都市化	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
13	都市を窓にヨーロッパ史を見る	ヨーロッパの歴史は小さな都市を軸として展開／ 決して豊かとは言えない自然／ ユーラシアの辺境と言う位置	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
14	都市を窓にヨーロッパ史を見る	農業経済と宗教組織がヨーロッパ都市を育てた／ 政治的分裂が都市の自治を育てた／ ヨーロッパ都市が大きくなったのは近代	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
15	都市を窓にヨーロッパ史を見る	近代への反省が現代の出発点／ ヨーロッパで見られる小さな都市への回帰の試み／ 手がかりは、ヒューマンスケールのコンパクトさ、住民自身による都市コントロールの可能性	プリントの読み返し／ レスポンス・ペーパー

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	成績（100%）は以下 3 種類の課題、テスト（40%）、レポート（30%）、レスポンス・ペーパー（30%）で評価する。テストは論述 1 問で持ち込み可。レポートについては「レポートの手引き」（つまりマニュアル）を配布する。レスポンス・ペーパーは（レポートも同様だが）オンライン提出。
学生への メッセージ	毎回の授業後にレスポンス・ペーパーを提出してもらいます。が、強制ではありません。つまりこのレスポンス・ペーパーを、「毎回だるい課題を押しつけられるピンチだ」と捉えて嫌そうな顔をするか、「毎回こつこつ点数を取れるチャンスだ」と捉えて目を輝かせるか、すべてはあなた次第。大学の授業と言うのは、良くも悪くも「大人の学び」、自分次第なものだ（「自由」とも「自己責任」とも言える）と思います。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	地誌学	科目名（英文）	Regional Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邉　英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1307a1		

授業概要・目的	地誌学は，地域を構成する諸要素を体系的に捉え，その特色を解明しようとする分野である。本講義では，世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して，地域の特色を学習する。
到達目標	地誌学の基本的な考え方について，具体的な事例を通して理解できるようになる。 さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し，自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。
科目学習の効果（資格）	中学社会・高校地理歴史教員免許

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	小中高の地理と大学の地誌学	講義ノートを復習しておくこと（事後学習３時間）
2	寒帯・冷帯気候と住民生活（1）	冷涼地域の農業	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
3	寒帯・冷帯気候と住民生活（2）	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
4	寒帯・冷帯気候と住民生活（3）	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
5	温帯気候と住民生活（1）	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
6	温帯気候と住民生活（2）	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
7	温帯気候と住民生活（3）	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
8	熱帯気候と住民生活（1）	熱帯雨林の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
9	熱帯気候と住民生活（2）	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
10	熱帯気候と住民生活（3）	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
11	熱帯気候と住民生活（4）	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
12	乾燥･半乾燥気候と住民生活（1）	季節河川と地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
13	乾燥･半乾燥気候と住民生活（2）	乾燥地帯で生きる人々（1）	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
14	乾燥･半乾燥気候と住民生活（3）	乾燥地帯で生きる人々（2）	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習３時間）

関連科目	人文地理学，自然地理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界がわかる地理学入門：気候・地形・動植物と人間生活	水野一晴	筑摩書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験 60%，授業内課題 30%，中間試験 10% 授業内課題は，各回の授業内容に関する穴埋め問題等である。また，中間試験は授業内で実施し，論述形式で出題する。授業内で実施する中間試験については，翌週以降の授業で解説を行う。
学生へのメッセージ	高校で地理（A・B）を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため，毎回きちんと出席し，ノートを取りながら集中して受講してください。また，簡単な質問等は授業内課題の余白部分に記入してください。翌週の授業内で回答します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師控室）。
備考	

科目名	人文地理学	科目名（英文）	Human Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WHU2308a1		

授業概要・目的	この授業では人文地理学という学問分野の基礎知識について学びます。 人文地理学は、空間・地域・環境といった視点から、私たち人類が住む世界の成り立ちを理解し、説明しようとする学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、研究対象も方法も多岐にわたっているという特徴を持ちます。 本講義では、こうした人文地理学の基本的な見方、考え方を身につけることを目的とします。
到達目標	・人文地理学の基本となる考え方について説明できること。 ・特定の問題について人文地理学的な視点から捉えることができること。
授業方法と留意点	・主に　①人文地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③人文地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。 ・学生の皆さんには、理解度を問うための小課題（理解度チェック）とレポートに取り組んでもらいます。
科目学習の効果（資格）	担当教員は、人文地理学を学ぶことに以下のような利点があると考えています。少し難しいですが、授業を最後まで受講することで理解できるでしょう。 （1）一つの見方や方法論に縛られない複眼的思考が身につく。 （2）さまざまな事象が地域・場所によって異なることを理解し、比較する視点を持つことができる。 （3）個人、地域社会、都市、国家、世界とスケールを変えて物事をみることができる。 （4）距離や空間の広がり／狭まりが社会にどんな影響を及ぼすか考えることができる。 （5）人と

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人文地理学とはどのような学問か？	この授業の概要を理解し、人文地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
2	地図の発達史：古代から現代まで	古代から現代にいたる地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
3	自然環境と人類	自然環境と人類との関係を捉える視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
4	人口動態を捉える	人口の増減や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
5	家族形態の地域的多様性	家族が地域的に多様であり、歴史的にも変動してきたことを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
6	日本の農村と社会	日本の農村とその社会について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
7	都市空間の発達と構造	都市の発達と構造をとらえる視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
8	産業からみた都市の変遷	産業の変化に伴い、都市がどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
9	国際貿易の発達	国際貿易の発達過程とその理由、そしてリスクについて理解します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
10	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
11	人口減少と日本の地域課題	人口減少、経済停滞期において日本の諸地域が抱える問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
12	ツーリズムの発達	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
13	疫病の空間的拡散	疫病の空間的拡散パターンに関する研究を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
14	モビリティを考える	モビリティについての社会科学的研究について解説します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
15	今後の社会を考える：地理学の活用	授業の総括と、今後の社会を考えるうえで必要な視点について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代人文地理学	佐藤廉也・宮澤仁編	放送大学教育振興会
2			
3			

評価方法 （基準）	レポート 70%、小テストおよびコメント 30%
学生への メッセージ	大学の地理学は、以下の点で高校までの地理とはまったく違います。 （1）扱うテーマが多岐に及ぶこと。さらに他分野との相互交流があること。 （2）試験のための勉強ではなく、自分の関心事について探索したり、深めるための学問であること。 この授業をみなさん自身の学びのために活用してもらえることを切に願います。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 5 階小林研究室。 ※用事がある場合は、かならず先にメールで用件を伝えてください（hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp）。
備考	提出物へのコメントや質問への回答などのフィードバックは、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合には休み時間や教員オフィスアワー等に、教員の研究室、またはメール等にて行う。

科目名	社会学	科目名（英文）	Sociology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武田　祐佳
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WSO1309a1		

授業概要・目的	身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念（＝キーワード）と社会学的なものの見方について解説します。それらを通して、人が「社会的な存在」－他者から影響をうけ、また他者に対して影響を与える存在であることを理解するとともに、社会の仕組みについて学んでいきます。
到達目標	社会学の基礎的な概念を理解し、学んだ概念を使って人間関係や社会現象を解読する「社会学的思考力」を身につける。
授業方法と留意点	講義は１回完結のオムニバス形式でおこないます。毎回、レジュメを配布します。なお、講義の内容・順序が若干変更されることがあります。受講者は必ずWindows Teamsに登録してください。
科目学習の効果（資格）	社会学的なものの見方を学ぶことによって、これまであたりまえだと感じていた日常生活や社会現象に対する見方が多少なりとも変わるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	オリエンテーション	授業内容に関する復習
2	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（1）―社会化と自己	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
3	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（2）―ジェンダー	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
4	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（3）―地位と役割	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
5	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（4）―感情と社会	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
6	社会学における基礎的知識と発想	集団のなかの個人（1）-個人にとって集団とは	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
7	社会学における基礎的知識と発想	集団のなかの個人（2）-官僚制	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
8	社会学における基礎的知識と発想	社会的逸脱	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
9	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果（1）-予言の自己成就	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
10	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果（2）－社会的認知	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
11	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果(3)－社会的ジレンマ	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
12	社会学における基礎的知識と発想	自殺の社会学	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
13	社会学における基礎的知識と発想	都市の社会学	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
14	社会学における基礎的知識と発想	階層の社会学	配布レジュメと資料をもとに授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	これまでの学んだ内容を整理し、疑問点がないか確認したうえで授業に臨むこと

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・期末試験・・・８0% ・確認問題・・・２0% 詳細については、初回授業において説明する。
学生へのメッセージ	「社会学」は小中高にはないカリキュラムなので、学問のイメージが浮かびにくいと思います。社会学では普段私たちがあたりまえと思っていたり、気にもとめないことがらを「見よう」「理解しよう」とするので、難しいことばが出てきますが、授業では身近な例をあげ、できるだけ平易に解説していきます。 なお、授業中の私語には厳しく対応します。
担当者の研究室等	
備考	授業終了後に質問に応じる。また、Teams、学内メールでも対応する。 毎回授業の復習と期末レポート作成に、合計15時間はかけること。

科目名	法学入門	科目名（英文）	Introduction to Jurisprudence
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲　淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WSO1310a1		

授業概要・目的	私たちの日常生活は多くの法律と関わります。そこでこの講義では、法学の基礎から始め、身近な具体的事例をとりあげ、民法、商法、民事訴訟法などの基本的な内容と考え方を説明します。この授業の目的は、日常生活に必要な法律の知識を習得してもらうことです。
到達目標	この授業を通じて学生には、授業で習得した法律学の基礎的な知識を用いて、交通事故の損害賠償や相続などの日常生活において生じる問題を法的な視点から考え説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。また小テストは２回授業中に行います。
科目学習の効果（資格）	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法学の基礎１	法とは何か。法の種類、法の優劣関係について説明します。	事前に教科書244頁から248頁と251頁から252頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
2	法学の基礎２	法律の条文の構造、法律の解釈について説明します。	事前に教科書249頁から250頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
3	日常生活と契約１	民法の特徴、契約の成立について説明します。	事前に教科書１頁から８頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
4	日常生活と契約２	意思表示と契約の主体について説明します。	事前に教科書8頁から19頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
5	日常生活と契約３	契約自由原則、契約の種類について説明します。	事前に教科書19から25頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
6	日常生活と契約４	不動産取引と民法について説明します。	教科書25頁から32頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
7	日常生活と契約５	保証契約、保障債務・連帯保証などについて説明します。	事前に教科書 32 頁から 42 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
8	日常生活とアクシデント	交通事故、欠陥商品による被害、医療事故について説明します。	事前に教科書 43 頁から 61 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
9	家族関係１	結婚、離婚と民法について説明します。	事前に教科書 108から 132頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
10	家族関係２	親子、扶養と民法について説明します。	事前に教科書133頁から149頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
11	家族関係３	相続と民法について説明します。	事前に教科書149頁から157頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
12	企業と法１	商法・会社法を手がかりに企業とはどのようなものか、企業の形態について説明します。	事前に教科書158頁から171頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
13	企業と法２	会社の種類、特に企業の所有と経営の分離と株式会社について説明します。	事前に教科書171頁から209頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
14	紛争の解決１	日常生活で生じる紛争と裁判制度について説明します。	事前に教科書210頁から221頁、253頁から254頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)
15	紛争の解決２	裁判のしくみ、裁判以外の紛争の解決（和解、調停、仲裁）について説明します。最終回の確認問題の解説も同時にします。	事前に教科書221頁から243頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付おいては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度)

関連科目	日本国憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法の世界（第８版）	池田真朗・犬伏由子・野川忍・大塚英明・長谷部由紀子	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	小テスト（40t点）と定期試験（60点）の合計得点で評価します。

（基準）	
学生への メッセージ	授業中に生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	小テストの追試験、再試験は実施しませんので、注意してください。

科目名	日本国憲法	科目名（英文）	Japanese Constitution
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲　淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WSO1311a1		

授業概要・目的	日本国憲法をおおまかに理解できるように、基本的人権を中心に、授業テーマと関連する憲法に関わる問題をとりあげ、これに関わる基本的な事項、判例、学説を説明していきます。この授業の目的は、身近に生じる憲法に関わる問題を通して、憲法の基本的な内容と考え方を理解してもらうことです。
到達目標	この授業を通じて学生には、憲法の基本的な知識を習得し、「首相の靖国神社参拝」や「一票の格差」などの身近で話題になっている問題を憲法を通して考え説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回、授業の始めに資料を配布します。この資料に記載してある設題に関連する学説・判例などを講義形式で説明していきます。受講生は授業終了後、配布資料中の確認問題をしてください。この問題についての解答・解説は次回の授業で行います。
科目学習の効果（資格）	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	憲法とは	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書11頁から20頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
2	国民主権	国民主権の意味、国民主権を具体化する制度、国民主権が人権の解釈にどのように関わるかなどについて説明します。	事前に教科書243頁から249頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
3	基本的人権の保障１	人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。	事前に教科書 21 頁から 30 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
4	基本的人権の保障２	外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められるか、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。	事前に教科書 31 頁から 40 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
5	幸福追求権	幸福追求権の意味と範囲、新しい人権について説明します。	事前に教科書49頁から58頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
6	法の下の平等	憲法14条の定める平等の意味、差別の許される合理的根拠かどうかの判断基準などについて説明します。	事前に教科書60頁から70頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
7	信教の自由と政教分離	信教の自由の内容と限界、国家と宗教の関わりなどについて説明します。	事前に教科書71頁から82頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
8	表現の自由	表現の自由の保障の範囲、限界、検閲などについて説明します。	事前に教科書 83 頁から 104 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
9	経済的自由権	職業選択の自由とその規制などについて説明します。	事前に教科書105頁から114頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。(1時間程度)
10	社会権	生存権の法的性格、教育を受ける権利の法的性格について説明します。	事前に教科書115頁から134頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
11	刑罰と刑事手続	刑罰と憲法、適正手続について説明します。	事前に教科書135頁から144頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
12	国会	国会の最高機関性、立法機関性について説明します。	事前に 161 頁から 172 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
13	内閣	議院内閣制、衆議院の解散などについて説明します。	事前に教科書173頁から184頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
14	裁判所	司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立、違憲立法審査権について説明します。	事前に教科書185頁から206頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）
15	平和主義	戦争の放棄の意義、放棄された戦争の範囲、戦力の不保持の意味について説明します。	事前に教科書217頁から229頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1時間程度）

関連科目：法学入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての憲法学（第４版）	中村睦男・佐々木雅寿・寺島壽一（編著）・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰（執筆）	三省堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	1 回 25 点満点の小テストを 4 回行い、その得点合計で評価します。 なお、この小テストについては追試験、再試験を行いません。
学生への メッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	①小テストは、チームズに「テスト用」チャネルを設けますので、これを通じて提出してください。 ②授業形態を変更することがあります。変更するときは、「連絡用」チャネルを使って連絡します。

科目名	日本の政治	科目名（英文）	Japanese Politics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WSO1312a1		

授業概要・目的	日々ニュースで報じられる政治の動きを、政治学という学問的な裏付けを基礎にしてとらえることを目標とする。 政治体制・政党制など、政治学の理論的な整理を試みるとともに、国際政治についても目を向けていきたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本や主要国の政治制度（議会や行政機関）及び選挙制度、自由民主主義、政党や利益集団、福祉国家といった政治学の重要な項目について習得するとともに、戦後日本の政治史を理解することが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストはMoodleより行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース「日本の政治（政治学）＜2022年度前期 金曜4限W・2　担当：森康一＞」を検索の上、登録しておいて下さい。 自己登録キー：1206
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治学や政治史の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に関して必要な基本的な知識を得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治・国際面を読む習慣をつける
2	政治制度と選挙制度（1）	近代社会と現代社会、および近代国家について	近代市民社会と現代大衆社会の違いについて調べておく（約1時間）
3	政治制度と選挙制度（2）	近代議会主義と選挙制度について 日本の国会の選挙制度について	小選挙区制と比例代表制の違いについて調べておく（約1時間）
4	国家の政治体制（1）	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	自由主義と民主主義について調べておく(約1時間)
5	国家の政治体制（2）	自由民主主義体制の分類について	世界で自由民主主義体制と呼ばれる国々がどのくらいあるか調べておく（約1時間）
6	国家の政治体制（3）	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	1989年の東欧革命について調べておく（約1時間）
7	各国の政治制度・選挙制度	米・英・仏・独の政治制度、選挙制度について	大統領制と議院内閣制の違いについて調べておく（約1時間）
8	政党と利益集団（1）	政党の機能や分類、政党制について	イギリスの初期政党（トーリー党・ホイッグ党）について調べておく（約1時間）
9	政党と利益集団（2）	利益集団の機能や分類、活動および日本の利益集団政治について	「鉄の三角形」とは何か調べておく（約1時間）
10	政治と経済・福祉（1）	政治と経済の関わりについて	「大きな政府」・「小さな政府」について調べておく（約1時間）
11	政治と経済・福祉（2）	戦後の福祉国家について	日本の社会保障制度について調べておく(約1時間)
12	戦後政治史（1） 敗戦・占領	初期占領改革について	GHQのいわゆる「五大改革指令」について調べておく（約1時間）
13	戦後政治史（2） 講和と55年体制の成立	吉田・鳩山内閣期の国内政治・国際政治について	1950年代の外交政策について調べておく（約1時間）
14	戦後政治史（3） 自民党政治	自民党の派閥政治について	現在の自民党の派閥の沿革について調べておく（約1時間）
15	まとめ	講義のまとめと、試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする（約4時間）

関連科目	政治・外交関連の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代政治学	加茂利男 他	有斐閣
2	はじめて出会う政治学	北山俊哉 他	有斐閣
3			

評価方法（基準）	・原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。 ・成績評価は ◯平常点 20%：小テスト×2回（第6回・第11回の授業日に Moodle から実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点） ◯期末試験 80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。 期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。 そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の研究室等	11号館5階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	世界の政治	科目名（英文）	Politics in the World
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WSO1313a1		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。 前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。 歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストはMoodleより行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース「世界の政治　＜2022年度後期 金曜2限W・2　担当：森康一＞」を検索の上、登録しておいて下さい。 自己登録キー：1206
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。 この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく（約2時間）
2	冷戦時代の国際関係（1）	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく（約30分） レジュメ（第2回）を見直しておく（約1時間）
3	冷戦時代の国際関係（2）	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく（約30分） レジュメ（第3回）を見直しておく（約1時間）
4	冷戦時代の国際関係（3）	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく（約30分） レジュメ（第4回）を見直しておく（約1時間）
5	冷戦時代の国際関係（4）	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく（約30分） レジュメ（第5回）を見直しておく（約1時間）
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（1）	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく（約30分） レジュメ（第6回）を見直しておく（約1時間）
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（2）	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく（約30分） レジュメ（第7回）を見直しておく（約1時間）
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく（約30分） レジュメ（第8回）を見直しておく（約1時間）
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	「9.11テロ」について調べておく（約30分） レジュメ（第9回）を見直しておく（約1時間）
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「プラハ演説（2009）」について調べておく（約30分） レジュメ（第10回）を見直しておく（約1時間）
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく（約30分） レジュメ（第11回）を見直しておく（約1時間）
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく（約30分） レジュメ（第12回）を見直しておく（約1時間）
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく（約30分） レジュメ（第13回）を見直しておく（約1時間）
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく（約30分） レジュメ（第14回）を見直しておく（約1時間）
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、期末試験の準備をする（約3時間）

関連科目	政治・外交関連の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア（田中明彦訳）	有斐閣

評価方法（基準）	・原則として10回以上出席の学生のみを成績評価の対象とします。 ・成績評価は ◯平常点 20%：小テスト×2回（第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点） ◯期末試験 80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。 期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。

担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	自然地理学	科目名（英文）	Physical Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口　晴彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2314a1		

授業概要・目的	地理学の１分野である自然地理学は、地形・気候・水・生物などの自然環境と人々の生活・人間社会がどのようなかかわりをもっているのか、その自然環境はどのように存在しているのかについて考える学問です。この授業では、自然地理学の基本的な考え方について、多様なテーマを取り上げて学習していきます。
到達目標	自然環境と人間社会のかかわりについて考察することを通して、自然地理学の考え方・モノの見方を理解することができる。
授業方法と留意点	プリントを配布し、スライド(PPT)を用いて説明する講義です。授業にはネットにつながるスマホなどの端末を持参してください。受講する皆さんには毎回質問や感想を書いてもらい、次回授業の前半に回答や補足説明をします。提出されたレポートには個別にコメントする機会を設けます。
科目学習の効果（資格）	日常生活で見られる地形や自分の体験・ニュースで知る様々な気候・自然災害について、自然環境と私たち人間の関係から考えることができるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス・自然地理学とは何か	この授業のガイダンスとして、授業の概要や学問分野としての自然地理学について説明します。	配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（1時間）。
2	地球の大地形と地質時代	地球のプレートや火山などの大地形、地質時代について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
3	地震・津波と人々の暮らし	地震と津波の仕組みや、災害と人々の暮らしの関係について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
4	地表の変化(1) 段丘・丘陵	段丘や丘陵の形成と人々の利用について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
5	地表の変化(2) 平野・海岸	平野や海岸の形成と人々の利用について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
6	地図と地理情報(1)	自然環境と人間社会のかかわりについて読み取れる様々な地図・地理情報を見ていきます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
7	地図と地理情報(2)	地形図の特徴や凡例を確認した上で、実際に地形図を読んで地域の自然環境を読み解きます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
8	水循環と水資源	地球の水の存在と循環、資源としての水利用について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
9	水害と人々の暮らし	水がかかわる災害と人間社会の関係について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
10	世界の気候と植生	地球規模の大気の循環や世界の気候、植生分布について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
11	身近な気候(1) 気候と文化	気候と生活文化の関係について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
12	身近な気候(2) 地域の気候	都市や地域で見られる様々な気候について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
13	気候の変動	長い地球の歴史の中で、気候がどのように変わってきたのかについて学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。

	14	地球の環境問題	地球温暖化などの地球規模の環境問題について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2 時間）。 配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2 時間）。
	15	授業の総括	授業内容の総括を行います。	配布資料・メモを読み、授業全体の内容を復習し、レポートを作成する（7 時間）。

関連科目	人文地理学・環境関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みわたす・つなげる 自然地理学	小野映介・吉田圭一郎編	古今書院
2	地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論	高橋日出男・小泉武栄編著	朝倉書店
3	地形でとらえる環境と暮らし	西城潔・藤本潔・黒木貴一・小岩直人・楮原京子	古今書院

評価方法 （基準）	アンケート回答・小テスト：60%、期末レポート：40%
学生への メッセージ	高校で「地理」を履修していなくとも理解できる内容で構成します。 自然地理学的な考え方・ものの見方を学修していき、身近にある様々な自然環境について自らで考えようとする姿勢を心がけていきましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	授業に関する質問や相談は、メールで対応します。メールアドレスは初回授業時にお知らせします。

科目名	教養生物	科目名（英文）	Biology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾崎　清和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA1315a1		

授業概要・目的	人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、生物の多様性や生態系に関する基礎的な知識も同時に取得できる。
授業方法と留意点	対面で実施する
科目学習の効果（資格）	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生物、生態系とは	授業中のルール説明・試験方法について 生物や生態系の基礎知識を問う ビデオ「人体ミクロの大冒険　プロローグ」	―――
2	細胞	細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	DNA	DNA、タンパク合成、細胞の増殖に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	神経細胞	神経細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	神経系	神経系､脳に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	生命誕生	生殖器系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	ホルモンと自律神経	自律神経と内分泌系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	習熟度試験前半	講義前半の習熟度試験	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	血液、免疫	血液、免疫系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	腎臓	腎臓に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	筋肉と脂肪	骨格系、脂肪に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	骨	骨に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	肝臓、消化器	肝臓と消化器に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	癌	腫瘍に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	習熟度試験後半	講義後半の習熟度試験	―――

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ニューステージ新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の小テストを 50%、習熟度試験を 50%で評価する。 新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、連絡する。
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を拡げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部６号館３階病理学研究室１
備考	事後学習６０分、授業日の授業前に小試験対策の事前学習３０分が必要です。

科目名	公衆衛生学	科目名（英文）	Publc Health Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀　栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA1316a1		

授業概要・目的	授業では、まず基礎編として、健康の観点からみた人類史に始まり、公衆衛生の歴史、日本の人口の現在と将来、人々の健康を守るための方法論（疫学）、予防医学の考え方とその具体例（感染症、生活習慣病）について学ぶ。また応用編として、人の健康が社会から受ける影響について移民（外国人）を事例に解説する。さらに人の健康に関する研究の倫理について、過去の歴史から学ぶ。
到達目標	公衆衛生学が扱う内容の全体像とその方法論の概要を把握するとともに、私たちの健康が社会や環境から受ける影響について理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人口転換と疫学転換	人類史と健康	・予習をすること（教科書第 1 章 p8-10, 第 2 章 p24-25）(30 分) ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
2	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	・予習をすること（教科書第 1 章 p1-12）(30 分) ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
3	保健統計（1）	日本の人口	・予習をすること（教科書第 2 章）(30 分) ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
4	保健統計（2）	健康指標	・予習をすること（教科書第 2 章）(30 分) ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
5	疫学（１）	疫学の歴史と指標	・予習をすること（教科書第 3 章）(30 分) ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
6	疫学（２）	因果推論	・予習をすること（教科書第 3 章）(30 分) ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
7	疾病予防	予防医学の考え方	・予習をすること（教科書第 4 章 p53-58）(30 分) ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
8	感染症（1）	感染症の疫学と予防	・予習をすること (教科書第 5 章 p83-101, 166-178)（30 分） ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
9	感染症（2）	感染症流行拡大の事例	・予習をすること (教科書第 5 章 p83-101, 166-178)（30 分） ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
10	生活習慣病	生活習慣病の疫学と予防	・予習をすること (教科書第 5 章 p79-82, p101-113)（30 分） ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
11	環境保健	地球規模の環境問題と取り組み	・予習をすること（教科書第 6 章 p139-149, p203-208）(30 分) ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
12	国際保健	世界の健康・日本の健康	・予習をすること（教科書第 13 章）(30 分) ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
13	移民と健康（1）	移民の健康と社会	・予習をすること (前回配布の課題に取り組み提出)（30 分） ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
14	移民と健康（2）	日本在住外国人の健康	・予習をすること (前回配布の課題に取り組み提出)（30 分） ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)
15	研究の倫理	人体実験の歴史と倫理	・予習をすること（教科書第 1 章 p14-17）(30 分) ・わからない点をまとめておくこと　(30 分)

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	シンプル衛生公衆衛生学 2022	辻一郎他	南江堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向 2021/2022	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
2			
3			

評価方法（基準）	課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 出席は、学生便覧にある履修の規定に従う （出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります)。
学生へのメッセージ	・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を用意して、毎回の授業に真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。
担当者の研究室等	枚方キャンパス 看護学部 3 階 24
備考	提出された課題内容について授業で解説する。

科目名	科学技術教養Ｖ１	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy V1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井尻　貴之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが，その内容を理解することは容易ではない。本講義では，病気・くすりの発見や原因解明の歴史，生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は，病気・くすりに関する知識を習得し，新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。 また，病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し，新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い，配付する資料とパワーポイントなどを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他，レポート・小論文・演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果（資格）	生命科学に関するニュースがより身近になり，明確に理解できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	不妊のしくみ	日本人夫婦（カップル）は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており，実際に治療を受けている人が多い。しかし，なぜ不妊になるのかはっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
2	病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷（変異）」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
3	なぜ肥満は問題なのか？	肥満そのものは病気とは言えない。しかし，糖尿病，高脂血症，高血圧，脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか，そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と，がん，ウイルス感染(インフルエンザ,HIV,肝炎)，アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり，約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が，がんの原因の 30%を占めており，単因子要因としては最大である。本講義では，がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが，我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では，ミトコンドリアの特徴，役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して，遺伝子産物（タンパク質）を生産したり，新しい形質を作り出すなど，遺伝子を人工的に操作する技術，遺伝子工学について紹介する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し，病気と遺伝子，ゲノム創薬への応用について述べる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から，インフルエンザ治療薬を例に	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）

			医薬品開発への応用について述べる。	
	11	GPCR とくすり	G タンパク質共役型受容体(GPCR)は様々な疾患との関連性が示されており，医薬品の主要な標的タンパク質のひとつである。GPCR とともにそれらを標的とした医薬品について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で，薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存というと，その人の性格や人格の問題と思われがちであるが，脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では，薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	13	バイオ医薬品（抗体医薬品）	抗体医薬品は，これまでの低分子医薬品と比較して，高い治療効果と副作用の軽減が期待できるため，近年，注目が高まっている。本講義では，抗体とは何か，そしてこれまでに開発された抗体医薬品について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり，2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため，認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ，社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり，新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）

関連科目	科学技術教養 V2

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。
学生への メッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で，関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて，生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。本講義は生物・薬を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回レポート・課題があるので、毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。
担当者の 研究室等	1 号館 9 階　尾山，西村，中嶋，宮崎，船越，井尻，居場，湯浅研究室
備考	レポート・課題は各教員が採点した後、適宜返却する。

科目名	科学技術教養Ｒ１	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy R1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川上　比奈子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。 オムニバス形式の中で、建築設計や都市計画の実務経験を持つ教員が、建築やまち・都市がどのように創られているかについて実践的な授業を行う回がある。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	ICT ツールを使用または活用する。オムニバス形式の講義中心授業である。場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。 毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。 必ず、期日までに課題を提出すること。 最終回には、まとめテストを行う。 担当者によっては、講義時間内に小テストを行う場合があるので、注意すること。 提出された課題や小テストの中で誤解や不正解の多かった点は授業内で解説する。理解できない時は疑問点を質問してほしい。
科目学習の効果（資格）	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	（オリエンテーション） 自然の力をかりた住宅デザイン	（科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。） 古代より人間は自然と共生するためにさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの住まいの事例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
2	エコ技術と住宅デザイン−近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
3	エコ技術と住宅デザイン−現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
4	環境配慮型デザインプロセス	環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のパッシブ・アクティブ技術を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気の重要性について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
6	健康で快適な生活とにおい対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内でのにおい問題やにおい対策の考え方について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りと人との関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）

	12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を，具体的事例を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
	13	住環境における図の役割	身近に用いられている図の重要性とその役割について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）
	14	住環境と情報技術	私たちが毎日暮らす空間で利用されている情報技術について事例を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1 時間） ・復習：全授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめテストの準備をしておくこと（1 時間）
	15	解説 まとめテスト	解説およびまとめテストを実施する。	予習：講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること（1 時間）

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養（Ｒ１）　住環境デザイン学科　教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。
学生への メッセージ	毎回の課題提出をもって出席とします。15 回目のまとめテストは、可能な限り、対面で行う予定です。状況によって対面が不可能な場合はオンラインに変更します。Teams の投稿欄において周知するので、注意してください。
担当者の 研究室等	住環境デザイン学科共通準備室 12 号館 7 階　樋口教授室、山根講師室、川上教授室、久冨教授室、稲地准教授室、榊准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、大橋准教授室 12 号館 6 階　坂本教授室
備考	場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回 1.5 時間程度を目安とする。 提出された課題や小テストの中で誤解や不正解の多かった点は授業内で解説してフィードバックする。理解できない時は疑問点を質問してほしい。 各回の課題については、随時評価の上返却する.

科目名	科学技術教養Ａ１	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy A1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加嶋　章博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。(SDGs-11)
到達目標	インテリアから都市空間にいたるまで、広範な建築技術、建築デザイン、建築文化における現状と課題を通して、建築がどの様に考え出され、社会、生活、文化にどのような影響を及ぼすものかを理解する。その上で、身近な生活環境から公共的な都市空間にいたるまで、そのあり方を的確に考察することができる基本的な教養を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書・資料等は、Moodle に掲載あるいは各講義時に配布する。 Teams や Moodle 等を活用する授業があるため、詳細について初回授業で説明する。 各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。各講の内容に沿った演習課題を毎回実施する。
科目学習の効果（資格）	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	建築の歴史	建築の歴史的変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、 エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	建築とは何か	建築の考え方、 建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、 ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	建築と都市環境	建築と都市の関係、 都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築の内装	インテリア、 家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築のＵＤ	こどもと建築、 バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバーションといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書・資料等は、授業で配布あるいは Moodle に掲載予定		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	計 15 回の課題（各回、課題レート・講義メモ・小テスト・グループワーク・ディスカッション等により構成され、それぞれの割合の合計が 100%となる）により評価する。期末試験は行わない。原則として、課題提出の割合が 80%以上の履修者を成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	授業で得た建築学に関する基礎的な知見を、日常生活や社会で起こっている様々な事象に照らして、自ら考え判断することを心がけてください。
担当者の研究室等	８号館３階・各授業担当者の研究室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、原則として、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる（出席率 80%以上を成績評価の対象／30 分以上の遅刻は欠席扱いとする／遅刻は 2 回で欠席 1 回とみなす)。 事前あるいは事後学習として、教科書の当該回の範囲または指定した資料等を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業 1 回あたり 1.5 時間以

	上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養Ｍ１	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy M1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岸本　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	機械工学とは〝ヒトが活動する上での効率化と合理化，自動化を図る機械〟の原理，性能，製作，利用と保守を科学的に体系化した学問である。機械工学は，機械力学，材料力学，熱力学，流体力学の４力学を基軸とし、その応用分野は多岐にわたる。 本講義は，機械工学を象徴する代表的な学問分野を科学技術教養の視点で学習することにより，機械工学の全体像を俯瞰しつつ，履修生が所属する機械工学以外の分野と機械工学のかかわりに気づき，機械工学の基本的な考え方や役割を理解することを目的とする。
到達目標	・機械技術とものづくり技術の全般的な基礎知識を知り，機械工学と実社会への関わりを理解することができる。 ・機械工学と他分野の関わりに気づき，機械工学の基本的な考え方や役割を理解する。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 ・Web 上で配布するテキスト（PDF）に目を通し，ポイントをまとめておく。 ・講義前に課題を配布し，スライド資料を用いた講義を行う。(60 分) ・講義メモと課題を作成し，指示に従って提出する。(30 分) ・状況に応じてオンライン方式に切り替える場合がある。 ・切り替える日時や受講方法の連絡にはTeams を使うので，注意しておくこと。
科目学習の効果（資格）	・機械工学科の基本的な知識をを俯瞰的に知ることことができる。 ・機械工学と他分野との関わりに気づき，受講者の興味や知識の幅を広げることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機械工学の概要	・人類の歩みと機械の歴史 ・ものづくりの原点 ・科学技術と機械工学 ・これからの社会への機械工学の役割	M1 テキスト第１章に目を通し,ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
2	道具と機械	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	M1 テキスト第２章に目を通し,ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
3	いろいろな機械材料	・金属材料 ・高強度・機能性材料 ・新素材と高度産業社会	M1 テキスト第 3～5 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
4	ものづくりの科学と技術	・溶かして作る ・変形させて作る ・削って作る ・積み上げて作る ・工場を科学する	M1 テキスト第 6～8 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
5	作業を補助する機械	・人間の作業と機械 ・移動と運搬の補助 ・動力源・移動のためのメカニズム ・力を伝えるための仕組みと手段 ・シャフトとベアリング	M1 テキスト第９・10 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
6	機械をかしこくする	・機械の操作と知能化技術 ・知能化のための機械設計 ・パワーアシストスーツ ・人工知能技術	M1 テキスト第 11 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
7	ミクロの機械	・小型化への取り組み ・小さくなることで変わる物理特性 ・半導体製造技術 ・マイクロロボット	M1 テキスト第 12～14 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
8	流れを利用する	・動力と流体機械 ・流体機械の歴史 ・発電のための流体機械 ・自然エネルギーの利用	M2 テキスト第 2・3 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
9	陸上を移動する	・エンジンと機械工学 ・動力機械としてのエンジン ・熱エネルギー ・旅客輸送と貨物輸送	M2 テキスト第 4・5 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
10	空間を移動する（１）	・空を飛ぶ原理と飛行機の機械技術	M2 テキスト第６章に目を通し,ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
11	空間を移動する（２）	・深海に潜る原理と深海艇の機械技術 ・宇宙に飛び立つ原理とロケットの機械技術	M2 テキスト第７・８章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
12	計測する	・度量衡と政治 ・ものの大きさと精密さ ・センサで測る ・センシング技術	M2 テキスト第 9・10 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
13	制御する	・制御工学の世界 ・制御の方式 ・さまざまな機械制御技術	M2 テキスト第 11・12 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
14	生命・生体にならう	・バイオエンジニアリングの世界 ・人間を救う・支援する機械 ・健康とスポーツのための機械 ・人間工学	M2 テキスト第 13～15 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
15	工場見学（バーチャル）	・Web 上で公開されている国内外の工場の動画を視聴して，バーチャルな工場見	工場について事前に調べておく（２時間)、レポート作成（１時間)、関連事項について調べる（1 時間）

			学とする.	

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・毎回提出する課題（各回 10 点満点）に基づき成績評価をする。 ・満点は 150 点（講義 15 回分）で、これを 100 点満点に換算する。
学生への メッセージ	本講義を受講することにより，機械工学が対象とする学問・専門分野や，機械工学と実社会との関わりを理解することができます。現代社会では，あらゆる分野で機械が働いています。受講者それぞれの分野と機械工学の関わりを知ることで，知識や視野を広げることができます.
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕
備考	【フィードバック】採点済みの課題を確認することができる。

科目名	科学技術教養Ｅ１	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy E1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田　喜章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	［対面授業］ 電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 講義は１話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出はMoodle上で行う。課題レポートのフィードバックもMoodle上で行う。
科目学習の効果（資格）	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ることで、その性能をフルに引き出すことができる。 また，身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	科学技術教養の意義 電磁気学の歴史、電気回路の基礎、 抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、 １次電池と２次電池	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、 直流モータと交流モータ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、ｐ形とｎ形、 大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。 売電のしくみ。	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、 真空管と半導体・集積回路、 代表的なアナログ電子回路	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス電信からベルの電話へ、 電話機と交換機のしくみ、アナログからディジタルへ、 携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、２進数とは、論理回路入門	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
10	パソコン･スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやＩＨのしくみ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
12	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、 立体映像表示の原理と実例	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
13	インターネットのつなぎ方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線ＬＡＮ、ネットワークセキュリティ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
14	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間
15	マルチメディア技術	IC カード、公衆無線 LAN、カーナビゲーションシステム、電子カルテ	テキストを復習し、課題レポートを作成する。１時間

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキストを配付する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。 原則として課題レポートの提出率80%以上を成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。

担当者の 研究室等	１号館４階・５階の電気電子工学科教員室 責任者： 片田（１号館４階）
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは，理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。 課題提供は Moodle 上で行い、課題レポート提出はすべて Moodle 上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果は Moodle 上で個別に通知する。

科目名	科学技術教養Ｃ１	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy C1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	授業の目的は，受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原理を知ってもらうことである．第１回の授業では，身の回りの土木技術の例を取り上げ，それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する．第２・３回は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する．第４～７回は「土木」の由来となる基本的な材料，第８～11回は設計方法，第12～15回は計画と環境問題について講義する．
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し，土木技術と社会や経済活動，生活との関りを理解できる．
授業方法と留意点	・基本的にパワーポイントを用いた講義形式．授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する． ・歴史と人物と基本原理をセットとして取り扱う．第４回以降は材料や設計の基本原理を扱う．基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う． ・講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には，サンプルや簡単な実験を併用する．
科目学習の効果（資格）	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ，安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網，上下水道，エネルギー施設，防災施設，憩い．・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社，設計コンサルタント，公務員，メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦，敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦，敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料，土と人類，土と木 締固めて使う，事例1(古くからの技術)，事例２（近代以降の技術）	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性，品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料，リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか． 歩測からGPSまで，原理，応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか． 構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める．水と波の力を計算する．川，ダムと港の設計へ． 水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割，地下空間． 地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 （計画学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 （上下水道学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題，循環型社会 （環境工学）	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -水害から守る-	防災・減災、流域治水	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料：科学技術教養　C1	都市環境工学科全教員	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		
2			
3			

評価方法（基準）	受講メモ 50%，レポート 50%の総合点で評価する．※レポートは，授業のまとめとして毎回提出すること．期末試験は行わない．
学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります．この講義を通じて，自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです．

担当者の 研究室等	講義担当者居室　1 号館 3 階および 4 階
備考	事前・事後学習にかける学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含めは，毎回 1 時間程度としてください.

科目名	科学技術教養Ｔ１	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy T2
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東　武大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては，時代を超えて人々に事物を伝えるために，「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで，誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し，人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では，科学技術を支える数学や物理学の内容を，時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し，それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを，基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について，各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	テキスト及び毎回の配布資料に基づく講義主体の授業とする。講義ごとに講義メモの提出を求めるとともに、レポート等の課題を課す。
科目学習の効果（資格）	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	教科書 1 章の予習復習(1 時間)
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習(1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習(1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習(1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
9	電磁波	光は波である．弦を伝わる波は，弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返し現れて波になっている．光が波ならば，いったい何の振動なのだろうか．マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
10	レーザー光	光を発するもの（光源）には様々なのがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード（LED）が急速に普及している。本講では人が創りだした「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
11	X 線の発見から利用	X 線の発見から発生の原理、さらに X 線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンや X 線 CT がなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)

			線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	
	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説に ついて概観する。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証す る近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
	15	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙 を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題(1 時間)

関連科目	数学・物理の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養 T1(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館 2 階(東谷)， 5 号館 1 階(友枝・小林・東)， 8 号館 2 階(長島)〕
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武.石井　三恵.津村　英二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1333a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。 なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。 また、教員により課題の提出方法が異なることもあるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：２時間)
5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	・SDGsに対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) ・期末レポートを作成すること(1.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>平常点（30%）、グループ課題(20%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（石井）
7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（水野）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>必要に応じて授業内でレジュメを配布する。
なお、課題の提出方法は教員により異なる（Moodle か Web フォルダー等）ので各教員の指示に従うこと。</td></tr>
</table>

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1334a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2021 年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：１時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：２時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後：0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5 時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：１時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題につて調べること(事前：0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（水野）
備考	

科目名	キャリアデザインⅢ	科目名（英文）	Career Planning III
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA2335a1		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義では教員と学生、学生同士で対話をしながら進行をするので、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意志が伝えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること（１時間）
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること（１時間）
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること（１時間）
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること（１時間）
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読氏、グループワークに取り組むこと（２時間）
6	営業思考を身につける	・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（１時間）
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーションを行う	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（１時間） 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間)
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること（１時間）
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること(0.5時間)
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること(0.5時間)
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1時間)
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること(1時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること（１時間）

関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義での提出物（30%）、グループ課題(20%)、期末レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。なお、履修人数の増減に伴うグループワーク時のグループ数により講義内容の一部に変更が生ずる可能性があるので注意すること。
担当者の研究室等	７号館３階　教育イノベーションセンター（水野研究室）
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名（英文）	Employment Design II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1337a1		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てるとが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付けること。
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点（特に聴く態度）について	・事前学修：シラバスを熟読すること(１時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。 （警察官）	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
3	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで（摂大 OB/NPO 法人代表）	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性“を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ（IT/役員）	・現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
5	しあわせのまちづくり ～主役は地域住民！『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方～ （社会福祉協議会職員）	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉 協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
6	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
7	働くことってどんなこと？日本で働くことと SDGs、みんなで持続可能な働き方を探していこう！(デジタルサービス)	・日本を取り巻く環境、仕事と必要なスキル、SDGs との繋がり、キャリアを自分ごととして考えるという内容をお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
8	ホームレス状態を生み出さない日本を目指して(NPO 法人事務局長)	・大阪市で活動をする NPO 法人 Homedoor の実践を通じて、 ホームレス問題や NPO の運営の方法を学ぶ。 ・年間 1000 名以上の生活相談に対応するなかで見えてきた ホームレス問題の課題や今後の展望についても触れる。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
9	【業務告白】フツーのサラリーマンが PR の仕事の経験から感じたこと(グループ広報)	・自身のキャリア・経験談など、2 社 3 職種から学んだことを中心にお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
10	中間まとめ	・ここまでの講義の中間まとめを行います。	・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること(2 時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間) ・中間レポートを作成すること(2 時間)
11	ともに強いまちを創る～公務員という選択～ （摂南大学ＯＢ／市役所職員）	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
12	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ （摂南大学 OB/経営者）	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
13	信用金庫の仕事と期待される人財 (金融/人材開発)	・仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
14	社会問題と対峙する仕事 -ソーシャルワーカーについて- （摂南大学 OB・ソーシャルワーカー）	①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>伝える、事例検討を行います。</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>15</td><td>先人(企業家)に学ぶ仕事への心構え
（商工会議所/職員）</td><td>・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します。</td><td>・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
・事後学修：講義の全体を振り返ること(0.5時間)
・事後学修：最終課題を作成すること(1.5時間)</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="4">キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="4"><table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="4"><table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td colspan="4">毎回の感想レポート（30%）、中間レポート１回（30%）、期末レポート１回(40%)を総合的に判断する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td colspan="4">講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td colspan="4">教育イノベーションセンター（石井）
教育イノベーションセンター（水野）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="4">講師・内容は都合により変更することもある。
教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。
参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。</td></tr>
</table>

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木　和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WKY1350a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	①まずは問題を自力で解く（取り組む）→②講師による解説→③類題を解く　という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（約１時間）
2	計算問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
3	計算問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
4	計算問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
5	計算問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
6	計算問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（約２時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（約２時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約１時間）
14	論理問題⑥	推論②	全ての問題を事前に復習（約２時間）
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（約２時間）

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	「小テスト 40%」+「中間テスト・最終テスト 50%」+「Smart SPI 10%」
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週１時間程度の復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	2号館2階　ラーニングセンター（旧学習支援センター）
備考	『厳選！数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WKY1350a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階　教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力をオススメします。

科目名	ビジネス実務	科目名（英文）	Practical Business Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WCA3339a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 組織人およびフリーランスとしての自身の経験と、人材育成・組織開発コンサルティングを行ってきたビジネス現場での経験を交えて実践的な“ビジネスマナー”をお伝えします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。※プリントアウトが望ましい 授業は講義中心で進めるが、ペアワークやグループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むことが求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考えること(30分) ・事後学修：ビジネスマナーとは何か、400字でまとめること(60分)
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修:企業のエコ活動について調べること(30分) ・事後学修：仕事とは何か、まとめること(60分)
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定（MBO） ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べること(30分) ・事後学修：あなたの日常生活における MBO ととPDCAを考え、まとめること(60分)
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成すること(30分) ・事後学修:あなたの予定表作成について振り返り、まとめること(60分)
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をすること(30分) ・事後学修:ケーススタディプリントをすること(60分)
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをすること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返すこと(60分)
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修:来客応対プリント①をすること(30分) ・事後学修:来客対応プリント②をすること(60分)
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること(60分)
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修:ビジネス文書始める前にをすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書②をすること(60分)
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書④をすること(60分)
11	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をすること(30分) ・事後学修：メール文書を作成すること(60分)
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（Pマーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べること(30分) ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成すること(60分)
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること(30分) ・事後学修：設営事例をまとめること(60分)
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をすること(30分) ・事後学修：弔・贈答プリント②をすること(60分)
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること(30分) ・事後学修：共生関係について自らの考えをまとめること(60分)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	<table><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席６回以上）は評価できないことがある。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなってきました。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われています。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質です。みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の重要性を理解し、社会人としての第一歩を築きましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むことを前提とする。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とすること。質問等は、メールにて受け付ける。

科目名	エンプロイメントデザインⅠ	科目名（英文）	Employment Design Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1336a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は１年生向けの科目で、2022 年度入学生のみ履修ができる。 また、履修上限は 200 名とする。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること(２時間)
3	私が NO.1 プロジェクト② 中間振り返り	・講義３で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5 時間)
4	仕事で使うスキルについての解説	・定量、定性分析の概説、定量分析の３つの場面の概説 ・自身の意見を発することの大事さを理解する	・講内容義を振り返ること(0.5 時間)
5	私がNO.プロジェクト③最終振り返り	・講義３で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること ・第一回課題「NO.プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること(２時間)
6	仕事で使うスキル① 数字を用いて意思決定を行う①	・損益分岐点を使った意思決定方法を学ぶ	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
7	仕事で使うスキル② 数字を用いて意思決定を行う②	・機会費用と埋没費用を使った意思決定、重み付けを使った意思決定の方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること(１時間)
8	仕事で使うスキル③ 自身の意見を発信することを学ぶ	・意見と他者に同意する・反対することのみとの違いを理解する ・自分の意見を発信するためのスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること （１時間）
9	仕事で使うスキル④ 議論を進めるファシリテーションの基本	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(１時間)
10	仕事で使うスキル⑤ 創造的思考法を用いる	・アサンプションスマッシングなどアイディアを出すために思考を拡散させる技法を用いてグループワークを行う	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(１時間)
11	グループでリサーチプロポーザル （研究計画書）を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル（研究計画書)」の作成	・グループで課題に取り組むこと(２時間)
12	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
13	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義 10 で取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・第二回課題「グループレポート」提出（0.5 時間）
15	講義のまとめ（担当：教育イノベーションセンター）	・エンプロイメントデザインⅠの振り返り	・講義全体を振り返ること ・第三回課題「講義の最終レポート」を作成すること(２時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	毎回のミニッツペーパー（15%）、グループワーク(10%)、グループレポート（10%）、個人レポート３回（65%）を総合的に判断する。
学生への メッセージ	自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。 また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の 研究室等	７号館５階 教育イノベーションセンター（石井） ７号館３階 教育イノベーショセンター（水野）
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイト/Teams で伝達する。

科目名	インターンシップ	科目名（英文）	Internship
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WCA3338a1		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に　1）仕事の社会における役割　2）仕事の成果とは　3）仕事の責任と充実感　を直接肌で感じること　が期待される。 前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。 SDG s 4-4 SDG s 8-6
到達目標	就職活動の流れとインターンシプの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先出の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える ※以降、スーツ着用、またはそれに準じる洋装	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（0.5 時間）
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(0.5 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5 時間)
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること（0.5 時間） ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(0.5 時間)
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること(0.5 時間)
5	課題のプレゼンテーション①	・第４回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修：第４回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる（0.5 時間）
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修:マナーがなぜ大切なのかを考えること(0.5 時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること(0.5 時間)
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること（0.5 時間）
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること(0.5 時間)
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと(0.5 時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること(0.5 時間)
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修:グループ内の自分の役割を考えること(0.5 時間) ・事後学修:グループで課題に取り組むこと(0.5 時間)
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること(0.5 時間) ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5 時間)
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(0.5 時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること(0.5 時間)
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修:プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5 時間)

14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修:プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップⅠで学んだことをまとめること (0.5時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)
16	直前学修① 6月18日(土)　3限(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ※スーツ着用、またはそれに準じる洋装	・事前学修：社会人を意識したスーツを着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(0.5時間)
17	直前学修② 6月18日(土)　4限(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学修：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
18	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
19	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
20	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
21	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
22	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
23	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
24	体験報告書の作成	・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書チェックと指導 ・(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修：直前学習②の通りに報告書を作成し、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(0.5時間)
25	事後学修① 9月17日(土)　3限(予定)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導 ※この回以降、スーツ着用、またはそれに準じる洋装	・事前学修：個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
26	事後学修② 9月17日(土)　4限(予定)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修：個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
27	事後学修③ 9月24日(土)　3限(予定)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
28	事後学修④ 9月24日(土)　4限(予定)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
29	事後学修⑤ 10月1日(土)　3限(予定)	・インターンシップ全体を振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学修:実習記録簿を見直してくること(0.5時間)
30	事後学修⑥ 10月1日(土)　4限(予定)	・インターンシップ全体を振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返り、今後のキャリア形成にどのように活かしたいのかについて考えること(0.5時間)

関連科目：キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：平常点30%、提出物・プレゼンテーション等50%、企業からの評価表20%、を総合的に評価する。

学生への メッセージ	インターシップの流れは以下のとおりである。 ※４月下旬にリスト公開→５月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→５月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→６月末頃に事前訪問→８月上旬からインターンシップ開始（予定） ※インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある。 また、COVID-19 の影響により先方都合で実習が中止になることもある。
担当者の 研究室等	７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服　　装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 ※予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。

科目名	地域と私	科目名（英文）	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：A○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TLO1452a1,L科：LLO1354a1,D科・S科：ILO1361a1,P科：YLO1417a2,J科：JLO1363a1,W科：WLO1342a1,N科：NLO1343a1		

授業概要・目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。 SDGs－1,3,4,5,7,8,9,10,11,13,14,15,17
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。
授業方法と留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めてますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。 ＜４月９日（土）１～３限＞ 第１回　「地域と私」への取り組み方；オリエンテーション 授業の進め方／ひとこと自己紹介 第２回　地域との関わり方　～『調査されるという迷惑』を読む～ グループディスカッション／教室内での共有 第３回　地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説／グループディスカッション／教室内での共有 ＜４月２３日（土）１～３限＞ 第４回　インタビューにチャレンジ　～聴く、掘り下げる、まとめる～ グループづくり／グループ内での相互インタビュー／インタビューで聴いた内容をメモする 第５回　質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する／分析する 第６回　「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&ディスカッション ＜５月２１日（土）１，２限＞ 第７回　地域に関するテーマを選定しよう 「『地域』に関する文献の整理」についてのグループ内プレゼンテーション／グループで取り組むテーマの決定／グループワーク　の実施スケジュールの検討 第８回　グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話 ＜６月４日（土）１，２限＞ 第９回　グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域と防災」を例に考える／選定したテーマを「具体的な地域」から考える 第10回　グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える ＜６月１８日（土）１，２限＞ 第11回　グループワークの中間報告会 第12回　大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働的実践について概説／地域の担い手としての大学生の可能性／地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える個人ワーク／グループディスカッション／教室内での共有 ＜７月１６日（土）１～３限＞ 第13回　最終報告会① 第14回　最終報告会② 第15回　講義のふりかえり
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学びレポート（個人ワーク）30% 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」「『地域』に関する文献の整理」成果物（個人ワーク）20% 学びのグループワークレポート30%

	最終報告会でのプレゼンテーション　20%（ルーブリック評価） なお、60%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	７号館３階　上野山研究室
備考	

科目名	地域貢献実践演習	科目名（英文）	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武.植杉　大.上野山　裕士.小野　晃正.橋本　はる美.牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：A○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO3457a1,L 科：LLO3366a1,D 科・S 科：ILO3366a1,P 科：YLO3422a2,J 科：JLO3368a1,W 科：WLO347a1,N 科：NLO3348a1		

授業概要・目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4 月・5 月まではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。6 月（予定）からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。 SDGs 全般
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までの PDCA サイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。
授業方法と留意点	4 月・５月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。 ※COVID-19 の感染拡大状況により活動に制限がかかることもある。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1.オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法　：4 月 20 日（水）6 限 ※２回目以降の講義の日時は初回の講義にて提示する。なお開講曜日は水曜日６限になる。 2.連携先様によるプレゼンテーションと質疑応答（４回目までに自身が希望する先を提出） 3.S 科　橋本先生　公開情報を表計算ソフトで分析する/回帰分析、相関分析、平均の比較などを行う 4.S 科　牧野先生　定量調査のためのアンケートフォームの作り方を学ぶ/マッチング結果の提示） 5.W 科 植杉先生　オンライン・データベースを活用した分析手法を学ぶ 6.プレゼンテーション連携先について調べたことを報告 7.以降は　現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね３週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時に関しては担当教員の指示に従うこと。 ※12 月末（日時未定）に成果報告会を行う
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	課題提出物　30% 活動の取り組み状況　50% 最終報告等　20%
学生へのメッセージ	副専攻で学修した成果を実践勝つっどうで発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。
担当者の研究室等	７号館３階　教育イノベーションセンター（水野）
備考	

科目名	教育実習Ⅱ	科目名（英文）	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明.大野　順子.谷口　雄一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において 10 日間以上（80 時間以上）の実習を行う。（1）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（2）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（3）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（4）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（1）教育実習校での実習を中心に行う。（2）大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。（3）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。（4）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個人指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（３月～４月） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個人指導（４月～７月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～７月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（８月～１１月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教職フォーラム（育実習体験発表会）（１０月） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１１月） 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項 / 教育実習を考える会 / 蒼丘書林 2 / 学習指導要領解説 / 文部科学省 / 3 / / /
評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び事前指導・事後指導における課題提出物、教育実習記録による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日研究室、吉田研究室、松浦研究室、大野研究室） ７号館４階（谷口研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	教育実習Ⅲ	科目名（英文）	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明.大野　順子.谷口　雄一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において 15 日間以上（120 時間以上）の実習を行う。（1）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（2）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（3）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（4）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（1）教育実習校での実習を中心に行う。（2）大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。（3）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。（4）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個人指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（３月～４月） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個人指導（４月～７月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～７月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（８月～１１月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教職フォーラム（教育実習体験発表会）（１０月） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１１月） 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項 / 教育実習を考える会 / 蒼丘書林 2 / 学習指導要領解説 / 文部科学省 / 3 / / /
評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日研究室、吉田研究室、松浦研究室、大野研究室） ７号館４階（谷口研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	地域実習	科目名（英文）	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎.古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程１年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は２年次の「摂南大学 PBL プロジェクト」、３年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけしています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。
授業方法と 留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第１回授業で案内します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	1 チーム 10 名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 　上記の 1～6 の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第１回授業は 4 月 12 日（火）6 時間目です。この時に詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。 　この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習にいくことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも６時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は２週間に１回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日にちは調整中ですので、第１回授業で案内します。 第 1 回「ガイダンス（授業概要の説明)」 第 2 回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第 3 回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第 4 回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第 5 回「社会教育とは(1)」 第 6 回「社会教育とは(2)」 第 7 回「まちあるき報告会」 第 8 回「実習先挨拶」(学外) 第 9 回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第 10 回～第 18 回　「実習」(学外)（主に夏季休暇中に行います） 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第 19 回「実習ふりかえり(1)」 第 20 回「実習ふりかえり(2)」 第 21 回「全体報告会」
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	提出物（20%）、活動への参画の程度（40%）、最終報告プレゼンテーション（20%）、最終レポート（20%）
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましょう！
担当者の 研究室等	朝田研究室　1 号館 7 階
備考	

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。 なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC（英語の場合）の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 ※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（ ）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬　（9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬　（11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度　8 月中旬～9 月上中旬　（2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬　（3 月～4 月下旬） 【注意】新型コロナウィルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。 詳細は随時ポータルサイトで連絡します。 本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。 事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。 派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門)、グローバル・シチズンシップ論（応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用） 、Topics in Global Citizenship（EMI)、摂南大学 PBL プロジェクトⅠなど
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	事前授業評価　30%　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合） 現地活動評価　４０％　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合） 事後授業評価　３０％　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は 2 号館 2 階グローバル教育センター（旧：国際交流センター）まで
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一.村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TTO1461a1～TTO1465a1,L科:LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科:ITO1371a1～ITO1375a1,J科:JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・ 目的	市役所（町役場）の職員、自治会の役職者、市民（町民）などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、活動的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算する。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と 留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。 具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体および団体： 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町、アクトパル宇治、寝屋川青年会議所 SDG s ゴール：9・11・17
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生への メッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　浅野教授研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一.村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TTO1461a1～TTO1465a1,L科:LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科:ITO1371a1～ITO1375a1,J科:JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	市役所（町役場）の職員、自治会の役職者、市民（町民）などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、活動的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算する。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。 具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体および団体： 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町、アクトパル宇治、寝屋川青年会議所 SDG s ゴール：9・11・17
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　浅野教授研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　樹
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「ベトナム中部貧困地区での古絵本を活用する学習支援（ベトナム絵本プロジェクト）」 概要： ベトナム・フエ外国語大学日本語学科の教員や学生らと協働し、フエ市の貧困地区での学習支援活動に取り組む。学習支援の内容には、日本での古絵本集めとベトナムへの送付、日本語学科学生らの翻訳作業のサポート（特に内容や言葉の意味の解釈）などが含まれる。また、ベトナム語会話を習得する機会を設ける。 目的： （1）貧困地区にある小学校に向けた絵本教材（日本の古絵本のベトナム語翻訳版）を作成し、図書教材の充実を図る （2）貧困家庭に育った小学校低学年児童に向けた絵本の読み語りを通じて学習習慣を身に着ける支援を行う。 （3）貧困地区での学習支援モデルを学生主導で形成する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバーと学外の連携先（おもにフエ外国語大学の学生ら）との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身に着けるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	この授業は、「座学（基礎講座）」と「ベトナム語基礎会話」、「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」、「成果発信（討論、成果品の作成、発表）」から構成される。ベトナム人学生とのコミュニケーションは、基本的には日本語で行われるが、授業が進むにつれ英語やベトナム語を取り込む。「ベトナム語基礎会話」と「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」は、Zoom を用いてのリモート形式となり、日時についてはベトナム側とも相談して設定する。 海外の学生との交流となるため、礼節と敬意ある振る舞いはもちろんのこと、日越双方の文化・社会・自然などを学ぶ前向きな姿勢と好奇心が求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1　基礎講座①　オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 2　プロジェクトガイダンス　プロジェクトの概要説明と自己紹介／事後学習：リアクションペーパー 3　ベトナム語基礎会話①　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 4　日越学生交流①　Zoom でのリモート交流会（自己紹介や活動紹介など）／事後学習：同上 5　基礎講座②　「執事のダンドリ手帳」からダンドリの基本を学ぶ／事後学習：同上 6　基礎講座③　情報発信力を磨く／事後学習：同上 7　ベトナム語基礎会話②　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 8　日越学生交流②　Zoom でのリモート交流会（ベトナム中部の暮らしや文化の紹介）／事後学習：同上 9　基礎講座④　会議を回せ！－ファシリテーションについて考える①－／事後学習：同上 10　基礎講座⑤　会議を回せ！－ファシリテーションについて考える②－／事後学習：同上 11　ベトナム語基礎会話③　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 12　日越学生交流③　Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 13　基礎講座⑥　活動内容をシェアしよう（中間報告会）／事後学習：同上 14　ベトナム語基礎会話④　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 15　日越学生交流④　Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 16　古絵本集め①　学内や父兄への古絵本寄贈の呼びかけ 17　古絵本集め②　寄贈された古絵本の梱包と発送 18　基礎講座⑦　オーディエンスを引き付けろ！－ポスターセッションの教室－／事後学習：同上 19　ポスターセッション（摂大祭期間中） 20　ベトナム語基礎会話⑤　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 21　日越学生交流⑤　Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 22　ベトナム語基礎会話⑥　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 23　日越学生交流⑥　Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 24　日越学生交流⑦　Zoom でのリモート交流会（新たな課題の発掘と意見交換、ベトナム語会話）／事後学習：同上 25　基礎講座⑧　活動を内省する／事後学習：同上 26　基礎講座⑨　プレゼンの教室／事後学習：同上 27　日越学生交流⑧　Zoom でのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 28　日越学生交流⑨　Zoom でのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 29　日越学生交流⑩　Zoom でのリモート交流会（(活動の振り返りと総括、ベトナム語会話）／事後学習：同上 30　最終報告会　PBL 科目報告会での発表
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	物語　ヴェトナムの歴史　一億人国家のダイナミズム	小倉貞夫	中公新書
2	旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）	池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）	情報センター出版局
3			

評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（60%）と中間発表および最終発表（各 20%）で評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	（1）この取り組みは、学び（異文化理解、ベトナム語会話など）、実践活動（フエ市近郊の貧困地区での学習支援の一環）、価値創造（新たな取り組みの提案）などを含みます。大学での授業を通して実施可能な国際協力の事例づくりを目指します。 （2）本学では提供されていないベトナム語会話の授業が含まれます。設定された授業日以外にもフエ外語大学の学生らと交流し、そのレベルを上げることが出来ます。 （3）受講する学生らの意向があれば、このシラバスに沿いながらも、授業内容を柔軟に変更します。
担当者の	枚方キャンパス８号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）

研究室等	
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　樹
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「ベトナム中部貧困地区での古絵本を活用する学習支援（ベトナム絵本プロジェクト）」 概要： ベトナム・フエ外国語大学日本語学科の教員や学生らと協働し、フエ市の貧困地区での学習支援活動に取り組む。学習支援の内容には、日本での古絵本集めとベトナムへの送付、日本語学科学生らの翻訳作業のサポート（特に内容や言葉の意味の解釈）などが含まれる。また、ベトナム語会話を習得する機会を設ける。 目的： （1）貧困地区にある小学校に向けた絵本教材（日本の古絵本のベトナム語翻訳版）を作成し、図書教材の充実を図る （2）貧困家庭に育った小学校低学年児童に向けた絵本の読み語りを通じて学習習慣を身に着ける支援を行う。 （3）貧困地区での学習支援モデルを学生主導で形成する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバーと学外の連携先（おもにフエ外国語大学の学生ら）との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身に着けるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	この授業は、「座学（基礎講座）」と「ベトナム語基礎会話」、「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」、「成果発信（討論、成果品の作成、発表）」から構成される。ベトナム人学生とのコミュニケーションは、基本的には日本語で行われるが、授業が進むにつれ英語やベトナム語を取り込む。「ベトナム語基礎会話」と「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」は、Zoom を用いてのリモート形式となり、日時についてはベトナム側とも相談して設定する。 海外の学生との交流となるため、礼節と敬意ある振る舞いはもちろんのこと、日越双方の文化・社会・自然などを学ぶ前向きな姿勢と好奇心が求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1　基礎講座①　オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 2　プロジェクトガイダンス　プロジェクトの概要説明と自己紹介／事後学習：リアクションペーパー 3　ベトナム語基礎会話①　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 4　日越学生交流①　Zoom でのリモート交流会（自己紹介や活動紹介など）／事後学習：同上 5　基礎講座②　「執事のダンドリ手帳」からダンドリの基本を学ぶ／事後学習：同上 6　基礎講座③　情報発信力を磨く／事後学習：同上 7　ベトナム語基礎会話②　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 8　日越学生交流②　Zoom でのリモート交流会（ベトナム中部の暮らしや文化の紹介）／事後学習：同上 9　基礎講座④　会議を回せ！－ファシリテーションについて考える①－／事後学習：同上 10　基礎講座⑤　会議を回せ！－ファシリテーションについて考える②－／事後学習：同上 11　ベトナム語基礎会話③　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 12　日越学生交流③　Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 13　基礎講座⑥　活動内容をシェアしよう（中間報告会）／事後学習：同上 14　ベトナム語基礎会話④　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 15　日越学生交流④　Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 16　古絵本集め①　学内や父兄への古絵本寄贈の呼びかけ 17　古絵本集め②　寄贈された古絵本の梱包と発送 18　基礎講座⑦　オーディエンスを引き付けろ！－ポスターセッションの教室－／事後学習：同上 19　ポスターセッション（摂大祭期間中） 20　ベトナム語基礎会話⑤　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 21　日越学生交流⑤　Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 22　ベトナム語基礎会話⑥　招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 23　日越学生交流⑥　Zoom でのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 24　日越学生交流⑦　Zoom でのリモート交流会（新たな課題の発掘と意見交換、ベトナム語会話）／事後学習：同上 25　基礎講座⑧　活動を内省する／事後学習：同上 26　基礎講座⑨　プレゼンの教室／事後学習：同上 27　日越学生交流⑧　Zoom でのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 28　日越学生交流⑨　Zoom でのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 29　日越学生交流⑩　Zoom でのリモート交流会（(活動の振り返りと総括、ベトナム語会話）／事後学習：同上 30　最終報告会　PBL 科目報告会での発表
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	物語　ヴェトナムの歴史　一億人国家のダイナミズム	小倉貞夫	中公新書
2	旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）	池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）	情報センター出版局
3			

評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（60%）と中間発表および最終発表（各 20%）で評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	（1）この取り組みは、学び（異文化理解、ベトナム語会話など）、実践活動（フエ市近郊の貧困地区での学習支援の一環）、価値創造（新たな取り組みの提案）などを含みます。大学での授業を通して実施可能な国際協力の事例づくりを目指します。 （2）本学では提供されていないベトナム語会話の授業が含まれます。設定された授業日以外にもフエ外語大学の学生らと交流し、そのレベルを上げることが出来ます。 （3）受講する学生らの意向があれば、このシラバスに沿いながらも、授業内容を柔軟に変更します。
担当者の	枚方キャンパス８号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）

研究室等	
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プ ロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。
授業方法と留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 ２．巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 ６．い い川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日１・２限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。９月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6 月）、近畿水環境交流会（7 月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養Ｃ１、C2 教養特別講義「SDGｓで読み解く淀川流域」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	1 号館 3 階　石田裕子准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科:TT01461a1～TT01465a1,L 科:LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科:IT01371a1～IT01375a1,J 科:JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プ ロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。
授業方法と 留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 ２．巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 ６．い い川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日１・２限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6 月）、近畿水環境交流会（7 月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養Ｃ１、C2 教養特別講義「SDGｓで読み解く淀川流域」
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生への メッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の 研究室等	1 号館 3 階　石田裕子准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	テーマ： 地域の担い手としての大学生の役割を考え、実践する 概　要： 和歌山県海草郡紀美野町および大阪府寝屋川市などの地域をフィールドに、ひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。 SDGs-3,11,17
到達目標	①地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べることができる ③地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる ④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける
授業方法と 留意点	文献、資料等を用いた学内研修と複数地域における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります)。 ・学内研修：活動地域の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1 時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2 時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）
関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。
学生への メッセージ	生きづらさを抱える人びとの生活に寄り添い、それらを解消するための方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？
担当者の 研究室等	７号館３階　上野山研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	テーマ： 地域の担い手としての大学生の役割を考え、実践する 概　要： 和歌山県海草郡紀美野町および大阪府寝屋川市などの地域をフィールドに、ひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。 SDGs-3,11,17
到達目標	①地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べることができる ③地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる ④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける
授業方法と 留意点	文献、資料等を用いた学内研修と複数地域における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります)。 ・学内研修：活動地域の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1 時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2 時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）
関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。
学生への メッセージ	生きづらさを抱える人びとの生活に寄り添い、それらを解消するための方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？
担当者の 研究室等	７号館３階　上野山研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TTO1461a1～TTO1465a1,L科:LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科:ITO1371a1～ITO1375a1,J科:JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・ 目的	コンビニ、工場、飲食店など、日本で働く外国人が増えています。また日本で学ぶ留学生も増えています。外国人を受け入れ、共生するには、何が必要でしょうか？このプロジェクトでは、まずは、日本に住む外国人住民、外国人労働者、外国人研修生、留学生などと交流し、彼らの声に耳を傾けます。そして、「共生」するには何が必要なのかを考え、課題解決に向けて取り組みます。（プロジェクト参加にあたり、英語力などの語学力は不問です。）
到達目標	①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てたうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。
授業方法と 留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関（寝屋川市国際交流協会）とも連携し、活動を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【内容】 ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 【方法】 ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語：講義+演習形式 ・その他の内容：グループで話し合い、活動を行う 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TTO1461a1～TTO1465a1,L科：LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科：ITO1371a1～ITO1375a1,J科：JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・ 目的	コンビニ、工場、飲食店など、日本で働く外国人が増えています。また日本で学ぶ留学生も増えています。外国人を受け入れ、共生するには、何が必要でしょうか？このプロジェクトでは、まずは、日本に住む外国人住民、外国人労働者、外国人研修生、留学生などと交流し、彼らの声に耳を傾けます。そして、「共生」するには何が必要なのかを考え、課題解決に向けて取り組みます。（プロジェクト参加にあたり、英語力などの語学力は不問です。）
到達目標	①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てたうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。
授業方法と 留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関（寝屋川市国際交流協会）とも連携し、活動を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【内容】 ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 【方法】 ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語：講義+演習形式 ・その他の内容：グループで話し合い、活動を行う 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科･R科･A科･M科･E科･C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科･S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	プロジェクト名：音楽イベントを創ろう！ 【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2022 年度は，観客数 50-60 名程度の比較的小規模なコンサートについて，スタッフのご指導のもと，企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは，毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから，企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し，運営を行うことにより，企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに，学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。
到達目標	【PBL プロジェクト到達目標（共通)】 本プロジェクトでは，参加メンバー・学外の連携先との協働を通して，「主体性を持って前向きに取り組む力」，「自分とは異なった価値観を受け入れる力」，「課題を発見し，解決する力」を身につけるとともに，新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて，本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 １．市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき，新しい音楽イベントを企画・運営する。 ２．十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 ３．イベント後の処理を適切に行う。
授業方法と留意点	連携先や学生同士など，人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業計画】 ４月　ご挨拶 ５月　企画会議 ６月　自主事業内容の決定および出演交渉 ７月　中間報告会 寝屋川市に報告，寝屋川市広報に記事掲載依頼 ８月　チラシのデザイン作業 ９月　チラシの印刷・配付およびチケット作成 10 月　ポスターセッション チケット発売開始 11 月　打ち合わせ（出演者，舞台スタッフ，学生関係者） 12 月　最終報告会 準備および本番 この他に「基礎講座」全９回を受講すること これらの活動を通じて，以下のことを身につける。 １．イベントがどのように企画・運営されているのか，体験的に知る。 ２．企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 ３．連携先・出演者との交渉をする中で，社会人として必要なマナーを身につける。 ４．メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて，「質の高い意思決定」ができるようになる。 ５．他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。
関連科目	すべての科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	打ち合わせへの参加状況，プロジェクトへの貢献度，成果物などから総合的に判断する。
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科:TT01461a1～TT01465a1,L 科:LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科:IT01371a1～IT01375a1,J 科:JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	プロジェクト名：音楽イベントを創ろう！ 【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2022 年度は，観客数 50-60 名程度の比較的小規模なコンサートについて，スタッフのご指導のもと，企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは，毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから，企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し，運営を行うことにより，企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに，学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。
到達目標	【PBL プロジェクト到達目標（共通）】 本プロジェクトでは，参加メンバー・学外の連携先との協働を通して，「主体性を持って前向きに取り組む力」，「自分とは異なった価値観を受け入れる力」，「課題を発見し，解決する力」を身につけるとともに，新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて，本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 １．市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき，新しい音楽イベントを企画・運営する。 ２．十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 ３．イベント後の処理を適切に行う。
授業方法と留意点	連携先や学生同士など，人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業計画】 ４月　ご挨拶 ５月　企画会議 ６月　自主事業内容の決定および出演交渉 ７月　中間報告会 寝屋川市に報告，寝屋川市広報に記事掲載依頼 ８月　チラシのデザイン作業 ９月　チラシの印刷・配付およびチケット作成 10 月　ポスターセッション チケット発売開始 11 月　打ち合わせ（出演者，舞台スタッフ，学生関係者） 12 月　最終報告会 準備および本番 この他に「基礎講座」全９回を受講すること これらの活動を通じて，以下のことを身につける。 １．イベントがどのように企画・運営されているのか，体験的に知る。 ２．企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 ３．連携先・出演者との交渉をする中で，社会人として必要なマナーを身につける。 ４．メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて，「質の高い意思決定」ができるようになる。 ５．他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。
関連科目	すべての科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	打ち合わせへの参加状況，プロジェクトへの貢献度，成果物などから総合的に判断する。
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田　知也.長田　武
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	自治会等において、LINEによる情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となってLINE等のSNS活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNS という新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	4月　オリエンテーション 5月　寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～7月　説明会準備 8～9月　説明会実施 10月　ポスターセッション 11月　最終報告会準備 12月　最終報告会 説明会では、SNS の使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式で SNS の使い方に親しんでもらう。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	主体性　25% 協調性　25% 課題発見・解決力　25% プロジェクトへの貢献　25%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田　知也.長田　武
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TTO1461a1～TTO1465a1,L科:LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科:ITO1371a1～ITO1375a1,J科:JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	自治会等において、LINEによる情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となってLINE等のSNS活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNS という新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	4月　オリエンテーション 5月　寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～7月　説明会準備 8～9月　説明会実施 10月　ポスターセッション 11月　最終報告会準備 12月　最終報告会 説明会では、SNSの使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式でSNSの使い方に親しんでもらう。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	主体性　25% 協調性　25% 課題発見・解決力　25% プロジェクトへの貢献　25%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。 SDGs-4
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。またある程度の英語の活用力を身につける。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前半は、１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 後半は、新聞・雑誌など興味を持った記事を基に各自が調査した内容を紹介する。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度（３０％)、討論・総括内容（３０％)、課題へ取り組む姿勢と受講態度（私語・遅刻を含む）（４０％）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	１号館７階
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題の発見・分担(20%)、資料収集・分析(20%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(20%)、討論・総括内容(20%)、課題へ取り組む姿勢(10%)、受講態度（私語・遅刻を含む）(10%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚　匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とします。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができるようになります。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得します。同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを行います。ただし進行状況によっては、数理能力アップテストを宿題とする場合もあります。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行います。 ゼミは原則対面式で実施しますが、社会状況の変化に応じて、Microsoft Teams を用いた遠隔授業を行う可能性があります。資料は Teams、Web Folder などの ICT ツールを用いて配布します。また学生には、Microsoft Teams を用いたプレゼンテーションをしていただきます。そのため、履修者の皆様には、これらの ICT ツールのインストール・セットアップなどの準備や利用方法の習得に努めてください。 このゼミでは、学生がグループ単位でプレゼンテーションをします。その際の打ち合わせには、対面式によるものの他に、Microsoft Teams による会議、及び Teams 内にある Collaboration Space やノート（OneNote）などもご利用ください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、文章表現、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、プレゼンテーションを行い、レポートを作成する（これは後期の主な内容です)。 3)「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第１年次後期の専門基礎科目
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題への取り組み姿勢、受講態度（発言、余計な私語・遅刻状況）を総合的に評価します。具体的な採点基準は、課題（レポート含む）の提出状況（40%)、演習中の発言など取り組み姿勢（20%)、プレゼンテーションの取り組み姿勢と成果（40%)、出欠状況（欠席回数に応じて減点)、です。 出席回数が著しく不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	1号館7階　小塚教授室（経済学部）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	F
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	・本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。 ・政令指定都市での実務経験から社会人として大学生時代に必要な知識、智恵修得の実践的視点から演習を行う。 ・2 年次生からの専門教育に繋がる基礎的な内容での近代経済学とマルクス経済学の輪読による発表演習を行う。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行うだけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。 ・授業的達成のため、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得する。経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて､それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 ６）後期は、教科書の輪読を行い、担当者を定め発表を行い、経済学の基礎を学ぶ。 ７）共通課題として「社会人基礎力」試験等を実施することもある。 8）大学生活の一助とするため、動画による説明を行う。 ９）遠隔授業受講のための Teams,Moodle 及び Webfolder 等の学内 ICT ツールの利活用説明を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 経済ってそういうことだったのか会議 / 後藤雅彦　竹中平蔵 / 日本経済新聞出版社 2 / 知識ゼロからの経済学入門 / 的場昭弘 / 幻冬舎 3 /	
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 /	
評価方法 （基準）	ICT ツールを活用あるいは、面談（ICT 利活用による遠隔も参加も含む）による対面でのコミュニケーションから、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(50%)、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢（30%)、受講態度（私語・遅刻をしない等）(20%）を総合的に評価する。発表等の成果だけでなく討論や受講態度を満たさない限り及第点にはなりません。
学生への メッセージ	・何でも気軽に相談して下さい。　ICT ツールを活用して「スチューデントアワー」の時間を設けて相談に対応します。 ・政令指定都市での 30 年間の多くの部署での経験から社会人として修得すべき知識や今後の専門教育に向けての実践的な教育を行う。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　田井教授室（経済学部）
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。また、グローバリゼーションが一段と進行するという環境の下、日本の産業は積極的に海外展開を図るようになっている。その際、日本の産業はどのような課題に直面し、どのように克服しようとしているのか、というテーマに関して研究することも本演習の目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。また、上記の目的を達成するための基礎学力を養うことも到達目標とする。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、数理能力向上テストを行う。必要に応じて TEAMS を併用してオンライン学習する。 次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。さらに、テーマを決めてグループディスカッションを行う。 常に経済社会の動きに興味を持ち、その背景・要因について自分で考えることに留意してもらいたい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 なお、演習中に事前事後学習課題を指示する。 ６）必要に応じて TEAMS を併用する。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / FIRST YEAR STUDY GUIDE / 摂南大学 / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 大学４年間の経済学が 10 時間で学べる / 井堀利宏 / KADOKAWA 2 / / /
評価方法 （基準）	課題の発見・資料収集・分析（３０％）、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度（３０％）、討論内容・課題へ取り組む姿勢・受講態度（４０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	１号館７階　野長瀬教授室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得し、後続学年における学習に備えることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回 10 分程度の数理能力向上テストを 15 回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1)『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて導入教育および研究倫理教育を行う。 2）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 3）大学で研究したい事項、興味ある職業について発表を行う。 4）事業創造についてグループディスカッション、発表を行う。 5）経済領域の時事用語について学ぶ。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『FIRST YEAR STUDY GUIDE』		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ディスカッション参加（50%）、レポート（50%）により評価を行う。
学生へのメッセージ	自分のやりたいことを見つけるための相談をお待ちしています。
担当者の研究室等	1 号館 7 階
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。受講態度に問題のある学生は、単位取得できない場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴　景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。毎回の演習におけるディスカッション・発表など（60%）とレポート（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	1号館7階　朴教授室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。 状況によって対面からZoomへ移行する可能性もある。その場合は、また授業中またはポータルメールから連絡する。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習開始の基礎を確保させることと、後続学年での専門的な選択に備えさせるという２つの役割を有している。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。 ①学生が自分で経済問題を考え，分析する能力を身につける。②学生のプレゼンテーションの能力を高める。
授業方法と留意点	ゼミ形式は少人数の授業である。課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイル。割り当てられた担当教員の指導のもとに修得させる。 まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を確認するとともに、第１年次後期から学びはじめる専門基礎科目の学習を補完する。 １）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	各種課題の提出状況およびそれらの達成度（50%），授業取組み姿勢（グループワークでの他者との協力や討論，クラス内外での発表や質疑に対する対応など）（50%）
学生へのメッセージ	学習面にしても、生活面にしても、基礎演習の担当者になんでも相談してください。
担当者の研究室等	１号館７階　原田研究室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法・事前事後学習課題】 １）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	
参考書	
評価方法（基準)	課題レポート作成提出（５０%)、プレゼンテーションの内容（３０%)、フィールドワーク等への参加態度（２０%）の割合で評価する。
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の研究室等	1号館7階　持永教授室（経済学部）
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	柳川　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	基礎演習では、大学生として経済学の学修を行っていくための基礎的な知識、技法、倫理について修得することを目的とする。はじめに、基礎的な知識・技法・倫理について説明するとともに実習する。次に、経済学・経済政策諸分野の基礎的文献をもとに知識・技法・倫理を実践を通じて修得するとともに、基本的な知識や現代的課題を学び、探求する。
到達目標	１）授業の受け方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方について習得する。 ２）経済学・経済政策の諸分野の基礎的な知識や現代的課題を知る。 ３）研究倫理について理解する。
授業方法と留意点	経済学学修のための知識・技法・倫理について解説するとともに、実践を通じて習得するよう、双方向にアクティブな授業とする。学生相互で学ぶことができるように、グループでの学習や報告の機会を設ける。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて授業の受け方、情報収集のしかた、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、討論のしかた、研究倫理等をを学ぶ。 ２）練習問題を用いて数的処理の能力を高める。事前に計算問題を解いて提出してもらったうえで、教室でグループ討議し、その結果を発表してもらい、必要に応じて解説する。 ３）経済学の基礎について教科書を用いて学び、経済学的な考え方の基本を身に付ける。事前に教科書を読み、報告内容をまとめたり、練習問題を解いてきたうえで、教室でグループ討議し、その結果を発表してもらい、さらに理解を深めるよう質疑応答や解説を行う。 ４）環境問題を学習し、報告レジュメを作成してプレゼンテーションと討論を行い、学習成果をレポートにまとめる。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学	
2	マンキュー入門経済学第３版	N・グレゴリー・マンキュー	有斐閣
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習課題・報告資料の事前提出６０％、授業時間中の内容（プレゼンテーションの仕方、グループ学習の仕方）４０％で評価する。なお、欠席が多いと単位取得できない。
学生へのメッセージ	１年生のときにしっかりと経済学研究の作法を身に付け、２年生以降に充実した研究ができるようになりましょう。日本経済新聞などを読んで、経済の動向を知るように努めることをお勧めします。経済学は積み重ねの学問ですから、毎回欠かさずに出席してください。無断欠席は認められません。
担当者の研究室等	1号館7階　柳川研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	【4 月 22 日(木)以降のオンライン授業以降について】 演習、実習科目については感染対策に注意した上で対面授業を行います。状況に応じてハイブリッド授業の可能性がありますが、そのような時は決まり次第連絡します。 本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	前期・後期ともにゼミではグループ活動を行いプレゼンなどを行うが、その際個々人の役割分担でどの程度の貢献をしたかを見る。これを評価全体の 60%とする。また学年末に個人で期末レポートを作成するので、それに対する評価を 40%とし、これを合計して総合評価とする。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	１号館７階　朝田准教授室（経済学部）
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭　進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得する。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	発表の達成度（50%)、研究レポート作成（30%)、演習へ取り組む姿勢（20%）で総合的に評価する。
学生へ メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	１号館７階　郭教授室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	M
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	熊川　剛久
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を身につけるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって、必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習を行うことで、2年次から学びはじめるコース専攻科目に備えることができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1.　授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2.　地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分たちでテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3.　随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で実践する。 4.　環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5.　『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて、研究倫理を身につける。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ、1年次後期の専門基礎科目
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	毎回の授業で取り組む課題を100%、100点満点で評価する。
学生への メッセージ	もし何か困ったことがあれば、担当教員に遠慮なく話してください。
担当者の 研究室等	
備考	出席が不足すると単位の修得が難しくなります。 気をつけましょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	O
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方　佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎能力を習得させるとともに、経済学の学習を通じて後続学年での専門的な選択の備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1 回 10 分程度の数理能力向上テストを 15 回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および 1 年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションのしかたを学ぶ。 2）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーと IT リテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミック・リテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻・出欠を含む）を総合的に評価する。Speech（１０％)、グループ活動（40%)、プレゼン（30%)、その他（20%）で評価する。
学生へのメッセージ	勉強面において質問・不安がありましたら積極的に相談して下さい。
担当者の研究室等	１号館７階　名方研究室（経済学部）
備考	出席日数が不足したり、遅刻回数が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	Ｐ
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習を行うことで、第２年次から学びはじめるコース専攻科目に備えることができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第１年次後期の専門基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況（提出物 80%、日常の取り組み 20%）で評価する。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者になんでも相談してください。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　野口准教授室（経済学部）
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾　智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学びの基本を習得すること。 大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第１年次後期の専門基礎科目
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。 プレゼンテーション３回（60%），前学期レポート（20%），後学期レポート（20%）で評価を行う。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	1号館7階　平尾研究室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期 １）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 後期 グループワークや少人数でのディスカッションなどを通じて、コース選択や２年次以降の研究テーマを発見できるようにする。 また、可能な限り校外実習を実施し、生きた経済を学ぶ。 事前学習課題 ・『FIRST YEAR STUDY GUIDE』や授業で配布した資料などの予習、小課題への取り組み、グループ発表の準備など（２時間） 事後学習課題 ・授業の復習、グループディスカッション、レポート作成など（２時間）
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、経済情報論。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	小課題・レポート・発表の達成度（70%） 演習に取り組む姿勢（課題の発見・分担、資料収集・分析、討論・総括内容、受講態度など）（30%）
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	１号館７階　村瀬研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	S
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大槻　忠史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	(1)大学での学習開始の基礎を習得すること、(2)後続学年での専門的な選択、及び学習・学修に備えるための基礎の習得、という２つを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。具体的には、特に次の２点を目標とする。 (1)自分で経済問題を考え，分析する能力を身につける。(2)プレゼンテーションの能力を高める。
授業方法と 留意点	ゼミ形式とは、少人数で行う授業である。 課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルを実践する。その過程で、担当教員が必要となる基礎知識やスキルを具体的に補足していく。 まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を習得するとともに、第１年次後期から学びはじめる専門基礎科目の学習を補完する。 １）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / FIRST YEAR STUDY GUIDE / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析(30%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(50%)、討論・総括内容(20%)とし、課題へ取り組む姿勢などを含め、総合的に評価する。
学生への メッセージ	学習面にしても、生活面にしても、まず自分で調べ、自分でわかるところとそうではないところを明確にして下さい。この心がけが重要です。その上で、内容はもとより調べ方も含めて、明確にならなかった点については、基礎演習の担当者に気軽に相談してください。
担当者の 研究室等	１号館７階　大槻研究室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	N
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は２年次以降の専門的な知識を学ぶための基礎的な知識・技術を獲得することを目的とする。
到達目標	経済の幅広い知識と経済学的思考を身につける。また、情報発信するためのレポートの書き方や発表の方法を習得する。
授業方法と留意点	First Study Guide を用いて、学習方法などを学ぶ。また、各学生が興味のある社会経済的な問題の簡単な調査・発表を行い、レポートを提出する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１、レポートの書き方、口頭発表の仕方を学ぶ。 ２、各自の興味に応じて、調査分析をして口頭発表を行う。 ３、その発表に基づいてレポートを完成させ、提出する。 ４、First　Study　Year　Guide を用いて研究倫理教育を行う。 ５、環境問題を学習し、成果をレポートにまとめる。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション５０％、レポート５０％で評価する。出席が少ない場合は単位が認められない可能性がある。
学生へのメッセージ	1年生なので、卒業後を見据えて目標をつくるよう努力してください。
担当者の研究室等	1号館7階　田中研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	T
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	羅　鵬飛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行うコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な経済学の学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経済学入門レベルのテキストを学習する。毎週、グループ分けで担当グループが報告（プレゼンテーション）することを求める。 輪読資料（暫定） 中谷、中村『1 からの経済学』2010、碩学舎、ISBN-10 ： 450268080X マンキュー『マンキュー入門経済学』第 3 版、2019、東洋経済新報社、ISBN-10 ： 4492315217 その他、 １）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見する。 3)『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『1 からの経済学』	中谷、中村	碩学舎
2	『マンキュー入門経済学』第 3 版	マンキュー	東洋経済新報社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度 70%、課題へ取り組む姿勢など参加度 30%を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	全員が事前に指定資料を読む。 発表：グループ分けで輪読資料の発表を行う。発表班以外，資料を輪読したうえで発表班へ質問・討論を行う。 欠席の場合、事前に羅へ連絡する必要である。無断欠席は認めない。
担当者の 研究室等	１号館 7 階　経済学部　羅研究室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・ 目的	各自の研究テーマに沿って、調査を進め卒業論文を完成させる。 SDGｓ－4.9
到達目標	十分に調査し分析して、卒業論文を完成させる。
授業方法と 留意点	卒論発表をゼミ内で行い、自分の論文ばかりでなく、他のゼミ生からも学びながら論文作成を進めていく。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	4 月に卒業論文の進捗状況を確認する。 毎月 2 回、進捗状況を発表しながら、各自の調査や分析を進める。 9 月に再度進捗状況を確認し、12 月完成を目指して論文を書き進める。 11 月末にゼミの教員に論文を提出し、修正点を話し合う。 1 月に卒業論文を提出する。 併せて研究倫理教育を行う。
関連科目	演習Ⅰ演習Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	全員で行う卒業論文研究会への貢献度（30%）と各人が作成する卒業論文（70%）で評価する。卒業論文についてはルーブリック評価を行う。
学生への メッセージ	大学でしかできない経験です。自分で考え、資料を集め分析しましょう。
担当者の 研究室等	後藤研究室（1 号館 7 階）
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習し、最終的に卒業研究論文をまとめる。
到達目標	１．前年度までに確立された自分の研究テーマをさらに深化させる。 ２．フィールド調査を実施し、さらなる地域経済への考察を行うことで、認識を確立する。 ３．卒業研究論文の作成および卒業研究発表会への参加。
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。 併せて研究倫理教育を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。なお、卒業論文についてはルーブリック評価を行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	1 号館 7 階植杉研究室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚　匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・ 目的	これまでに専門演習で学んだこと、取り組んだことを踏まえ、テーマパークや観光施設の歴史、社会への影響を調査し、卒業研究として論文にまとめてください。その際には、可能な限りデータを用いた分析も取り入れてください。 戦後の日本経済史の中で、さまざまな転機となる社会現象や事件がありましたが、その中には観光やリゾート開発に関する出来事も非常に多くありました。学生の皆さんには、関心のあるテーマパークや観光施設を選んでいただき、その歴史を社会の変化と関連づけて考察を進めてください。 これまで、グループ単位でこのような調査や考察を進めてきたかと思います。しかし卒業研究は、4年間の学生生活の集大成として、（原則として）独力で取り組んでいただきます。
到達目標	1. ご自身で決めた調査対象（テーマパークや観光施設）についての歴史・社会的影響についての考察を深め、これを卒業研究論文とする。 2. 考察の結果を定期的にプレゼンテーションし、コメントをもとに改訂を進める。 3. 卒業研究論文を作成し、可能であれば卒業研究発表会で報告する。
授業方法と 留意点	これまでの演習と同じく、卒業研究について調べ、まとめた内容をプレゼンテーションしていただきます。ただし、これまでの専門演習と異なり、テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告は、（原則として）独力で進めてください。併せて研究倫理教育を行います。 ゼミは原則として対面式で実施しますが、社会状況に応じてMicrosoft Teamsを利用したオンラインゼミを実施する可能性もあります。後期の初回は対面式で実施する予定ですが、変更する可能性もあります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	進捗状況の報告を兼ねて、定期的にプレゼンテーションをしていただきます。その際に、今後進めるべきことなどを、個別に指示いたします。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	演習の取り組み姿勢、プレゼンテーション、出欠状況などをもとに、総合的に判断します。卒業論文についてはルーブリック評価を行います。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	１号館７階　小塚研究室
備考	欠席回数が多い場合は、単位取得を認めないことがあります。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・ 目的	・専門演習Ⅱの内容を踏まえてフィールドワークによって得た知識や自ら選択した専門書籍からの知見及びインターンシップ等での体験、実地調査等によって卒業研究をまとめる。 ・その作成支援を行う。 ・政令指定都市に勤務し、事業者との交渉や協働に従事した実務経験から公共事例だけでなく民間事例を踏まえて卒業研究指導を行う。
到達目標	・基礎演習、専門演習Ⅰ、Ⅱで修得した内容に基づき卒業研究をまとめ上げることを到達目標とする。
授業方法と 留意点	・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。下記内容を実施する。 ・週２回の卒業研究作成支援を行う。そのうち１回は、全員参加のゼミとし、ゼミ生相互の意見交換を行う。他の１回は、ゼミ生個別に卒業研究の作成指導を行う。 ・全員参加ゼミでは、教科書の輪読、意見交換を通じて卒業研究作成の共通スキルを養成する。個別ゼミでは、学生毎のテーマに沿った卒業研究作成指導を行う。自己のテーマだけでなく発表ゼミ生のテーマの議論を奨励し、自己のテーマの醸成に貢献させる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	・地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。 ・卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。 ・併せて研究倫理教育を行う。 ・感染症の罹患状況に対応して、集団ミーティング機器を利用して研究室と学生それぞれと連携して研究指導を行う場合がある。
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 演習時に適宜指定する。 / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 演習時に適宜指定する。 / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ICT ツールを活用しての演習参加や対面等でのコミュニケーションから ・ゼミへの参加状況、卒業研究作成内容等によって総合的に評価する。(60%) ・就職活動と大学での勉学の学生生活とを両立する姿勢を評価する。(10%) ・課題提出、発表の活動の評価を重視する。(30%) ・卒業論文はルーブリックにより評価する。
学生へのメッセージ	・卒業研究は大学での集大成である。単独での卒業研究をまとめるに際して学生間相互の議論によって進めることが重要である。 ・学生相互の議論による課題発見、必要な調査内容などを通じて卒業研究作成を奨励する。 ・論文作成スケジュールと就活の両立が必須である。卒業単位不足にならないよう講義受講計画を立て修学する必要がある。 ・政令指定都市に 30 年間勤務した経験から公共的視点での実践的な教育を行う。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　田井教授室（経済学部）
備考	・就職活動対策と勉学を両立させ、大学生活の成果としての卒業研究をまとめることが社会人になるための第 1 段階であることを認識させる。 ・真摯に研究に取り組む姿勢を評価する。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・ 目的	卒研の分析・研究を進める。 就活の報告・相談を行う。
到達目標	提出期限までに、一定水準以上の卒研を完成させ提出する。
授業方法と 留意点	卒研をブラッシュアップし、卒業に必要な水準を超えるよう指導する。 就活の報告・相談にたいする指導を行う。 必要に応じて TEAMS を用いたオンライン教育を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1.卒研の研究方法の確認 2.分析結果の確認と研究方法のブラッシュアップ 3.分析結果のまとめ。 4.必要な参考文献、分析手法の指導 5.卒研の体裁の確認 6.就活状況に基づくキャリアプランのブラッシュアップ
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	期限内に提出された卒研の内容による評価を行う。定期的に卒研指導を受けない学生は不合格とする。卒業論文についてはルーブリック評価を行う。
学生への メッセージ	残された時間を有意義に使いましょう。
担当者の 研究室等	１号館７Ｆ
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	大学での学びの集大成として、各人が選んだテーマに沿って、課題を設定・論理展開して、結論に至る卒業研究論文を作成します。
到達目標	期限内に卒業研究論文を完成し、提出することを目標とします。
授業方法と留意点	経過報告を何度も行い、ゼミ生全員で討議します。執筆段階に応じて個別指導も行います。 併せて研究倫理教育を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	各人の問題意識に基づき、観光または地域に関わるテーマを設定して、研究を進めていきます。経過報告での学生間の議論や教員のアドバイスを研究の質の向上につなげていくこと。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	卒業研究論文については、ルーブリック評価を行います。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１号館７階　野村教授室　（経済学部）
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴　景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・ 目的	専門演習で習得した基礎知識と分析方法に基づき、上級ゼミで決めてきたゼミ生各自の卒業研究テーマについて、より深く調査・分析・考察を行いながら、ゼミでプレゼン・ディスカッションすることで研究を深めて卒業研究論文を作成する。 到達目標 ：ゼミ生各自のテーマに関する研究結果を卒業研究論文としてまとめて発表する。
到達目標	卒業研究論文の作成ができること
授業方法と 留意点	まず、ゼミは必ず参加し、ディスカッションに参加することで、自分の卒業研究テーマのみではなく、ゼミ生全員のテーマについても一緒に勉強できるようにする。授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミであるため積極的に参加すること。全回のゼミ出席は必須です。 併せて研究倫理教育を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	テストは無し 卒業論文についてはルーブリック評価を行う
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	１号館７階　朴教授室
備考	※必ず出席

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・ 目的	経済（学）的な関心にもとづいて選んだテーマにしたがって調査・研究を行い，それをゼミで繰り返し報告・討論する中で，問題をより明確にし，分析内容をより質の高いものにできるように指導を行う。 また、卒業研究の質を向上させるだけでなく，自らの研究をまわりにわかるように伝える一方で，他の人の意見や質問を的確に理解し，それにもとづいて研究の内容を改善できるように指導を行う。
到達目標	自ら選んだテーマに沿って明確な問題設定を行い，それに対してきちんとした根拠を伴う結論を論理的に導き出し，それを他人が明確にわかる形で論文にまとめることを到達目標とする。
授業方法と 留意点	受講者全員が参加して，各自の研究内容を報告してもらい，それをめぐって討論を行う授業と，個別指導を行う授業とを，状況に合わせて組み合わせつつ授業を進める。 全員参加の場では、各人が中間報告を何度も行い、プレゼンテーションや質疑応答の技術を学びながら、継続的に研究を行う態度を身につけてもらう。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。 併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	演習への参加姿勢、準備状況、授業での報告内容，卒業論文の完成度等を勘案して総合的に評価する。卒業論文についてはルーブリック評価を行う。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・ 目的	これまでの大学生活で学んだ知識や経験（フィールドワーク、インターンシップ等を含む）を生かし、卒業研究を行い、卒業研究レポートを作成する。
到達目標	卒業研究レポートの完成
授業方法と 留意点	適宜、研究の進捗に応じた個別指導を行う。またゼミでの中間報告や全員参加の議論により研究内容の充実を図ること。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	各自の興味と問題意識に応じて、主に地域または観光に関わるテーマを設定し、各自調査・研究を進める。またゼミでの議論を通して研究の質の向上を図る。併せて研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	卒業論文についてはルーブリック評価を行う。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　持永教授室（経済学部）
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	柳川　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	卒業研究論文を完成するための指導を行う。
到達目標	専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱをはじめ大学で学んだ知識と経験を総動員して卒業研究論文を完成させることを目標とする。
授業方法と留意点	・授業中には、学生の研究報告と質疑応答の後に、論文作成指導助言を行う。 ・毎回、授業で発表するための資料や論文の作成をしなければなりません。 ・無断欠席は厳禁です。欠席が多いと単位認定しません。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１）　授業テーマは、プラットフォームビジネスの動向と規制の必要性についてである。 ２）　授業の内容は、学生の報告と質疑応答、および教員による論文作成指導からなる。 ３）　研究の方法は、研究テーマについて、各人が先行文献やデータを収集して分析し、報告資料や論文原稿としてまとめて授業中に発表し、質疑応答をする。あわせて教員が論文作成指導するので、事後的に論文をブラッシュアップする。このプロセスを繰り返して最終的に論文として完成させる。
関連科目	専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、産業組織論、サービス産業論
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	卒業論文はルーブリック評価を行います。さらに授業中の報告と質疑応答（報告資料の充実度、プレゼンテーションと質疑応答の内容、他のゼミ生の報告に対するコメント）や、ゼミ全体のフィールドワークや研究報告会、および学部の研究報告会などのゼミ活動全般への積極的参加の程度を含めて総合的に評価します。
学生へのメッセージ	学生生活の最後を飾る卒業研究です。すぐれた研究を行うように力を発揮してください。
担当者の研究室等	１号館７階　柳川研究室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・ 目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解し、それらを卒業論文としてまとめます。履修者はこの授業を受けることで、観光を中心とした地域経済の活性化についてフィールドワークを伴う調査方法や学習方法を習得することができます。
授業方法と 留意点	教室におけるゼミ形式です。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期に行うことは以下の通りです。 (1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。 (2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。 (3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。 後期に行うことは以下の通りです。 (1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。 (2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。 (3)自らの研究テーマについて卒業論文としてまとめていきます。 (4)卒業論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題設定、資料・データ収集、分析、考察を卒業論文としてまとめ上げ、その課程を総合的に評価します。なお、卒業論文についてはルーブリック評価を行います。
学生への メッセージ	自ら設定した研究テーマを卒業論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。
担当者の 研究室等	１号館７階　朝田准教授室（経済学部）
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭　進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	４年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。
到達目標	ゼミ生が選んだ卒論テーマに沿って、問題設定、論理展開（実証分析を含む）、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。
授業方法と留意点	毎回の演習で、数名のゼミ生による論文作成の進度に関する報告を行い、論文の内容についてゼミ内で討論する。 各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期では各自の卒業論文のテーマを選定し、それに沿って調査や研究を行い、卒業論文を作成する準備を行う。後期では４年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。 併せて研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	演習への授業態度、発表状況、論文の完成度等を考慮して評価する。また、卒業論文についてはルーブリック評価を行う。
学生へのメッセージ	実証分析の能力を養ってください。
担当者の研究室等	１号館７階　郭教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方　佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・ 目的	前期においては卒業論文の先行研究の読解、問題意識、現状分析について文章の作成をしてもらいます。後期にはデータを集めて回帰分析をしてもらい、卒業研究を作成してもらいます。
到達目標	現実の問題からテーマを見つける能力、情報収集能力、情報から仮説を構築し、データ分析で検証する能力を身につけてもらう。
授業方法と 留意点	就職活動で忙しいと思いますが、学生には適宜メールなどで連絡して事前の欠席連絡・事後のフォローアップを徹底させたいと思います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期においては卒業論文の先行研究を数本読んでもらい、どのように論文を作成すべきか、またどのような統計にデータが存在し、どのような点に着目すべきかについて学んでもらいます｡その先行研究をもとに自分が具体的にどのような内容について研究するのか説明してもらう。後期には自分の選んだテーマについて必要なデータを探してもらい回帰分析を行ってもらう｡その分析結果をもとに卒業論文を書いてもらう。また随時学生同士就職活動の状態について相談し、いいフィードバックをお互い得られるように取り計らう。 併せて研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	普段の授業態度（出席、発言)、プレゼンの内容、回帰分析、卒業論文の内容から総合的に評価します。卒業論文についてはルーブリック評価を行う。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	各人が選んだテーマに沿って、問題設定、論理展開（仮説、検証を含む）、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。
到達目標	卒論執筆を通して、課題発見、課題解決能力を高めることを目的とする。
授業方法と留意点	各人あるいは各グループの中間報告を何度も行い、継続的な研究態度を身につける。 各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。 併せて研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	卒業論文についてはルーブリック評価を行う。 演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度等を勘案して評価する。
学生へのメッセージ	卒業論文は学生時代の自分の作品です。自分が真剣に取り組めるテーマを発見し、意欲的に取り組んで下さい。
担当者の研究室等	1号館7階　野口准教授室（経済学部）
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾　智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・ 目的	この演習では，教育，労働，社会保障といった我々の人生（キャリア）に関わる諸問題を経済学の側面から理解し，学習していきます。教育，労働，社会保障に関わる諸問題を自身のキャリア形成上の問題であると同時に社会の大きな問題として考え，研究を進めていきます
到達目標	・労働経済学，教育経済学，社会保障論の基礎的な考え方を知る。 ・演習で得られた知見からから自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 ・現代日本で起こっている教育・労働・社会保障問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。 ・卒業研究論文を完成させる。
授業方法と 留意点	演習形式（グループワーク，ディスカッション，プレゼンテーション，コンピュータ実習，フィールド調査）で実施します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	演習のテーマ：キャリアの経済学 ・卒業研究論文執筆のため，先行研究など関連テキスト・論文の収集・輪読を行います。 ・卒業研究論文で実証分析をする場合，コンピューターを用いた統計分析の演習を行います。また，独自にデータ収集をする場合は社会調査を実施します。 ・以上の活動を通じて，卒業研究論文を完成させます。 ・より身近な問題としてキャリアを理解するために，可能な限り，ゲストによる講話，ワークショップ，シミュレーションゲーム，職場見学などを行います。
関連科目	専門演習Ⅰ，専門演習Ⅱ，労働経済学
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	・演習への参加と貢献を評価します。（出席し，ワークと議論に積極的に参加することが必要です） ・卒業研究論文の提出 ・卒業論文についてはルーブリック評価を行う
学生への メッセージ	教育，労働，社会保障の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。教育，労働，社会保障の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか，そして社会問題としてのそれらを経済学的思考で考えてください。
担当者の 研究室等	１号館７階　平尾研究室（経済学部）
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大槻　忠史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	資料の収集と分析、また、必要に応じ実地調査などに基づいて、卒業研究論文を作成すること。
到達目標	卒業研究論文を作成すること。
授業方法と留意点	卒業研究論文を作成するために、受講者との議論、また必要に応じて個別指導を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	(前期) 現時点での研究テーマと計画を報告してもらい、必要となる資料やデータの収集と分析を進める。 前期終了前に、各自に状況、及び休暇中の研究計画を報告してもらう。 いずれも自分以外の報告から学ぶことも多いと思われるので、積極的に参加し、自らにも活かして欲しい。 (後期) 中間報告をしてもらい、卒業研究の第１草稿を作成する。その後、追加や修正を行い、卒業研究を完成させる。 必要に応じて個別指導を行う。
関連科目	特になし。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	完成後の卒業研究論文について、ルーブリック評価により行います。
学生へのメッセージ	手間暇をかけ、作成してください。
担当者の研究室等	1号館７階　大槻講師研究室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	専門演習 II で選んだテーマに沿って、研究を行い、発表する。最後に卒業論文を完成させる。
到達目標	各自が選んだテーマで卒業研究を完成させる。その中で、論理展開や検証能力、ディスカッションの方法を学ぶ。
授業方法と留意点	週一回、全員参加での研究発表で、質疑応答を行う。また個別指導も行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期の間は個人の研究を行い、質問があるときに個人面談を行う。また、研究発表を各自一度行う。 後期には卒業研究の改善を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	プレゼンテーションや卒業研究の完成度、そして議論への参加を重視する。出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。卒業論文についてはルーブリック評価を行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	1 号館 7 階　田中研究室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	羅　鵬飛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	3年次に作成したフィールド調査報告書を下敷きに卒業論文を作成することが目的である。
到達目標	卒業論文の作成及びプレゼンテーションを通じて、問題発見力、論理的思考力、文章作成力、説明・発表力を養い、高等教育履修者に対し社会が求める基礎能力を身に着けること。
授業方法と留意点	卒業論文のテーマに応じ個別指導を行う。 必要な形式を満たしていない論文及び剽窃等の不正行為が認められる論文に対しては単位を与えないので留意すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	各自の卒業論文のテーマに沿った論文指導を行う。 前期をめどに卒業論文のドラフトが完成できるよう、授業の事前及び事後での自主的な卒業論文作成作業が求められる。 定められた授業時間帯以外でも柔軟に論文作成指導を行う。 11月から12月にかけて完成した卒業論文のプレゼンテーションを実施しプレゼンテーション力を評価する。 併せて研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業論文の内容（形式への準拠、独創性、論理展開・論文構成力、文章力、データ分析力、等）及びプレゼンテーション力に基づき評価する。 卒業論文発表会への参加者は高く評価する。
学生へのメッセージ	卒業研究は大学で学んだ専門知識に関連した自らの思索を記（しめ）すことのできる貴重な機会です。多くの学生にとって、このような機会は人生に一度しかありません。卒業研究を通じて思考力を鍛錬してください。
担当者の研究室等	羅講師室(１号館７階)
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	地域経済実践演習	科目名（英文）	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	後藤　和子.原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・ 目的	この講義では、主にヨーロッパを対象に、地域経済の多様なあり方やそれらが抱える課題を理解することを目的とする。また、できれば、日本との比較を行う。授業では、調査地域の経済と文化、課題設定の方法や文献講読、統計資料の活用方法など調査の技術を習得したうえで、テーマを設定して現地調査を行う。また調査した内容を、レポートまたはプレゼンテーションを通じて発表する。 SDGs-4.9
到達目標	″・欧州の経済や文化を理解する ・海外現地調査の手法を身につける ・地域経済の多様性を、比較研究の視点を通じて理解する ・調査内容を対外的に発表できる水準にまとめる″
授業方法と 留意点	″・授業内容は、海外調査の事前準備、IULM 大学での授業受講と海外調査、事後のまとめ、の 3 つの部分から構成される ・ミラノ訪問の時期については、先方の事情により変更されることがありうる″
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【事前授業】事前準備では、教室にて授業を行い、講義や文献購読を通じてイタリアの経済と文化について理解を深める。また同時に各人がテーマを設定し、海外視察の準備をすすめる。ミラノ訪問は、往復時間を含めて 1 週間程度の予定で行い、現地での講義受講、視察等を行う。事後には、レポートまたはプレゼンテーションによる発表を行う。 【実習先と実習時期（予定)】2022 年 2 月に、摂南大学の協定校である IULM 大学の授業を受ける（予定）とともに、ミラノ市内を探訪し、イタリアの文化産業（食、建築とデザイン、ファッション企業など）や、博物館・美術館等を視察する。COVID-19 の影響により渡航が困難な場合には、オンラインで実施する。
関連科目	地域経済入門
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	・事前準備(20%)、現地調査(60%)、事後のまとめ(20%)の、いずれに不参加の場合も単位は認定されない。また、単位認定は受講年の翌年となる。
学生への メッセージ	この授業では、自らが主体的に調査に関わることが求められます。また IULM 大学での授業では一定の語学力も必要となります。少々難易度が高いかもしれませんが、日本のみならず世界の地域経済を知ることは、経済がグローバル化している現代では必須といえます。海外企業等を視察した経験は、グローバル人材を求める就職活動にもプラスになるはずです。
担当者の 研究室等	後藤研究室
備考	4 月に合同説明会を実施する。また、参加費用については、学部からの援助がある。

科目名	地域経済実践演習	科目名（英文）	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・目的	本授業においては、実証分析方法として、RESAS 等のデータ利活用方法をマスターすることを目的とする。可能であればフィールドワークを行い、学習成果を応用し、プレゼンテーションを行うことを目的としている。
到達目標	データ分析、グループディスカッション、プレゼンテーションの方法を体得する。
授業方法と留意点	グループ単位で行動する。積極的なグループディスカッションを行ってもらい、プレゼンテーションを完成させる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【事前授業】関連文献の輪読を通じて、問題発見に重点を置く。 【実習先と実習時期（予定)】未定
関連科目	特になし。
教科書	
参考書	
評価方法（基準)	資料収集・分析(30%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(30%)、討論・総括内容(20%)、課題へ取り組む姿勢(10%)、受講態度（私語・遅刻を含む）(10%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。
学生へのメッセージ	事前・事後学習やプレゼンテーション作成の基礎的条件として、グループディスカッションがしっかりできるかがポイントとなります。他のメンバーと協力・協調し、しっかりしたグループワークができるかどうかをよく判断して受講して下さい。
担当者の研究室等	１号館７階　植杉教授室(経済学部)
備考	受講者数(上限)　：　８名　（上限を超えた場合の選抜方法　：　教員による面接） 諸費用：フィールドワーク実施時には、交通費及び宿泊費(おおよそ３万円程度を予定) 説明会を５月中に実施予定です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	地域経済実践演習	科目名（英文）	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・ 目的	この演習では、年間を通して地域の抱える課題について、地域での活動に実際に参加することによる体験的学習によって理解し対策を考察することを目的とする。 そのための課題設定から地域選択の方法、文献購読、資料の活用方法など予備調査の方法を取得し、その後、実際に調査地域において学外調査を行う。調査地域は 2 つの地域を予定しているが、学生自身が選択した地域活動についても考慮する。2 つの地域での考察内容は「授業テーマ」の欄を参照すること。 政令指定都市に勤務した経験から市民視点で政策を企画･調整･実施した経験を活かして地域が抱える課題に取り組み実績をあげた事例の現地に赴き課外活動を行う実践的教育を実施する。 SDGs-11「住み続けられるまちづくり」該当
到達目標	自ら積極的に行動し、課題を発見し対策を検討する姿勢から卒業論文作成や就活あるいは就業に向けての姿勢の涵養を図ることを目的とする。 大学時代に自立的な活動を行う習慣と直面する課題に対して自ら取り組む積極性の修得を目指す。
授業方法と 留意点	授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所等でも履修することができる。以下のプロセスによって行う。 （1）面談あるいは ICT ツール活用による事前授業 （2）フィールドワーク参加　報告書用画像や活動報告の記載　10 日以上の参画 10 日に満たない場合は、①②両方への参加あるいは別のボランティアやインターンシップ等のフィールドワークへの参加で不足日数を充当すれば単位認定を考慮する。但し、①または②での活動実績が必須となる。活動報告書作成する。 （3）演習での報告と整理　フィールドワークで得た知見による別の課題対応事例研究 （4）プレゼンテーションでの報告
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【事前授業】 下記フィールドワーク参加に当たって、面談あるいは ICT ツール等の活用によって担当教員がこれまで取り組んできた「ボランティア活動支援講義」の手法により活動についての注意事項と報告書様式の説明を行う。主として活動は夏期休暇期間であるが、10 日の活動期間確保のため活動期間延長について考慮する。但し活動発表時期までには活動終了しておくこと。 【実習先と実習時期（予定)】下記２つの内容以外にも追加あるいは変更することがある。 【①都市内地域再生　がもよんプロジェクト】 大阪市城東区蒲生 4 丁目地域では、地主と借り主との効果的なコラボレーションにより住民のニーズに対応した「食」による地域創生（振興）に成功している。米倉を改造したフランス料理店や長屋を生かした韓国料理店や創作衣料販売などを行っている。 【②吹田市栄通り商店街での活動】 シャッター商店街が少ない事例から地域の商店街での取り組みについて考察する。 以上の 2 つの地域住民との企画に学生が参画することによって地域創生（振興）のプロセスを考察する。 (1) 授業テーマ：住民ニーズを調査し、都市における地主と借り主との利害関係の調整によって地域再生に取り組んでいる。そのプロセスを学ぶ。 （2）方法：教員が推薦する「がもよんプロジェクト」主催者と学生との直接打ち合わせにより活動内容と場所を設定する。 教員が推薦する栄通商店会会長等と学生との直接打ち合わせにより活動内容と場所を設定する。 （3）事前、事後、学習課題：上記方法によって学生自ら設定する課題について教員と主催者、学生との間で学生が事前に学習べき内容を考察する。コラボレーション手法、活動内容及び地域再生の課題検討等についての内容を検討する。 その際、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所での打ち合わせ、検討会議を行う。学外関係者との議論方法として Teams だけでなく ZOOM 等の利活用を推奨する。 議論経過と議論による課題分析から仮説を設定し現地でのフィールドワークを実践する。
関連科目	インターンシップやキャリア関係科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 凡人のための地域再生入門 / 木下斉 / ダイヤモンド社 2 / 地域活性マーケティング / 岩水洋平 / ちくま新書 3 /	
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / その島のひとたちはひとの話をきかない　精神科医「自殺希少地域」を行く / 森川すいめい / 青土社 2 /	
評価方法 （基準）	①10 日以上の学外活動（複数以上の課外活動での 10 日以上に達すれば評価する） ②直接面談や ICT ツール活用による事前事後学習への参加及び学習内容（特に現状分析と対策としての課外活動内容） ③研究成果のプレゼンテーションによる発表の 3 つの項目による総合的評価を行う。特に③での研究成果に重点を置く。 ①の学外活動が困難な場合、本講義は評価不可となる。①②③の評価割合は①60%②10%③３0%とする。従って１０日以上の課外活動が単位取得に必須となる。
学生への メッセージ	本演習の成果は、学生の積極性に依存する。また実際活動中の社会人や地域に居住する住民との触れあいの中から研究成果を模索するため、コミュニケーション能力が必須であるとともに社会人に対する礼儀も必要となる。そのため経済キャリア入門でのコミュニケーション力の演習経験履修済みであることやボランティア活動への関心から相手への思いやる気持ちが本演習には不可欠となる。またグループで活動する場合は、他のメンバーとの協調・協力する姿勢が必要である。活動前に教科書を熟読することが望ましい。

	政令指定都市職員として地域活
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　田井教授室（経済学部）
備考	実習先については、調整ができ次第追加周知する。また、変更もあるので、演習を希望する学生に適宜 ICT ツールにより周知する。

科目名	地域経済実践演習	科目名（英文）	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2038a0		

授業概要・ 目的	地域経済の実態を理解するための実践演習を行う。 地域経済を支える企業家活動を、事例研究を通じて理解する。
到達目標	商品・事業の創出について理解する。 マーケティングの４Ｐについて体系的に理解する。 商品開発・事業開発の地域経済への波及について考えることができるようになる。
授業方法と 留意点	基本的に、調査、グループディスカッション、発表を中心に進めます。 必要に応じて、TEAMS を活用する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1.事例商品・事業の選定 2.基礎理論の習得 3.フィールド調査の計画 4.アンケート、ヒアリング調査の計画 5.-12.調査実施 13-14.新商品、新事業の理解と分析 15.まとめ
関連科目	専門演習、中小企業論、関西経済論
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	プロジェクトへの貢献度合（４０％）、アイデア提示・調査への関与の度合（３０％）、提出物／発表の内容（３０％）により評価
学生への メッセージ	企業における商品企画・事業企画の経験から実践的な内容とします。 「自分で調べて自分で考える」を基本とします。 やる気のある皆様の参加を待っています。
担当者の 研究室等	１号館７階
備考	

科目名	観光経済実践演習	科目名（英文）	Practical Seminar on Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	持永　政人.野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2048a0		

授業概要・ 目的	本演習は、観光関連事業に携わっている企業・団体を対象とした課題解決型の授業を行うことによって、観光産業と企業の活動内容への理解を深めることを目的とする。 授業担当者は観光関連産業での実務経験を活かして、実践的な教育を行う。
到達目標	授業を通して、観光関連事業の実際の活動内容や課題を理解し、グループで解決策を考える。 また同時に就職活動に必要な社会人基礎力やビジネスマナーも身に付ける。
授業方法と 留意点	学外活動に必要な最低限の一般常識とビジネスマナーを身に付けた上で、観光関連施設にて実務担当者からのレクチャー受講やヒアリング調査を行う。グループでのディスカッションを経て、課題についての研究成果のプレゼンテーションを行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【学外研究の準備授業】 「一般常識」「ビジネスマナー」「業界研究」等の授業を行う。 【研究対象企業・団体での研究】 10～11 月頃に全体、またはグループで数回、対象企業・団体における研究と、ディスカッションを行う。 【研究成果の報告】 中間報告と最終回に成果報告のプレゼンテーションを行う。
関連科目	「観光学入門」「観光マーケティング論」「観光人材論」「観光ビジネス英語」等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加態度（30%）、中間報告（20%）、最終プレゼンテーション（50%)にて評価する。
学生への メッセージ	学外での研究が土日になる場合もあるので、予定の調整が必要な場合があります。 観光関連産業が抱える課題と解決策を一緒に考えていきましょう。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　持永研究室 1 号館 7 階　野村研究室
備考	6 月頃に説明会を実施予定

科目名	観光経済実践演習	科目名（英文）	Practical Seminar on Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2048a0		

授業概要・目的	この演習では地域における観光経済の実態について観光に関連する企業へのヒアリング調査に参加し、そこで提供される課題に自ら取り組むことで理解を深めることを目的としています。事前学習として調査前に文献・資料講読を行い、事後学習として調査結果の取りまとめを行います。調査企業は２社を予定しています。
到達目標	事前・事後学習によって地域の観光経済の動向を理解します。ヒアリング調査によって観光経済の実態を理解し、自ら課題に取り組み、その方法論や姿勢を身につけます。
授業方法と留意点	以下の過程で行います。 (1)観光経済に関する事前授業 (2)ヒアリング調査参加 (3)ヒアリング調査結果の整理を行い、レポートにまとめる (4)報告会でのプレゼンテーション
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【事前授業】 近年の日本の観光経済と関西の観光の動向について講義を行う。次に、グループ分けを行い、訪問先に関する事前調査を行う。 【実習先と実習時期】(5 月～11 月に予定) 自治体またはアミューズメント施設運営企業を訪問し、そこでの実態や課題についてヒアリング調査を行う。 【事後授業】 グループごとに調査結果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備を行う。
関連科目	「観光学入門」「観光マーケティング論」「観光人材論」「世界観光事情」等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	フィールドワークに行った際に調査報告書を 3 回程度書きます。また授業の終わりにプレゼンテーションを行い、そのプレゼンを元に終了報告書を書きます。調査報告書を 60 点分、最終報告書を 40 点分として合計して総合評価します。
学生へのメッセージ	この授業は事前学習、ヒアリング調査、事後学習（報告会）の全てへの積極的な参加が必要となります。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　朝田准教授室
備考	4 月～5 月に説明会を開きます。

科目名	国際経済実践演習	科目名（英文）	Practical Seminar on International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2058a0		

授業概要・目的	オンラインを通じた外部講師などによる国際経済の講義や神戸の JICA や博物館等を訪問することで実際の貿易についての理解を深めることにより、経済学部生として必要な知識を向上させる。
到達目標	国際経済の理論を学び、貿易の実際を体験する事で経済の理解を深める。
授業方法と留意点	外部講師によるオンライン講義を受講する。実地研修として神戸の JICA などの組織を訪問することを予定している。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	わが国国際収支動向、自由貿易協定など国際経済に関する基礎的知識を事前に学んでおくこと。
関連科目	地域統合論、貿易論、国際投資論
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	講義の内容に沿った出席５０%、実地研修のレポート５０%で評価を行う。
学生へのメッセージ	経済理論を通して見た実際の経済を体験しすることを楽しみましょう。
担当者の研究室等	1号館7階　田中講師室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	国際経済実践演習	科目名（英文）	Practical Seminar on International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2058a0		

授業概要・ 目的	「オンライン　カンボジアＳＧＤs 研修」。 この授業では、国連の「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals： SDGs）について学ぶ。 カンボジアで活動する社会起業家やカンボジア学生、カンホジアで働く日本人の方とオンラインで交流を深める。日本とカンボジアが解決すべき SDG s は具体的にどのようにして解決できるのか、国境を越えて共に考え議論し、解決策を模索することを通じて、世界が抱えている社会問題を克服してよりよい社会を構築するための国際協力のあり方について、体験的に学習する。
到達目標	国連の SDGs とその解決策について具体的に理解をふかめる。 経済活動を通じて社会問題を解決する社会起業（ソーシャルビジネス）について学ぶ。 海外で活動する社会起業家や学生とオンイランで交流し、レクチャー、ディスカッション、共同調査、発表を行うことで、海外の方と協働する能力を培う。 国境を越えて協働するグローバルな生き方を知り、自己の視野を広げる。
授業方法と 留意点	海外の方とオンライン研修を行う。講義、社会調査、ディスカッション、報告発表をすべてオンラインで行う。またオンライン研修の前後に、学内で演習を行う。また、他大学との共同研修である。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	○事前演習 ・国連の SDGs について学ぶ。 ・事前課題「日本の社会問題についてまとめる」 に取り組む。 ○on-line カンボジア SDGs 研修（2021 年 8 月中旬の 7 日間） Day1 イントロダクション、レクチャー、SDGs セミナー、カンボジア社会起業家セミナー Day2 カンホジア・キャリアフォーラム「社会問題に取り組む日本人とカンボジア人を囲んで」、カンボジア人学生フォーラム 4Days カンボジア人学生とともにチームを結成し、世界の社会問題をオンラインで共同調査。 Day3　プレゼンテーション準備、最終プレゼンテーション、研修全体の振り返り ○事後演習 ・研修の振り返り、レポート作成と提出 ・研修プレゼン発表会へ向けての準備 ○研修プレゼン発表会 ・他の研修プログラムとの合同発表会
関連科目	開発経済学、地球環境経済、国際経済学入門
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	プレゼン（40%）、レポート（40%）、授業への参加態度（20%）で評価する。
学生への メッセージ	海外で活動する日本企業ビジネスマンや海外の大学生、社会起業家とオンラインで交流できる。貴重な体験がもてる機会なので、積極的に挑戦してほしい。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　野口准教授室
備考	研修日程や内容は変更の可能性がある。 詳しくは事前説明会にて説明する。

科目名	国際経済実践演習	科目名（英文）	Practical Seminar on International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2058a0		

授業概要・ 目的	本演習では、開発途上国とのフェアトレードを行っている企業と連携した課題解決型の授業を行うことにより、開発途上国が抱える課題とその解決策について理解を深めることを目的とする。
到達目標	１．フェアトレードの考え方と仕組みについて理解する。 ２．企業と連携した演習プログラムの実施により、ガーナ社会が抱える課題について理解を深め、その解決策について自分の考えを明確に述べることができる。 ３．企業担当者との対話やグループワークを通じて、社会人として必要とされるコミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を得ることができる。
授業方法と 留意点	事前演習でフェアトレードに関する基礎的な知識とビジネスマナーを身に付けた上で、企業と連携した演習プログラムを実施する。 演習プログラムは、オンラインと対面方式を併用して行う予定である。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	○事前演習（9 月） ・フェアトレードの考え方とその仕組みに関する講義 ・フェアトレードの具体的な取組みや事例に関するレポート作成、グループディスカッションと発表。 ○企業と連携した演習プログラム（10 月～11 月） ・企業担当者によるガーナ社会が抱える課題と企業活動の紹介 ・グループワーク（ガーナ社会が抱える課題解決策の提案、フェアトレード商品の企画や販売促進計画の作成など） ・グループ発表と企業担当者からの講評 ・企業活動への参加体験（フェアトレード商品の販売促進イベントへの協力など） ○事後演習（12 月） ・演習プログラムの振り返りとまとめ ・合同発表会に向けての準備 ○合同発表会での発表
関連科目	国際協力論、開発経済学
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習への参加態度（30%）、レポート（30%）、最終発表（40%）で評価する。
学生への メッセージ	フェアトレード企業の方と協力して、ガーナ社会が抱える課題とその解決策を一緒に考えていきましょう。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　村瀬准教授室
備考	演習内容は変更の可能性がある。 詳しくは 7 月に開催する事前説明会で説明の予定。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。 SDGs-4
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。またある程度の英語の活用力を身につける。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前半は、１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 後半は、新聞・雑誌など興味を持った記事を基に各自が調査した内容を紹介する。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度（３０％)、討論・総括内容（３０％)、課題へ取り組む姿勢と受講態度（私語・遅刻を含む）（４０％）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	１号館７階
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題の発見・分担(20%)、資料収集・分析(20%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(20%)、討論・総括内容(20%)、課題へ取り組む姿勢(10%)、受講態度（私語・遅刻を含む）(10%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚　匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とします。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができるようになります。
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得します。同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを行います。ただし進行状況によっては、数理能力アップテストを宿題とする場合もあります。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行います。 ゼミは原則対面式で実施しますが、社会状況の変化に応じて、Microsoft Teamsを用いた遠隔授業を行う可能性があります。資料はTeams、Web Folderなどの ICT ツールを用いて配布します。また学生には、Microsoft Teamsを用いたプレゼンテーションをしていただきます。そのため、履修者の皆様には、これらの ICT ツールのインストール・セットアップなどの準備や利用方法の習得に努めてください。 このゼミでは、学生がグループ単位でプレゼンテーションをします。その際の打ち合わせには、対面式によるものの他に、Microsoft Teamsによる会議、及びTeams内にあるCollaboration Space やノート（OneNote）などもご利用ください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、文章表現、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、プレゼンテーションを行い、レポートを作成する（これは後期の主な内容です）。 3)「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第１年次後期の専門基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題への取り組み姿勢、受講態度（発言、余計な私語・遅刻状況）を総合的に評価します。具体的な採点基準は、課題（レポート含む）の提出状況（40%）、演習中の発言など取り組み姿勢（20%）、プレゼンテーションの取り組み姿勢と成果（40%）、出欠状況（欠席回数に応じて減点)、です。 出席回数が著しく不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の研究室等	1号館7階　小塚教授室（経済学部）
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	F
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・ 目的	・本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。 ・政令指定都市での実務経験から社会人として大学生時代に必要な知識、智恵修得の実践的視点から演習を行う。 ・2 年次生からの専門教育に繋がる基礎的な内容での近代経済学とマルクス経済学の輪読による発表演習を行う。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行うだけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。 ・授業的達成のため、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得する。経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて､それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 ６）後期は、教科書の輪読を行い、担当者を定め発表を行い、経済学の基礎を学ぶ。 ７）共通課題として「社会人基礎力」試験等を実施することもある。 8）大学生活の一助とするため、動画による説明を行う。 ９）遠隔授業受講のための Teams,Moodle 及び Webfolder 等の学内 ICT ツールの利活用説明を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 経済ってそういうことだったのか会議 / 後藤雅彦　竹中平蔵 / 日本経済新聞出版社 2 / 知識ゼロからの経済学入門 / 的場昭弘 / 幻冬舎 3 /	
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 /	
評価方法 （基準）	ICT ツールを活用あるいは、面談（ICT 利活用による遠隔も参加も含む）による対面でのコミュニケーションから、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(50%)、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢（30%)、受講態度（私語・遅刻をしない等）(20%）を総合的に評価する。発表等の成果だけでなく討論や受講態度を満たさない限り及第点にはなりません。
学生への メッセージ	・何でも気軽に相談して下さい。　ICT ツールを活用して「スチューデントアワー」の時間を設けて相談に対応します。 ・政令指定都市での 30 年間の多くの部署での経験から社会人として修得すべき知識や今後の専門教育に向けての実践的な教育を行う。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　田井教授室（経済学部）
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。また、グローバリゼーションが一段と進行するという環境の下、日本の産業は積極的に海外展開を図るようになっている。その際、日本の産業はどのような課題に直面し、どのように克服しようとしているのか、というテーマに関して研究することも本演習の目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。また、上記の目的を達成するための基礎学力を養うことも到達目標とする。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、数理能力向上テストを行う。必要に応じて TEAMS を併用してオンライン学習する。 次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。さらに、テーマを決めてグループディスカッションを行う。 常に経済社会の動きに興味を持ち、その背景・要因について自分で考えることに留意してもらいたい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 なお、演習中に事前事後学習課題を指示する。 ６）必要に応じて TEAMS を併用する。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / FIRST YEAR STUDY GUIDE / 摂南大学 / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 大学４年間の経済学が 10 時間で学べる / 井堀利宏 / KADOKAWA 2 / / /
評価方法 （基準）	課題の発見・資料収集・分析（３０％）、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度（３０％）、討論内容・課題へ取り組む姿勢・受講態度（４０％）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	１号館７階　野長瀬教授室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得し、後続学年における学習に備えることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回 10 分程度の数理能力向上テストを 15 回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1)『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて導入教育および研究倫理教育を行う。 2）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 3）大学で研究したい事項、興味ある職業について発表を行う。 4）事業創造についてグループディスカッション、発表を行う。 5）経済領域の時事用語について学ぶ。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『FIRST YEAR STUDY GUIDE』		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ディスカッション参加（50%）、レポート（50%）により評価を行う。
学生へのメッセージ	自分のやりたいことを見つけるための相談をお待ちしています。
担当者の研究室等	1 号館 7 階
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。受講態度に問題のある学生は、単位取得できない場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴　景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。毎回の演習におけるディスカッション・発表など（60%）とレポート（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	1号館7階　朴教授室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。 状況によって対面からZoomへ移行する可能性もある。その場合は、また授業中またはポータルメールから連絡する。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習開始の基礎を確保させることと、後続学年での専門的な選択に備えさせるという２つの役割を有している。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。 ①学生が自分で経済問題を考え，分析する能力を身につける。②学生のプレゼンテーションの能力を高める。
授業方法と留意点	ゼミ形式は少人数の授業である。課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイル。割り当てられた担当教員の指導のもとに修得させる。 まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を確認するとともに、第１年次後期から学びはじめる専門基礎科目の学習を補完する。 １）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	各種課題の提出状況およびそれらの達成度（50%），授業取組み姿勢（グループワークでの他者との協力や討論，クラス内外での発表や質疑に対する対応など）（50%）
学生へのメッセージ	学習面にしても、生活面にしても、基礎演習の担当者になんでも相談してください。
担当者の研究室等	１号館７階　原田研究室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法・事前事後学習課題】 １）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	
参考書	
評価方法（基準)	課題レポート作成提出（５０%)、プレゼンテーションの内容（３０%)、フィールドワーク等への参加態度（２０%）の割合で評価する。
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の研究室等	1号館7階　持永教授室（経済学部）
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	柳川　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	基礎演習では、大学生として経済学の学修を行っていくための基礎的な知識、技法、倫理について修得することを目的とする。はじめに、基礎的な知識・技法・倫理について説明するとともに実習する。次に、経済学・経済政策諸分野の基礎的文献をもとに知識・技法・倫理を実践を通じて修得するとともに、基本的な知識や現代的課題を学び、探求する。
到達目標	１）授業の受け方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方について習得する。 ２）経済学・経済政策の諸分野の基礎的な知識や現代的課題を知る。 ３）研究倫理について理解する。
授業方法と留意点	経済学学修のための知識・技法・倫理について解説するとともに、実践を通じて習得するよう、双方向にアクティブな授業とする。学生相互で学ぶことができるように、グループでの学習や報告の機会を設ける。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて授業の受け方、情報収集のしかた、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、討論のしかた、研究倫理等をを学ぶ。 ２）練習問題を用いて数的処理の能力を高める。事前に計算問題を解いて提出してもらったうえで、教室でグループ討議し、その結果を発表してもらい、必要に応じて解説する。 ３）経済学の基礎について教科書を用いて学び、経済学的な考え方の基本を身に付ける。事前に教科書を読み、報告内容をまとめたり、練習問題を解いてきたうえで、教室でグループ討議し、その結果を発表してもらい、さらに理解を深めるよう質疑応答や解説を行う。 ４）環境問題を学習し、報告レジュメを作成してプレゼンテーションと討論を行い、学習成果をレポートにまとめる。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学	
2	マンキュー入門経済学第３版	N・グレゴリー・マンキュー	有斐閣
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習課題・報告資料の事前提出６０％、授業時間中の内容（プレゼンテーションの仕方、グループ学習の仕方）４０％で評価する。なお、欠席が多いと単位取得できない。
学生へのメッセージ	１年生のときにしっかりと経済学研究の作法を身に付け、２年生以降に充実した研究ができるようになりましょう。日本経済新聞などを読んで、経済の動向を知るように努めることをお勧めします。経済学は積み重ねの学問ですから、毎回欠かさずに出席してください。無断欠席は認められません。
担当者の研究室等	1号館７階　柳川研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・ 目的	【4 月 22 日(木)以降のオンライン授業以降について】 演習、実習科目については感染対策に注意した上で対面授業を行います。状況に応じてハイブリッド授業の可能性がありますが、そのような時は決まり次第連絡します。 本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	前期・後期ともにゼミではグループ活動を行いプレゼンなどを行うが、その際個々人の役割分担でどの程度の貢献をしたかを見る。これを評価全体の 60%とする。また学年末に個人で期末レポートを作成するので、それに対する評価を 40%とし、これを合計して総合評価とする。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	１号館７階　朝田准教授室（経済学部）
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭　進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得する。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	発表の達成度（50%)、研究レポート作成（30%)、演習へ取り組む姿勢（20%）で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の研究室等	１号館７階　郭教授室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	M
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	熊川　剛久
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を身につけるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって、必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習を行うことで、2年次から学びはじめるコース専攻科目に備えることができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1.　授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2.　地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分たちでテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3.　随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で実践する。 4.　環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5.　『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて、研究倫理を身につける。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ、1年次後期の専門基礎科目
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	毎回の授業で取り組む課題を100%、100点満点で評価する。
学生への メッセージ	もし何か困ったことがあれば、担当教員に遠慮なく話してください。
担当者の 研究室等	
備考	出席が不足すると単位の修得が難しくなります。 気をつけましょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	O
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方　佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎能力を習得させるとともに、経済学の学習を通じて後続学年での専門的な選択の備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1 回 10 分程度の数理能力向上テストを 15 回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および 1 年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションのしかたを学ぶ。 2）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーと IT リテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミック・リテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻・出欠を含む）を総合的に評価する。Speech（１０％)、グループ活動（40%)、プレゼン（30%)、その他（20%）で評価する。
学生へのメッセージ	勉強面において質問・不安がありましたら積極的に相談して下さい。
担当者の研究室等	１号館７階　名方研究室（経済学部）
備考	出席日数が不足したり、遅刻回数が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	Ｐ
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習を行うことで、第２年次から学びはじめるコース専攻科目に備えることができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第１年次後期の専門基礎科目
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業への参加状況（提出物 80%、日常の取り組み 20%）で評価する。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者になんでも相談してください。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　野口准教授室（経済学部）
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾　智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学びの基本を習得すること。 大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、情報リテラシーⅠ・Ⅱおよび第１年次後期の専門基礎科目
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。 プレゼンテーション３回（60%），前学期レポート（20%），後学期レポート（20%）で評価を行う。
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	1号館7階　平尾研究室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期 １）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 後期 グループワークや少人数でのディスカッションなどを通じて、コース選択や２年次以降の研究テーマを発見できるようにする。 また、可能な限り校外実習を実施し、生きた経済を学ぶ。 事前学習課題 ・『FIRST YEAR STUDY GUIDE』や授業で配布した資料などの予習、小課題への取り組み、グループ発表の準備など（２時間） 事後学習課題 ・授業の復習、グループディスカッション、レポート作成など（２時間）
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー)、経済情報論。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	小課題・レポート・発表の達成度（70%） 演習に取り組む姿勢（課題の発見・分担、資料収集・分析、討論・総括内容、受講態度など）（30%）
学生への メッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。
担当者の 研究室等	１号館７階　村瀬研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	S
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大槻　忠史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・ 目的	(1)大学での学習開始の基礎を習得すること、(2)後続学年での専門的な選択、及び学習・学修に備えるための基礎の習得、という２つを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。具体的には、特に次の２点を目標とする。 (1)自分で経済問題を考え，分析する能力を身につける。(2)プレゼンテーションの能力を高める。
授業方法と 留意点	ゼミ形式とは、少人数で行う授業である。 課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルを実践する。その過程で、担当教員が必要となる基礎知識やスキルを具体的に補足していく。 まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、１回１０分程度の数理能力向上テストを１５回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を習得するとともに、第１年次後期から学びはじめる専門基礎科目の学習を補完する。 １）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 ３）随時、「経済学入門」や「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 ４）環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 ５）『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / FIRST YEAR STUDY GUIDE / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析(30%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(50%)、討論・総括内容(20%)とし、課題へ取り組む姿勢などを含め、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	学習面にしても、生活面にしても、まず自分で調べ、自分でわかるところとそうではないところを明確にして下さい。この心がけが重要です。その上で、内容はもとより調べ方も含めて、明確にならなかった点については、基礎演習の担当者に気軽に相談してください。
担当者の 研究室等	１号館７階　大槻研究室
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	N
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・目的	本演習は２年次以降の専門的な知識を学ぶための基礎的な知識・技術を獲得することを目的とする。
到達目標	経済の幅広い知識と経済学的思考を身につける。また、情報発信するためのレポートの書き方や発表の方法を習得する。
授業方法と留意点	First Study Guide を用いて、学習方法などを学ぶ。また、各学生が興味のある社会経済的な問題の簡単な調査・発表を行い、レポートを提出する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１、レポートの書き方、口頭発表の仕方を学ぶ。 ２、各自の興味に応じて、調査分析をして口頭発表を行う。 ３、その発表に基づいてレポートを完成させ、提出する。 ４、First　Study　Year　Guide を用いて研究倫理教育を行う。 ５、環境問題を学習し、成果をレポートにまとめる。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション５０％、レポート５０％で評価する。出席が少ない場合は単位が認められない可能性がある。
学生へのメッセージ	1年生なので、卒業後を見据えて目標をつくるよう努力してください。
担当者の研究室等	1号館7階　田中研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	T
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	羅　鵬飛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1079a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとＩＴリテラシー）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、経済学の基礎的な科目の学習および１年次の末に行うコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な経済学の学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経済学入門レベルのテキストを学習する。毎週、グループ分けで担当グループが報告（プレゼンテーション）することを求める。 輪読資料（暫定） 中谷、中村『1 からの経済学』2010、碩学舎、ISBN-10 ： 450268080X マンキュー『マンキュー入門経済学』第 3 版、2019、東洋経済新報社、ISBN-10 ： 4492315217 その他、 １）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見する。 3)『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『1 からの経済学』	中谷、中村	碩学舎
2	『マンキュー入門経済学』第 3 版	マンキュー	東洋経済新報社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度 70%、課題へ取り組む姿勢など参加度 30%を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	全員が事前に指定資料を読む。 発表：グループ分けで輪読資料の発表を行う。発表班以外，資料を輪読したうえで発表班へ質問・討論を行う。 欠席の場合、事前に羅へ連絡する必要である。無断欠席は認めない。
担当者の 研究室等	１号館 7 階　経済学部　羅研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・ 目的	テーマは、文化経済をキーワードとして地域や観光への理解を深めることである。初年度は、文化経済学の基礎理論や、文化産業・クリエイティブ産業の理論と現実を学び、文化と地域経済との関わりについて、探求することを目指す。 SDGs-4,9,11
到達目標	基礎的な理論を理解するとともに、文献や論文の検索、現地調査の準備ができるようになる。経済学部のプレゼンテーション大会に参加する。
授業方法と 留意点	前期は、文献を読み、今年度の調査テーマを考える。また、土曜日に関西圏のフィールドワークを行う。 前期終了時に、今年度のフィールドワークの計画を完成し、後期に、1泊2日のフィールドワークを行う。 1月には、グループに分かれてプレゼンテーション大会の準備をする。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１、文化経済や文化市場の基礎的な理論を学ぶ ２、文化産業やクリエイティブ産業の理論と実態を学ぶ ３、文化産業の集積と地域、文化による都市や地域の再生、文化による観光振興など、文化と地域の関わりや可能性を学生自らが探求するアクティブ・ラーニングを目指す。 ４．学生自らが研究テーマを見つけ、フィールド調査を計画し実行する。 ５．併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習への出席状況（欠席は半期に3回まで)、レポートや学習成果（３０%)、フィールドワークへの参加（３０%)、プレゼンテーション（４０%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	１号館７階　後藤教授室
備考	演習の主体は学生です。積極的な参加を求めます。また、演習を通して将来の仕事への展望が持て、社会人としての基本的なスキルを身につけられるように頑張りましょう。 イタリアの学生との合同ゼミや、現地調査等も行う予定です。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。
到達目標	１．地域経済の問題点について基本的な認識を持つ。 ２．地域経済における地域金融機関の取り組みについて事例研究する。 ３．次年度に向けて自分の関心を確立する。
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、プレゼンテーションといった一連の作業を経験することを通じて、基礎的な知識と方法論を身につける。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。 併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題の発見・分担(20%)、資料収集・分析(20%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(20%)、討論・総括内容(20%)、課題へ取り組む姿勢(10%)、受講態度（私語・遅刻を含む）(10%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚　匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・ 目的	この演習では、前期と後期で内容が異なります。 ＜前期＞ 京都の伝統的な都市住宅である京町家の活用方法が注目されています。その１つとして、宿泊施設としての利用があります。前期は、京町家を改装した旅館を訪問し、就業体験（フィールドワーク）の他、運営企業の社長・スタッフにお話を伺います。ただし、Covid-19 の感染状況など、社会状況によっては訪問はせずに、Zoom でご講演いただく可能性があります。 この講演会では旅館業のプロにお話を伺うのですから、我々も知識面で相応の準備をする必要があります。そのため、これに先立って、京都の観光事情や京町家を活かしたビジネス、そしてそれらの事業展開のための支援制度や融資制度について、グループ単位で調べてプレゼンテーションをしていただきます。 ＜後期＞ 3 年次のゼミ（専門演習Ⅱ）では、他大学との合同ゼミを実施します（社会情勢によっては、オンラインで開催します）。合同ゼミでは、観光やテーマパークの歴史を扱う予定です。そこで準備学習として、戦後日本経済史、特にレジャーや観光に関する資料の輪読や、テーマパークなどの観光施設の歴史についての先行研究の講読を行います。担当箇所を決め、その部分の内容をまとめて報告をしていただきます。分析の際の着目点やまとめ方などを学びましょう。 なお、諸般の事情により、前期と後期のゼミ活動内容を入れ替えることもあります。通常のゼミは、原則として対面式で実施しますが、Covid-19 の感染状況など、社会状況によっては Teams を用いたオンライン形式に移行する可能性もあります。
到達目標	１）京都の観光事情について理解を深める。 ２）京町家ビジネスの実際の例を見学し、理解を深める。 ３）戦後日本経済史から、観光施設の歴史・社会への影響について理解を深める。
授業方法と 留意点	この講義は演習なので、学生の主体的な取り組みが非常に重要です。学生には積極的な報告を期待します。 大学外の方々よりオンラインでお話を伺う際には、Zoom を利用する予定です。また、原則として対面式でゼミを実施しますが、Covid-19 の感染状況など社会状況の変化に応じて、Teams を用いたオンライン形式に移行する可能性もあります。各自、Teams や Zoom のインストール及びセットアップをお願い致します。ゼミ資料は Teams、Web Folder などの ICT ツールを用いて配布します。 ゼミは原則として対面式で実施しますが、社会状況に応じて Teams を用いたオンラインでゼミを実施することもあります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	＜前期＞ 事前学習として取り組むプレゼンテーションのトピックは、以下のようなものを予定しています。 京都の観光事情、京都における宿泊施設の現状、京町家を活かしたビジネスの実例、古い町並みを生かした観光振興（国内、国外）、京都の金融機関の特徴、金融機関の融資制度、町家ビジネスに対する融資制度・支援制度　など ＜後期＞ 観光・レジャーに関する資料（学術論文）を配布し、その内容を輪読します。また、トピックを指定して、配布資料に基づき、グループ単位でプレゼンテーションをしていただきます。その際には、資料に書かれていないけれども関連する内容についても調べてください。トピックの例として、東京オリンピック、大阪万博、東京ディズニーランド開業、前川リポートとリゾート法、スペイン村などを予定しています。
関連科目	観光学入門など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題（レポート含む）の提出状況（40%）、演習中の発言など取り組み姿勢（20%）、プレゼンテーション（40%）、出欠状況（欠席回数に応じて減点）をもとに、総合的に判断します。欠席回数が著しく多い場合は、単位取得を認めないことがあります。
学生への メッセージ	遊園地やテーマパーク、あるいは各種レジャー施設は、一種の商品としてとらえることができます。その中には、地域社会だけではなく日本社会に大きな影響を与えたものがあります。しかし、社会のニーズに合致せずに失敗をしたものもあります。このゼミでは、これらの要因について様々な実例を調べ、明らかにしていくことを目的としています。専門演習Ⅰでは、フィールドワークやプレゼンテーション（及びそのための準備作業）を通して、これらの基本を学びます。皆さんには、主体的な学びを期待します。
担当者の 研究室等	１号館７階　小塚研究室
備考	欠席回数が多い場合は、単位取得を認めないことがあります。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・ 目的	・基礎演習内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。 ・地域における経済活性化の取り組みとして情報化、地域コミュニティ醸成の必要性及び地域保健医療の環境整備の必要性について考察する。 ・また、地域の特色を活かした地域振興や地域資源、施設の活用について視察や訪問によって学ぶ。 ・少子高齢化や社会保障の社会情勢への対応の視点から保健福祉医療関係等の施設見学や地域振興の視点から現地調査等についてもゼミ生が主体的に実施することを奨励する。 ・政令指定都市職員勤務の実績を活かして地域活性化の施策実施の視点と協働する市民の視点の両面から地域活性化事業検討やフィールドワーク実施の授業を行う。
到達目標	・授業概要・目的に述べた施設見学や現地調査の情報から専門演習Ⅱで研究する内容への理解を深めることを到達目標とする。
授業方法と 留意点	・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。下記内容を実施する。 ・基礎演習で理解を深めた近代経済学とマルクス経済学の考え方を踏まえ地域経済活性化の手段としての保健福祉医療関係や地域振興の役割について習得する。 ・また、これらの事業について視察や配布資料によって議論を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・地域経済活性化への保健福祉医療と地域振興等の重要性を考える。 ・中央集権的な経済構造によって高度成長期を経て、現在は地域を中心に経済が沈静化しつつある。 ・地域は地域振興の活性化や保健福祉医療事業の活性化によって事業展開がローカルからグローバル化することが可能であることを配布資料の輪読や議論によって学ぶ。 ・フィールドワークや日経ビジネス等の雑誌から現状の課題への対応策について、検証し、まとめ、プレゼンテーション等の手法により報告・議論する。 ・併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅱ 卒業研究

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての研究レポート作成術	沼崎一郎	岩波ジュニア新書
2	演習時に適宜指定する。		
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	ICT ツールを活用した演習参加（ICT 利活用による遠隔参加も含む）や対面等でのコミュニケーションから、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメ及びレポート作成・発表の達成度（50%）、討論・総括内容（30%）、課題へ取り組む姿勢（20%）を総合的に評価する。発表等の成果だけでなく、討論や取り組む姿勢がないと及第点にはなりません。
学生への メッセージ	・ゼミへの参加は、議論によって自らの考えをまとめ話す力を醸成します。醸成された知識を学生間で交換することでコミュニケーション能力が修得出来ます。 ・従ってゼミへの参加は、自らの成長と共に「就活力」の向上が望めます。 ・出席を重視します。 ・課題レポート及びプレゼン資料の作成によって研究内容の充実化と発表スキルを醸成します。必ずこれらの提出を心がけてください。 ・国家、地方、消防、警察及び独立行政法人に就職した先輩等との交流による課外活動について検討して行きたいと考えています。 ・政令指定都市に 3
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　田井教授室（経済学部）
備考	・地域の経済活動を支える保健福祉医療事業だけでなく地域振興の事業への関心を持ち、ゼミ生自ら地域の事業への調査を通じての研究・発表を期待する。 ・地域実践演習や PBL 等の課外活動を奨励する。これらの活動から得た知見を研究に役立てて欲しい。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・ 目的	地域産業、ベンチャー企業、既存の中小企業や大手企業について、基礎から学んでいきます。 特定自治体の産業の分析、特定企業の分析を学んでいきます。 分析を通じて地域の行政、金融機関などの産業活性化における役割を学んでいきます。 卒業研究に向けて、テーマ候補の選定、参考文献の選定などを徐々に行っていきます。 キャリアプランのブラッシュアップを行います。 環境マネジメントについて基礎を学びます。 研究倫理教育を行う。 グループワークによるゼミプロジェクトの企画を希望があった場合に行います。
到達目標	卒業研究の基礎を固める。 キャリアプランの基礎を固める。
授業方法と 留意点	卒業研究について学生がたたき台の案を提示し、それをブラッシュアップしていく。 事例を提示し、それに対して分析し、ディスカッションしていく。 地域経済実践演習が開講される年度については、その履修を推奨する。 必要に応じて TEAMS を用いてオンライン学習を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1 はじめに 今後の進め方、ゼミのガイダンスを行う。研究倫理について学ぶ。 研究テーマ候補とキャリアプランについて次回までにレポート作成 2 研究テーマ候補の列挙　キャリアプランのアイデア、分析する企業、自治体の選定 ゼミ生の発表、ディスカッション、発表に対する指摘事項への対応を考える 3 企業分析の基礎 企業分析の基礎的用語、基礎的手法を学ぶ。　　用語について次回までにレポート作成 4～6 企業分析の演習①～③ 選定された事例企業を実際に分析する。復習し理解を深める 7 企業分析の演習④　選定された事例企業を実際に分析する。研究テーマ候補とキャリアプランについて次回までにレポート作成 8 研究テーマ候補、キャリアプランについての中間報告 ゼミ生の発表、ディスカッション　　発表に対する指摘事項への対応を考える 9～10 企業分析の演習⑤⑥ 選定された事例企業を実際に分析する。復習し理解を深める 11 自治体分析の基礎 企業分析の基礎的用語、基礎的手法を学ぶ。　　用語について次回までにレポート作成 12～14 自治体分析の基礎①～③ 選定された事例自治体を実際に分析する。復習し理解を深める 15 研究テーマ候補、キャリアプランについての暫定報告 ゼミ生の発表、ディスカッション、興味を持った企業か自治体について分析のレポートを提出
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	ディスカッションへの参加と発表（５０％）、レポート（５０％）による評価を行う。
学生への メッセージ	どのようなゼミにしていくかは、ゼミ生の皆さん次第です。 楽しいゼミを作っていきましょう。
担当者の 研究室等	１号館７階
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習は観光関連産業とさまざまな観光事象について研究することを目的とします。 国内外の航空会社とホテルでの実務経験のある教員が担当し、文献研究のほか学外研修等も取り入れながら、理論と実務両面から理解を深められるように進めていきます。
到達目標	次年度以降の研究の基礎として、観光関連産業とさまざまな観光事象について理解を深めることを目標とします。
授業方法と留意点	ゼミの運営においては、各自責任感を持って積極的に協力してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	観光関連産業とさまざまな観光事象について研究を進めます。文献研究の他、可能な限り学外研修も行います。併せて、研究倫理教育を行います。
関連科目	観光学入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる観光学１　観光経営学	岡本伸之	朝倉書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題提出（40%）、発表内容（40%）、ゼミ運営への貢献度（20%）にて評価します。
学生へのメッセージ	様々なことに積極的に挑戦して、世界を広げてください。失敗してもそこから学ぶことは多くあります。
担当者の研究室等	１号館７階　野村教授室　（経済学部）
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴　景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	３年・４年時の上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。
到達目標	①会計学の基礎の演習 ②研究レポートの書き方、ディスカッションによる研究の調整・発展テクニックの習得 ③プレゼンのスキルを身につける
授業方法と留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加型のゼミですので積極的に参加すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する 併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のゼミにおける演習・ディスカッション・発表などの平常点（60%）とレポート（40%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１号館７階　朴教授室
備考	※全ての授業へ必ず出席し、ゼミに積極的に参加すること 状況によって対面から Zoom へ移行する可能性もある。その場合は、また授業中またはポータルメールから連絡する。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・ 目的	現在，私たちが暮らす日本経済については実にさまざまな問題が指摘されている。そうした問題の原因をいかに分析し，どのような解決策が考えられるのかについて，社会経済学あるいは制度経済学の観点から考察する。具体的には、日本の経済システムが，労使関係、企業間関係、金融システム、国家体制，国際関係などさまざまな制度の領域から構成され，それらが相互に関係しあって構成されていると考える。このような考え方に立って，制度の役割を踏まえて日本経済の諸問題を分析する。
到達目標	１．社会経済学・制度経済学の基礎的な知識を身につけて，現実の経済問題を分析できるようになる。 ２．ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、まとめる力，書く力，伝える力をつける。 ３．課題研究を通じて、論文作成に必要な，課題発見力、情報収集力、データ分析力，論理的思考力をつける。
授業方法と 留意点	演習授業の主役は，受講者のみなさんです。それぞれが互いに教えあい，刺激しあって授業を進めます。グループ学習では，グループ内で協力しあって課題研究に取り組んでもらいます。またグループ間の競争と協力も授業を盛り上げる重要な要素になります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１.基礎的な文献を受講者で分担して読むことで，基本的な知識を身につける。 ２.主要な統計データを用いて経済の現状を量的に把握する。同時に統計ソフトの使い方を学び基本的なデータ分析の手法を身につける。 ３.その後に数人ずつのグループに分かれて，一定のテーマの下でグループごとに課題を設定してグループ研究を行う。 ４.適宜グループごとの発表を行い，互いに疑問や意見をぶつけ合うことで，研究内容の質を高めていく。 ５.最終的には，小論文形式で研究をまとめて，報告会を行う。 ６.併せて，研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	事前学習の度合い（30%）、個人学習の成果（プレゼンテーション、レジュメのまとめ方など）（40%）、集団学習への貢献度（質問、提案、議論のまとめなど）（30%）をもとに総合的に評価する。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	１号館７階　原田研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	文献購読、学外視察、業界関係者のレクチャー等により地域・観光産業の概要を理解する。同時に社会人としての一般常識を習得する。
到達目標	ゼミ講義、学外活動等から得た地域・観光に関する情報を活用し、主体的にプランを作成、実践できる。
授業方法と留意点	文献購読と観光サービス関連企業や自治体の活動を調査し、レポートにまとめプレゼンテーションを行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期：文献（教科書）購読及び内容発表、レクチャー等、 後期：学外視察、学外活動を行い、３年次専門演習Ⅱで行う観光演習に必要な基礎的な知識や素養を獲得する。併せて、研究倫理教育、環境教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 新・観光立国論 / David Atkinson / 東洋経済新報社 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	課題レポートの提出（５０％）、プレゼンテーションの内容（３０％）、実習・フィールドワークへの取り組み姿勢、参加度（２０％）の割合で評価する。
学生へのメッセージ	活動への主体的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	1号館7階　持永教授室（経済学部）
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	柳川　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・ 目的	学生のグループ学習による研究報告を中心とする演習形式で、プラットフォームビジネスとプラットフォームに対する規制について、研究報告を行い、最終的に共同で論文を作成することを目的とする。 はじめにプラットフォームのビジネスと政策に関する文献を輪読し、課題を見いだして、その後、グループ学習により探求する。
到達目標	プラットフォームビジネスを経済学の視点から理解し、ビジネスの成功の理由を知るとともに、規制の必要性について考察することを目標とする。最終的に、グループ学習により共同研究論文を作成することを目標とする。それを通じて、論文の作成の仕方、および作成過程における課題の発見と探求、考察の仕方を身に付けることも目標とする。
授業方法と 留意点	教科書輪読では、報告者が担当箇所についてパワーポイント資料を作成して報告し、予定討論者が質問をし、報告者がそれに対して答える。その後、全員で討議する。グループ研究では、グループ単位で研究報告の準備を行い、順番に研究報告を行い、質疑応答をする。報告者はレジュメを作成して報告し、質問に答える。報告者以外の人は、報告を聞いて質問をし、意見交換をする。研究報告で議論を深めながら、最終的に論文を作成する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１）　授業テーマは、プラットフォームビジネスの動向と規制の必要性についてである。 ２）　授業の内容は、研究テーマについて、グループで取り組む。最初に基礎的な文献を輪読する。最初の文献は以下に記載の教科書である。より深く研究するテーマを探す論文のテーマが決まったら、グループで分担して情報収集して考察し、意見交換をする。なお取り上げる文献は授業中に指示するものと、ゼミ生が探してくるものがある。 ３）　研究の方法は、グループで報告用レジュメを作成し、報告を行い、質疑応答や意見交換を通じてさらに探求を深める。このプロセスを繰り返して最終的に論文として完成させる。 ４）　授業の事前には情報収集と考察を行い、レジュメを作成する。授業ではプレゼンテーションを行い、質問に答え、意見交換をする。授業の事後には質疑応答を振り返り、いっそうの発展につなげる。プレゼンテーションがないときには、あらかじめ報告資料をみて質問を考え、授業時間中に質問をし、意見交換をする。 ５）グループ研究は専門演習Ⅱに続くが、専門演習Ⅰの最後には中間報告書を作成する。 ６）前期末と後期末に学年を超えたゼミでの合同研究発表会を行い、すぐれた研究は学部の研究報告会で報告する。 ７）学年を超えたゼミ全体でのフィールドワークを行い、研究テーマへの理解を深めたり、経済に関する理解を広げるとともに、ゼミ生の交流の機会とする。 ８）毎回、着実に研究を進めていくことが求められる。無断欠席は厳禁である。
関連科目	産業組織論、サービス産業論、ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、独占禁止法
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / プラットフォームビジネス / クスマノ、ガワー、ヨッフィー / 有斐閣 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	教科書輪の発表と質疑応答３０％、最終的に作成する共同研究論文で分担する内容（課題選択、情報収集、分析と考察）３５％、共同研究論文作成プロセスへの貢献（リーダーシップ、プレゼンテーション、質疑応答）３５％で評価する。ゼミの無断欠席は許されない。欠席が多いと単位認定はできない。
学生へのメッセージ	GAFA　(Google, Apple, Facebook, Amazon)に代表されるプラットフォームビジネスが世界を席巻しています。日本経済はプラットフォームビジネスで出遅れたことが停滞の重要な理由となっています。プラットフォームビジネスについて学び、日本経済の復活について考えましょう。しかし、プラットフォームビジネスにより人々が便利になる反面で、プライバシーを侵害する面もあり、富の集中と格差拡大にもつながっています。旧来のビジネスや弱小のライバルを駆逐したり、取引先に不利な条件を押し付けることもあり
担当者の 研究室等	１号館７階　柳川研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・ 目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解できるようになります。履修者はこの授業を受けることで、観光を中心とした地域経済の活性化についてフィールドワークを伴う調査方法や学習方法を習得することができます。
授業方法と 留意点	教室におけるゼミ形式です。オンライン授業になった時は Teams で行います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期に行うことは以下の通りです。 (1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。 (2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。 (3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。 後期に行うことは以下の通りです。 (1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。 (2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。 (3)自らの研究テーマについてゼミ論文としてまとめていきます。 (4)ゼミ論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。 これらの内容に併せて研究倫理教育を行います。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	前期・後期ともにゼミではグループ活動を行いプレゼンなどを行うが、その際個々人の役割分担でどの程度の貢献をしたかを見る。これを評価全体の 60%とする。また学年末に個人で期末レポートを作成するので、それに対する評価を 40%とし、これを合計して総合評価とする。
学生への メッセージ	自ら設定した研究テーマをゼミ論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。
担当者の 研究室等	１号館７階　朝田准教授室（経済学部）
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭　進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習は社会調査の実習を通じて、現実の経済に対する理解を深め、様々な課題を経済学の考え方で解決することを目指す。さらに、統計学の知識を活用し、コンピューターで様々なのデータを分析できるスキルを習得することを目的とする。
到達目標	①　スポーツ経済や地域経済を分析するための知識を身につける。 ②　過去のアンケートデータを用いて、社会調査の基本方法を身につける。 ③　コンピュータによるデータ分析のテクニックを学び、分析の結果をプレゼンテーションする能力を養う。
授業方法と留意点	コンピューターを使い基本的な統計手法を学びながら、フィールド調査の仕方を勉強する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	①前期では選定された分析対象に対して、調査票の作成などの社会調査の仕方を学習する。調査内容の設計、調査の計画・実施、調査結果の検証などの方法を学び、実社会での問題発見解決力を身に付ける。 ②後期ではコンピューターを用いる演習を通じて、統計学の基礎を学び、計量モデルによるデータ分析のスキルをマスターする。 併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表の達成度（50%）、研究レポート作成（30%）、演習へ取り組む姿勢（20%）で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ゼミ活動に積極的に参加してほしい。
担当者の研究室等	一号館７階　郭教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	熊川　剛久
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習は観光関連産業とさまざまな観光事象について研究することを目的とします。 国内外の航空会社とホテルでの実務経験のある教員が担当し、文献研究のほか学外研修等も取り入れながら、理論と実務両面から理解を深められるよう進めていきます。
到達目標	次年度以降の研究の基礎として、観光関連産業とさまざまな観光事象について理解を深めることを目標とします。
授業方法と留意点	ゼミの運営においては、各自責任感を持って積極的に協力してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	観光関連産業とさまざまな観光事象について研究を進めます。文献研究の他、可能な限り学外研修も行います。併せて、研究倫理教育を行います。
関連科目	観光学入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる観光学１　観光経営学	岡本伸之	朝倉書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題提出（40%）、発表内容（40%）、ゼミ運営への貢献度（20%）にて評価します。
学生へのメッセージ	様々なことに積極的に挑戦して、世界を広げてください。失敗してもそこから学ぶことは多くあります。
担当者の研究室等	１号館７階　野村教授室　（経済学部）
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方　佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	この授業では４つのことを目標とする。第１に統計学のテキストをもとに学生の Power Point で発表してもらい、統計学の知識を習得してもらう。第２に、SPI 対策として練習問題を行う。第３に、３分間スピーチを行い、自分の意見を上手く伝える能力をつけてもらう。第４に新聞記事などのテーマについてグループで議論し社会人に必要な考える能力・Discussion 能力を身につけてもらいます。
到達目標	Powerpoint を使ったプレゼン能力、ディスカッション能力を身につけてもらう。
授業方法と留意点	基本的には学生によるプレゼン、ディスカッションをメインにして行います。学生同士での結束を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期 1. 統計学に関するテキストを使い、グループで PowerPoint を使った発表してもらい、プレゼン能力を身につけてもらいます。 2. また新聞記事などのテーマについてグループで議論し社会人に必要な考える能力・Discussion 能力を身につけてもらいます。 後期： 1. Excel のスキルを習得します。 2. 学生が興味のあるフィールドワーク等の調査活動をします。 併せて、研究倫理教育を行います。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼン（30%）、ディスカッション（20%）、スピーチ&授業における発言・出欠（50%）で総合評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１号館７階　名方研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・ 目的	ゼミのテーマ　：　環境問題と現代社会 21 世紀は環境の世紀であり、企業の活動も資源・環境の制約や諸制度からは逃れられない。本ゼミでは、政府の環境政策、企業の環境戦略、産業再編の相互関係について分析し、日本経済についての認識を深める。
到達目標	ゼミ活動を通じた自発的な学び、大学らしい学びがスタートする。 大学のゼミ活動、最終的には卒論執筆に必要となる、研究を遂行するための基礎的能力について学び、これが学士力、社会人基礎力と共通することを理解する。 「ビブリオ・バトル」（書評会）を適宜開催し、プレゼン能力の向上をはかる。
授業方法と 留意点	学生自身がテーマを決め、調査・研究・発表を行い、学士力を身につける。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期には、入門的なテキストを輪読して、レジュメ作成と発表の基本的な技術を習得する。 後期には、各自が興味のある研究テーマを決定し、情報収集とレポート発表をおこなう。 併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業への参加状況（提出物 80%、日常の取り組み 20%）で評価する。
学生への メッセージ	大学時代はあっという間です。目標をもって努力し、自分の力を高めて下さい。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　野口准教授室（経済学部）
備考	ゼミ参加者は「地球環境経済」の講義に出席すること。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾　智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・ 目的	この演習では，教育，労働，社会保障といった我々の人生（キャリア）に関わる諸問題を経済学の側面から理解し，学習していきます。教育，労働，社会保障に関わる諸問題を自身のキャリア形成上の問題であると同時に社会の大きな問題として考え，研究を進めていきます
到達目標	・労働経済学，教育経済学，社会保障論の基礎的な考え方を知る。 ・演習で得られた知見からから自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 ・現代日本で起こっている教育・労働・社会保障問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と 留意点	演習形式（グループワーク，ディスカッション，プレゼンテーション，コンピュータ実習，フィールド調査）で実施します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	演習のテーマ：キャリアの経済学 ・関連テキストの輪読や発表を行います。この取組は，専門知識の習得，読解力の向上，プレゼンテーション能力の向上を企図したものです。 ・より身近な問題としてキャリアを理解するために，可能な限り，グループワーク，シミュレーションゲーム，校外実習などを行います。 ・卒業研究（卒業論文）で経済学的な分析ができるように，コンピューターを用いた労働統計分析の演習を行います。また，データ収集の方法を身につけるために社会調査法を学びます。 ・以上の活動を通じて，卒業研究（卒業論文）で扱う自身の研究テーマを見つけます。
関連科目	労働経済学，公共経済学
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	課題（70%）の提出と最終レポート（30%）により評価します。 ・演習への参加と貢献を評価します。(出席し，ワークと議論に積極的に参加することが必要です) ・プレゼンテーション課題の成果物の提出とプレゼンテーション ・卒業論文のテーマに関わるレポート
学生への メッセージ	教育，労働，社会保障の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。教育，労働，社会保障の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか，そして社会問題としてのそれらを経済学的思考で考えてください。
担当者の 研究室等	１号館７階　平尾研究室（経済学部）
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	本演習では、書籍・文献講読、関係者との交流、現場研修などを通じて、持続的地域開発と国際協力に関する理解を深め、開発途上国を中心とした国や地域が抱える課題の背景や持続的に経済発展するために必要な要因を分析し、国際協力のあり方について考察する。
到達目標	１．開発途上国が抱える諸問題や国際協力について理解を深め、課題を分析する能力を獲得する。 ２．ゼミでのグループ学習を通じて、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を獲得する。 ３．論文作成に必要な課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力を獲得する。
授業方法と留意点	前期は、関連する新聞記事や資料に基づくグループ学習・発表を行い、並行して調査研究方法に関する講義・演習を行う。 後期は、教科書や関連する文献などに基づく輪読・発表を行う。また、コロナウィルスの感染状況を踏まえて現場訪問を計画する。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	１．書籍（教科書等）・文献の講読、新聞・雑誌記事に基づく話題提供・ディスカッション ２．研究計画の立て方、文献調査・インタビュー調査・質問票調査の方法、データ分析方法、論文の書き方、プレゼンテーションの方法などに関する講義および演習 ３、独立行政法人国際協力機構（JICA）関西センターなどを訪問し、国際協力に携わる人々と交流する。また、国際協力に携わった経験がある民間企業などの団体、個人から話を聞く機会を設ける。 事前学習課題 ・教科書や授業で配布した資料の予習、オンデマンド講義の視聴、小課題への取り組み、グループ発表の準備など（２時間） 事後学習課題 ・授業の復習、グループディスカッション、レポート作成など（２時間）
関連科目	国際協力論、開発経済学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい国際協力論　改訂版	山田満	明石書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小課題・レポート・発表の達成度：　70% 演習に取り組む姿勢（課題の発見・分担、資料収集・分析、討論・総括内容、受講態度など）：　30%
学生へのメッセージ	この演習では、学生が主体的に課題を見つけ、調査を計画・実施し、結果を論理的にまとめられるように指導していきます。そして、活動を通じて、社会人としての基本的マナーや、コミュニケーション能力を身につけることを目指します。 また、学生には、互いの考えや知識・経験を積極的に共有することを促し、ゼミの活動を通じて皆で学ぶ楽しさを体験してもらいたいと考えています。
担当者の研究室等	１号館７階　村瀬研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大槻　忠史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	日本、また世界の都市や国などについて、経済発展の歴史と現状を分析します。対象・単位は、国や都道府県、市町村、また特定の沿線や駅など様々です。それぞれの背景にある人物や思想、計画などについて、歴史的かつ多角的に分析し、現在へと至る過程と要因を探ります。 これは、多様な視点(=他者)を理解する上で重要であり、また、社会で活躍するための第１歩にもつながると考えます。
到達目標	経済発展の分析の際に基礎となる文献や資料を集め、読み飛ばすことなく丁寧に読み、必要となる知識や考え方を習得します。この際、特に注力するのは以下の２点です。 (1) 文献や資料の収集の仕方を学び、自分でできるようになる。 (2) 資料を読むために必要となる知識や語彙を学び、使いこなせるようにする。
授業方法と留意点	前・後期共に、グループ報告及び個別報告をしてもらいます。報告者以外は、必ず質問、コメント、疑問点等を準備して、参加してください。 また、年度末に期末論文を作成・提出してもらいます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	(テーマ：前期) 受講者の関心に合わせ、関西地方の特定の場所を取り上げ、歴史的発展過程と現状について考察をします。 (テーマ：後期) 前期で学んだ方法を、別の地域や国に応用し、定着を図ります。 (方法：前・後期) 文献や資料、データの収集法を具体的に学びます。 これらを読み、分析をするために必要となる知識や語彙を学び、自ら使いこなせるようにしていきます。 調べたことを他者に伝える能力を向上させるために、文章による表現やプレゼンテーションを行い、参加者で議論します。 この際には、word や powerpoint といったソフトの使い方も考慮します。 (事前学習) 報告者は、十分な準備を行ってください。 報告者以外は、コメント、質問を必ず用意してください。 (事後学習) 報告者は、準備不足やコメント等で対応ができなかった部分を再度確認してください。 報告者以外は、自らの報告に活かせそうな部分や研究手法、プレゼンテーションの工夫をまとめ、記録してください。 これらにより、自らの研究や表現、プレゼンテーション・スタイルの確立を目指します。
関連科目	受講者各自が関心のある科目が関連すると思われます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ報告（10%）、個別報告（20%）、議論への参加度合い（20%）、期末論文（50%） 尚、特別な理由等で欠席する場合、必ず事前に連絡をしてください。
学生へのメッセージ	まずは、自分が少しでも関心のあることに取り組んでみてください。知識と共に、何かがついてくるはずです。その際には、次の２点を特に心がけて欲しいと思います。(1)語彙力の会得とそれを活かした情報の取捨選択により、自分で考えること、(2)他者の意見や的確な批判を聞く余裕や覚悟、そして向上心を持つこと。
担当者の研究室等	１号館７階　大槻研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・目的	経済に関するテーマで各自が疑問を設定し、分析する。その分析結果を発表し、レポートを作成する。
到達目標	各自の研究を通じて、経済学的思考を身につけること。また、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方を学ぶこと。ゼミを通じてディスカッションを含めたコミュニケーション能力を高めること。
授業方法と留意点	最初に社会的問題や疑問を広く情報収集する。そして特に関心のある分野を決め、どのような分析手法が望ましいかを検討する。その分析結果をゼミの中で発表し、皆でディスカッションを行う。それを簡潔にレポートとしてまとめる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマは各自で決めるが、テーマを決めるための話し合いを教員や学生間で行う。 基本的には個別で研究を進めるが、場合によってはグループで行うこともある。 併せて研究倫理教育を行う。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション５０％、レポート５０％で評価する。出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	1号館7階　田中研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	羅　鵬飛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2080a0		

授業概要・ 目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。
到達目標	経済学科にあたって必要な基礎知識（エコノミックス、データ処理）を用いて自主的学習ができる。
授業方法と 留意点	グループ分けで指定資料の輪読発表を行う。 原則に対面で行う。ただし、遠隔で行う場合、大学の要求によって調整する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経済学のテキストを学習する。毎週、グループ分けで担当グループが報告（プレゼンテーション）することを求める。 その他、 １）授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 ２）地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見する。 3）入門レベルのデータ処理手法を紹介する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度 70%、課題へ取り組む姿勢など参加度 30%を総合的に評価する。
学生への メッセージ	全員が事前に指定資料を読む。 発表：グループ分けで輪読資料の発表を行う。発表班以外，資料を輪読したうえで発表班へ質問・討論を行う。 欠席の場合、事前に連絡する必要である。無断欠席は認めない。
担当者の 研究室等	１号館７階　経済学部　羅研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	適切な文献を探し、輪読する。フィールド調査を実施し報告書を完成させる。フィールド調査を通じて卒業論文の執筆に必要なデータや情報収集を行い卒業論文の執筆準備を行うことを目的とする。 SDGs-4,9,11
到達目標	文献購読や現地調査ができるようになる。自ら設定したテーマの調査分析及び論文執筆作法を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	文献サーベイ及びフィールド調査によるファインディングをフィールド調査報告書（卒業論文ドラフト）として取りまとめ、プレゼンテーションと討論を行う。討論に参加しない学生及び調査報告書が完成しなかった学生の評価は低くなるので留意する必要がある。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	4 月：基本的な文献の購読 5－7 月：ゼミで行う現地調査テーマの設定と文献サーベイ、1 日のフィールドワーク（2 年生と一緒） 9－11 月：フィールド調査の計画、アポイントメント、実施 11－12 月：フィールド調査報告書の提出とプレゼンテーション 12 月－1 月：卒業論文のテーマを決めて書き始める 併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	受講態度（30%）、フィールド調査報告書（50%）、プレゼンテーション(20%) ゼミ対抗プレゼン大会出席者を高く評価する
学生へのメッセージ	フィールド調査等、必要に応じて、ゼミ以外の時間帯にも個別／グループ指導を行います。 シラバスの内容は、学生の理解度やニーズに応じて変更することがあります。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　後藤教授室（経済学部）
備考	必要な文献は、適宜指示します。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。
到達目標	１．前年度に確立された自分の研究テーマを深化させる。 ２．フィールド調査を通じて、地域経済の問題点を考察し、自分なりの認識を持つ。 ３．次年度の卒業研究論文作成に向けて、必要な分析の方法を学習する。
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。 併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	課題の発見・分担(20%)、資料収集・分析(20%)、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度(20%)、討論・総括内容(20%)、課題へ取り組む姿勢(10%)、受講態度（私語・遅刻を含む）(10%)を概ねの評価基準として、総合的に成績評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚　匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・ 目的	＜前期＞ 他大学のゼミと、「商品と社会」というテーマで合同ゼミを行います。原則として対面式で開催しますが、Covid-19 の感染状況など社会状況に鑑み、Zoom を用いたオンライン形式で実施する可能性もあります。合同ゼミでは、統一されたテーマに従って報告グループごとにトピックを選び、それらについて調べた内容を報告していただきます。前期は、そのプレゼンテーションの準備及びその途中経過の報告が中心となります。 ＜後期＞ 計量分析（データ分析）の基本を学びます。データ実習の課題を用意しますので、この内容に即して、データ実習を行います。日本のマクロ経済や遊園地・観光関係のデータを用いた実習も行います。 またこの期に、卒業研究論文のテーマを決定し、報告もしていただきます。 通常のゼミ活動は、感染予防対策を実施した上で、対面式で実施します。ただし社会状況に応じて、オンライン（Microsoft Teams を利用）でのゼミに移行する可能性もあります。
到達目標	１）他大学の合同ゼミを通して、プレゼンテーション能力を高め、あわせて様々な研究報告に触れ、知見を深める。 ２）データ分析の基本知識を習得する。 ３）日本の経済データを用いた実習を通して、日本経済の状況を理解する。 ４）これまでに学んだ内容を踏まえ、卒業研究論文のテーマを決定する。
授業方法と 留意点	この講義は演習なので、合同ゼミの報告準備や Excel のデータ実習など、主体的な取り組みが非常に重要です。 ゼミは原則として対面式で実施します。ただし Covis-19 の感染状況など社会状況に応じて、Microsoft Teams を利用したオンラインゼミに移行することもあります。その場合は連絡します。また、合同ゼミは Zoom を利用して実施する可能性があります。Microsoft Teams 及び Zoom のセットアップをお願いします。 ゼミ資料は、Teams や Web Folder などの ICT ツールを用いて配布します。また Excel 実習をオンライン授業で実施する可能性があることから、ご自宅で Excel を利用できる環境を整備してください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期は､「商品と社会」というテーマで、他大学のゼミと合同ゼミを行う予定です。ここでは、観光施設やテーマパークをある種の「商品」と捉え、その歴史や社会的影響を分析し、報告をしてください。報告は、準備作業を含め、班単位（１班３、４人程度）で実施します。 後期は、データ分析の基本についても学びます。主に、様々な経済データ、様々な指数、統計的記述（基本統計量）、データのまとめ方、などを学びます。概ね、統計学や計量経済学の講義の前半の内容とリンクしています。また各自の卒業研究のテーマを決定し、少しずつそのための調査を進めていただきます。 なお、社会状況の変化により、Microsoft Teams や Zoom を用いたゼミ・合同ゼミを実施する可能性があります。あるいは、前期と後期のゼミ活動内容を入れ替えることもあります。
関連科目	観光学入門、統計学、計量経済学
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題（レポート含む）の提出状況（40%）、演習中の発言など取り組み姿勢（20%）、プレゼンテーション（40%）、出欠状況（欠席回数に応じて減点）をもとに、総合的に判断します。
学生への メッセージ	合同ゼミは、他大学の同学年の学生との親交を深め、様々な意見を聞く機会です。それと同時に、摂南大学経済学部を代表して報告することになるので、しっかりと準備をすることが大事です。実りあるイベントとなることを期待しています。
担当者の 研究室等	１号館７階　小塚研究室
備考	欠席回数が多い場合は、単位取得を認めないことがあります。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・ 目的	・専門演習Ⅰの内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。 ・地域経済における地域保健福祉医療だけでなく地域振興の活性化についても考察する。 ・それら通じて、卒業論文をまとめるための文章力の養成を行う。 ・また教科書及び資料によってアイデア創出のスキルを醸成する。 ・政令指定都市に 30 年勤務した実務経験を活かして具体的な地域活性化施策について必要な情報や知識修得の実践的教育を行う。
到達目標	・長期化する就職活動にも対応するコミュニケーション力向上と学生相互が議論できる課題と環境を構築して学生が、自立した意見表明が出来ること及び卒業研究に繋げる表現力・文章作成力の修得を到達目標とする。
授業方法と 留意点	・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。下記内容を実施する。 ・専門演習Ⅰで理解を深めた経済学的視点を踏まえ地域経済活性化の手段としての施策について考察する。 ・教科書・参考資料の輪読を行う。さらに課題認識と課題対策の具体化を支援するフィールドワークからの考察、演習・発表を中心に行う。 ・前半は学生が選択した冊子を輪読し、分担した内容について意見表明による議論を行い、自立した意見発表の演習を行う。 ・演習後半には、4 年次に本格化する就職活動に向けて、学生個々の進路に合わせた課題演習も実施していきたい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。 ・併せて、研究倫理教育を行う。 ・卒業研究のテーマの発表だけでなく、インター-ンシップやボランティアなどの経験に基づく発表も奨励する。結論にいたるプロセスを学生相互の議論により学習効果を高めていく。
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅰ 卒業研究
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 演習時に適宜指定する。 / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 演習時に適宜指定する。 / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ICT ツールを活用して参加（遠隔参加も含む）や対面でのコミュニケーションから、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメ及びレポート作成・発表の達成度（50%）、討論・総括内容（30%）、課題へ取り組む姿勢（20%）を総合的に評価する。発表等の成果だけでなく討論や取り組む姿勢を満たさない限り及第点とはなりません。
学生への メッセージ	・ゼミへの参加によって議論に慣れ、社会に役立つ知識と知恵を修得することができる。 ・大学生時代しかこのような体験はできないので、時間を有意義に活用する習慣を修得して欲しい。 ・出席、議論参加を重視します。 ・卒業研究に繋がる発表時は、事前にパワーポイントなどの資料を作成し、プレゼンテーションを行う事で評価となる。 ・政令指定都市で 30 年勤務し、地域行政に従事した経験から地域活性化における施策の実践的な教育を行う。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　田井教授室（経済学部）
備考	学生の積極的な参加意欲によるゼミ参加を奨励する。無断欠席は、厳重に対処する。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・ 目的	卒研の基礎を固める。 キャリアプランの基礎を固める。
到達目標	卒研の研究テーマ、テーマ選定理由、研究目的、研究方法を明らかにする。 キャリアプラン立案に必要とされる知識の基礎を身につける。 経済や企業の分析スキルを身につける。
授業方法と 留意点	毎回、卒研の研究計画のブラッシュアップを行います。 課題提出が不足している学生は不合格とすることがあるので、毎回出席と課題提出に努力すること。 必要に応じて TEAMS を用いたオンライン教育を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1.卒研の研究計画書完成 （1）研究テーマの決定 （2）テーマ選定理由の決定 （3）研究目的の決定 （4）研究方法の決定 毎回、指摘事項を直し、研究計画書をブラッシュアップ。 参考文献リスト、分析方法まで考えることとします。 2.キャリアプラン立案に必要とされる基礎知識 （1）業界知識、企業分析の知識、自治体分析等の知識 （2）業務知識 （3）キャリアプラン作成 それぞれが１業界を担当し、2年次に習得した手法を基礎に業界分析、発表を行う。 他のゼミ生の業界分析の発表を聞くことで、就活の準備とする。 3.面接に必要な基礎知識 （1）企業等の選定、自治体等の選定 （2）想定される質問事項の選定 （3）質問への回答案の作成 （4）面接演習 仮定した企業や自治体等への面接を模擬的に体験します。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題の提出（３０％）、ブラッシュアップの進捗（３０％）、ディスカッションへの参加（４０％）により評価します。 十分ブラッシュアップされた研究計画書、キャリアプラン、企業や自治体等の分析、が提示されているかどうかを重視します。
学生への メッセージ	4年になると就活に入ります。その前に卒研やキャリアプランの基盤を固めることを重視します。
担当者の 研究室等	１号館７階
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村　佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・ 目的	価値観が多様化して情報のあり方が変わるなか、観光においても新しい様々な事象が発生しています。現在は、世界中の観光産業が新型コロナウイルス感染拡大による大きな打撃を受けており、この影響は当分続くと考えられます。しかし、観光客が激減している今だからこそ、コロナ禍が収束した後の観光振興がどうあるべきかを考える必要があります。本演習は国内外の航空産業と宿泊産業の現場で実務経験のある教員が担当し、住民・観光客双方にとって好ましい観光のあり方をテーマとして、実務的な面からも助言をしながら研究を進めていきます。
到達目標	様々な観光事象について理解を深め、それぞれの場所にふさわしい観光振興と地域活性化のあり方について研究します。
授業方法と 留意点	学生が選んだテーマにつき、研究を進めていきますので、一人ひとりが責任をもって自主的に行動してください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	専門演習Ⅰで学んだ観光関連産業と様々な観光事象についてさらに理解を深め、学生が主体的にテーマを設定して、研究を進めていきます。文献や資料については授業内で適宜指示します。
関連科目	観光学入門、専門演習Ⅰ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	レポート・課題提出（40%）、発表内容（40%）、ゼミ運営への貢献度（20%）により評価します。
学生への メッセージ	取り組む姿勢の違いによって、身に着くことが違ってきます。一つでも多くのことを学ぶという姿勢をもって、積極的にゼミ活動に参加してください。
担当者の 研究室等	１号館７階　野村教授室　（経済学部）
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴　景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・ 目的	上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。 また、卒業研究のための文献サーベイ、アンケート調査法、実地調査、データの収集・分析などの演習をする。
到達目標	卒研作成のための調査方法および調査すキールを理解し、3年生の最後までは「卒業研究計画書」が作成できること
授業方法と 留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミですので積極的に参加すること
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する 併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	毎回のゼミにおける演習・ディスカッション・発表（60%）とレポート（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	１号館７階　朴教授室
備考	必ず出席要 状況によって対面からZoomへ移行する可能性もある。その場合は、また授業中またはポータルメールから連絡する。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・ 目的	現在，私たちが暮らす日本経済については実にさまざまな問題が指摘されている。そうした問題の原因をいかに分析し，どのような解決策が考えられるのかについて，社会経済学あるいは制度経済学の観点から考察する。具体的には、日本の経済システムが，労使関係、企業間関係、金融システム、国家体制，国際関係などさまざまな制度の領域から構成され，それらが相互に関係しあって構成されていると考える。このような考え方に立って，制度の役割を踏まえて日本経済の諸問題を分析する。
到達目標	１．社会経済学・制度経済学の基礎的な知識を身につけて，現実の経済問題を分析できるようになる。 ２．ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、まとめる力，書く力，伝える力をつける。 ３．課題研究を通じて、論文作成に必要な，課題発見力、情報収集力、データ分析力，論理的思考力をつける。
授業方法と 留意点	演習授業の主役は，受講者のみなさんです。それぞれが互いに教えあい，刺激しあって授業を進めます。グループ学習では，グループ内で協力しあって課題研究に取り組んでもらいます。またグループ間の競争と協力も授業を盛り上げる重要な要素になります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１.基礎的な文献を受講者で分担して読むことで，基本的な知識を身につける。また，主要な統計データを用いて経済の現状を量的に把握することも行っていく。 ２.その後に数人ずつのグループに分かれて，一定のテーマの下でグループごとに課題を設定してグループ研究を行う。 ３.適宜グループごとの発表を行い，互いに疑問や意見をぶつけ合うことで，研究内容の質を高めていく。 ４.最終的には，小論文形式で研究をまとめて，報告会を行う。 ５.併せて，研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	事前学習の度合い（30%）、個人学習の成果（プレゼンテーション、レジュメのまとめ方など）（40%）、集団学習への貢献度（質問、提案、議論のまとめなど）（30%）をもとに総合的に評価する。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	１号館７階　原田研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永　政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	観光企業、自治体、観光地等の実地調査や文献研究により観光事業の諸課題やその多様なあり方を実践的に理解する。
到達目標	観光事業に関する実地調査とそれに基づいたレポート作成と発表が出来る。
授業方法と留意点	前期：様々な観光事業に関する文献購読、関連資料調査等によって観光事業に対する理解を深め各自研究課題を設定する。 後期：前期で得た知識を踏まえ、研究課題に関する観光企業、自治体、観光地等への実地調査等（視察、ヒヤリング等）を実施し、調査レポートにまとめ提出、プレゼンテーションする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前学習として観光の様々なテーマ（環境保護、文化振興、地域・産業振興、健康増進等）に関して事業主体（企業、自治体、NPO、観光地等）がどのような活動を行っているか、事例研究を行う。更に必要に応じ観光地・企業等の実務担当者からのレクチャー、フィールドワーク等を実施する。併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート提出（５０％）、発表内容（３０％）、フィールドワーク等への参加（２０％）の割合で評価する。
学生へのメッセージ	活動への主体的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	1号館7階　持永教授室（経済学部）
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・ 目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解できるようになります。履修者はこの授業を受けることで、観光を中心とした地域経済の活性化についてフィールドワークを伴う調査方法や学習方法を習得することができます。
授業方法と 留意点	教室におけるゼミ形式です。オンライン授業になった時は Teams で行います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期に行うことは以下の通りです。 (1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。 (2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。 (3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。 後期に行うことは以下の通りです。 (1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。 (2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。 (3)自らの研究テーマについてゼミ論文としてまとめていきます。 (4)ゼミ論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	前期・後期ともにゼミではグループ活動を行いプレゼンなどを行うが、その際個々人の役割分担でどの程度の貢献をしたかを見る。これを評価全体の 60%とする。また学年末に個人で期末レポートを作成するので、それに対する評価を 40%とし、これを合計して総合評価とする。
学生への メッセージ	自ら設定した研究テーマをゼミ論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。
担当者の 研究室等	１号館７階　朝田准教授室（経済学部）
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭　進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	本演習は、計量経済学の手法を用いて、実際の経済現象を観察し分析する力を養うことを目的とする。
到達目標	本演習では、経済理論（マクロ・ミクロ）の基礎知識を学習すると同時に、経済データの収集方法や処理方法などについても勉強する。さらに、地域経済や観光経済の実証分析を挑戦する。
授業方法と留意点	統計学のテキストを定めて、統計学の理論を勉強すると同時に、コンピュータによる経済データの収集方法と処理方法についても学習する。さらに、ゼミ生が自ら興味を持つ課題を選び、プレゼンテーションを行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	2 年次で学んだマクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論をより深く理解するために、現実のデータを用いた実証分析を行う。そのために、統計学や計量経済学の基礎を学んだ上で、コンピューターによる実習を行う。特に、産業連関分析や回帰分析などの分析手法を用いて地域経済・観光経済における経済現象を計量化して分析する。 併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	発表の達成度（50%）、研究レポート作成（30%）、演習へ取り組む姿勢（20%）で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	欠席せずに頑張ってください。
担当者の研究室等	１号館７階　郭教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方　佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	この授業では２つのことを目標とする。第１に前期においては学生をテーマごとにグループに分け論文を書いてもらう。後期にはそれを参考に自分の卒業論文のテーマを選び準備をしてもらう。第２に就職活動の準備をおこない、３年の後期から始まる就職活動に備えてもらう。
到達目標	前期はグループで論文を作成する能力を身につけてもらう。後期には就職活動の万全な準備と卒業テーマの決定を目標とする。
授業方法と留意点	学生同士での血税を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業は２つの内容から構成される。前期においてはまず学生をテーマごとにグループに分け、各グループで論文を書いてもらう。後期においては、前期の論文作成をもとに卒業論文のテーマを選び、大まかな流れ、筋道をみつけ４年の卒業論文の作成につなげてもらう。併せて、研究倫理教育を行う。就職活動に関しては自己分析・面接の練習を授業の中で行い、論理的な思考・発表能力を身につけてもらう。その他に学生によるスピーチ、グループディスカッションも行う。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	前期のグループでの論文の内容（50%）と後期の卒業論文への準備（50%）で総合評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	テーマ　環境問題と産業・企業 さまざまな環境問題への対応を迫られる産業・企業の実態について研究する。
到達目標	研究・調査・発表についての基礎的な能力を高める。
授業方法と留意点	関心がある環境問題と産業・企業の関わりについてテーマ設定し、調査レポートを作成する。 個人あるいは集団で、作成したレポートを発表・報告する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	各自の問題意識による調査・研究を軸とする。 前期は、グループごとにテーマを設定し、調査・研究を行う。 後期は、卒業論文を意識し、個人ごとにテーマを設定して、調査・研究を行う。 併せて、研究倫理教育を行う。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況（提出物 80%、日常の取り組み 20%）で評価する。
学生へのメッセージ	卒業論文の作成を意識し、テーマを選択するために、アンテナをはっておきましょう。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　野口准教授室（経済学部）
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾　智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・ 目的	この演習では，教育，労働，社会保障といった我々の人生（キャリア）に関わる諸問題を経済学の側面から理解し，学習していきます。教育，労働，社会保障に関わる諸問題を自身のキャリア形成上の問題であると同時に社会の大きな問題として考え，研究を進めていきます
到達目標	・労働経済学，教育経済学，社会保障論の基礎的な考え方を知る。 ・演習で得られた知見からから自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 ・現代日本で起こっている教育・労働・社会保障問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と 留意点	演習形式（グループワーク，ディスカッション，プレゼンテーション，コンピュータ実習，フィールド調査）で実施します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	演習のテーマ：キャリアの経済学 ・関連テキストの輪読や発表を行います。この取組は，専門知識の習得，読解力の向上，プレゼンテーション能力の向上を企図したものです。 ・より身近な問題としてキャリアを理解するために，可能な限り，グループワーク，シミュレーションゲーム，校外実習などを行います。学生が企画・実施もします。 ・卒業研究（卒業論文）で経済学的な分析ができるように，コンピューターを用いた労働統計分析の演習を行います。また，データ収集の方法を身につけるために社会調査法を学びます。 ・以上の活動を通じて，卒業研究（卒業論文）で扱う自身の研究テーマを見つけます。
関連科目	専門演習Ⅰ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題（70%）の提出と最終レポート（30%）により評価します。 ・演習への参加と貢献を評価します。(出席し，ワークと議論に積極的に参加することが必要です) ・プレゼンテーション課題の成果物の提出とプレゼンテーション ・卒業論文のテーマに関わるレポート
学生への メッセージ	教育，労働，社会保障の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。教育，労働，社会保障の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか，そして社会問題としてのそれらを経済学的思考で考えてください。
担当者の 研究室等	１号館７階　平尾研究室（経済学部）
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・ 目的	本演習では、書籍・文献講読、関係者との交流、現場研修などを通じて、持続的地域開発と国際協力に関する理解を深め、開発途上国を中心とした国や地域が抱える課題の背景や持続的に経済発展するために必要な要因を分析し、国際協力のあり方について考察する。
到達目標	１．開発途上国が抱える諸問題や国際協力について理解を深め、課題を分析する能力を獲得する。 ２．ゼミでのグループ学習を通じて、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を獲得する。 ３．論文作成に必要な課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力を獲得する。
授業方法と 留意点	特定のテーマについてグループ学習を行い、調べた結果についてゼミで発表・ディスカッションを行う。 フィールド調査を行うにあたり、事前学習と事後のレポート作成の機会を設ける。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１．特定のテーマについてグループ学習を行い、結果をまとめてゼミで発表する。 ２．グループワークとして、テーマに関係したフィールド調査を計画・実施する。 ３．グループワークを通じて、卒業研究テーマの絞り込みを行う。各自の卒業研究テーマの設定にあたっては個別に相談の機会を設ける。 ４．卒業研究を始めるにあたって、研究倫理教育を行う。 事前学習課題 ・特定のテーマに関する調べ学習、グループ発表やフィールド調査の準備など（２時間） 事後学習課題 ・グループディスカッション、フィールド調査レポートの作成など（２時間）
関連科目	国際協力論、開発経済学、専門演習Ⅰ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	レポート・発表の達成度：　70% 演習に取り組む姿勢（課題の発見・分担、資料収集・分析、討論・総括内容、受講態度など)：　30%
学生への メッセージ	この演習では、学生が主体的に課題を見つけ、調査を計画・実施し、結果を論理的にまとめられるように指導していきます。そして、活動を通じて、社会人としての基本的マナーや、コミュニケーション能力を身につけることを目指します。 また、学生には、互いの考えや知識・経験を積極的に共有することを促し、ゼミの活動を通じて皆で学ぶ楽しさを体験してもらいたいと考えています。
担当者の 研究室等	１号館７階　村瀬研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中　鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・ 目的	経済に関するテーマで各自が疑問を設定し、分析する。その分析結果を発表し、レポートを作成する。卒業研究を意識したテーマ選びを行い、研究を進める。
到達目標	各自の研究を通じて、経済学的思考を身につけること。また、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方を学ぶこと。ゼミを通じてディスカッションを含めたコミュニケーション能力を高めること。
授業方法と 留意点	最初に社会的問題や疑問を広く情報収集する。そして特に関心のある分野を決め、どのような分析手法が望ましいかを検討する。その分析結果をゼミの中で発表し、皆でディスカッションを行う。それを簡潔にレポートとしてまとめる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	テーマは各自で決めるが、テーマを決めるための話し合いを教員や学生間で行う。 基本的には個別で研究を進めるが、場合によってはグループで行うこともある。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	プレゼンテーション 50%、レポート５０％で評価する。 出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　田中研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	羅　鵬飛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	資料を輪読して経済学の各分野を理解しながら、国際経済、地域経済、観光経済などの分野で自らテーマを見つける。問題意識を中心にして、卒業論文の執筆に必要なデータや情報を収集する。フィールド調査を実施する。
到達目標	経済学を使って、現実な問題を解決する意識および経済理論の実用力を身につける。文献調査、データ収集と分析、資料作成などを習得し、論文執筆作法を学ぶ。
授業方法と留意点	原則に対面で行う。ただし、遠隔で行う場合、大学の要求によって調整する。 後期に、経済学部研究発表会を参加することを目指し、チームを作って研究を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期：指定される資料・教科書を輪読し、プレゼンテーションを行う。文献収集、データ分析を学ぶ。国際経済、地域経済、観光経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自らテーマを発見する。ゼミでフィールド調査や見学を実施する。 後期：各自に定めたテーマに基づいて、文献調査、データ収集、データ処理を行い、卒業研究の準備を行う。また、個別に調査を行う場合、事前に話し合って実施の準備をする。また、以上の内容に基づき、チームを組んで発表資料を作成し、経済学部研究発表会を参加する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レジュメおよびレポート作成・発表の達成度 70%、課題へ取り組む姿勢など参加度 30%を総合的に評価する。 経済学部発表会出席者を高く評価する。
学生へのメッセージ	フィールド調査等、必要に応じて、ゼミ以外の時間帯にも個別／グループ指導を行います。 欠席の場合、事前に連絡する必要である。無断欠席は認めない。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　羅講師室
備考	必要な文献は、適宜指示する。

科目名	海外語学研修	科目名（英文）	Overseas Language Training
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3326c1		

授業概要・ 目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。 なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC（英語の場合）の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 ※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。
授業方法と 留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（ ）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬　（9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬　（11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度　8 月中旬～9 月上中旬　（2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬　（3 月～4 月下旬） 【注意】新型コロナウィルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。 詳細は随時ポータルサイトで連絡します。 本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。 事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。 派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門)、グローバル・シチズンシップ論（応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship（EMI)、摂南大学 PBL プロジェクトⅠなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	事前授業評価　30%　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合） 現地活動評価　４０％　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合） 事後授業評価　３０％　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は 2 号館 2 階グローバル教育センター（旧：国際交流センター）まで
備考	